

IBM Communications Server for Data Center
Deployment on AIX
7.1

管理コマンド解説書



注記

本書および本書で紹介する製品をご使用になる前に、[545 ページの『付録 E 特記事項』](#)に記載されている情報をお読みください。

第 7 版 (2021 年 1 月)

本書は、IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX バージョン 7.1 (プログラム番号 5725-H32) に適用されます。また、新しい版またはテクニカル・ニュースレターで明記されていない限り、以降のすべてのリリースおよびモディフィケーションに適用されます。

資料のご注文方法については、<http://www.ibm.com/jp/manuals> の「ご注文について」をご覧ください。(URL は、変更になる場合があります)

IBM にお客様のご意見をお寄せください。本資料に関するご意見やご感想は、次の URL からお送りください。今後の参考にさせていただきます。<http://www.ibm.com/jp/manuals/main/mail.html> フォームが削除されている場合は、以下の住所までご意見をお送りください。

- International Business Machines Corporation
- Department CGMD
- P.O. Box 12195
- Research Triangle Park, North Carolina
- 27709-2195
- U.S.A.

ファックスまたはインターネットをご使用の場合は、下記宛てにお願いします。

- IBMLink: RALVM17 の CIBMORCF
- IBM Mail: IBMMAIL の USIB2HPD
- インターネット: USIB2HPD@vnet.ibm.com
- FAX: 1-800-227-5088

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

© Copyright International Business Machines Corporation 1998, 2021.

目次

表.....	xxi
本書について.....	xxiii
本書の対象読者.....	xxiii
本書の使用法.....	xxiii
本書の構成.....	xxiii
表記上の規則.....	xxiii
本書の追加情報の入手先.....	xxiv
第 1 章伝来.....	1
snaadmin の使用.....	1
コマンド行オプション.....	2
管理コマンドに使用されるパラメーターの構文.....	4
管理コマンドの例.....	7
第 2 章管理コマンド.....	9
activate_session.....	9
提供されるパラメーター.....	9
戻りパラメーター.....	10
エラー戻りコード.....	10
add_backup.....	11
指定パラメーター.....	11
戻りパラメーター.....	11
エラー戻りコード.....	12
add_dlc_trace.....	12
指定パラメーター.....	12
戻りパラメーター.....	14
エラー戻りコード.....	14
開口.....	15
指定パラメーター.....	15
戻りパラメーター.....	17
エラー戻りコード.....	17
change_session_limit.....	19
Supplied parameters.....	19
戻りパラメーター.....	20
エラー戻りコード.....	20
deactivate_conv_group.....	22
指定パラメーター.....	22
戻りパラメーター.....	23
エラー戻りコード.....	23
deactivate_lu_0_to_3.....	23
指定パラメーター.....	23
戻りパラメーター.....	24
エラー戻りコード.....	24
deactivate_session.....	24
指定パラメーター.....	24
戻りパラメーター.....	25
エラー戻りコード.....	25
define_adjacent_len_node.....	26
指定パラメーター.....	26

戻りパラメーター.....	27
エラー戻りコード.....	27
define_cn.....	28
指定パラメーター.....	28
戻りパラメーター.....	30
エラー戻りコード.....	30
define_cos.....	31
指定パラメーター.....	31
戻りパラメーター.....	34
エラー戻りコード.....	34
define_cplic_side_info.....	35
指定パラメーター.....	35
戻りパラメーター.....	37
エラー戻りコード.....	37
define_default_pu.....	37
指定パラメーター.....	37
戻りパラメーター.....	38
エラー戻りコード.....	38
define_defaults.....	38
指定パラメーター.....	38
戻りパラメーター.....	39
エラー戻りコード.....	39
define_directory_entry.....	40
提供されるパラメーター.....	40
戻りパラメーター.....	41
エラー戻りコード.....	41
define_dlur_defaults.....	41
指定パラメーター.....	42
戻りパラメーター.....	42
エラー戻りコード.....	42
define_domain_config_file.....	43
指定パラメーター.....	43
戻りパラメーター.....	43
エラー戻りコード.....	44
define_downstream_lu.....	44
指定パラメーター.....	44
戻りパラメーター.....	45
エラー戻りコード.....	45
define_downstream_lu_range.....	47
指定パラメーター.....	47
戻りパラメーター.....	48
エラー戻りコード.....	48
define_dspu_template.....	49
指定パラメーター.....	50
戻りパラメーター.....	51
エラー戻りコード.....	51
define_ethernet_dlc.....	52
define_ethernet_ls.....	52
define_ethernet_port.....	52
define_focal_point.....	52
指定パラメーター.....	52
戻りパラメーター.....	53
エラー戻りコード.....	53
define_internal_pu.....	54
提供されるパラメーター.....	54
戻りパラメーター.....	56
エラー戻りコード.....	56
define_ip_dlc.....	57

指定パラメーター.....	57
戻りパラメーター.....	58
エラー戻りコード.....	58
define_ip_ls.....	58
提供されるパラメーター.....	59
戻りパラメーター.....	67
エラー戻りコード.....	67
define_ip_port.....	69
Supplied parameters.....	69
戻りパラメーター.....	72
エラー戻りコード.....	72
着呼.....	73
define_local_lu.....	73
指定パラメーター.....	73
戻りパラメーター.....	75
エラー戻りコード.....	75
define_ls_routing.....	76
指定パラメーター.....	77
戻りパラメーター.....	77
エラー戻りコード.....	77
define_lu_0_to_3.....	78
指定パラメーター.....	78
戻りパラメーター.....	81
エラー戻りコード.....	81
define_lu_0_to_3_range.....	82
指定パラメーター.....	82
戻りパラメーター.....	85
エラー戻りコード.....	85
define_lu_lu_password.....	86
指定パラメーター.....	86
戻りパラメーター.....	87
エラー戻りコード.....	87
define_lu_pool.....	87
指定パラメーター.....	87
戻りパラメーター.....	88
エラー戻りコード.....	88
define_lu62_timeout.....	89
指定パラメーター.....	89
戻りパラメーター.....	90
エラー戻りコード.....	90
define_mode.....	90
Supplied parameters.....	90
戻りパラメーター.....	93
エラー戻りコード.....	93
define_node.....	94
提供されるパラメーター.....	94
戻りパラメーター.....	102
エラー戻りコード.....	102
define_partner_lu.....	104
提供されるパラメーター.....	104
戻りパラメーター.....	105
エラー戻りコード.....	105
define_qllc_dlc.....	106
指定パラメーター.....	106
戻りパラメーター.....	107
エラー戻りコード.....	107
define_qllc_ls.....	107
提供されるパラメーター.....	108

戻りパラメーター.....	119
エラー戻りコード.....	120
define_qllc_port.....	122
指定パラメーター.....	122
戻りパラメーター.....	126
エラー戻りコード.....	126
着呼.....	127
define_rcf_access.....	127
提供されるパラメーター.....	128
戻りパラメーター.....	128
エラー戻りコード.....	129
define_rtp_tuning.....	129
指定パラメーター.....	129
戻りパラメーター.....	130
エラー戻りコード.....	130
define_sdlc_dlc.....	131
指定パラメーター.....	131
戻りパラメーター.....	132
エラー戻りコード.....	132
define_sdlc_ls.....	132
提供されるパラメーター.....	133
戻りパラメーター.....	147
エラー戻りコード.....	147
モデム制御文字.....	149
define_sdlc_port.....	150
指定パラメーター.....	150
戻りパラメーター.....	158
エラー戻りコード.....	159
着呼.....	160
セキュリティ・アクセス・リストの定義.....	160
指定パラメーター.....	160
戻りパラメーター.....	161
エラー戻りコード.....	161
アクセスの定義_tn3270_____.....	162
提供されるパラメーター.....	162
戻りパラメーター.....	166
エラー戻りコード.....	166
Telnet デーモンの TCP/IP ポートの使用.....	167
非 323270_関連付けの数.....	168
指定パラメーター.....	168
戻りパラメーター.....	169
エラー戻りコード.....	169
define_tn3270_defaults.....	169
指定パラメーター.....	169
戻りパラメーター.....	170
エラー戻りコード.....	170
define_tn3270_express_logon.....	170
指定パラメーター.....	171
戻りパラメーター.....	171
エラー戻りコード.....	171
define_tn3270_slp.....	172
指定パラメーター.....	172
戻りパラメーター.....	173
エラー戻りコード.....	173
define_tn3270_ssl_ldap.....	174
指定パラメーター.....	174
戻りパラメーター.....	175
エラー戻りコード.....	175

define_tn_リダイレクト.....	176
指定パラメーター.....	176
戻りパラメーター.....	180
エラー戻りコード.....	180
define_tp.....	181
提供されるパラメーター.....	181
戻りパラメーター.....	182
エラー戻りコード.....	182
define_tp_load_info.....	183
指定パラメーター.....	183
戻りパラメーター.....	184
エラー戻りコード.....	185
define_tr_dlc、define_ethernet_dlc.....	185
指定パラメーター.....	185
戻りパラメーター.....	186
エラー戻りコード.....	186
define_tr_ls、define_ethernet_ls.....	187
提供されるパラメーター.....	187
戻りパラメーター.....	198
エラー戻りコード.....	198
MAC アドレスのビット・オーダー.....	200
define_tr_port、define_ethernet_port.....	201
提供されるパラメーター.....	201
戻りパラメーター.....	205
エラー戻りコード.....	205
着呼.....	207
define_userid_password.....	207
指定パラメーター.....	207
戻りパラメーター.....	208
エラー戻りコード.....	208
delete_adjacent_len_node.....	209
指定パラメーター.....	209
戻りパラメーター.....	209
エラー戻りコード.....	209
delete_backup.....	210
指定パラメーター.....	210
戻りパラメーター.....	210
エラー戻りコード.....	210
delete_cn.....	211
指定パラメーター.....	211
戻りパラメーター.....	211
エラー戻りコード.....	212
delete_cos.....	212
指定パラメーター.....	212
戻りパラメーター.....	213
エラー戻りコード.....	213
delete_cplic_side_info.....	213
指定パラメーター.....	213
戻りパラメーター.....	213
エラー戻りコード.....	214
delete_directory_entry.....	214
指定パラメーター.....	214
戻りパラメーター.....	215
エラー戻りコード.....	215
delete_dlc.....	215
指定パラメーター.....	215
戻りパラメーター.....	216
エラー戻りコード.....	216

delete_downstream_lu.....	216
指定パラメーター.....	216
戻りパラメーター.....	216
エラー戻りコード.....	217
delete_downstream_lu_range.....	217
指定パラメーター.....	217
戻りパラメーター.....	218
エラー戻りコード.....	218
delete_dspu_template.....	218
指定パラメーター.....	219
戻りパラメーター.....	219
エラー戻りコード.....	220
delete_focal_point.....	220
指定パラメーター.....	220
戻りパラメーター.....	221
エラー戻りコード.....	221
delete_internal_pu.....	221
指定パラメーター.....	222
戻りパラメーター.....	222
エラー戻りコード.....	222
delete_local_lu.....	223
指定パラメーター.....	223
戻りパラメーター.....	223
エラー戻りコード.....	223
delete_ls.....	224
指定パラメーター.....	224
戻りパラメーター.....	224
エラー戻りコード.....	224
ルーティングの削除 (_R).....	225
指定パラメーター.....	225
戻りパラメーター.....	225
エラー戻りコード.....	225
delete_lu_0_to_3.....	226
指定パラメーター.....	226
戻りパラメーター.....	226
エラー戻りコード.....	226
delete_lu_0_to_3_range.....	227
指定パラメーター.....	227
戻りパラメーター.....	228
エラー戻りコード.....	228
delete_lu_lu_password.....	229
指定パラメーター.....	229
戻りパラメーター.....	229
エラー戻りコード.....	229
delete_lu_pool.....	230
指定パラメーター.....	230
戻りパラメーター.....	230
エラー戻りコード.....	230
delete_lu62_タイムアウト.....	231
指定パラメーター.....	231
戻りパラメーター.....	231
エラー戻りコード.....	232
delete_mode.....	232
指定パラメーター.....	232
戻りパラメーター.....	232
エラー戻りコード.....	233
delete_partner_lu.....	233
指定パラメーター.....	233

戻りパラメーター.....	233
エラー戻りコード.....	233
delete_port.....	234
指定パラメーター.....	234
戻りパラメーター.....	234
エラー戻りコード.....	234
delete_rcf_access.....	235
指定パラメーター.....	235
戻りパラメーター.....	235
エラー戻りコード.....	235
delete_security_access_list.....	236
指定パラメーター.....	236
戻りパラメーター.....	236
エラー戻りコード.....	236
delete_tn3270_access.....	237
指定パラメーター.....	237
戻りパラメーター.....	238
エラー戻りコード.....	238
delete_tn3270_association.....	239
指定パラメーター.....	239
戻りパラメーター.....	239
エラー戻りコード.....	239
delete_tn_redirect.....	239
指定パラメーター.....	240
戻りパラメーター.....	240
エラー戻りコード.....	240
delete_tp.....	241
指定パラメーター.....	241
戻りパラメーター.....	241
エラー戻りコード.....	241
delete_tp_load_info.....	242
指定パラメーター.....	242
戻りパラメーター.....	242
エラー戻りコード.....	242
delete_userid_password.....	243
指定パラメーター.....	243
戻りパラメーター.....	243
エラー戻りコード.....	243
init_node.....	244
指定パラメーター.....	244
戻りパラメーター.....	244
エラー戻りコード.....	244
initialize_session_limit.....	245
指定パラメーター.....	245
戻りパラメーター.....	246
エラー戻りコード.....	247
path_switch.....	248
指定パラメーター.....	248
戻りパラメーター.....	248
エラー戻りコード.....	248
query_active_transaction.....	249
指定パラメーター.....	250
戻りパラメーター.....	250
エラー戻りコード.....	251
query_adjacent_nn.....	252
指定パラメーター.....	252
戻りパラメーター.....	252
エラー戻りコード.....	253

query_available_tp.....	254
指定パラメーター.....	254
戻りパラメーター.....	255
エラー戻りコード.....	255
query_buffer_可用性.....	255
指定パラメーター.....	256
戻りパラメーター.....	256
エラー戻りコード.....	257
query_central_ロガー.....	258
指定パラメーター.....	258
戻りパラメーター.....	258
エラー戻りコード.....	258
query_central_logging.....	258
指定パラメーター.....	259
戻りパラメーター.....	259
エラー戻りコード.....	259
query_cn.....	259
指定パラメーター.....	260
戻りパラメーター.....	260
エラー戻りコード.....	261
query_cn_port.....	262
指定パラメーター.....	262
戻りパラメーター.....	263
エラー戻りコード.....	263
query_conversation.....	264
指定パラメーター.....	264
戻りパラメーター.....	265
エラー戻りコード.....	266
query_cos.....	267
指定パラメーター.....	267
戻りパラメーター.....	267
エラー戻りコード.....	268
query_cos_node_row.....	268
指定パラメーター.....	268
戻りパラメーター.....	269
エラー戻りコード.....	269
query_cos_tg_row.....	270
指定パラメーター.....	270
戻りパラメーター.....	271
エラー戻りコード.....	273
query_cplic_side_info.....	273
指定パラメーター.....	274
戻りパラメーター.....	274
エラー戻りコード.....	274
query_cs_trace.....	275
提供されるパラメーター.....	275
戻りパラメーター.....	275
エラー戻りコード.....	276
query_default_pu.....	277
指定パラメーター.....	277
戻りパラメーター.....	277
エラー戻りコード.....	277
query_デフォルト.....	278
指定パラメーター.....	278
戻りパラメーター.....	278
エラー戻りコード.....	279
query_directory_entry.....	279
指定パラメーター.....	279

戻りパラメーター: 要約情報.....	281
戻りパラメーター: 詳細情報.....	282
エラー戻りコード.....	283
query_directory_lu.....	284
指定パラメーター.....	284
戻りパラメーター: 要約情報.....	285
戻りパラメーター: 詳細情報.....	285
エラー戻りコード.....	286
query_directory_stats.....	287
指定パラメーター.....	287
戻りパラメーター.....	287
エラー戻りコード.....	288
query_dlc.....	288
指定パラメーター.....	288
戻りパラメーター: 要約情報.....	289
戻りパラメーター: 詳細情報.....	290
エラー戻りコード.....	291
クエリー・トレース・トレース.....	292
指定パラメーター.....	292
戻りパラメーター.....	294
エラー戻りコード.....	295
クエリー・デフォルト・デフォルト.....	296
指定パラメーター.....	296
戻りパラメーター.....	296
エラー戻りコード.....	296
query_dlur_lu.....	297
指定パラメーター.....	297
戻りパラメーター: 要約情報.....	298
戻りパラメーター: 詳細情報.....	298
エラー戻りコード.....	299
query_dlur_pu.....	300
指定パラメーター.....	300
戻りパラメーター: 要約情報.....	301
戻りパラメーター: 詳細情報.....	301
エラー戻りコード.....	303
query_dlus.....	304
指定パラメーター.....	304
戻りパラメーター.....	305
エラー戻りコード.....	306
query_domain_config_file.....	307
指定パラメーター.....	307
戻りパラメーター.....	307
エラー戻りコード.....	308
ワークフローを停止する.....	308
指定パラメーター.....	308
戻りパラメーター: 要約情報.....	309
戻りパラメーター: 詳細情報.....	310
エラー戻りコード.....	313
query_downstream_pu.....	314
指定パラメーター.....	314
戻りパラメーター.....	315
エラー戻りコード.....	316
query_dspu_template.....	317
指定パラメーター.....	317
戻りパラメーター.....	318
エラー戻りコード.....	319
query_focal_point.....	319
指定パラメーター.....	319

戻りパラメーター.....	320
エラー戻りコード.....	321
ログ・タイプのログ・タイプ.....	322
指定パラメーター.....	322
戻りパラメーター.....	322
エラー戻りコード.....	323
query_isr_session.....	324
指定パラメーター.....	324
戻りパラメーター: 要約情報.....	325
戻りパラメーター: 詳細情報.....	325
エラー戻りコード.....	327
query_kernel_memory_limit.....	328
指定パラメーター.....	328
戻りパラメーター.....	328
エラー戻りコード.....	329
query_local_lu.....	329
指定パラメーター.....	329
戻りパラメーター: 要約情報.....	330
戻りパラメーター: 詳細情報.....	330
エラー戻りコード.....	332
query_local_topology.....	333
指定パラメーター.....	333
戻りパラメーター: 要約情報.....	334
戻りパラメーター: 詳細情報.....	335
エラー戻りコード.....	336
query_log_file.....	337
指定パラメーター.....	337
戻りパラメーター.....	337
エラー戻りコード.....	338
クエリー・ログ・タイプ.....	338
指定パラメーター.....	338
戻りパラメーター.....	338
エラー戻りコード.....	339
query_ls.....	340
指定パラメーター.....	340
戻りパラメーター: 要約情報.....	341
Returned parameters: Detailed information.....	343
エラー戻りコード.....	356
query_ls_routing.....	356
指定パラメーター.....	357
戻りパラメーター.....	357
エラー戻りコード.....	358
3つの要求を照会.....	359
指定パラメーター.....	359
戻りパラメーター: 要約情報.....	360
戻りパラメーター: 詳細情報.....	361
エラー戻りコード.....	369
query_lu_lu_password.....	369
指定パラメーター.....	369
戻りパラメーター.....	370
エラー戻りコード.....	371
query_lu_pool.....	371
指定パラメーター.....	372
戻りパラメーター: 要約情報.....	372
戻りパラメーター: 詳細情報.....	373
エラー戻りコード.....	374
query_lu62_timeout.....	374
指定パラメーター.....	375

戻りパラメーター.....	376
エラー戻りコード.....	376
query_mds_application.....	377
指定パラメーター.....	377
戻りパラメーター.....	377
エラー戻りコード.....	378
query_mds_statistics.....	378
指定パラメーター.....	378
戻りパラメーター.....	379
エラー戻りコード.....	380
query_mode.....	380
指定パラメーター.....	380
戻りパラメーター: 要約情報.....	382
戻りパラメーター: 詳細情報.....	382
エラー戻りコード.....	384
query_mode_definition.....	385
指定パラメーター.....	385
戻りパラメーター: 要約情報.....	386
戻りパラメーター: 詳細情報.....	386
エラー戻りコード.....	386
query_mode_to_cos_mapping.....	387
指定パラメーター.....	387
戻りパラメーター.....	387
エラー戻りコード.....	388
query_nmvt_application.....	388
指定パラメーター.....	388
戻りパラメーター.....	389
エラー戻りコード.....	389
query_nn_topology_node.....	390
指定パラメーター.....	390
戻りパラメーター: 要約情報.....	391
戻りパラメーター: 詳細情報.....	391
エラー戻りコード.....	393
query_nn_topology_stats.....	394
指定パラメーター.....	394
戻りパラメーター.....	394
エラー戻りコード.....	396
query_nn_topology_tg.....	397
指定パラメーター.....	397
戻りパラメーター: 要約情報.....	399
戻りパラメーター: 詳細情報.....	399
エラー戻りコード.....	402
照会ノード.....	402
指定パラメーター.....	402
戻りパラメーター.....	403
エラー戻りコード.....	412
すべての照会ノード.....	412
指定パラメーター.....	412
戻りパラメーター.....	413
エラー戻りコード.....	413
query_node_limits.....	413
指定パラメーター.....	414
戻りパラメーター.....	414
エラー戻りコード.....	416
query_partner_lu.....	416
指定パラメーター.....	417
戻りパラメーター: 要約情報.....	418
戻りパラメーター: 詳細情報.....	419

エラー戻りコード.....	420
照会を lu_lu_定義する.....	421
指定パラメーター.....	421
戻りパラメーター: 要約情報.....	422
戻りパラメーター: 詳細情報.....	423
エラー戻りコード.....	423
query_port.....	424
指定パラメーター.....	424
戻りパラメーター: 要約情報.....	425
戻りパラメーター: 詳細情報.....	425
エラー戻りコード.....	429
query_pu.....	429
指定パラメーター.....	429
戻りパラメーター.....	430
エラー戻りコード.....	432
query_rapi_clients.....	433
指定パラメーター.....	433
戻りパラメーター.....	434
エラー戻りコード.....	434
query_rcf_access.....	435
指定パラメーター.....	435
戻りパラメーター.....	435
エラー戻りコード.....	436
query_rtp_connection.....	436
指定パラメーター.....	436
戻りパラメーター: 要約情報.....	437
戻りパラメーター: 詳細情報.....	437
エラー戻りコード.....	441
query_rtp_チューニング.....	442
指定パラメーター.....	442
戻りパラメーター.....	442
エラー戻りコード.....	443
query_security_access_list.....	443
指定パラメーター.....	443
戻りパラメーター.....	444
エラー戻りコード.....	444
query_session.....	445
指定パラメーター.....	445
戻りパラメーター: 要約情報.....	446
戻りパラメーター: 詳細情報.....	447
エラー戻りコード.....	450
スネース・ネットワーク.....	451
指定パラメーター.....	451
戻りパラメーター.....	452
エラー戻りコード.....	452
query_statistics.....	452
指定パラメーター.....	453
戻りパラメーター.....	453
エラー戻りコード.....	454
アクセス定義に一致する照会.....	455
指定パラメーター.....	455
戻りパラメーター: 要約情報.....	456
戻りパラメーター: 詳細情報.....	457
エラー戻りコード.....	460
関連付けの照会.....	460
指定パラメーター.....	460
戻りパラメーター.....	461
エラー戻りコード.....	461

デフォルトでは tn3270__	462
指定パラメーター	462
戻りパラメーター	462
エラー戻りコード	463
query_tn3270_express_logon	463
指定パラメーター	463
戻りパラメーター	463
エラー戻りコード	464
照会の照会に使用する	464
指定パラメーター	464
戻りパラメーター	464
エラー戻りコード	465
query_tn3270_slp_trace	466
指定パラメーター	466
戻りパラメーター	466
エラー戻りコード	466
LDAP の照会に使用された LDAP の数	467
指定パラメーター	467
戻りパラメーター	467
エラー戻りコード	468
照会の照会を定義しても	468
指定パラメーター	468
戻りパラメーター	469
エラー戻りコード	472
query_tn_server_trace	472
指定パラメーター	472
戻りパラメーター	473
エラー戻りコード	473
照会 (tp)	473
指定パラメーター	474
戻りパラメーター	474
エラー戻りコード	475
query_tp_definition	475
指定パラメーター	475
戻りパラメーター: 要約情報	476
戻りパラメーター: 詳細情報	476
エラー戻りコード	477
query_tp_load_info	477
指定パラメーター	477
戻りパラメーター	478
エラー戻りコード	479
query_trace_file	479
提供されるパラメーター	480
戻りパラメーター	480
エラー戻りコード	481
query_trace_type	481
指定パラメーター	481
戻りパラメーター	481
エラー戻りコード	482
query_userid_password	483
指定パラメーター	483
戻りパラメーター	483
エラー戻りコード	484
リモート・dlc_trace	484
指定パラメーター	484
戻りパラメーター	486
エラー戻りコード	486
reset_session_limit	487

提供されるパラメーター	487
戻りパラメーター	488
エラー戻りコード	489
set_buffer_availability	490
指定パラメーター	490
戻りパラメーター	490
エラー戻りコード	491
set_central_logging	491
指定パラメーター	491
戻りパラメーター	491
エラー戻りコード	491
set_cs_trace	492
Supplied parameters	492
戻りパラメーター	493
エラー戻りコード	493
set_global_log_type	494
提供されるパラメーター	494
戻りパラメーター	495
エラー戻りコード	495
set_kernel_memory_limit	496
指定パラメーター	496
戻りパラメーター	496
エラー戻りコード	496
set_log_file	497
提供されるパラメーター	497
戻りパラメーター	499
エラー戻りコード	499
set_log_type	499
提供されるパラメーター	499
戻りパラメーター	501
エラー戻りコード	501
set_tn3270_slp_trace	501
指定パラメーター	502
戻りパラメーター	502
エラー戻りコード	502
set_tn_server_trace	502
指定パラメーター	503
戻りパラメーター	503
エラー戻りコード	503
set_trace_file	503
提供されるパラメーター	504
戻りパラメーター	505
エラー戻りコード	505
set_trace_type	506
指定パラメーター	506
戻りパラメーター	507
エラー戻りコード	507
start_dlc	508
指定パラメーター	508
戻りパラメーター	508
エラー戻りコード	508
start_internal_pu	509
提供されるパラメーター	509
戻りパラメーター	509
エラー戻りコード	510
start_ls	511
指定パラメーター	511
戻りパラメーター	512

エラー戻りコード.....	512
start_port.....	513
指定パラメーター.....	513
戻りパラメーター.....	513
エラー戻りコード.....	513
status_all.....	514
指定パラメーター.....	514
戻り情報.....	514
エラー戻りコード.....	515
status_connectivity.....	516
指定パラメーター.....	516
戻り情報.....	516
エラー戻りコード.....	517
status_dependent_lu.....	517
指定パラメーター.....	517
戻り情報.....	517
エラー戻りコード.....	519
status_dlur.....	520
指定パラメーター.....	520
戻り情報.....	520
エラー戻りコード.....	520
status_lu62.....	521
指定パラメーター.....	521
戻り情報.....	521
エラー戻りコード.....	521
status_node.....	522
指定パラメーター.....	522
戻り情報.....	522
エラー戻りコード.....	522
status_remote_node.....	523
パラメーター.....	523
戻り情報.....	523
エラー戻りコード.....	523
stop_dlc.....	524
指定パラメーター.....	524
戻りパラメーター.....	524
エラー戻りコード.....	524
stop_internal_pu.....	525
指定パラメーター.....	525
エラー戻りコード.....	525
stop_ls.....	526
指定パラメーター.....	526
戻りパラメーター.....	527
エラー戻りコード.....	527
stop_port.....	528
指定パラメーター.....	528
戻りパラメーター.....	528
エラー戻りコード.....	528
term_node.....	529
指定パラメーター.....	529
戻りパラメーター.....	530
エラー戻りコード.....	530

付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード.....531

非アクティブの通信サブシステム.....	531
サポートされていない機能.....	531
パラメーターの検査.....	532

状態チェック.....	532
システム・エラー.....	532
付録 B 構成ファイル.....	533
初期構成ファイル.....	533
構成ファイルのフォーマット.....	533
構成ファイル内のレコードの順序.....	534
レコード・フォーマット.....	534
サブレコード・フォーマット.....	535
Motif 管理プログラムによる構成ファイルの変更.....	535
snaadmin プログラムへのファイル入力.....	536
サンプルの snaadmin 入力ファイル.....	536
CS/AIX と一緒に提供されるサンプル・ファイル.....	537
付録 C 環境変数.....	539
すべての機能に影響を与える環境変数.....	539
LANG.....	539
パス.....	539
CPI-C 通信に影響を与える環境変数.....	539
APPCLLU.....	539
APPCTPN.....	540
CLASSPATH.....	540
LD_LIBRARY_PATH.....	540
CSV API に影響を与える環境変数.....	540
SNATBLG.....	540
コマンド行管理プログラムに影響を与える環境変数.....	540
COLUMNS.....	540
トレースに影響を与える環境変数.....	541
SNACTL.....	541
SNATRACESIZE.....	541
SNATRC.....	541
SNATRCRESET.....	541
SNATRUNC.....	541
クライアント/サーバーの使用に影響を与える環境変数.....	542
SNA_SERVER_NAME.....	542
SNA_SLIM_SERVER_POLL.....	542
TN3270 サーバーに影響を与える環境変数.....	542
TN_INTRUSION_DETECTION.....	542
付録 D IBM へのご意見の送付方法.....	543
E メール・フィードバック・テンプレート.....	543
技術的な問題がある場合.....	543
付録 E 特記事項.....	545
商標.....	546
参考文献.....	549
CS/AIX バージョン 7.1 資料.....	549
IBM Redbooks.....	550
AIX オペレーティング・システム関連資料.....	550
システム・ネットワーク体系 (SNA) 関連資料.....	551
ホスト構成関連資料.....	551
z/OS Communications Server 関連資料.....	551
TCP/IP 関連資料.....	551
X.25 関連資料.....	552
APPC 関連資料.....	552
プログラミング関連資料.....	552

その他の IBM ネットワーキング関連資料.....	552
索引.....	553

表

1. 表記上の規則	xxiii
2. モデム制御文字のエスケープ・シーケンス.....	149
3. MAC アドレス用のビット変換.....	201
4. MAC アドレスのビット変換の例.....	201
5. アプリケーション・タイプごとの追加情報	518

本書について

「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX* 管理コマンド解説書」には、IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX (プログラム製品番号 5725-H32) の開始および管理に関する情報が記載されています。この IBM® ソフトウェア製品は、AIX を実行するサーバーが SNA ネットワーク上の他のノードと情報を交換できるようにするものです。

本書は、AIX®バージョン 7.2 以上で実行される CS/AIX バージョン 7.1 に適用されます。

本書の対象読者

本書は、CS/AIX をインストールし、システムをネットワーク接続用に構成し、システムの保守を行うシステム管理者を対象としています。システム管理者は、CS/AIX が作動するハードウェア、および AIX オペレーティング・システムを十分に理解している必要があります。また、システム管理者は、システムを接続するネットワークに関する知識があり、SNA の一般的な概念について理解している必要があります。

本書の使用法

この節では、本書の構成と表記について説明します。

本書の構成

本書は次の各章で構成されています。

- 1 ページの『[第 1 章 伝来](#)』では、CS/AIX の管理に伴うタスクの概要、snaadmin 管理プログラムの使用法の概要、および、すべてのコマンドで使用されるパラメーターに共通する特性 (パラメーター・タイプなど) について説明します。
- 9 ページの『[第 2 章 管理コマンド](#)』では、特定のリソースの定義、開始、照会など、特定の管理操作で必要となるパラメーターに関する詳細情報が提供されています。
- 531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』には、すべてのコマンドに共通するエラー戻りコードがリストされています。
- 533 ページの『[付録 B 構成ファイル](#)』では、CS/AIX の動作を制御するデータ・ファイルの内容を説明し、必要な場合にこれらのファイルを変更する方法について説明します。
- 539 ページの『[付録 C 環境変数](#)』には、CS/AIX プログラムが使用するすべての環境変数の要約が提供されています。

表記上の規則

xxiii ページの表 1 は、本書で使用する表記上の規則を示しています。

表 1. 表記上の規則

内容	表記例
資料名	<i>IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX</i> 管理 コマンド解説書
ファイル名またはパス名	sna.err
ディレクトリー名	/var/sna
プログラムまたはアプリケーション	snaadmin
コマンドまたはユーティリティー	define_node; snahelp

表 1. 表記上の規則 (続き)

内容	表記例
特定のタイプのすべてのコマンドへの一般的な参照	例えば、 <code>query_*</code> は、CS/AIX リソースの詳細を照会するすべての管理レコード (<code>query_cn</code> 、 <code>query_cos</code> 、 <code>query_dlc</code> など) を示しています。
オプションまたはフラグ	<code>-d</code>
パラメーター	<code>lu_name</code>
リテラル値またはユーザーが入力できる選択項目 (デフォルト値を含む)	255
定数 (複数の使用可能なパラメーター値の 1 つ)	FIRST_IN_LIST
戻り値	INVALID_LU_ALIAS
指定する値を表す変数	<code>infile</code>
環境変数	LD_RUN_PATH
ユーザー入力	<code>snaadmin</code> <code>status_dependent_lu,pu_name=ETH0</code>
関数、コール、またはエントリー・ポイント	<code>ctime()</code>
データ構造	<code>alert_3270_data</code>
フィールド名 (データ構造)	<code>c_cflag</code>
キーボード・キー	ENTER
16 進値	0x20

本書の追加情報の入手先

CS/AIX ライブラリーに含まれている他の資料、および SNA と AIX ワークステーションに関連するトピックの追加情報が記載された資料については、『参考文献』の節を参照してください。

第 1 章 伝来

CS/AIX 管理コマンドには、snaadmin プログラムからアクセスできます。snaadmin プログラムは、CS/AIX ノードを構成および管理するために使用できるコマンド行管理プログラムです。AIX 管理ガイド上のデータ・センター・デプロイメント用 *IBM Communications Server* は、特定の管理コマンドを使用して CS/AIX ノードを構成および管理する方法について説明しています。

この資料では、snaadmin プログラムおよび snaadmin を介して発行できるコマンドの使用方法について説明します。管理コマンドは、リソースの構成、状況の検査、およびリソースの管理に使用されます。ほとんどの管理コマンドは、以下のカテゴリーのいずれかに属しています。

構成

リソースの構成には、以下のタイプのコマンドを使用します。

define_*

新しい define_* は、構成ファイル内にレコードを記録するか、または同じリソースのレコードを新しい定義に置き換えます。を作成する。

delete_*

対応する ファイルからの define_* レコード。を除去する

状況の確認

リソースの構成および状況を確認するために、以下のタイプのコマンドが使用されます。

query_*

該当するリソース上の構成ファイルから情報を戻しますが、ファイルは変更しません。

status_*

リソースの状態に関する要約情報を提供します。

管理

リソースの管理には以下のタイプのコマンドが使用されます。

開始*、init_*、または アクティブ化 _*

構成済みリソースを明示的に開始します。一部のリソースは、他のリソースを活動化した結果として暗黙的に活動化できます。

stop_*、term_*、または 非アクティブ化 _*

リソースを明示的に停止します。一部のリソースは、暗黙的に停止することができます (例えば、非アクティブの期間の結果として)。

設定値 *

トレースおよびロギング・パラメーターなどの管理機能を制御します。

管理コマンドは 9 ページの『第 2 章 管理コマンド』のアルファベット順にリストされます。

すべての管理コマンドは、サーバー上で発行できます。ただし、IBM Remote API Client 上で発行できるコマンドには制限があります。

- On Windows clients there is no snaadmin プログラムでは、コマンドを発行できません。
- On AIX and Linux clients you can issue any 照会 or 状況 command. 9 ページの『第 2 章 管理コマンド』で定義されている他のいくつかの管理コマンドは、IBM Remote API Client から発行できることを明示的に説明しています。それ以外の場合、これらのコマンドはサーバーからのみ使用可能です

snaadmin の使用

snaadmin プログラムを使用するには、その前に CS/AIX を開始する必要があります。CS/AIX が開始されていない場合は、AIX コマンド行で以下のコマンドを入力します。

スネアスタート

snaadmin を使用して、CS/AIX の構成と管理を行うことができます。以下のいずれかに該当する場合は、Motif 管理プログラムまたは Web 管理プログラムの代わりに snaadmin を使用してください。

- 頻繁に使用されないリソース・パラメーターを構成する必要があります。
- X 表示機能がありません。

コマンドを発行するか、Motif 管理プログラムを使用すると、CS/AIX は構成ファイルを変更します。構成ファイルについて詳しくは、[533 ページの『付録 B 構成ファイル』](#)を参照してください。

Motif 管理プログラムの使用法の詳細については、AIX 管理ガイド上のデータ・センター・デプロイメント用 *IBM Communications Server* を参照してください。

Use the following syntax for snaadmin:

```
snaadmin [-n ノード][ -d ][ -a ][ - h ] <-i ファイル内> | <指揮, パラメーター 1=値 1, パラメーター 2=値 2, ...>
```

コマンド行で使用できるオプションについては、[2 ページの『コマンド行オプション』](#)を参照してください。パラメーター構文については、[4 ページの『管理コマンドに使用されるパラメーターの構文』](#)を参照してください。

管理コマンドは、[9 ページの『第 2 章 管理コマンド』](#)のアルファベット順にリストされ、以下のものを含む説明が含まれます。

- コマンドの目的
- コマンドをアクティブ・ノードまたは非アクティブ・ノードに発行できるか、ドメイン構成ファイルに出すことができるか
- 先行する必要があるその他のコマンド
- パラメーター・タイプおよびデフォルト値を含む、コマンドのパラメーターに関する詳細
- 返される情報

コマンド行オプション

snaadmin プログラム: を使用するときは、以下の 1 つ以上のオプションを使用できます。

-n ノード

指定されたノードにコマンドを送信します。デフォルトでは、ノード・コマンドはローカル・ノードに送信されます。

ノード名は、1 文字から 128 文字のストリングです。.(ピリオド) 文字が含まれている場合、CS/AIX は、それが完全修飾名であると見なします。それ以外の場合は、DNS ルックアップを実行してノード名を判別します。

-d

詳細情報をリストする。

-a

すべての項目のリスト (query_* コマンドのみ)。

特定タイプのすべてのリソースをリストするために -a を指定する必要はありません。特定のリソースが指定されていない場合、-a オプションはデフォルトで暗黙指定されます。

- h

ヘルプの表示。詳しくは、[3 ページの『コマンド行ヘルプの使用』](#)を参照してください。

-c

特定のパラメーターを変更します (選択した数の define_ コマンドでのみ使用可能)。詳細については、[3 ページの『特定のパラメーターの変更』](#)を参照してください。

-i ファイル内

指定されたファイルのコマンドを使用する。これは、コマンド行に入力するコマンドおよびパラメーターのリストだけでなく、CS/AIX 構成ファイル・フォーマットのファイル ([533 ページの『付録 B 構成ファイル』](#)で説明されています) でなければなりません。

特定のパラメーターの変更

コマンド行オプション `-c` を使用すると、コマンド全体を再入力することなく、既存のコマンドの特定のパラメーターを変更できます。コマンド行で、コマンド名と変更対象のパラメーターを指定します。このオプションは、以下のコマンドでのみサポートされます (その他すべてのコマンドの場合は、エラー・メッセージが戻されます)。

- `define_cpic_side_info`
- `define_downstream_lu`
- `define_ethernet_dlc`
- `define_ethernet_ls`
- `define_ethernet_port`
- `define_ip_dlc`
- `define_ip_ls`
- `define_ip_port`
- `define_local_lu`
- `define_lu_0_to_3`
- `define_mode`
- `define_node`
- `define_partner_lu`
- `define_qllc_dlc`
- `define_qllc_ls`
- `define_qllc_port`
- `define_sdlc_dlc`
- `define_sdlc_ls`
- `define_sdlc_port`
- `define_tp`
- `define_tr_dlc`
- `define_tr_ls`
- `define_tr_port`
- `define_userid_password`

コマンド行ヘルプの使用

snaadmin 上の `- h` オプションと `-d` オプションは、以下のとおりを使用してヘルプを利用できます

<code>snaadmin - h</code>	コマンドおよびパラメーターをコマンド行に指定するための管理コマンドおよび命令に関する一般情報を表示します。
<code>snaadmin - h -d</code>	すべての管理コマンドをリスト表示
<code>snaadmin - h 指揮</code>	指定されたコマンドの説明を表示します。
<code>snaadmin - h -d 指揮</code>	指定されたコマンドの説明を表示し、このコマンドのパラメーターをリストします。

管理コマンドに使用されるパラメーターの構文

以下の節で説明する構文を使用して、管理コマンドでパラメーターを指定します。これらの節の情報は、特に言及されている場合を除き、構成ファイルと snaadmin コマンドの両方に適用されます。

コマンド内のパラメーターは、5 ページの『[管理コマンドのサブレコード](#)』で注記されている場合を除き、任意の順序で指定できます。

パラメーター・タイプ

管理コマンドの各パラメーターは、以下のタイプのいずれかです。

人物

ローカルの表示可能文字 (例えば、`lu_name` パラメーター値) を使用して入力された文字ストリング。個々のパラメーターの説明では、各ストリングの最大長と最小長の詳細が示されます。また、パラメーターの説明では、ストリングが特定の文字セット (英数字、タイプ A、または AIX ファイル名文字など) からの文字で構成される必要がある場合にも示されます。それ以外の場合は、ご使用のコンピューターのローカル文字セットに表示可能な任意の文字を使用できます。文字ストリングは、大/小文字の区別

snaadmin プログラムへのコマンド行入力として文字ストリングを入力し、そのストリングに 1 つ以上のコンマが含まれている場合は、各コンマの前に % を付け、パラメーター間の区切り文字としてコンマをプログラムが解釈しないようにする必要があります。% 文字を単独で入力するには、2 % の文字 - % を使用します。(これは、構成ファイル内、および管理コマンドからのテキスト出力で %% として表示されますが、単一文字として解釈されます。)

@ 文字で始まる文字ストリングとして入力された名前パラメーターは予約されており、使用すべきではありません。An exception is the リソース名 parameter on the `add_dlc_trace` and `リモート・dlc_trace` commands. また、システム用に予約されている名前を上書きすることがあるため、\$ 文字で始まる名前を使用することは避けてください。現在、\$G で始まるすべての名前がシステムによって使用されています。

文字ストリングは引用符 ("") で囲まないでください。文字ストリング内に引用符を含める必要がある場合は、以下の制約事項が適用されます。

- " 文字は、定義中のパラメーターに有効な文字でなければなりません。
- ストリングには、偶数個の引用符を含める必要があります。
- 各引用符の前にはバックスラッシュ文字 \ を付ける必要があります。これは、AIX シェルによる解釈を回避するためです。

10 進数

数値 (例えば、128)。個々のパラメーターの説明では、最大値と最小値の詳細が示されます。値が 16 進数として明示的に定義されていない限り、16 進数ではなく、10 進数の数値を指定します。

16 進数

16 進数で指定された数値。16 進数字の偶数として指定されます。16 進数字の前には、0x (例えば、0xF0) が 16 進数は、長さが明示的に指定されていない限り、通常は 1 バイト (2 桁の 16 進数字で指定) です。例えば、`sense_data on` セッションの非アクティブ化は、長さ 4 (8 桁の 16 進数字で指定される 4 バイトの値) を持つように定義されています。の場合です。

個々のパラメーターの説明では、有効な値 (該当する場合) に関する最大値と最小値、またはその他の制限の詳細が示されます。制限が注記されていない場合は、任意の値を使用できます。文字 A-F は大/小文字を区別しません。大文字または小文字のどちらでも使用できます。

ヘックス配列

16 進数字の配列。これは、不等号括弧 (例えば、<010A0B0C>) の数字を囲むか、または 0x を使用する数字の前に表すことによって表すことができます。個々のパラメーターの説明では、配列の最大長と最小の長さ、およびその値に関する制約事項の詳細が示されます。文字 A-F は大文字小文字を区別しません。大文字または小文字のどちらでも使用できます。

snaadmin プログラム。AIX シェルによる解釈を避けるために、各角度ブラケットの前に円記号 (\< または \>) を付ける必要があります。へのコマンド行入力として 16 進配列を入力中の場合

定数 ()

2 つ以上の定義済みの値のうちの 1 つで、引用符なしで ASCII 文字ストリングとして指定されます (例えば、プライマリー)。定義済み定数は、プライマリー / セカンダリ / 交渉可能などの有効な値の固定セットを持つパラメーターに使用されます。個々のパラメーターの説明には、パラメーターごとに定義された値がリストされます。定義済み定数は大 / 小文字を区別しません。大文字または小文字を使用できます。

コマンド記述には、各パラメーターのタイプがリストされます。

デフォルトのパラメーター値

定義または開始するリソースの名前など、一部の管理コマンド・パラメーターは、常に明示的に指定する必要があります。その他のパラメーターについては、CS/AIX でデフォルト値が提供されます。標準的な構成の場合、コマンドにすべてのパラメーターを指定する必要はありません。個々のパラメーターの説明に、デフォルト値 (該当する場合) に関する情報が示されています。パラメーターに対してデフォルト値が表示されない場合は、そのパラメーターを明示的に指定する必要があります。

管理コマンド・パラメーターに使用されるデフォルトのパラメーター値は、Motif 管理プログラム、Web 管理プログラム、または SMIT に使用されるデフォルト値とは異なることもあります。

ブランク・スペース

埋め込みスペース文字は、文字ストリングの文字セットで埋め込みスペース文字が許可されている場合にのみ、その文字ストリング内で有効で、その他の型のパラメーター値内では有効ではありません。例えば、以下のようになります。

- 文字ストリング LU001 は、*lu_name* パラメーターの場合は有効である。
- 文字ストリング LU 001 は、任意の文字 (スペースを含む) を許可している *description* パラメーターの場合は有効だが、スペース文字を許可していない *lu_name* パラメーターの場合は無効である。
- 16 進配列 <01020304> は有効である。
- 16 進配列 <01 02 03 04> は無効である。

ディスクリプター、パラメーター名、またはパラメーター値の前後のすべてのブランク・スペース (つまり、スペースおよびタブの任意の組み合わせ) は、無視されます。

スペースを含むパラメーター値を引用符 (") で囲む必要はありません。

管理コマンドのサブレコード

管理コマンドには、コマンドのインスタンスによって形式が異なるデータを含むものもあります。この場合、変数データをオプションのサブレコードに指定します。つまり、コマンドは、コマンド・タイプのすべてのインスタンスに共通した一連のパラメーターと、その後続く変数データを含むサブレコードで構成されます。

すべてのコマンドの順序は、以下のとおりです。

1. *command_name*
2. 共通のパラメーター

1 つ以上のサブレコードを持つすべてのコマンドの順序は、以下のとおりです。

1. *command_name*
2. 共通のパラメーター
3. *subrecord_name* (中括弧 {} で囲む)
4. *subrecord_name* に関連したパラメーター
5. *subrecord_name* のその他のインスタンス (各インスタンスの後に、関連したパラメーター)

これらの名前およびパラメーターは、構成ファイルではそれぞれ個別の行に示され、snaadmin に発行されるコマンドでは、コンマで分離されます。

`command_name` に関連した (およびサブレコードには関連しない) すべてのパラメーターは、`command_name` の後、かつ最初の `subrecord_name` の前に指定する必要があります。特定の `subrecord_name` に関連したすべてのパラメーターは、`subrecord_name` の後、かつ次の `subrecord_name` (ある場合) か次の `command_name` の前に指定する必要があります。ただし、サブレコード内 (または共通のパラメーター内) の個々のパラメーターの順序は、重要ではありません。

query_* コマンドのリスト・オプション

該当するリソース・タイプに対して `query_*` コマンドを発行することにより、CS/AIX リソースに関する情報を取得できます。例えば、`query_ls` を発行することにより、LS の構成および状況に関する情報を取得することができます。`query_*` コマンドは、使用されるオプションに応じて、特定のリソース (例えば、特定の LS の構成) または同じタイプの複数のリソース (例えば、すべての構成済みリンク・ステーションに関する情報など) に関する情報を戻すことができます。さらに、一部の `query_*` コマンドには、指定されたリソースに関する要約情報または詳細情報のいずれかを戻すオプションがあります。

注:

ほとんどのユーザーは、このセクションで説明する `num_entries` パラメーターおよび `list_options` パラメーターを使用する必要はありません。代わりに、コマンド行オプションを使用できます `-a` および `-d` `snaadmin` コマンドを使用して、必要な項目 (複数の場合もある) を指定し、必要な詳細レベルを指定します。

- To return a single named entry, specify the resource name of the entry you want, and do not specify the `-a` オプション。
- すべての項目を戻すには、`-a` オプションを指定し、リソース名を指定しません。を指定し
- 詳細情報を (単一の名前付きエントリーまたは複数の項目のいずれかに) 戻すには、コマンドに対する `-d` オプション。を追加します。

これらのオプションについて詳しくは、[2 ページの『コマンド行オプション』](#)を参照してください。

1つのリソースまたは複数のリソースに関する情報の入手

`query_*` コマンドによって戻される情報は、リソースの名前に従って順序付けされた、リスト形式で保管されているものと考えられます。例えば、`query_ls` によって戻される情報は、LS 名の順序になっています。リストの通常の順序は、以下のとおりです。

- 名前の長さによる (最短の名前)
- 同じ長さの名前に対する ASCII 辞書順の順序付け

個々のコマンド記述は、リストの順序が前の順序と異なる場合 (例えば、リストが数値で配列されている場合など) に注釈を付けます。

完全なリストまたは指定された部分を要求することによって、複数のリソースに関する情報を入手することができます。`query_*` コマンドは、リストから戻される項目を判別します。の以下のパラメーター

`num_entries`

情報が戻されるリソースの最大数。1 を指定すると、特定のエントリー、複数のエントリーを戻す場合は 1 より大きい数値、すべての項目を戻す 0 (ゼロ) を指定できます。デフォルトでは、照会コマンドの名前だけを指定し、`num_entries` またはリソース名を指定しない場合、または `num_entries` を指定せずにリソース名を指定した場合に 1 つの項目を戻す場合は、すべての項目が戻されます。

`list_options`

以下のいずれかのオプションによって指定される、最初の項目のリスト内の位置。

最初のリスト

リストの最初の項目

リスト (含む)

特定の名前付きエントリーから始まる項目

次の値を削除

特定の名前付き項目の後の次の項目から開始される項目。指定された名前は、リストの順序付けに従って開始位置を示します。リストには名前が存在していない必要があります。例えば、リストに項目 NODEA、NODEB、NODED、NODEF、およびアプリケーション要求項目が NODEC の後の最初の項目から開始される場合、戻される最初の項目は NODED となります。

list_options パラメーターが リスト (含む) または 次の値を削除に設定されている場合、コマンドの別のパラメーターは、必要なエントリーの開始位置を示すリスト内のエントリーの名前を指定します。各コマンド記述の *list_options* の記述は、開始位置の識別に使用されるパラメーターを説明しています。これらのオプションの 1 つを指定し、開始位置を示すパラメーターを指定しない場合、*list_options* パラメーターは無視され、戻される情報はリストの最初の項目から始まります。

To request all entries in the list when using the snaadmin プログラム。指定する代わりにコマンド行オプション *-a* を使用することができます。 *num_entries* as 0 and *list_options* as 最初のリスト (also, the default is to return all entries when *num_entries* and the resource name are not specified). *num_entries* オプションは、特定のエントリーを明示的に設定しない限り、すべてのエントリーを返します。 *list_options* 戻される項目の数は、以下の値のうちの小さい数です。

- *num_entries* パラメーター(これがゼロ以外の場合)
- 指定された開始位置からリスト終了までの間の項目数

要約情報または詳細情報の入手

一部の *query_** コマンドは、指定されたリソースに関する要約情報または詳細情報を戻すオプションを提供します。例えば、ローカル・クラスの照会 は LU 名、LU 別名、および説明 (要約情報) のみを戻すか、または LU アドレスおよびセッション限度 (詳細情報) などの追加情報を戻すこともできます。各 *query_** コマンドの記述は、コマンドに要約情報または詳細情報を戻すオプションが含まれているかどうかを示します。

要約オプションまたは詳細オプションを提供するコマンドの場合は、*list_options* パラメーターを使用して、要約情報または詳細情報が必要かどうか、およびリスト内の開始位置を指定します。これらのオプションを指定するには、2 つの値を + 文字 (1 つの値で、要約情報または詳細情報が必要かどうかを指定し、1 つの値を指定してリスト内の開始位置を指定します) を指定し、*list_options* パラメーターをこれらの 2 つの値の組み合わせに設定します。例えば、ノードで定義されたすべての DLC について要約情報を指定するには、照会の *dlc* コマンドの *list_options* パラメーターに値 要約+FIRST_IN_LIST を指定します。

詳細情報を要求するには、*-d* option on the snaadmin command line instead of specifying a value of 詳細 for the *list_options* パラメーターを使用できます。 *-d* option returns detailed information unless you explicitly specify a value of 概要 for the *list_options* パラメーターは、要約情報のみを戻します。

管理コマンドの例

この節では、コマンド行で *snaadmin* コマンドを発行する、いくつかの例を紹介します。これらのコマンドでは、パラメーターの多くは指定しません。その場合、*snaadmin* にはデフォルト値が使用されます。デフォルト値の詳細については、9 ページの『第 2 章 管理コマンド』の各コマンドの説明を参照してください。

以下のコマンドはイーサネットを利用するリモート・システムへの接続を定義します。 *mac_address* パラメーターを 16 進数配列として指定する場合は、不等号括弧の使用法について注意してください。不等号括弧の前に円記号 (¥) を付けて、AIX シェルによって解釈されないようにする必要があります。

```
snaadmin define_ethernet_dlc, dlc_name = DLCNAME, initially_active = YES
snaadmin define_ethernet_port, port_name = PORTNAME, dlc_name = DLCNAME,
initially_active = YES
snaadmin define_ethernet_ls, ls_name = LSNAME1, port_name = PORTNAME,
mac_address = \<000000000000\>
```

以下のコマンドは TN3270 クライアントのアクセスを定義します。TN3270 セッション・データを指定する場合は、中括弧記号の使用法について注意してください。各中括弧記号の前には、AIX シェルによって解釈されないように、円記号 (¥) を置く必要があります。

```
snaadmin define_tn3270_access, default_record=YES, description="Test client",
\{tn3270_session_data\}, port_number=8001
```

以下のコマンドは LU6.2 に使用される ローカル LU、およびその LU が通信する パートナー LU を定義します。

```
snaadmin define_local_lu, lu_name=LUNAME1, lu_alias=LUNAME1
snaadmin define_partner_lu, fqplu_name=APPN.PTNRLU, plu_alias=PTNR01
```

以下のコマンドは、#CONNECT という名前の SNA モードを使用して、ローカル LU とパートナー LU 間のセッションを活動状態にします。この名前の中で、# 文字の前に円記号 (¥) を置いて、AIX シェルが解釈しないようにしていることに注意してください。

```
snaadmin activate_session, lu_alias=LUNAME1, plu_alias=PTNR01, mode_name=\#INTER
```

以下のコマンドは、パートナー LU の定義、現在の状況、およびローカル LU とパートナー LU 間のセッションに関する情報を要求します。すべてのケースで、-d または DETAIL 値を使用して、要約情報のみ提供するデフォルト値を指定変更し、詳細情報を要求します。

```
snaadmin -d query_partner_lu_definition, plu_alias=PTNR01
snaadmin -d query_partner_lu, lu_name=LUNAME1, plu_alias=PTNR01
snaadmin query_session, num_entries=0, list_options=DETAIL+FIRST_IN_LIST,
lu_name=LUNAME1, plu_alias=PTNR01
```


第 2 章 管理コマンド

この章では、リソース (ローカル・ノード、接続コンポーネント、ディレクトリー・エントリー、ネットワーク・トポロジー (照会のみ)、タイプ 0 から 3 の LU とプール) の構成、定義、削除、照会、ステータスの検査、開始、および停止を行うために使用される管理コマンドに関する 参照情報を示します。コマンドをアルファベット順にリストします。

activate_session

The `activate_session` command requests CS/AIX to activate a session between the local LU and a specified partner LU, using a specified mode. You must issue an `initialize_session_limit` command before issuing an `activate_session` command unless the `cnos_permitted` parameter is set to YES.

This command must be issued to a running node.

This command can be issued from a client. If it is issued from an AIX or Linux client, the command must run with the userid `root`, or with a userid that is a member of the `sys` group (AIX) or `sna` group (Linux).

提供されるパラメーター

Parameter name [activate_session]	Type	Length	Default
<code>lu_name</code>	character	8	(null string)
<code>lu_alias</code>	character	8	(null string)
<code>plu_alias</code>	character	8	(null string)
<code>mode_name</code>	character	8	
<code>fqplu_name</code>	character	17	(null string)
<code>polarity</code>	constant		POL_EITHER
<code>cnos_permitted</code>	constant		YES

提供されるパラメーター：

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU がその LU 名ではなく LU 別名によって定義されていることを示すには、このパラメーターを指定しないでください。

lu_alias

ローカル LU の LU 別名。この別名は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。このパラメーターが使用されるのは、`lu_name` が指定されていない

`lu_name` および `lu_alias` が指定されていない場合、コマンドは CP に関連付けられた LU (デフォルトの LU) に転送されます。

plu_alias

パートナー LU の LU 別名。この別名は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。パートナー LU がその LU 別名の代わりに完全修飾 LU 名によって定義されていることを示すには、このパラメーターを指定しないでください。

モード名

LU によって使用されるモードの名前。この名前は、文字で始まるタイプ A の文字ストリングです。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。

このパラメーターは、`plu_alias` パラメーターが指定されていない場合にのみ使用されます。`plu_alias` が指定されている場合は無視され

極性

セッションの極性。可能な値は次のとおりです

- いずれかのポーリング
- ポーリング・フィスト（スピーカー）
- ポーリング・ビダー

いずれかのポーリングが設定されている場合、セッションのアクティブ化は、最初のスピーカー・セッションが使用可能であれば活動化します。それ以外の場合、入札者セッションがポーリング・フィスト（スピーカー）またはポーリング・ビダーが設定されている場合、要求された極性のセッションが使用可能な場合にのみ、セッションのアクティブ化は成功します。

cnos_許容値

CNOS 処理が許可されることを示します。可能な値は次のとおりです

そうだ

CNOS 処理が許可されます。

違う。

CNOS 処理は許可されません。

指定されたモードのセッション限度がリセットされ、このパラメーターがそうだに設定されているために、新規セッションの活動化ができない場合は、暗黙の CNOS 処理によってセッション限度が初期化されます。CNOS 処理がアクティブのときに、このコマンドの実行は中断されます。

戻りパラメーター

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

primary_rc

OK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

AS_NEGOTIATED

セッションは正常に活動化されました。モードに定義されたセッション限度は、活動化処理中に折衝されました。

AS_SPECIFIED

セッションは正常に活動化されました。セッション限度は変更されていません。

session_id

新規セッションのセッション ID。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

EXCEEDS_MAX_ALLOWED

この LU-LU モードの組み合わせに対する現在のセッション限度を超えるため、このセッションを活動化することができません。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーターが、定義済みのローカル LU 別名と一致しません。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターが、定義済みのローカル LU 名と一致しません。

INVALID_PLU_NAME

fqplu_name パラメーターが定義済みのパートナー LU 名と一致しないか、または *plu_alias* パラメーターが定義済みのパートナー LU 名と一致しません。

INVALID_CNOS_PERMITTED

cnos_permitted パラメーターで指定した値は無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

その他の状態が原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc**ACTIVATION_FAIL_NO_RETRY**

処理が必要となる条件が原因で (構成のミスマッチやセッション・プロトコル・エラーなど)、セッションは活動化されませんでした。セッションの活動化を再試行しないでください。CS/AIX ログ・ファイルでエラー条件に関する情報を確認し、訂正を行ってから再試行します。

ACTIVATION_FAIL_RETRY

一時的な条件が原因で (リンク障害など)、セッションは活動化されませんでした。タイムアウトになって条件がクリアされるまで待機してから、再試行します。CS/AIX ログ・ファイルでエラー条件に関する情報を確認します。

secondary_rc

2 次戻りコードが戻されません。

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

add_backup

`add_backup` コマンドは、`sna.net` ファイルのバックアップ・サーバー のリストにサーバーを追加します。これにより、現在のコントローラーがアクティブでなくなったときに、このサーバーがコントローラー構成ファイル・サーバーとして動作できるようになります。新規サーバーはリストの最後に追加されます。このサーバーは、ファイル内のその他すべてのサーバーがアクティブでなくなった場合にのみコントローラー・サーバーとなります。

このコマンドは、ノード名を指定せずに実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[add_backup] backup_name		character 128

指定パラメーターは、以下のとおりです。

backup_name

バックアップ・サーバーのリストに追加するサーバーの名前。

サーバー名に . (ピリオド) の文字が含まれている場合、CS/AIX はこれが完全修飾名であると想定します。含まれていない場合は、DNS ルックアップを実行してサーバー名を判別します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc

DUPLICATE_RECORD

backup_name パラメーターで指定したサーバー名は、すでにファイルにリストされています。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

add_dlc_trace

add_dlc_trace コマンドは、DLC 上で送信される SNA メッセージのトレースを制御します。これを使用して、特定の DLC、ポート、LS、または HPR RTP 接続でトレースを活動化することができます。また、指定された LS 上の特定のセッションでトレースを活動化したり、どのタイプのメッセージをトレースするのかを指定するためにも使用できます。また、このコマンドを使用して、すべての DLC、ポート、リンク・ステーション、および HPR RTP 接続に対するトレースを活動化することもできます。CS/AIX トレースの使用方法について詳しくは「AIX 診断ガイド上の *IBM Communications Server for Data Center* デプロイメント」を参照してください。

同じリソースに関連する複数の add_dlc_trace コマンドが発行された場合、メッセージは、現在アクティブなコマンドのいずれかに一致する場合にトレースされます。例えば、

- ポートとそのリンク・ステーションに関するすべてのメッセージをトレースするコマンドを発行してから、2 番目のコマンドを発行して、ポートが所有するリンク・ステーションの 1 つに指定された LFSID が指定されたメッセージのみをトレースする場合は、LS のすべてのメッセージはトレースされ続けます (最初のコマンドと一致するため)。リモート・ dlc_trace は、ポートのトレースを除去するために、指定された LFSID を持つ LS 上のメッセージは引き続きトレースされます (これは、それらのメッセージがまだアクティブである 2 番目のコマンドと一致するためです) が、この LS 上の他のメッセージはトレースされません。を使用する場合は、
- すべてのリソースの XID メッセージをトレースするコマンドを発行してから、特定の LS 上の SC および DFC メッセージをトレースするために 2 番目のコマンドを発行すると、この LS の 3 つのすべてのメッセージ・タイプがトレースされます。

注:

セット・トレース・タイプ コマンドには、トレース・ファイル内の各項目を指定された長さまで切り捨てるオプションが含まれています。このオプションは、セット・トレース・タイプによって指定されたカーネル・コンポーネント・トレースに加え、DLC トレースにも適用されます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[add_dlc_trace]			
resource_type		constant	ALL_RESOURCES
resource_name		character	8 (null string)

sidh	hex byte	0
sidl	hex byte	0
odai	constant	NO
message_type	constant	TRACE_ALL

指定パラメーターは、以下のとおりです。

resource_type

トレースの対象となるリソースを指定し、このリソースでトレース対象となる特定のメッセージ・タイプをオプションで指定します。可能な値は次のいずれかです。

ALL_RESOURCES

すべての DLC、ポート、リンク・ステーション、および RTP 接続のトレース・オプションを指定します。

DLC

resource_name で指定した DLC、およびこの DLC を使用するすべてのポートとリンク・ステーションのトレース・オプションを指定します。

PORT

resource_name で指定したポート、およびこのポートを使用するすべてのリンク・ステーションのトレース・オプションを指定します。

LS

resource_name で指定した LS のトレース・オプションを指定します。

RTP

resource_name で指定した RTP 接続のトレース・オプションを指定します。

PORT_DEFINED_LS

resource_name で指定したポート、およびこのポートを使用するすべての定義済みリンク・ステーション (暗黙的なリンク・ステーションは含まない) のトレース・オプションを指定します。

PORT_IMPLICIT_LS

resource_name で指定したポート、およびこのポートを使用するすべての暗黙的なリンク・ステーション (定義済みリンク・ステーションは含まない) のトレース・オプションを指定します。

resource_name

トレースを活動化する対象となる DLC、ポート、LS、または RTP 接続の名前。*resource_type* が ALL_RESOURCES に設定されている場合は、このパラメーターを指定しないでください。

resource_type が RTP に設定されている場合は、特定の RTP 接続の名前 (この名前は、@ 文字で始まります) を指定するか、またはこのパラメーターを省略し、すべての RTP トラフィックがトレースの対象であることを指定できます。

以下の 3 つのパラメーターは、指定した LS のセッションのローカル形式セッション ID (LFSID) を識別します。これらのパラメーターは、*resource_type* が LS に設定されている場合にのみ有効で、このセッションのメッセージのみがトレースの対象であることを示します。LFSID は、以下のパラメーターで構成されます。

sidh

セッション ID の上位バイト。

sidl

セッション ID の下位バイト。

odai

Origin Destination Assignor Indicator。可能な値は次のいずれかです。

YES

BIND 送信側は、2 次リンク・ステーションを含むノードです。

NO

BIND 送信側は、1 次リンク・ステーションを含むノードです。

message_type

指定したリソースまたはセッションのトレースの対象となるメッセージのタイプ。すべてのメッセージをトレースするには、このパラメーターを TRACE_ALL に設定します。特定のメッセージをトレースするには、以下の 1 つ以上の値を指定します (+ 文字を使用して結合します)。

TRACE_XID

XID メッセージをトレースします。

TRACE_SC

セッション制御要求/応答単位 (RU) をトレースします。

TRACE_DFC

データ・フロー制御 RU をトレースします。

TRACE_FMD

機能管理データ・メッセージをトレースします。

TRACE_SEGS

RH を含まない、BBIU 以外のセグメントをトレースします。

TRACE_CTL

MU および XID 以外のメッセージをトレースします。

TRACE_NLP

ネットワーク層プロトコル・メッセージをトレースします。

TRACE_NC

ネットワーク制御メッセージをトレースします。

RTP 接続のトレースの場合、値 TRACE_XID、TRACE_NLP、および TRACE_CTL は無視されます。リストされているその他の値の少なくとも 1 つが RTP トレースに対して指定されている必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_RESOURCE_TYPE

resource_type パラメーターで指定した値は無効です。

INVALID_MESSAGE_TYPE

message_type パラメーターで指定した値は無効です。

INVALID_RTP_CONNECTION

resource_name パラメーターがいずれの RTP 接続にも一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

開口

The 開口 コマンドは アタン version of the "ピン" utility and allows a management application to check the communications path from a local LU to a remote LU in the network.

開口 コマンドを使用すると、以下に説明されている エイシング プログラムを AIX または Linux APPC アプリケーション・スイートユーザーズ・ガイドでの *IBM Communications Server for Data Center* デプロイメントを使用する代わりに、

CS/AIX 開口 は、内部で定義された APPC TP を使用してインプリメントされます。この TP は、データをパートナー LU に送信し、オプションでパートナー LU からデータを受信します。TP が正常に完了した場合、開口 は、パートナー LU への会話の割り振り、およびデータの送受信に要した時間に関する情報を戻します。

このコマンドは、リモート・ノード上の LU へのパスを検査するためのものです。ローカル・ノード上のパートナー LU との通信を検査するために 開口 は、ローカル・コンピューター上の他のプログラムのパフォーマンスに影響を与えますが、推奨されません。の使用

このコマンドは実行中のノードに対して発行する必要があります

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[aping]			
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
plu_alias	character	8	(null string)
mode_name	character	8	
tp_name	character	64	APINGD
security	constant		NONE
pwd	character	10	(null string)
user_id	character	10	(null string)
dlen	decimal		0
consec	decimal		1
fqplu_name	character	17	(null string)
echo	constant		NO
iterations	decimal		0
partner_ver_len	decimal		0

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU 名ではなく LU 別名によって LU が識別されていることを示す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

lu_alias

ローカル LU の LU 別名。このパラメーターは、*lu_name* を指定しない場合にのみ使用します。*lu_name* および *lu_alias* が指定されていない場合、このコマンドは、CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU に転送されます。

plu_alias

パートナー LU 別名。このパラメーターは、リモート・ノードの LU の別名である必要があります。*aping* をローカル・ノードのパートナー LU とともに 使用することはお勧めしません。

別名ではなく完全修飾名によって LU が識別されていることを示す場合は、このパラメーターを指定せず、*fqplu_name* パラメーターで LU 名を指定してください。

mode_name

LU ペアが使用するモードの名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

tp_name

起動した TP の名前。このパラメーターは、通常、「APINGD」に設定します。

security

TP を開始する場合に会話セキュリティ情報が必要かどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

NONE

セキュリティー情報は不要です。

SAME

セキュリティー情報は、3つ目の TP の代わりにこの TP を起動する TP によって 検査できます。

PGM

TP を開始する場合にパスワードとユーザー ID を必要とします。セッションでパスワード置換がサポートされていない場合、パスワードは暗号化されずに送信されます。セッションでパスワード置換がサポートされている場合、パスワードは暗号化されて送信されます。

PGM_STRONG

TP を開始する場合にパスワードとユーザー ID を必要とします。ただし、パスワードを平文で送信できません。セッションでパスワード置換がサポートされていない場合、aping は失敗します。サポートされている場合、パスワードは暗号化されて送信されます。

pwd

パートナー TP にアクセスするために必要なパスワード。このパラメーターは、*security* パラメーターが PGM または PGM_STRONG に設定されている場合にのみ必要となります。このパスワードは、タイプ AE の文字ストリングです。

user_id

パートナー TP にアクセスするために必要なユーザー ID。このパラメーターは、*security* パラメーターが SAME、PGM、または PGM_STRONG に設定されている場合にのみ必要となります。この ID は、タイプ AE の文字ストリングです。

dlen

パートナー LU に送信されるデータ・ストリングの長さ。(データ・ストリングを指定する必要はありません。APING TP は、単に、指定した長さのゼロのストリングを送信します。)0 から 65,535 の範囲内で値を指定します。

consec

応答が必要となるまでにパートナー LU に送信される連続データ・ストリング数。APING TP は、*dlen* パラメーターで指定したバイト数の各ストリングとともに、この数のデータ・ストリングを送信します。次に、APING TP は、*echo* パラメーターの設定に応じて、パートナー TP のデータか確認メッセージのいずれかを要求します。1 から 65,535 の範囲内で値を指定します。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

この名前は、リモート・ノードの LU の名前である必要があります。aping をローカル・ノードのパートナー LU とともに使用することはお勧めしません。

このパラメーターは、*plu_alias* パラメーターが指定されていない場合にのみ使用します。*plu_alias* が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。

echo

APING TP がデータをパートナー LU に送信した後にパートナー LU からのデータを受信するか、または確認を要求するかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

指定した数のデータ・ストリングを送信した後に、APING TP はパートナー LU からデータを受信します。

NO

指定した数のデータ・ストリングを送信した後に、APING TP はパートナー LU からの確認を要求しますが、データは受信しません。

iterations

パートナー LU へのデータの送信およびデータや確認の要求という連続処理を APING TP が実行する回数。0 から 65,535 の範囲内で値を指定します。

partner_ver_len

戻されるパートナー TP の検査データ・ストリングの最大長。0 から 3000 の範囲内で値を指定します。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
alloc_time		decimal
min_time		decimal
avg_time		decimal
max_time		decimal
partner_ver_len		decimal
partner_ver_data		hex array (max_length as specified on command)

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

alloc_time

パートナーへの会話の割り当てにかかる時間 (ミリ秒)。APING TP が発行した MC_ALLOCATE verb が完了するまでにかかる時間です。

min_time

データ送信の反復に必要となる最短時間 (ミリ秒)。データの送信およびデータか確認の受信を一度反復するための最短測定時間です。iterations が 0 (ゼロ) に設定されている場合、このパラメーターは使用されません。

avg_time

データ送信の反復に必要となる平均時間 (ミリ秒)。データの送信およびデータか確認の受信を一度反復するための平均時間です。iterations が 0 (ゼロ) に設定されている場合、このパラメーターは使用されません。

max_time

データ送信の反復に必要となる最大時間 (ミリ秒)。データの送信およびデータか確認の受信を一度反復するための最大測定時間です。iterations が 0 (ゼロ) に設定されている場合、このパラメーターは使用されません。

partner_ver_len

パートナー TP が戻す検査ストリングの実際の長さ。

partner_ver_data

パートナー TP が戻す検査ストリング。partner_ver_len が 0 (ゼロ) の場合は、このストリングは戻されません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーターが、定義済みの LU 別名と一致しません。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターが、定義済みの LU 名と一致しません。

BAD_PARTNER_LU_ALIAS

plu_alias に指定した値が、定義済みのパートナー LU と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

その他の状態が原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

ALLOCATION_ERROR

CS/AIX は、リモート TP との APPC 会話を割り振ることができませんでした。

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

ALLOCATION_FAILURE_NO_RETRY

構成エラーやセッション・プロトコル・エラーなどの永続的な状態が原因で、会話が割り当てられませんでした。詳しくは、*sense_data* パラメーターおよびエラー・ログ・ファイルを検査してください。エラーが訂正されるまで、aping コマンドを再試行しないでください。

ALLOCATION_FAILURE_RETRY

リンク障害などの一時的な状態が原因で、会話が割り当てられませんでした。詳しくは、エラー・ログ・ファイルを検査してください。タイムアウトになって状態がクリアされるまで待機してから、aping コマンドを再試行します。

SECURITY_NOT_VALID

パートナー LU が、指定したユーザー ID またはパスワードを受け入れません。

TP_NAME_NOT_RECOGNIZED

パートナー LU が、指定した TP 名を認識しませんでした。

TRANS_PGM_NOT_AVAIL_NO_RETRY

リモート LU は、要求されたパートナー TP を開始できないため、割り当て要求をリジェクトしました。この原因となる状態は、永続的なものです。エラーの原因がリモート・ノードのログに記録されている可能性があります。エラーの原因が訂正されるまで、aping コマンドを再試行しないでください。

TRANS_PGM_NOT_AVAIL_RETRY

リモート LU は、要求されたパートナー TP を開始できないため、割り当て要求をリジェクトしました。この原因となる状態は、タイムアウトなどの一時的なものです。エラーの原因がリモート・ノードのログに記録されている可能性があります。タイムアウトになって状態がクリアされるまで待機してから、aping コマンドを再試行します。

sense_data

secondary_rc パラメーターが ALLOCATION_FAILURE_NO_RETRY に設定されている場合、このパラメーターには、エラーに関連した SNA センス・データが含まれます。その他の値が *secondary_rc* に設定されている場合、このパラメーターは戻されません。

primary_rc

CONV_FAILURE_NO_RETRY

セッション・プロトコル・エラーなどの永続的な状態が原因で、パートナー TP との APPC 会話が終了しました。エラー・ログ・ファイルを検査して、エラーの原因を判別します。エラーが訂正されるまで、aping コマンドを再試行しないでください。

primary_rc

CONV_FAILURE_RETRY

一時的なエラーが原因で、パートナー TP との APPC 会話が終了しました。aping コマンドを再試行してください。問題が再度発生する場合は、エラー・ログ・ファイルを検査してエラーの原因を判別します。

primary_rc**DEALLOC_ABEND**

エラー状態のため、パートナー TP が APPC 会話を割り当て解除しました。エラーの原因は、リモート・ノード上のログに記録されている可能性があります。

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

change_session_limit

change_session_limit コマンドは、特定の LU-LU モードの組み合わせに対するセッション限度を変更するように CS/AIX に要求します。セッションは、このコマンドの処理によって活動化または活動停止されます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

Supplied parameters

Parameter name	Type	Length	Default
[change_session_limit]			
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
plu_alias	character	8	(null string)
fqplu_name	character	17	(null string)
mode_name	character	8	
set_negotiable	constant		NO
plu_mode_session_limit	decimal		
min_conwinners_source	decimal		0
min_conwinners_target	decimal		0
auto_act	decimal		0
responsible	constant		SOURCE

Supplied parameters are:

lu_name

LU name of the local LU. This name is a type-A character string. To indicate that the LU is defined by its LU alias instead of its LU name, do not specify this parameter.

lu_alias

LU alias of the local LU. This alias is a character string using any locally displayable characters. It is used only if *lu_name* is not specified.

If *lu_name* and *lu_alias* are not specified, the command is forwarded to the LU associated with the CP (the default LU).

plu_alias

LU alias of the partner LU. This alias is a character string using any locally displayable characters. To indicate that the partner LU is defined by its fully qualified LU name instead of its LU alias, do not specify this parameter.

fqplu_name

Fully qualified name of the partner LU. Specify 3-17 type-A characters that consist of a 1-8 character network name, followed by a period, followed by a 1-8 character partner LU name.

This parameter is used only if the *plu_alias* parameter is not specified; it is ignored if *plu_alias* is specified.

mode_name

Name of the mode to be used by the LUs. This name is a type-A character string starting with a letter.

set_negotiable

Specifies whether the maximum negotiable session limit for this mode, as defined by *define_mode*, should be modified. Possible values are:

change_session_limit

YES

Use the value specified by *plu_mode_session_limit* as the maximum negotiable session limit for this LU-LU-mode combination.

NO

Leave the maximum negotiable session limit as the value specified for the mode.

plu_mode_session_limit

Requested total session limit for this LU-LU-mode combination - the maximum number of parallel sessions allowed between these two LUs using this mode. This value can be negotiated with the partner LU. Specify a value in the range 1-32,767 (which must not exceed the session limit specified for the local LU on the *define_local_lu* command). To specify a value of 0 (zero) use the *reset_session_limit* command.

min_conwinners_source

Minimum number of sessions using this mode for which the local LU is the contention winner. The sum of the *min_conwinners_source* and *min_conwinners_target* parameters must not exceed the *plu_mode_session_limit* parameter. Specify a value in the range 0-32,767.

min_conwinners_target

Minimum number of sessions using this mode for which the partner LU is the contention winner. The sum of the *min_conwinners_source* and *min_conwinners_target* parameters must not exceed the *plu_mode_session_limit* parameter. Specify a value in the range 0-32,767.

auto_act

Number of sessions to activate automatically after the session limit is changed. The actual number of automatically activated sessions is the minimum of this value and the negotiated minimum number of contention winner sessions for the local LU. When sessions are deactivated normally (specifying *DEACT_NORMAL* for the *type* parameter on *deactivate_session*) this limit, new sessions are activated up to this limit. Specify a value in the range 0-32,767 (which must not exceed the *plu_mode_session_limit* parameter or the session limit specified for the local LU on the *define_local_lu* command).

responsible

Indicates whether the local LU or partner LU is responsible for deactivating sessions after the session limit is changed. Possible values are:

SOURCE

The local LU is responsible for deactivating sessions after the session limit has been changed.

TARGET

The partner LU is responsible for deactivating sessions after the session limit has been changed.

戻りパラメーター

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

primary_rc

OK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

AS_NEGOTIATED

セッション限度は変更されましたが、1つ以上の値がパートナー LU で折衝されています。

AS_SPECIFIED

セッション限度は、パートナー LU で折衝されなくて、要求どおりに変更されました。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

EXCEEDS_MAX_ALLOWED

plu_mode_session_limit、*min_conwinners_source*、*min_conwinners_target*、または *auto_act* パラメーターが、有効範囲外の値に設定されています。

CANT_CHANGE_TO_ZERO

plu_mode_session_limit パラメーターは、このコマンドを使用して 0 (ゼロ) に設定することはできません。代わりに *reset_session_limit* コマンドを使用してください。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーターが、定義済みのローカル LU 別名と一致しません。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターが、定義済みのローカル LU 名と一致しません。

INVALID_MODE_NAME

mode_name パラメーターが、定義済みのモード名と一致しません。

INVALID_PLU_NAME

fqplu_name パラメーターが、定義済みのパートナー LU 名と一致しません。

INVALID_RESPONSIBLE

responsible パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_SET_NEGOTIABLE

set_negotiable パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態チェック

状態エラーが原因でコマンドが実行されない場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
状態検査

secondary_rc

モードのリセット

この LU - LU モードの組み合わせに対して現在アクティブなセッションはありません。変更セッション限度の代わりに初期セッション限度を指定すると、制限が指定の使用

その他の状態

その他の状態が原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
ALLOCATION_ERROR

secondary_rc

ALLOCATION_FAILURE_NO_RETRY

処理が必要な状態のため、セッションが割り当てられませんでした。*sense_data* パラメーターとログに記録されたメッセージを検査して障害の原因を判別し、必要な処理を行ってください。正しい状態に戻るまで、コマンドを再試行しないでください。

sense_data

secondary_rc パラメーターが ALLOCATION_FAILURE_NO_RETRY に設定されている場合、このパラメーターには、エラーに関連した SNA センス・データが含まれます。その他の値が *secondary_rc* に設定されている場合、このパラメーターは戻されません。

primary_rc**CONV_FAILURE_NO_RETRY**

処理が必要な状態のため (構成のミスマッチやセッション・プロトコル・エラーなど)、セッション限度は初期化されませんでした。CS/AIX ログ・ファイルでエラー状態に関する情報を確認し、訂正を行ってからコマンドを再試行します。

primary_rc

CNOS_PARTNER_LU_REJECT

secondary_rc**CNOS_COMMAND_RACE_REJECT**

セッションの活動化や非活動化、またはセッション限度の処理を行うために別の管理プログラムが (または CS/AIX ソフトウェアによって内部的に) 指定したモードにアクセスしているため、コマンドが失敗しました。コマンドを再試行してください。

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

deactivate_conv_group

deactivate_conv_group コマンドは、指定した APPC 会話グループに対応するセッションを非活動化するように CS/AIX に要求します。このコマンドはコマンド行管理プログラム内で使用可能ですが、会話グループで識別されるセッションを非活動化するには、通常、APPC TP 内から NOF の verb、DEACTIVATE_CONV_GROUP を使用して行います。APPC の verb、[MC_]ALLOCATE、[MC_]GET_ATTRIBUTES、および RECEIVE_ALLOCATE によって、会話グループ ID が戻されます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[deactivate_conv_group]			
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
conv_group_id		decimal	
type		constant	DEACT_NORMAL
sense_data		hex number	4 0x0

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU 名ではなく LU 別名によって LU が定義されていることを示す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

lu_alias

ローカル LU の LU 別名。この別名は、ローカルの表示可能文字を使用する文字ストリングです。このパラメーターは、lu_name を指定しない場合にのみ使用します。

lu_name および lu_alias が指定されていない場合、このコマンドは、CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU に転送されます。

conv_group_id

非活動化するセッションの会話グループ ID。

type

非活動化のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

DEACT_CLEANUP

パートナー LU からの応答を待機せずに、即時にセッションを非活動化します。

DEACT_NORMAL

セッションを使用するすべての会話が終了するまでセッションは非活動化されません。

sense_data

type が DEACT_CLEANUP に設定されている場合、*sense_data* パラメーターは、セッションを非活動化するときに使用するセンス・データを指定します (0x84000007 のように 0x から始まる 4 バイトの 16 進数で指定します)。それ以外の場合は、このパラメーターは使用されません。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

DEACT_CG_INVALID_CGID

conv_group_id パラメーターが、有効な会話グループ ID に一致しません。

INVALID_CLEANUP_TYPE

type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーターが、定義済みの LU 別名と一致しません。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターが、定義済みの LU 名と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

deactivate_lu_0_to_3

`deactivate_lu_0_to_3` コマンドは、3270 エミュレーションや LUA (タイプ 0、1、2、または 3 の LU) で使用するために特定の LU のセッションを非活動化するように CS/AIX に要求します。CS/AIX は PLU-SLU セッションについて、TERM_SELF メッセージをホストへ送信することによって、セッションを非活動化します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[deactivate_lu_0_to_3] lu_name	character	8	

指定パラメーターは、以下のとおりです。

deactivate_session

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターが、定義済みの LU 名と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

deactivate_session

deactivate_session コマンドは、特定のローカル LU/モード/パートナー LU の組み合わせを使用する 1 つ以上のセッションを非活動化するように CS/AIX に要求します。

ローカル LU/モード/パートナー LU の組み合わせを識別するには、以下のように指定します。

- *lu_name* または *lu_alias* パラメーターのいずれかを使用してローカル LU を指定する。パラメーターを指定しない場合は、CP (デフォルト LU) に関連した LU が使用されます。
- モードを指定する。
- *fqplu_name* または *plu_alias* パラメーターのいずれかを使用してリモート LU を指定する。

指定したローカル LU/モード/パートナー LU の組み合わせを使用して特定のセッションを非活動化するには、そのセッション ID を指定します。セッション ID を指定しない場合、指定したローカル LU/モード/パートナー LU を使用するすべてのセッションが非活動化されます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[deactivate_session]			
<i>lu_name</i>	character	8	(null string)
<i>lu_alias</i>	character	8	(null string)
<i>session_id</i>	hex number	8	0x0
<i>plu_alias</i>	character	8	(null string)
<i>mode_name</i>	character	8	

type	constant	DEACT_NORMAL
sense_data	hex number	0x0
fqplu_name	character	17 (null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU 名ではなく LU 別名によって LU が定義されていることを示す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

lu_alias

ローカル LU の LU 別名。この別名は、ローカルの表示可能文字を使用する文字ストリングです。このパラメーターは、*lu_name* を指定しない場合にのみ使用します。

lu_name および *lu_alias* が指定されていない場合、このコマンドは、CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU に転送されます。

session_id

非活動化するセッションの 8 バイトの ID。このパラメーターを指定しない場合、CS/AIX は LU-MODE-LU の組み合わせのすべてのセッションを非活動化します。

指定したセッション ID がアクティブ・セッションのセッション ID と一致しない (セッションが既に非活動化されている) 場合、エラー・コードは戻されません。

plu_alias

パートナー LU の LU 別名。この別名は、ローカルの表示可能文字を使用する文字ストリングです。LU 別名ではなく完全修飾 LU 名によってパートナー LU が定義されることを指示する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

mode_name

LU が使用するモードの名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

type

非活動化のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

DEACT_CLEANUP

パートナー LU からの応答を待機せずに、即時にセッションを非活動化します。

DEACT_NORMAL

セッションを使用するすべての会話が終了するまでセッションは非活動化されません。

sense_data

type が DEACT_CLEANUP に設定されている場合、*sense_data* パラメーターは、セッションを非活動化するときに使用するセンス・データを指定します (0x84000007 のように 0x から始まる 4 バイトの 16 進数で指定します)。それ以外の場合は、このパラメーターは使用されません。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

このパラメーターは、*plu_alias* パラメーターが指定されていない場合にのみ使用します。*plu_alias* が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

define_adjacent_len_node

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_CLEANUP_TYPE

type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーターが、定義済みの LU 別名と一致しません。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターが、定義済みの LU 名と一致しません。

INVALID_MODE_NAME

mode_name パラメーターが、定義済みのモード名と一致しません。

INVALID_PLU_NAME

fqplu_name パラメーターが、定義済みのパートナー LU 名と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_adjacent_len_node

`define_adjacent_len_node` は、隣接 LEN ノードと関連 LU のノード・ディレクトリー・データベースにエントリーを追加するか、または以前定義した LEN ノードの追加の LU エントリーを追加します。

このコマンドは、LEN ノードと関連 LU の一連の `define_directory_entry` コマンドに相当します。このコマンドを使用すると、1つのコマンドで簡単に LEN ノードの構成を定義できます。このコマンドで作成されたディレクトリー・エントリーを照会するには、`query_directory_entry` を使用します。

LEN ノードのサーバーとして動作するネットワーク・ノードに対してこのコマンドを発行した場合、LEN ノードのリソースがネットワーク・ノードのディレクトリー・データベースに追加されます。つまり、ネットワーク・ノードは、これらのリソースに関するネットワーク検索に応答できるため、ネットワーク全体からアクセス可能になります。

コマンドをエンド・ノードに対して発行した場合、LEN ノードのリソースはこのエンド・ノードに対してのみアクセス可能になります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_adjacent_len_node]			
cp_name	character	17	
description	character	31	(null string)
lu_name	character	8	
wildcard_lus	constant		NO

(*lu_name* エントリーは、10 個まで含めることができます。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

cp_name

隣接 LEN エンド・ノードの CP の完全修飾名。この名前は、LEN ノードが XID で送信する名前 (LEN ノードが XID をサポートしている場合)、および LEN ノードへのリンクに対して `define_ls` コマンドで指定されている隣接 CP 名と一致している必要があります。

1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字を指定します。

description

テキスト・ストリング (0 から 31 文字の後に、隣接ノードを表すヌル文字)。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、`query_directory_entry` コマンドで戻されます。

lu_name

LEN ノードで定義されている LU の名前。完全修飾 LU 名の 2 番目の部分に対応する 1 から 8 文字のタイプ A の文字を指定します (完全修飾名の最初の部分は、`cp_name` パラメーターで定義されています)。

隣接ノードに 10 以上の LU を定義するには、同じ CP 名に対して `define_adjacent_len_node` コマンドを複数回指定します。

LEN ノードの制御点に関連した LU (CP LU またはデフォルト LU) を定義するには、`cp_name` パラメーターでノードの完全修飾 CP 名を指定し、この名前の「ネットワーク名」の部分 (ピリオドの後の 8 文字) を LU 名の 1 つとして指定します。

「ワイルドカード」LU 名を指定すると、名前の先頭の数文字だけを指定して複数の LU 名に一致するようになります。例えば、ワイルドカード LU 名 LU は、LUNAME または LU01 と一致します (NAMELU には一致しません)。ただし、1 つのコマンドで指定したすべての LU 名は、`wildcard_lus` パラメーターで定義されているものと同じタイプ (ワイルドカードか明示的に指定したもの) である必要があります。同じ隣接ノードに両方のタイプの LU 名を追加するには、`define_adjacent_len_node` コマンドを複数回指定します。

wildcard_lus

指定した LU 名がワイルドカード・エン트리であるか明示的な LU 名であることを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

指定した LU 名はワイルドカード・エン트리です。

NO

指定した LU 名は明示的なエン트리です。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_CP_NAME

`cp_name` パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_LU_NAME

指定した LU 名の 1 つ以上に無効な文字が含まれています。

INVALID_WILDCARD_NAME

`wildcard_lus` パラメーターが YES に設定されていますが、指定した LU 名の 1 つ以上が、別の親ノードですでに定義されています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_CP_NAME

cp_name パラメーターで指定した CP 名がディレクトリー・エントリーですでに定義されており、LEN ノードではありません。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターで指定された LU 名の 1 つ以上が、別の親ノードですでに定義されています。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_cn

define_cn コマンドは、接続ネットワーク (仮想ルーティング・ノード (VRN) とも呼ばれます) を定義します。このコマンドにより、接続ネットワークのネットワーク修飾名、およびその伝送グループ (TG) 特性を指定します。また、この接続ネットワークにアクセス可能なローカル・ポート名のリストも指定します。

このコマンドを使用すると、既存の接続ネットワークに新規ポートを追加することもできます。(既存の接続ネットワークからポートを除去するには、delete_cn を発行します。)

このコマンドは、ネットワーク・ノードまたはエンド・ノードでのみ有効で、LEN ノードでは無効となります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_cn]			
fqcn_name	character	17	
description	character	32	(null string)
effect_cap	decimal		3686400
connect_cost	decimal		0
byte_cost	decimal		0
security	constant		SEC_NONSECURE
prop_delay	constant		PROP_DELAY_LAN
user_def_parm_1	decimal		0
user_def_parm_2	decimal		0
user_def_parm_3	decimal		0
ipv6_addr_only	constant		NO
port_name	character	8	(null string)

(1 から 239 の *port_name* エントリーを含めることができます。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

fqcn_name

接続ネットワークの完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の接続ネットワーク名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

description

接続ネットワークについて説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_cn コマンドで戻されます。

effect_cap

回線速度を表す 10 進数値 (ビット/秒 (bps) 単位)。

connect_cost

接続時間あたりのコスト。有効値は、0 から 255 の範囲の整数値です。ここで、0 は接続時間あたりの最小コスト、255 は接続時間あたりの最大コストです。

byte_cost

バイトあたりのコスト。有効値は、0 から 255 の範囲の整数値です。ここで、0 はバイトあたりの最小コスト、255 はバイトあたりの最大コストです。

security

ネットワークのセキュリティー・レベル。可能な値は次のいずれかです。

SEC_NONSECURE

セキュリティーなし。

SEC_PUBLIC_SWITCHED_NETWORK

データは公衆交換網を介して伝送されます。

SEC_UNDERGROUND_CABLE

データはセキュアな地下ケーブルを介して伝送されます。

SEC_SECURE_CONDUIT

データは、保護されていないセキュア・コンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_GUARDED_CONDUIT

データは、物理的な盗聴から保護されているコンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_ENCRYPTED

データは、回線を介して伝送される前に暗号化されます。

SEC_GUARDED_RADIATION

データは、物理的な盗聴および漏えい波盗聴から保護されている回線を介して伝送されます。

prop_delay

伝搬遅延。シグナルが接続回線を伝送されるのにかかる時間です。接続回線のタイプに応じて、以下のいずれかの値を指定します。

PROP_DELAY_MINIMUM

伝搬遅延の最小値。

PROP_DELAY_LAN

0.5 マイクロ秒未満の遅延 (LAN の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_TELEPHONE

0.5 から 50 マイクロ秒の範囲の遅延 (電話回線の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET

50 から 250 マイクロ秒の遅延 (パケット交換ネットワークの場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_SATELLITE

250 マイクロ秒より長い遅延 (衛星中継の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_MAXIMUM

伝搬遅延の最大値。

user_def_parm_1 から user_def_parm_3

上記のパラメーターによってカバーされないその他の特性を組み込むために使用できるユーザー定義パラメーター。これらの各パラメーターは、0 から 255 の範囲の値に設定する必要があります。

ipv6_addr_only

HPR/IP の IPv6 ネットワークに接続ネットワークを定義する場合に、このパラメーターは接続ネットワークの IP アドレッシングが IPv6 DNS 名のみを使用するか IPv6 アドレスのみを使用するかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

接続ネットワークの IP アドレッシングは IPv6 アドレスのみを使用します。

NO

接続ネットワークの IP アドレッシングは IPv6 DNS 名のみを使用します。

port_name

接続ネットワークで定義されているポート名の配列。各ポート名は、以前定義したポートの名前と一致する、ローカルで表示可能な文字で構成される 8 バイトのストリングです。ポート・タイプは接続ネットワークをサポートするネットワーク・タイプ (イーサネット、トークンリング、Enterprise Extender) でなければなりません。

fqcn_name パラメーターが既存の接続ネットワークを識別している場合、新規ポートはこの既存の接続ネットワークに追加されます (この場合、接続ネットワークですでに定義されている ポートを変更しません)。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

DEF_LINK_INVALID_SECURITY

security パラメーターが、有効な値のいずれかに設定されていません。

EXCEEDS_MAX_ALLOWED

指定したポートを追加すると、CN のポートの最大合計数を超えます。

INVALID_CN_NAME

fqcn_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

INVALID_PORT_NAME

指定したポート名の 1 つ以上が、定義済みポートの名前と一致しません。

INVALID_PORT_TYPE

指定した 1 つ以上のポートは、DLC タイプがネットワーク・タイプではなく Point-to-Point タイプ (SDLC など) であるため、CN 上に存在できません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc**PORT_ACTIVE**

port_name パラメーターで指定したポートは、現在活動状態であるため変更できません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ローカル・ノードは LEN ノードです。このコマンドは、ネットワーク・ノードまたはエンド・ノードでのみ有効です。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_cos

define_cos コマンドは、サービス・クラス (COS) 定義を追加するか、または以前定義した COS を変更します。定義では、TG の「行」とノードの「行」が指定され、これにより、ノードと TG の特性の範囲が、経路計算に使用される重みと関連付けられます。重みが小さくなればなるほど、経路は順調になります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_cos] cos_name		character	8
description		character	31 (null string)
transmission_priority		constant	LOW

{cos_tg_row}			
min_effect_cap		decimal	0
min_connect_cost		decimal	0
min_byte_cost		decimal	0
min_security		constant	SEC_NONSECURE
min_prop_delay		constant	PROP_DELAY_LAN
min_user_def_parm_1		decimal	0
min_user_def_parm_2		decimal	0
min_user_def_parm_3		decimal	0
max_effect_cap		hex	1 0xFF
max_connect_cost		decimal	255
max_byte_cost		decimal	255
max_security		constant	SEC_GUARDED_RADIATION
max_prop_delay		constant	PROP_DELAY_MAXIMUM
max_user_def_parm_1		decimal	0
max_user_def_parm_2		decimal	0
max_user_def_parm_3		decimal	0
weight		decimal	

(最大 8 個の cos_tg_row サブレコードを重みの昇順で含めることができます。)

{cos_node_row}			
min_rar		decimal	0
min_status		constant	UNCONGESTED
max_rar		decimal	255
max_status		constant	CONGESTED
weight		decimal	

(最大 8 個の cos_node_row サブレコードを重みの昇順で含めることができます。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

cos_name

サービス・クラス名。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

description

COS について説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_cos コマンドで戻されます。

transmission_priority

伝送優先順位。可能な値は次のいずれかです。

LOW

この COS を使用するセッションは優先順位が低くなります。

MEDIUM

この COS を使用するセッションは優先順位が中程度となります。

HIGH

この COS を使用するセッションは優先順位が高くなります。

NETWORK

この COS を使用するセッションは優先順位が最高となります。

以下のサブレコードには、追加パラメーターが含まれています。

cos_tg_row

各 TG 行には、最小の TG 特性のセットと最大の TG 特性のセット、および重みが含まれています。TG の重みを計算する場合、各 TG 行で定義されている最小特性と最大特性に照らしてその特性が検査されます。次に、すべての TG 特性を指定した限度内に制限する最初の TG 行の重みが TG に割り当てられます。TG 特性が、リストされている TG 行のいずれにも適合しない場合、この TG はこの COS に不適当であり、無限の重みが割り当てられます。TG 行は、重みの昇順でリストされている必要があります。

追加パラメーターは、以下のとおりです。

min_effect_cap

実際のビット/秒 (bps) (回線速度) の最小限度。

min_connect_cost

接続時間あたりのコストの最小限度。有効値は、0 から 255 の範囲の整数値です。ここで、0 は接続時間あたりの最小コスト、255 は接続時間あたりの最大コストです。

min_byte_cost

バイトあたりのコストの最小限度。有効値は、0 から 255 の範囲の整数値です。ここで、0 はバイトあたりの最小コスト、255 はバイトあたりの最大コストです。

min_security

セキュリティの最低レベル。可能な値は次のいずれかです。

SEC_NONSECURE

データは非セキュア・ネットワークを介して伝送されます。

SEC_PUBLIC_SWITCHED_NETWORK

データは公衆交換網を介して伝送されます。

SEC_UNDERGROUND_CABLE

データはセキュアな地下ケーブルを介して伝送されます。

SEC_SECURE_CONDUIT

データは、保護されていないセキュア・コンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_GUARDED_CONDUIT

データは、物理的な盗聴から保護されているコンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_ENCRYPTED

データは、回線を介して伝送される前に暗号化されます。

SEC_GUARDED_RADIATION

データは、物理的な盗聴および漏えい波盗聴から保護されている回線を介して伝送されます。

min_prop_delay

伝搬遅延 (シグナルがリンクの長さを進むのにかかる時間) の最小限度。接続回線のタイプに応じて、以下のいずれかの値を指定します。

PROP_DELAY_MINIMUM

伝搬遅延の最小値。

PROP_DELAY_LAN

0.5 マイクロ秒未満の遅延 (LAN の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_TELEPHONE

0.5 から 50 マイクロ秒の範囲の遅延 (電話回線の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET

50 から 250 マイクロ秒の遅延 (パケット交換ネットワークの場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_SATELLITE

250 マイクロ秒より長い遅延 (衛星中継の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_MAXIMUM

伝搬遅延の最大値。

min_user_def_parm_1* から *min_user_def_parm_3

上記のパラメーターによってカバーされない TG 特性を組み込むために使用できる ユーザー定義パラメーターの最小限度。これらの各パラメーターは、0 から 255 の範囲の値に設定する必要があります。

max_effect_cap

実際のビット/秒 (bps) (回線速度) の最大限度。0 から 603,979,776,000 の範囲内で値を指定します。

max_connect_cost

接続時間あたりのコストの最大限度。有効値は、0 から 255 の範囲の整数値です。ここで、0 は接続時間あたりの最小コスト、255 は接続時間あたりの最大コストです。

max_byte_cost

バイトあたりのコストの最大限度。有効値は、0 から 255 の範囲の整数値です。ここで、0 はバイトあたりの最小コスト、255 はバイトあたりの最大コストです。

max_security

セキュリティの最高レベル。可能な値は次のいずれかです。

SEC_NONSECURE

データは非セキュア・ネットワークを介して伝送されます。

SEC_PUBLIC_SWITCHED_NETWORK

データは公衆交換網を介して伝送されます。

SEC_UNDERGROUND_CABLE

データはセキュアな地下ケーブルを介して伝送されます。

SEC_SECURE_CONDUIT

データは、保護されていないセキュア・コンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_GUARDED_CONDUIT

データは、物理的な盗聴から保護されているコンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_ENCRYPTED

データは、回線を介して伝送される前に暗号化されます。

SEC_GUARDED_RADIATION

データは、物理的な盗聴および漏えい波盗聴から保護されている回線を介して伝送されます。

max_prop_delay

伝搬遅延 (シグナルがリンクの長さを進むのにかかる時間) の最大限度。接続回線のタイプに応じて、以下のいずれかの値を指定します。

PROP_DELAY_MINIMUM

伝搬遅延の最小値。

PROP_DELAY_LAN

0.5 マイクロ秒未満の遅延 (LAN の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_TELEPHONE

0.5 から 50 マイクロ秒の範囲の遅延 (電話回線の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET

50 から 250 マイクロ秒の遅延 (パケット交換ネットワークの場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_SATELLITE

250 マイクロ秒より長い遅延 (衛星中継の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_MAXIMUM

伝搬遅延の最大値。

max_user_def_parm_1 から max_user_def_parm_3

上記のパラメーターによってカバーされない TG 特性を組み込むために使用できる ユーザー定義パラメーターの最大限度。これらの各パラメーターは、0 から 255 の範囲の値に設定する必要があります。

weight

この TG 行に関連付けられた重み。

以下のサブレコードには、追加パラメーターが含まれています。

cos_node_row

各ノード行には、最小ノード特性セットと最大ノード特性セット、および重みが含まれます。あるノードの重みを計算する場合、そのノードの特性が各ノード行に定義された最小と最大の特性に突き合わせて検査されます。そのあと、ノードに、すべてのノードの特性を指定した限度内に制限する、最初のノード行の重みが割り当てられます。ノード特性が、リストされているノード行のいずれにも適合しない場合、このノードはこの COS に不適当であると見なされ、無限の重みが割り当てられます。ノード行は、重みの昇順でリストされている必要があります。

追加パラメーターは、以下のとおりです。

min_rar

最小経路追加抵抗 (RAR) を指定します。0 から 255 の範囲内の値を指定します。

min_status

ノードの最小輻輳ステータスを指定します。可能な値は次のいずれかです。

UNCONGESTED

ISR セッション数が、ノードの構成の *isr_sessions_upper_threshold* 値より小さい値になります。

CONGESTED

ISR セッション数が、*isr_sessions_upper_threshold* 値を超えています。

max_rar

最大経路追加抵抗 (RAR) を指定します。0 から 255 の範囲内の値を指定します。

max_status

ノードの最大輻輳ステータスを指定します。可能な値は次のいずれかです。

UNCONGESTED

ISR セッション数が、ノードの構成の *isr_sessions_upper_threshold* 値より小さい値になります。

CONGESTED

ISR セッション数が、*isr_sessions_upper_threshold* 値を超えています。

weight

このノード行に関連付けられた重み。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_COS_NAME
`cos_name` パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_NUMBER_OF_NODE_ROWS
指定したノード行の数が多すぎます。

INVALID_NUMBER_OF_TG_ROWS
指定した TG 行の数が多すぎます。

NODE_ROW_WGT_LESS_THAN_LAST
ノード行が重みの昇順でリストされていません。

TG_ROW_WGT_LESS_THAN_LAST
TG 行が重みの昇順でリストされていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
COS_TABLE_FULL
ノードに許可されている COS 定義の最大数を超えるため、新規 COS を定義することができません (`define_node` コマンドの `cos_cache_size` パラメーターで指定されます)。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_cplic_side_info

`define_cplic_side_info` コマンドは、サイド情報エントリーを構成ファイルに追加するか、または既存のエントリーを置き換えます。CPI-C サイド情報エントリーによって、会話特性のセットにシンボリック宛先名が割り当てられます。

CPI-C サイド情報エントリーはドメイン・リソースとして定義されているため、このコマンドは特定のノードに関連付けられていません。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_cplic_side_info]			
sym_dest_name	character	8	
description	character	31	(null string)
partner_lu_name	character	17	(null string)
tp_name_type	constant		APPLICATION_TP
tp_name	character	64	(null string)
mode_name	character	8	(null string)
conversation_security_type	constant		NONE
security_user_id	character	10	(null string)
security_password	character	10	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)

define_cplic_side_info

指定パラメーターは、以下のとおりです。

sym_dest_name

サイド情報エントリーを識別するシンボリック宛先名。この名前には、任意の表示可能文字を含めることができます。

description

サイド情報エントリーについて説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、`query_cplic_side_info` コマンドで戻されます。

partner_lu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

tp_name_type

ターゲット TP のタイプ (TP 名の有効な文字は、TP タイプによって決定されます)。可能な値は次のいずれかです。

APPLICATION_TP

アプリケーション TP。TP 名のすべての文字は、有効な ASCII 文字である必要があります。

SNA_SERVICE_TP

サービス TP。TP 名は、4 文字の名前を 8 つの 16 進数字で表す 16 進配列で指定する必要があります (例えば、21F0F0F8)。最初の文字 (2 つの 16 進数字で表される) は、0E と 0F を除く 00 から 3F の範囲内の 16 進値である必要があります。残りの文字 (2 つの 16 進数字で表される) は、有効な EBCDIC 文字である必要があります。

tp_name

ターゲット TP の TP 名。

mode_name

ターゲット TP にアクセスするために使用するモードの名前。

conversation_security_type

ターゲット TP が会話セキュリティーを使用するかどうかを指定します。許可されている値は、以下のとおりです。

NONE

ターゲット TP は会話セキュリティーを使用しません。

PROGRAM

ターゲット TP は会話セキュリティーを使用します。ターゲット TP にアクセスする場合、`security_user_id` および `security_password` パラメーターが使用されます。

PROGRAM_STRONG

ターゲット TP は会話セキュリティーを使用します。ターゲット TP にアクセスする場合、`security_user_id` および `security_password` パラメーターが使用されます。ただし、ローカル・ノードは、ネットワークを介して平文フォーマットのパスワードを送信することができません。この方法は、リモート・システムがパスワード置換をサポートしている場合にのみ使用することができます。

SAME

ターゲット TP は、会話セキュリティーを使用し、ローカル TP からの「検査済み」インジケータを受け入れます (この値は、ローカル TP が別の TP によって起動され、ローカル TP がこの TP によって提供されたセキュリティー・ユーザー ID とパスワードを検証済みであることを示します)。ターゲット TP にアクセスする場合、`security_user_id` パラメーターが使用され、パスワードは要求されません。

security_user_id

パートナー TP にアクセスするために使用するユーザー ID。`conversation_security_type` パラメーターが NONE に設定されている場合、このパラメーターは必要ありません。

security_password

パートナー TP にアクセスするために使用するパスワード。このパラメーターは、`conversation_security_type` パラメーターが PROGRAM または PROGRAM_STRONG に設定されている場合にのみ必要となります。

lu_alias

ターゲット TP との通信に使用するローカル LU の別名。この別名は、ローカルの表示可能文字を使用する文字ストリングです。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_SYM_DEST_NAME

sym_dest_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_default_pu

define_default_pu コマンドは、CS/AIX 管理サービス・データを処理するためのデフォルトとなる PU を定義します。各ノードごとに 1 つのデフォルト PU のみを定義することができます。異なる PU 名の 2 番目の define_default_pu は、以前の定義をオーバーライドします。

define_default_pu コマンドを使用すると、ユーザーは、デフォルト PU の任意のフィールドを定義、再定義、または変更することができます。また、このコマンドは、ヌルの PU 名を指定することによって、ユーザーがデフォルト PU を削除できるようにします。

アプリケーションが PU 名を指定せずに MS API verb TRANSFER_MS_DATA を発行すると、データはローカル・ノードに定義されたデフォルト PU に経路指定され、この PU のセッションでホスト SSCP とのセッションが行われます。TRANSFER_MS_DATA について詳しくは、「*AIX または Linux MS プログラマーズ・ガイド*での *IBM Communications Server for Data Center デプロイメント*」を参照してください。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_default_pu] pu_name	character	8	
description	character	31	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

define_defaults

pu_name

デフォルト PU となる PU の名前。この定義を有効な定義にするには、この名前を LS 定義の一部としてすでに定義されている PU 名にする必要があります。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

デフォルト PU を削除するには、すべてをゼロに指定します。

description

PU について説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_default_pu コマンドで戻されます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_defaults

define_defaults コマンドは、ノードが使用するデフォルトのパラメーターを定義します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_defaults] description		character	31 (null string)
mode_name		character	8
implicit_plu_forbidden		constant	NO
specific_security_codes		constant	NO
limited_timeout		decimal	0

指定パラメーターは、以下のとおりです。

description

デフォルトのパラメーターについて説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_defaults コマンドで戻されます。

mode_name

デフォルト・モードの名前。セッションの開始を試行するときに、アプリケーションが認識されていないモード名を指定している場合、このモードのパラメーターが、認識されていないモードのデフォルトの定義として使用されます。

このモードは、SNA 定義モードまたは以前の `define_mode` コマンドで定義したモードのいずれかである必要があります。SNA 定義モードについて詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 管理ガイド*」を参照してください。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

implicit_plu_forbidden

CS/AIX が不明なパートナー LU に対して、暗黙的な定義を導入するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は、不明なパートナー LU について暗黙の定義をしていません。すべてのパートナー LU は、明示的に定義されなければなりません。

NO

CS/AIX は、不明なパートナー LU について暗黙の定義をしています。

specific_security_codes

CS/AIX がセキュリティ認証または許可障害に対して特定のセンス・コードを使用するかどうかを指定します。特定のセンス・コードは、セッションでそのサポートを報告しているパートナー LU にのみ戻されます。可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は、特定のセンス・コードを使用します。

NO

CS/AIX で特定のセンス・コードを使用しません。

limited_timeout

空き限定リソース同時勝者セッションが非活動化されるタイムアウトを指定します。0 から 65,535 秒の秒の範囲内の値を指定します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_MODE_NAME

mode_name パラメーターが、定義済みのモード名と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの追加の組み合わせがリストされています。

define_directory_entry

The `define_directory_entry` command defines a new entry in the node directory database. It provides a network qualified resource name along with a resource type (network node, end node, LU, or Wildcard). This command cannot be used to modify existing entries.

When defining an adjacent node and its LUs, use `define_adjacent_len_node` instead of `define_directory_entry`. This enables you to define the node and its LUs with a single command. The `define_directory_entry` command defines only a single entry, so you need to use multiple commands to define entries for the adjacent node and for its LUs.

You can specify a "wildcard" LU name to match multiple LU names by specifying only the initial characters of the name. For example, the wildcard LU name `APPN.LU` will match `APPN.LUNAME` or `APPN.LU01` (but will not match `APPN.NAME.LU`).

提供されるパラメーター

Parameter name [define_directory_entry]	Type	Length	Default
resource_name	character	17	
resource_type	constant		LU_RESOURCE
description	character	31	(null string)
parent_name	character	17	(null string)
parent_type	constant		ENCP_RESOURCE

提供されるパラメーター：

リソース名

登録されるリソースの完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のリソース名で構成される 3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。

リソース・タイプ

定義するリソースのタイプを指定します。可能な値は次のとおりです

ENCP_RESOURCE

エンド・ノード (EN) またはローエントリー・ネットワーキング (LEN) ノード

NNCP_リソース

ネットワーク・ノード (NN)

LU_RESOURCE

論理装置 (LU)

リソース・リソース (_R)

ワイルドカード LU 名

LU またはワイルドカード LU リソース・タイプを指定するには、その前にノード上の所有制御点 (CP) を定義する必要があります。

記述

ディレクトリー項目を記述するテキスト・ストリング。CS/AIX はこのストリングを情報にのみ使用します。これはノードの構成ファイルに保管され、`query_directory_entry` および `query_directory_lu` コマンド。に戻されます。

parent_name

親リソースの完全修飾名。LU の場合、親リソースは所有制御点であり、エンド・ノードまたは LEN ノードの場合はネットワーク・ノード・サーバーになります。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の親の名前で構成される 3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。

このパラメーターは、以下の場合には指定しないでください。

- ネットワーク・ノード CP を登録する場合。
- ローカル・ノードが直接通信する隣接 LEN ノード CP を定義するために、エンド・ノードまたは LEN ノードにコマンドが発行される場合。

parent_type

定義するリソースの親タイプを指定します。可能な値は次のとおりです

ENCP_RESOURCE

エンド・ノード (エンド・ノードによって所有される LU リソースの場合)

NNCP_リソース

ネットワーク・ノード (ネットワーク・ノードが所有する LU リソースの場合、または EN リソースまたは LEN リソースの場合)

親の名前を指定しない場合は、このパラメーターを指定しないでください。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_FQ_OWNING_CP_NAME

parent_name パラメーターは、定義済みの親リソースの名前と一致しません。

INVALID_LU_NAME

resource_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

INVALID_RESOURCE_TYPE

resource_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_WILDCARD_NAME

resource_type パラメーターは WILDCARD_LU_RESOURCE に設定されていますが、*resource_name* パラメーターにはワイルドカード・エントリーが含まれていません。

DUPLICATE

resource_name パラメーターに、すでに定義済みのワイルドカード・エントリーが含まれています。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_dlur_defaults

define_dlur_defaults コマンドは、デフォルトの 従属 LU サーバー (DLUS) およびバックアップ・デフォルト DLUS を定義します。デフォルト DLUS または バックアップ・デフォルト DLUS がすでに定義されている場合、コマンドは、既存の定義を上書きします。DLUR は、明示的に指定された 関連 DLUS が ない PU

define_dlur_defaults

に対して SSCP-PU 活動化を開始する場合、デフォルトの DLUS 名を使用します (PU とその関連 DLUS を定義するには、ローカル PU の場合は `define_internal_pu` を使用し、ダウンストリーム PU の場合は `define*_ls` (該当するリンク・タイプ) を使用します。)

また、このコマンドを使用すると、デフォルト DLUS またはバックアップ・デフォルト DLUS を取り消して、定義されないようにすることができます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_dlur_defaults] description		character 31	(null string)
dlus_name		character 17	
bkup_dlus_name		character 17	(null string)
dlus_retry_timeout		decimal	5
dlus_retry_limit		decimal	3

指定パラメーターは、以下のとおりです。

description

DLUR のデフォルトについて説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管されますが、CS/AIX は、このストリングを他の用途に使用しません。

dlus_name

デフォルトとして使用する DLUS ノードの名前。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の DLUS ノード名で構成される 3 から 17 のタイプ A の文字ストリングを指定します。デフォルト DLUS が定義されないように現在のデフォルト DLUS を取り消す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

bkup_dlus_name

バックアップ・デフォルトとして機能する DLUS ノードの名前。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のバックアップ DLUS ノード名で構成される 3 から 17 のタイプ A の文字ストリングを指定します。バックアップ・デフォルト DLUS が定義されないように現在のバックアップ・デフォルト DLUS を取り消す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

dlus_retry_timeout

`dlus_name` パラメーターと `bkup_dlus_name` パラメーターで指定した DLUS との接続を 2 回目以降に試みる場合の間隔 (秒単位)。1 回目の試行と 2 回目の試行の間隔は常に 1 秒です。

1 から 65,535 の範囲内で値を指定します。

dlus_retry_limit

DLUS への接続の再試行カウント。このパラメーターを使用して、CS/AIX が最初の試行で DLUS への接続に失敗した場合の再試行回数を指定します。

1 から 65,534 の範囲の値を指定するか、または DLUS に接続できるまで無制限に再試行することを CS/AIX に指示する場合は 65,535 を指定します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_DLUS_NAME

提供された *dlus_name* パラメーターに無効な文字が含まれているか、またはこのパラメーターの形式が正しくありません。

INVALID_BKUP_DLUS_NAME

提供された *bkup_dlus_name* パラメーターに無効な文字が含まれているか、またはこのパラメーターの形式が正しくありません。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ローカル・ノードは DLUR をサポートしません。このサポートは、`define_node` コマンドの `dlur_support` パラメーターで定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_domain_config_file

`define_domain_config_file` コマンドは、ドメイン構成ファイルのヘッダーに組み込むオプションのコメント・ストリングを指定します。テキスト・エディターを使用してドメイン構成ファイルを作成する場合、このコメント・ストリングをファイル内のレコードの先頭に配置する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_domain_config_file] comment		character	100 (null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

comment

ファイルに関する情報を含むオプションのコメント・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、`query_domain_config_file` コマンドで戻されます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_downstream_lu

define_downstream_lu コマンドは、新規ダウンストリーム LU を定義して、アップストリーム・ホスト LU または LU プールにマップします。これにより、ダウンストリーム LU は、CS/AIX の SNA ゲートウェイ機能を使用してホスト・コンピューターにアクセスすることができます。このコマンドは、既存のダウンストリーム LU を変更する場合には使用することができません。

このコマンドはすでに定義されているダウンストリーム LU を活動化する場合にも使用できます (例えば、ダウンストリーム・ワークステーションを活動化した直後など)。この場合、この LU に対して define_downstream_lu コマンドを再発行します。定義を変更することができないため、すべてのパラメーターは、元の定義内のパラメーターと同じである必要があります。

define_downstream_lu は、CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションと通信するアプリケーションによって使用されるダウンストリーム LU の定義にも使用できます。1 次 RUI について詳しくは、「IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux LUA プログラマーズ・ガイド」を参照してください。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_downstream_lu]			
dslu_name	character	8	
description	character	31	(null string)
nau_address	decimal		
dspu_name	character	8	
host_lu_name	character	8	
allow_timeout	constant		NO
delayed_logon	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

dslu_name

定義するダウンストリーム LU の名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

description

ダウンストリーム LU について説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_downstream_lu コマンドで戻されます。

nau_address

ダウンストリーム LU のネットワーク・アクセス可能単位 (NAU) アドレス。これは、1 から 255 の範囲でなければなりません。

dspu_name

define_*_ls で指定されている、この LU と関連付けられているダウンストリーム PU の名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

host_lu_name

ダウンストリーム LU が使用するホスト LU またはホスト LU プールの名前。この名前は、8 バイトのタイプ A の文字ストリングです。

SNA ゲートウェイの場合、ホスト LU には、従属 LU タイプ 6.2 を指定できません。ただし、ダウンストリーム LU が LU タイプ 6.2 である場合は、ホスト LU を LU タイプ 0 から 3 として構成し、ホスト LU のモデル・タイプを不明として指定できます。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合は、このフィールドにストリング #PRIRUI# を設定します。

allow_timeout

アップストリーム LU 定義で指定したタイムアウト期間セッションが非活動状態のままであった場合に、ダウンストリーム LU とアップストリーム LU 間のセッションのタイムアウトを許可するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

このダウンストリーム LU とアップストリーム LU とのセッションのタイムアウトを許可します。

NO

このダウンストリーム LU とアップストリーム LU とのセッションのタイムアウトを許可しません。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合、このフィールドは無視されます。

delayed_logon

このダウンストリーム LU で遅延ログオンを使用するかどうかを指定します (アップストリーム LU は、ユーザーが要求するまで活動化されません)。可能な値は次のいずれかです。

YES

このダウンストリーム LU で遅延ログオンを使用します。アップストリーム LU は、ユーザーが要求するまで活動化されません。

NO

このダウンストリーム LU で遅延ログオンを使用しません。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合、このフィールドは無視されます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_DNST_LU_NAME

提供された *dslu_name* パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_NAU_ADDRESS

提供された NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレスは有効範囲内にありません。

INVALID_ALLOW_TIMEOUT

提供された *allow_timeout* パラメーター値は無効です。

INVALID_DELAYED_LOGON

提供された *delayed_logon* パラメーター値は無効です。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PU_NAME

指定された *dspu_name* パラメーター値は無効です。

PU_NOT_DEFINED

指定された *dspu_name* パラメーターは、定義済み PU 名と一致しません。

INVALID_PU_TYPE

dspu_name パラメーターで指定された PU は、SNA ゲートウェイをサポートする ダウンストリーム PU ではありません。

LU_ALREADY_DEFINED

dslu_name パラメーターで指定された名前を持つ LU はすでに定義されており、このコマンドを使用して変更することができません。

DSL_ACTIVE

LU はすでに活動状態になっています。

LU_NAU_ADDR_ALREADY_DEFD

nau_address パラメーターで指定された NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレスを持つ LU は、すでに定義されています。

INVALID_HOST_LU_NAME

指定された *host_lu_name* パラメーター値は無効です。

LU_NAME_POOL_NAME_CLASH

指定された LU 名は、既存の LU プールの名前と一致しています。

PU_NOT_ACTIVE

dspu_name パラメーターで指定された PU は、現在活動状態にはありません。

LU_ALREADY_ACTIVATING

dslu_name パラメーターで指定された名前を持つ LU は、現在活動化中です。

LU_DEACTIVATING

dslu_name パラメーターで指定された名前を持つ LU は、現在非活動化中です。

LU_ALREADY_ACTIVE

dslu_name パラメーターで指定された名前を持つ LU は、すでに活動状態になっています。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc**FUNCTION_NOT_SUPPORTED**

ローカル・ノードは、SNA ゲートウェイをサポートしていません。このサポートは、*define_node* コマンドの *pu_conc_support* パラメーターで定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_downstream_lu_range

define_downstream_lu_range コマンドは、新規ダウンストリーム LU の範囲を定義して、アップストリーム・ホスト LU または LU プールにマップします。このコマンドは、既存のダウンストリーム LU を変更する場合には使用することができません。

提供されたパラメーターには、新規 LU のベース・ネームと NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレスの範囲が含まれています。LU ベース・ネームおよび NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレスを結合して、新規 LU 名を生成します。例えば、ベース・ネーム LUNME と 11 から 14 の範囲の NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレスを結合すると、LU 名 LUNME011、LUNME012、LUNME013、および LUNME014 となります。

define_downstream_lu_range は、CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションと通信するアプリケーションによって使用されるダウンストリーム LU の定義にも使用できます。1 次 RUI について詳しくは、「IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux LUA プログラマーズ・ガイド」を参照してください。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_downstream_lu_range]			
dslu_base_name	character	5	
description	character	31	(null string)
min_nau	decimal		1
max_nau	decimal		1
dspu_name	character	8	
host_lu_name	character	8	
allow_timeout	constant		NO
delayed_logon	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

dslu_base_name

新規 LU の名前のベース・ネーム。この名前は、文字から始まる 1 から 5 文字のタイプ A の文字ストリングです。CS/AIX は、NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレスの 3 桁の 10 進数値をベース・ネームに付加して、それぞれの LU の LU 名を生成します。

description

ダウンストリーム LU について説明するテキスト・ストリング。範囲内のそれぞれの LU に対して同じストリングが使用されます。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_downstream_lu コマンドで戻されます。

min_nau

1 から 255 の範囲内の、最初の LU の NAU アドレス。

max_nau

1 から 255 の範囲内の、最後の LU の NAU アドレス。

dspu_name

この範囲のダウンストリーム LU が使用するダウンストリーム PU の名前 (define_*_ls で指定されます。この場合、* は、LS タイプで置き換えられます)。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

host_lu_name

所定の範囲のダウンストリーム LU のマップ先となるホスト LU または ホスト LU プールの名前。この名前は、8 バイトのタイプ A の文字ストリングです。

define_downstream_lu_range

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合は、このフィールドにストリング #PRIRUI# を設定します。

allow_timeout

アップストリーム LU 定義で指定したタイムアウト期間セッションが非活動状態のままであった場合に、この範囲のダウンストリーム LU とアップストリーム LU 間のセッションのタイムアウトを許可するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

この範囲のダウンストリーム LU とアップストリーム LU とのセッションのタイムアウトを許可します。

NO

この範囲のダウンストリーム LU とアップストリーム LU とのセッションのタイムアウトを許可しません。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合、このフィールドは無視されます。

delayed_logon

この範囲のダウンストリーム LU で遅延ログオンを使用するかどうかを指定します (アップストリーム LU は、ユーザーが要求するまで活動化されません)。可能な値は次のいずれかです。

YES

この範囲のダウンストリーム LU で遅延ログオンを使用します。アップストリーム LU は、ユーザーが要求するまで活動化されません。

NO

この範囲のダウンストリーム LU で遅延ログオンを使用しません。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合、このフィールドは無視されます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_DNST_LU_NAME

提供された *dslu_base_name* パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_NAU_ADDRESS

min_nau パラメーター値、*max_nau* パラメーター値、または両方のパラメーター値が有効範囲内にありません。

INVALID_ALLOW_TIMEOUT

提供された *allow_timeout* パラメーター値は無効です。

INVALID_DELAYED_LOGON

提供された *delayed_logon* パラメーター値は無効です。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PU_NAME
指定された *dspu_name* パラメーター値は無効です。

PU_NOT_DEFINED
指定された *dspu_name* パラメーターは、定義済み PU 名と一致しません。

INVALID_PU_TYPE
dspu_name パラメーターで指定された PU は、SNA ゲートウェイをサポートする ダウンストリーム PU ではありません。

LU_ALREADY_DEFINED
範囲内の名前の 1 つと一致する名前を持つ LU がすでに定義されています。既存の LU は、このコマンドを使用して変更することはできません。

DSLU_ACTIVE
範囲内の名前の 1 つと一致する名前を持つ LU がすでに活動状態になっています。既存の LU は、このコマンドを使用して変更することはできません。

LU_NAU_ADDR_ALREADY_DEFD
範囲内のアドレスの 1 つと一致する NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレスを持つ LU がすでに定義されています。

INVALID_HOST_LU_NAME
指定された *host_lu_name* パラメーター値は無効です。

LU_NAME_POOL_NAME_CLASH
範囲内の LU 名の 1 つが、既存の LU プールの名前と一致しています。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
FUNCTION_NOT_SUPPORTED
ローカル・ノードは、SNA ゲートウェイをサポートしていません。このサポートは、*define_node* コマンドの *pu_conc_support* パラメーターで定義します。

secondary_rc
(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_dspu_template

define_dspu_template コマンドは、CS/AIX SNA ゲートウェイ機能を使用するダウンストリーム LU のテンプレートを定義します。このテンプレートは、ワークステーションが暗黙的なリンク (以前に定義されていないリンク) を介して接続する場合に、ダウンストリーム・ワークステーションのグループにダウンストリーム LU を定義するときに使用します。 .

define_dspu_template は、CS/AIX ノード上の 1 次 RUI アプリケーションと通信するアプリケーションをサポートするダウンストリーム LU の定義にも使用できます。1 次 RUI について詳しくは、「IBM

define_dspu_template

Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux LUA プログラマーズ・ガイド」を参照してください。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_dspu_template]			
template_name	character	8	
description	character	32	(null string)
modify_template	constant		REPLACE_DSPU_TEMPLATE
max_instance	decimal		0
{dslu_template}			
min_nau	decimal		
max_nau	decimal		
host_lu	character	8	
allow_timeout	constant		NO
delayed_logon	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

template_name

ダウンストリーム・ワークステーションのダウンストリーム LU のテンプレートの名前。

description

query_dspu_template コマンドに対して戻されるリソースの説明。

modify_template

このコマンドが、既存の DSPU テンプレートに追加の DSLU テンプレートを追加するか、または既存の DSPU テンプレートを置き換えるかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

MODIFY_DSPU_TEMPLATE

指定した DSPU テンプレートが存在しない場合、このテンプレートを作成します。指定した DSPU テンプレートが存在する場合、このコマンドに指定した DSLU テンプレートを、既存の DSPU テンプレートに追加します。

REPLACE_DSPU_TEMPLATE

新規テンプレートを作成します。この場合、既存の定義があるときは上書きされます。

max_instance

同時に活動状態にすることができる、テンプレートのインスタンスの最大数。限度に達すると、新規インスタンスが作成されなくなります。0 から 65,535 の範囲で値を指定します。0 は、限度を設定しないことを示します。

サブレコード dslu_template には、以下のパラメーターが含まれています。

min_nau

1 から 255 の範囲内の、最初のダウンストリーム PU の NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレス。

max_nau

1 から 255 の範囲内の、最後のダウンストリーム PU の NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレス。

host_lu

ダウンストリーム LU が使用するホスト LU またはホスト LU プールの名前。この名前は、8 バイトのタイプ A の文字ストリングです。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合は、このフィールドにストリング #PRIRUI# を設定します。

allow_timeout

ホスト LU 定義で指定したタイムアウト期間セッションが非活動状態のままであった場合に、ダウンストリーム LU が使用するホスト LU がタイムアウトになるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は、このダウンストリーム LU が使用するホスト LU をタイムアウトにすることができます。

NO

CS/AIX は、このダウンストリーム LU が使用するホスト LU をタイムアウトにすることができません。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合、このフィールドは無視されます。

delayed_logon

ダウンストリーム LU から最初のデータが受信されるまで、ダウンストリーム LU とホスト LU の接続を遅らせるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は、ダウンストリーム LU とホスト LU の接続を遅らせます。シミュレートされたログオン画面が、ダウンストリーム LU に送信されます。

NO

CS/AIX は、ダウンストリーム LU とホスト LU の接続を遅らせません。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合、このフィールドは無視されます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_TEMPLATE_NAME

template_name パラメーターで指定した名前は無効です。

INVALID_NAU_RANGE

min_nau または *max_nau* パラメーターで指定したアドレスは有効範囲内にありません。

CLASHING_NAU_RANGE

dslu_template サブレコードの *min_nau* パラメーターから *max_nau* パラメーターで指定したアドレスの範囲が、*template_name* パラメーターで指定したテンプレートの別の *dslu_template* サブレコードで指定した範囲と競合しています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_HOST_LU_NAME

指定された *host_lu_name* パラメーター値は無効です。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_ethernet_dlc

詳しくは、185 ページの『define_tr_dlc、define_ethernet_dlc』を参照してください。

define_ethernet_ls

詳しくは、187 ページの『define_tr_ls、define_ethernet_ls』を参照してください。

define_ethernet_port

詳しくは、201 ページの『define_tr_port、define_ethernet_port』を参照してください。

define_focal_point

define_focal_point コマンドは、特定の管理サービス・カテゴリのフォーカル・ポイントを定義します。新規フォーカル・ポイントが定義されると、CS/AIX は MS_CAPABILITIES 要求を送信して、定義されたフォーカル・ポイントとの暗黙的な 1 次フォーカル・ポイント関係の確立を試行します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_focal_point]			
ms_category		character	8
fp_fqcp_name		character	17 (null string)
ms_appl_name		character	8 (null string)
description		character	31 (null string)
backup		constant	NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

ms_category

管理サービス・カテゴリ。このカテゴリは、以下のいずれかです。

- 「*SNA Management Services Reference*」で指定されているカテゴリ名の 1 つ。名前は 16 進配列で指定します (例えば、0x23F0F3F1)。
- ユーザー定義カテゴリ名。この名前は、タイプ 1134 の文字ストリングで指定します。

fp_fqcp_name

定義するフォーカル・ポイントの完全修飾制御点の名前。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の CP 名で構成される 3 から 17 のタイプ A の文字ストリングを指定します。

指定した MS カテゴリの既存のフォーカル・ポイントを取り消す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

ms_appl_name

管理サービスのフォーカル・ポイント・アプリケーション名。この名前は、通常、タイプ 1134 の文字ストリングですが、「*SNA Management Services Reference*」で指定されている『MS Discipline-Specific Application Program』の 1 つにすることもできます。

description

フォーカル・ポイントについて説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_focal_point コマンドで戻されます。

backup

指定したアプリケーションが、このカテゴリのバックアップ・フォーカル・ポイントまたはメイン・フォーカル・ポイントであることを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

アプリケーションは、バックアップ・フォーカル・ポイントです (メイン・フォーカル・ポイントが使用不可の場合にのみ使用されます)。

NO

アプリケーションは、メイン・フォーカル・ポイントです。

戻りパラメーター

コマンドが正常に発行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

OK

フォーカル・ポイントは、要求どおりに定義されています。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_CATEGORY_NAME

ms_category パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_FP_NAME

fp_fqcp_name または *ms_appl_name* パラメーター値は無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ローカル・ノードは、MS ネットワーク管理機能をサポートしていません。このサポートは、*define_node* コマンドの *mds_supported* パラメーターで定義します。

secondary_rc

NO_SECONDARY_RC

その他の状態

その他の状態が原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

define_internal_pu

primary_rc

REPLACED

このコマンドがまだ終了していないときに同じノードに対して別の `define_focal_point` コマンドが発行されました。この場合、同じ MS カテゴリに異なるフォーカル・ポイントが指定されます。このコマンドは無視され、ノードは、2 番目のコマンドで指定したフォーカル・ポイントへの接続を試行します。

secondary_rc

NO_SECONDARY_RC

primary_rc

UNSUCCESSFUL

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

IMPLICIT_REQUEST_REJECTED

指定したフォーカル・ポイントは要求をリジェクトしました。

IMPLICIT_REQUEST_FAILED

指定した制御点またはアプリケーションを検出できないため、ノードは、指定したフォーカル・ポイントに要求を送信することができません。

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_internal_pu

`define_internal_pu` コマンドは、DLUR がサービスを提供するローカル・ノード上の PU を定義します。(DLUR または SNA ゲートウェイが提供するダウンストリーム PU を定義するか、またはホストに直接接続されているローカル PU を定義するには、`define_internal_pu` ではなく `define*_ls` を使用します (該当するリンク・タイプについて)。)

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_internal_pu]			
pu_name	character	8	
description	character	31	(null string)
dplus_name	character	17	(null string)
bkup_dplus_name	character	17	(null string)
pu_id	hex array	4	
initially_active	constant		NO
dplus_retry_timeout	decimal		(0)
dplus_retry_limit	decimal		(0)
conventional_lu_compression	constant		NO
dddlu_offline_supported	constant		NO

提供されるパラメーター:

プール名

定義される内部 PU の名前。この名前は、文字で始まるタイプ A の文字ストリングです。

この名前は、ホストで構成された PU 名と一致する必要があります (CS/AIX は、PU 名と PU ID の両方をホストに送信して、PU を識別します。ホストは、通常、PU 名を使用して PU を識別します。一致する PU 名を検出できない場合は、PU ID によって識別されます。)

記述

内部 PU を記述するテキスト・ストリング。CS/AIX はこのストリングを情報にのみ使用します。これはノードの構成ファイルに保管され、`query_dplus_pu` およびクエリー・プー コマンド。に戻されます。

dplus_name

DLUR が SSCP-PU 活動化を開始するときに使用する DLUS ノードの名前。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の DLUS ノード名で構成される 3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。

DLUR がグローバル・デフォルト DLUS を使用するよう指示するには、このパラメーターを指定しないでください。この場合は、デフォルトの `define_dlur_defaults` は、グローバル・デフォルト DLUS を定義します。も使用する必要があります。

bkup_dlus_name

この PU のバックアップ DLUS としてサービスを提供する DLUS ノードの名前。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のバックアップ DLUS 名で構成される、3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。

DLUR がグローバル・バックアップ・デフォルト DLUS を使用する必要があることを示すには、このパラメーターを指定しないでください。この場合は、デフォルトの `define_dlur_defaults` は、グローバル・バックアップのデフォルト DLUS を定義します。も使用する必要があります。

パブリッシュ ID

PU ID。この ID は、4 バイトの 16 進数ストリングで、ブロック番号 (3 桁の 16 進数字) とノード番号 (5 桁の 16 進数字) から構成されます。PU ID は、ホストで構成されたパブリッシュ ID と一致する必要があります。

初期設定がアクティブ

ノードの開始時にこの内部 PU を自動的に開始するかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

この PU は、ノードの開始時に自動的に開始されます。

違う。

PU は自動的に開始されません。手動で開始する必要があります。

dlus_retry_timeout

dlus_name パラメーターおよび *bkup_dlus_name* パラメーターによって指定された DLUS への 2 回目以降の接続試行の間隔 (秒単位)。1 回目の試行と 2 回目の試行の間隔は常に 1 秒です。

0-65,535 の範囲の値を指定してください。0 (ゼロ) が指定されている場合は、デフォルトの `define_dlur_defaults` コマンドを使用します。を使用して指定されたデフォルト値

dlus_retry_limit

DLUS に連絡するための再試行カウント。このパラメーターは、最初の試行で CS/AIX が DLUS との接続に失敗した場合に CS/AIX が再試行する回数を指定するために使用されます。

Specify a value in the range 1-65,534, or specify 65,535 to indicate that CS/AIX should retry indefinitely until it contacts the DLUS.

通常 *lu_lu_圧縮*

この PU を使用する LU 0-3 セッションにデータ圧縮を要求するかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

ホストがデータ圧縮を要求した場合、この PU を使用する LU 0-3 セッションにデータ圧縮を使用する必要があります。

違う。

データ圧縮は、この PU を使用する LU 0-3 セッションには使用しないでください。

サポートされる *dddlu_offline_supported*

ローカル PU が、NMVT (電源オフ) メッセージをホストに送信するかどうかを指定します。ホスト・システムが DDDL (従属 LU の動的定義) をサポートしている場合、CS/AIX は、動的に定義された LU を使用しているときに、NMVT (電源オフ) をホストに送信します。これにより、ホストは、不要になった定義を除去することによって、リソースを保管することができます。

可能な値は次のとおりです

そうだ

ローカル PU は、NMVT (電源オフ) メッセージをホストに送信します。

違う。

ローカル PU は、NMVT (電源オフ) メッセージをホストに送信しません。

ホストが DDDLU をサポートしているが、NMVT (電源オフ) メッセージをサポートしていない場合、このパラメーターは違う。に設定する必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PU_NAME

pu_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_PU_ID

pu_id パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_DLUS_NAME

dlus_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

INVALID_BKUP_DLUS_NAME

bkup_dlus_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

PU_ALREADY_DEFINED

指定した名前の PU は、すでに定義されています。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ローカル・ノードは DLUR をサポートしません。このサポートは、`define_node` コマンドの `dlor_support` パラメーターで定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_ip_dlc

define_ip_dlc コマンドは、Enterprise Extender (HPR/IP) とともに使用するための新規 DLC を定義します。DLC が現在活動状態にない場合は、このコマンドを使用して、既存の DLC を変更できます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_ip_dlc]			
dlc_name	character	8	
description	character	31	(null string)
initially_active	constant		YES
udp_port_llc	decimal		12000
udp_port_network	decimal		12001
udp_port_high	decimal		12002
udp_port_medium	decimal		12003
udp_port_low	decimal		12004
ip_precedence_llc	decimal		6
ip_precedence_network	decimal		6
ip_precedence_high	decimal		4
ip_precedence_medium	decimal		2
ip_precedence_low	decimal		1
no_dns_lookup	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

dlc_name

DLC の名前。この名前は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。

description

DLC について説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_dlc コマンドで戻されます。

initially_active

ノードが開始されたときにこの DLC が自動的に開始されるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ノードが開始されると、この DLC は自動的に開始されます。

NO

この DLC を使用するポートまたは LS が初めに活動状態であると定義されている場合にのみ、DLC は自動的に開始されます。その他の場合は、DLC を手動で開始する必要があります。

udp_port_llc

LLC コマンドに対して使用する UDP ポート番号。

udp_port_network

ネットワーク優先順位トラフィックに対して使用する UDP ポート番号。

udp_port_high

高優先順位トラフィックに対して使用する UDP ポート番号。

udp_port_medium

中優先順位トラフィックに対して使用する UDP ポート番号。

udp_port_low

低優先順位トラフィックに対して使用する UDP ポート番号。

ip_precedence_llc

0 (最小) から 7 (最大) の範囲の LLC コマンドに対して使用する IP 優先順位値。

ip_precedence_network

0 (最小) から 7 (最大) の範囲のネットワーク優先順位トラフィックに対して使用する IP 優先順位値。

ip_precedence_high

0 (最小) から 7 (最大) の範囲の高優先順位トラフィックに対して使用する IP 優先順位値。

ip_precedence_medium

0 (最小) から 7 (最大) の範囲の中優先順位トラフィックに対して使用する IP 優先順位値。

define_ip_ls

ip_precedence_low

0 (最小) から 7 (最大) の範囲の低優先順位トラフィックに対して使用する IP 優先順位値。

no_dns_lookup

リモート・ホストの IP アドレスについて、ドメイン・ネーム・サーバーでルックアップすることが必要であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

着信 IP 接続を受信したときに、リモート IP アドレスからホスト名のルックアップを試行しません。

リモート IP アドレスを解決できない場合は、このオプションを使用します。このケースでは、着信接続は LS がホスト名ではなく明示的 IP アドレス (IPv4 または IPv6 のいずれか) を使用するよう構成されている場合のみ、構成済みの LS と一致する可能性があります。

NO

この DLC に定義されている各リンク・ステーションのリモート・ホストの IP アドレスは、数値アドレス (IPv4 または IPv6 のいずれか)、名前 (newbox.this.co.uk など)、または別名 (newbox など) で指定できます。ノードはドメイン・ネーム・サーバー・ルックアップを実行して、必要なところのすべての着呼におけるリモート・ホスト名を判別します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_DLC_NAME

dlc_name パラメーターは、無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

DLC_ACTIVE

DLC が現在活動状態であるため、パラメーターを変更することができません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_ip_ls

define_ip_ls コマンドは、Enterprise Extender (HPR/IP) の新規リンク・ステーション (LS) を定義したり、既存のリンク・ステーションを変更する場合に使用します。このコマンドを発行する場合は、この LS が使用するポートを定義する必要があります。

このコマンドを使用して、既存の LS が使用しているポートを変更することはできません。このコマンドの *port_name* パラメーターで指定するポートの名前は、LS の 以前の定義と一致する必要があります。LS は、始動されていない場合にのみ変更できます。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_ip_ls]			
ls_name	character	8	
description	character	31	(null string)
port_name	character	8	
adj_cp_name	character	17	(null string)
adj_cp_type	constant		LEARN_NODE
lsap_address	decimal		4
auto_act_supp	constant		NO
tg_number	decimal		0
limited_resource	constant		NO
disable_remote_act	constant		NO
link_deact_timer	decimal		30
default_nn_server	constant		NO
ls_attributes	constant		SNA
adj_node_id	hex array	4	
local_node_id	hex array	4	
cp_cp_sess_support	constant		YES
use_default_tg_chars	constant		YES
effect_cap	decimal		157286400
connect_cost	decimal		0
byte_cost	decimal		0
security	constant		SEC_NONSECURE
prop_delay	constant		PROP_DELAY_MINIMUM
user_def_parm_1	decimal		0
user_def_parm_2	decimal		0
user_def_parm_3	decimal		0
target_pacing_count	decimal		7
max_send_btu_size	decimal		1461
conventional_lu_compression	constant		NO
initially_active	constant		NO
react_timer	decimal		30
react_timer_retry	decimal		65535
restart_on_normal_deact	constant		NO
max_ifrm_rcvd	decimal		0
branch_link_type	constant		UPLINK (used only if this node is BrNN)
adj_brnn_cp_support	constant		ALLOWED (used only if this node is BrNN)
ack_timeout	decimal		10000
max_retry	decimal		10
liveness_timeout	decimal		10000
short_hold_mode	constant		NO
ip_version	constant		IPV4
remote_ip_host	character	255	

提供されるパラメーター：

ls_name

定義するリンク・ステーションの名前。

記述

LS を説明するテキスト・ストリング。CS/AIX はこのストリングを情報にのみ使用します。これはノードの構成ファイルに保管され、*query_ls*、クエリー・プー、および 軽率の照会 の各コマンド。に戻されます。

ポート名

このリンク・ステーションに関連付けられたポートの名前。この名前は、定義済みポートの名前と一致する必要があります

付加属性名

この LS の隣接 CP の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の CP 名で構成される 3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。このパラメーターは、以下の方法で使用されます。

- 付加 *cp_type* パラメーターが ネットワーク・ノード または エンド・ノード に設定されていて、事前に割り当てられた TG 番号が使用されている場合は、このパラメーターを隣接ノードで定義されてい

る CP 名に設定します。隣接ノードが XID 交換の際に CP 名を送信する場合、この値に対して検査されます。

- 付加 *cp_type* がその他の値に設定されている場合、または事前に割り当てられた TG 番号が使用されていない場合は、このパラメーターを指定する必要はありません。CS/AIX は、CP 名が指定されている場合にのみチェックします。

付加 *cp_type*

隣接ノード・タイプ。

事前に割り当てられた TG 番号が使用されていない場合、通常、このパラメーターは LEARN_NODE に設定され、ノード・タイプが不明であることを示します。CS/AIX は、XID 交換中にタイプを判別します。

事前に割り当てられた TG 番号を使用する場合は、明示的にノード・タイプを指定する必要があります。事前に割り当てられた TG 番号が使用されていない場合は、追加のセキュリティー検査としてタイプを指定することもできます。この場合、CS/AIX は、そのノード・タイプがこのパラメーターに指定されたノード・タイプと一致しない場合、隣接ノードからの接続試行をリジェクトします。可能な値は次のとおりです

LEARN_NODE

隣接ノード・タイプが不明です。CS/AIX は、XID 交換の間にタイプを判別します。

エンド・ノード

隣接ノードは、エンド・ノード、ローカル・ノードの観点からエンド・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノード、またはその XID3 内のネットワーク名 CV を含む LEN ノードです。

ネットワーク・ノード

隣接ノードは、ネットワーク・ノードであるか、またはローカル・ノードの観点からネットワーク・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノードです。

lsap_ アドレス

ローカル・リンク・ステーションが使用するリンク・サービス・アクセス・ポイント・アドレス。これは、リモート・ステーションが使用するアドレスと一致している必要が 4 の倍数を指定してください。通常値は 4 ですが、VTAM は状況によっては 8 を使用することがあります

同じ TCP/IP インターフェース上に異なる LSAP アドレスを持つ複数のポートを使用する必要がある場合は、2 つ以上の Enterprise Extender DLC を作成してから、同じ *if_name* を持つ各 DLC に対して別個の Enterprise Extender ポートを作成しますが、LSAP アドレスはそれぞれ異なります。

auto_act_supp

セッションで必要に応じてリンクを自動的に活動化できるかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

リンクは自動的に活動化できます。

再活動化タイマー・パラメーターは無視されます。LS が失敗した場合、CS/AIX は、セッションを使用していた従属 LU アプリケーションがセッションの再始動を試みるまで、再活動化を試みません。独立 LU によって使用される LS は CS/AIX によって再活動化されず、手動で再始動する必要があります。

以下の制限も適用されます。

- リンクが APPN ノードに対するものである場合、LS には事前に割り当てられた TG 番号が定義されている必要があります (*tg_number* パラメーターを参照してください)。また、*cp_cp_sess_support* を違う。に設定する必要があります。
- ローカル・ノードまたは隣接ノードのいずれかがエンド・ノードである場合は、隣接ノードで自動的に活動化するように LS も定義する必要があります。

違う。

リンクを自動的に活動化できません。

tg_number

事前に割り当てられた TG 番号。このパラメーターが使用されるのは、隣接ノードが APPN ノード (付加 *cp_type* は ネットワーク・ノード または エンド・ノード のいずれか) である場合のみです。それ以外の場合は無視されます。

この TG 番号は、リンクの活動化時にリンクを表すために使用されます。このノードは、このリンクの活動化中に隣接ノードからの他の番号を受け入れません。隣接ノードが事前に割り当てられた TG 番号を使用している場合は、隣接リンク・ステーションの隣接ノードによって同じ TG 番号が定義されている必要があります。

ローカル・ノードが LEN ノードである場合、または隣接ノードが LEN ノードであり、リンクが自動的に活動化される場合は、TG 番号を 1 に設定します。それ以外の場合は、1-20 の範囲の数値を指定するか、または 0 (ゼロ) を指定して、TG 番号が事前割り当てされておらず、リンクが活動化されるときに折衝されることを示します。

事前に割り当てられた TG 番号が定義されている場合は、付加属性名 パラメーターも定義する必要があります。付加 *cp_type* パラメーターを エンド・ノード または ネットワーク・ノード のいずれかに設定する必要があります。

limited_resource

リンクを使用しているセッションがないときに、このリンク・ステーションが限定リソースであるかどうかを指定します。非交換ポート上のリンク・ステーションを限定リソースとして構成することはできません。可能な値は次のとおりです

違う。

このリンクは、限定リソースではなく、自動的に非アクティブ化されることは

セッションなし

リンクは限定リソースであり、アクティブ・セッションがそれを使用していない場合は自動的に非アクティブ化されます。

非活動状態

リンクは制限されたリソースであり、アクティブ・セッションがそれを使用していない場合、またはリンクの *deact_timer* パラメーターで指定された期間のデータがリンク上に流れていない場合に、自動的に非アクティブ化されます。

- リンクを介してアクティブになっている SSCP-PU セッションがない場合、ノードはリンクを即時に非活動化します。
- SSCP-PU セッションが活動状態であるが、指定された時間枠にトラフィックが流れていない場合、ノードは REQDISCONT(通常) をホストに送信します。次に、ホストはすべての LU と PU を非活動化する責任を負います。この時点で、ローカル・ノードはリンクを非活動化します。ただし、ホストはアクティブな PLU-SLU セッションを持つ LU を非活動化することはできません。この場合、これらのすべてのセッションが非活動化されるまで (例えば、ユーザー・ログアウトによって) リンクはアクティブのままです。この動作は、ノードの *define_node* コマンドの *ptf_flags* パラメーターのオプションを使用して変更することができます。

A limited resource link station can be configured for CP-CP session support by setting this parameter to セッションなし and *cp_cp_sess_support* to そうだ. この場合、CP-CP セッションがリンクの上に持ち込まれると、CS/AIX はそのリンクを限定リソースとして扱うのではなく、そのリンクを非活動化しません。

unable_remote_act

リモート・ノードによる LS の活動化を防ぐかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

LS は、ローカル・ノードによってのみアクティブにすることができます。リモート・ノードが活動化しようとする時、CS/AIX はその試みを拒否します。

違う。

LS は、リモート・ノードによって活動化できます。

リンクの *deact_timer*

限定リソース・リンク非活動化タイマー(秒)。このパラメーターで指定された時間にわたってリンク上にデータ・フローが存在しない場合は、限定リソース・リンクが自動的に非アクティブになります。*limited_resource* が非活動状態以外の値に設定されている場合、このパラメーターは使用されません。

最小値は5です。範囲1-4の値は、5として解釈されます。

値0(ゼロ)は、30のデフォルトの非活動化タイマー値が使用されることを示します。

デフォルトの *nn_server*

エンド・ノードの場合、このパラメーターは、定義されるリンク・ステーションが、ローカル・ノードのネットワーク・ノード・サーバーとして機能するネットワーク・ノードへのCP-CPセッションをサポートするかどうかを指定します。ローカル・ノードがネットワーク・ノード・サーバーへのCP-CPセッションを持たず、それらを確認する必要がある場合、ローカル・ノードは、定義されているリンク・ステーションでこのパラメーターを検査して、活動化するのに適したLSを見つけます。これにより、隣接するNNをNNサーバーとして動作するのに適した隣接NNを指定することができます(例えば、高価リンクまたは低速リンクによってアクセスされるNNを使用しないようにするため)。

可能な値は次のとおりです

そうだ

このリンクは、ローカル・ノードのNNサーバーとして機能できるネットワーク・ノードへのCP-CPセッションをサポートします。ローカル・ノードは、NNサーバーに接続する必要がある場合、このリンクを自動的に活動化することができます。*cp_cp_sess_support* パラメーターは、そうだに設定する必要があります。

違う。

このリンクは、ローカル・ノードのNNサーバーとして機能できるネットワーク・ノードへのCP-CPセッションをサポートしません。つまり、ローカル・ノードは、NNサーバーに接続する必要がある場合、このリンクを自動的にアクティブにすることはできません。

ローカル・ノードがエンド・ノードでない場合、このパラメーターは無視されます。

***ls_* 属性**

CS/AIXが通信しているリモート・システムの属性。

以下のいずれかのタイプのホストと通信している場合を除き、スナを指定します。可能な値は次のとおりです

スナ

標準SNAホスト

フナ

富士通ネットワーク・アーキテクチャー (VTAM-F) ホスト

フナ

Hitachi ネットワーク体系ホスト

サポートされる *CP_NAME*

リモート・ノードに関連したCP名を抑止します。この値をスナ、フナ、またはフナと結合するには、+文字を使用します。

If 付加 *cp_type* is set to レベル・レンノード・ノード, and the remote LEN node associated with this LS cannot accept the Network Name CV in the format 3 XID it receives, use a + character to combine the value スナ, フナ, or フナ with サポートされる *CP_NAME* (for example, スナ+サポートされる *CP_NAME*).

付加 *cp_type* が他の値に設定されている場合、サポートされる *CP_NAME* オプションは無視されます。

従属ノード *ID*

隣接ノードのノードID。このIDは、4バイトの16進数ストリングで、ブロック番号(3桁の16進数字)とノード番号(5桁の16進数字)から構成されます。ノードID検査を無効にするには、このパラメーターを指定しないでください。このリンク・ステーションが交換ポートで定義されている場合、従属ノードIDは固有でなければなりません。また、各交換ポートには、ヌルの従属ノードIDが1つしかない可能性があります。

ローカル・ノード ID

この LS 上の XID で送信されたノード ID。この ID は、4 バイトの 16 進数ストリングで、ブロック番号 (3 桁の 16 進数字) とノード番号 (5 桁の 16 進数字) から構成されます。ノードの `define_node` コマンドは、このパラメーターを指定しません。のノード ID パラメーターで指定されたノード ID を使用するには、

cp_cp_sess_support

CP-CP セッションがサポートされるかどうかを指定 このパラメーターが有効なのは、隣接ノードがエンド・ノードまたはネットワーク・ノード (付加 `cp_type` がネットワーク・ノード、エンド・ノード、または LEARN_NODE) である場合のみです。それ以外の場合は無視されます。ローカル・ノードと隣接ノードの両方がネットワーク・ノードである場合、これらのノード間で APPN 機能を使用するには、このパラメーターを そうだ に設定する必要があります。

可能な値は次のとおりです

そうだ

CP-CP セッションはサポートされます。

違う。

CP-CP セッションはサポートされません。

use_default_tg_chars

ポートの `define_ip_port` で提供されるデフォルト TG 特性を使用するかどうかを指定します TG 特性は、リンクが APPN ノードに対するものである場合にのみ適用されます。If the link is not to an APPN node, the `use_default_tg_chars` through ユーザー定義パラメーター 3 parameters are ignored. 可能な値は次のとおりです

そうだ

デフォルトの TG 特性を使用します。このコマンドでは有効上限 から ユーザー定義パラメーター 3 までのパラメーターを無視してください。

違う。

Use the 有効上限 through ユーザー定義パラメーター 3 parameters on this command.

有効上限

回線速度を表す 10 進値 (ビット / 秒)。

このパラメーターは、リンクで使用されるアダプターの理論上の容量だけでなく、パス内のステップ・ダウンズまたはボトルネックを含む、リンクの真の「有効容量」に設定するようにしてください。

接続コスト

接続時間当たりのコスト。有効な値は、0-255 の範囲の整数値です。ここで、0 は接続時間当たりのコストが最も低く、255 は接続時間ごとのコストが最も高い値です。

バイト・コスト

バイト単位のコスト。有効な値は、0-255 の範囲の整数値です。ここで、0 はバイト当たりの最小コストであり、255 はバイト当たりのコスト / バイト数の最大値です。

担保

ネットワークのセキュリティー・レベル。可能な値は次のとおりです

セキュア非セキュア

セキュリティーなし。

ネットワークの接続を保護するためのネットワーク

データは公衆交換網を介して伝送される。

セクター・ケーブル (ケーブル)

データは安全な地下ケーブルで送信されます。

セキュア・セキュア・コンジット

保護されていないセキュア・コンジットでは、回線を介してデータが伝送されます。

セキュア・ガード D_CONDUIT

データは、物理的な盗聴に対して保護されているコンジットの行を介して伝送されます。

セキュア暗号化

データは、回線を介して伝送される前に暗号化

セキュリティー保護された放射線

物理および放射線のタップに対して保護されている回線を介してデータが伝送されます。

プロペップ遅延

伝搬遅延時間 (シグナルがリンクの長さを移動するのにかかる時間)。リンクのタイプに応じて、以下の値のいずれかを指定します。

最小の PROP_DELAY_最小

最小伝搬遅延。

プロ P_DELAY_LAN

遅延は 0.5 マイクロ秒未満 (LAN の場合は標準) より小さくなります。

PROP_DELAY_電話

遅延は、.5-50 マイクロ秒の範囲です (電話ネットワークの場合は標準)。

PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET

遅延は、50 から 250 マイクロ秒の範囲です (パケット交換ネットワークの場合の標準)。

PROP_DELAY_衛星

遅延が 250 マイクロ秒より大きくなっています (サテライト・リンクの場合は標準)。

最大の PROP_DELAY_最大

最大伝搬遅延。

ユーザー定義パラメーター 1 から ユーザー定義パラメーター 3 まで

ユーザー定義パラメーター。前のパラメーターでカバーされていない他の TG 特性を組み込むために使用できます。これらの各パラメーターは、0-255 の範囲内の値に設定する必要があります。

ターゲット・パック・カウント

目的のペーシング・ウィンドウ・サイズを示します。1-32,767 の範囲の値を指定してください。

最大 send_btu_size

このリンク・ステーションから送信できる BTU の最大サイズ。この値は、リンク・ステーションのペアが相互に通信するために使用できる BTU サイズの最大値を折衝するために使用されます。この値には、TH と RH の長さ (合計 9 バイト) と、RU の長さが含まれます。265-65,535 の範囲の値を指定してください。

通常 lu_lu_圧縮

このリンク上の LU 0-3 セッションに対してデータ圧縮を要求するかどうかを指定します。このパラメーターは、このリンクが LU 0 から 3 のトラフィックを伝送する場合にのみ使用されます。LU 6.2 セッションには適用されません。可能な値は次のとおりです

そうだ

ホストが要求する場合、このリンク上の LU 0-3 セッションに対してデータ圧縮を使用する必要があります。

違う。

このリンク上の LU 0-3 セッションには、データ圧縮を使用しないでください。

初期設定がアクティブ

ノードの開始時にこの LS を自動的に開始するかどうかを指定します 可能な値は次のとおりです

そうだ

LS は、ノードが開始されると自動的に開始されます。

違う。

LS は自動的に開始されません。手動で開始する必要があります。

LS がリース・リンクである場合は、このパラメーターを そうだ に設定して、リンクが常に使用可能であることを確認することをお勧めします。

react_タイマー

失敗した LS を再活動化するための再活動化タイマー。react_timer_retry パラメーターがゼロ以外の値である場合 (CS/AIX が失敗した場合に LS の活動化を再試行する必要があることを指定するため)、このパラメーターは再試行の間隔を秒単位で指定します。LS が失敗した場合、または LS の再活動化の試みが失敗した場合、CS/AIX は、指定された時間を待機してから、活動化を再試行します。

react_timer_retry が 0 (ゼロ) の場合、このパラメーターは無視されます。

react_timer_retry

失敗した LS を再活動化するための再試行カウント このパラメーターは、使用中に（または LS の開始が失敗した場合に）、CS/AIX が LS を再活動化するかどうかを指定するために使用されます。

0 (ゼロ) を指定すると、CS/AIX は LS の再活動化を試行しないか、または再試行の回数を指定する必要があります。値 65,535 は、CS/AIX が LS が再活動化されるまで無期限に再試行することを示します。

CS/AIX は、連続する再試行の間、*react*_タイマー パラメーターで指定された時間待機します。LS が再試行カウントの終了時に正常に再活動化されない場合、または *stop_ls* は、CS/AIX が活動化を再試行しているときに発行されます。これ以上再試行は行われません。LS は、*start_ls* が発行されない限り、非アクティブ

auto_act_supp パラメーターが そうだに設定されている場合、*react*_タイマー パラメーターおよび *react_timer_retry* パラメーターは無視されます。リンクが失敗した場合、CS/AIX は、セッションを使用していたユーザー・アプリケーションがセッションの再始動を試行するまで、その再アクティブ化を試みません。

LS がリース・リンクである場合は、このパラメーターをゼロ以外の値に設定して、リンクが常に使用可能であることを確認することをお勧めします。

正常化が正常に解除されている

リモート・システムによって正常に非活動化された場合に、CS/AIX が LS を再活動化するかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

リモート・システムが LS を正常に非活動化すると、CS/AIX は、同じ再試行タイマーとカウント値を使用して、失敗した LS (上記の *react*_タイマー および *react_timer_retry* パラメーター) を再活動化するために、その LS を再活動化しようとします。

違う。

リモート・システムが LS を正常に非活動化すると、CS/AIX はそれを再活動化しようとしません。

LS がホスト・リンク (付加 *cp_type* パラメーターで指定) である場合、またはノードの開始時に自動的に開始される場合 (初期設定がアクティブ パラメーターは そうだに設定されています)、このパラメーターは無視されます。CS/AIX は、リモート・システムによって正常に非活動化された場合 (*react_timer_retry* がゼロでない限り)、LS を常に再活動化しようとします。

max_ifrm_rcvd

肯定応答を送信する前にローカル・リンク・ステーションが受信できる I フレームの最大数。1-127 の範囲の値を指定してください。

ブランチ・リンク・タイプ

このパラメーターが適用されるのは、ローカル・ノードが分岐ネットワーク・ノードの場合のみです。ローカル・ノードが他のタイプの場合には使用されません。

If the parameter 付加 *cp_type* is set to ネットワーク・ノード, エンド・ノード, アプリケーション・ノード, or レベル・レンノード・ノード, this parameter defines whether the link is an uplink or a downlink. 可能な値は次のとおりです

アップリンク

リンクはアップリンクです。

ダウンリンク

リンクはダウンリンクです。

付加 *cp_type* が ネットワーク・ノードに設定されている場合、このパラメーターは アップリンクに設定する必要があります。

付加 cpnn_cp_support

This parameter applies only if the local node is a Branch Network Node and the adjacent node is a network node (the parameter 付加 *cp_type* is set to ネットワーク・ノード, or it is set to アプリケーション・ノード and the node type discovered during XID exchange is network node). これは、ローカル・ノードとリモート・ノードが他のタイプの場合には使用されません。

このパラメーターは、隣接ノードを、ローカル・ノードの視点からネットワーク・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノードにすることができるかどうかを定義します。可能な値は次のとおりです

許可

隣接ノードは、分岐ネットワーク・ノードとして許可されます(必須ではありません)。

必須

隣接ノードは分岐ネットワーク・ノードでなければなりません。

禁止

隣接ノードは分岐ネットワーク・ノードであってはなりません。

付加 *cp_type* が ネットワーク・ノード に設定されており、 *auto_act_supp* が そうだに設定されている場合、このパラメーターは 必須 または 禁止 に設定する必要があります。

ack_timeout

確認応答タイマーの期間 (T1 タイマーと呼ばれる場合もあります): 隣接リンク・ステーションに送信されたコマンド・フレームに対して応答を受信する必要がある時間 (ミリ秒)。この時間内に応答が受信されない場合は、重複フレームが送信されます。

このパラメーターの値を小さくすると、失われたパケットはすぐに検出されるが、ネットワーク・トラフィックが増加する可能性がある。

0 から 65535 の範囲の値を指定します。このパラメーターは、予期されるネットワーク待ち時間の 2 倍より大きい値に設定する必要があります。標準的な値は 10000 ミリ秒です。

最大再試行回数

ローカル・ステーションがコマンド・フレームの送信を再試行する最大回数。応答を受け取らずにこの再試行カウントを超えると、リンクは失敗したものと見なされます。

このパラメーターの値を小さくすると、リンク障害はすぐに検出されますが、少数のパケットが失われた場合には、リンク障害のレポートが不要になる可能性があります。

0 から 255 の範囲の値を指定してください。標準的な値は再試行 10 回です。

liveness_timeout

活性タイマーの期間 (TL タイマーとも呼ばれる): リモート・ステーションがまだアクティブであるという証明情報が存在しない場合に、リンクがアクティブに保留される時間 (ミリ秒)。

このパラメーターの値を小さくすると、リンク障害が迅速に検出されますが、アイドル・アクティブ・リンクのネットワーク・トラフィックが増加する可能性があります。

1 から 65535 までの範囲の値を指定します。標準的な値は 10000 (10 秒) です。

下位保持モード

データが最後に送信された後 (そうだと または 違う)、リモート・システムがまだアクティブであるという証明情報がない場合にのみ、活性プロトコルを実行するかどうかを指定します。

このパラメーターを そうだ に設定すると、リンクは不要なデータ・トラフィックなしでアクティブでアイドル状態になることができますが、ローカル・ステーションがデータの送信を試行するまでは、リンク障害は検出されません。通常、このパラメーターは 違う。 に設定する必要があります。

ip_version

次のフィールドが IPv4 アドレスまたは IPv6 アドレスを表すかどうかを指定します。これは、この LS が使用するポート (ポート名によって識別される) の *ip_version* パラメーターと一致する必要があります。可能な値:

IPV4

リモート *ip_host* フィールドは、IPv4 アドレスを指定するか、IPv4 アドレスに解決されるホスト名または別名を指定します。

アイブ 6

リモート *ip_host* フィールドは、IPv6 アドレスを指定するか、IPv6 アドレスに解決するホスト名または別名を指定します。

リモート ip_host

このリンクの宛先ノードのリモート・ホスト名。これは、以下のいずれかになります。 *ip_version* パラメーターは、それが IPv4 アドレスか IPv6 アドレスかを決定します。

- IPv4 小数点付き 10 進数アドレス (193.1.11.100 など)。

- IPv6 コロン 16 進アドレス (2001:0db8:0000:0000:0000:0000:0000:1428:57ab や 2001:db8::1428:57ab など)。
- 名前 (newbox.this.co.uk など)。
- 別名 (newbox など)。

名前または別名を指定する場合、AIX システムは、この名前を完全修飾名 (ローカル TCP/IP 構成を使用するか、ドメイン・ネーム・サーバーを使用して) に解決できなければなりません。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

CANT_MODIFY_PORT_NAME

ls_name パラメーターは既存の LS 名と一致しますが、*port_name* パラメーターが既存の定義と一致しません。既存の LS の定義を変更する場合、ポート名は変更できません。

DEF_LINK_INVALID_SECURITY

security パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_AUTO_ACT_SUPP

auto_act_supp パラメーターが有効な値に設定されていないか、または *cp_cp_sess_support* も YES に設定されているときにこのパラメーターが YES に設定されています。

INVALID_CP_NAME

adj_cp_name パラメーターに、無効な文字、正しい形式ではない文字、または必要ときに指定しなかった文字が含まれています。

INVALID_LIMITED_RESOURCE

limited_resource パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LINK_NAME

ls_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_NODE_TYPE

adj_cp_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_PORT_NAME

port_name パラメーターが、定義済みのポートの名前と一致しません。

INVALID_TARGET_PACING_CNT

target_pacing_count パラメーターが、有効な値に設定されていません。

HPR_NOT_SUPPORTED

予約済みパラメーターがゼロ以外の値に設定されています。

INVALID_TG_NUMBER

指定された TG 番号は、有効範囲外です。

MISSING_CP_NAME

TG 番号が定義されていますが、CP 名が指定されていません。

MISSING_CP_TYPE

TG 番号が定義されていますが、CP タイプが指定されていません。

MISSING_TG_NUMBER

リンクは自動的に活動化されるよう定義されていますが、TG 番号は指定されていません。

UNKNOWN_IP_HOST

remote_hostname パラメーターに対して指定したストリングは、有効な IP アドレスに解決できません。

INVALID_IP_VERSION

ip_version パラメーターに指定した値が所有している IP ポートに指定された値と一致しませんでした。

INVALID_BRANCH_LINK_TYPE

branch_link_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_BRNN_SUPPORT

adj_brnn_cp_support パラメーターが、有効な値に設定されていません。

BRNN_SUPPORT_MISSING

adj_brnn_cp_support パラメーターが ALLOWED に設定されています。隣接ノードがネットワーク・ノードであり、*auto_act_supp* が YES に設定されているため、この値は無効です。

INVALID_UPLINK

branch_link_type パラメーターが UPLINK に設定されていますが、ローカル・ノードと隣接ノードの間の既存の LS の定義では、このパラメーターがダウンリンクに指定されています。同じ 2 つのノード間の LS の分岐リンク・タイプは、すべて同じである必要があります。

INVALID_DOWNLINK

branch_link_type パラメーターが DOWNLINK に設定されていますが、ローカル・ノードと隣接ノードの間の既存の LS の定義では、このパラメーターがアップリンクに指定されています。同じ 2 つのノード間の LS の分岐リンク・タイプは、すべて同じである必要があります。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

DUPLICATE_CP_NAME

adj_cp_name パラメーターで指定した CP 名は、すでに定義済みです。

DUPLICATE_DEST_ADDR

address パラメーターで指定した宛先アドレスは、すでに定義済みです。

INVALID_LINK_NAME

ls_name パラメーターで指定したリンク・ステーションの値は無効です。

INVALID_NUM_LS_SPECIFIED

指定されているリンク・ステーションの数が無効です。

LOCAL_CP_NAME

adj_cp_name パラメーターに指定されている値がローカル CP 名と同じです。

LS_ACTIVE

ls_name パラメーターで指定したリンク・ステーションは、現在活動状態です。

DUPLICATE_TG_NUMBER

tg_number パラメーターに指定されている TG 番号は、既に定義されています。

TG_NUMBER_IN_USE

tg_number パラメーターに指定されている TG 番号は、他のリンク・ステーションで使用されています。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_ip_port

define_ip_port コマンドは、Enterprise Extender (HPR/IP) とともに使用するために新規ポートを定義するか、または既存のポートを変更するために使用されます。このコマンドを発行する前に、このポートが使用する DLC を定義する必要があります。

既存のポートは、開始されていない場合にのみ変更できます。既存のポートで使用されている DLC は変更できません。既存のポートを変更するときに指定した *dlc_name* は、ポートの初期定義で指定した DLC と一致する必要があります。

着呼を受け入れるポートの定義については、73 ページの『着呼』を参照してください。

Supplied parameters

Parameter name	Type	Length	Default
[define_ip_port]			
port_name	character	8	
description	character	31	(null string)
dlc_name	character	8	
max_rcv_btu_size	decimal		1461
tot_link_act_lim	decimal		1
inb_link_act_lim	decimal		0
out_link_act_lim	decimal		1
nonact_xid_exchange_limit	decimal		10
max_ifrm_rcvd	decimal		7
target_pacing_count	decimal		7
max_send_btu_size	decimal		1461
ip_version	constant		IPV4
implicit_cp_cp_sess_support	constant		YES
implicit_limited_resource	constant		NO
implicit_deact_timer	decimal		30
implicit_uplink_to_en	constant		NO
effect_cap	decimal		157286400
connect_cost	decimal		0
byte_cost	decimal		0
security	constant		SEC_NONSECURE
prop_delay	constant		PROP_DELAY_MINIMUM
user_def_parm_1	decimal		0
user_def_parm_2	decimal		0
user_def_parm_3	decimal		0
initially_active	constant		YES
implicit_ls_limit	decimal		0
liveness_timeout	decimal		10000
short_hold_mode	constant		NO
local_ip_interface	character	45	

Supplied parameters are:

port_name

Name of the port to be defined. This name is a character string using any locally displayable characters.

description

A text string describing the port. CS/AIX uses this string for information only. It is stored in the node's configuration file and returned on the query_port command.

dlc_name

Name of the associated DLC. This name is a character string using any locally displayable characters. The specified DLC must have already been defined.

max_rcv_btu_size

Maximum BTU size that can be received. This value includes the length of the TH and RH (total 9 bytes), as well as the RU. Specify a value in the range 265-65,535.

define_ip_port

tot_link_act_lim

Total link activation limit (the maximum number of links that can be active at any time using this port).

inb_link_act_lim

Inbound link activation limit (the number of links reserved for inbound activation). The sum of *inb_link_act_lim* and *out_link_act_lim* must not exceed *tot_link_act_lim*; the difference between *inb_link_act_lim* and *tot_link_act_lim* defines the maximum number of links that can be activated outbound at any time.

out_link_act_lim

Outbound link activation limit (the number of links reserved for outbound activation). The sum of *inb_link_act_lim* and *out_link_act_lim* must not exceed *tot_link_act_lim*; the difference between *out_link_act_lim* and *tot_link_act_lim* defines the maximum number of links that can be activated inbound at any time.

act_xid_exchange_limit

Activation XID exchange limit. Specify a value in the range 1-65,535.

nonact_xid_exchange_limit

Nonactivation XID exchange limit. Specify a value in the range 1-65,535.

max_ifrm_rcvd

Maximum number of I-frames that can be received by the local link stations before an acknowledgment is sent. Specify a value in the range 1-127.

target_pacing_count

Indicates the desired pacing window size. Specify a value in the range 1-32,767.

max_send_btu_size

Maximum BTU size that can be sent from this port. This value is used to negotiate the maximum BTU size that a pair of link stations can use to communicate with each other. The value includes the length of the TH and RH (total 9 bytes), as well as the RU. Specify a value in the range 265-65,535.

ip_version

Specifies whether link stations on this port use IPv4 or IPv6 addresses. All link stations that use the port must use the same type of address. You cannot change this parameter if one or more link stations already use this port. Possible values:

IPV4

Link stations on this port use IPv4 addresses.

IPV6

Link stations on this port use IPv6 addresses.

implicit_cp_cp_sess_support

Specifies whether CP-CP sessions are allowed for implicit link stations using this port. Possible values are:

YES

CP-CP sessions are allowed for implicit link stations.

NO

CP-CP sessions are not allowed for implicit link stations.

implicit_limited_resource

Specifies whether implicit link stations off this port are defined as limited resources. Possible values are:

NO

Implicit links are not limited resources and are not automatically deactivated.

NO_SESSIONS

Implicit links are limited resources and are automatically deactivated when no active sessions are using them.

INACTIVITY

Implicit links are limited resources and are automatically deactivated when no active sessions are using them or when no data has flowed for the time period specified by the *implicit_deact_timer* parameter.

- If no SSCP-PU session is active across the link, the node deactivates the link immediately.
- If an SSCP-PU session is active but no traffic has flowed for the specified time period, the node sends REQDISCONT(normal) to the host. The host is then responsible for deactivating all LUs and the PU, at which time the local node will deactivate the link. However, the host may not deactivate LUs with active PLU-SLU sessions; in this case, the link remains active until all these sessions are deactivated (for example by the user logging out). This behavior can be changed by using options in the *ptf_flags* parameter of the *define_node* command.

implicit_deact_timer

Implicit limited resource link deactivation timer, in seconds.

If *implicit_limited_resource* is set to NO_SESSIONS, then the implicit link is automatically deactivated if no data flows on it for the time specified by this parameter and no sessions are using the link.

If *implicit_limited_resource* is set to INACTIVITY, an implicit link using this port is automatically deactivated if no data flows on it for the time specified by this parameter.

The minimum value is 5; values in the range 1-4 will be interpreted as 5. The value 0 (zero) indicates no timeout (the link is not deactivated, as though *implicit_limited_resource* were set to NO). This parameter is reserved if *implicit_limited_resource* is set to NO.

implicit_uplink_to_en

This parameter applies only if the local node is a Branch Network Node; it is reserved if the local node is any other type.

If the adjacent node is an end node, this parameter specifies whether implicit link stations off this port are uplink or downlink. This parameter is ignored if there are existing links to the same adjacent node, because in this case the existing links are used to determine the link type. Possible values are:

YES

Implicit links to an End Node are uplinks.

NO

Implicit links to an End Node are downlinks.

effect_cap through user_def_parm_3

Default TG characteristics used for implicit link stations using this port and as the default TG characteristics for defined link stations that do not have explicitly defined TG characteristics. The TG characteristics parameters are ignored if the LS is to a downstream PU.

For more information about these parameters, see “[define_ip_ls](#)” on page 58.

initially_active

Specifies whether this port is automatically started when the node is started. Possible values are:

YES

The port is automatically started when the node is started.

NO

The port is automatically started only if an LS that uses the port is defined as initially active; otherwise, it must be manually started.

implicit_ls_limit

Specifies the maximum number of implicit link stations which can be active on this port simultaneously, including dynamic links and links activated for Discovery. Specify a value in the range 1-65, 534 or specify 0 (zero) to indicate no limit. A value of NO_IMPLICIT_LINKS indicates that no implicit links are allowed.

define_ip_port

liveness_timeout through short_hold_mode

For more information about these parameters, see “[define_ip_ls](#)” on page 58. When the LS name is not initially known, the values specified on `define_ip_port` are used as defaults for processing incoming calls.

local_ip_interface

Identifier for the local network adapter card to be used for the IP link, if you have access to multiple IP networks. If you have access to only one IP network, there is no need to specify this identifier.

If you need to specify the interface, you can use any of the following.

- An interface identifier (such as `eth0` or `en0`).
- An IPv4 dotted-decimal address (such as `193.1.11.100`).
- An IPv6 colon-hexadecimal address (such as `2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab` or `2001:db8::1428:57ab`).

To determine the interface identifier, run the command `ipconfig - a` on the server where the card is installed. This lists the interface identifiers and their associated IP addresses.

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PORT_NAME

`port_name` パラメーターで指定した値は無効です。

INVALID_DLC_NAME

指定した `dlc_name` と一致する定義済み DLC がありません。

INVALID_BTU_SIZE

`max_rcv_btu_size` パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LINK_ACTIVE_LIMIT

活動化限度パラメーター `inb_link_act_lim`、`out_link_act_lim`、または `tot_link_act_lim` のいずれかが、正しい値に設定されていません。

INVALID_MAX_IFRM_RCVD

`max_ifrm_rcvd` パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_IP_VERSION

1 つ以上のリンク・ステーションが使用する既存のポートで、`version` パラメーターが変更されています。ポートに関連する任意のリンク・ステーションがある場合は、このパラメーターを変更できません。

UNKNOWN_IP_HOST

`remote_hostname` パラメーターに対して指定したストリングは、有効な IP アドレスに解決できません。

INVALID_IMPLICIT_UPLINK

implicit_uplink_to_en パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

PORT_ACTIVE
指定したポートは、現在活動状態であるため変更できません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

着呼

着呼を受け入れるポートを構成する場合 (*tot_link_act_lim*、*inb_link_act_lim*、および *out_link_act_lim* パラメーターで指定)、これらの着呼で使用する LS を定義する必要はありません。CS/AIX は、着呼の受信時に LS を動的に定義します。

着呼がポートに達すると、CS/AIX は、ポート上で定義されたリンク・ステーションに対して指定されたアドレス (ある場合) に照らして、着呼上で指定されたアドレスを検査して、LS がこの着呼に対して既に定義されているかどうかを判別します。アドレスが一致しない場合、LS は動的に定義されます。明示的な LS 定義が使用されるようにするには、この LS に対して定義されたアドレスが、着呼上でリモート・コンピューターによって提供されるアドレスと一致する必要があります。

define_local_lu

`define_local_lu` コマンドは、新規ローカル LU を定義します。このコマンドは、既存の LU、またはローカル・ノードの制御点に関連付けられた デフォルトの LU の、*disable*、*description*、*sys_name*、または *timeout* パラメーターを変更する場合にも使用できます。ただし、他のパラメーターを変更することはできません。既存の LU を変更する場合、変更できない他のすべてのパラメーターは、現在定義されている値に設定する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_local_lu]			
lu_name	character	8	
description	character	31	(null string)
list_name	character	14	(null string)
lu_alias	character	8	
nau_address	decimal		0
syncpt_support	constant		NO
lu_session_limit	decimal		0
default_pool	constant		NO
pu_name	character	8	(null string)
lu_attributes	constant		NONE
sscp_id	decimal		0
disable	constant		NO
sys_name	character	128	(null string)
timeout	decimal		60

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

ローカル LU の名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。他のいずれのローカル LU 名、またはいずれのパートナー LU の完全修飾パートナー LU 名とも一致してはなりません。

define_local_lu

ローカル・ノードの制御点に関連付けられたデフォルトの LU を変更する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

description

ローカル LU について説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、`query_local_lu` コマンドで戻されます。

list_name

このローカル LU で使用されるセキュリティー・アクセス・リストの名前 (`define_security_access_list` コマンドを使用して定義)。このパラメーターは、指定リストに指定されているユーザーのみが LU を使用できるように制限します。すべてのユーザーが LU を使用できるように指定する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

lu_alias

ローカル LU の別名。この別名は、ローカルの表示可能文字を使用する文字ストリングです。

nau_address

LU のネットワーク・アクセス可能装置アドレス。LU が独立 LU である場合は 0 (ゼロ) を指定し、LU が従属 LU である場合は 1 から 255 の範囲のアドレスを指定します。

syncpt_support

LU が同期点機能をサポートするかどうかを指定します。このパラメーターは、標準の CS/AIX 製品以外に同期点マネージャー (SPM) および会話保護リソース・マネージャー (C-PRM) がある場合にのみ、YES に設定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

同期点機能はサポートされます。

NO

同期点機能はサポートされません。

lu_session_limit

LU でサポートされているセッションの最大総数 (モード間)。

従属 LU の場合、このパラメーターは 1 に設定しなければなりません。独立 LU の場合は、セッション無制限を示す 0 (ゼロ) を指定するか、1 から 65,535 の範囲で値を指定します。

明示的な限度を指定する場合は、以下の点に注意してください。

- LU が並列セッション・リモート LU と通信する場合、セッション限度には、CNOS 折衝のために十分なセッションが含まれる必要がある。安全な最小値は 3 セッションです。または、パートナー LU ごとにさらに 2 セッション追加してもかまいません。
- LU セッション限度は、LU が使用するすべてのモードのセッション限度の合計以上である必要がある。

default_pool

LU がデフォルトの従属 LU のプールに存在するかどうかを指定します。LU が独立指定 LU である場合は、このパラメーターを指定しないでください。可能な値は次のいずれかです。

YES

LU はデフォルトの LU のプールに存在し、LU 名を指定しないアプリケーションで使用することができます。

NO

LU はプールに存在しません。

pu_name

この LU が使用する PU の名前。このパラメーターは、従属 LU でのみ使用されます。独立 LU に対しては指定しないでください。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

lu_attributes

LU に関する追加情報を識別します。可能な値は次のいずれかです。

NONE

追加情報は識別されません。

DISABLE_PASSWORD_SUBSTITUTION

ローカル LU のパスワード置換サポートを使用不可にします。パスワード置換とは、パスワードが、平文として送信されるのではなく、ローカル LU とリモート LU の間で伝送を行う前に暗号化されることを意味します。CS/AIX は、通常、リモート・システムでパスワード置換がサポートされている場合はパスワード置換を使用します。

この値は、パスワード置換を正常にインプリメントしない一部のリモート・システムと通信するための予備手段として提供されています。このオプションを使用する場合は、パスワードが平文で送受信されることに注意してください(セキュリティー・リスクを伴う可能性があります)。このオプションは、リモート・システムにおけるパスワード置換のインプリメンテーションに関して問題がある場合以外は設定しないでください。

sscp_id

この LU の活動化を許可された SSCP の ID を指定します。この ID は、6 バイトのバイナリー・ストリングです。このパラメーターは、従属 LU でのみ使用され、LU が独立 LU であるか、または LU が任意の SSCP によって活動化可能な場合は、すべて 2 進ゼロに設定されます。

disable

ローカル LU を使用不可にするか、または使用可能にするかを指定します。このフィールドは従属 LU6.2 LU でのみ使用され、それ以外の場合は予約済みとなります。可能な値は次のいずれかです。

YES

ローカル LU を使用不可にします。

NO

ローカル LU を使用可能にします。

sys_name

このローカル LU に到達する着信割り振り要求 (パートナー TP からの、APPC または CPI-C 会話の開始要求) のターゲット・コンピューターの名前。

ターゲット TP が、ブロードキャスト待機 TP (サーバーが着呼 Allocate 要求をこの TP に送付できるように、開始時にその位置が通知される) であるか、またはこの LU を所有するノードとして常時同じ CS/AIX サーバー上で実行される場合は、このパラメーターを指定しないでください。それ以外の場合は、TP が実行されるコンピューターの名前に設定してください。

この名前は別名か、または完全修飾名のいずれかにする必要があります。IP アドレスは指定できません。この名前に . (ピリオド) の文字が含まれている場合、CS/AIX は、これが完全修飾名であると想定します。含まれていない場合は、DNS ルックアップを実行してコンピューター名を判別します。

タイムアウト

動的ロード要求のタイムアウト値。起動された TP がこの時間内に RECEIVE_ALLOCATE (APPC)、Accept_Conversation、または Accept_Incoming (CPI-C) verb を発行しなかった場合、要求はタイムアウトとなります。タイムアウト値 (秒単位) を指定するか、またはタイムアウトがないことを示す -1 (動的ロード要求は無期限に待機) を指定します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_DISABLE

disable パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_NAU_ADDRESS

nau_address パラメーターは、有効範囲内にありません。

INVALID_SESSION_LIMIT

lu_session_limit パラメーターは、有効範囲内にありません。

INVALID_TIMEOUT

timeout パラメーターは、有効範囲内にありません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

lu_name または *lu_alias* パラメーターに無効な文字が含まれているか、LU 名がパートナー LU の完全修飾名と一致しています。

LU_ALREADY_DEFINED

この名前の LU は、すでに定義済みです。接続ルーティング・データの場合を除き、既存の LU のパラメーターを変更するためにこのコマンドを使用することはできません。

PU_NOT_DEFINED

pu_name パラメーターは、定義済みの PU 名と一致しません。

SECURITY_LIST_NOT_DEFINED

security_list_name パラメーターは、定義済みのセキュリティー・アクセス・リスト名と一致しません。

LU_ALIAS_ALREADY_USED

この別名の LU は、すでに定義済みです。接続ルーティング・データの場合を除き、既存の LU のパラメーターを変更するためにこのコマンドを使用することはできません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_ls_routing

`define_ls_routing` コマンドは、リンク・ステーションを使用するパートナー LU の位置を定義します。

注:

`define_ls_routing` は、Enterprise Extender (HPR/IP) リンク・ステーションでは使用できません。これは、このリンク・タイプのすべてのトラフィックは RTP 接続上を流れる必要があり、この接続は特定のリンク・ステーションに固定されず、別のパスに切り替えることができるためです。

指定パラメーター

Parameter name [define_ls_routing]	Type	Length	Default
lu_name	character	8	
fq_partner_lu	character	17	
wildcard_fqplu	constant		NO
ls_name	character	8	

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

ls_name パラメーターで指定したリンクを介してパートナー LU (*fq_partner_lu* パラメーターで指定) と通信するローカル LU の名前。この名前は、8 バイトのタイプ A の文字ストリングです。

fq_partner_lu

ls_name パラメーターで指定したリンクを介してローカル LU (*lu_name* パラメーターで指定) が通信するパートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 のタイプ A の文字ストリングを指定します。

名前の一部のみを指定し、*wildcard_fqplu* パラメーターを YES に設定すると、ワイルドカード・パートナー LU 名の一部または全体を指定することができます。例えば、以下のようになります。

- APPN.NEW は、APPN.NEW1、APPN.NEWLU などと一致する。
- APPN. は、LU 名にかかわらず、ネットワーク名 APPN を持つすべての LU と一致する。
- APPN は、APPN.NEW1、APPNNEW.LUTWO など、APPN で始まるネットワーク名を持つすべての LU と一致する。

すべてのパートナー LU が同じリンクを使用してアクセスされるようにワイルドカード・エン트리全体を指定する場合は、*wildcard_fqplu* を YES に設定し、*fq_partner_lu* は指定しないでください。

wildcard_fqplu

fq_partner_lu パラメーターにワイルドカードの全体または一部が含まれているかどうかを示すワイルドカード・パートナー LU フラグ。可能な値は次のいずれかです。

YES

fq_partner_lu パラメーターには、ワイルドカード・エンتریが含まれています。

NO

fq_partner_lu パラメーターには、ワイルドカード・エンتریが含まれていません。

ls_name

ローカル LU (*lu_name* パラメーターで指定) とパートナー LU (*fq_partner_lu* パラメーターで指定) の間で通信を行うために使用されるリンク・ステーションの名前。1 から 8 文字のローカルで表示可能な文字を指定します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

define_lu_0_to_3

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_PLU_NAME

fq_partner_lu パラメーターに無効な文字が含まれているか、または名前が完全修飾されていません。

INVALID_WILDCARD_NAME

wildcard_fqplu パラメーターが指定されましたが、*fq_partner_lu* パラメーターは有効なワイルドカード名ではありません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターによって識別されるローカル LU は存在しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_lu_0_to_3

`define_lu_0_to_3` コマンドは、3270 エミュレーションまたは LUA (タイプ 0、1、2、または 3 の LU) とともに使用するために LU を定義し、オプションで LU を LU プールに割り当てます。

既存の LU を変更するためにこのコマンドを使用する場合、変更できるパラメーターは *description*、*priority*、および *lu_model* のみです。その他のパラメーターは、それぞれ既存の値に設定する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[<code>define_lu_0_to_3</code>]			
<i>lu_name</i>	character	8	
<i>description</i>	character	31	(null string)
<i>nau_address</i>	decimal	2	
<i>pool_name</i>	character	8	(null string)
<i>pu_name</i>	character	8	
<i>priority</i>	constant		MEDIUM
<i>lu_model</i>	constant		UNKNOWN
<i>sscp_id</i>	decimal		0
<i>timeout</i>	decimal		0
<i>term_method</i>	constant		
<i>disconnect_on_unbind</i>	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

定義するローカル LU の名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

description

LU について説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、`query_lu_0_to_3` コマンドで戻されます。

nau_address

LU のネットワーク・アクセス可能装置アドレス。このアドレスは、1 から 255 の範囲の数値です。

pool_name

この LU が属するプールの名前。この名前は、8 バイトのタイプ A の文字ストリングです。指定名を持つプールがまだ定義されていない場合、CS/AIX は、この名前を持つ新規プールを追加し、LU をこのプールに割り当てます。

LU がプールに属していない場合は、このパラメーターを指定しないでください。

pu_name

この LU が使用する PU の名前 (define_*_ls を使用して定義)。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

priority

ホストへの送信時の LU 優先順位。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK

LU はネットワーク上の優先権を持ちます。

HIGH

LU は高い優先順位を持ちます。

MEDIUM

LU は中程度の優先順位を持ちます。

LOW

LU は低い優先順位を持ちます。

lu_model

LU のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

3270_DISPLAY_MODEL_2

LU タイプは 3270 ディスプレイ・モデル 2 です。

3270_DISPLAY_MODEL_3

LU タイプは 3270 ディスプレイ・モデル 3 です。

3270_DISPLAY_MODEL_4

LU タイプは 3270 ディスプレイ・モデル 4 です。

3270_DISPLAY_MODEL_5

LU タイプは 3270 ディスプレイ・モデル 5 です。

PRINTER

LU タイプはプリンターです。

SCS_PRINTER

LU タイプは SCS プリンターです。

RJE_WKSTN

LU タイプは RJE ワークステーションです。

UNKNOWN

LU タイプが不明です。LU タイプは、ホストへのセッションの確立時に判別されます。

3270 エミュレーション用の LU を使用しない場合、明示的な LU タイプを指定する必要はありません。このパラメーターは UNKNOWN に設定します。

ユーザーが指定する値に応じて、CS/AIX は、標準の VTAM テーブルで使用される値と一致する、以下のストリングのいずれかを DDDLUNMVT のホストへ送信します。

- 3270_DISPLAY_MODEL_2 の場合は 3270002
- 3270_DISPLAY_MODEL_3 の場合は 3270003
- 3270_DISPLAY_MODEL_4 の場合は 3270004
- 3270_DISPLAY_MODEL_5 の場合は 3270005
- PRINTER の場合は 3270DSC

- SCS_PRINTER の場合は 3270SCS
- RJE_WKSTN の場合は 3270000
- TN3270 クライアントで UNKNOWN の場合は 327000n、ここで n はクライアントが提供する型式番号 (2 ~ 5) です。
- LUA クライアントで UNKNOWN の場合は 327000@

ホスト・システムが従属 LU の動的定義 (DDDLU) をサポートしている場合、CS/AIX は、ホストへの通信リンクが確立されるときに、そのホストで LU を動的に定義します。TN3270 クライアントの場合は、このパラメーターを UNKNOWN に設定します。CS/AIX は、クライアントによって指定された端末タイプ (装置タイプ) からの標準マッピングを使用して、LU モデルを判別します。このマッピングを変更する必要がある場合、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 管理ガイド*」に記載されているように、tn3270dev.dat ファイルを使用して、この変更を行うことができます。

ホストが DDDLU をサポートしていない場合、この LU はホスト構成に含まれていなければなりません。

sscp_id

この LU の活動化を許可された SSCP の ID を指定します。0 から 65,535 の範囲内で値を指定します。このパラメーターが 0 (ゼロ) に設定されている場合、LU は任意の SSCP によって活動化することができます。

タイムアウト

LU のタイムアウト (秒単位)。タイムアウトがゼロ以外の値に設定されており、LU のユーザーがセッション非活動タイムアウトを使用する場合、LU は、PLU-SLU セッションが指定時間非活動状態になり、かつ以下のいずれかの状態になっている場合に非活動化されます。

- セッションが限定リソース・リンクを通過する。
- 別のアプリケーションが、セッションを再度使用する前に LU を使用するよう要求する。

タイムアウトが 0 (ゼロ) に設定されている場合、LU は非活動化されません。

セッション非活動化タイムアウトをサポートするかどうかは、LU を使用するアプリケーション (3270 エミュレーション・プログラムなど) によって決まります。LU が SNA ゲートウェイによって使用される場合、セッション非活動化タイムアウトは、define_downstream_lu コマンドで allow_timeout を指定した場合にのみサポートされます。

term_method

このパラメーターは、CS/AIX がこの LU からホストへの PLU-SLU セッションの終了を試行する方法を指定します。可能な値は次のいずれかです。

USE_NODE_DEFAULT

ノードのデフォルトの終了方式 (define_node の send_term_self パラメーターで指定) を使用します。

SEND_UNBIND

UNBIND を送信してセッションを終了します。

SEND_TERM_SELF

TERM_SELF を送信してセッションを終了します。

disconnect_on_unbind

このパラメーターは、この LU が TN3270 クライアントによって使用される場合のみ適用されます。これは、ホストが VTAM MSG10 を表示するか、またはホスト・セッション・マネージャーに戻る代わりに、UNBIND を送信するときにセッションを終了させるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ホストがタイプ 2 (BIND が用意されている) でない UNBIND を送信する場合は、セッションを終了させます。

NO

ホストが UNBIND を送信してもセッションを終了させません。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_POOL_NAME

pool_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_NAU_ADDRESS

nau_address パラメーターは、有効範囲内にありません。

INVALID_PRIORITY

priority パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_TERM_METHOD

term_method パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PU_NAME

pu_name パラメーターで指定した値は無効です。

PU_NOT_DEFINED

pu_name パラメーターは、定義済みの PU 名と一致しません。

INVALID_PU_TYPE

pu_name パラメーターで指定した PU は、ホスト PU ではありません。

LU_NAME_POOL_NAME_CLASH

LU 名は、LU プールの名前と一致します。

LU_ALREADY_DEFD

指定した名前の LU は、すでに定義済みです。

LU_NAU_ADDR_ALREADY_DEFD

指定した NAU アドレスの LU は、すでに定義済みです。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_lu_0_to_3_range

define_lu_0_to_3_range コマンドは、3270 エミュレーションまたは LUA (タイプ 0、1、2、または 3 の LU) とともに使用するために LU の範囲を定義し、オプションで LU を LU プールに割り当てます。このコマンドは、既存の LU を変更するために使用することはできません。

提供されたパラメーターには、新規 LU のベース・ネームと NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレスの範囲が含まれています。新規 LU 名は、ベース・ネームを NAU アドレス (または、定義済みの基本数) と組み合わせて生成されます。例えば、LUNME のベース・ネームを 11 から 14 の NAU 範囲と組み合わせた場合、LU は LUNME011、LUNME012、LUNME013、および LUNME014 として定義されます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_lu_0_to_3_range]			
base_name	character	6	
description	character	31	(null string)
min_nau	decimal		1
max_nau	decimal		1
pool_name	character	8	(null string)
pu_name	character	8	
priority	constant		MEDIUM
lu_model	constant		UNKNOWN
sscp_id	decimal		0
timeout	decimal		0
name_attributes	constant		NONE
base_number	decimal		0
term_method	constant		
disconnect_on_unbind	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

base_name

新規 LU の名前のベース・ネーム。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

- *name_attributes* パラメーターが USE_HEX_IN_NAME に設定されている場合、この名前は最大 6 文字の長さになる。CS/AIX は、2 桁の 16 進数をこの名前に付加して、LU ごとに LU 名を生成します (*base_number* パラメーターで指定したベース・ナンバーから開始)。
- それ以外の場合、この名前は最大 5 文字の長さになる。CS/AIX は、3 桁の 10 進数をこの名前に付加して、LU ごとに LU 名を生成します (*name_attributes* パラメーターで指定したとおり、NAU アドレスまたは定義済みのベース・ナンバーから取得)。

name_attributes パラメーターで USE_HEX_IN_NAME を指定した場合、*base_name* パラメーターは 6 文字含むことができます。

description

LU について説明するテキスト・ストリング。範囲内のそれぞれの LU に対して同じストリングが使用されます。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_lu_0_to_3 コマンドで戻されます。

min_nau

1 から 255 の範囲内の、最初の LU の NAU アドレス。

max_nau

1 から 255 の範囲内の、最後の LU の NAU アドレス。

pool_name

これらの LU が属するプールの名前。この名前は、8 バイトのタイプ A の文字ストリングです。指定名を持つプールがまだ定義されていない場合、CS/AIX は、この名前を持つ新規プールを追加し、LU をこのプールに割り当てます。

LU がプールに属していない場合は、このパラメーターを指定しないでください。

pu_name

これらの LU が使用する PU の名前 (define_*_ls を使用して定義)。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

priority

ホストへの送信時の LU 優先順位。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK

LU はネットワーク上の優先権を持ちます。

HIGH

LU は高い優先順位を持ちます。

MEDIUM

LU は中程度の優先順位を持ちます。

LOW

LU は低い優先順位を持ちます。

lu_model

LU のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

3270_DISPLAY_MODEL_2

LU タイプは 3270 ディスプレイ・モデル 2 です。

3270_DISPLAY_MODEL_3

LU タイプは 3270 ディスプレイ・モデル 3 です。

3270_DISPLAY_MODEL_4

LU タイプは 3270 ディスプレイ・モデル 4 です。

3270_DISPLAY_MODEL_5

LU タイプは 3270 ディスプレイ・モデル 5 です。

PRINTER

LU タイプはプリンターです。

SCS_PRINTER

LU タイプは SCS プリンターです。

RJE_WKSTN

LU タイプは RJE ワークステーションです。

UNKNOWN

LU タイプが不明です。(LU タイプは、ホストへのセッションの確立時に判別されます。)

3270 エミュレーション用の LU を使用しない場合、明示的な LU タイプを指定する必要はありません。このパラメーターは UNKNOWN に設定します。

ユーザーが指定する値に応じて、CS/AIX は、標準の VTAM テーブルで使用される値と一致する、以下のストリングのいずれかを DDDL U NMVT のホストへ送信します。

- 3270_DISPLAY_MODEL_2 の場合は 3270002
- 3270_DISPLAY_MODEL_3 の場合は 3270003
- 3270_DISPLAY_MODEL_4 の場合は 3270004
- 3270_DISPLAY_MODEL_5 の場合は 3270005
- PRINTER の場合は 3270DSC
- SCS_PRINTER の場合は 3270SCS
- RJE_WKSTN の場合は 3270000
- TN3270 クライアントで UNKNOWN の場合は 327000n、ここで n はクライアントが提供する型式番号 (2 ~ 5) です。
- LUA クライアントで UNKNOWN の場合は 327000@

ホスト・システムが従属 LU の動的定義 (DDL U) をサポートしている場合、CS/AIX は、ホストへの通信リンクが確立されるときに、そのホストで LU を動的に定義します。TN3270 クライアントの場合は、このパラメーターを UNKNOWN に設定します。CS/AIX は、クライアントによって指定された端末タイプ (装置タイプ) からの標準マッピングを使用して、LU モデルを判別します。このマッピングを変更

する必要がある場合、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 管理ガイド*」に記載されているように、`tn3270dev.dat` ファイルを使用して、この変更を行うことができます。

ホストが DDDLU をサポートしていないか、またはこのパラメーターが UNKNOWN に設定されている場合は、LU をホスト構成に組み込む必要があります。

sscp_id

この LU の活動化を許可された SSCP の ID を指定します。0 から 65,535 の範囲内で値を指定します。このパラメーターが 0 (ゼロ) に設定されている場合、LU は任意の SSCP によって活動化することができます。

タイムアウト

LU のタイムアウト (秒単位)。タイムアウトがゼロ以外の値に設定されており、LU のユーザーがセッション非活動タイムアウトを使用する場合、LU は、PLU-SLU セッションが指定時間非活動状態になり、かつ以下のいずれかの状態になっている場合に非活動化されます。

- セッションが限定リソース・リンクを通過する。
- 別のアプリケーションが、セッションを再度使用する前に LU を使用するよう要求する。

タイムアウトが 0 (ゼロ) に設定されている場合、LU は非活動化されません。

セッション非活動化タイムアウトをサポートするかどうかは、LU を使用するアプリケーション (3270 エミュレーション・プログラムなど) によって決まります。LU が SNA ゲートウェイによって使用される場合、セッション非活動化タイムアウトは、`define_downstream_lu` コマンドで `allow_timeout` を指定した場合にのみサポートされます。

name_attributes

LU の名前属性を指定します。可能な値は次のいずれかです。

NONE

LU 名の番号は、NAU 番号に対応しています。この番号は 10 進数で指定され、`base_name` パラメーターには 5 文字までのみ含めることができます。

USE_BASE_NUMBER

`base_number` パラメーターで指定した値の範囲内で LU の命名を開始します。

USE_HEX_IN_NAME

10 進数ではなく 16 進数の LU 名を使用できるように拡張します。この値が指定されている場合、`base_name` パラメーターには最大 6 文字含めることができます。

USE_TWO_DECIMAL_DIGITS

2 桁の数字を使用する拡張を LU 名に追加します (このオプションがなければ 3 桁が使用されます)。この属性が使用されると、この範囲で定義できる LU は最大で 99 です。この値が指定されている場合、`base_name` パラメーターには最大 6 文字含めることができます。

base_number

`name_attributes` パラメーターで `USE_BASE_NUMBER` を指定した場合、範囲内で LU の命名を開始する番号を指定します。この値は、`min_nau` パラメーター値の代わりに使用されます。

term_method

このパラメーターは、CS/AIX がこの LU からホストへの PLU-SLU セッションの終了を試行する方法を指定します。可能な値は次のいずれかです。

USE_NODE_DEFAULT

ノードのデフォルトの終了方式 (`define_node` の `send_term_self` パラメーターで指定) を使用します。

SEND_UNBIND

UNBIND を送信してセッションを終了します。

SEND_TERM_SELF

TERM_SELF を送信してセッションを終了します。

disconnect_on_unbind

このパラメーターは、この範囲の LU が TN3270 クライアントによって使用される場合のみ適用されます。これは、ホストが VTAM MSG10 を表示するか、またはホスト・セッション・マネージャーに戻る

代わりに、UNBIND を送信するときにセッションを終了させるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ホストがタイプ 2 (BIND が用意されている) でない UNBIND を送信する場合は、セッションを終了させます。

NO

ホストが UNBIND を送信してもセッションを終了させません。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

base_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_POOL_NAME

pool_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_NAU_ADDRESS

1 つ以上の NAU アドレスが有効範囲内にありません。

INVALID_PRIORITY

priority パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_TERM_METHOD

term_method パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PU_NAME

pu_name パラメーター値が無効です。

PU_NOT_DEFINED

pu_name パラメーターは、定義済みの PU 名と一致しません。

INVALID_PU_TYPE

pu_name パラメーターで指定した PU は、ホスト PU ではありません。

LU_NAME_POOL_NAME_CLASH

範囲内の LU 名の 1 つが、LU プールの名前と一致します。

define_lu_lu_password

LU_ALREADY_DEFINED

範囲内のいずれかの LU の名前を持つ LU がすでに定義されています。

LU_NAU_ADDR_ALREADY_DEFD

範囲内のいずれかの LU のアドレスを持つ LU がすでに定義されています。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_lu_lu_password

define_lu_lu_password コマンドは、ローカル LU とパートナー LU の間のセッション・レベル・セキュリティ検査用にパスワードを提供します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_lu_lu_password]			
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
fqplu_name	character	17	
description	character	31	(null string)
password	hex array	8	
verification_protocol	constant		EITHER

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU 名ではなく LU 別名によって LU が定義されていることを示す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

lu_alias

ローカル LU の LU 別名。この別名は、ローカルの表示可能文字を使用する文字ストリングです。
lu_name が指定されていない場合にのみ使用します。

lu_name および *lu_alias* が指定されていない場合、このコマンドは、CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU に転送されます。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

description

パスワードについて説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、`query_lu_lu_password` コマンドで戻されます。

パスワード

パスワード。パスワードは、EBCDIC 形式の文字ストリング (8 バイトの 16 進数ストリングとして表される) で、すべて空白またはすべてゼロに設定することはできません。このストリングは、リモート・システム上のパートナー LU に対して構成された対応するパラメーターと一致する必要があります。ただし、セッション・レベル・セキュリティ検査では各バイトの最小重みビット (LSb) は使用されず、一致する必要はありません。

コマンド行でこのパラメーターに入力すると、入力した値は、即時に暗号化されたバージョンのパスワードで置き換えられます。このため、*password* パラメーターに指定した値は、コマンド行に表示されません。

verification_protocol

使用する要求 LU-LU 検査プロトコル。可能な値は次のいずれかです。

BASIC

基本 LU-LU 検査プロトコルを使用します。

ENHANCED

拡張 LU-LU 検査プロトコルを使用します。

EITHER

基本検査または拡張検査のいずれかが受け入れられます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーターが、定義済みの LU 別名と一致しません。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターが、定義済みのローカル LU 名と一致しません。

INVALID_PLU_NAME

fqplu_name パラメーターが、定義済みのパートナー LU 名と一致しません。

INVALID_PASSWORD

password パラメーターはブランクまたは NULL です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_lu_pool

`define_lu_pool` コマンドは、LU プールを定義し、LU をこのプールに割り当てるか、または追加の LU を既存のプールに割り当てるために使用されます。プールに追加する前に LU を定義する必要があります。LU の定義時にプール名を指定して、プールを定義することもできます。詳しくは、78 ページの『`define_lu_0_to_3`』を参照してください。

既存の LU プールから LU を削除する場合は、このコマンドを使用しないでください。この場合、`delete_lu_pool` を使用して LU を削除し、LU プール定義を変更します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[<code>define_lu_pool</code>] <code>pool_name</code>	character	8	

define_lu_pool

description	character	31	(null string)
lu_name	character	8	(null string)

(0 から 10 個の *lu_name* パラメーターが指定可能です。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

pool_name

LU プールの名前。この名前は、8 バイトのタイプ A の文字ストリングです。名前が未定義である場合、CS/AIX はこの名前を使用してプールを作成します。

description

プールについて説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使います。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、`query_lu_pool` コマンドで戻されます。

lu_name

プールに割り当てる LU の名前。LU を追加せずにプールを定義する場合は、LU 名を指定しないでください。

指定した各 LU は、タイプ 0 から 3 の LU としてすでに定義されている必要があります。各 LU 名は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

指定した LU が現在別のプールに割り当てられている場合、CS/AIX はそのプールから LU を削除し (LU は複数のプールに存在できないため)、このコマンドで指定したプールに割り当てます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

指定した 1 つ以上の LU 名が定義済みの LU 名と一致しません。

INVALID_POOL_NAME

pool_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

LU_NAME_POOL_NAME_CLASH

指定したプール名は、LU の名前と一致します。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_lu62_timeout

define_lu62_timeout コマンドは、未使用の LU 6.2 セッションのタイムアウト期間を定義します。各タイムアウトは、指定したリソース・タイプおよびリソース名に対して定義されます。すでに定義されているリソース・タイプと名前のペアに対して define_* コマンドが発行された場合、このコマンドは前の定義を上書きします。新規タイムアウト期間は、定義の変更後に活動化されたセッションでのみ使用されます。

セッションに対して複数の関連タイムアウト期間が定義されている場合は、最短の期間が適用されます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_lu62_timeout]			
resource_type	constant		GLOBAL_TIMEOUT
resource_name	character	17	(null string)
timeout	decimal		

指定パラメーターは、以下のとおりです。

resource_type

定義するタイムアウトのタイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

GLOBAL_TIMEOUT

タイムアウトは、ローカル・ノードのすべての LU 6.2 セッションに適用されます。resource_name パラメーターは、すべてゼロに設定する必要があります。

LOCAL_LU_TIMEOUT

タイムアウトは、resource_name パラメーターで指定したローカル LU のすべての LU 6.2 セッションに適用されます。

PARTNER_LU_TIMEOUT

タイムアウトは、resource_name パラメーターで指定したパートナー LU へのすべての LU 6.2 セッションに適用されます。

MODE_TIMEOUT

タイムアウトは、resource_name パラメーターで指定したモードのすべての LU 6.2 セッションに適用されます。

resource_name

照会するリソースの名前。この値は、以下のいずれかです。

- resource_type が GLOBAL_TIMEOUT に設定されている場合は、このパラメーターを指定しない。
- resource_type が LOCAL_LU_TIMEOUT に設定されている場合は、ローカル LU 名として 1 から 8 文字のタイプ A の文字ストリングを指定する。
- resource_type が PARTNER_LU_TIMEOUT に設定されている場合は、パートナー LU の完全修飾名を指定する。この名前には、1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。
- resource_type が MODE_TIMEOUT に設定されている場合は、モード名として 1 から 8 のタイプ A の文字ストリングを指定する。

list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

タイムアウト

タイムアウト期間 (秒単位)。値 0 (ゼロ) は、セッションが即時に即時にタイムアウトになることを示します。

戻りパラメーター

コマンドが正常に発行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

OK

コマンドは正常に実行されました。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_RESOURCE_TYPE

定義したタイムアウトのタイプは無効です。

INVALID_LU_NAME

resource_type パラメーターは、無効な LU 名を指定しました。

INVALID_PARTNER_LU

resource_type パラメーターは、無効なパートナー LU 名を指定しました。

INVALID_MODE_NAME

resource_type パラメーターは、無効なモード名を指定しました。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_mode

define_mode コマンドは、モード (セッション・グループによって使用されるネットワーク特性のセット) を定義するか、または前に定義したモードを変更します。SNA 定義のモード CPSVCMG を変更したり、SNA 定義のモード SNASVCMG によって使用される COS 名を変更することはできません。

このコマンドを使用して既存のモードを変更する場合、この変更は、変更後にモードを使用し始めるすべてのローカル LU とパートナー LU の新規組み合わせに適用されます。ただし、このモードをすでに使用している LU の組み合わせの場合、ローカル側またはリモート側で CNOS コマンドが次に開始されるまでこの変更は適用されません。

このコマンドは、認識されないモードがすべてマップされるデフォルトの COS を指定する場合にも使用できます。デフォルトの COS が指定されていない場合は、SNA 定義の COS #CONNECT が使用されます。

Supplied parameters

Parameter name	Type	Length	Default
[define_mode] mode_name	character	8	

description	character	31	(null string)
max_ru_size_upp	decimal		1024
receive_pacing_win	decimal		4
default_ru_size	constant		YES
max_neg_sess_lim	decimal		32767
plu_mode_session_limit	decimal		2
min_conwin_src	decimal		1
cos_name	character	8	#CONNECT
compression	constant		PROHIBITED
auto_act	decimal		0
min_conloser_src	decimal		0
max_ru_size_low	decimal		0
max_receive_pacing_win	decimal		0
max_compress_level	constant		
max_decompress_level	constant		

Supplied parameters are:

mode_name

Name of the mode. This name is an 8-byte type-A character string starting with a letter, or starting with # for one of the SNA-defined modes such as #INTER. For information about SNA-defined modes, see the *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX Administration Guide*. If the name is shorter than eight characters, spaces are added to the right to complete the string.

To specify the default COS that will be used for any unrecognized mode names, set this parameter to a pair of angle brackets

(indicating an empty hexadecimal array). In this case, the *cos_name* parameter is taken as the default COS name; all other parameters supplied on this command are ignored.

description

A text string describing the mode. CS/AIX uses this string for information only. It is stored in the node's configuration file and returned on the *query_mode_definition* and *query_mode* commands.

max_ru_size_upp

Upper bound for the maximum size of RUs sent and received on sessions in this mode. The value is used when the maximum RU size is negotiated during session activation.

Specify a value in the range 256-61,440. If the *default_ru_size* parameter is set to YES, this parameter is ignored and the value is not checked.

receive_pacing_win

Session pacing window for sessions using this mode; specify a value in the range 1-63. This is the fixed value for fixed pacing and the initial value for adaptive pacing. The session pacing window is the maximum number of frames that can be received from the partner LU before the local LU must send a response. CS/AIX always uses adaptive pacing unless the adjacent node specifies that it is not supported.

default_ru_size

Specifies whether CS/AIX uses the *max_ru_size_upp* and *max_ru_size_low* parameters to define the maximum RU size. Possible values are:

YES

CS/AIX ignores the *max_ru_size_upp* and *max_ru_size_low* parameters, and sets the upper bound for the maximum RU size to the largest value that can be accommodated in the link BTU size.

NO

CS/AIX uses the *max_ru_size_upp* and *max_ru_size_low* parameters to define the maximum RU size.

max_neg_sess_lim

Maximum number of sessions allowed on this mode between any local LU and partner LU. This value can be lowered for a particular LU-LU-mode combination when issuing *initialize_session_limit* or *change_session_limit*.

define_mode

Specify a value in the range 0-32,767. A value of 0 indicates that CS/AIX should not initiate implicit CNOS exchange when an application attempts to start a session using this mode; session limits must be specified explicitly using `initialize_session_limit`.

plu_mode_session_limit

Default session limit for this mode. This parameter limits the number of sessions on this mode between any one local LU and partner LU pair. This value is used when CNOS (Change Number of Sessions) exchange is initiated implicitly.

Specify a value in the range 0-32,767 (which must not exceed the value in `max_neg_sess_lim`). A value of 0 indicates that CS/AIX should not initiate implicit CNOS exchange when an application attempts to start a session using this mode; session limits must be specified explicitly using `initialize_session_limit`.

If you specify an explicit limit, the LU session limit for any LU that uses this mode must be greater than or equal to the sum of the session limits for all modes that the LU will use.

min_conwin_src

Minimum number of contention winner sessions that a local LU using this mode can activate. This value is used when CNOS (Change Number of Sessions) exchange is initiated either by the remote system or implicitly by CS/AIX. Specify a value in the range 0-32,767. The sum of the `min_conwin_src` and `min_conloser_src` parameters must not exceed `plu_mode_session_limit`.

cos_name

Name of the class of service (COS) to request when activating sessions on this mode. This parameter is a type-A character string.

If the node supports mode-to-cos mapping (as defined by the `mode_to_cos_map_supp` parameter on the `define_node` command), the COS specified by this parameter must be either an SNA-defined COS or a COS previously defined by a `define_cos` command. Otherwise, you do not need to specify this parameter; CS/AIX ignores it.

compression

Specifies whether sessions activated using this mode can use compression. Possible values are:

PROHIBITED

Compression is not supported for sessions using this mode.

REQUESTED

Compression is supported and requested for sessions using this mode. (It is not mandatory; compression will not be used if the BIND from the partner does not request it.)

auto_act

Specifies how many sessions to activate automatically for each pair of LUs that use this mode. This value is used when CNOS (Change Number of Sessions) exchange is initiated implicitly.

The actual number of sessions activated is the minimum of this value and the negotiated minimum number of contention winner sessions for the local LU.

Specify a value in the range 0-32,767.

min_conloser_src

Minimum number of contention loser sessions that can be activated by any one local LU that uses this mode. This value is used when CNOS (Change Number of Sessions) exchange is initiated implicitly.

Specify a value in the range 0-32,767. The sum of the `min_conwin_src` and `min_conloser_src` parameters must not exceed `plu_mode_session_limit`.

max_ru_size_low

Lower bound for the maximum size of RUs sent and received on sessions that use this mode. This parameter is ignored if the value of the `default_ru_size` parameter is YES.

Specify a value in the range 256-61,440 or the value 0 (zero), which means that there is no lower bound.

max_receive_pacing_win

Maximum session pacing window for sessions in this mode. For adaptive pacing, this value is used to limit the receive pacing window that the session will grant. For fixed pacing, this parameter is not used. (CS/AIX always uses adaptive pacing unless the adjacent node specifies that it does not support it.)

Specify a value in the range 0-32,767. Specify the value 0 (zero) to indicate that there is no limit for the pacing window.

max_compress_lvl

Specifies the maximum level of compression that CS/AIX will attempt to negotiate for data flowing from the local node. Possible values are:

- NONE
- RLE
- LZ9
- LZ10

If compression is negotiated using a non-extended BIND, which does not specify a maximum compression level, RLE compression will be used.

max_decompress_lvl

Specifies the maximum level of decompression that CS/AIX will attempt to negotiate for data flowing into the local node. Possible values are:

- NONE
- RLE
- LZ9
- LZ10

If compression is negotiated using a non-extended BIND, which does not specify a maximum compression level, RLE compression will be used.

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

CPSVCMG_ALREADY_DEFD

SNA 定義モード CPSVCMG は変更できません。

INVALID_COS_SNASVCMG_MODE

SNA 定義モード SNASVCMG の COS は変更できません。

INVALID_MAX_RU_SIZE_UPPER

max_ru_size_upper パラメーターは、有効範囲内にありません。

define_node

INVALID_SNASVCMG_MODE_LIMIT

SNA 定義モード SNASVCMG は、セッション限度が 2 で *min_conwin_src* が 1 であるか、セッション限度が 1 で *min_conwin_src* が 0 (ゼロ) であるか、またはセッション限度と *min_conwin_src* の両方が 0 (ゼロ) である必要があります。SNASVCMG を定義するために使用した値が無効です。

MODE_SESS_LIM_EXCEEDS_NEG

plu_mode_session_limit に対して指定した値は、*max_neg_sess_lim* に対して指定した値よりも大きくなります。

INVALID_MAX_RU_SIZE_LOW

max_ru_size_low パラメーターは、有効範囲内にありません。

RU_SIZE_LOW_UPPER_MISMATCH

max_ru_size_low に対して指定した値は、*max_ru_size_upp* に対して指定した値を超えています。

INVALID_MIN_CONLOSERS

min_conloser_src パラメーターは有効範囲内にないか、または *plu_mode_session_limit* よりも大きくなっています。

INVALID_MIN_CONWINNERS

min_conwin_src パラメーターは有効範囲内にないか、または *plu_mode_session_limit* よりも大きくなっています。

INVALID_MIN_CONTENTION_SUM

min_conloser_src パラメーターと *min_conwin_src* パラメーターの合計は、*plu_mode_session_limit* の値を超えています。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_node

`define_node` コマンドは、新規のノードを定義するか、または既存のノードを変更します。このコマンドは、ノードが実行されていないサーバーに対して発行する必要があります。実行中のノードに対して発行することはできません。

コマンド行管理プログラムを使用して最初にノードを構成する (ノードの構成ファイルを作成する) 場合は、`define_node` を最初に発行する必要があります。

ノードを削除するコマンドはありません。ノードの構成全体を削除して新規の構成を作成する場合は、ノードを停止して、ノードの構成ファイルを削除またはリネームします。次に、新規の `define_node` コマンドを非活動状態ノードに対して発行し、新規ノードの構成ファイルを作成します。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_node]			
node_name	character	128	(null string)
description	character	31	(null string)
node_type	constant		END_NODE
fqcp_name	character	17	
cp_alias	character	8	
mode_to_cos_map_supp	constant		YES
mds_supported	constant		YES
node_id	hex array	4	0x07100000
max_locates	decimal		1500
dir_cache_size	decimal		255
max_dir_entries	decimal		0
locate_timeout	decimal		0

reg_with_nn	constant	YES
reg_with_cds	constant	YES
mdu_send_alert_q_size	decimal	100
cos_cache_size	decimal	24
tree_cache_size	decimal	40
tree_cache_use_limit	decimal	40
max_tdm_nodes	decimal	0
max_tdm_tgs	decimal	0
max_isr_sessions	decimal	1000
isr_sessions_upper_threshold	decimal	900
isr_sessions_lower_threshold	decimal	800
isr_max_ru_size	decimal	16384
isr_rcv_pac_window	decimal	8
store_endpt_rscvs	constant	NO
store_isr_rscvs	constant	NO
store_dluir_rscvs	constant	NO
cos_table_version	constant	VERSION_1_COS_TABLES
send_term_self	constant	NO
disable_branch_awareness	constant	NO
cplu_syncpt_support	constant	NO
cplu_attributes	constant	NONE
dlur_support	constant	YES
pu_conc_support	constant	YES
nn_rar	decimal	128
max_ls_exception_events	decimal	0
max_compress_level	constant	LZ10
ptf_flags	constant	NONE
clear_initial_topology	constant	NO

提供されるパラメーター：

ノード名

定義される CS/AIX ノードの名前。この名前は、ノードが実行されているサーバーのコンピューター名と一致する必要があります。

snaadmin プログラムでは、このパラメーターはオプションです。このパラメーターを指定する場合は、コマンドが発行されるノード名 (-n コマンド行オプションを使用して指定) と一致している必要があります。に対して発行されたコマンドで、

コンピューター名に . (ピリオド) 文字が含まれている場合、CS/AIX はその名前が完全修飾名であると見なします。それ以外の場合は、DNS ルックアップを実行してコンピューター名を判別します。

記述

ノードを説明するテキスト・ストリング。CS/AIX はこのストリングを情報にのみ使用します。これはノードの構成ファイルに保管され、照会ノード コマンド に戻されます。

ノード・タイプ

ノードのタイプ。可能な値は次のとおりです

ノード・ノード

ロー・エントリー・ネットワーク (LEN) ノード

エンド・ノード

APPN エンド・ノード

ネットワーク・ノード

APPN ネットワーク・ノード

ブランド・ネットワーク・ノード

APPN 分岐ネットワーク・ノード

fqcp_name

ノードの完全修飾 CP 名。この名前は、1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド文字、および 1 から 8 文字の制御点 (CP) 名で構成されるタイプ A の文字ストリングです。

cp_alias

制御点 (CP) に対してローカルで使用される LU 別名 ルックアップ この別名は、APPC アプリケーションが CP LU にアクセスするために使用することができます。この別名は、1 から 8 文字のストリングです。

余分の余分のマップをサポート

ノードがモードから COS へのマッピングを行うかどうかを指定します。このパラメーターは、ネットワーク・ノードでは無視されます。mode - to-COS マッピングは常にサポートされます。LEN ノードの場合、モードから COS へのマッピングはサポートされていません。可能な値は次のとおりです

そうだ

このノードは、モードから COS へのマッピングを提供します。このノードに定義されたモードには、SNA 定義の COS または `define_cos.` を使用して定義された COS のいずれかを指定する COS 名を関連付ける必要があります。

違う。

このノードでは、モードから COS へのマッピングは提供されません。エンド・ノードのネットワーク・ノード・サーバーは、モードから COS へのマッピングを実行します。

mds_supported

管理サービス (MS) が複数ドメイン・サポート (MDS) および管理サービス機能をサポートするかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

MDS がサポートされている

違う。

MDS はサポートされません。

ノード ID

XID 交換で使用されるノード ID。この ID は、4 バイトの 16 進数ストリングで、ブロック番号 (3 桁の 16 進数字) とノード番号 (5 桁の 16 進数字) から構成されます。

検索の最大数

ノードが同時に処理できる位置指定要求 (応答がまだ受信されていない要求) の最大数。未処理の位置指定要求の数がこの限度に達すると、それ以上の位置指定要求はリジェクトされます。8-65,535 の範囲の値を指定してください。

dir_cache_size

ネットワーク・ノードのみ: ディレクトリー・キャッシュのサイズ。最小サイズは 3 です。
`query_directory_stats` は、適切なサイズの判別に役立ちます。で戻される情報を使用できます。

最大 dir_entries

ディレクトリー項目の最大数。8-65,535 の範囲の値を指定するか、制限を指定しないことを 0 に指定してください。

ロケーション・タイムアウト

ネットワーク検索がタイムアウトになるまでの時間を秒単位で指定します。値 0 (ゼロ) はタイムアウトしないことを示します。

reg_with_nn

エンド・ノードのみ: ノードが開始されたときに、ノードのリソースをネットワーク・ノード・サーバーに登録するかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

ネットワーク・ノード・サーバーにリソースを登録します。エンド・ノードのネットワーク・ノード・サーバーは、宛先指定されたロケーションのみをエンド・ノードに転送します。

違う。

リソースをネットワーク・ノード・サーバーに登録しません。ネットワーク・ノード・サーバーは、すべてのブロードキャスト検索をエンド・ノードに転送します。

reg_with_cds

エンド・ノード: ネットワーク・ノード・サーバーが、エンド・ノード・リソースを中央ディレクトリー・サーバー (CDS) に登録できるようにするかどうかを指定します。`reg_with_nn` を **違う。** に設定すると、このパラメーターは無視されます。

ネットワーク・ノード: オプションでローカル・リソースまたはドメイン・リソースを中央ディレクトリー・サーバー (CDS) に登録できるかどうかを指定します

可能な値は次のとおりです

そうだ

CDS にリソースを登録します。

違う。

リソースを CDS に登録しません。

mds_send_alert_q_size

MDS 送信アラート・キューのサイズ。キューに入れられたアラートの数がこの制限に達すると、CS/AIX はキュー上の最も古いアラートを削除します。キューに入れられたアラートの最小数は 2 です。

cos_cache_size の場合

COS データベース・ウェイト・キャッシュのサイズ。この値は、必要な COS 定義の最大数に設定する必要があります。8-65,535 の範囲の値を指定してください。

ツリー・キャッシュ・サイズ

ネットワーク・ノード: トポロジー・データベース・ルーティング・ツリー・キャッシュのサイズ。最小値は 8 項目です。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

ツリー・キャッシュ・use_limit

ネットワーク・ノード: キャッシュ・ツリーの使用の最大数。この数を超えると、ツリーは破棄され、再計算されます。これにより、ノードは均等な重みのルート間でセッションのバランスを取る低い値を指定すると、活動化の待ち時間が長くなるとロード・バランシングが向上する。使用される最小数は 1 です。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

最大ノード・ノード

ネットワーク・ノード: トポロジー・データベースに保管できるノードの最大数。0 (ゼロ) の値は、ノードの数が無制限であることを示します。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

最大トット *m_tgs*

ネットワーク・ノード: トポロジー・データベースに保管できる TG の最大数。0 (ゼロ) の値は、ノードの数が無制限であることを示します。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

最大 *isr_sessions*

ネットワーク・ノード: ノードが同時に参加できる ISR セッションの最大数。このパラメーターは、エンド・ノードまたは LEN ノード用に予約されています。

isr_sessions_upper_threshold* および *isr_sessions_lower_threshold

ネットワーク・ノード: これらのしきい値は、経路計算で使用するためにネットワーク内の他のノードに報告される、ノードの輻輳状況を制御します。ISR セッションの数が上限しきい値を超える場合、ノード状態は輻輳していない状態から輻輳に変わります。ISR セッション数が下限しきい値を下回ると、ノードの状態は輻輳していない状態に戻ります。下限しきい値は上限しきい値より小さくしなければならず、上限しきい値は最大 *isr_sessions* より小さい値でなければなりません。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、これらのパラメーターは予約済みです。

isr_max_ru_size

ネットワーク・ノードまたは BrNN: 中間セッションまたは DLUR LU-LU セッションでサポートされる最大 RU サイズ。指定された値が有効な RU サイズではない場合 (システム・ネットワーク体系: フォーマットで説明されているように)、CS/AIX はその値を次の有効な値に切り上げます。

エンド・ノード: DLUR LU-LU セッションでサポートされる最大 RU サイズ。

LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

isr_rcv_pac_window

ネットワーク・ノード: 中間セッションの受信ペーシング・ウィンドウ・サイズ (1-63 の範囲) を推奨します。この値は、隣接ノードが適応ペーシングをサポートしていない場合に、中間セッションの 2 次ホップでのみ使用されます。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

ストアの *endpt_rscvs*

エンドポイント・セッションの RSCV を診断の目的で保管するかどうかを指定します。このパラメーターがそうだに設定されている場合は、*query_session* コマンドで RSCV が戻されます。(このパラメーターをそうだに設定すると、エンドポイント・セッションごとに RSCV が保管されます。この追加ストレージは、1 セッション当たり最大 256 バイトにすることができます。) 可能な値は次のとおりです

そうだ

RSCV は診断の目的で保管されます。

違う。

RSCV は診断の目的で保管されません。

ストアの *isr_rscvs*

ネットワーク・ノード: ISR セッションのための RSCV を診断の目的で保管するかどうかを指定します。このパラメーターが そうだ に設定されている場合は、セッションの照会 コマンドで RSCV が戻されます。(このパラメーターを そうだ に設定すると、中間セッション・ルーティング (ISR) セッションごとに RSCV が保管されます。この追加ストレージは、1 セッションあたり最大 256 バイトにすることができます。) 可能な値は以下のとおりです。

そうだ

RSCV は診断の目的で保管されます。

違う。

RSCV は診断の目的で保管されません。

ストア *dlurl_rscvs*

DLUR を使用する各 PLU-SLU セッションの RSCV が診断の目的で保管されるかどうかを指定します。このパラメーターが そうだ に設定されている場合は、`query_dlur_lu` コマンドで RSCV が戻されます。(この値を そうだ に設定すると、DLUR を使用する PLU-SLU セッションごとに RSCV が保管されます。この追加ストレージは、1 セッションあたり最大 256 バイトにすることができます。) 可能な値は次のとおりです

そうだ

RSCV は診断の目的で保管されます。

違う。

RSCV は診断の目的で保管されません。

cos_table_version

ノードによって使用される COS テーブルのバージョンを指定します。次の値のいずれかを指定してください。

バージョン 0 の余力の表

APPN アーキテクチャー 解説書で最初に定義されている COS テーブルを使用してください。

バージョン 1_COS_TABLES

ATM 上で HPR に対して最初に定義された COS テーブルを使用します。

send_term_self

PLU-SLU セッションをホストに終了するためのデフォルト方式を指定します。指定した値は、ノード上のすべてのタイプ 0 から 3 の LU に使用されます。ただし、LU 定義で別の値を指定することによってオーバーライドする場合を除きます。次の値のいずれかを指定してください。

そうだ

CLOSE_PLU_SLU_SEC_RQ の受信時に TERM_SELF を送信します。

違う。

CLOSE_PLU_SLU_SEC_RQ の受信時に UNBIND を送信します。

disable_branch_認知

このパラメーターは、ノード・タイプ が ネットワーク・ノード の場合にのみ適用され、他のノード・タイプ用に予約済みです。

ローカル・ノードが次のいずれかの値を使用して、分岐認識をサポートするかどうかを指定します。APPN オプション・セット 1120。

そうだ

ローカル・ノードはブランチ認識をサポートしていません。このノードと提供される分岐ネットワーク・ノードの間の TG は、ネットワーク・トポロジーには表示されず、ローカル・ノード自体は分岐認識として報告されません。

違う。

ローカル・ノードは分岐認識をサポートします

cplu_syncpt_support

ノードの制御点 LU が同期点機能をサポートするかどうかを指定します。このパラメーターは、`define_local_lu` は、ノードの制御点 LU にのみ適用されます (明示的な LU 定義はありません)。の同期サポート パラメーターと同等です。

このパラメーターを `そうだ` に設定するのは、標準の CS/AIX 製品に加えて、同期点マネージャー (SPM) と会話保護リソース・マネージャー (C-PRM) がある場合のみです。可能な値は次のとおりです

そうだ

同期点がサポートされます。

違う。

同期点はサポートされていません。

cplu_attributes

ノードの制御点 LU に関する追加情報を識別します。このパラメーターは、`define_local_lu` は、ノードの制御点 LU にのみ適用されます (明示的な LU 定義はありません)。の `lu_attributes` パラメーターと同等です。

可能な値は次のとおりです

なし

追加情報はありません。

DISABLE_PWSUB

制御点 LU のパスワード置換サポートを使用不可にします。パスワード置換とは、平文として送信されるのではなく、ローカル LU とリモート LU の間でパスワードが暗号化されることを意味します。通常、CS/AIX は、リモート・システムがパスワード置換をサポートしている場合は、

この値は、パスワード置換を正しく実装しないいくつかのリモート・システムとの通信のために、回避策として提供されます。このオプションを使用する場合は、パスワードを平文で送信および受信する必要があることに注意する必要があります (セキュリティ・リスクを表す可能性があります)。リモート・システムのパスワード置換の実装に問題がない限り、これを設定しないでください。

dlur_support

DLUR をサポートするかどうかを指定 LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。可能な値は次のとおりです

そうだ

DLUR がサポートされている

複数のサブネットを制限する

エンド・ノード: DLUR はサポートされていますが、別のサブネット内の DLUS に接続するために使用されません。マルチサブネット操作が不要な場合は、ネットワーク・ノードでのネットワーク・トラフィックと輻輳を軽減するために、YES の代わりにこの値を使用する必要があります。

この値は、ネットワーク・ノードではサポートされません。

違う。

DLUR はサポートされません。

pu_conc__ サポート

SNA ゲートウェイをサポートするかどうかを指定 可能な値は次のとおりです

そうだ

SNA ゲートウェイがサポートされる。

違う。

SNA ゲートウェイはサポートされません。

nn_rar (

ネットワーク・ノードの経路追加抵抗。この値は、APPN 経路計算で、ノードが中間ホップとして有用であるかどうかを判別するために使用されます。値が高い場合は、このノードが中間ホップとしては使用できないことを示します。値は 0-255 の範囲内でなければなりません。

最大 ls_exception_events

ノードによって記録される LS 例外イベントの最大数。

max_compress_level

LUセッション・データ用にノードによってサポートされる最大圧縮。このパラメーターは、LZ10年(デフォルト)に設定する必要があります。デフォルト以外の値を設定しないでください。

ptf_flags

プログラム一時修正 (ptf) 操作を構成および制御するためのオプション。記述されているオプションが1つも必要でない場合、または以下のいずれか1つ以上の値を指定する場合は、このパラメーターをなしに設定します。2つ以上の値が必要な場合は、それらを+文字で結合します。

使用可能なオプションは次のとおり

なし

以下のオプションはいずれも必要ありません。

REQDISCONT

限定リソース・ホスト・リンクは、REQDISCONTを送信せずに非活動化

オーバーライドされた REQDISCONT

CS/AIXは通常、REQDISCONTを使用して、セッション・トラフィックが必要としない限定リソース・ホスト・リンクを非活動化します。

オーバーライドされた REQDISCONTを指定する場合は、値即時切断および即時再接続のいずれかまたは両方を組み合わせてREQDISCONTメッセージのタイプを変更する必要があります。

即時切断

REQDISCONTにタイプ"即時"を使用します。この値が指定されない場合、CS/AIXはタイプ"正常"を使用します。

即時再接続

REQDISCONTにタイプ"即時再連絡"を使用します。この値が指定されない場合、CS/AIXはタイプ"直属の連絡はない"を使用します。

オーバーライド・エラー

CS/AIXは、通常、ERPとしてACTPU(ERP)を処理します。これにより、PU-SSCPセッションはリセットされますが、従属するLU-SSCPセッションとPLU-SLUセッションは暗黙的に非活動化されません。SNA実装は、ACTPU(コールド)であるかのようにACTPU(ERP)を法的に処理することができ、従属するLU-SSCPセッションとPLU-SLUセッションを暗黙的に非活動化します。デフォルトの処理をオーバーライドし、ACTPU(コールド)としてすべてのACTPU要求を処理するには、値オーバーライド・エラーを使用します。

抑制されたビス

通常、CS/AIXは、限定リソースLU 6.2セッションを非活動化する前にBISプロトコルを使用します。制限されたリソースLU 6.2セッションがUNBIND(クリーンアップ)を使用して即時に非活動化されるように、BISプロトコルの使用を抑制するには、値抑制されたビスを使用します。

LU62_INIT_SELF_ENQUEUE

CS/AIXは通常、従属LU 6.2セッションを活動化するときに、INIT_SELFメッセージにENQUEUEパラメーターを含めません。ENQUEUEパラメーターを含むINIT_SELFメッセージの以前のフォーマットを使用するには、値LU62_INIT_SELF_ENQUEUEを使用します。

外部 APINGD

CS/AIXには通常、APING接続テスター用のパートナー・プログラムが含まれています。この値を設定すると、ノード内のAPINGデーモンが無効になります。ノードに到着するAPINGプログラムによる要求は、自動的には処理されません。

許容される値の値 (R)

CS/AIXは通常、センス・コード2003を使用して、ホストから開始ブラケット(BB)例外(RQE)要求をホストから拒否します。ただし、ホストが、変更方向(CD)も指定する必要があるSNAプロトコルの後でない場合は、この例外を除きます。このフラグを設定すると、CS/AIXは、このプロトコルに従わないホストとのセッションを続行できます。

電源オンの送信中

アプリケーションがLU 0-3 LUを使用している場合(例えば、そのLUに対してRUI_INITが受け取られ、ACTLUが受信された場合)は、このオプションは、CS/AIXが、サブベクトルの電源を入れた+ve RSP ACTLUを使用して応答することを指示します。このフラグを指定しないと、CS/AIX

は、このサブベクトルなしで ACTLU RSP を送信し、後続の NOTIFY メッセージは電源オン状態を示します。

LIMIT_TP_SECURITY

ローカル呼び出し可能 TP が会話セキュリティーを必要としない、または定義されていないため、会話セキュリティーを必要としないデフォルトの場合、呼び出し元 TP は、それにアクセスするためにユーザー ID とパスワードを送信する必要はありません。呼び出し元 TP がこれらのパラメーターを提供し、それらが CS/AIX が受信する Attach メッセージに含まれている場合、CS/AIX は通常、呼び出し可能 TP が会話セキュリティーを必要としない場合でも、パラメーターを検査します (また、それらが有効でない場合は Attach を拒否します)。呼び出し可能 TP がそれを必要としない場合に、CS/AIX が受信した Attach 上のセキュリティー・パラメーターを検査しないように、検査を使用不可にするには、値 LIMIT_TP_SECURITY を使用します。

進行状況の数を変更しない

CS/AIX は通常、使用可能なすべての ARB アルゴリズム (標準、応答モード、およびプログレッシブ・モード) の RTP 接続に対するサポートを公示します。この操作をカスタマイズして、CS/AIX が標準および応答モードの ARB アルゴリズムのサポートをアダプタイズするようにしますが、進行モード ARB アルゴリズムではサポートしないようにするには、値 進行状況の数を変更しないを使用します。

DLUR_UNBIND_ON_DACTLU

CS/AIX は、DLUR を使用するセッションのためにホストから DACTLU を受信したときに、通常は PLU-SLU セッションを終了しません。この値が設定されている場合、CS/AIX は、DLUR を使用するセッション用にホストから DACTLU を受信すると、PLU-SLU セッションを終了します。

再試行 CNOS_ON_BIND_禰 _RSP

APPC セッションの活動化中に、パートナー・システム上の一時的な条件が原因で CNOS セッションの活動化が失敗する可能性があります。特定のセンス・コードによって示される条件は、常に (タイマーを使用して) 再試行されます。このフラグを設定すると、CS/AIX は常に失敗した CNOS セッション活動化を再試行します。

SUPPRESS_PU_NAME_ON_REQACTPU

CS/AIX は、DLUR PU の活動化時に、REQACTPU メッセージ内の PU 名を識別します。このフラグを設定して、この識別を送信しないように

ル A_PASSTHRU_BB_RACE

RUI アプリケーションがブラケット・プロトコルを使用していて、ホストが RUI アプリケーションがすでに送信された後で、ホストが BB (開始ブラケット) を送信する場合、CS/AIX は通常、センス・データ 0813 でこれをリジェクトし、それをアプリケーションに渡しません。この値が設定されている場合、CS/AIX は、RUI アプリケーションに BB を渡します。アプリケーションは、センス・データが 0813 または 0814 のいずれかの否定応答を送信する必要があります。

CN_OVERRIDE_LIM_RES

接続ネットワークを使用する CS/AIX 内のリンクは、通常は限定リソースです。このフラグを設定して、これをオーバーライドし、各接続ネットワーク・リンクに関連付けられているポートの暗黙の制限リソース パラメーターを使用して、制限されたリソースであるかどうかを判別します。

非パイプ・パイプ・ベクトル

CS/AIX は、通常、TN3270 または LUA セッションのために、ホストへの NOTIFY 要求に TCP/IP 情報制御ベクトル (0x64) を組み込みます。このベクトルには、ホスト・コンソールに表示できる情報、またはホストで使用される情報 (例えば、請求書など) が含まれます。クライアントが使用する TCP/IP アドレスとポート番号、およびクライアント・アドレスに対応する IP 名が含まれます。

クライアント・アドレスが IPv6 アドレスであるが、ホストが IPv6 アドレスを解釈できないバックレベル・バージョンの VTAM を実行している場合は、ホスト・コンソールでクライアント・アドレスが正しく表示されない可能性があります。

場合によっては、例えば、ホストがこのベクトルをサポートしない古いバージョンの VTAM を実行している場合、ベクトルが送信されないように、この動作をオーバーライドすることが必要になる場合があります。このフラグを設定して、ホストへのベクトルの送信を抑制します。

クライアント・パイプ名

CS/AIX TN サーバーは、通常、ドメイン・ネーム・サーバー (DNS) ルックアップを実行して、上記の説明に従って、TCP/IP 情報制御ベクトル (0x64) に組み込むクライアント IP 名を判別します。

DNS 環境が遅い場合、またはクライアントが DNS データに含まれていないことが分かっている場合 (例えば、DDNS を持たない DHCP クライアントの場合) は、この DNS ルックアップを回避することができます。これを行うには、このフラグを設定し、DNS ルックアップを抑止します。CS/AIX TN サーバーは、CV64 制御ベクトルをクライアントの IP アドレスで送信しますが、IP 名は送信しません。

この値は TN3270 にのみ適用されます。LUA クライアントには DNS ルックアップは必要ありません。

メモリー・ワイド・ワイルドの送信

CS/AIX は、通常、APPC 会話を開始するために送信する FMH-5 接続メッセージに、LUWID を組み込みます。LUWID を抑止して、CS/AIX がこのフィールドのフィールド長をゼロに設定し、それを含まないようにするには、値メモリー・ワイド・ワイルドの送信を使用します。

DLUR_USE_REX_ペーシング

アップストリーム LU からの BIND が最適ペーシング・ウィンドウを使用して適応ペーシングを要求する場合、CS/AIX は通常、ウィンドウ・サイズ 0 (ゼロ) を指定することによってこれを示します。ダウンストリーム LU が適応ペーシングをサポートしていない場合、このゼロ値を "ペーシングなし" として誤って解釈する可能性があるため、CS/AIX は、代わりにゼロ以外のペーシング・ウィンドウ・サイズを指定する必要があります。この値が設定されている場合、CS/AIX は、REX ステージ・ペーシング値を使用して、ダウンストリーム LU に指定されたペーシング・ウィンドウ・サイズとして ACTLU からの値を使用します。

クライアント・OVERWRITE_SYS_NAME

このオプションを設定すると、クライアント上で実行される APPC アプリケーションとそのアプリケーションが使用するプールの LU との間の関連付けが維持されるため、パートナー・アプリケーションによって開始される後続の会話は正しいクライアントに経路指定されます。クライアント・アプリケーションがプール内の LU にアクセスすると、CS/AIX は、その LU 上のシステム名パラメーターを、アプリケーションが実行されているクライアント・コンピューターのホスト名に変更します。クライアントの管理の詳細については、「AIX 管理ガイド上のデータ・センター・デプロイメント用 *IBM Communications Server*」を参照してください。

上書き内部 PU_PARMS

通常、DLUR PU が定義されると、最初にその PU を削除することなく、その PU 上の構成パラメーターを変更する方法はありません (また、関連する LU)。このフラグを設定すると、CS/AIX は、snaadmin を使用する DLUR PU の新しい定義を受け入れ、ノードが非アクティブであることも指定します。デフォルト以外のすべてのパラメーターを定義する必要があります (これは、ユーザー管理 -c コマンドと同等ではありません)。

clear_initial_トポロジー

ノードが最後にアクティブであったときに保管されたトポロジー・データをクリアするかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

保管されているトポロジー・データをクリア

違う。

ノードが最後にアクティブであったときに保管されたトポロジー・データを保持し、再利用できるようにします。

ノードを定義するときには、ローカル・ホスト名と一致しない仮想 DNS 名を持つことができます。/etc/sna/environment ファイル。の付録で説明されている サーバー名 環境変数を使用します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_ISR_THRESHOLDS

ISR しきい値パラメーターは無効です (上限しきい値よりも下限しきい値が小さくなっていない、または上限しきい値が *max_isr_sessions* よりも小さくなっていない)。

INVALID_NODE_NAME

node_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_CP_NAME

cp_alias または *fqcp_name* パラメーターには、無効な文字が含まれています。

INVALID_NODE_TYPE

node_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

PU_CONC_NOT_SUPPORTED

CS/AIX のこのバージョンは、SNA ゲートウェイ機能をサポートしません。

DLUR_NOT_SUPPORTED

CS/AIX のこのバージョンは、DLUR 機能をサポートしません。

INVALID_REG_WITH_NN

reg_with_nn パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_COS_TABLE_VERSION

cos_table_version パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_SEND_TERM_SELF

send_term_self パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_DISABLE_BRANCH_AWRN

disable_branch_awareness パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_DLUR_SUPPORT

dlur_support パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

NODE_ALREADY_STARTED

ターゲット・ノードは活動状態であるため、このコマンドを使用してそのノードの構成を変更できません。define_node コマンドは、非活動状態ノードに対してのみ発行されます。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの追加の組み合わせがリストされています。

define_partner_lu

define_partner_lu コマンドは、ローカル LU とパートナー LU の間の LU-LU セッションに対するパートナー LU のパラメーターを定義したり、既存のパートナー LU を変更します。既存のパートナー LU のパートナー LU 別名を変更することはできません。

CS/AIX は、パートナー LU へのセッションが確立されると暗黙的な定義をセットアップするため、通常は、パートナー LU を定義する必要はありません。論理レコード・サイズ、会話セキュリティ・サポート、または並列セッション・サポートに対して非デフォルト値を強制する必要がある場合にのみ、LU を定義する必要があります。セッションを割り当てるときにパートナー LU 別名を使用する APPC アプリケーションを使用する場合があります。この場合は、この別名を完全修飾パートナー LU 名にマップするために、パートナー LU を定義する必要があります。

パートナー LU が配置されているローカル・ノードまたはリモート・ノードが LEN ノードである場合は、CS/AIX がこのノードにアクセスできるように、パートナー LU に対してディレクトリー・エントリーを定義する必要があります。この定義を行うには、define_adjacent_len_node を使用します。ローカル・ノードおよびリモート・ノードの両方がネットワーク・ノードである場合、あるいは一方がネットワーク・ノードであり、他方がエンド・ノードである場合には、CS/AIX は LU を動的に見つけることができるため、ディレクトリー・エントリーは必要ありません。

提供されるパラメーター

Parameter name [define_partner_lu]	Type	Length	Default
fqplu_name	character	17	
plu_alias	character	8	
description	character	31	(null string)
plu_un_name	character	8	(take from second part of fqplu_name)
max_mc_ll_send_size	decimal		0
conv_security_ver	constant		NO
parallel_sess_supp	constant		YES

提供されるパラメーター：

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。

この名前は、他のパートナー LU の完全修飾パートナー LU 名、またはローカル LU の LU 名と一致してはなりません。

plu_alias

パートナー LU の LU 別名。この別名は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。

fqplu_name パラメーターが既存のパートナー LU の完全修飾名と一致する場合、このパラメーターは、既存の定義内のパートナー LU の別名と一致していなければなりません。既存のパートナー LU のパートナー LU 別名を変更することはできません。また、同じ完全修飾名に対して複数の LU 別名をセットアップすることもできません。また、パートナー LU 別名は、他のパートナー LU またはローカル LU の別名と一致することはできません。また、エラー・コードが戻されます。

記述

パートナー LU を説明するテキスト・ストリング。CS/AIX はこのストリングを情報にのみ使用します。これはノードの構成ファイルに保管され、照会パートナー lu および照会を lu_lu_定義するコマンド。に戻されます。

plu_un_name

パートナー LU (リモート SSCP に定義されている LU の名前) の未解釈の名前。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。

デフォルトの未解釈名 (**fqplu_name** パラメーターから取られたネットワーク名と同じ) を使用する場合は、このパラメーターを指定しないでください。このパラメーターが関係するのは、パートナー LU がホスト上にあり、従属 LU 6.2 がそれにアクセスするために使用されている場合のみです。

最大キュー・サイズ (*_send_size*)

パートナー LU でマップ式会話サービスが送信および受信できる論理レコードの最大サイズ。
1-32,767 の範囲内の数値を指定するか、または 0 (ゼロ) を指定して制限を指定しないようにしてください (この場合、最大は 32,767 です)。

conv_security_ver

パートナー LU がローカル LU のためにユーザー ID の妥当性検査を行うことを許可されているかどうかを指定します (パートナー LU が Attach 要求で既に検査済みの標識を設定できるかどうか)。可能な値は次のとおりです

そうだ

パートナー LU は、ユーザー ID の検証を許可されています。

違う。

パートナー LU は、ユーザー ID の検証を許可されていません。

パラレル・*sess_supp*

パートナー LU が並列セッションをサポートするかどうかを指定 可能な値は次のとおりです

そうだ

パートナー LU は並列セッションをサポートします。

違う。

パートナー LU は並列セッションをサポートしていません。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

DEF_PLU_INVALID_FQ_NAME

fqplu_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_UNINT_PLU_NAME

plu_un_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_FQ_LU_NAME

fqplu_name パラメーターが既存のローカル LU の名前と一致しています。

PLU_ALIAS_CANT_BE_CHANGED

既存のパートナー LU の *plu_alias* パラメーターは変更できません。

PLU_ALIAS_ALREADY_USED

plu_alias パラメーターは、異なる LU 名の既存のパートナー LU またはローカル LU に対してすでに使用されています。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_qllc_dlc

`define_qllc_dlc` コマンドは、新規 QLLC DLC を定義します。DLC が現在活動状態にない場合は、このコマンドを使用して、既存の DLC を変更できます。ただし、既存の DLC に対する折衝可能なリンク・サポートは変更できません。このパラメーターは、新規 DLC の作成時にのみ指定できます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_qllc_dlc]			
dlc_name	character	8	
description	character	31	(null string)
adapter_number	decimal		0
initially_active	constant		YES
max_saps	decimal		1
support_level	constant		1980
neg_ls_supp	constant		YES

指定パラメーターは、以下のとおりです。

dlc_name

DLC の名前。この名前は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。

description

DLC について説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、`query_dlc` コマンドで戻されます。

adapter_number

DLC が使用するアダプター番号。サーバーに複数の QLLC アダプター・カードがある場合、最初のカードには 0 (ゼロ)、2 番目のカードには 1 というように指定します。このように指定しない場合は、このパラメーターに 0 (ゼロ) を設定します。

initially_active

ノードが開始されたときにこの DLC が自動的に開始されるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ノードが開始されると、この DLC は自動的に開始されます。

NO

この DLC を使用するポートまたは LS が初めに活動状態であると定義されている場合にのみ、DLC は自動的に開始されます。その他の場合は、DLC を手動で開始する必要があります。

max_saps

この DLC がサポートできる SAP の最大数。

support_level

アダプターが提供する X.25 サポート・レベル。可能な値は次のいずれかです。

1980

1980 標準

1984

1984 標準

1988

1988 標準

neg_ls_supp

DLC が折衝可能なリンク・ステーションをサポートするかどうかを指定します。既存の DLC に対する折衝可能なリンク・サポートは変更できません。このパラメーターは、新規 DLC の作成時にのみ指定できます。使用可能な値は以下のとおりです。

YES

折衝可能なリンク・ステーションはサポートされます。この DLC を使用するリンク・ステーションは、1 次、2 次、または折衝可能です。

NO

折衝可能なリンク・ステーションはサポートされません。この DLC を使用するリンク・ステーションは、1 次または 2 次である必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_DLC_NAME

dlc_name パラメーターは、無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

DLC_ACTIVE

DLC は現在活動状態であるため、変更できません。

NVALID_DLC_TYPE

既存の DLC に対する折衝可能なリンク・サポートは変更できません。このパラメーターは、新規 DLC の作成時にのみ指定できます。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_qllc_ls

define_qllc_ls コマンドは、新規 QLLC リンク・ステーション (LS) を定義したり、既存の LS を変更する場合に使用します。このコマンドを発行する場合は、この LS が使用するポートを定義する必要があります。

define_qllc_ls

このコマンドを使用して、既存の LS が使用しているポートを変更することはできません。このコマンドに指定する *port_name* は、直前の LS の定義と一致する必要があります。LS は、始動されていない場合にのみ変更できます。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_qllc_ls]			
ls_name	character	8	
description	character	31	(null string)
port_name	character	8	
adj_cp_name	character	17	(null string)
adj_cp_type	constant		LEARN_NODE
address	character	15	(null string)
auto_act_supp	constant		NO
tg_number	decimal		0
limited_resource	constant		NO
solicit_sscp_sessions	constant		NO
pu_name	character	8	(taken from ls_name)
disable_remote_act	constant		NO
dspu_services	constant		NONE
dspu_name	character	8	(taken from ls_name)
dlus_name	character	17	(null string)
bkup_dlus_name	character	17	(null string)
hpr_supported	constant		NO
link_deact_timer	decimal		30
default_nn_server	constant		NO
ls_attributes	constant		SNA
adj_node_id	hex array	4	(0x0)
local_node_id	hex array	4	(0x0)
cp_cp_sess_support	constant		YES
use_default_tg_chars	constant		YES
effect_cap	decimal		64000
connect_cost	decimal		0
byte_cost	decimal		0
security	constant		SEC_PUBLIC_SWITCHED_NETWORK
prop_delay	constant		PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET
user_def_parm_1	decimal		0
user_def_parm_2	decimal		0
user_def_parm_3	decimal		0
target_pacing_count	decimal		7
max_ifrm_rcvd	decimal		0
dlus_retry_timeout	decimal		0
dlus_retry_limit	decimal		0
conventional_lu_compression	constant		NO
branch_link_type	constant		UPLINK (used only if this node is BrNN)
adj_brnn_cp_support	constant		ALLOWED (used only if this node is BrNN)
max_send_btu_size	decimal		265
ls_role	constant		USE_PORT_DEFAULTS
initially_active	constant		NO
react_timer	decimal		30
react_timer_retry	decimal		65535
restart_on_normal_deact	constant		NO
vc_type	constant		SVC
loc_packet	constant		DEFAULT
rem_packet	constant		DEFAULT
req_rev_charge	constant		NO
loc_wsize	decimal		128
rem_wsize	decimal		128
retry_limit	decimal		2
retry_timeout	decimal		8
idle_timeout	decimal		48
pvc_id	decimal		1
sn_id	character	3	A
cud	hex array	128	(null string)
rx_thruput_class	constant		9600
tx_thruput_class	constant		9600
cugo	constant		NO
cug	constant		NO
cug_index	decimal		0
nuid	hex	109	0x0
rpoa	constant		NO
dddlu_offline_supported	constant		NO

提供されるパラメーター：

ls_name

定義するリンク・ステーションの名前。

記述

LS を説明するテキスト・ストリング。CS/AIX はこのストリングを情報にのみ使用します。これはノードの構成ファイルに保管され、query_ls、クエリー・プー、および 軽率の照会 の各コマンド。に戻されます。

ポート名

このリンク・ステーションに関連付けられたポートの名前。この名前は、定義済みポートの名前と一致する必要があります

付加属性名

この LS の隣接 CP の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の CP 名で構成される 3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。このパラメーターは、以下の方法で使用されます。

- 付加 cp_type パラメーターが ネットワーク・ノード または エンド・ノード に設定されていて、事前に割り当てられた TG 番号が使用されている場合は、このパラメーターを隣接ノードで定義されている CP 名に設定します。隣接ノードが XID 交換の際に CP 名を送信する場合、この値に対して検査されます。
- 付加 cp_type が レベル・レンノード・ノード に設定されている場合、CS/AIX はこの値を ID としてのみ使用し、このノードで定義されている他の CP 名と一致しない任意のストリングに設定します。
- 付加 cp_type が その他の値 に設定されている場合、または事前に割り当てられた TG 番号が使用されていない場合は、このパラメーターを指定する必要はありません。CS/AIX は、CP 名が指定されている場合にのみチェックします。

付加 cp_type

隣接ノード・タイプ。

隣接ノードが APPN ノードであり、事前に割り当てられた TG 番号が使用されていない場合、通常、このパラメーターは LEARN_NODE に設定され、ノード・タイプが不明であることを示します。CS/AIX は、XID 交換の間にタイプを判別します。

事前に割り当てられた TG 番号を使用する場合は、明示的にノード・タイプを指定する必要があります。事前に割り当てられた TG 番号が使用されていない場合は、追加のセキュリティー検査としてタイプを指定することもできます。この場合、CS/AIX は、そのノード・タイプがこのパラメーターに指定されたノード・タイプと一致しない場合、隣接ノードからの接続試行をリジェクトします。可能な値は次のとおりです

LEARN_NODE

隣接ノード・タイプは不明です。CS/AIX は、XID 交換中にタイプを判別します。

エンド・ノード

隣接ノードは、エンド・ノード、ローカル・ノードの観点からエンド・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノード、またはその XID3 内のネットワーク名 CV を含む LEN ノードです。

ネットワーク・ノード

隣接ノードは、ネットワーク・ノードであるか、またはローカル・ノードの観点からネットワーク・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノードです。

隣接ノードが APPN ノードでない場合、可能な値は次のとおりです。

レベル・レンノード・ノード

隣接ノードは、その XID3 にネットワーク名制御ベクトルが含まれていないノードです。

ホスト XID3

隣接ノードはホスト・ノードです。CS/AIX は、フォーマット 3 XID を持つノードからのポーリング XID に応答します。

ホスト・XID0

隣接ノードはホスト・ノードです。CS/AIX は、フォーマット 0 XID を持つノードからのポーリング XID に応答します。

DSPU_XID

隣接ノードはダウンストリーム PU です。CS/AIX は、XID 交換をリンクの活動化に組み込んでいます。 *dspu_name* パラメーターおよび *dspu_services* パラメーターも設定する必要があります。

DSPU_NOXID

隣接ノードはダウンストリーム PU です。CS/AIX は、リンク活動化に XID 交換を含みません。 *dspu_name* パラメーターおよび *dspu_services* パラメーターも設定する必要があります。

この LS 上で独立 LU 6.2 トラフィックを実行したい場合は、付加 *cp_type* パラメーターを LEARN_NODE、エンド・ノード、ネットワーク・ノード、またはレベル・レンノード・ノードに設定する必要があります。

アドレス

リモート・リンク・ステーションの宛先アドレス。

リンクがスイッチド・バーチャル・サーキットである場合は、リモート DTE の DTE アドレスを一連の 16 進数字として入力します。

リンクがパーマメント・バーチャル・サーキットである場合は、リンク・ステーションが使用する仮想回線を識別するチャンネル ID を入力します。チャンネル ID には、1 から最大 1024 までの番号が付けられます。パーマメント・バーチャル・サーキットが 1 つだけの場合は、そのチャンネル ID は 1 になります。

auto_act_supp

セッションで必要に応じてリンクを自動的に活動化できるかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

リンクは自動的に活動化できます。

再活動化タイマー・パラメーターは無視されます。LS が失敗した場合、CS/AIX は、セッションを使用していた従属 LU アプリケーションがセッションの再始動を試みるまで、再活動化を試みません。独立 LU によって使用される LS は CS/AIX によって再活動化されず、手動で再始動する必要があります。

以下の制限も適用されます。

- リンクが APPN ノードに対するものである場合、LS には事前に割り当てられた TG 番号が定義されている必要があります (*tg_number* パラメーターを参照してください)。また、*cp_cp_sess_support* を 違う。 に設定する必要があります。
- ローカル・ノードまたは隣接ノードのいずれかがエンド・ノードである場合は、隣接ノードで自動的に活動化するように LS も定義する必要があります。

違う。

リンクを自動的に活動化できません。

tg_number

事前に割り当てられた TG 番号。このパラメーターが使用されるのは、隣接ノードが APPN ノード (付加 *cp_type* は ネットワーク・ノード または エンド・ノード のいずれか) である場合のみです。それ以外の場合は無視されます。

この TG 番号は、リンクの活動化時にリンクを表すために使用されます。このノードは、このリンクの活動化中に隣接ノードからの他の番号を受け入れません。隣接ノードが事前に割り当てられた TG 番号を使用している場合は、隣接リンク・ステーションの隣接ノードによって同じ TG 番号が定義されている必要があります。

ローカル・ノードが LEN ノードである場合、または隣接ノードが LEN ノードであり、リンクが自動的に活動化されるように定義されている場合は、TG 番号を 1 に設定します。それ以外の場合は、1-20 の範囲の数値を指定するか、または 0 (ゼロ) を指定して、TG 番号が事前割り当てされておらず、リンクが活動化されるときに折衝されることを示します。

事前に割り当てられた TG 番号が定義されている場合は、付加属性名 パラメーターも定義する必要があります。付加 *cp_type* パラメーターを エンド・ノード または ネットワーク・ノード のいずれかに設定する必要があります。

limited_resource

リンクを使用しているセッションがないときに、このリンク・ステーションが限定リソースであるかどうかを指定します。非交換ポート上のリンク・ステーションを限定リソースとして構成することはできません。可能な値は次のとおりです

違う。

このリンクは、限定リソースではなく、自動的に非アクティブ化されることは

セッションなし

リンクは限定リソースであり、アクティブ・セッションがそれを使用していない場合は自動的に非アクティブ化されます。

非活動状態

リンクは制限されたリソースであり、アクティブ・セッションがそれを使用していない場合、またはリンクの *deact_timer* パラメーターで指定された期間のデータがリンク上に流れていない場合に、自動的に非アクティブ化されます。

- リンクを介してアクティブになっている SSCP-PU セッションがない場合、ノードはリンクを即時に非活動化します。
- SSCP-PU セッションが活動状態であるが、指定された時間枠にトラフィックが流れていない場合、ノードは REQDISCONT(通常) をホストに送信します。次に、ホストはすべての LU と PU を非活動化する責任を負います。この時点で、ローカル・ノードはリンクを非活動化します。ただし、ホストはアクティブな PLU-SLU セッションを持つ LU を非活動化することはできません。この場合、これらのすべてのセッションが非活動化されるまで (例えば、ユーザー・ログアウトによって) リンクはアクティブのままです。この動作は、ノードの *define_node* コマンドの *ptf_flags* パラメーターのオプションを使用して変更することができます。

A limited resource link station can be configured for CP-CP session support by setting this parameter to セッションなし and *cp_cp_sess_support* to そうだ. この場合、CP-CP セッションがリンクの上に持ち込まれると、CS/AIX はそのリンクを限定リソースとして処理しません (したがって、そのリンクは非活動化されません)。

solicit_sscp_sessions

SSCP とローカル CP と従属 LU との間のセッションを開始するように隣接ノードに要求するかどうかを指定します。このパラメーターが使用されるのは、隣接ノードが APPN ノード (付加 *cp_type* はネットワーク・ノードまたはエンド・ノードのいずれか) である場合のみです。それ以外の場合は無視されます。隣接ノードがホスト (付加 *cp_type* はホスト XID3 またはホスト・XID0 のいずれか) である場合、CS/AIX は常にホストに SSCP セッションを開始するように要求します。

可能な値は次のとおりです

そうだ

SSCP セッションを開始するよう隣接ノードに要求します。

違う。

SSCP セッションを開始するよう隣接ノードに要求しないでください。

隣接ノードが APPN ノードで、*dspu_services* がなし以外の値に設定されている場合、このパラメーターは違う。に設定する必要があります。

プール名

このリンクを使用するローカル PU の名前。このパラメーターは、付加 *cp_type* がホスト XID3 またはホスト・XID0 に設定されている場合、または *solicit_sscp_sessions* が そうだに設定されている場合にのみ必要です。それ以外の場合は無視されます。この名前は、文字で始まるタイプ A の文字ストリングです。

既に定義されている LS 上の PU 名を変更することはできません。

PU 名が必要な場合にそれを指定しない場合、デフォルトは LS 名と同じになります。To ensure that this name is a valid type-A character string, CS/AIX converts it to uppercase; if the string begins with a numeric character, this character is either removed or preceded by the characters "プー"

unable_remote_act

リモート・ノードによる LS の活動化を防ぐかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

LS は、ローカル・ノードによってのみアクティブにすることができます。リモート・ノードが活動化しようとする、CS/AIX はその試みを拒否します。

違う。

LS は、リモート・ノードによって活動化できます。

dspu_services

ローカル・ノードがこのリンクを介してダウンストリーム PU に提供するサービスを指定します。このパラメーターは、付加 *cp_type* パラメーターが DSPU_XID または DSPU_NOXID に設定されている場合、または *solicit_sscp_sessions* パラメーターが 違う。に設定されている場合にのみ使用されます。それ以外の場合は予約済みです。可能な値は次のとおりです

PU_濃度

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU のための SNA ゲートウェイを提供 SNA ゲートウェイをサポートするには、ローカル・ノードが定義されている

ドウル

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU のための DLUR サービスを提供 DLUR をサポートするには、ローカル・ノードを定義する必要がある (DLUR はエンド・ノードではサポートされません。)

なし

ローカル・ノードはダウンストリーム PU にサービスを提供しません。

dspu_name

ダウンストリーム PU の名前。この名前は、文字で始まるタイプ A の文字ストリングです。To ensure that this name is a valid type-A character string, CS/AIX converts it to uppercase; if the string begins with a numeric character, this character is either removed or preceded by the characters "プー"

このパラメーターは、以下の両方の条件が真である場合を除いて、予約されます。

- *solicit_sscp_sessions* パラメーターは 違う。に設定されます。
- *dspu_services* パラメーターが PU_濃度 または ドウル に設定されている。

これらの条件の両方が真で、*dspu_name* に値を指定しない場合、デフォルトは LS 名と同じになります。

ダウンストリーム PU が DLUR に使用されている場合は、この名前は、ホストで構成された PU 名と一致する必要があります。(CS/AIX は、PU 名と PU ID の両方をホストに送信して、PU を識別します。ホストは、通常、PU 名を使用して PU を識別します。一致する PU 名を検出できない場合は、PU ID によって識別されます。)

dlus_name

ダウンストリーム・ノードへのリンクが活動化されている場合に、DLUR が SSCP サービスを送信する元の DLUS ノードの名前。*dspu_services* が ドウル に設定されていない場合、このパラメーターは予約済みです。

1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の LU 名で構成される 3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。

デフォルトの *define_dlur_defaults* コマンドを使用して定義されたグローバル・デフォルト DLUS を指定するには、このパラメーターを指定しないでください。このパラメーターが指定されておらず、グローバル・デフォルト DLUS がない場合には、リンクが活動化される時に DLUR は SSCP 連絡先を開始しません。

bkup_dlus_name

dlus_name によって指定されたノードがアクティブでない場合に、DLUR が SSCP サービスを送信する元のバックアップ DLUS ノードの名前。*dspu_services* が ドウル に設定されていない場合、このパラメーターは予約済みです。

1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のバックアップ LU 名で構成される 3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。

デフォルトの *define_dlur_defaults* は、このパラメーターを指定しません。を使用して定義するグローバル・バックアップ・デフォルト DLUS を指定するには

hpr_supported

このリンクで HPR がサポートされるかどうかを指定 このパラメーターは、リンクが APPN ノードに接続されていることを付加 *cp_type* パラメーターが示していない限り、NO に設定する必要があります 可能な値は次のとおりです

そうだ

HPR はこのリンクでサポートされます。

違う。

HPR はこのリンクでサポートされていません。

リンクの deact_timer

限定リソース・リンク非活動化タイマー(秒)。このパラメーターで指定された時間にわたってリンク上にデータ・フローが存在しない場合は、限定リソース・リンクが自動的に非アクティブになります *limited_resource* が非活動状態以外の値に設定されている場合、このパラメーターは使用されません。

最小値は 5 です。範囲 1-4 の値は、5 として解釈されます。

値 0 (ゼロ) は、以下のいずれかを示します。

- *hpr_supported* パラメーターが そうだに設定されている場合は、デフォルトの非活動化タイマーの値 30 が使用されます。
- *hpr_supported* パラメーターが 違う。に設定されている場合、タイムアウトは使用されません (*limited_resource* が 違う。に設定されているかのように、リンクは非アクティブ化されません)。

デフォルトの nn_server

エンド・ノードの場合、このパラメーターは、このリンク・ステーションによって処理されるリンクが、ローカル・ノードのネットワーク・ノード・サーバーとして機能するネットワーク・ノードへの CP-CP セッションをサポートするリンクであるかどうかを指定します。ローカル・ノードがネットワーク・ノード・サーバーへの CP-CP セッションを持たず、それらを確立する必要がある場合、ローカル・ノードは、定義されているリンク・ステーションでこのパラメーターを検査して、活動化するのに適した LS を見つけます。これにより、隣接する NN を NN サーバーとして動作するのに適した隣接 NN を指定することができます (例えば、高価リンクまたは低速リンクによってアクセスされる NN を使用しないようにするため)。

可能な値は次のとおりです

そうだ

このリンクは、ローカル・ノードの NN サーバーとして機能できるネットワーク・ノードへの CP-CP セッションをサポートします。ローカル・ノードは、NN サーバーに接続する必要がある場合、このリンクを自動的に活動化することができます。 *cp_cp_sess_support* パラメーターは、そうだに設定する必要があります。

違う。

このリンクは、NN サーバーへの接続が試行されたときに自動的に活動化されません。

ローカル・ノードがエンド・ノードでない場合、このパラメーターは無視されます。ローカル・ノードがエンド・ノードでない場合、このパラメーターは無視されます。

ls_ 属性

CS/AIX が通信しているリモート・システムの属性。

別のタイプのホストと通信している場合を除き、スナ を指定します。可能な値は次のとおりです

スナ

標準 SNA ホスト。

フナ

富士通ネットワーク・アーキテクチャー (VTAM-F) ホスト

フナ

Hitachi ネットワーク体系ホスト

サポートされる CP_NAME

リモート・ノードに関連した CP 名を抑止します。この値を スナ、フナ、または フナと結合するには、+ 文字を使用します。

If 付加 *cp_type* is set to レベル・レンノード・ノード, and the remote LEN node associated with this LS cannot accept the Network Name CV in the format 3 XID it receives, use a + character to combine the value スナ, フナ, or フナ with サポートされる CP_NAME (for example, スナ+サポートされる CP_NAME).

付加 *cp_type* が他の値に設定されている場合、サポートされる CP_NAME オプションは無視されます。

従属ノード ID

隣接ノードのノード ID。この ID は、4 バイトの 16 進数ストリングで、ブロック番号 (3 桁の 16 進数字) とノード番号 (5 桁の 16 進数字) から構成されます。ノード ID 検査を無効にするには、このパラメーターを指定しないでください。

ローカル・ノード ID

この LS 上の XID で送信されたノード ID。この ID は、4 バイトの 16 進数ストリングで、ブロック番号 (3 桁の 16 進数字) とノード番号 (5 桁の 16 進数字) から構成されます。ノードの *define_node* は、このパラメーターを指定しません。で指定されたノード ID を使用するには

cp_cp_sess_support

CP-CP セッションがサポートされるかどうかを指定 このパラメーターが有効なのは、隣接ノードがエンド・ノードまたはネットワーク・ノード (付加 *cp_type* が ネットワーク・ノード、エンド・ノード、または LEARN_NODE) である場合のみです。それ以外の場合は無視されます。ローカル・ノードと隣接ノードの両方がネットワーク・ノードである場合、これらのノード間で APPN 機能を使用するには、このパラメーターを そうだ に設定する必要があります。

可能な値は次のとおりです

そうだ

CP-CP セッションはサポートされます。

違う。

CP-CP セッションはサポートされません。

use_default_tg_chars

キュー・ポートの *define_qllc_port* で提供されるデフォルト TG 特性を使用するかどうかを指定します The TG characteristics apply only if the link is to an APPN node; this parameter, and 有効上限 through ユーザー定義パラメーター 3 parameters are ignored otherwise. 可能な値は次のとおりです

そうだ

デフォルトの TG 特性を使用します。このコマンド ユーザー定義パラメーター 3 パラメーターを使用して 有効上限 を無視します。

違う。

Use 有効上限 through ユーザー定義パラメーター 3 parameters on this command.

有効上限

回線速度を表す 10 進値 (ビット / 秒)。

接続コスト

接続時間当たりのコスト。有効な値は、0-255 の範囲の整数値です。ここで、0 は接続時間当たりのコストが最も低く、255 は接続時間ごとのコストが最も高い値です。

バイト・コスト

バイト単位のコスト。有効な値は、0-255 の範囲の整数値です。ここで、0 はバイト当たりの最小コストであり、255 はバイト当たりのコスト / バイト数の最大値です。

担保

ネットワークのセキュリティー・レベル。可能な値は次のとおりです

セキュア非セキュア

セキュリティーなし。

ネットワークの接続を保護するためのネットワーク

データは公衆交換網を介して伝送される。

セクター・ケーブル (ケーブル)

データは安全な地下ケーブルで送信されます。

セキュア・セキュア・コンジット

保護されていないセキュア・コンジットでは、回線を介してデータが伝送されます。

セキュア・ガード D_CONDUIT

データは、物理的な盗聴に対して保護されているコンジットの行を介して伝送されます。

セキュア暗号化

データは、回線を介して伝送される前に暗号化

セキュリティー保護された放射線

物理および放射線のタップに対して保護されている回線を介してデータが伝送されます。

プロペップ遅延

伝搬遅延時間 (シグナルがリンクの長さを移動するのにかかる時間)。リンクのタイプに応じて、以下の値のいずれかを指定します。

最小の PROP_DELAY_最小

最小伝搬遅延。

プロ P_DELAY_LAN

遅延は 0.5 マイクロ秒未満 (LAN の場合は標準) より小さくなります。

PROP_DELAY_電話

遅延は、.5-50 マイクロ秒の範囲です (電話ネットワークの場合は標準)。

PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET

遅延は、50 から 250 マイクロ秒の範囲です (パケット交換ネットワークの場合の標準)。

PROP_DELAY_衛星

遅延が 250 マイクロ秒より大きくなっています (サテライト・リンクの場合は標準)。

最大の PROP_DELAY_最大

最大伝搬遅延。

ユーザー定義パラメーター 1 から ユーザー定義パラメーター 3 まで

前述のパラメーターでカバーされていない TG 特性を組み込むために使用できる、ユーザー定義パラメーター。これらの各パラメーターは、0-255 の範囲内の値に設定する必要があります。

ターゲット・パック・カウント

目的のページング・ウィンドウ・サイズを示します。1-32,767 の範囲の値を指定してください。

max_ifrm_rcvd

肯定応答を送信する前に、このリンク・ステーションが受信できる I フレームの最大数。0-127 の範囲の値を指定してください。0 が指定されている場合、キュー・ポートの `define_qllc_port` を使用します。からの値

dlus_retry_timeout

`dlus_name` パラメーターおよび `bkup_dlus_name` パラメーターによって指定された DLUS への 2 回目以降の接続試行の間隔 (秒単位)。1 回目の試行と 2 回目の試行の間隔は常に 1 秒です。

0-65,535 の範囲の値を指定してください。0 を指定すると、デフォルトの `define_dlur_defaults` を使用して指定されたデフォルトが使用されます。 `dspu_services` パラメーターがドウルに設定されていない場合、このパラメーターは無視されます。

dlus_retry_limit

DLUS に連絡するための再試行カウント。このパラメーターは、最初の試行で CS/AIX が DLUS との接続に失敗した場合に CS/AIX が再試行する回数を指定するために使用されます。

Specify a value in the range 1-65,534, or specify 65,535 to indicate that CS/AIX should retry indefinitely until it contacts the DLUS.

通常 lu_lu_圧縮

このリンク上の LU 0-3 セッションに対してデータ圧縮を要求するかどうかを指定します。このパラメーターは、このリンクが LU 0 から 3 のトラフィックを伝送する場合にのみ使用されます。LU 6.2 セッションには適用されません。可能な値は次のとおりです

そうだ

ホストが要求する場合、このリンク上の LU 0-3 セッションに対してデータ圧縮を使用する必要があります。

違う。

このリンク上の LU 0-3 セッションには、データ圧縮を使用しないでください。

ブランチ・リンク・タイプ

このパラメーターが適用されるのは、ローカル・ノードが分岐ネットワーク・ノードの場合のみです。ローカル・ノードが他のタイプの場合には使用されません。

If the parameter 付加 *cp_type* is set to ネットワーク・ノード, エンド・ノード, アプリケーション・ノード, or レベル・レンノード・ノード, this parameter defines whether the link is an uplink or a downlink. 可能な値は次のとおりです

アップリンク

リンクはアップリンクです。

ダウンリンク

リンクはダウンリンクです。

付加 *cp_type* が ネットワーク・ノード に設定されている場合、このパラメーターは アップリンク に設定する必要があります。

付加 *cpnn_cp_support*

This parameter applies only if the local node is a Branch Network Node and the adjacent node is a network node (the parameter 付加 *cp_type* is set to ネットワーク・ノード, or it is set to アプリケーション・ノード and the node type discovered during XID exchange is network node). これは、ローカル・ノードとリモート・ノードが他のタイプの場合には使用されません。

このパラメーターは、隣接ノードを、ローカル・ノードの視点からネットワーク・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノードにすることができるかどうかを定義します。可能な値は次のとおりです

許可

隣接ノードは、分岐ネットワーク・ノードとして許可されます (必須ではありません)。

必須

隣接ノードは分岐ネットワーク・ノードでなければなりません。

禁止

隣接ノードは分岐ネットワーク・ノードであってはなりません。

付加 *cp_type* が ネットワーク・ノード に設定されており、*auto_act_supp* が そうだ に設定されている場合、このパラメーターは 必須 または 禁止 に設定する必要があります。

最大 *send_btu_size*

このリンク・ステーションから送信できる BTU の最大サイズ。この値は、リンク・ステーションのペアが相互に通信するために使用できる BTU サイズの最大値を折衝するために使用されます。この値には、TH と RH (合計 9 バイト) の長さ、RU の長さが含まれます。265-65,535 の範囲の値を指定してください。

ls_role

リンク・ステーションの役割。通常、このパラメーターは USE_PORT_DEFAULTS に設定され、LS ロールがこの LS を所有するポートの定義から取得されるように指定します。

個々の LS に対してポートの LS ロールをオーバーライドする必要がある場合は、以下のいずれかの値を指定します。

LS_PRI

プライマリー

LS_SEC

セカンダリ

LS_NEG

交渉可能

初期設定がアクティブ

ノードの開始時にこの LS を自動的に開始するかどうかを指定します 可能な値は次のとおりです

そうだ

LS は、ノードが開始されると自動的に開始されます。

違う。

LS は自動的に開始されません。手動で開始する必要があります。

LS が PVC リンクの場合は、このパラメーターを *そうだ* に設定して、リンクが常に使用可能であることを確認することをお勧めします。

react_タイマー

失敗した LS を再活動化するための再活動化タイマー。このパラメーターは、CS/AIX が LS の活動化に失敗したときに再試行するまでに待機する時間 (秒) を指定します。 *react_timer_retry* パラメーターがゼロ以外の値である場合、CS/AIX は、失敗した LS の活動化を再試行する必要があります。

react_timer_retry パラメーター値がゼロの場合、このパラメーターは無視されます。

react_timer_retry

失敗した LS を再活動化するための再試行カウント このパラメーターは、使用中に (または LS の開始が失敗した場合に) CS/AIX が LS を再活動化しようとするかどうかを指定するために使用されます。

0 (ゼロ) を指定すると、CS/AIX は LS の再活動化を試行しないことを指示します。CS/AIX が LS の再活動化を試みる必要があることを示すために行われる再試行回数を指定します。値 65,535 は、CS/AIX が LS が再活動化されるまで無期限に再試行することを示します。

CS/AIX は、連続する再試行の間、*react_タイマー* パラメーターで指定された時間待機します。LS が再試行カウントの終了時に正常に再活動化されない場合、または *stop_ls* は、CS/AIX が活動化を再試行しているときに発行されます。これ以上再試行は行われません。LS は、*start_ls* が発行されない限り、非アクティブ

auto_act_supp パラメーターが *そうだ* に設定されている場合、*react_タイマー* パラメーターおよび *react_timer_retry* パラメーターは無視されます。リンクが失敗した場合、CS/AIX は、セッションを使用していたユーザー・アプリケーションがセッションの再始動を試行するまで、その再アクティブ化を試みません。

LS が PVC リンクである場合は、このパラメーターをゼロ以外の値に設定して、リンクが常に使用可能であることを確認することをお勧めします。

正常化が正常に解除されている

リモート・システムによって正常に非活動化された場合に、CS/AIX が LS を再活動化するかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

リモート・システムが LS を正常に非活動化すると、CS/AIX は、同じ再試行タイマーとカウント値を使用して、失敗した LS (上記の *react_タイマー* および *react_timer_retry* パラメーター) を再活動化するために、その LS を再活動化しようとします。

違う。

リモート・システムが LS を正常に非活動化すると、CS/AIX はそれを再活動化しようとしません。

LS がホスト・リンク (付加 *cp_type* パラメーターで指定) である場合、またはノードの開始時に自動的に開始される場合 (初期設定がアクティブ パラメーターは *そうだ* に設定されています)、このパラメーターは無視されます。CS/AIX は、リモート・システムによって正常に非活動化された場合 (*react_timer_retry* がゼロでない限り)、LS を常に再活動化しようとします。

vc_type

LS の仮想回線タイプ。可能な値は次のとおりです

サービス

交換仮想回線

ブブツ

永続仮想回線

同じローカル・ノードとリモート・ノードの間に SVC と PVC の両方のリンク・ステーションを定義し、SVC LS が最初に開始されると、予期しない結果が発生する可能性があります (着信呼び出しと正しい

LSの突き合わせができない可能性があるためです)。問題を回避するために、同じノード・ペア間の SVC リンク・ステーションの前に PVC リンク・ステーションがアクティブにされていることを確認してください。

ローカル・パケット

スイッチド・バーチャル・サーキットでローカル・ステーションからリモート・ステーションにデータを送信するために使用されるパケット・サイズ このパラメーターは、*vc_type* パラメーターがサービスに設定されている場合にのみ使用されます。指定したパケット・サイズは、発信呼び出しのオプション機能として送信されます。

デフォルトを指定すると、CS/AIX はネットワークのデフォルト値を使用します。可能な値は次のとおりです

- 64
- 128
- 256
- 512
- 1024
- 2048
- 4096
- デフォルト

使用する正しい値を判別するためには、X.25 ネットワークのシステム管理者に相談してください。

rem_packet

リモート端末からスイッチド・バーチャル・サーキット上のデータを受信するために使用されるパケット このパラメーターは、*vc_type* パラメーターがサービスに設定されている場合にのみ使用されます。指定したパケット・サイズは、発信呼び出しのオプション機能として送信されます。

デフォルトを指定すると、CS/AIX はネットワークのデフォルト値を使用します。可能な値は次のとおりです

- 64
- 128
- 256
- 512
- 1024
- 2048
- 4096
- デフォルト

使用する正しい値を判別するためには、X.25 ネットワークのシステム管理者に相談してください。

req_rev_充電

この LS を使用してリモート・システムに接続しようとしたときに、CS/AIX がコレクトコールを要求するか 可能な値は次のとおりです

そうだ

コレクトコールの要求。

違う。

コレクトコールを要求しません。

X.25 ネットワークが機能ネゴシエーションをサポートしていない場合、このパラメーターは違う。に設定する必要があります。

ロケーション・サイズ

ローカル・ステーションからリモート・ステーションにデータを送信するために使用されるウィンドウ・サイズ。1-7、または0(ゼロ)の範囲内の値を指定して、ネットワークのデフォルト・ウィンドウ・サイズを使用することを指定します。使用する正しい値を判別するためには、X.25 ネットワークのシステム管理者に相談してください。

ファイル・サイズの変更

リモート・ステーションからのデータの受信に使用されるウィンドウ・サイズ。1-7、または0(ゼロ)の範囲内の値を指定して、ネットワークのデフォルト・ウィンドウ・サイズを使用することを指定します。使用する正しい値を判別するためには、X.25 ネットワークのシステム管理者に相談してください。

再試行限度

retry_timeout パラメーターで指定された時間内に応答が受信されなかった場合に、QXID、QSM、または QDISC メッセージの送信を再試行する回数。

1-255 の範囲の値を指定してください。 *vc_type* が プブツに設定されている場合、このパラメーターは QXID メッセージでは無視されます。XID 送信は無期限に再試行されます(最初のアクティブ LS は、リモート・ステーションがアクティブになるまで無期限に待機することができます)。

retry_timeout

QXID、QSM、または QDISC メッセージのタイムアウト(秒)。この時間内に応答が受信されない場合は、メッセージが再試行されます(再試行限度で指定された回数まで)。1-255 の範囲の値を指定してください。

idle_timeout

完全にアイドル回線を検出するために使用されるタイムアウト(秒単位)この値は、ローカル・ステーションが2次であり、XIDを待機しているときに、SVCの接続処理中に使用されます。この時点でメッセージが受信されない場合、CS/AIXはリモート・ステーションが障害を持っていると見なします。

1-255 の範囲の値を指定してください。 *vc_type* を プブツに設定すると、このパラメーターは無視されます。

pvc_id

PVC ID。この LS に使用する PVC (X.25 プロバイダー・ソフトウェア用に定義されている PVC の範囲から)を識別するには、このパラメーターを10進数に設定します。 *vc_type* が サービスに設定されている場合、このパラメーターは予約済みです

サポートされる *dddlu_offline_supported*

ローカル PU が、NMVT (電源オフ)メッセージをホストに送信するかどうかを指定します。ホスト・システムが DDDLU (従属 LU の動的定義)をサポートしている場合、CS/AIX は、動的に定義された LU を使用しているときに、NMVT (電源オフ)をホストに送信します。これにより、ホストは、不要になった定義を除去することによって、リソースを保管することができます。

このパラメーターが使用されるのは、このリンクがホストに対するものである場合 (*solicit_sscp_sessions* は そうだ に設定され、 *dspu_services* が なし に設定されていない場合) です。

可能な値は次のとおりです

そうだ

ローカル PU は、NMVT (電源オフ)メッセージをホストに送信します。

違う。

ローカル PU は、NMVT (電源オフ)メッセージをホストに送信しません。

ホストが DDDLU をサポートしているが、NMVT (電源オフ)メッセージをサポートしていない場合、このパラメーターは 違う。 に設定する必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

CANT_MODIFY_PORT_NAME

ls_name パラメーターは既存の LS 名と一致しますが、*port_name* パラメーターが既存の定義と一致しません。既存の LS の定義を変更する場合、ポート名は変更できません。

DEF_LINK_INVALID_SECURITY

security パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_AUTO_ACT_SUPP

auto_act_supp パラメーターが有効な値に設定されていないか、または *cp_cp_sess_support* も YES に設定されているときにこのパラメーターが YES に設定されています。

INVALID_CP_NAME

adj_cp_name パラメーターに無効な文字が含まれているか、このパラメーターの形式が正しくないか、またはこのパラメーターが必要な場合に指定されていません。

INVALID_LIMITED_RESOURCE

limited_resource パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LINK_NAME

ls_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_NODE_TYPE

adj_cp_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_PORT_NAME

port_name パラメーターが、定義済みのポートの名前と一致しません。

INVALID_PU_NAME

pu_name パラメーターが定義済みの PU の名前と一致しないか、または定義済み LS で新規値に設定されています。

INVALID_DSPU_NAME

dspu_name パラメーターが定義済みの PU の名前と一致しないか、または定義済み LS で新規の値に設定されています。

INVALID_DSPU_SERVICES

dspu_services パラメーターが有効な値に設定されていないか、または必要のない場合に設定されています。

INVALID_SOLICIT_SSCP_SESS

solicit_sscp_sess パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_TARGET_PACING_CNT

target_pacing_count パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_DLUS_NAME

dlus_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

INVALID_BKUP_DLUS_NAME

bkup_dlus_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

HPR_NOT_SUPPORTED

予約済みパラメーターがゼロ以外の値に設定されています。

INVALID_TG_NUMBER

指定された TG 番号は、有効範囲外です。

MISSING_CP_NAME

TG 番号が定義されていますが、CP 名が指定されていません。

MISSING_CP_TYPE

TG 番号が定義されていますが、CP タイプが指定されていません。

MISSING_TG_NUMBER

リンクは自動的に活動化されるよう定義されていますが、TG 番号は指定されていません。

PARALLEL_TGS_NOT_SUPPORTED

このノードは、同じ隣接ノードとの間に定義された複数の LS をサポートできません。

INVALID_DLUS_RETRY_LIMIT

dlus_retry_limit に指定した値が、有効ではありませんでした。

INVALID_DLUS_RETRY_TIMEOUT

dlus_retry_timeout に指定した値が、有効ではありませんでした。

INVALID_LS_ROLE

ls_role パラメーターに指定した値が、有効ではありません。

INVALID_NODE_TYPE_FOR_HPR

adj_cp_type パラメーターに指定したノード・タイプは、HPR をサポートしていません。

INVALID_BTU_SIZE

max_send_btu_size パラメーターに指定した値が、有効ではありませんでした。

INVALID_MAX_IFRM_RCVD

max_ifrm_rcvd パラメーターに指定した値が、有効ではありませんでした。

INVALID_BRANCH_LINK_TYPE

branch_link_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_BRNN_SUPPORT

adj_brnn_cp_support パラメーターが、有効な値に設定されていません。

BRNN_SUPPORT_MISSING

adj_brnn_cp_support パラメーターが ALLOWED に設定されています。隣接ノードがネットワーク・ノードであり、*auto_act_supp* が YES に設定されているため、この値は無効です。

INVALID_UPLINK

branch_link_type パラメーターが UPLINK に設定されていますが、ローカル・ノードと隣接ノードの間の既存の LS の定義では、このパラメーターがダウンリンクに指定されています。同じ 2 つのノード間の LS の分岐リンク・タイプは、すべて同じである必要があります。

INVALID_DOWNLINK

branch_link_type パラメーターが DOWNLINK に設定されていますが、ローカル・ノードと隣接ノードの間の既存の LS の定義では、このパラメーターがアップリンクに指定されています。同じ 2 つのノード間の LS の分岐リンク・タイプは、すべて同じである必要があります。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

DUPLICATE_CP_NAME

adj_cp_name パラメーターで指定した CP 名へのリンクが、すでに定義されていました。

DUPLICATE_DEST_ADDR

address パラメーターで指定した宛先アドレスへのリンクが、既に定義されていました。

define_qllc_port

INVALID_LINK_NAME

ls_name パラメーターで指定したリンク・ステーションの値は無効です。

INVALID_NUM_LS_SPECIFIED

指定されているリンク・ステーションの数が無効です。

LOCAL_CP_NAME

adj_cp_name パラメーターに指定した名前が、ローカル CP 名と同じです。

LS_ACTIVE

ls_name パラメーターで指定したリンク・ステーションは、現在活動状態です。

PU_ALREADY_DEFINED

pu_name パラメーターに指定されている PU は、既に定義されています。

DSPU_ALREADY_DEFINED

dspu_name パラメーターに指定されているダウンストリーム PU は、既に定義されています。

DSPU_SERVICES_NOT_SUPPORTED

dspu_services パラメーターが、サポートされていないサービスを要求するために使用されていません。

DEPENDENT_LU_NOT_SUPPORTED

solicit_sscp_sessions パラメーターを YES に設定しましたが、従属 LU はサポートされていません。

DUPLICATE_TG_NUMBER

tg_number パラメーターに指定されている TG 番号は、既に定義されています。

TG_NUMBER_IN_USE

tg_number パラメーターに指定した TG 番号は、すでに別の LS によって使用されています。

define_qllc_port

`define_qllc_port` コマンドは、新規 QLLC ポートを定義したり、既存の QLLC ポートを変更する場合に使用されます。このコマンドを発行する前に、このポートが使用する DLC を定義する必要があります。

既存のポートは、開始されていない場合にのみ変更できます。既存のポートで使用されている DLC は変更できません。既存のポートを変更するときに指定した *dlc_name* は、ポートの初期定義で指定した DLC と一致する必要があります。

着呼を受け入れるポートの定義については、[127 ページの『着呼』](#)を参照してください。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_qllc_port]			
port_name	character	8	
description	character	31	(null string)
dlc_name	character	8	
port_number	decimal		1
max_rcv_btu_size	decimal		265
tot_link_act_lim	decimal		255
inb_link_act_lim	decimal		0
out_link_act_lim	decimal		0
ls_role	constant		LS_NEG
implicit_dspu_template	character	8	(null string)
implicit_ls_limit	decimal		0
implicit_dspu_services	constant		NONE
implicit_deact_timer	decimal		30
act_xid_exchange_limit	decimal		9
nonact_xid_exchange_limit	decimal		5
ls_xmit_rcv_cap	constant		LS_TWS
max_ifrm_rcvd	decimal		7
target_pacing_count	decimal		7
max_send_btu_size	decimal		265
address	character	15	(null string)
implicit_cp_cp_sess_support	constant		YES
implicit_limited_resource	constant		NO
implicit_hpr_support	constant		YES
implicit_uplink_to_en	constant		NO
effect_cap	decimal		64000
connect_cost	decimal		0

byte_cost	decimal	0
security	constant	SEC_PUBLIC_SWITCHED_NETWORK
prop_delay	constant	PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET
user_def_parm_1	decimal	0
user_def_parm_2	decimal	0
user_def_parm_3	decimal	0
initially_active	constant	YES
loc_wsize	decimal	128
retry_limit	decimal	2
retry_timeout	decimal	8
idle_timeout	decimal	48
rx_thruput_class	constant	9600
tx_thruput_class	constant	9600

指定パラメーターは、以下のとおりです。

port_name

定義するポートの名前。この名前は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。

description

ポートについて説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使
用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_port コマンドで戻されま
す。

dlc_name

関連 DLC の名前。この名前は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。指定した
DLC は、すでに定義済みである必要があります。

port_number

ポートの番号。

max_rcv_btu_size

受信できる BTU の最大サイズ。この値には、TH と RH (合計 9 バイト)、および RU の長さが含まれま
す。265 から 65,535 の範囲内で値を指定します。

tot_link_act_lim

リンク活動化の合計の限度 (このポートを使用して任意の時点での活動状態にできるリンクの最大数)。

inb_link_act_lim

インバウンド・リンク活動化限度 (インバウンド活動化に予約済みのリンクの数)。inb_link_act_lim と
out_link_act_lim の合計は、tot_link_act_lim を超えないようにする必要があります。inb_link_act_lim
と tot_link_act_lim の差によって、いつでも活動化することができるアウトバウンド・リンクの最大数
が定義されます。

out_link_act_lim

アウトバウンド・リンク活動化限度 (アウトバウンド活動化に予約済みのリンクの数)。
inb_link_act_lim と out_link_act_lim の合計は、tot_link_act_lim を超えないようにする必要がありま
す。out_link_act_lim と tot_link_act_lim の差によって、いつでも活動化することができるインバウン
ド・リンクの最大数が定義されます。

ls_role

リンク・ステーション・ロール。可能な値は次のいずれかです。

LS_PRI

1 次

LS_SEC

2 次

LS_NEG

折衝可能

implicit_dspu_template

define_dspu_template コマンドで定義されている DSPU テンプレートを指定します。このテンプレ
ートは、このポートで活動化されている暗黙的なリンクに対して、ローカル・ノードが SNA ゲート
ウェイを提供するかどうかの定義に使用します。リンクを活動化するときに、指定されているテンプレ
ートがない場合やすでにインスタンス限度に達している場合、活動化は失敗します。このテンプレ
ート名は、ローカルで表示可能な文字のセットである 8 バイトのストリングです。

define_qllc_port

implicit_dspu_services パラメーターが *PU_CONCENTRATION* に設定されていない場合、*implicit_dspu_template* パラメーターは予約されます。

implicit_ls_limit

このポートで同時に活動化できる暗黙的なリンク・ステーションの最大数を指定します (動的リンクおよびディスカバリー用に活動化されたリンクを含む)。1 から 65,534 の範囲で値を指定するか、または 0 (ゼロ) を指定して限度がないことを示します。NO_IMPLICIT_LINKS の値は、暗黙的なリンクが許可されていないことを示します。

implicit_dspu_services

ローカル・ノードが、このポートで活動化されている暗黙的なリンク間のダウンストリーム PU に提供するサービスを指定します。可能な値は次のいずれかです。

DLUR

ローカル・ノードは、(define_dlur_defaults コマンドで構成したデフォルトの DLUS を使用して) ダウンストリーム PU に対して DLUR サービスを提供します。

PU_CONCENTRATION

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU に対して SNA ゲートウェイを提供します。また、ローカル・ノードは、パラメーター *implicit_dspu_template* に指定されている DSPU テンプレートで指定されているように定義を設定します。

NONE

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU に対してサービスを提供しません。

implicit_deact_timer

暗黙的な限定リソース・リンク非活動化タイマー (秒単位)。

implicit_hpr_support が YES に設定され、*implicit_limited_resource* が NO_SESSIONS に設定されていると、このパラメーターによって指定された時間内に暗黙的なリンク上を流れたデータがなく、このリンクを使用するセッションがない場合、暗黙的なリンクは自動的に非活動化されます。

implicit_limited_resource が INACTIVITY に設定されていると、このパラメーターによって指定された時間内に暗黙的なリンク上を流れたデータがない場合、このポートを使用する暗黙的なリンクは自動的に非活動化されます。

最小値は 5 です。1 から 4 の範囲の値は、5 と解釈されます。値 0 (ゼロ) は、タイムアウトなしを示します (*implicit_limited_resource* を NO に設定した場合と同様、リンクは非活動化されません)。このパラメーターは、*implicit_limited_resource* が NO に設定されている場合は予約済みです。

implicit_uplink_to_en

このパラメーターは、ローカル・ノードが分岐ネットワーク・ノードの場合にのみ適用されます。ローカル・ノードがその他のタイプの場合、このパラメーターは予約されます。

隣接ノードがエンド・ノードである場合、このパラメーターは、このポートの暗黙的なリンク・ステーションがアップリンクまたはダウンリンクのいずれであるかを指定します。同じ隣接ノードに対する既存のリンクがある場合、既存のリンクを使用してリンク・タイプが決定されるため、このパラメーターは無視されます。可能な値は次のいずれかです。

YES

エンド・ノードへの暗黙的なリンクは、アップリンクです。

NO

エンド・ノードへの暗黙的なリンクは、ダウンリンクです。

act_xid_exchange_limit

活動化 XID 交換限度。0 から 65,535 の範囲内で値を指定します。

nonact_xid_exchange_limit

非活動化 XID 交換限度。0 から 65,535 の範囲内で値を指定します。

ls_xmit_rcv_cap

リンク・ステーションの送受信機能を指定します。可能な値は次のいずれかです。

LS_TWS

両方向同時

LS_TWA

両方向交互

max_ifrm_rcvd

肯定応答が送信される前にローカル・リンク・ステーションが受信できる I フレームの最大数。1 から 127 の範囲内で値を指定します。

target_pacing_count

望ましいペーシング・ウィンドウ・サイズを示します。1 から 32,767 の範囲内で値を指定します。

max_send_btu_size

このポートから送信できる最大 BTU サイズ。この値は、1 対のリンク・ステーションが相互に通信するために使用できる最大 BTU サイズを、折衝するために使用されます。この値には、TH と RH (合計 9 バイト)、および RU の長さを含みます。

address

ポートのローカル X.25 DTE アドレスこのアドレスは、このネットワークの X.25 ドライバー内に構成されたアドレスと一致している必要があります。

注:

アドレスが指定されない場合、CS/AIX が生成する発呼要求に X.25 起呼アドレスは含まれません。ホストによっては着呼のセキュリティ測度としてこのアドレスを要求するものもあり、それがないと接続を受け入れない場合があります。

implicit_cp_cp_sess_support

このポートを使用する暗黙的なリンク・ステーションに対して CP-CP セッションを許可するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

暗黙的なリンク・ステーションに対する CP-CP セッションが許可されます。

NO

暗黙的なリンク・ステーションに対する CP-CP セッションが許可されません。

implicit_limited_resource

このポートの暗黙的なリンク・ステーション・オフを限定リソースとして定義するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

NO

暗黙的なリンクは限定リソースではなく、自動的に非活動化されません。

NO_SESSIONS

暗黙的なリンクは限定リソースであり、活動状態のセッションでこのリンクが使用されていない場合、自動的に非活動化されます。

INACTIVITY

暗黙的なリンクは限定リソースであり、活動状態のセッションでこのリンクが使用されていないか、または *implicit_deact_timer* パラメーターで指定した時間内に流れたデータがない場合に自動的に非活動化されます。

- リンク間に活動状態の SSCP-PU セッションがない場合、ノードはリンクを即時に非活動化する。
- SSCP-PU セッションが活動状態であるが、指定時間内にトラフィックが流れなかった場合、ノードは REQDISCONT (通常) をホストに送信する。次に、ホストは、すべての LU および PU を非活動化します。非活動化時には、ローカル・ノードがリンクを非活動化します。ただし、ホストは、アクティブ PLU-SLU セッションで LU を非活動化することはできません。この場合、リンクはこれらのすべてのセッションが (例えば、ユーザー・ログアウトによって) 非活動化されるまで活動状態のままになります。この動作を変更するには、*define_node* コマンドの *ptf_flags* パラメーターのオプションを使用します。

implicit_hpr_support

暗黙的なリンクで High Performance Routing (HPR) がサポートされるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

暗黙的なリンクで HPR がサポートされます。

define_qllc_port

NO

暗黙的なリンクで HPR がサポートされません。

effect_cap から **user_def_parm_3**

このポートを使用する暗黙リンク・ステーションに使用されるデフォルトの TG 特性。これらの特性は、TG 特性を明示的に定義されていない定義済みリンク・ステーションのデフォルト TG 特性としても使用されます。TG 特性パラメーターは、LS がダウンストリーム PU への LS である場合には無視されます。

これらのパラメーターの詳細については、[187 ページの『define_tr_ls、define_ethernet_ls』](#)を参照してください。

initially_active

ノードが開始されたときにこのポートが自動的に開始されるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ノードが開始されると、このポートは自動的に開始されます。

NO

このポートを使用する LS が初めに活動状態であると定義されている場合にのみ、ポートは自動的に開始されます。その他の場合は、ポートを手動で開始する必要があります。

loc_wsize から **tx_thruput_class**

これらのパラメーターについて詳しくは、[107 ページの『define_qllc_ls』](#)を参照してください。LS 名が最初に認識されない場合、define_qllc_port で指定した値は、着呼を処理するためのデフォルトとして使用されます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PORT_NAME

port_name パラメーターで指定した値は無効です。

INVALID_DLC_NAME

指定した *dlc_name* と一致する定義済み DLC がありません。

INVALID_BTU_SIZE

max_rcv_btu_size パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LINK_ACTIVE_LIMIT

活動化限度パラメーター *inb_link_act_lim*、*out_link_act_lim*、または *tot_link_act_lim* のいずれかが、正しい値に設定されていません。

INVALID_MAX_IFRM_RCVD

max_ifrm_rcvd パラメーターが、有効な値に設定されていません。

HPR_NOT_SUPPORTED

予約済みパラメーターがゼロ以外の値に設定されています。

INVALID_LS_ROLE

ls_role パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_DSPU_SERVICES

implicit_dspu_services パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_TEMPLATE_NAME

implicit_dspu_template パラメーターで指定した DSPU テンプレートが、有効ではありませんでした。

INVALID_IMPLICIT_UPLINK

implicit_uplink_to_en パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

PORT_ACTIVE

指定したポートは、現在活動状態であるため変更できません。

DUPLICATE_PORT_NUMBER

port_number パラメーターに指定されている番号のポートは、既に定義されています。

CANT_MODIFY_WHEN_ACTIVE

ポートが活動状態のときに活動状態の変更とパラメーター値を変更しようとした。ポートが活動状態のときに変更できるパラメーター値は、以下のとおりです。

- *description*
- *implicit_**
- *default_tg_chars*
- *driver_name* から *tx_thruput_class*

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

着呼

着呼を受信するポートを構成している (*tot_link_act_lim*、*inb_link_act_lim*、および *out_link_act_lim* パラメーターで定義) 場合は、通常、着呼に対して使用する LS を定義する必要はありません。CS/AIX は、着呼を受信すると、LS を動的に定義します。ただし、従属 LU をサポートするホスト・コンピューター、または SNA ゲートウェイを使用するダウンストリーム・コンピューターからの着呼の場合は、従属 LU に関連付けられている PU の名前またはダウンストリーム PU の名前が LS 定義に含まれるため、明示的に LS を定義する必要があります。

着呼がポートに達すると、CS/AIX は、ポート上で定義されたリンク・ステーションに対して指定されたアドレス (ある場合) に照らして、着呼上で指定されたアドレスを検査して、LS がこの着呼に対して既に定義されているかどうかを判別します。アドレスが一致しない場合、LS は動的に定義されます。(必要な PU 名を含む) 明示的な LS 定義が必ず使用されるようにするには、この LS に対して定義されているアドレスが、ホストまたはダウンストリーム・コンピューターによって着呼に指定されているアドレスと一致するようにします。

define_rcf_access

`define_rcf_access` コマンドにより、CS/AIX リモート・コマンド機能 (RCF) へのアクセス権限を指定できます。このコマンドは、UNIX Command Facility (UCF) のコマンドを実行する場合に使用するユーザー

ID を定義し、Service Point Command Facility (SPCF) を使用して発行される管理コマンドの制限を定義します。SPCF および UCF について詳しくは、「IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 管理ガイド」を参照してください。このコマンドを使用すると、SPCF、UCF、またはその両方へのアクセスを許可できます。

このコマンドは、最初に RCF アクセスを指定するか、または既存の定義を変更する場合に使用します。RCF アクセス・パラメーターはドメイン・リソースとして定義されているため、このコマンドは特定のノードに関連付けられていません。

ノードの起動時に、CS/AIX はこれらのパラメーターに基づいて動作します。このため、ノードを実行しているときにこれらのパラメーターを変更しても、この変更は、ノードを停止して再起動するまで、ノードが実行されているサーバー上では有効になりません。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_rcf_access]			
ucf_username	character	31	(null string)
spcf_permissions	constant		NONE

提供されるパラメーター：

ucf_ ユーザー名

UCF ユーザーの AIX ユーザー名を指定します。このパラメーターは、ローカルで表示可能な文字のストリングです。根という名前は指定しないでください。CS/AIX は、セキュリティ上の理由から、UCF コマンドを root として実行できません。

すべての UCF コマンドは、このユーザーのユーザー ID を使用して実行されます。デフォルト・シェル、デフォルト・グループ ID、およびこのユーザーの AIX システムで定義されているアクセス許可が使用されます。

UCF へのアクセスを防止するために、このパラメーターを指定しないでください。

spcf_許可

SPCF を使用してアクセスできる CS/AIX 管理コマンドのタイプを指定します。SPCF へのアクセスを防ぐには、このパラメーターをなしに設定します。SPCF へのアクセスを許可するには、このパラメーターを以下の 1 つ以上の値 (+ 文字を使用して結合) に設定します。

ローカル・クエリー・ローカル

query_* コマンドを使用できます。

ローカル・デフォルト・ローカル

define_*, 設定値 *, delete_ *, add_*, remove_*, and init_node commands are allowed.

ローカル・アクション (ローカル)

開始*, stop_*, アクティブ化 _*, 非アクティブ化 _*, 開閉, 初期セッション限度, 変更セッション限度, and リセット・セッション限度 commands are allowed.

ALLOW_QUERY_リモート

query_* コマンドは、ドメイン内のどのノードでも指示することができます。

リモート・リモート・

define_*, 設定値 *, delete_ *, add_*, remove_*, and init_node commands are allowed to be directed at any node in the domain.

アクション・リモート・アクション

開始*, stop_*, アクティブ化 _*, 非アクティブ化 _*, 開閉, 初期セッション限度, 変更セッション限度, and リセット・セッション限度 commands are allowed to be directed at any node in the domain.

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

UCF_USER_CANNOT_BE_ROOT

ucf_username パラメーターが、名前 *root* として指定されています (許可されていません)。

INVALID_SPCF_SECURITY

spcf_permissions パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_rtp_tuning

`define_rtp_tuning` コマンドにより、RTP 接続をセットアップするときに使用されるパラメーターを指定できます。このコマンドの発行後は、その後のすべての RTP 接続には、新規 `define_rtp_tuning` コマンドを発行して変更するまでは、指定するパラメーターを使用します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_rtp_tuning]			
path_switch_attempts	decimal		6
short_req_retry_limit	decimal		6
path_switch_time_low	decimal		480
path_switch_time_medium	decimal		240
path_switch_time_high	decimal		120
path_switch_time_network	decimal		60
refifo_cap	decimal		4000
srt_cap	decimal		8000
path_switch_delay	decimal		0

指定パラメーターは、以下のとおりです。

path_switch_attempts

新規 RTP 接続でのパス・スイッチ設定試行の数。1 ~ 255 の範囲で値を指定します。

short_req_retry_limit

CS/AIX が RTP 接続が切断されたと判断し、パス・スイッチ処理を開始するまでに状況要求が送信される回数。1 から 255 の範囲内で値を指定します。

path_switch_time_low

CS/AIX が、AP_LOW に設定された伝送優先順位セットを使用して、切断された RTP 接続のパス・スイッチを試みる時間長 (秒単位)。1 ~ 65535 ミリ秒の範囲の値を指定します。

path_switch_time_medium

CS/AIX が、AP_MEDIUM に設定された伝送優先順位セットを使用して、切断された RTP 接続のパス・スイッチを試みる時間長 (秒単位)。1 ~ 65535 ミリ秒の範囲の値を指定します。指定する値は path_switch_time_low の値を超えないようにしてください。

path_switch_time_high

CS/AIX が、AP_HIGH に設定された伝送優先順位セットを使用して、切断された RTP 接続のパス・スイッチを試みる時間長 (秒単位)。1 ~ 65535 ミリ秒の範囲の値を指定します。指定する値は、それ自体の伝送優先順位より低い伝送優先順位の値を超えないようにしてください。

path_switch_time_network

CS/AIX が、AP_NETWORK に設定された伝送優先順位セットを使用して、切断された RTP 接続のパス・スイッチを試みる時間長 (秒単位)。1 ~ 65535 ミリ秒の範囲の値を指定します。指定する値は、それ自体の伝送優先順位より低い伝送優先順位の値を超えないようにしてください。

refifo_cap

RTP プロトコルは「Re-FIFO Timer」と呼ばれるタイマーを使用します。このタイマーの値はプロトコルの一部として計算されますが、このパラメーターには最大値 (タイマーはこの値を超えて増やすことができない) をミリ秒で指定します。ある状態では、この最大値の設定によりパフォーマンスを改善できます。

0 から 12000 の範囲の値を指定します。1 から 4 の範囲の値を指定すると、値 5 が使用されます。0 (ゼロ) 値に設定するという事は、タイマーの制限がないということであり、プロトコルで計算された、どのような値でも取り込むことができます。

srt_cap

RTP プロトコルは「Short Request Timer」と呼ばれるタイマーを使用します。このタイマーの値はプロトコルの一部として計算されますが、このパラメーターには最大値 (タイマーはこの値を超えて増やすことができない) をミリ秒で指定します。ある状態では、この最大値の設定によりパフォーマンスを改善できます。

0 から 24000 の範囲の値を指定します。1 から 4 の範囲の値を指定すると、値 5 が使用されます。0 (ゼロ) 値に設定するという事は、タイマーの制限がないということであり、プロトコルで計算された、どのような値でも取り込むことができます。

path_switch_delay

パス・スイッチが発生するまでの最小遅延秒数です。遅延を指定すると、特に他に利用可能な経路がない場合に、ネットワーク・トラフィックでの一時的な遅延によって発生する不要なパス・スイッチの試行を回避できます。

0 から 65535 の範囲の値を指定します。デフォルト値はゼロで、プロトコルがパス・スイッチを必要とするとすぐに、パス・スイッチの試行が発生可能なことを表します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_PATH_SWITCH_TIMES

指定されたパス・スイッチ回数のうち、1つ以上が無効でした。例えば、ある伝送優先順位に対して、それより低い伝送優先順位に指定された値を超える値が指定された場合などです。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_sdlic_dlc

define_sdlic_dlc コマンドは、新規 SDLC DLC を定義します。

DLC が現在活動状態にない場合は、このコマンドを使用して、既存の DLC を変更できます。ただし、既存の DLC に対する折衝可能なリンク・サポートは変更できません。このパラメーターは、新規 DLC の作成時にのみ指定できます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_sdlic_dlc]			
dlc_name	character	8	
description	character	31	(null string)
neg_ls_supp	constant		YES
card_type	constant		GDLC_SDLC_MPC
adapter_number	decimal		0
initially_active	constant		YES

指定パラメーターは、以下のとおりです。

dlc_name

DLC の名前。この名前は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。

description

DLC について説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_dlc コマンドで戻されます。

neg_ls_supp

DLC が折衝可能なリンク・ステーションをサポートするかどうかを指定します。既存の DLC に対する折衝可能なリンク・サポートは変更できません。このパラメーターは、新規 DLC の作成時にのみ指定できます。使用可能な値は以下のとおりです。

YES

折衝可能なリンク・ステーションはサポートされます。この DLC を使用するリンク・ステーションは、1 次、2 次、または折衝可能です。

NO

折衝可能なリンク・ステーションはサポートされません。この DLC を使用するリンク・ステーションは、1 次または 2 次である必要があります。

card_type

DLC が使用するアダプター・カードのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

GDLC_SDLC_MPC

GDLC_SDLC_MPQP

define_sdlic_ls

adapter_number

DLC が使用するアダプター番号。サーバーに複数の SDLC アダプター・カードがある場合、最初のカードには 0 (ゼロ)、2 番目のカードには 1 というように指定します。このように指定しない場合は、このパラメーターに 0 (ゼロ) を設定します。

initially_active

ノードが開始されたときにこの DLC が自動的に開始されるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ノードが開始されると、この DLC は自動的に開始されます。

NO

この DLC を使用するポートまたは LS が初めに活動状態であると定義されている場合にのみ、DLC は自動的に開始されます。その他の場合は、DLC を手動で開始する必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_DLC_NAME

dlc_name パラメーターは、無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

DLC_ACTIVE

DLC が現在活動状態であるため、パラメーターを変更することができません。

INVALID_DLC_TYPE

既存の DLC に対する折衝可能なリンク・サポートは変更できません。このパラメーターは、新規 DLC の作成時にのみ指定できます。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_sdlic_ls

define_sdlic_ls コマンドは、新規 SDLC リンク・ステーション (LS) を定義したり、既存の LS を変更する場合に使用します。

このコマンドを発行する場合は、このLSが使用するポートを定義する必要があります。

このコマンドを使用して、既存のLSが使用しているポートを変更することはできません。このコマンドの *port_name* パラメーターで指定するポートの名前は、LSの以前の定義と一致する必要があります。LSは、始動されていない場合にのみ変更できます。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_sdlc_ls]			
ls_name	character	8	
description	character	31	(null string)
port_name	character	8	
adj_cp_name	character	17	(null string)
adj_cp_type	constant		LEARN_NODE
address	hex		0xC1
auto_act_supp	constant		NO
tg_number	decimal		0
limited_resource	constant		NO
solicit_sscp_sessions	constant		NO
pu_name	character	8	(taken from ls_name)
disable_remote_act	constant		NO
dspu_services	constant		NONE
dspu_name	character	8	(taken from ls_name)
dplus_name	character	17	(null string)
bkup_dplus_name	character	17	(null string)
hpr_supported	constant		NO
link_deact_timer	decimal		30
default_nn_server	constant		NO
ls_attributes	constant		SNA
adj_node_id	hex array	4	local_node_id
array 4	cp_cp_sess_support		constant YES
use_default_tg_chars	constant		YES
effect_cap	decimal		64000
connect_cost	decimal		0
byte_cost	decimal		0
security	constant		SEC_NONSECURE
prop_delay	constant		PROP_DELAY_TELEPHONE
user_def_parm_1	decimal		0
user_def_parm_2	decimal		0
user_def_parm_3	decimal		0
target_pacing_count	decimal		7
max_send_btu_size	decimal		265
ls_role	constant		USE_PORT_DEFAULTS
conventional_lu_compression	constant		NO
initially_active	constant		NO
react_timer	decimal		30
react_timer_retry	decimal		65535
restart_on_normal_deact	constant		NO
contact_timer	decimal		5000
contact_timer_retry	decimal		10
contact_timer2	decimal		10000
contact_timer_retry2	decimal		65535
disc_timer	decimal		10000
disc_timer_retry	decimal		2
nve_poll_timer	decimal		100
nve_poll_timer_retry	decimal		65535
nve_poll_timer2	decimal		500
nve_poll_timer_retry2	decimal		65535
no_resp_timer	decimal		2000
no_resp_timer_retry	decimal		10
rem_busy_timer	decimal		2000
rem_busy_timer_retry	decimal		10
rr_timer	decimal		0
poll_frame	constant		XID
poll_on_iframe	constant		YES
opt1	constant		NONE
linesp	decimal		0
hmod_data	character	80	(null string)
max_ifrm_rcvd	decimal		0
dplus_retry_timeout	decimal		0
dplus_retry_limit	decimal		0
branch_link_type	constant		NONE
UPLINK (used only)			
adj_brnn_cp_support	constant		if this node is BrNN) ALLOWED (used only if this node is BrNN)
re_tx_threshold	decimal		0
repoll_threshold	decimal		0

x21_sequence	character	(null string)
x21_retry_count	decimal	8
x21_retry_delay	decimal	300
v25_tx_delay	decimal	0
cdst1	constant	NO
dddlu_offline_supported	constant	NO

提供されるパラメーター:

ls_name

定義するリンク・ステーションの名前。

記述

LS を説明するテキスト・ストリング。CS/AIX はこのストリングを情報にのみ使用します。これはノードの構成ファイルに保管され、query_ls、クエリー・プー、および軽率の照会の各コマンド。に戻されます。

ポート名

このリンク・ステーションに関連付けられたポートの名前。この名前は、定義済みポートの名前と一致する必要があります

付加属性名

この LS の隣接 CP の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の CP 名で構成される 3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。このパラメーターは、以下の方法で使用されます。

- 付加 cp_type パラメーターがネットワーク・ノードまたはエンド・ノードに設定されていて、事前に割り当てられた TG 番号が使用されている場合は、このパラメーターを隣接ノードで定義されている CP 名に設定します。隣接ノードが XID 交換の際に CP 名を送信する場合、この値に対して検査されます。
- 付加 cp_type がレベル・レンノード・ノードに設定されている場合、CS/AIX はこの値を ID としてのみ使用し、このノードで定義されている他の CP 名と一致しない任意のストリングに設定します。
- 付加 cp_type がその他の値に設定されている場合、または事前に割り当てられた TG 番号が使用されていない場合は、このパラメーターを指定する必要はありません。CS/AIX は、CP 名が指定されている場合にのみチェックします。

付加 cp_type

隣接ノード・タイプ。

隣接ノードが APPN ノードであり、事前に割り当てられた TG 番号が使用されていない場合、通常、このパラメーターは LEARN_NODE に設定され、ノード・タイプが不明であることを示します。CS/AIX は、XID 交換の間にタイプを判別します。

事前に割り当てられた TG 番号を使用する場合は、明示的にノード・タイプを指定する必要があります。事前に割り当てられた TG 番号が使用されていない場合は、追加のセキュリティー検査としてタイプを指定することもできます。この場合、CS/AIX は、そのノード・タイプがこのパラメーターに指定されたノード・タイプと一致しない場合、隣接ノードからの接続試行をリジェクトします。可能な値は次のとおりです

LEARN_NODE

隣接ノード・タイプが不明です。CS/AIX は、XID 交換の間にタイプを判別します。

エンド・ノード

隣接ノードは、エンド・ノード、ローカル・ノードの観点からエンド・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノード、またはその XID3 内のネットワーク名 CV を含む LEN ノードです。

ネットワーク・ノード

隣接ノードは、ネットワーク・ノードであるか、またはローカル・ノードの観点からネットワーク・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノードです。

隣接ノードが APPN ノードでない場合は、以下のいずれかの値を使用します。

レベル・レンノード・ノード

隣接ノードは、その XID3 にネットワーク名制御ベクトル (NNCV) が含まれていないノードです。

ホスト XID3

隣接ノードはホスト・ノードです。CS/AIX は、フォーマット 3 XID を持つノードからのポーリング XID に応答します。

ホスト・ XID0

隣接ノードはホスト・ノードです。CS/AIX は、フォーマット 0 XID を持つノードからのポーリング XID に応答します。

DSPU_XID

隣接ノードはダウンストリーム PU です。CS/AIX は、XID 交換をリンクの活動化に組み込んでいます。 *dspu_name* パラメーターおよび *dspu_services* パラメーターも設定する必要があります。

DSPU_NOXID

隣接ノードはダウンストリーム PU です。CS/AIX は、リンク活動化に XID 交換を含みません。 *dspu_name* パラメーターおよび *dspu_services* パラメーターも設定する必要があります。

この LS 上で独立 LU 6.2 トラフィックを実行したい場合は、付加 *cp_type* パラメーターを LEARN_NODE、エンド・ノード、ネットワーク・ノード、または レベル・レンノード・ノードに設定する必要があります。

アドレス

この LS 上の 2 次ステーションのアドレス。

このパラメーターの値は、この LS を所有するポートがどのように構成されているかによって異なります。以下のとおりです。

- ポートの *define_sdlc_port* は 0 (ゼロ) です。このポートは着呼の場合にのみ使用され、このパラメーターは予約されています。上のリンク・アクト・リムを外したパラメーターの場合
- If the port is switched primary and is used for outgoing calls (*port_type* is ポート交換, *ls_role* is LS_PRI, and リンク・アクト・リムを外した on ポートの *define_sdlc_port* はゼロ以外の値です)。このパラメーターを 0xFF に設定して、2 次ステーションで構成されているアドレスを受け入れるか、または 0x01 年-0xFE の範囲内の 1 バイト値に設定します (この値は、2 次ステーションで構成された値と一致していなければなりません)。
- その他のすべてのポート構成の場合は、このパラメーターを 0x01 年-0xFE の範囲の 1 バイト値に設定して、リンク・ステーションを識別します。 If the port is primary multi-drop (*ls_role* on ポートの *define_sdlc_port* は LS_PRI ものです。 *tot_link_act_lim* is greater than 1), this address must be different for each LS on the port.

auto_act_supp

セッションで必要に応じてリンクを自動的に活動化できるかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

リンクは自動的に活動化できます。

再活動化タイマー・パラメーターは無視されます。LS が失敗した場合、CS/AIX は、セッションを使用していた従属 LU アプリケーションがセッションの再始動を試みるまで、再活動化を試みません。独立 LU によって使用される LS は CS/AIX によって再活動化されず、手動で再始動する必要があります。

以下の制限も適用されます。

- リンクが APPN ノードに対するものである場合、LS には事前に割り当てられた TG 番号が定義されている必要があります (*tg_number* パラメーターを参照してください)。また、*cp_cp_sess_support* を 違う。 に設定する必要があります。
- ローカル・ノードまたは隣接ノードのいずれかがエンド・ノードである場合は、隣接ノードで自動的に活動化するように LS も定義する必要があります。

違う。

リンクを自動的に活動化できません。

tg_number

事前に割り当てられた TG 番号。このパラメーターが使用されるのは、隣接ノードが APPN ノード (付加 *cp_type* は ネットワーク・ノード または エンド・ノードのいずれか) である場合のみです。それ以外の場合は無視されます。

この TG 番号は、リンクの活動化時にリンクを表すために使用されます。このノードは、このリンクの活動化中に隣接ノードからの他の番号を受け入れません。隣接ノードが事前に割り当てられた TG 番号を使用している場合は、隣接リンク・ステーションの隣接ノードによって同じ TG 番号が定義されている必要があります。

ローカル・ノードが LEN ノードである場合、または隣接ノードが LEN ノードであり、リンクが自動的に活動化される場合は、TG 番号を 1 に設定します。それ以外の場合は、1-20 の範囲の数値を指定するか、または 0 (ゼロ) を指定して、TG 番号が事前割り当てされておらず、リンクが活動化されるときに折衝されることを示します。

事前に割り当てられた TG 番号が定義されている場合は、付加属性名 パラメーターも定義する必要があります。付加 *cp_type* パラメーターを エンド・ノード または ネットワーク・ノードのいずれかに設定する必要があります。

limited_resource

リンクを使用しているセッションがないときに、このリンク・ステーションが限定リソースであるかどうかを指定します。非交換ポート上のリンク・ステーションを限定リソースとして構成することはできません。可能な値は次のとおりです

違う。

このリンクは、限定リソースではなく、自動的に非アクティブ化されることは

セッションなし

リンクは限定リソースであり、アクティブ・セッションがそれを使用していない場合は自動的に非アクティブ化されます。

非活動状態

リンクは制限されたリソースであり、アクティブ・セッションがそれを使用していない場合、またはリンクの *deact_timer* パラメーターで指定された期間のデータがリンク上に流れていない場合に、自動的に非アクティブ化されます。

- リンクを介してアクティブになっている SSCP-PU セッションがない場合、ノードはリンクを即時に非活動化します。
- SSCP-PU セッションが活動状態であるが、指定された時間枠にトラフィックが流れていない場合、ノードは REQDISCONT(通常) をホストに送信します。次に、ホストはすべての LU と PU を非活動化する責任を負います。この時点で、ローカル・ノードはリンクを非活動化します。ただし、ホストはアクティブな PLU-SLU セッションを持つ LU を非活動化することはできません。この場合、これらのすべてのセッションが非活動化されるまで (例えば、ユーザー・ログアウトによって) リンクはアクティブのままです。この動作は、ノードの *define_node* コマンドの *ptf_flags* パラメーターのオプションを使用して変更することができます。

A limited resource link station can be configured for CP-CP session support by setting this parameter to セッションなし and *cp_cp_sess_support* to そうだ. この場合、CP-CP セッションがリンクの上に持ち込まれると、CS/AIX はそのリンクを限定リソースとして扱うのではなく、そのリンクを非活動化しません。

solicit_sscp_sessions

SSCP とローカル CP と従属 LU との間のセッションを開始するように隣接ノードに要求するかどうかを指定します。このパラメーターが使用されるのは、隣接ノードが APPN ノード (付加 *cp_type* は ネットワーク・ノード または エンド・ノードのいずれか) である場合のみです。それ以外の場合は無視されます。隣接ノードがホスト (付加 *cp_type* は ホスト XID3 または ホスト・ XID0 のいずれか) である場合、CS/AIX は常にホストに SSCP セッションを開始するように要求します。

可能な値は次のとおりです

そうだ

SSCP セッションを開始するよう隣接ノードに要求します。

違う。

SSCP セッションを開始するよう隣接ノードに要求しないでください。

プール名

このリンクを使用するローカル PU の名前。このパラメーターは、付加 *cp_type* が ホスト XID3 または ホスト・XID0 に設定されている場合、または *solicit_sscp_sessions* が そうだに設定されている場合にのみ必要です。それ以外の場合は無視されます。この名前は、文字で始まるタイプ A の文字ストリングです。

既に定義されている LS 上の PU 名を変更することはできません。

PU 名が必要な場合に指定しない場合、デフォルトの PU 名は LS 名と同じになります。To ensure that this name is a valid type-A character string, CS/AIX converts it to uppercase; if the string begins with a numeric character, this character is either removed or preceded by the characters "プー"

unable_remote_act

リモート・ノードによる LS の活動化を防ぐかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

LS は、ローカル・ノードによってのみアクティブにすることができます。リモート・ノードが活動化しようとする、CS/AIX はその試みを拒否します。

違う。

LS は、リモート・ノードによって活動化できます。

dspu_services

ローカル・ノードがこのリンクを介してダウンストリーム PU に提供するサービスを指定します。このパラメーターは、隣接ノードがダウンストリーム PU、または *solicit_sscp_sessions* が 違う。に設定されている APPN ノードである場合にのみ使用されます。それ以外の場合は予約されます。可能な値は次のとおりです

PU_濃度

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU に対して物理装置 (PU) 集中を提供します。SNA ゲートウェイをサポートするには、ローカル・ノードが定義されている

ドウル

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU のための DLUR サービスを提供 DLUR をサポートするには、ローカル・ノードを定義する必要がある (DLUR はエンド・ノードではサポートされません。)

なし

ローカル・ノードはダウンストリーム PU にサービスを提供しません。

dspu_name

ダウンストリーム PU の名前。この名前は、文字で始まるタイプ A の文字ストリングです。

このパラメーターは、以下の両方の条件が真である場合を除いて、予約されます。

- *solicit_sscp_sessions* パラメーターは 違う。 に設定されます。
- *dspu_services* パラメーターが PU_濃度 または ドウル に設定されている。

これらの条件の両方が真で、*dspu_name* に値を指定しない場合、デフォルトは LS 名と同じになります。To ensure that this name is a valid type-A character string, CS/AIX converts it to uppercase; if the string begins with a numeric character, this character is either removed or preceded by the characters "プー"

ダウンストリーム PU が DLUR に使用されている場合は、この名前は、ホストで構成された PU 名と一致する必要があります。(CS/AIX は、PU 名と PU ID の両方をホストに送信して、PU を識別します。ホストは、通常、PU 名を使用して PU を識別します。一致する PU 名を検出できない場合は、PU ID によって識別されます。)

dlus_name

ダウンストリーム・ノードへのリンクが活動化されている場合に、DLUR が SSCP サービスを送信する元の DLUS ノードの名前。*dspu_services* が ドウル に設定されていない場合、このパラメーターは予約済みです。

名前はタイプ A の文字ストリングで、1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の DLUS 名で構成されます。

デフォルトの `define_dlur_defaults` コマンドを使用して定義されたグローバル・デフォルト DLUS を指定するには、このパラメーターを指定しないでください。このパラメーターが指定されておらず、グローバル・デフォルト DLUS がない場合には、リンクが活動化される時に DLUR は SSCP 連絡先を開始しません。

bkup_dlus_name

`dlus_name` によって指定されたノードがアクティブでない場合に、DLUR が SSCP サービスを送信する元のバックアップ DLUS ノードの名前。 `dspu_services` がドウルに設定されていない場合、このパラメーターは予約済みです。

この名前はタイプ A の文字ストリングで、1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のバックアップ DLUS 名で構成されます。

デフォルトの `define_dlur_defaults` は、このパラメーターを指定しません。を使用してグローバル・バックアップ・デフォルト DLUS を定義するには

hpr_supported

このリンクで HPR がサポートされるかどうかを指定 このパラメーターは、リンクが APPN ノードに接続されていることを付加 `cp_type` パラメーターが示していない限り、NO に設定する必要があります 可能な値は次のとおりです

そうだ

HPR はこのリンクでサポートされます。

違う。

HPR はこのリンクでサポートされていません。

リンクの deact_timer

限定リソース・リンク非活動化タイマー(秒)。このパラメーターで指定された時間にわたってリンク上にデータ・フローが存在しない場合は、限定リソース・リンクが自動的に非アクティブになります `limited_resource` が非活動状態以外の値に設定されている場合、このパラメーターは使用されません。

最小値は 5 です。範囲 1-4 の値は、5 として解釈されます。

値 0 (ゼロ) は、以下のいずれかを示します。

- `hpr_supported` パラメーターが そうだに設定されている場合は、デフォルトの非活動化タイマーの値 30 が使用されます。
- `hpr_supported` パラメーターが 違う。に設定されている場合、タイムアウトは使用されません (`limited_resource` が 違う。に設定されているかのように、リンクは非アクティブ化されません)。

デフォルトの nn_server

エンド・ノードの場合、このパラメーターは、定義されるリンク・ステーションが、ローカル・ノードのネットワーク・ノード・サーバーとして機能するネットワーク・ノードへの CP-CP セッションをサポートするかどうかを指定します ローカル・ノードがネットワーク・ノード・サーバーへの CP-CP セッションを持たず、それらを確認する必要がある場合、ローカル・ノードは、定義されているリンク・ステーションでこのパラメーターを検査して、活動化するのに適した LS を見つけます。これにより、隣接する NN を NN サーバーとして動作するのに適した隣接 NN を指定することができます (例えば、高価リンクまたは低速リンクによってアクセスされる NN を使用しないようにするため)。

可能な値は次のとおりです

そうだ

このリンクは、ローカル・ノードの NN サーバーとして機能できるネットワーク・ノードへの CP-CP セッションをサポートします。ローカル・ノードは、NN サーバーに接続する必要がある場合、このリンクを自動的に活動化することができます。 `cp_cp_sess_support` パラメーターは、 そうだ に設定する必要があります。

違う。

このリンクは、ローカル・ノードの NN サーバーとして機能できるネットワーク・ノードへの CP-CP セッションをサポートしません。つまり、ローカル・ノードは、NN サーバーに接続する必要がある場合、このリンクを自動的にアクティブにすることはできません。

ローカル・ノードがエンド・ノードでない場合、このパラメーターは無視されます。

ls_ 属性

CS/AIX が通信しているリモート・システムの属性。

以下のいずれかのタイプのホストと通信している場合を除き、スナ を指定します。可能な値は次のとおりです

スナ

標準 SNA ホスト

フナ

富士通ネットワーク・アーキテクチャー (VTAM-F) ホスト

フナ

Hitachi ネットワーク体系ホスト

サポートされる CP_NAME

リモート・ノードに関連した CP 名を抑止します。この値をスナ、フナ、または フナと結合するには、+ 文字を使用します。

If 付加 *cp_type* is set to レベル・レンノード・ノード, and the remote LEN node associated with this LS cannot accept the Network Name CV in the format 3 XID it receives, use a + character to combine the value スナ, フナ, or フナ with サポートされる CP_NAME (for example, スナ+サポートされる CP_NAME).

付加 *cp_type* が他の値に設定されている場合、サポートされる CP_NAME オプションは無視されます。

従属ノード ID

隣接ノードのノード ID。この ID は、4 バイトの 16 進数ストリングで、ブロック番号 (3 桁の 16 進数字) とノード番号 (5 桁の 16 進数字) から構成されます。ノード ID 検査を無効にするには、このパラメーターを指定しないでください。このリンク・ステーションが交換ポートで定義されている場合、従属ノード ID は固有でなければなりません。また、各交換ポートには、ヌルの従属ノード ID が 1 つしかない可能性があります。

ローカル・ノード ID

この LS 上の XID で送信されたノード ID。この ID は、4 バイトの 16 進数ストリングで、ブロック番号 (3 桁の 16 進数字) とノード番号 (5 桁の 16 進数字) から構成されます。ノードの `define_node` コマンドは、このパラメーターを指定しません。のノード ID パラメーターで指定されたノード ID を使用するには、

cp_cp_sess_support

CP-CP セッションがサポートされるかどうかを指定 このパラメーターが有効なのは、隣接ノードがエンド・ノードまたはネットワーク・ノード (付加 *cp_type* がネットワーク・ノード、エンド・ノード、または LEARN_NODE) である場合のみです。それ以外の場合は無視されます。ローカル・ノードと隣接ノードの両方がネットワーク・ノードである場合、これらのノード間で APPN 機能を使用するには、このパラメーターを そうだ に設定する必要があります。

可能な値は次のとおりです

そうだ

CP-CP セッションはサポートされます。

違う。

CP-CP セッションはサポートされません。

use_default_tg_chars

ポートの `define_sdlic_port` で提供されるデフォルト TG 特性を使用するかどうかを指定します TG 特性は、リンクが APPN ノードに対するものである場合にのみ適用されます。If the link is not to an APPN node, the *use_default_tg_chars* through ユーザー定義パラメーター 3 parameters are ignored. 可能な値は次のとおりです

そうだ

デフォルトの TG 特性を使用します。このコマンドでは有効上限 から ユーザー定義パラメーター 3 までのパラメーターを無視してください。

違う。

Use the 有効上限 through ユーザー定義パラメーター 3 parameters on this command.

有効上限

回線速度を表す 10 進値 (ビット / 秒)。

接続コスト

接続時間当たりのコスト。有効な値は、0-255 の範囲の整数値です。ここで、0 は接続時間あたりのコストが最も低く、255 は接続時間ごとのコストが最も高い値です。

バイト・コスト

バイト単位のコスト。有効な値は、0-255 の範囲の整数値です。ここで、0 はバイト当たりの最小コストであり、255 はバイト当たりのコスト / バイト数の最大値です。

担保

ネットワークのセキュリティー・レベル。可能な値は次のとおりです

セキュア非セキュア

セキュリティーなし。

ネットワークの接続を保護するためのネットワーク

データは公衆交換網を介して伝送される。

セクター・ケーブル (ケーブル)

データは安全な地下ケーブルで送信されます。

セキュア・セキュア・コンジット

保護されていないセキュア・コンジットでは、回線を介してデータが伝送されます。

セキュア・ガード D_CONDUIT

データは、物理的な盗聴に対して保護されているコンジットの行を介して伝送されます。

セキュア暗号化

データは、回線を介して伝送される前に暗号化

セキュリティー保護された放射線

物理および放射線のタップに対して保護されている回線を介してデータが伝送されます。

プロペップ遅延

伝搬遅延時間 (シグナルがリンクの長さを移動するのにかかる時間)。リンクのタイプに応じて、以下の値のいずれかを指定します。

最小の PROP_DELAY_最小

最小伝搬遅延。

プロ P_DELAY_LAN

遅延は 0.5 マイクロ秒未満 (LAN の場合は標準) より小さくなります。

PROP_DELAY_電話

遅延は、.5-50 マイクロ秒の範囲です (電話ネットワークの場合は標準)。

PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET

遅延は、50 から 250 マイクロ秒の範囲です (パケット交換ネットワークの場合の標準)。

PROP_DELAY_衛星

遅延が 250 マイクロ秒より大きくなっています (サテライト・リンクの場合は標準)。

最大の PROP_DELAY_最大

最大伝搬遅延。

ユーザー定義パラメーター 1 から ユーザー定義パラメーター 3 まで

ユーザー定義パラメーター。前のパラメーターでカバーされていない他の TG 特性を組み込むために使用できます。これらの各パラメーターは、0-255 の範囲内の値に設定する必要があります。

ターゲット・パック・カウント

目的のペーシング・ウィンドウ・サイズを示します。1-32,767 の範囲の値を指定してください。

最大 send_btu_size

このリンク・ステーションから送信できる BTU の最大サイズ。この値は、リンク・ステーションのペアが相互に通信するために使用できる BTU サイズの最大値を折衝するために使用されます。この値に

は、TH と RH の長さ (合計 9 バイト) と、RU の長さが含まれます。265-4105 の範囲の値を指定してください。

ls_role

リンク・ステーションの役割。通常、このパラメーターは USE_PORT_DEFAULTS に設定され、LS ロールがこの LS を所有するポートの定義から取得されるように指定します。

個々の LS に対してポートの LS ロールをオーバーライドする必要がある場合は、以下のいずれかの値を指定します。

LS_PRI

プライマリー

LS_SEC

セカンダリ

LS_NEG

交渉可能

通常 lu_lu_圧縮

このリンク上の LU 0-3 セッションに対してデータ圧縮を要求するかどうかを指定します。このパラメーターは、このリンクが LU 0 から 3 のトラフィックを伝送する場合にのみ使用されます。LU 6.2 セッションには適用されません。可能な値は次のとおりです

そうだ

ホストが要求する場合、このリンク上の LU 0-3 セッションに対してデータ圧縮を使用する必要があります。

違う。

このリンク上の LU 0-3 セッションには、データ圧縮を使用しないでください。

初期設定がアクティブ

ノードの開始時にこの LS を自動的に開始するかどうかを指定します 可能な値は次のとおりです

そうだ

LS は、ノードが開始されると自動的に開始されます。

違う。

LS は自動的に開始されません。手動で開始する必要があります。

LS がリース・リンクである場合は、このパラメーターを そうだ に設定して、リンクが常に使用可能であることを確認することをお勧めします。

react_タイマー

失敗した LS を再活動化するための再活動化タイマー。react_timer_retry パラメーターがゼロ以外の値である場合 (CS/AIX が失敗した場合に LS の活動化を再試行する必要があることを指定するため)、このパラメーターは再試行の間隔を秒単位で指定します。LS が失敗した場合、または LS の再活動化の試みが失敗した場合、CS/AIX は、指定された時間を待機してから、活動化を再試行します。

react_timer_retry が 0 (ゼロ) の場合、このパラメーターは無視されます。

react_timer_retry

失敗した LS を再活動化するための再試行カウント このパラメーターは、使用中に (または LS の開始が失敗した場合に)、CS/AIX が LS を再活動化するかどうかを指定するために使用されます。

0 (ゼロ) を指定すると、CS/AIX は LS の再活動化を試行しないか、または再試行の回数を指定する必要があります。値 65,535 は、CS/AIX が LS が再活動化されるまで無期限に再試行することを示します。

CS/AIX は、連続する再試行の間、react_タイマー パラメーターで指定された時間待機します。LS が再試行カウントの終了時に正常に再活動化されない場合、または stop_ls は、CS/AIX が活動化を再試行しているときに発行されます。これ以上再試行は行われません。LS は、start_ls が発行されない限り、非アクティブ

auto_act_supp パラメーターが そうだ に設定されている場合、react_タイマー パラメーターおよび react_timer_retry パラメーターは無視されます。リンクが失敗した場合、CS/AIX は、セッションを使用していたユーザー・アプリケーションがセッションの再始動を試行するまで、その再アクティブ化を試みません。

LS が専用 SDLC リンクである場合は、このパラメーターをゼロ以外の値に設定して、リンクが常に使用可能であることを確認することをお勧めします。

正常化が正常に解除されている

リモート・システムによって正常に非活動化された場合に、CS/AIX が LS を再活動化するかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

リモート・システムが LS を正常に非活動化すると、CS/AIX は、同じ再試行タイマーとカウント値を使用して、失敗した LS (上記の *react_* タイマー および *react_timer_retry* パラメーター) を再活動化するために、その LS を再活動化しようとします。

違う。

リモート・システムが LS を正常に非活動化すると、CS/AIX はそれを再活動化しようとしません。

LS がホスト・リンク (付加 *cp_type* パラメーターで指定) である場合、またはノードの開始時に自動的に開始される場合 (初期設定がアクティブ パラメーターは そうだに設定されています)、このパラメーターは無視されます。CS/AIX は、リモート・システムによって正常に非活動化された場合 (*react_timer_retry* がゼロでない限り)、LS を常に再活動化しようとします。

接続タイマー

肯定応答がない場合に SNRM または XID が再送される前にタイムアウトが必要 (1 次 SDLC のみに使用される)。この値は、応答なし (T1) のタイムアウト値 *no_resp_timer* より大きくなければなりません。接続タイマー パラメーターはミリ秒単位で指定します。

このタイマーは、特殊な事前アクティブ化ポーリングにも使用されます。

コンタクト・タイマー再試行

CS/AIX がコンタクト・タイマー 2 で指定されたタイムアウトに変更される前に、接続タイマー パラメーターで指定されたタイムアウトを使用して、コンタクト・フレーム (SNRM など) の伝送および再送が許可される回数。

1-65,535 の範囲の値を指定してください。値 65,535 は、無制限再試行カウントを示します。値 1 は、最初のタイマーの有効期限が切れた後に、低速ポーリングへの切り替えが行われることを示します。

コンタクト・タイマー 2

低位ポーリングのコンタクト・タイマー (ミリ秒)。接続タイマーの再試行カウントが満了すると、CS/AIX はこのタイマーを使用してポーリングを続行します。これにより、リース (複数ドロップ) リンクが、不在ステーションのポーリング・フレームによってあふれないようになっています。この値は、接続タイマー パラメーターに指定されている値より大きくなければなりません。

コンタクト・タイマー / 再試行 2

低速ポーリング接続タイマーの再試行 - リンクが失敗したと見なされるまでに、低速サイクルでコンタクト・フレーム (SNRM など) の伝送および再送信を行う回数が許可されます。

1-65,535 の範囲の値を指定してください。値 65,535 は、無制限再試行カウントを示します。値 1 は、ポーリングの低速タイマーの有効期限が切れた後に、リンクが失敗したと想定されることを示します。

ディスク・タイマー

非肯定応答の場合に DISC が再送される前にタイムアウトになりました (1 次 SDLC のみに使用されます)。タイマーはミリ秒単位で指定します。

デフォルト値の 10,000 (10 秒) は、専用回線で使用することを目的としています (*port_type* ポートの *define_sdlic_port* が「ポート非交換」に設定されています)。交換回線の場合は、1000 などの低い値が必要になることがあります。

ディスク・タイマー再試行

切断タイマー再試行 (DISC の伝送および再送信が許可される回数)。

1-65,535 の範囲の値を指定してください。値 65,535 は、無制限再試行カウントを示します。値 1 は、タイマーが初めて有効期限切れになった後に、リンクが失敗したと想定されることを示します。

nve_poll_タイマー

隣接する 2 次ステーション (送信するデータがないため、以前にポーリング・リストから除去された) の前に必要なタイムアウトが、ポーリング・リストに再挿入されます。タイマーはミリ秒単位で指定します。

nve_poll_timer_retry

CS/AIX が低速の負のポーリング・タイマー (*nve_poll_timer2* 年 パラメーターで指定) を使用する前に、通常のポーリング・タイマー (*nve_poll_タイマー* パラメーターで指定) のポーリング・リストからステーションが除去された回数。

1-65,535 の範囲の値を指定してください。値 65,535 は、無制限再試行カウントを示します。値 1 は、タイマーが初めて有効期限が切れた後に、低速ポーリングへの切り替えを行うことを示します。

nve_poll_timer2 年

低速な負のポーリング・タイマー (ミリ秒)。 *nve_poll_timer_retry* パラメーターで指定されたカウントが期限切れになると、CS/AIX はこのタイマーを使用してポーリングを続行します。これにより、リース・マルチポイント・リンクがアイドル状態のステーションのポーリング・フレームによってあふれないように

nve_poll_timer_retry2

リンクが失敗したと想定されるまでに、低速ポーリング周期のポーリング・リストからステーションが除去された回数。 1-65,535 の範囲の値を指定してください。通常、この値は 65,535 に設定され、無限再試行を示します。

no_resp_timer

別のステーションのポーリングを試行する前に、1 次ステーションが応答フレームに対して (ポーリング・ビットを使用してフレームを送信した後で) 待機する最大時間。 F ビットを持たないフレームが受信され、F ビットが指定されたフレームが受信された場合にのみ、このタイマーが再始動される。 タイムアウトは、最長 I フレームの伝送時間と隣接ステーションのフレーム処理時間の 2 倍を超えない値に設定する必要があります。

タイマーはミリ秒単位で指定します。

非リポジトリ・タイマー再試行回数

1 次ステーションがリンクに障害が発生したと想定するまでに、隣接 2 次ステーションが応答に失敗する回数。

1-65,535 の範囲の値を指定してください。値 65,535 は、無制限再試行カウントを示します。値 1 は、最初のタイマーの有効期限が切れた後に、リンクが失敗したと想定されることを示します。

rem_busy_timer

隣接する 2 次ステーションが受信不能 (RNR) 状態にあることを許容する時間。 このパラメーターは、リンクが失敗したと想定されるまでの全体時間を提供するために、残り時間の再試行回数 パラメーターの値と一緒に使用されます。タイマーはミリ秒単位で指定します。

残り時間の再試行回数

このパラメーターは、リンクが失敗したと想定される前に全体のタイムアウトを提供するために、*rem_busy_timer* パラメーターの値と共に使用されます。

1-65,535 の範囲の値を指定してください。 65,535 の値は、無制限の再試行カウントを示すために使用されます。値 1 は、タイマーが初めて有効期限切れになった後に、リンクが失敗したと想定されることを示します。

rr_タイマー

SDLC コンポーネントに作業がない場合に、ポーリング・ビットを回すまでに待機する時間 (ミリ秒)。

このパラメーターは、即時のターンアラウンドを示す 0 (ゼロ) に設定することができます。あるいは、即時のターンアラウンドが原因でリンク上のハードウェア障害が発生する場合は、ゼロ以外の値に設定できます。多くの場合、より高い値を使用してリンクの使用を最適化することもできます。これは、多くの場合、CS/AIX は、ポーリング・ビットを伝送する I フレームに含まれるデータへの応答としてデータを生成するためです。一時停止は、データの受信

poll_frame

事前活動化ポーリングに使用するフレーム。このフレームは、通常はシドです。これは、ポーリングが DLC ユーザーの制御下にあることを示します。ただし、CS/AIX が古い 2 次実装と基本的に会話して

いる場合は、他のフレームを使用してポーリングを行う必要がある場合があります。可能な値は次のとおりです

- シド
- ディスツ
- スナム
- スヌルム
- テスト

poll_on_iframe

このリンク・ステーションがポーリング・ビットを I フレーム上に送信できるかどうかを指定します。これにより、ポーリング・ビットを搭載した I フレームの受信を処理しない特定の SDLC 実装を CS/AIX が機能させることができます。

可能な値は次のとおりです

そうだ

このリンク・ステーションは、ポーリング・ビットを I フレーム上に送信することができます。

違う。

このリンク・ステーションは、I フレーム上にポーリング・ビットを送信することはできません。

オプション 1

HMOD ポート・オプション・フラグ 1。このパラメーターは、交換回線発信リンク (専用リンクまたは交換着信リンク用ではない) にのみ使用されます。このパラメーターを使用して指定されたオプションは、この LS を所有するポートに定義されているオプションをオーバーライド 交換着信リンクまたは専用リンクの場合、ポートの オプション 1 パラメーターで定義されているオプション (LS 用ではない) が使用されます。

このパラメーターの該当するビットを表示されている値の 1 つに設定します (これらの値は、+ 文字と組み合わせることができます)。

フォーリング・ワイヤー

データを両方の方向に同時に送信できる 4 線のワイヤー接続がある場合は、この値を指定します。ただし、半二重は操作の最も一般的なモードであるため、接続は半二重の場合があります。

一度に 1 つの方向のみでデータを送信できる 2 つのワイヤー接続がある場合は、この値を指定しないでください。

ヌルジ

データ・リンクを介してデータを送信する場合は、NRZI データ・エンコードを使用して NRZ を使用したい場合は、この値を指定しないでください。

ネットワークへのリンクを構成する場合は、ネットワークの残りの部分で使用されるエンコード・タイプを使用します。ネットワーク上のすべてのステーションは、相互に通信し、同じエンコード・タイプを使用する必要があります。いずれのタイプのエンコードも、すべてのシチュエーションに対して機能 1 つのタイプのエンコード方式を使用するときに問題が発生した場合は、すべてのステーションのエンコード・タイプを他のタイプに変更してください。

リーネズプ

このポートで使用される回線の回線速度。例えば、2400 ボー・ラインの場合はこのパラメーターを 2400 に設定します。このパラメーターは、所有ポートの オプション 1 パラメーターに外部クロックが指定されている場合 (非 CLK が 0 に設定されている場合)、または基礎となる SDLC ハードウェアが外部のクロッキングのみをサポートする場合は無視されます。

hmod_data

発呼のためのダイヤル・データ。このパラメーターは、交換リンクにのみ適用されます。この LS に関連するポートが非交換として定義されている場合には予約されます。

このパラメーターは、呼び出しを開始するためにモデムに渡されるダイヤル・ストリングを指定します。ダイヤル・データのサポートは、使用している SDLC ドライバー、アダプター、およびモデムによって異なります。ドライバー、アダプター、またはモデムがダイヤル・データをサポートしていない場合は、このパラメーターを指定しないでください。

ダイヤル・データには、印刷不能の制御文字を入れる必要がある場合があります。例えば、Enter キーを押すのと同じように、復帰を使用して終了する必要がある場合があります。これらの制御文字の指定方法の詳細については、[149 ページ](#)の『モデム制御文字』を参照してください。

max_ifrm_rcvd

肯定応答を送信する前にローカル・リンク・ステーションが受信できる I フレームの最大数。1-127 の範囲の値を指定してください。

dlus_retry_timeout

dlus_name パラメーターおよび *bkup_dlus_name* パラメーターによって指定された DLUS への 2 回目以降の接続試行の間隔 (秒単位)。1 回目の試行と 2 回目の試行の間隔は常に 1 秒です。

0-65,535 の範囲の値を指定してください。0 を指定すると、デフォルトの *define_dlur_defaults* を使用して指定されたデフォルトが使用されます。 *dspu_services* パラメーターがドウルに設定されていない場合、このパラメーターは無視されます。

dlus_retry_limit

DLUS に連絡するための再試行カウント。このパラメーターは、最初の試行で CS/AIX が DLUS との接続に失敗した場合に CS/AIX が再試行する回数を指定するために使用されます。

Specify a value in the range 1-65,534, or specify 65,535 to indicate that CS/AIX should retry indefinitely until it contacts the DLUS.

ブランチ・リンク・タイプ

このパラメーターが適用されるのは、ローカル・ノードが分岐ネットワーク・ノードの場合のみです。ローカル・ノードが他のタイプの場合には使用されません。

If the parameter 付加 *cp_type* is set to ネットワーク・ノード, エンド・ノード, アプリケーション・ノード, or レベル・レンノード・ノード, this parameter defines whether the link is an uplink or a downlink. 可能な値は次のとおりです

アップリンク

リンクはアップリンクです。

ダウンリンク

リンクはダウンリンクです。

付加 *cp_type* が ネットワーク・ノード に設定されている場合、このパラメーターは アップリンク に設定する必要があります。

付加 cpnn_cp_support

This parameter applies only if the local node is a Branch Network Node and the adjacent node is a network node (the parameter 付加 *cp_type* is set to ネットワーク・ノード, or it is set to アプリケーション・ノード and the node type discovered during XID exchange is network node). これは、ローカル・ノードとリモート・ノードが他のタイプの場合には使用されません。

このパラメーターは、隣接ノードを、ローカル・ノードの視点からネットワーク・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノードにすることができるかどうかを定義します。可能な値は次のとおりです

許可

隣接ノードは、分岐ネットワーク・ノードとして許可されます (必須ではありません)。

必須

隣接ノードは分岐ネットワーク・ノードでなければなりません。

禁止

隣接ノードは分岐ネットワーク・ノードであってはなりません。

付加 *cp_type* が ネットワーク・ノード に設定されており、 *auto_act_supp* が そうだに設定されている場合、このパラメーターは 必須 または 禁止 に設定する必要があります。

再 tx_しきい値

SDLC I フレーム伝送の合計数に対する、SDLC I フレーム再送の最大数のパーセンテージとして使用できる最大数。0-100 の範囲の値を指定してください。0 の値は 20 % にマップされます。このパラメーターを使用して、このリンクのパフォーマンスに関するフィードバックを取得します。

指定された再送信の数に達すると、CS/AIX は一時伝送エラーが発生したことを宣言し、システム・エラー・ログに項目をログに記録します。指定された再送信数が小さすぎると、システム・エラー・ログに、リンクのパフォーマンスを意味する情報が多すぎる可能性があります。ただし、数値が大きすぎると、ログにリンク情報が含まれていない可能性があります。

再 **poll_threshold**

2 次 LS に送信される合計ポーリングの割合 (%) としての再ポーリングの最大率。0-100 の範囲の値を指定してください。0 の値は、リンクの詳細によって異なるデフォルト値にマップされます。着信リンクの場合、デフォルトは 10 パーセントです。発信リンクの場合、非リポジトリ・タイマー再試行回数が 1 から 100 までの間でない限り、デフォルトは 100 % です。この場合は、非リポジトリ・タイマー再試行回数 パラメーターの値が使用されます。

指定された再ポーリングの最大速度に達すると、CS/AIX は、一時伝送エラーが発生したことを宣言し、システム・エラー・ログに項目をログに記録します。指定された再ポーリングの速度が低すぎる場合、システム・エラー・ログには、リンクのパフォーマンスを十分に評価できないほどの情報が含まれている可能性があります。しかし、レートが高すぎると、ログにリンク情報が含まれていない可能性があります。

x21_シーケンス

リモート・リンク・ステーションを識別する文字ストリング。このストリングは、0 から 9 までの数字、* (アスタリスク)、+ (正符号)、- (ハイフン)、. (ピリオド)、および / (スラッシュ) に限定されます。ストリングの末尾は + (正符号) でなければなりません。

x21_retry_カウント

リンク・ステーションが呼び出しを中止する前に、失敗した呼び出し試行の回数。1-15 の範囲の値を指定してください。

接続先のネットワークがこのパラメーターに特殊値を必要としない場合は、デフォルト値 (8) を使用します。

x21_retry_delay

CS/AIX がこのリンクでの失敗した呼び出しを再試行する前に待機する時間間隔 (1/10 秒単位)。1-1200 の範囲の値を指定してください。

接続先のネットワークがこのパラメーターに特殊値を必要としない場合は、デフォルト値 (300) を使用します。

v25_tx_delay

DTR (データ端末作動可能) シグナルの送信とモデムへのダイヤル・シーケンスの送信の間に経過する時間の長さ (10 分の 1 秒単位)。0-600 の範囲の値を指定してください。呼び出しが失敗し、モデムが「Dial Tone」メッセージを報告しない場合は、この値を大きくする必要があります。

cdstl

DTR シグナルが DTE (データ端末装置) から接続されている DCE (データ回線終端装置) への無条件 CDSTL (データ・セットから回線への接続) コマンドを指示するかどうかを指定します。これは、ネットワークからそれ自体を接続するか、またはネットワークから除去することができます。可能な値は次のとおりです

そうだ

DTR シグナルの状態は、DTE から接続されている DCE への無条件 CDSTL コマンドを示して、それ自体をネットワークから接続するか、またはそれ自体をネットワークから除去します。

違う。

DTR シグナルは、単に DTE が作動可能かどうかを示します。

サポートされる **dddlu_offline_supported**

ローカル PU が、NMVT (電源オフ) メッセージをホストに送信するかどうかを指定します。ホスト・システムが DDDL (従属 LU の動的定義) をサポートしている場合、CS/AIX は、動的に定義された LU を使用しているときに、NMVT (電源オフ) をホストに送信します。これにより、ホストは、不要になった定義を除去することによって、リソースを保管することができます。

このパラメーターが使用されるのは、このリンクがホストに対するものである場合 (**solicit_sscp_sessions** は **そうだ** に設定され、**dspu_services** がなしに設定されていない場合) です。

可能な値は次のとおりです

そうだ

ローカル PU は、NMVT (電源オフ) メッセージをホストに送信します。

違う。

ローカル PU は、NMVT (電源オフ) メッセージをホストに送信しません。

ホストが DDDLU をサポートしているが、NMVT (電源オフ) メッセージをサポートしていない場合、このパラメーターは違う。に設定する必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

CANT_MODIFY_PORT_NAME

ls_name パラメーターは既存の LS 名と一致しますが、*port_name* パラメーターが既存の定義と一致しません。既存の LS の定義を変更する場合、ポート名は変更できません。

DEF_LINK_INVALID_SECURITY

security パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_AUTO_ACT_SUPP

auto_act_supp パラメーターが有効な値に設定されていないか、または *cp_cp_sess_support* も YES に設定されているときにこのパラメーターが YES に設定されています。

INVALID_CP_NAME

adj_cp_name パラメーターに、無効な文字、正しい形式ではない文字、または必要なときに指定しなかった文字が含まれています。

INVALID_LIMITED_RESOURCE

limited_resource パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LINK_NAME

ls_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_LS_ROLE

ls_role パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_NODE_TYPE

adj_cp_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_PORT_NAME

port_name パラメーターが、定義済みのポートの名前と一致しません。

INVALID_PU_NAME

pu_name パラメーターが定義済みの PU の名前と一致しないか、または定義済み LS で新規値に設定されています。

INVALID_DSPU_NAME

dspu_name パラメーターは、定義済みの PU のいずれの名前とも一致しないか、または予期しないときに設定されました。

INVALID_DSPU_SERVICES

dspu_services パラメーターは、有効な値に設定されていないか、またはこのパラメーターにより、すでに定義済みの LS に対して新規の値が設定されました。

INVALID_SOLICIT_SSCP_SESS

solicit_sscp_sess パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_TARGET_PACING_CNT

target_pacing_count パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_DLUS_NAME

dlus_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

INVALID_BKUP_DLUS_NAME

bkup_dlus_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

HPR_NOT_SUPPORTED

予約済みパラメーターがゼロ以外の値に設定されています。

INVALID_TG_NUMBER

指定された TG 番号は、有効範囲外です。

MISSING_CP_NAME

TG 番号が定義されていますが、CP 名が指定されていません。

MISSING_CP_TYPE

TG 番号が定義されていますが、CP タイプが指定されていません。

MISSING_TG_NUMBER

リンクは自動的に活動化されるよう定義されていますが、TG 番号は指定されていません。

INVALID_BRANCH_LINK_TYPE

branch_link_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_BRNN_SUPPORT

adj_brnn_cp_support パラメーターが、有効な値に設定されていません。

BRNN_SUPPORT_MISSING

adj_brnn_cp_support パラメーターが ALLOWED に設定されています。隣接ノードがネットワーク・ノードであり、*auto_act_supp* が YES に設定されているため、この値は無効です。

INVALID_UPLINK

branch_link_type パラメーターが UPLINK に設定されていますが、ローカル・ノードと隣接ノードの間の既存の LS の定義では、このパラメーターがダウンリンクに指定されています。同じ 2 つのノード間の LS の分岐リンク・タイプは、すべて同じである必要があります。

INVALID_DOWNLINK

branch_link_type パラメーターが DOWNLINK に設定されていますが、ローカル・ノードと隣接ノードの間の既存の LS の定義では、このパラメーターがアップリンクに指定されています。同じ 2 つのノード間の LS の分岐リンク・タイプは、すべて同じである必要があります。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

DUPLICATE_CP_NAME

adj_cp_name パラメーターで指定した CP 名は、すでに定義済みです。

DUPLICATE_DEST_ADDR

address パラメーターで指定した宛先アドレスは、すでに定義済みです。

INVALID_LINK_NAME

ls_name パラメーターで指定したリンク・ステーションの値は無効です。

INVALID_NUM_LS_SPECIFIED

指定されているリンク・ステーションの数が無効です。

LOCAL_CP_NAME

adj_cp_name パラメーターに指定されている値がローカル CP 名と同じです。

LS_ACTIVE

ls_name パラメーターで指定したリンク・ステーションは、現在活動状態です。

PU_ALREADY_DEFINED

pu_name パラメーターに指定されている PU は、既に定義されています。

DSPU_ALREADY_DEFINED

dspu_name パラメーターに指定されているダウンストリーム PU は、既に定義されています。

DSPU_SERVICES_NOT_SUPPORTED

PU_CONCENTRATION または DLUR が *dspu_services* パラメーターで指定されましたが、ノードではそれをサポートしていません。

DUPLICATE_TG_NUMBER

tg_number パラメーターに指定されている TG 番号は、既に定義されています。

TG_NUMBER_IN_USE

tg_number パラメーターに指定されている TG 番号は、他のリンク・ステーションで使用されています。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

モデム制御文字

hmod_data パラメーターに印刷不可能な制御文字を組み込む必要がある場合は、以下のいずれかの方式を使用できます。

- 149 ページの表 2 のリストにある 1 つ以上のエスケープ・シーケンスには、前後に / (スラッシュ) 文字を付けて組み込む。例えば、CR (復帰) 文字を組み込むには、/CR/ を組み込みます。
- 10 進値の制御文字の前後に / (スラッシュ) 文字を付けて組み込む。例えば、値が 135 の制御文字を組み込むには、/135/ を組み込みます。
- 文字ストリングの代わりに 16 進配列でパラメーターを指定する。これにより、ストリング内の各文字は、印刷可能文字またはエスケープ・シーケンスの代わりに 1 対の 16 進数字で指定されます。

表 2. モデム制御文字のエスケープ・シーケンス

エスケープ・シーケンス	10 進値	16 進値
NUL	0	0x00
SOH	1	0x01
STX	2	0x02
ETX	3	0x03
EOT	4	0x04
ENQ	5	0x05
ACK	6	0x06
BEL	7	0x07
BS	8	0x08
HT	9	0x09
LF	10	0x0A

表 2. モデム制御文字のエスケープ・シーケンス (続き)

エスケープ・シーケンス	10 進値	16 進値
VT	11	0x0B
FF	12	0x0C
CR	13	0x0D
SO	14	0x0E
SI	15	0x0F
DLE	16	0x10
DC1	17	0x11
DC2	18	0x12
DC3	19	0x13
DC4	20	0x14
NAK	21	0x15
SYN	22	0x16
ETB	23	0x17
CAN	24	0x18
EM	25	0x19
SUB	26	0x1A
ESC	27	0x1B
FS	28	0x1C
GS	29	0x1D
RS	30	0x1E
US	31	0x1F
SP	32	0x20
DEL	127	0x7F

define_sdlic_port

define_sdlic_port コマンドは、新規 SDLC ポートを定義したり、既存のポートを変更する場合に使用します。

このコマンドを発行する前に、このポートが使用する DLC を定義する必要があります。

既存のポートは、開始されていない場合にのみ変更できます。既存のポートで使用されている DLC は変更できません。既存のポートを変更するときに指定した *dlc_name* は、ポートの初期定義で指定した DLC と一致する必要があります。

着呼を受け入れるポートの定義については、[160 ページの『着呼』](#)を参照してください。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_sdlic_port]			
port_name	character	8	
description	character	31	(null string)
dlc_name	character	8	
port_type	constant		PORT_NON_SWITCHED
port_number	decimal		0

max_rcv_btu_size	decimal	265	
tot_link_act_lim	decimal		1
inb_link_act_lim	decimal	0	
out_link_act_lim	decimal		1
ls_role	constant	LS_NEG	
act_xid_exchange_limit	decimal		10
nonact_xid_exchange_limit	decimal		10
ls_xmit_rcv_cap	constant		LS_TWA
max_ifrm_rcvd	decimal		7
target_pacing_count	decimal	7	
max_send_btu_size	decimal		265
address	hex number		0x00
implicit_cp_cp_sess_support	constant		YES
implicit_limited_resource	constant	NO	
implicit_hpr_support	constant	YES	
implicit_deact_timer	decimal	30	
implicit_uplink_to_en	constant	NO	
effect_cap	decimal		64000
connect_cost	decimal		0
byte_cost	decimal	0	
security	constant		SEC_NONSECURE
prop_delay	constant		PROP_DELAY_TELEPHONE
user_def_parm_1	decimal	0	
user_def_parm_2	decimal	0	
user_def_parm_3	decimal	0	
initially_active	constant	YES	
idle_timer	decimal		1000
idle_timer_retry	decimal		60
np_rcv_timer	decimal		1000
np_rcv_timer_retry	decimal		60
write_timer	decimal		1000
write_timer_retry	decimal		5
link_conn_timer	decimal		1000
link_conn_timer_retry	decimal		60
use_rej	constant		NO
spec_port_type	constant		LEASED
max_xid_size	decimal		256
max_retry_count	decimal		10
physical_link	constant		RS232
opt1	constant		NRZI
opt2	constant		NONE
linesp	decimal		0
rcv_pool_size	decimal		8
poll_wait	decimal		1
hmod_data	character	80	(null string)
x21_retry_count	decimal		1
x21_retry_delay	decimal		300
v25_tx_delay	decimal		0
cdstl	constant		NO
contact_timer	decimal		3000
contact_timer_retry	decimal		10
contact_timer2	decimal		10000
contact_timer_retry2	decimal		65535
disc_timer	decimal		10000
disc_timer_retry	decimal		2
nve_poll_timer	decimal		100
nve_poll_timer_retry	decimal		65535
nve_poll_timer2	decimal		2000
nve_poll_timer_retry2	decimal		65535
no_resp_timer	decimal		2000
no_resp_timer_retry	decimal		10
rem_busy_timer	decimal		2000
rem_busy_timer_retry	decimal		10
re_tx_threshold	decimal		
repoll_threshold	decimal		
rr_timer	decimal		0
poll_frame	constant		XID
poll_on_iframe	constant		YES
implicit_dspu_template	character	8	(null string)
implicit_dspu_services	constant		NONE
implicit_ls_limit	decimal		0

指定パラメーターは、以下のとおりです。

port_name

定義するポートの名前。この名前は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。

description

ポートについて説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、`query_port` コマンドで戻されます。

dlc_name

関連 DLC の名前。この名前は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。指定した DLC は、すでに定義済みである必要があります。

port_type

このポートが使用する回線のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

PORT_SWITCHED

交換回線

PORT_NONSWITCHED

非交換回線

port_number

ポートの番号。

max_rcv_btu_size

受信できる BTU の最大サイズ。この値には、TH と RH (合計 9 バイト)、および RU の長さが含まれています。265 から 4105 の範囲内で値を指定します。

tot_link_act_lim

リンクの活動化限度の合計 (このポートを使用して、いつでも活動化することができるリンクの最大数)。

`port_type` が `PORT_NONSWITCHED`、`ls_role` が `LS_PRI` または `LS_SEC` に設定されている場合、範囲は 1 ~ 254 です。1 より大きい値を指定すると、ポートはマルチドロップ (1 次) またはマルチ PU (2 次) として定義されます。その他のすべてのケースでは、このパラメーターには 1 を設定してください。

inb_link_act_lim

インバウンド・リンクの活動化限度 (インバウンドの活動化用に予約されているリンクの数)。

`inb_link_act_lim` と `out_link_act_lim` の合計は、`tot_link_act_lim` を超えないようにする必要があります。`inb_link_act_lim` と `tot_link_act_lim` の差によって、いつでも活動化することができるアウトバウンド・リンクの最大数が定義されます。

`port_type` が `PORT_NONSWITCHED` に設定されている場合、このパラメーターは 0 (ゼロ) にします。

`port_type` が `PORT_SWITCHED` に設定された場合、そのポートは、着呼を受け入れるか

(`inb_link_act_lim = 1`、`out_link_act_lim = 0` に設定)、または発呼を受け入れるか (`inb_link_act_lim = 0`、`out_link_act_lim = 1` に設定) のどちらかに定義する必要があります。

out_link_act_lim

アウトバウンド・リンク活動化限度 (アウトバウンド活動化用に予約済みのリンクの数)。

`inb_link_act_lim` と `out_link_act_lim` の合計は、`tot_link_act_lim` を超えないようにする必要があります。`out_link_act_lim` と `tot_link_act_lim` の差によって、いつでも活動化することができるインバウンド・リンクの最大数が定義されます。

If `port_type` が `PORT_NONSWITCHED` に設定されている場合、このパラメーターは `tot_link_act_lim` と等しくする必要があります。`port_type` が `PORT_SWITCHED` に設定された場合、そのポートは、着呼を受け入れるか (`inb_link_act_lim = 1`、`out_link_act_lim = 0` に設定)、または発呼を受け入れるか (`inb_link_act_lim = 0`、`out_link_act_lim = 1` に設定) のどちらかに定義する必要があります。

ls_role

リンク・ステーション・ロール。可能な値は次のいずれかです。

LS_PRI

1 次

LS_SEC

2 次

LS_NEG

折衝可能

act_xid_exchange_limit

活動化 XID 交換限度。1 から 65,535 の範囲内で値を指定します。

nonact_xid_exchange_limit

非活動化 XID 交換限度。1 から 65,535 の範囲内で値を指定します。

ls_xmit_rcv_cap

リンク・ステーションの送受信機能を指定します。可能な値は次のいずれかです。

LS_TWS

両方向同時

LS_TWA

両方向交互

max_ifrm_rcvd

肯定応答が送信される前にローカル・リンク・ステーションが受信できる I フレームの最大数。1 から 127 の範囲内で値を指定します。

target_pacing_count

望ましいペーシング・ウィンドウ・サイズを示します。1 から 32,767 の範囲内で値を指定します。

max_send_btu_size

このポートから送信できる最大 BTU サイズ。この値は、1 対のリンク・ステーションが相互に通信するために使用できる最大 BTU サイズを、折衝するために使用されます。この値には、TH と RH (合計 9 バイト)、および RU の長さを含みます。265 から 4105 の範囲内で値を指定します。

address

着呼に使用されるポート・アドレス。

このパラメーターの値は、この LS を所有するポートの構成方法で決まります。その方法は以下のとおりです。

- ポートが着呼のみに使用されているか、*ls_role* が LS_PRI に設定されているか、または *ls_role* が LS_NEG に設定されていて、かつ、ローカル・ステーションが LS ロール・ネゴシエーション後に 1 次になる場合、このパラメーターは予約済みです。
- *ls_role* が LS_SEC に設定されているか、*ls_role* が LS_NEG に設定されていて、かつ、ローカル・ステーションが LS ロール・ネゴシエーション後に 2 次になる場合、このアドレスは着呼への応答に使用されます。

リモート・ステーションのアドレスが不明の場合は、このパラメーターをゼロに設定します。

implicit_cp_cp_sess_support

このポートを使用する暗黙的なリンク・ステーションに対して CP-CP セッションを許可するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

暗黙的なリンク・ステーションに対する CP-CP セッションが許可されます。

NO

暗黙的なリンク・ステーションに対する CP-CP セッションが許可されません。

implicit_limited_resource

このポートの暗黙的なリンク・ステーション・オフを限定リソースとして定義するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

NO

暗黙的なリンクは限定リソースではなく、自動的に非活動化されません。

NO_SESSIONS

暗黙的なリンクは限定リソースであり、活動状態のセッションでこのリンクが使用されていない場合、自動的に非活動化されます。

INACTIVITY

暗黙的なリンクは限定リソースであり、活動状態のセッションでこのリンクが使用されていないか、または *implicit_deact_timer* パラメーターで指定した時間内に流れたデータがない場合に自動的に非活動化されます。

- リンク間に活動状態の SSCP-PU セッションがない場合、ノードはリンクを即時に非活動化する。
- SSCP-PU セッションが活動状態であるが、指定時間内にトラフィックが流れなかった場合、ノードは REQDISCONT (通常) をホストに送信する。次に、ホストは、すべての LU および PU を非活動化します。非活動化時には、ローカル・ノードがリンクを非活動化します。ただし、ホストは、アクティブ PLU-SLU セッションで LU を非活動化することはできません。この場合、リンクはこれらのすべてのセッションが (例えば、ユーザー・ログアウトによって) 非活動化されるまで活動状態のままになります。この動作を変更するには、define_node コマンドの *ptf_flags* パラメーターのオプションを使用します。

implicit_hpr_support

暗黙的なリンクで High Performance Routing (HPR) がサポートされるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

暗黙的なリンクで HPR がサポートされます。

NO

暗黙的なリンクで HPR がサポートされません。

implicit_deact_timer

暗黙的な限定リソース・リンク非活動化タイマー (秒単位)。

implicit_hpr_support が YES に設定され、*implicit_limited_resource* が NO_SESSIONS に設定されていると、このパラメーターによって指定された時間内に暗黙的なリンク上を流れたデータがなく、このリンクを使用するセッションがない場合、暗黙的なリンクは自動的に非活動化されます。

implicit_limited_resource が INACTIVITY に設定されていると、このパラメーターによって指定された時間内に暗黙的なリンク上を流れたデータがない場合、このポートを使用する暗黙的なリンクは自動的に非活動化されます。

最小値は 5 です。1 から 4 の範囲の値は、5 と解釈されます。値 0 (ゼロ) は、タイムアウトなしを示します (*implicit_limited_resource* を NO に設定した場合と同様、リンクは非活動化されません)。このパラメーターは、*implicit_limited_resource* が NO に設定されている場合は予約済みです。

implicit_uplink_to_en

このパラメーターは、ローカル・ノードが分岐ネットワーク・ノードの場合にのみ適用されます。ローカル・ノードがその他のタイプの場合、このパラメーターは予約されます。

隣接ノードがエンド・ノードである場合、このパラメーターは、このポートの暗黙的なリンク・ステーションがアップリンクまたはダウンリンクのいずれであるかを指定します。同じ隣接ノードに対する既存のリンクがある場合、既存のリンクを使用してリンク・タイプが決定されるため、このパラメーターは無視されます。可能な値は次のいずれかです。

YES

エンド・ノードへの暗黙的なリンクは、アップリンクです。

NO

エンド・ノードへの暗黙的なリンクは、ダウンリンクです。

effect_cap から user_def_parm_3

このポートを使用する暗黙的なリンク・ステーションに対して使用されるデフォルトの TG 特性、および TG 特性が明示的に定義されていない定義済みリンク・ステーションのデフォルトの TG 特性。TG 特性パラメーターは、LS がダウンストリーム PU への LS である場合には無視されます。

これらのパラメーターの詳細については、187 ページの『[define_tr_ls](#)、[define_ethernet_ls](#)』を参照してください。

initially_active

ノードが開始されたときにこのポートが自動的に開始されるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ノードが開始されると、このポートは自動的に開始されます。

NO

このポートを使用する LS が初めに活動状態であると定義されている場合にのみ、ポートは自動的に開始されます。その他の場合は、ポートを手動で開始する必要があります。

idle_timer

完全な非アクティブ・ラインを検出するために使用されるタイマー。この時間内に何も (無効なフレーム・データさえも) 受信しなかった場合、その回線はアイドル状態とみなされます。タイマーはミリ秒で指定します。

idle_timer_retry

失敗するまでに、アイドル・タイマーが再実行する回数。このパラメーターと *idle_timer* によって、全体のアイドル・タイムアウト期間が提供されます。全体のアイドル・タイムアウト期間は、非生産的受信タイマー、または接続および切断タイマーよりも長くなければなりません。

1 から 65,535 の範囲内で値を指定します。値 65,535 は、無制限の再試行カウントを意味します。値 1 は、タイマーが最初に満了したあと、ポートが失敗したとみなすことを示します。

np_rcv_timer

SDLC 2 次の場合、非生産的受信タイマー (1 次から、有効なフレームの受信ができる時間)。このパラメーターは、通常、*np_rcv_timer_retry* パラメーターの値と共に設定され、ポートが失敗したと見なされるまでの長いタイムアウトを提供します (例えば 60 秒)。タイマーはミリ秒で指定します。

np_rcv_timer_retry

非生産的受信タイマー再試行限度は、*np_rcv_timer* の値と共に使用され、停止メッセージが発行されるまでの全体の時間を提供します。

1 から 65,535 の範囲内で値を指定します。値 65,535 は、無制限の再試行カウントを意味します。値 1 は、タイマーが最初に満了したあと、ポートが失敗したとみなすことを示します。

write_timer

書き込みタイマーは、完全なフレームを送信するために許される最大時間です。

このパラメーターは、通常、*write_timer_retry* パラメーターの値と共に設定され、ポートが失敗したと見なされるまでの約 30 秒の長いタイムアウトを提供します。タイマーはミリ秒で指定します。

write_timer_retry

書き込みタイマー再試行限度は、*write_timer* パラメーターの値と共に使用され、ポートが失敗したと見なされるまでの全体の時間を提供します。

値 65,535 は、無制限の再試行カウントを意味します。値 1 は、最初のタイマーが満了したあと、ポートが失敗したと見なされることを示します。

link_conn_timer

リンク接続タイマー。このパラメーターは *link_conn_timer_retry* パラメーターの値と共に使用され、DSR が立ったことを検出しなかったために CS/AIX が LS の活動化の試行に失敗したあとの時間間隔を提供します。タイマーはミリ秒で指定します。

link_conn_timer_retry

リンク接続タイマー再試行限度は、LS の活動化の試行が失敗するまでに、リンク接続をテストできる回数を指定します。

値 65,535 は、無制限の再試行カウントを意味します。値 1 は、タイマーが最初に満了したあと、ポートが失敗したとみなすことを示します。

use_rej

このポートで無効なシーケンス番号の入った I フレームを受信したあと、CS/AIX が REJ フレームを送信できるかどうかを指定します。(CS/AIX は、このパラメーターの設定値にかかわらず、常に REJ フレームを受信します。) 可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は REJ フレームを送信できます。

NO

CS/AIX は REJ フレームを送信できません。代わりに、RR、RNR、または I フレームによるフレームの再送信を要求します。

define_sdlic_port

REJ の使用は、全二重プロトコル操作が使用されている場合にのみ有益です。SDLC ステーションによっては、REJ コマンドを認識しないものもあります。そのようなステーションに接続するには、値 NO を設定する必要があります。

spec_port_type

ポートがサポートするダイヤルアウトおよび自動応答機能のタイプ。

専用回線 (*port_type* パラメーターが PORT_NONSWITCHED に設定されている) の場合、次の値を指定します。

LEASED

ポートは専用回線が使用します。

発呼に使用される交換回線 (*port_type* が PORT_SWITCHED で、*inb_link_act_lim* が 0) の場合、次のいずれかの値を指定します。

SW_DIAL_AUTO

自動ダイヤルアウト機能

SW_DIAL_MAN

手動ダイヤルアウト機能

着呼に使用される交換回線 (*port_type* が PORT_SWITCHED で、*out_link_act_lim* が 0) の場合、次のいずれかの値を指定します。

SW_ANSWER_AUTO

自動応答機能

SW_ANSWER_MAN

手動応答機能

max_xid_size

このリンク上で送信または受信される XID の最大サイズ (バイト)。このパラメーターによって、バッファ使用量を最小にすることができます。安全な絶対最大値は 256 です。

max_retry_count

問題が診断される前に、フレームまたはフレームのグループが このポート上で再送できる最大回数。ほとんどのユーザーは、この値を 5 に設定します。

physical_link

SDLC 物理リンクの回線タイプ。可能な値は次のいずれかです。

V25

V35

X21

SMART_MODEM

EIA422-A

RS232

opt1

ポート・オプション・フラグ 1。このパラメーターに NONE を設定してオプションがないことを示すか、次のオプションを 1 つ以上 + 文字で結合して値を示します。

FOUR_WIRE

双方向に同時にデータを送信できる 4 線式接続の場合に、この値を指定します。しかし、半二重が操作の最も一般的なモードであるため、接続は半二重の場合もあります。

データを同時に 1 方向にしか送信できない 2 線式接続の場合は、この値を指定しないでください。

NRZI

データ・リンクでデータを送信するために NRZI シリアル・エンコードを使用します。ほとんどの場合、このタイプのエンコード方式でうまくいきます。新規のネットワークに接続するときは、まずこのエンコードを試してください。このオプションを指定しない場合、このリンクでは NRZ シリアル・エンコードが使用されます。

ネットワークへのリンクを構成している場合は、他のネットワークで使用されているエンコード・タイプを使用します。互いに通信するネットワークのすべてのステーションは、同じエンコード・タイプを使用する必要があります。すべての状態で機能するエンコード・タイプはありません。あるエンコード・タイプを使用して問題が生じた場合は、すべてのステーションのエンコード・タイプを別のタイプに変更してください。

INT_CLOCK

アダプターがデータ・クロック信号をモデムに供給する場合、この値を指定します (内部クロック)。

モデムがデータ・クロック信号を提供するか (外部クロック)、その下にある SDLC ハードウェアが外部クロックのみをサポートする場合、この値は指定しないでください。

opt2

ポート・オプション・フラグ 2。このパラメーターに **NONE** を設定して オプションがないことを示すか、次のオプションを 1 つ以上 + 文字で結合して値を示します。

DSRS

モデムに対し、フォールバック (より低い) 速度へ切り替えることを指示するために DSRS (データ信号速度選択) を使用する場合、この値を指定します。古い型のモデムには DSRS を使用するものもありますが、このオプションを使用する必要がある場合は、ほとんどありません。

モデムが DSRS を使用しないのであれば、この値は指定しないでください。

SEL_STANDBY

「Standby On (スタンバイ・オン)」を選択する場合は、この値を指定します。

「Standby Off (スタンバイ・オフ)」を使用する場合は、この値は指定しません。

MONITOR_DCD

データ・キャリア検出 (DCD) をモニターする場合は、この値を指定します。データ・キャリア検出は、モデムが、リモート・モデムからのキャリア信号をセンスできることを示す、モデムからの標識です。キャリアを失うことは、リンクの失敗に至る早い段階の兆候と見ることができますが、一時的に失うことは通常の操作で起こり得ます。キャリアを失うことは、通常はエラー状態とは見なされません。

DCD をモニターしないのであれば、この値は指定しないでください。

STREAM

フラグを回線に流す場合は、この値を指定します。定数キャリア (4 線式) を使用する場合、システムによっては、データが送信されないときに、アイドル状態に移行するのではなく、回線にフラグ・バイトのシーケンスを流すことを要求するものもあります。

フラグを回線に流す必要がなければ、この値は指定しないでください。

AUTO_DIAL

交換発信リンクに対してこの値を指定して、ダイヤル・データ (LS 定義内の *hmod_data* パラメーターで指定) を送信し、モデムにダイヤルするように指示します。

自動ダイヤルが必要でなければ、この値は指定しないでください。

WAIT_FOR_RING_IND

交換発信リンクに対してこの値を指定して、モデムに、リング・インディケーターが検出されたら応答するように指示します。

モデムがリング・インディケーターを待機しないようにするのであれば、この値は指定しないでください。

linesp

このポートで使用される回線の回線速度。例えば、2400 ボー回線に対して 2400。クロッキングが *opt1* パラメーターで外部と指定されていたり、その下にある SDLC ハードウェアが外部クロックしかサポートしていない場合、このパラメーターは無視されます。

rcv_pool_size

このポートでのデータ受信のために予約されたバッファ数の初期値。これは、値 4 に設定します。

poll_wait

エラーがないか、あるいは DSR が立っていないかを調べるための、回線の連続的なポーリングの間に、ポートが待機する秒数。適切な値は、1 秒です。回線エラーの可能性がほとんど無く、回線が専用であれば、この値を増やすとスループットが向上します。

hmod_data

着呼のダイヤル・データ。(発呼の開始に使用されるダイヤル・ストリングは、LS 定義内に指定されず。)このパラメーターは交換回線リンクにのみ該当します。ポートが非交換と定義されている場合、このパラメーターは予約済みです。

このパラメーターは、着呼に応答するように指示するために、モデムに渡す必要のあるダイヤル・ストリングを指定します。ダイヤル・データのサポートは、使用している SDLC ドライバーとモデムによって異なります。ドライバーとモデムがダイヤル・データをサポートしていなければ、このパラメーターを指定しないでください。

ダイヤル・データには印刷できない制御文字を含む必要がある場合もあります。例えば、「Enter」キーを押すのと同様の、復帰で終了しなければならない場合もあります。これらの制御文字の指定方法の詳細は、[149 ページの『モデム制御文字』](#)を参照してください。

contact_timer から poll_on_iframe

これらのパラメーターの詳細については、[132 ページの『define_sdlic_ls』](#)を参照してください。LS 名が最初に認識されない場合、define_sdlic_port で指定した値は、着呼を処理するためのデフォルトとして使用されます。

implicit_dspu_template

define_dspu_template コマンドで定義されている DSPU テンプレートを指定します。このテンプレートは、このポートで活動化されている暗黙的なリンクに対して、ローカル・ノードが SNA ゲートウェイを提供するかどうかの定義に使用します。リンクを活動化するときに、指定されているテンプレートがない場合やすでにインスタンス限度に達している場合、活動化は失敗します。このテンプレート名は、ローカルで表示可能な文字のセットである 8 バイトのストリングです。

implicit_dspu_services パラメーターが PU_CONCENTRATION に設定されていない場合、implicit_dspu_template パラメーターは予約されます。

implicit_dspu_services

ローカル・ノードが、このポートで活動化されている暗黙的なリンク間のダウンストリーム PU に提供するサービスを指定します。可能な値は次のいずれかです。

DLUR

ローカル・ノードは、(define_dlur_defaults コマンドで構成したデフォルトの DLUS を使用して) ダウンストリーム PU に対して DLUR サービスを提供します。

PU_CONCENTRATION

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU に対して SNA ゲートウェイを提供します。また、ローカル・ノードは、パラメーター implicit_dspu_template に指定されている DSPU テンプレートで指定されているように定義を設定します。

NONE

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU に対してサービスを提供しません。

implicit_ls_limit

このポートで同時に活動化できる暗黙的なリンク・ステーションの最大数を指定します(動的リンクおよびディスカバリー用に活動化されたリンクを含む)。1 から 65,534 の範囲で値を指定するか、または 0 (ゼロ) を指定して限度がないことを示します。NO_IMPLICIT_LINKS の値は、暗黙的なリンクが許可されていないことを示します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PORT_NAME

port_name パラメーターで指定した値は無効です。

INVALID_DLC_NAME

指定した *dlc_name* と一致する定義済み DLC がありません。

INVALID_PORT_TYPE

port_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_BTU_SIZE

max_rcv_btu_size パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LS_ROLE

ls_role パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LINK_ACTIVE_LIMIT

活動化限度パラメーター *inb_link_act_lim*、*out_link_act_lim*、または *tot_link_act_lim* のいずれかが、正しい値に設定されていません。

INVALID_MAX_IFRM_RCVD

max_ifrm_rcvd パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_HPR_SUPPORTED

implicit_hpr_support パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_IMPLICIT_UPLINK

implicit_uplink_to_en パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

PORT_ACTIVE

指定したポートは、現在活動状態であるため変更できません。

DUPLICATE_PORT_NUMBER

port_number パラメーターに指定されている番号のポートは、既に定義されています。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

着呼

着呼を受信するポートを構成している (*tot_link_act_lim*、*inb_link_act_lim*、および *out_link_act_lim* パラメーターで定義) 場合は、通常、着呼に対して使用する LS を定義する必要はありません。CS/AIX は、着呼を受信すると、LS を動的に定義します。ただし、従属 LU をサポートするホスト・コンピューター、または SNA ゲートウェイを使用するダウンストリーム・コンピューターからの着呼の場合は、従属 LU に関連付けられている PU の名前またはダウンストリーム PU の名前が LS 定義に含まれるため、明示的に LS を定義する必要があります。

着呼がポートに達すると、CS/AIX は、ポート上で定義されたリンク・ステーションに対して指定されたアドレス (ある場合) に照らして、着呼上で指定されたアドレスを検査して、LS がこの着呼に対して既に定義されているかどうかを判別します。アドレスが一致しない場合、LS は動的に定義されます。(必要な PU 名を含む) 明示的な LS 定義が必ず使用されるようにするには、この LS に対して定義されているアドレスが、ホストまたはダウンストリーム・コンピューターによって着呼に指定されているアドレスと一致するようにします。

セキュリティ・アクセス・リストの定義

セキュリティ・アクセス・リストの定義 コマンドは、特定のローカル LU または呼び出し可能 TP にアクセスできるユーザーのリストを定義します。そのため、その LU または TP へのアクセスは、指定されたユーザーに制限されます。また、ユーザー名を既存のセキュリティ・アクセス・リストに追加するために使用することもできます。リスト内のユーザー名は、AIX ログイン ID または ユーザー ID パスワードのデフラグ コマンドを使用して定義されたユーザー ID のいずれかです。

ユーザー名として AIX ログイン ID を使用してローカル LU へのアクセスを許可したい場合は、ローカル LU のパスワード置換を使用不可にする必要があります。ただし、これには、平文でパスワードを送受信することが関係していることに注意する必要があります (セキュリティ・リスクを表す場合があります) パスワード置換の無効化については、73 ページの『define_local_lu』を参照してください。

特定のローカル LU または呼び出し可能 TP へのアクセスを制限するには、以下のことを行う必要があります。

1. LU または TP の各許可ユーザーが、LU または TP が実行されるコンピューター上の AIX ログイン ID として、または ユーザー ID パスワードのデフラグ コマンドを使用して指定されたユーザー ID として定義されていることを確認してください。
2. これらのすべてのユーザー ID を含むセキュリティ・アクセス・リストを定義するためのセキュリティ・アクセス・リストの定義 コマンド。の使用
3. LU または TP を定義する `define_local_lu` または `不良 _tp` コマンド。上のこのセキュリティ・アクセス・リストの名前を指定します。

セキュリティ・アクセス・リストが定義されているローカル LU または呼び出し可能 TP に着信割り振り要求が到着した場合、呼び出し側アプリケーションは、会話セキュリティが使用されることを指示し、ユーザー ID を指定する必要があります。CS/AIX は、標準会話セキュリティ検査 (ユーザー ID パスワードのデフラグ コマンドを使用して指定されたユーザー ID、または LU または TP が実行されるコンピューター上の AIX ログイン ID に対して) に加えて、着信割り振り要求の中のユーザー ID を、LU または TP 用に定義されたセキュリティ・アクセス・リストに照らして検査し、ユーザー ID が一致しない場合は会話を拒否します。LU と TP の両方にセキュリティ・アクセス・リストが定義されている場合には、ユーザー ID は両方のリストになければなりません。

ローカル LU または呼び出し可能 TP にセキュリティ・アクセス・リストが定義されていないが、会話セキュリティを必要とするように構成されている場合は、標準会話セキュリティ検査が引き続き適用されます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_security_access_list]			
list_name	character		14
description	character	31	(null string)


```
{security_user_data}
user_name                character    10
```

指定パラメーターは、以下のとおりです。

list_name

セキュリティー・アクセス・リストの名前。この名前は、1 から 14 文字のローカルの表示可能文字を使用する文字ストリングです。

この名前が既存のセキュリティー・アクセス・リストと一致する場合は、このコマンドで定義したユーザーがこのリストに追加されます。それ以外の場合は、新規のリストが作成されます。

description

0 から 31 文字のオプションのストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、構成ファイルに保管され、query_security_access_list コマンドで戻されます。

1 つ以上の security_user_data サブレコードが後に続きます。各サブレコードには、以下の追加パラメーターが含まれています。

user_name

ユーザー名。

これは、以下のいずれかです。

- CS/AIX コンピューター上に定義された AIX ログイン ID (この節で前述したパスワードの代入ができない場合)
- define_userid_password コマンドを使用して定義されたユーザー ID。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

次のいずれかです。

INVALID_LIST_NAME

list_name パラメーターには、無効な文字が含まれています。

INVALID_USER_NAME

指定した 1 つ以上のユーザー名が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

アクセスの定義 `_tn3270_____`

アクセスの定義 `_tn3270_____` コマンドは、どの TN3270 クライアントがその IP アドレスに基づいて、CS/AIX の TN3270 サーバー機能を使用して、3270 エミュレーション用のホストにアクセスし、そのユーザーが使用できる 3270 LU セッションを定義できるかを識別します。(TN リダイレクターを使用してクライアントのアクセス詳細を定義するには、`define_tn_`リダイレクトを使用します。)

このコマンドを使用して、新規クライアントを定義したり、既存のクライアントが使用する新しいセッションを定義したり、既存のクライアントのセッション・パラメーターを変更したりすることができます。(既存のクライアントからセッションを削除するには、アクセス権の削除 (`_T`))を使用する

提供されるパラメーター

Parameter name [define_tn3270_access]	Type	Length	Default
default_record	constant		NO
client_address	character	255	(null string)
description	character	31	(null string)
address_format	constant		(IP_ADDRESS)
{tn3270_session_data}			
description	character	31	(null string)
tn3270_support	constant		TN3270E
allow_specific_lu	constant		YES
printer_lu_name	character	8	(null string)
port_number	decimal		
listen_local_address	character	45	(null string)
lu_name	character	8	(null string)
ssl_enabled	constant		NO
security_level	constant		SSL_AUTHENTICATE_MIN
cert_key_label	character	80	(null string)
allow_ssl_timeout_to_nonssl	constant		NO

(1 つ以上の `tn3270_session_data` サブレコードを含めることができます。)

提供されるパラメーター:

default_record

アクセスの定義 `_tn3270_____` がデフォルトのアクセス・レコードを定義するかどうかをデフォルトのアクセス・レコードは、TCP/IP アドレスが、前のアクセスの定義 `_tn3270_____` コマンドで定義されたアドレスと一致しないクライアントによって使用されます。可能な値は次のとおりです

そうだ

このコマンドはデフォルトのアクセス・レコードを定義します クライアント・アドレス パラメーターおよび宛先フォーマット パラメーターは指定しないでください。

違う。

このコマンドは、特定のクライアントのアクセス・レコードを定義します。

デフォルト・レコードは、(クライアント・アドレスに関係なく) TN サーバー機能へのアクセス権限を持つすべてのクライアントを提供します。TN サーバーの使用を特定のクライアントに制限するには、デフォルト・レコードを定義しないか、`lu_name` パラメーターまたは `printer_lu_name` パラメーターに値を指定せずにデフォルト・レコードをアクセスせずに定義し、`allow_specific_lu` パラメーターを **違う。** に設定します(これらのパラメーターは、`tn3270_session_data` サブレコードに含まれています)。

クライアント・アドレス

TN3270 エミュレーターが実行されているコンピューターの TCP/IP アドレス。これは、以下のいずれかとして指定することができます。宛先フォーマット パラメーターは、それが IP アドレスであるか、または名前であることを示します。

- IPv4 小数点付き 10 進数アドレス (193.1.11.100 など)。
- IPv6 コロン 16 進アドレス (2001:0db8:0000:0000:0000:0000:0000:1428:57ab や 2001:db8::1428:57ab など)。
- 名前 (newbox.this.co.uk など)。

- 別名 (newbox など)。

名前または別名を使用する場合は、以下の制約事項が適用されます。

- TN サーバーは、名前または別名を完全修飾名 (ローカル TCP/IP 構成を使用するか、またはドメイン・ネーム・サーバーを使用して) に解決できなければなりません。
- それぞれの名前または別名は、固有の完全修飾名に拡張される必要があります。同じ完全修飾名に展開される名前は使用しないでください。
- 完全修飾名は大文字と小文字を区別しません。例えば、Newbox.THIS.CO.UK は newbox.this.co.uk と同等です。

記述

オプションのストリング (0 から 31 文字)。これを使用して、クライアントを区別するための追加情報を保管することができます。CS/AIX はこのストリングを情報にのみ使用します。これは構成ファイルに保管され、アクセス定義に一致する照会 コマンドに戻されます。

宛先フォーマット

クライアント・アドレス パラメーターのフォーマットを指定します。可能な値は次のとおりです

IP アドレス

IP アドレス (IPv4 または IPv6 のいずれか)

完全修飾名

別名または完全修飾名

次のサブレコードには追加パラメーターが含まれています

tn3270_session_data

各クライアントは、複数のセッションを持つ同じ TN サーバー・ノードにアクセスできます。これらのセッションごとに、以下の追加パラメーターを持つ tn3270_session_data サブレコードを組み込みます。

記述

オプションのストリング (0 から 31 文字)。CS/AIX はこのストリングを情報にのみ使用します。これは、ノードの構成ファイルに保管され、アクセス定義に一致する照会 コマンドに戻されます。

tn3270_サポート

TN3270 サポートのレベルを指定します。可能な値は次のとおりです

TN3270 型

TN3270E プロトコルを使用不可に設定します。

TN3270E

TN3270E プロトコルが使用可能であることを指定します。

TN3270 および TN3287 プロトコルは常に使用可能です。

AS/400 システム TN3270 クライアントを接続するには、このパラメーターを TN3270E に設定します。

allow_specific_lu

特定の LU へのアクセスが許可されるかどうか 可能な値は次のとおりです

そうだ

クライアントは、このコマンドの *lu_name* パラメーターまたは *printer_lu_name* パラメーターによって定義された LU を使用する代わりに、特定の LU または LU プールへのアクセスを要求することができます。

違う。

クライアントは、特定の LU へのアクセスを要求できません。

printer_lu_name

このセッションが総称プリンター LU を要求する接続に使用するプリンター LU または LU プールの名前。この名前は、8 バイトのタイプ A の文字ストリングです。プリンター LU 名は、このノードで定義された LU タイプ 0 から 3 の LU タイプの名前、またはこのノード上のプリンター LU を含む LU プールの名前と一致していなければなりません。

単一のプリンター LU が指定されている場合、このプリンター LU は、非 323270_関連付けの数 コマンドによってディスプレイ LU に関連付けられてはなりません。プリンター LU プールが指定されている場合は、プール内のどのプリンター LU もディスプレイ LU に関連付けられていません。1 つの LU が汎用プリンター LU としてアクセスされ、関連プリンター LU としてアクセスできるようにすると、その LU がすでに使用中であるために、その LU が関連するプリンター LU として使用できなくなることがあります。

クライアントが特定のプリンター LU へのアクセスを要求した場合、このパラメーターは効力を持ちません。

ポート番号

TN3270 エミュレーターが TN サーバーにアクセスするために使用するサーバー TCP/IP ポートの番号。ポート番号が、このクライアントの TN3270 セッションのいずれかに定義されている既存のポート番号と一致する場合は、そのセッションの情報が置き換えられます。それ以外の場合は、新しいセッションが追加されます。

TN サーバーが TCP/IP ポート番号 23 (AIX コンピューター上の Telnet デモン・プログラムで使用されるポート番号) を使用する場合は、TN サーバーと Telnet デモン・プログラムの間でこのポート番号を共用するために、追加の初期設定ファイルをセットアップする必要があります。詳しくは、[167 ページの『Telnet デモンの TCP/IP ポートの使用』](#)を参照してください。

2 つ以上のセッション・サブレコードが同じポート番号を使用する (同じクライアント・アドレスまたは異なる 1 つの) 場合、*listen_local_address* パラメーターは、それらすべての中で指定するか、またはいずれも指定しないでください。一部のセッションでは指定することはできませんが、それ以外のセッションでは指定しないでください。

listen_local_address

TN3270 クライアントが接続するローカル TN サーバー・コンピューター上のアドレス。このパラメーターはオプションです。

- TN3270 クライアントが任意のローカル・アドレスに接続できるようにする場合、または TN サーバー上に有効なローカル・アドレスが 1 つしかない場合は、このパラメーターを指定しないでください。In this case, any tn3270_session_data subrecord that uses the same ポート番号 as this one (for the same クライアント・アドレス or a different one) must also leave this parameter unspecified.
- TN3270 クライアントを特定のローカル・アドレスに制限する必要がある場合は、以下のいずれかとして指定します。
 - IPv4 小数点付き 10 進数アドレス (193.1.11.100 など)。
 - IPv6 コロン 16 進アドレス
(2001:0db8:0000:0000:0000:0000:0000:1428:57ab や
2001:db8::1428:57ab など)。

この場合、このパラメーターと同じポート番号 (同じクライアント・アドレスまたは別のもの) を使用するすべての tn3270_session_data サブレコードにも、このパラメーターに値が指定されている必要があります。ただし、アドレスは、すべてのセッションで同じではありません。

注:

1 つ以上のセッションに対してローカル・アドレスを指定すると、このクライアント・レコードは Motif 管理プログラムに表示されないため、そのプログラムを使用してそのプログラムを表示または管理することはできません。コマンド行管理プログラムを使用して、それを引き続き管理することができます snaadmin、または NOF アプリケーション。

lu_name

このセッションが総称ディスプレイ LU を要求する接続に使用するディスプレイ LU または LU プールの名前。この名前は、8 バイトのタイプ A の文字ストリングです。これは、このノードで定義されたタイプ 0 から 3 のディスプレイ LU、またはこのノードのディスプレイ LU を含む LU プールの名前と一致していなければなりません。

LU 名を指定すると、指定された TCP/IP アドレスを持つクライアントは、この TN サーバー・ノードを介して一度に 1 つの総称ディスプレイ LU しか使用できません。LU プールを指定すると、クラ

クライアントは、プールから使用可能なこのノード上の LU の数まで、複数の総称ディスプレイ LU セッションを使用することができます。

クライアントが特定のディスプレイ LU へのアクセスを要求した場合、このパラメーターは無効です。

ssl_enabled

このセッションが Secure Sockets Layer (SSL) を使用してサーバーにアクセスするかどうかを示します。

このパラメーターは、サーバー上で SSL をサポートするために必要な追加のソフトウェアをインストールしていない場合には予約されます。これは、照会ノードの制限 コマンドの値を検査し、ssl_サポート パラメーターを使用して確認できます。

可能な値は次のとおりです

違う。

このセッションは SSL を使用しません。

そうだ

このセッションでは SSL を使用

YES_WITH_CLI_AUTH (自動的)

このセッションは SSL を使用し、TN サーバーではクライアント 認証を使用する必要があります。クライアントは、有効な証明書 (TN サーバーを使用する許可を与えられた有効なクライアントとして識別する情報) を送信する必要があります。

証明書が有効であることを確認するだけでなく、TN サーバーは、外部 LDAP サーバー上の証明書失効リストに対して証明書を検査して、ユーザーの許可が取り消されていないことを確認する必要があります。この場合にも、define_tn3270_ssl_ldap は、このサーバーへのアクセス方法を指定します 使用する必要があります。

注:

1. このセッションの ポート番号 パラメーターが、Telnet デーモンの TCP/IP ポートを使用することを示している場合は、このセッションでは SSL を使用しないでください。Telnet デーモンの TCP/IP ポートを使用するセッションで SSL を使用する場合、Telnet クライアントは テルネットは、ノードがアクティブである間に CS/AIX コンピューターにアクセスします。 を使用できません。
2. 同じポートを使用する多数のクライアントがあり、それらを非 SSL から SSL 構成にマイグレーションしている場合は、マイグレーションの進行中に、同じポートで SSL 接続と非 SSL 接続の両方を受け入れるように構成をセットアップすることができます。以下の許可されていない、to_nonssl を指定してパラメーターを参照してください。

セキュリティー・レベル

このセッションに必要な SSL セキュリティー・レベルを示します。セッションは、クライアントとサーバーの両方がサポートできる最高のセキュリティー・レベルを使用します。要求されたセキュリティーまたはそれ以上のレベルのセキュリティーをクライアントがサポートできない場合、セッションは開始されません。

ssl_enabled パラメーターが 違う。 に設定されている場合、このパラメーターは使用されません。

可能な値は次のとおりです

最小認証済み最小値

証明書を交換する必要があります。暗号化は必須ではありません (ただし、クライアントが要求する場合は使用できます)

SSL_AUTHENTICATE_ONLY

証明書は交換しなければなりませんが、暗号化は使用されませ このオプションは通常、クライアントがセキュア・イントラネットを介して接続している場合の暗号化のオーバーヘッドを回避するために使用されます。

最小 40_BIT_MIN

40 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_56_BIT_MIN

56 ビット以上の暗号化を使用します。

スロット 128_BIT_MIN

128 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_168_BIT_MIN

168 ビット以上の暗号化を使用します。

最小ビット数 (分)

256 ビット以上の暗号化を使用します。

注:

暗号化を使用するには、CS/AIX; に追加のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、AIX クイック・ビギニングスでのデータ・センター・デプロイメント用 *IBM Communications Server* をご使用のロケーションによっては、リストされた暗号化レベルをすべて使用できない場合があります。これらの暗号化レベルをサポートするために必要なソフトウェアが国内で使用できないためです

cert_key_label

このセッションで SSL と使用するための証明書と鍵ペアを識別するラベル。これは、SSL 鍵リング・データベースのセットアップ時に指定されたラベルと一致する必要があります。詳しくは、AIX クイック・ビギニングスでのデータ・センター・デプロイメント用 *IBM Communications Server* を参照してください。

SSL 鍵リング・データベースのセットアップ時に指定されたデフォルトの SSL 証明書および鍵ペアを使用する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

許可されていない、to_nonssl を指定して

ssl_enabled が違う。に設定されている場合、このパラメーターは適用されません SSL を使用するように構成されていても、非 SSL TN3270 クライアントがこのセッション・レコードを使用してサーバーにアクセスできるかどうかを示します。可能な値は次のとおりです

そうだ

SSL を使用しない TN3270 クライアントは、サーバーにアクセスできます。サーバーが SSL ネットワークセッションを開始するのを待っている間に、始動時に 5 秒間の遅延が発生します。これ以降、サーバーは、クライアントが SSL を使用しておらず、通常の TN3270 通信に戻ると想定します。

違う。

SSL を使用する TN3270 クライアントのみがサーバーにアクセスできます。

注:

このオプションは、マイグレーション目的で提供されます。同じポートを使用する多数のクライアントがあり、それらのクライアントを非 SSL から SSL 構成にマイグレーションする場合、マイグレーションの進行中に、同じポートで SSL 接続と非 SSL 接続の両方を受け入れるように構成をセットアップできます。

非 SSL クライアントが SSL リソースを使用できるようにすることは、機密漏れの可能性があるため、このオプションは長期使用を目的としたものではありません。このパラメーターを そうだ に設定するのは、マイグレーションの進行中の短期間のみで、マイグレーションの完了時には違う。に設定する必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc

UNKNOWN_CLIENT_ADDRESS

client_address パラメーターで指定されている名前または別名を完全修飾名にマップできませんでした。

CLIENT_ADDRESS_CLASH

client_address パラメーターから解決される完全修飾名は、すでに定義されている完全修飾名と一致します。

DUPLICATE_PORT_NUMBER

別の TN3270 アクセス・セッション・レコードはこのレコードと同じ *port_number* パラメーターを使用しますが、*listen_local_address* パラメーターは一貫性なく設定されます。

listen_local_address はすべてのレコードで同じポート番号を指定するか、またはいずれのレコードにも指定しないようにします。すなわち、1 つに指定できない場合は、別のものにも指定できません。

TCPIP_PORT_IN_USE

port_number パラメーターで指定されている TCP/IP ポート番号は、別のプログラムで使用されているため、TN サーバーで使用できません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

Telnet デーモンの TCP/IP ポートの使用

TN サーバーを TCP/IP ポート番号 23 にセットアップする場合、TN サーバーと Telnet デーモン・プログラムの間でこのポートを共用するために、TN サーバーを実行する AIX コンピューターをセットアップする必要があります。これを行うには、次の手順を実行します。

共用 TCP/IP ポート番号 23

1. CS/AIX ソフトウェアが AIX コンピューター上で停止していることを確認します。
2. AIX コンピューターに根としてログオンします。
3. ファイル `/etc/inetd.conf` で始まる行を検索します。"テルネット"を編集します。Telnet デーモン実行可能プログラムの絶対パス名、およびこのプログラムに指定されているすべてのパラメーター(この行の終わりに含まれる)に注意してください。通常は、これらは `/etc/telnetd` および `telnetd` です。行をコメント化するために行の先頭にある # 文字を使用して、ファイルを保存します。の挿入
4. ASCII テキスト・ファイル `/etc/snainetd.conf` を作成します。このファイルは、ステップ 3 で決定した、Telnet デーモンの実行可能プログラムのパス名およびパラメーターを含む単一行で構成されません。例えば、

```
/etc/telnetd telnetd
```

5. AIX `ps` コマンドは、インターネット・デーモン・プログラム `inetd` のプロセス ID を検出します。を使用する
6. AIX 強制終了コマンドは、次のコマンドを発行して、このプロセスを停止します。を使用する

強制終了 *processid*

processid は、ステップ 5 で検出されたプロセス ID です。

7. 次のコマンドを発行して、CS/AIX インターネット・デーモン・プログラムを開始します。

スナイネット

8. 次のコマンドを発行して、Internet デーモン・プログラムを再始動します。

inetd

9. CS/AIX ソフトウェアを再始動してから、ノードを再始動してください。

ステップ 5、6、7、および 8 は、AIX コンピューターを再始動するたびに繰り返す必要があります。これらのコマンドを含むシェル・スクリプトをセットアップして、始動時に実行できるようにすることもできます。

注:

Telnet デーモンの TCP/IP ポートを使用するためのセッションをセットアップしている場合は、このセッションで SSL を使用しないでください。Telnet デーモンの TCP/IP ポートを使用するセッションで SSL を使用する場合、Telnet クライアントはテルネットは、ノードがアクティブである間に CS/AIX コンピューターにアクセスします。を使用できません。

非 323270_関連付けの数

非 323270_関連付けの数 コマンドは、ディスプレイ LU とプリンター LU との間の関連を定義します。この関連付けにより、TN3270E クライアントは、プリンター LU の名前を知らなくても、ディスプレイ LU に関連付けられているプリンター LU に接続できます。非 323270_関連付けの数 コマンドを使用して、新規関連付けを定義したり、特定のディスプレイ LU の既存の関連を上書きしたりすることができます。

指定パラメーター

Parameter	Type	Length	Default
[define_tn3270_association]			
display_lu_name	character	8	description
31 (null string)			
printer_lu_name	character	8	character

指定パラメーターは、以下のとおりです。

display_lu_name

printer_lu_name パラメーターで指定されているプリンターに関連付ける ディスプレイ LU 名を指定します。この名前は、1 から 8 文字のタイプ A の文字ストリングで構成されています。

指定したディスプレイ LU は、ローカル・ノードで定義されているディスプレイ LU である必要があります。

description

関連について説明するオプションのテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、*query_tn3270_association* コマンドで戻されます。

printer_lu_name

display_lu_name パラメーターで指定したディスプレイ LU に関連付けるプリンター LU の名前。この名前は、1 から 8 文字のタイプ A の文字ストリングで構成されています。

指定されたプリンター LU は、ローカル・ノード上で定義されたプリンター LU でなければなりません。

2 つの TN3270E エミュレーターで単一のプリンター LU を共有することはできません。つまり、2 つの TN3270 関連で同じプリンター LU を指定することはできません。

プリンター LU は、汎用プリンター LU として利用しないでください。汎用プリンター LU として使用すると、既に使用中であるため、プリンター LU を関連プリンター LU として利用できないことがあります。

す。このため、関連プリンター LU は、`define_tn3270_access` コマンドで `printer_lu_name` として (直接または間接的に LU プールのメンバーとして) 構成しないでください。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_tn3270_defaults

`define_tn3270_defaults` コマンドは、すべてのクライアント・セッションで使用される TN3270 パラメーターを定義します。

Secure Sockets Layer (SSL) クライアント認証を使用し、外部 LDAP サーバーの証明書取り消しリストに照らしてクライアントを検査する場合は、このサーバーへのアクセス方法の詳細も構成する必要があります。これを行うには、`define_tn3270_ssl_ldap` コマンドを使用します。

指定パラメーター

Parameter	Type	Length	Default
[define_tn3270_defaults]			
force_responses	constant		NO
keepalive_method	constant		NONE
keepalive_interval	decimal		600

指定パラメーターは、以下のとおりです。

force_responses

プリンター・セッションでのクライアント応答を制御します。可能な値は次のいずれかです。

YES

クライアント・プリンター・セッションからの確定応答を常に要求します。確定応答が要求されていない場合、一部の 3270 エミュレーターでは大容量のジョブを出力できません。必要に応じて、`force_responses` を YES に設定し、問題を回避します。

NO

SNA トラフィックにマッチングする 応答を要求します。

keepalive_method

キープアライブ・メッセージを送信するメソッド。キープアライブ・メッセージとは、接続に他のアクティビティーがない場合に、TN3270 クライアントへの TCP/IP 接続を活動状態のままにするために、このクライアントに対して送信されるメッセージのことです。これにより、失敗した接続およびクライアントを検出することができます。TCP/IP 接続にトラフィックがない場合は、接続やクライア

define_tn3270_express_logon

ントの失敗は検出されないため、TN サーバーのリソースが浪費され、LU が他のセッションで使用されなくなります。

可能な値は次のいずれかです。

NONE

キープアライブ・メッセージを送信しません。

NOP

Telnet NOP メッセージを送信します。

TM

Telnet DO TIMING-MARK メッセージを送信します。

keepalive_interval

連続するキープアライブ・メッセージ間のインターバル (秒)。特に、通常アイドル・クライアント接続が多くある場合、このインターバルには、ネットワーク・トラフィックを最小化するための十分な長さを指定する必要があります。キープアライブ・インターバルが短いほど、障害は素早く検出されますが、より多くのネットワーク・トラフィックが生成されます。キープアライブ・インターバルが非常に短く、クライアントの数が多い場合、このトラフィック量が膨大になる可能性があります。

標準的な値の範囲は、600 から 7200 (10 分から 2 時間) です。 *keepalive_method* が NOP または TM に設定されている場合、値 0 (ゼロ) は無効となります。

TCP/IP の作動上の理由から、構成したキープアライブ間隔は、サーバーがクライアントの消失を認識する際の正確な所要時間にはなりません。正確な時間は、さまざまなファクターによって異なりますが、構成したインターバルを 2 倍して数分足した時間を超えることはありません (正確な時間は TCP/IP の構成によって異なります)。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_tn3270_express_logon

define_tn3270_express_logon コマンドは、TN3270 高速ログオン機能をセットアップします。この機能により、Secure Sockets Layer (SSL) クライアント認証機能を使用して CS/AIX TN サーバーまたは TN リダイレクターに接続する TN3270 クライアント・ユーザーは、TN3270 セキュリティーに対して通常使用するユーザー ID およびパスワードを指定する必要はありません。その代わりに、このユーザーのセキュリティ証明書が、必要なユーザー ID およびパスワードを提供する、ホストの Digital Certificate Access Server (DCAS) に対して検査されます。

指定パラメーター

Parameter	Type	Length	Default
[define_tn3270_express_logon]			
dcas_server	character	255	
dcas_port	decimal		8990
enabled	constant		YES

指定パラメーターは、以下のとおりです。

dcas_server

高速ログオン許可を処理するホスト DCAS サーバーの TCP/IP アドレス。指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

名前または別名を使用する場合は、AIX システムが、(ローカル TCP/IP 構成またはドメイン・ネーム・サーバーを使用して) 名前または別名を完全修飾名に解決する必要があります。完全修飾名は大文字小文字が区別されません。例えば、Newbox.THIS.CO.UK と newbox.this.co.uk は同じです。

dcas_port

DCAS サーバーへのアクセスに使用される TCP/IP ポート番号。

enabled

TN3270 高速ログオン機能を使用可能にするかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

この機能を使用可能にします。TN3270 クライアントは、ホストにアクセスする場合にユーザー ID およびパスワードを指定する必要がありません。

NO

この機能を使用不可にします。TN3270 クライアントは、ユーザー ID およびパスワードを指定する必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_tn3270_slp

`define_tn3270_slp` コマンドは、CS/AIX TN サーバーが Service Location Protocol (SLP) サポートを提供するかどうかを指定し、TN3270 クライアントによる使用のために TN サーバーがそのサービスを公示する方法を定義します。サービスが公示される TN3270 SLP クライアントとディレクトリー・エージェントの範囲を指定する、1 つ以上の有効範囲を指定することもできます。

SLP では、TN サーバーが、提供するサービスを公示し、その現行負荷 (現在使用中のホスト LU のパーセンテージ) を公示することができます。それにより、複数の TN サーバーから選択できる SLP 対応クライアントが、必要なサービスを提供する、最も負荷の小さいサーバーを判別できます。

注:

TN サーバーが稼働するサーバーは、IPv4 アドレッシングをサポートしている必要があります。すなわち、IPv4 アドレスを持っている必要があります (ただし、IPv6 アドレスも持つことができます)。これは、SLP が UDP ブロードキャストを使用するためです。UDP ブロードキャストは、IPv6 のみをサポートするインストール環境では使用できません。

SLP を使用する場合、`define_tn3270_access` を使用して、少なくとも 1 つのデフォルト TN3270 アクセス・レコードを定義する必要があります (これにより、構成で明示的に指定されていない任意の TN3270 クライアントから TN サーバーへのアクセスを可能にします)。CS/AIX は、任意のクライアントがアクセスできるサービスを定義した、これらのデフォルト・レコードを公示するために、SLP を使用します。明示的に指定されたクライアントに対する TN3270 アクセス・レコードの公示のためには、SLP を使用しません。

`define_tn3270_slp` コマンドでは、SLP パラメーターを初めから定義したり、パラメーターを変更 (例えば、サービスの公示有効範囲を変更) したり、SLP がサポートされないことを指定したりできます。

指定パラメーター

Parameter	Type	Length	Default
[<code>define_tn3270_slp</code>]			
<code>enable_load_balancing</code>	constant		NO
<code>load_advertisement_freq</code>	decimal		60
<code>load_change_threshold</code>	decimal		3
<code>load_factor</code>	decimal		0
<code>slp_scope</code>	character	32	(null string)

(`slp_scope` エントリーは、10 個まで含めることができます。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

enable_load_balancing

TN サーバーが SLP サポートを提供するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

TN サーバーは SLP サポートを提供します。デフォルト TN サーバー・アクセス・レコードを (`define_tn3270_access` を使用して) 少なくとも 1 つ定義してください。

NO

TN サーバーは SLP サポートを提供しません。この verb に対する他のパラメーターはすべて無視されます。

load_advertisement_freq

TN サーバー上の負荷が著しく変化したか、再公示の必要があるかを判断するために、CS/AIX がその負荷を再計算する時間間隔 (秒) を指定します。可能な値の範囲は 1 から 32767 です。

load_change_threshold

著しいと見なされ、現行負荷の再公示が必要になる負荷の変化を指定します。CS/AIX は、TN サーバー上の負荷の再計算時に、現行負荷が公示負荷と比べてこの値を超えて異なるか (大きい、または小さい) を検査し、その差が著しい場合にのみ、新しい負荷を公示します。

0 から 99 の範囲のパーセンテージを指定します。例えば、最後に公示された負荷の値が 30 % である場合、値 10 を指定すると、現行負荷が 40 % を超えるか、20 % を下回った場合にのみ、CS/AIX は負荷を再公示します。

load_factor

異なるキャパシティの TN サーバー間でのバランスを向上させるために、CS/AIX が公示負荷に適用するパーセンテージ・ファクターを指定します。例えば、ある TN サーバーがもう 1 つの TN サーバーより高速で使用可能メモリーが多いコンピューターで稼働している場合、両者の負荷が (使用中ホスト LU のパーセンテージにおいて) 同じであれば、クライアントに前者の TN サーバーを選択してほしいと考えます。この場合、*load_factor* を前者の TN サーバーには小さく、後者の TN サーバーには大きく指定します。これにより、実際のパーセンテージ負荷が同じであっても、後者の TN サーバーの公示負荷のほうが大きくなります。

-100 から 100 の範囲のパーセンテージを指定します。この値に 100 を加え、その結果に実際のパーセンテージ負荷を掛けて、公示負荷は算出されます。例えば、-80 を指定すると、公示負荷は、実際の負荷に (-80 + 100)、つまり 20 % を掛けたものになります。50 を指定すると、公示負荷は、実際の負荷に (50 + 100)、つまり 150 % を掛けたものになります。

slp_scope

多くの TN サーバーと TN3270 クライアントがある大規模な SLP ネットワークでは、各クライアントがアクセス可能な TN サーバーの範囲を制限する必要がある場合があります。これを行うために、ネットワークの論理セグメントを特定する多くの有効範囲を定義できます。クライアントとディレクトリー・エージェントはそれぞれ、特定の有効範囲に割り当てられます。TN サーバーは、正しい有効範囲のクライアントとディレクトリー・エージェントにのみ、そのサービスを公示します。

TN サーバーのサービスを任意の TN3270 クライアントまたはディレクトリー・エージェントに公示する場合は、*slp_scope* パラメーターを指定しないでください。

TN サーバーを特定の有効範囲 (複数可) に制限するには、この TN サーバーがサービスを提供する対象となる、1 から 10 個の有効範囲名を指定します。それぞれの有効範囲名は文字ストリングです。その TN サーバーへのアクセス権限を持つことになるすべてのクライアントおよびディレクトリー・エージェントには、TN サーバーに対して定義されている有効範囲名と一致する有効範囲名が定義されていなければなりません。

LOCAL および REMOTE という名前は予約済みであるため、有効範囲名に使用しないでください。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LOAD_BALANCING

enable_load_balancing パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LOAD_FACTOR

load_factor パラメーターが、有効な範囲内にありませんでした。

INVALID_FREQUENCY

load_advertisement_freq パラメーターが、有効な範囲内にありませんでした。

INVALID_THRESHOLD

load_change_threshold パラメーターが、有効な範囲内にありませんでした。

INVALID_SCOPE

有効範囲名が、予約済みの値に設定されています。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_tn3270_ssl_ldap

define_tn3270_ssl_ldap コマンドは、Secure Sockets Layer (SSL) クライアント認証機能とともに使用するために証明書取り消しリストにアクセスする方法を定義します。取り消しリストは外部 LDAP サーバーに保管され、(無許可パーティーによってユーザーのセキュリティー情報が発見されたり、そのユーザーが許可された組織で勤務していないなどの理由で) TN Server や TN Redirector の使用許可を持たない各 TN3270 クライアントの詳細が含まれています。

この機能が使用されている場合、CS/AIX TN サーバーまたは TN リダイレクターに接続している TN3270 クライアントは、証明書(このクライアントをサーバーの使用許可を持つ有効なクライアントとして識別する情報)を提供する必要があります。その後、サーバーはこの証明書を取り消しリストに照らして検査し、有効であることを確認します。

このコマンドを使用して、LDAP サーバーへのアクセスの定義、アクセス情報の変更(ユーザー ID およびパスワードの変更など)、または CS/AIX で外部 LDAP サーバー上の取り消しリストを使用しないことの指定ができます。

このコマンドは、非アクティブ・ノードに発行する必要があります。ノードの実行中は、LDAP サーバー・アクセス情報を変更できません。

指定パラメーター

Parameter [define_tn3270_ssl_ldap]	Type	Length	Default
{tn3270_ssl_ldap_data}			
auth_type	constant		LOCAL_ONLY
ldap_addr	character	255	
ldap_port	decimal		
ldap_user	character	1024	
ldap_password	character	128	

指定パラメーターは、以下のとおりです。

auth_type

TN Server または TN Redirector で実行される許可検査のタイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

LOCAL_ONLY

サーバーは、クライアント証明書をローカルで検査しますが、外部の証明書取り消しリストは使用しません。パラメーター *ldap_addr* - *ldap_password* は使用しません。

LOCAL_X500

サーバーは、証明書をローカルで検査し、外部の証明書取り消しリストにも照らして検査します。このコマンドの他のパラメーターで、このリストの場所を指定します。

ldap_addr

証明書取り消しリストが保持されている LDAP サーバーの TCP/IP アドレス。指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)

- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

名前または別名を指定した場合、この名前または別名を AIX システムが (ローカル TCP/IP 構成を使用するか、ドメイン・ネーム・サーバーを使用して) 完全修飾名に解決できなければなりません。完全修飾名は大文字小文字が区別されません。例えば、Newbox.THIS.CO.UK と newbox.this.co.uk は同じです。

ldap_port

LDAP サーバーへのアクセスに使用される TCP/IP ポート番号。範囲は 0 から 65535 です。

ldap_user

LDAP サーバーの証明書取り消しリストにアクセスする場合に使用されるユーザー名。LDAP サーバーのシステム管理者とともに確認して、このパラメーターの指定方法を決定します。

ldap_password

LDAP サーバーの証明書取り消しリストにアクセスする場合に使用されるパスワード。LDAP サーバーのシステム管理者とともに確認して、このパラメーターの指定方法を決定します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_AUTH_TYPE

auth_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがローカル・ノードでサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

以下のいずれかが適合します。

- ご使用の CS/AIX ライセンスで、このノードにおける TN サーバーまたは TN リダイレクターの使用が許可されていません。
- AIX Certificate and SSL Base Runtime ファイルセットがインストールされていません。TN サーバーまたは TN リダイレクターの SSL 機能を使用する場合、このファイルセットがインストールされていなければなりません。正しい CS/AIX ファイルセットのインストールについて詳しく

は、「IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門」を参照してください。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_tn_リダイレクト

define_tn_リダイレクト コマンドは、CS/AIX の TN リダイレクター機能を使用して、特定の Telnet クライアント（またはすべてのクライアントのデフォルト・アクセス詳細）のアクセス詳細を定義します。これを使用して、新規クライアントを定義したり、既存の定義を変更したりすることができます。（TN3270 Server を使用してクライアントのアクセス詳細を定義するには、アクセスの定義 `_tn3270_XXXX` を使用します。）

指定パラメーター

Parameter	Type	Length	Default
[define_tn_redirect]			
default_record	constant		YES
client_address	character	256	(null string)
client_port	decimal		
listen_local_address	character	45	(null string)
cli_ssl_enabled	constant		NO
cli_conn_security_level	constant		SSL_AUTHENTICATE_MIN
cli_conn_cert_key_label	character	80	(null string)
host_address	character	255	(null string)
host_port	decimal		
host_ssl_enabled	constant		NO
serv_conn_security_level	constant		SSL_AUTHENTICATE_MIN
serv_conn_cert_key_label	character	80	(null string)
description	character	31	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

default_record

このコマンドで、TCP/IP アドレスで明示的に示されていない Telnet ユーザーが使用するデフォルトのレコードを定義するかどうかを指定します。ユーザーが TN Redirector ノードへの接続を試行し、そのユーザーの TCP/IP アドレスが構成内の TN Redirector レコードと一致しなくても、クライアントが使用するポート番号に定義されているデフォルトのレコードがある場合は、このレコードのパラメーターが使用されます。可能な値は次のいずれかです。

YES

このコマンドで、デフォルトのレコードを定義します。`client_address` パラメーターは使用しません。

NO

このコマンドで、通常の TN Redirector ユーザー・レコードを定義します。

デフォルトのレコードによって、Telnet ユーザーは TN Redirector 機能にアクセスできます。この機能では、TN サーバーが実行されているコンピューターの TCP/IP アドレスを判別できます。TN Redirector の使用を特定のユーザー・グループに制限するには、デフォルトのレコードを含めないか、または使用されないようにデフォルトのレコードにホスト・アドレスを構成しないままにします。

また、ほとんどのユーザーに対してデフォルトのレコードをセットアップし、1 つ以上の TCP/IP アドレスを明示的に除外することもできます。この場合、除外するアドレスを TN Redirector ユーザーとして定義し、これらにホスト・アドレスを構成しないままにします。

client_address

Telnet プログラムが実行されているコンピューターの TCP/IP アドレス。指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)

- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

名前または別名を使用する場合は、以下の制限が適用されます。

- AIX システムが、(ローカル TCP/IP 構成またはドメイン・ネーム・サーバーを使用して) 名前または別名を完全修飾名に解決できる必要があります。
- 各名前または別名は、一意の完全修飾名に展開される必要がある。同じ完全修飾名に解決される同じ TN サーバー・ノードのユーザーに対して、2つの名前を構成しないでください。
- 完全修飾名は大文字小文字が区別されません。例えば、Newbox.THIS.CO.UK と newbox.this.co.uk は同じです。

client_port

Telnet プログラムが TN Redirector ノードにアクセスする場合に使用するサーバーの TCP/IP ポート番号。

default_record パラメーターでこの番号がデフォルトの TN Redirector アクセス・レコードであることを指定した場合、このパラメーターが、デフォルトの TN3270 サーバー・アクセス・レコード (*define_tn3270_access* を使用して定義) で使用するポート・アドレスと一致しないようにしてください。各ポート番号に対して、デフォルト・レコードの 2つのタイプの内、いずれか 1つのみを定義できます。

複数の *define_tn_redirect* コマンドが (同じ *client_address* または別のものに対して) 同じ *client_port* を使用する場合、*listen_local_address* パラメーターはそれらのすべてに指定するか、あるいはすべてに指定しないようにします。すなわち、このパラメーターを一部のセッションに指定して、他のセッションでは未指定のままにするとすることはできません。

listen_local_address

TN3270 クライアントの接続先であるローカル TN サーバー・コンピューター上のアドレス。このパラメーターはオプションです。

- いずれのローカル・アドレスにも接続することができる TN3270 クライアントが存在しているか、または TN サーバーに有効なローカル・アドレスが 1つだけある場合は、このパラメーターを指定しないでください。この場合、このコマンドと同じ *port_number* を使用する (同じ *client_address* または別のものに対して) いずれの *define_tn_redirect* コマンドも、このパラメーターを未指定のままにしておく必要があります。
- TN3270 クライアントを特定のローカル・アドレスに制限する必要がある場合、このパラメーターには以下のいずれかで指定します。
 - IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
 - IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)

この場合、このコマンドと同じ *port_number* を使用する (同じ *client_address* または別のものに対して) いずれの *define_tn_redirect* コマンドも、このアドレスがすべてのセッションに対して同じである必要がなくても、このパラメーターに指定された値にする必要があります。

注:

1つ以上のセッションにローカル・アドレスを指定する場合、このクライアント・レコードは Motif 管理プログラムに表示されません。したがって、このプログラムはこのレコードの表示や管理には使用できません。このレコードを管理するには、現在も、コマンド行管理プログラムの *snaadmin* または *NOF* アプリケーションを使用して管理します。

cli_ssl_enabled

クライアントが Secure Sockets Layer (SSL) を使用して TN Redirector にアクセスするかどうかを示します。

define_tn_redirect

サーバーで SSL をサポートするために必要なソフトウェアを追加インストールしていない場合、このパラメーターは予約済みです。このことは、`query_node_limits` コマンドを使用し、`ssl_support` パラメーターの値を確認して検査します。

可能な値は次のいずれかです。

NO

クライアントは SSL を使用しません。

YES

クライアントは SSL を使用します。

YES_WITH_CLI_AUTH

クライアントは SSL を使用し、TN Server はクライアントにクライアント 認証を使用するよう要求します。クライアントは、有効な証明書 (このクライアントを TN Server の使用許可を持つ有効なクライアントとして識別する情報) を送信する必要があります。

TN Server は、この証明書が有効かどうかを検査します。また、この証明書を外部 LDAP サーバーの証明書取り消しリストに照らして検査して、ユーザーの許可が取り消されていないことを確認する必要があります。この場合は、`define_tn3270_ssl_ldap` を使用して、このサーバーへのアクセス方法を指定する必要があります。

cli_conn_security_level

このセッションのクライアント接続に必要な SSL セキュリティ・レベルを示します。セッションでは、クライアントおよびサーバーでサポートされている最もレベルの高いセキュリティが使用されます。クライアントに必要なセキュリティ・レベルがサポートされていない場合、セッションは開始されません。

`cli_ssl_enabled` パラメーターが NO に設定されている場合、このパラメーターは使用しません。

可能な値は次のいずれかです。

SSL_AUTHENTICATE_MIN

証明書を交換する必要があります。暗号化は必要ありません (ただし、クライアントが要求する場合に暗号化を使用することはできます)。

SSL_AUTHENTICATE_ONLY

証明書を交換する必要がありますが、暗号化は使用しません。このオプションは、通常、クライアントがセキュア・イントラネットに接続している場合に、暗号化のオーバーヘッドを回避するために使用します。

SSL_40_BIT_MIN

40 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_56_BIT_MIN

56 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_128_BIT_MIN

128 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_168_BIT_MIN

168 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_256_BIT_MIN

最低 256 ビットの暗号化を使用します。

注:

暗号化を使用する場合は、CS/AIX に追加のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門*」を参照してください。暗号化レベルをサポートするために必要なソフトウェアが利用できない国があるため、場所によっては、リストされている暗号化レベルをすべて使用できないことがあります。

cli_conn_cert_key_label

クライアント・セッションで SSL とともに使用する証明書および鍵ペアを識別するラベル。これは、SSL 鍵リング・データベースのセットアップ時に指定したラベルと一致していなければなりません。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門*」を参照してください。

`cli_ssl_enabled` パラメーターが NO に設定されている場合、このパラメーターは使用しません。

SSL 鍵リング・データベースをセットアップしたときに指定したデフォルトの SSL 証明書および鍵ペアを使用する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

host_address

クライアントと通信するホスト・コンピューターの TCP/IP アドレス。指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

名前または別名を指定した場合、この名前または別名を AIX システムが (ローカル TCP/IP 構成を使用するか、ドメイン・ネーム・サーバーを使用して) 完全修飾名に解決できなければなりません。完全修飾名は大文字小文字が区別されません。例えば、Newbox.THIS.CO.UK と newbox.this.co.uk は同じです。

host_port

TN サーバー・ノードがホストにアクセスする場合に使用する TCP/IP ポートの番号。

host_ssl_enabled

TN サーバーが Secure Sockets Layer (SSL) を使用して、このクライアントの代わりにホストにアクセスするかどうかを示します。

サーバーで SSL をサポートするために必要なソフトウェアを追加インストールしていない場合、このパラメーターは予約済みです。このことは、`query_node_limits` コマンドを使用し、`ssl_support` パラメーターの値を確認して検査します。

可能な値は次のいずれかです。

NO

ホストは SSL を使用しません。

YES

ホストは SSL を使用します。

serv_conn_security_level

このセッションのホスト接続に必要な SSL セキュリティー・レベルを示します。セッションは、ホストと CS/AIX の両方がサポートできる最高のセキュリティ・レベルを使用します。ホストが、要求されたレベル以上のセキュリティをサポートできない場合、セッションは開始されません。

`host_ssl_enabled` パラメーターが NO に設定されている場合、このパラメーターは使用しません。

可能な値は次のいずれかです。

SSL_AUTHENTICATE_MIN

証明書を交換する必要があります。暗号化は必要ありません (ただし、ホストが要求する場合に暗号化を使用することはできます)。

SSL_AUTHENTICATE_ONLY

証明書を交換する必要がありますが、暗号化は使用しません。このオプションは、通常、ホストがセキュア・イントラネットに接続している場合に、暗号化のオーバーヘッドを回避するために使用します。

SSL_40_BIT_MIN

40 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_56_BIT_MIN

56 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_128_BIT_MIN

128 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_168_BIT_MIN

168 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_256_BIT_MIN

最低 256 ビットの暗号化を使用します。

注:

暗号化を使用する場合は、CS/AIX に追加のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門*」を参照してください。暗号化レベルをサポートするために必要なソフトウェアが利用できない国があるため、場所によっては、リストされている暗号化レベルをすべて使用できないことがあります。

serv_conn_cert_key_label

ホスト・セッションで SSL とともに使用する証明書および鍵ペアを識別するラベル。これは、SSL 鍵リング・データベースのセットアップ時に指定したラベルと一致していなければなりません。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門*」を参照してください。

host_ssl_enabled パラメーターが NO に設定されている場合、このパラメーターは使用しません。

SSL 鍵リング・データベースをセットアップしたときに指定したデフォルトの SSL 証明書および鍵ペアを使用する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

description

オプションのテキスト・ストリング (0 から 31 文字のあとにヌル文字を続けたストリング)。このストリングは情報専用です。このストリングは構成ファイル内に保管され、*query_tn_redirect_def* コマンドで戻されますが、CS/AIX では使用されません。このストリングは、追加情報を格納してユーザーを識別するのに役立ちます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc**UNKNOWN_CLIENT_ADDRESS**

client_address パラメーターで指定されている名前または別名を完全修飾名にマップできませんでした。

CLIENT_ADDRESS_CLASH

ポート番号と完全修飾名の組み合わせ (*client_address* パラメーターから解決) が、既に定義されている組み合わせと一致しています。

DUPLICATE_PORT_NUMBER

別の TN Redirector レコードはこのレコードと同じ *client_port* パラメーターを使用しますが、*listen_local_address* パラメーターは一貫性なく設定されます。*listen_local_address* はすべてのレコードで同じポート番号を指定するか、またはいずれのレコードにも指定しないようにします。すなわち、1 つに指定できない場合は、別のものにも指定できません。

TCPIP_PORT_IN_USE

client_port または *host_port* パラメーターで指定されている TCP/IP ポート番号は、別のプログラムですでに使用されているため、TN Redirector で使用できません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_tp

define_tp コマンドは、パートナー LU からの着呼 Attach の結果として CS/AIX が TP を開始する場合に必要な情報を提供します。このコマンドを使用すると、TP を初めから定義したり、以前定義した TP の 1 つ以上のパラメーターを変更できます。

呼び出し先 TP の標準パラメーターは、呼び出し可能 TP データ・ファイルで定義されています。詳しくは、「IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 管理ガイド」を参照してください。define_tp コマンドは、TP データ・ファイルに設定できない追加パラメーターを指定する必要がある場合にのみ必要となります。このような追加パラメーターにより、TP の会話セキュリティーの指定、同期の確認、および会話タイプ (マップ式または基本) の指定を実行するオプションの使用を制限したり、または常に実行できる TP のインスタンスの数を制限します。

提供されるパラメーター

Parameter name [define_tp]	Type	Length	Default
tp_name	character	64	
description	character	31	(null string)
list_name	character	14	(null string)
conv_type	constant		EITHER
security_rqd	constant		NO
sync_level	constant		SYNCPPT_NEGOTIABLE
enabled	constant		YES
pip_allowed	constant		YES
tp_instance_limit	decimal		0
incoming_alloc_timeout	decimal		0

提供されるパラメーター：

tp_name

定義される TP の名前。

記述

TP を説明するテキスト・ストリング。CS/AIX はこのストリングを情報にのみ使用します。これはノードの構成ファイルに保管され、query_tp_definition および 照会 (tp) コマンド。に戻されます。

リスト名

この TP によって使用される (セキュリティー・アクセス・リストの定義 コマンドを使用して定義された) セキュリティー・アクセス・リストの名前。このパラメーターは、指定されたリストに指定されたユーザーだけが会話を割り振ることができるように、TP を制限します。セキュリティー・アクセス・リストを指定する場合は、セキュリティー_rqd パラメーターを そうだに設定する必要があります。

任意のユーザーが TP を使用できるように指定する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

conv_type

この TP によってサポートされる会話のタイプを指定します。可能な値は次のとおりです

ベーシック

TP は基本会話のみをサポートします。

マップ済み

TP はマップ式会話のみをサポートします

いずれか

TP は、基本会話とマップ式会話の両方をサポート

セキュリティ *_rqd*

TP を開始するために会話セキュリティ情報が必要かどうかを指定します 可能な値は次のとおりです

そうだ

TP を開始するには、ユーザー ID とパスワードが必要です。

違う。

TP を開始するために必要なセキュリティ情報はありません。

同期レベル

TP によってサポートされる同期レベルの値を指定します。 可能な値は次のとおりです

なし

The TP supports only the 同期レベル value of なし.

並行同期レベル

The TP supports only the 同期レベル value of 確認.

いずれか

The TP supports both the 同期レベル values なし and 確認.

同期が必要

The TP supports only the 同期レベル value of シンセプト (sync point is required).

同期ネゴシエーション可能

TP は、 なし、 確認、 および シンセプトの 3 同期レベル のすべての値をサポートします。

有効

TP を正常に接続できるかどうかを指定します。 可能な値は次のとおりです

そうだ

TP を接続できます。

違う。

TP を接続できません。

パイプ許可

TP がプログラム初期設定パラメーター (PIP) を受信できるかどうかを指定します。 可能な値は次のとおりです

そうだ

TP は PIP を受信できます。

違う。

TP が PIP を受信できない。

tp_instance_limit

この TP のインスタンスのうち、一度にアクティブにできるインスタンスの数の制限。 1-65,535 の範囲の値を指定するか、制限なしで 0 (ゼロ) を指定してください。

割り振り中の割り振りタイムアウト

着信接続が、RECEIVE_ALLOCATE を待機するためにキューに入れられる秒数を指定します。 0 (ゼロ) の値は、タイムアウトがないことを意味します。着信接続は無期限にキューに入れられます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

SYSTEM_TP_CANT_BE_CHANGED

指定した TP 名は、CS/AIX によって内部で使用されている TP 名であるため、この名前で TP を定義したり、TP をこの名前に変更することはできません。

INVALID_CONV_TYPE

conv_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_SYNC_LEVEL

sync_level パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_ENABLED

enabled パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_PIP_ALLOWED

pip_allowed パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

SECURITY_LIST_NOT_DEFINED

security_list_name パラメーターが、定義済みのセキュリティー・リスト名と一致しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_tp_load_info

define_tp_load_info コマンドは、TP ロード情報エントリーを定義または変更する場合に使用します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_tp_load_info]			
tp_name	character	64	
lualias	character	8	
description	character	31	
path	character	255	(null string)
arguments	character	255	(null string)
type	constant		QUEUED
timeout	decimal		-1
userid	character	64	
group	character	64	(null string)
stdin	character	255	/dev/null
stdout	character	255	/dev/null
stderr	character	255	/dev/null
env	character	255	(null string)

define_tp_load_info

(0 から 64 の env エントリーを含めることができます。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

tp_name

定義する TP ロード情報エントリーの TP 名。

lualias

定義する TP ロード情報エントリーの LU 別名。

注:

このパラメーターは、TP が APPC TP である場合にのみ使用できます。TP が CPI-C アプリケーションである場合は、このパラメーターを指定しないでください。CPI-C は、特定のローカル LU からの着呼 Attach 要求の受け入れをサポートしていません。CPI-C アプリケーションに LU の別名を (LU の別名がブランクの場合でも) 指定すると、着呼 Attach 要求を TP に経路指定する際のエラーの原因となります。

description

TP ロード情報について説明するオプションのテキスト・ストリング。

path

TP 実行可能ファイルの絶対パス名。

arguments

TP が必要とするコマンド行引数。これらの引数は、スペースで区切ります。

type

TP タイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

QUEUED

TP は、待機 TP です。

QUEUED-BROADCAST

TP は、ブロードキャスト待機 TP です。

NON-QUEUED

TP は、非待機 TP です。

タイムアウト

TP がロードされた後のタイムアウト (秒)。0 から 65,535 の範囲内で値を指定します。値 -1 は、タイムアウトが無限であることを示します。

userid

TP にアクセスし、実行するために必要なユーザー ID。

group

TP にアクセスし、実行するために必要なグループ ID。

stdin

標準入力ファイルまたはデバイスの絶対パス名。

stdout

標準出力ファイルまたはデバイスの絶対パス名。

stderr

標準エラー・ファイルまたはデバイスの絶対パス名。

env

TP が必要とする形式 `VARIABLE = VALUE` の環境変数。TP が必要とする環境変数について詳しくは、[539 ページの『付録 C 環境変数』](#)を参照してください。

TP が CPI-C アプリケーションである場合は、このパラメーターを使用して環境変数 APPCLLU を設定することはできません。自動ロードされる CPI-C アプリケーションの TP ロード情報に、ローカル LU を指定することはできません。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_TP_TYPE
type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_TP_NAME
指定した *tp_name* パラメーターが、定義済みの TP の名前と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_tr_dlc、define_ethernet_dlc

トランザクション・データの *dlc* コマンドは、新しいトークンリング DLC を定義します。さらに、DLC が現在アクティブでない場合は、このコマンドを使用して既存の DLC を変更することができます。ただし、既存の DLC の折衝可能リンク・サポートを変更することはできません。このパラメーターは、新規 DLC の作成時にのみ指定できます。

net_dlc をフラグメント化します コマンドは、新しいイーサネット DLC を定義します。また、DLC が現在アクティブでない場合は、既存の DLC を変更するためにも使用できます。パラメーターとデフォルトは、注記がある場合を除き、トランザクション・データの *dlc* の場合と同じです。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_tr_dlc], [define_ethernet_dlc]			
<i>dlc_name</i>	character	8	
<i>description</i>	character	31	(null string)
<i>neg_ls_supp</i>	constant		YES
<i>adapter_number</i>	decimal		0
<i>initially_active</i>	constant		YES
<i>max_saps</i>	decimal		16

以下のパラメーターは、イーサネット DLC に対してのみ使用します。

<i>ethernet_type</i>	constant	802_3
----------------------	----------	-------

指定パラメーターは、以下のとおりです。

dlc_name
定義する DLC の名前。この名前は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。

description

DLC について説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、query_dlc コマンドで戻されます。

neg_ls_supp

DLC が折衝可能なリンク・ステーションをサポートするかどうかを指定します。既存の DLC に対する折衝可能なリンク・サポートは変更できません。このパラメーターは、新規 DLC の作成時にのみ指定できます。使用可能な値は以下のとおりです。

YES

折衝可能なリンク・ステーションはサポートされます。この DLC を使用するリンク・ステーションは、1 次、2 次、または折衝可能です。

NO

折衝可能なリンク・ステーションはサポートされません。この DLC を使用するリンク・ステーションは、1 次または 2 次である必要があります。

adapter_number

DLC が使用するアダプター番号。

サーバーにこの DLC タイプのアダプター・カードが複数ある場合は、最初のカードに対して 0 を、2 番目のカードに対して 1 を指定し、以下同様に値を指定します。このように指定しない場合は、このパラメーターに 0 (ゼロ) を設定します。

initially_active

ノードが開始されたときにこの DLC が自動的に開始されるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ノードが開始されると、この DLC は自動的に開始されます。

NO

この DLC を使用するポートまたは LS が初めに活動状態であると定義されている場合にのみ、DLC は自動的に開始されます。その他の場合は、DLC を手動で開始する必要があります。

max_saps

この DLC がサポートできる SAP の最大数。

以下のパラメーターは、イーサネットに対してのみ使用します。

ethernet_type

イーサネット・ネットワークのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

STANDARD

標準イーサネット

802_3

IEEE 802.3

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc**INVALID_DLC_NAME**

dlc_name パラメーターは、無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

DLC_ACTIVE

DLC が現在活動状態であるため、*neg_ls_supp* パラメーターを変更できません。

INVALID_DLC_TYPE

既存の DLC に対する折衝可能なリンク・サポートは変更できません。このパラメーターは、新規 DLC の作成時にのみ指定できます。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

define_tr_ls、define_ethernet_ls

`define_tr_ls` コマンドを使用して、新しいトークンリング・リンク・ステーション (LS) を定義するか、既存のトークンリング・ステーションを変更します このコマンドを発行する前に、この LS が使用するポートを定義する必要があります。

`net_ls` の `define_ethernet_ls` コマンドを使用して、新しいイーサネット・リンク・ステーション (LS) を定義するか、既存のイーサネット・リンク・ステーションを変更します。このコマンドを発行する前に、この LS が使用するポートを定義する必要があります。パラメーターとデフォルトは、注記がある場合を除き、`define_tr_ls` の場合と同じです。

このコマンドを使用して、既存の LS で使用されるポートを変更することはできません。コマンドで指定されたポート名は、LS の前の定義と一致していなければなりません。LS は、開始されていない場合にのみ変更できます。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[<code>define_tr_ls</code>], [<code>define_ethernet_ls</code>]			
<code>ls_name</code>	character	8	
<code>description</code>	character	31	(null string)
<code>port_name</code>	character	8	
<code>adj_cp_name</code>	character	17	(null string)
<code>adj_cp_type</code>	constant		LEARN_NODE
<code>mac_address</code>	hex array	6	(null string)
<code>lsap_address</code>	hex number		0x04
<code>auto_act_supp</code>	constant		NO
<code>tg_number</code>	decimal		0
<code>limited_resource</code>	constant		NO
<code>solicit_sscp_sessions</code>	constant		NO
<code>pu_name</code>	character	8	(taken from <code>ls_name</code>)
<code>disable_remote_act</code>	constant		NO
<code>dspu_services</code>	constant		NONE
<code>dspu_name</code>	character	8	(taken from <code>ls_name</code>)
<code>dplus_name</code>	character	17	(null string)
<code>bkup_dplus_name</code>	character	17	(null string)
<code>hpr_supported</code>	constant		
<code>hpr_link_lvl_error</code>	constant		
<code>link_deact_timer</code>	decimal	30	

define_tr_ls、define_ethernet_ls

default_nn_server	constant		NO
ls_attributes	constant		SNA
adj_node_id	hex array	4	
local_node_id	hex array	4	
cp_cp_sess_support	constant		YES
use_default_tg_chars	constant		NO
effect_cap	decimal		16000000 (TR)
			157286400 (Ethernet)
connect_cost	decimal		0
byte_cost	decimal		0
security	constant		SEC_NONSECURE
prop_delay	constant		PROP_DELAY_LAN
user_def_parm_1	decimal		0
user_def_parm_2	decimal		0
user_def_parm_3	decimal		0
target_pacing_count	decimal		7
max_send_btu_size	decimal		4105 (TR)
			1492 (Ethernet)
ls_role	constant		USE_PORT_DEFAULTS
max_ifrm_rcvd	decimal		0
dls_retry_timeout	decimal		0
dls_retry_limit	decimal		0
conventional_lu_compression	constant		NO
branch_link_type	constant		UPLINK (used only if this node is B1NN)
adj_brnn_cp_support	constant		ALLOWED (used only if this node is B1NN)
initially_active	constant		NO
react_timer	decimal		30
react_timer_retry	decimal		65535
restart_on_normal_deact	constant		NO
xid_timeout	decimal		8
xid_retry_limit	decimal		2
t1_timeout	decimal		8
t1_retry_limit	decimal		2
ack_time	decimal		1
inact_time	decimal		48
force_time	decimal		120
dyna_wnd	decimal		1
dddlu_offline_supported	constant		NO

提供されるパラメーター：

ls_name

定義するリンク・ステーションの名前。

記述

LSを説明するテキスト・ストリング。CS/AIXはこのストリングを情報にのみ使用します。これはノードの構成ファイルに保管され、query_ls、クエリー・プー、および軽率の照会の各コマンド。に戻されます。

ポート名

このリンク・ステーションに関連付けられたポートの名前。この名前は、定義済みポートの名前と一致する必要があります

付加属性名

このLSの隣接CPの完全修飾名。1から8文字のネットワーク名、ピリオド、1から8文字のCP名で構成される3文字から17文字のタイプAの文字を指定します。このパラメーターは、以下の方法で使用されます。

- 付加 cp_type パラメーターがネットワーク・ノードまたはエンド・ノードに設定されていて、事前に割り当てられたTG番号が使用されている場合は、このパラメーターを隣接ノードで定義されているCP名に設定します。隣接ノードがXID交換の際にCP名を送信する場合、この値に対して検査されます。
- 付加 cp_type がレベル・レンノード・ノードに設定されている場合、CS/AIXはこの値をIDとしてのみ使用し、このノードで定義されている他のCP名と一致しない任意のストリングに設定します。
- 付加 cp_type がその他の値に設定されている場合、または事前に割り当てられたTG番号が使用されていない場合は、このパラメーターを指定する必要はありません。CS/AIXは、CP名が指定されている場合にのみチェックします。

付加 cp_type

隣接ノード・タイプ。

隣接ノードが APPN ノードであり、事前に割り当てられた TG 番号が使用されていない場合、通常、このパラメーターは LEARN_NODE に設定され、ノード・タイプが不明であることを示します。CS/AIX は、XID 交換の間にタイプを判別します。

事前に割り当てられた TG 番号を使用する場合は、明示的にノード・タイプを指定する必要があります。事前に割り当てられた TG 番号が使用されていない場合は、追加のセキュリティー検査としてタイプを指定することもできます。この場合、CS/AIX は、そのノード・タイプがこのパラメーターに指定されたノード・タイプと一致しない場合、隣接ノードからの接続試行をリジェクトします。可能な値は次のとおりです

LEARN_NODE

隣接ノード・タイプが不明です。CS/AIX は、XID 交換の間にタイプを判別します。

エンド・ノード

隣接ノードは、エンド・ノード、ローカル・ノードの観点からエンド・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノード、またはその XID3 内のネットワーク名 CV を含む LEN ノードです。

ネットワーク・ノード

隣接ノードは、ネットワーク・ノードであるか、またはローカル・ノードの観点からネットワーク・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノードです。

隣接ノードが APPN ノードでない場合、可能な値は次のとおりです。

レベル・レンノード・ノード

隣接ノードは、その XID3 にネットワーク名制御ベクトルが含まれていないノードです。

ホスト XID3

隣接ノードはホスト・ノードです。CS/AIX は、フォーマット 3 XID を持つノードからのポーリング XID に応答します。

ホスト・XID0

隣接ノードはホスト・ノードです。CS/AIX は、フォーマット 0 XID を持つノードからのポーリング XID に応答します。

DSPU_XID

隣接ノードはダウンストリーム PU です。CS/AIX は、XID 交換をリンクの活動化に組み込んでいます。dspu_name パラメーターおよび dspu_services パラメーターも設定する必要があります。

DSPU_NOXID

隣接ノードはダウンストリーム PU です。CS/AIX は、リンク活動化に XID 交換を含みません。dspu_name パラメーターおよび dspu_services パラメーターも設定する必要があります。

この LS 上で独立 LU 6.2 トラフィックを実行したい場合は、付加 cp_type パラメーターを LEARN_NODE、エンド・ノード、ネットワーク・ノード、またはレベル・レンノード・ノードに設定する必要があります。

mac_アドレス

隣接ノードの MAC アドレス。

非選択 listen LS (着呼のみに使用できるが、従属型 LU トラフィックをサポートするために LU を定義できる LU) を定義する必要がある場合は、このパラメーターを指定しないでください。これにより、LS はリモート・リンク・ステーションからの着信呼び出しを受信するために使用できますが、発信呼び出しには使用できません。独立 LU トラフィックのみが使用される場合は、非選択 listen LS を定義する必要はありません。これは、独立型 LU トラフィック用の LS は、必要に応じて動的にセットアップできるためです。

ローカル・ノードおよび隣接ノードが、ブリッジで接続された異なるタイプ (イーサネット、他方のトークンリング) の LAN 上にある場合は、MAC アドレス内のバイトのビット・オーダーを反転させる必要があると思われます。詳しくは、200 ページの『MAC アドレスのビット・オーダー』を参照してください。2つのノードが同じ LAN 上にある場合、またはブリッジによって接続された同じタイプの LAN 上にある場合は、ビット・オーダーの変更は必要ありません。

lsap_アドレス

隣接ノードのローカル SAP アドレス。0x04-0xEC の範囲で、複数の 0x02 年を指定してください。

auto_act_supp

セッションで必要に応じてリンクを自動的に活動化できるかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

リンクは自動的に活動化できます。

再活動化タイマー・パラメーターは無視されます。LSが失敗した場合、CS/AIXは、セッションを使用していた従属LUアプリケーションがセッションの再始動を試みるまで、再活動化を試みません。独立LUによって使用されるLSはCS/AIXによって再活動化されず、手動で再始動する必要があります。

以下の制限も適用されます。

- リンクがAPPNノードに対するものである場合、LSには事前に割り当てられたTG番号が定義されている必要があります(*tg_number*パラメーターを参照してください)。また、*cp_cp_sess_support*を違う。に設定する必要があります。
- ローカル・ノードまたは隣接ノードのいずれかがエンド・ノードである場合、LSは隣接ノードで自動的に活動化されるように定義されている必要があります。

違う。

リンクを自動的に活動化できません。

tg_number

事前に割り当てられたTG番号。このパラメーターが使用されるのは、隣接ノードがAPPNノード(付加*cp_type*はネットワーク・ノードまたはエンド・ノードのいずれか)である場合のみです。それ以外の場合は無視されます。

このTG番号は、リンクの活動化時にリンクを表すために使用されます。このノードは、このリンクの活動化中に隣接ノードからの他の番号を受け入れません。隣接ノードが事前に割り当てられたTG番号を使用している場合は、隣接リンク・ステーションの隣接ノードによって同じTG番号が定義されている必要があります。

ローカル・ノードがLENノードである場合、または隣接ノードがLENノードであり、リンクが自動的に活動化されている場合は、TG番号を1に設定します。それ以外の場合は、1-20の範囲の数値を指定するか、または0(ゼロ)を指定して、TG番号が事前割り当てされておらず、リンクが活動化されるときに折衝されることを示します。

事前に割り当てられたTG番号が定義されている場合は、付加属性名パラメーターも定義する必要があります。付加*cp_type*パラメーターをエンド・ノードまたはネットワーク・ノードのいずれかに設定する必要があります。

limited_resource

リンクを使用しているセッションがないときに、このリンク・ステーションが限定リソースであるかどうかを指定します。非交換ポート上のリンク・ステーションを限定リソースとして構成することはできません。可能な値は次のとおりです

違う。

このリンクは、限定リソースではなく、自動的に非アクティブ化されることは

セッションなし

リンクは限定リソースであり、アクティブ・セッションがそれを使用していない場合は自動的に非アクティブ化されます。

非活動状態

リンクは制限されたリソースであり、アクティブ・セッションがそれを使用していない場合、またはリンクの*deact_timer*パラメーターで指定された期間のデータがリンク上に流れていない場合に、自動的に非アクティブ化されます。

- リンクを介してアクティブになっているSSCP-PUセッションがない場合、ノードはリンクを即時に非活動化します。
- SSCP-PUセッションが活動状態であるが、指定された時間枠にトラフィックが流れていない場合、ノードはREQDISCONT(通常)をホストに送信します。次に、ホストはすべてのLUとPUを非活動化する責任を負います。この時点で、ローカル・ノードはリンクを非活動化します。ただ

し、ホストはアクティブな PLU-SLU セッションを持つ LU を非活動化することはできません。この場合、これらのすべてのセッションが非活動化されるまで (例えば、ユーザー・ログアウトによって) リンクはアクティブのままです。この動作は、ノードの `define_node` コマンドの `ptf_flags` パラメーターのオプションを使用して変更することができます。

A limited resource link station can be configured for CP-CP session support by setting this parameter to セッションなし and `cp_cp_sess_support` to そうだ. この場合、CP-CP セッションがリンクの上に持ち込まれると、CS/AIX はそのリンクを限定リソースとして処理しません (したがって、そのリンクは非活動化されません)。

solicit_sscp_sessions

SSCP とローカル CP と従属 LU との間のセッションを開始するように隣接ノードに要求するかどうかを指定します。このパラメーターが使用されるのは、隣接ノードが APPN ノード (付加 `cp_type` はネットワーク・ノードまたは エンド・ノードのいずれか) である場合のみです。それ以外の場合は無視されます。隣接ノードがホスト (付加 `cp_type` はホスト `XID3` またはホスト・`XID0` のいずれか) である場合、CS/AIX は常にホストに SSCP セッションを開始するように要求します。

可能な値は次のとおりです

そうだ

SSCP セッションを開始するよう隣接ノードに要求します。

違う。

SSCP セッションを開始するよう隣接ノードに要求しないでください。

隣接ノードが APPN ノードで、`dspu_services` がなし以外の値に設定されている場合、このパラメーターは違う。に設定する必要があります。

プール名

このリンクを使用するローカル PU の名前。このパラメーターは、付加 `cp_type` がホスト `XID3` またはホスト・`XID0` に設定されている場合、または `solicit_sscp_sessions` が そうだに設定されている場合にのみ必要です。それ以外の場合は無視されます。この名前は、文字で始まるタイプ A の文字ストリングです。

既に定義されている LS 上の PU 名を変更することはできません。

PU 名が必要な場合にそれを指定しない場合、デフォルトは LS 名と同じになります。To ensure that this name is a valid type-A character string, CS/AIX converts it to uppercase; if the string begins with a numeric character, this character is either removed or preceded by the characters "プー"

unable_remote_act

リモート・ノードによる LS の活動化を防ぐかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

LS は、ローカル・ノードによってのみアクティブにすることができます。リモート・ノードが活動化しようとする、CS/AIX はその試みを拒否します。

違う。

LS は、リモート・ノードによって活動化できます。

dspu_services

ローカル・ノードがこのリンクを介してダウンストリーム PU に提供するサービスを指定します。このパラメーターが使用されるのは、隣接ノードがダウンストリーム PU、または `solicit_sscp_sessions` が違う。に設定されている APPN ノードの場合のみです。それ以外の場合は予約されます。可能な値は次のとおりです

PU_濃度

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU のための SNA ゲートウェイを提供 SNA ゲートウェイをサポートするには、ローカル・ノードが定義されている

ドゥル

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU のための DLUR サービスを提供 DLUR をサポートするには、ローカル・ノードを定義する必要があります (DLUR はエンド・ノードではサポートされません。)

なし

ローカル・ノードはダウンストリーム PU にサービスを提供しません。

dspu_name

ダウンストリーム PU の名前。この名前は、文字で始まるタイプ A の文字ストリングです。To ensure that this name is a valid type-A character string, CS/AIX converts it to uppercase; if the string begins with a numeric character, this character is either removed or preceded by the characters "プー"

このパラメーターは、以下の両方の条件が真である場合を除いて、予約されます。

- *solicit_sscp_sessions* パラメーターは 違う。 に設定されます。
- *dspu_services* パラメーターが PU_濃度 または ドウル に設定されている。

これらの条件の両方が真で、*dspu_name* に値を指定しない場合、デフォルトは LS 名と同じになります。

ダウンストリーム PU が DLUR に使用されている場合は、この名前は、ホストで構成された PU 名と一致する必要があります。(CS/AIX は、PU 名と PU ID の両方をホストに送信して、PU を識別します。ホストは、通常、PU 名を使用して PU を識別します。一致する PU 名を検出できない場合は、PU ID によって識別されます。)

dlus_name

ダウンストリーム・ノードへのリンクが活動化されている場合に、DLUR が SSCP サービスを送信する元の DLUS ノードの名前。*dspu_services* が ドウル に設定されていない場合、このパラメーターは予約済みです。

名前はタイプ A の文字ストリングで、1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の DLUS 名で構成されます。

デフォルトの *define_dlur_defaults* を使用してグローバル・デフォルト DLUS を定義するには、このパラメーターを指定しないでください。このパラメーターが指定されておらず、グローバル・デフォルト DLUS がない場合には、リンクが活動化される時に DLUR は SSCP 連絡先を開始しません。

bkup_dlus_name

dlus_name によって指定されたノードがアクティブでない場合に、DLUR が SSCP サービスを送信する元のバックアップ DLUS ノードの名前。*dspu_services* が ドウル に設定されていない場合、このパラメーターは予約済みです。

この名前はタイプ A の文字ストリングで、1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のバックアップ DLUS 名で構成されます。

デフォルトの *define_dlur_defaults* は、このパラメーターを指定しません。を使用してグローバル・バックアップ・デフォルト DLUS を定義するには

hpr_supported

このリンクで HPR がサポートされるかどうかを指定 このパラメーターは、リンクが APPN ノードに接続されていることを付加 *cp_type* パラメーターが示していない限り、NO に設定する必要があります 可能な値は次のとおりです

そうだ

HPR はこのリンクでサポートされます。

違う。

HPR はこのリンクでサポートされていません。

hpr_link_lvl_エラー

リンク・レベル・エラー・リカバリーを使用して、HPR トラフィックをこのリンク上で送信するかどうかを指定 *hpr_supported* が そうだ に設定されていなければ、このパラメーターは無視され 可能な値は次のとおりです

そうだ

リンク・レベル・エラー・リカバリーを使用して、このリンク上で HPR トラフィックを送信する必要がある

違う。

リンク・レベル・エラー・リカバリーを使用して、HPR トラフィックをこのリンク上で送信しないでください。

リンクの *deact_timer*

限定リソース・リンク非活動化タイマー(秒)。このパラメーターで指定された時間にわたってリンク上にデータ・フローが存在しない場合は、限定リソース・リンクが自動的に非アクティブになります。*limited_resource* が非活動状態以外の値に設定されている場合、このパラメーターは使用されません。

最小値は 5 です。範囲 1-4 の値は、5 として解釈されます。

値 0 (ゼロ) は、以下のいずれかを示します。

- *hpr_supported* パラメーターが そうだに設定されている場合は、デフォルトの非活動化タイマーの値 30 が使用されます。
- *hpr_supported* パラメーターが 違う。に設定されている場合、タイムアウトは使用されません (*limited_resource* が 違う。に設定されているかのように、リンクは非アクティブ化されません)。

デフォルトの *nn_server*

エンド・ノードの場合、このパラメーターは、定義されるリンク・ステーションが、ローカル・ノードのネットワーク・ノード・サーバーとして機能するネットワーク・ノードへの CP-CP セッションをサポートするかどうかを指定します。ローカル・ノードがネットワーク・ノード・サーバーへの CP-CP セッションを持たず、それらを確認する必要がある場合、ローカル・ノードは、定義されているリンク・ステーションでこのパラメーターを検査して、活動化するのに適した LS を見つけます。これにより、隣接する NN を NN サーバーとして動作するのに適した隣接 NN を指定することができます (例えば、高価リンクまたは低速リンクによってアクセスされる NN を使用しないようにするため)。

可能な値は次のとおりです

そうだ

このリンクは、ローカル・ノードの NN サーバーとして機能できるネットワーク・ノードへの CP-CP セッションをサポートします。ローカル・ノードは、NN サーバーに接続する必要がある場合、このリンクを自動的に活動化することができます。*cp_cp_sess_support* パラメーターは、そうだに設定する必要があります。

違う。

このリンクは、ローカル・ノードの NN サーバーとして機能できるネットワーク・ノードへの CP-CP セッションをサポートしません。つまり、ローカル・ノードは、NN サーバーに接続する必要がある場合、このリンクを自動的にアクティブにすることはできません。

ローカル・ノードがエンド・ノードでない場合、このパラメーターは無視されます。

ls_ 属性

CS/AIX が通信しているリモート・システムの属性。

以下のいずれかのタイプのホストと通信している場合を除き、スナ を指定します。可能な値は次のとおりです

スナ

標準 SNA ホスト

フナ

富士通ネットワーク・アーキテクチャー (VTAM-F) ホスト

フナ

Hitachi ネットワーク体系ホスト

サポートされる CP_NAME

リモート・ノードに関連した CP 名を抑止します。この値を スナ、フナ、または フナと結合するには、+ 文字を使用します。

If 付加 *cp_type* is set to レベル・レンノード・ノード, and the remote LEN node associated with this LS cannot accept the Network Name CV in the format 3 XID it receives, use a + character to combine the value スナ, フナ, or フナ with サポートされる CP_NAME (for example, スナ+サポートされる CP_NAME).

付加 *cp_type* がその他の値に設定されている場合、オプション サポートされる CP_NAME は無視されません。

従属ノード ID

隣接ノードのノード ID。この ID は、4 バイトの 16 進数ストリングで、ブロック番号 (3 桁の 16 進数字) とノード番号 (5 桁の 16 進数字) から構成されます。ノード ID 検査を無効にするには、このパラメーターを指定しないでください。

ローカル・ノード ID

この LS 上の XID で送信されたノード ID。この ID は、4 バイトの 16 進数ストリングで、ブロック番号 (3 桁の 16 進数字) とノード番号 (5 桁の 16 進数字) から構成されます。ノードの `define_node` は、このパラメーターを指定しません。のノード ID パラメーターで指定されたノード ID を使用するには、

cp_cp_sess_support

CP-CP セッションがサポートされるかどうかを指定 このパラメーターが有効なのは、隣接ノードがエンド・ノードまたはネットワーク・ノード (付加 `cp_type` がネットワーク・ノード、エンド・ノード、または `LEARN_NODE`) である場合のみです。それ以外の場合は無視されます。ローカル・ノードと隣接ノードの両方がネットワーク・ノードである場合、これらのノード間で APPN 機能を使用するには、このパラメーターを `so` に設定する必要があります。

可能な値は次のとおりです

so

CP-CP セッションはサポートされます。

no

CP-CP セッションはサポートされません。

use_default_tg_chars

ポートの `define_tr__ / net_ethernet_port` はで提供されるデフォルトの TG 特性を使用するかどうかを指定します The TG characteristics apply only if the link is to an APPN node; this parameter, and 有効上限 through ユーザー定義パラメーター 3 parameters are ignored otherwise. 可能な値は次のとおりです

so

デフォルトの TG 特性を使用します。このコマンド ユーザー定義パラメーター 3 パラメーターを使用して 有効上限 を無視します。

no

Use 有効上限 through ユーザー定義パラメーター 3 parameters on this command.

有効上限

回線速度を表す 10 進値 (ビット / 秒)。

イーサネット・リンクの場合は、このパラメーターをリンクの真の「有効容量」に設定します。これには、リンクで使用されるアダプターの理論上の容量だけでなく、パス内のすべてのステップ・ダウンズまたはボトルネックを含むものも含まれます。例えば、ギガビット・アダプターを 1 つのギガビット・アダプターで処理することができますが、FastEthernet を使用するターゲット・ボックスへのイーサネット・スイッチを通過する場合は、100MBps 以下を指定する必要があります。

接続コスト

接続時間当たりのコスト。有効な値は、0-255 の範囲の整数値です。ここで、0 は接続時間当たりのコストが最も低く、255 は接続時間ごとのコストが最も高い値です。

バイト・コスト

バイト単位のコスト。有効な値は、0-255 の範囲の整数値です。ここで、0 はバイト当たりの最小コストであり、255 はバイト当たりのコスト / バイト数の最大値です。

担保

ネットワークのセキュリティー・レベル。可能な値は次のとおりです

セキュア非セキュア

セキュリティーなし。

ネットワークの接続を保護するためのネットワーク

データは公衆交換網を介して伝送される。

セクター・ケーブル (ケーブル)

データは安全な地下ケーブルで送信されます。

セキュア・セキュア・コンジット

保護されていないセキュア・コンジットでは、回線を介してデータが伝送されます。

セキュア・ガード D_CONDUIT

データは、物理的な盗聴に対して保護されているコンジットの行を介して伝送されます。

セキュア暗号化

データは、回線を介して伝送される前に暗号化

セキュリティー保護された放射線

物理および放射線のタップに対して保護されている回線を介してデータが伝送されます。

プロペップ遅延

伝搬遅延時間 (シグナルがリンクの長さを移動するのにかかる時間)。リンクのタイプに応じて、以下の値のいずれかを指定します。

最小の PROP_DELAY_最小

最小伝搬遅延。

プロ P_DELAY_LAN

遅延は 0.5 マイクロ秒未満 (LAN の場合は標準) より小さくなります。

PROP_DELAY_電話

遅延は、.5-50 マイクロ秒の範囲です (電話ネットワークの場合は標準)。

PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET

遅延は、50 から 250 マイクロ秒の範囲です (パケット交換ネットワークの場合の標準)。

PROP_DELAY_衛星

遅延が 250 マイクロ秒より大きくなっています (サテライト・リンクの場合は標準)。

最大の PROP_DELAY_最大

最大伝搬遅延。

ユーザー定義パラメーター 1 から ユーザー定義パラメーター 3 まで

ユーザー定義パラメーター。前のパラメーターでカバーされていない他の TG 特性を組み込むために使用できます。これらの各パラメーターは、0-255 の範囲内の値に設定する必要があります。

ターゲット・パック・カウント

目的のペーシング・ウィンドウ・サイズを示します。1-32,767 の範囲の値を指定してください。

最大 send_btu_size

このリンク・ステーションから送信できる BTU の最大サイズ。この値は、リンク・ステーションのペアが相互に通信するために使用できる BTU サイズの最大値を折衝するために使用されます。この値には、TH と RH (合計 9 バイト) の長さ、RU の長さが含まれます。265-65535 の範囲の値を指定します (イーサネットの 265 「-1496、トークンリングの場合は 265-17745)。

ls_role

リンク・ステーションの役割。通常、このパラメーターは USE_PORT_DEFAULTS に設定され、LS ロールがこの LS を所有するポートの定義から取得されるように指定します。

個々の LS に対してポートの LS ロールをオーバーライドする必要がある場合は、以下のいずれかの値を指定します。

LS_PRI

プライマリー

LS_SEC

セカンダリ

LS_NEG

交渉可能

max_ifrm_rcvd

肯定応答を送信する前にローカル・リンク・ステーションが受信できる I フレームの最大数。1-127 の範囲で指定します。

dlus_retry_timeout

dlus_name パラメーターおよび *bkup_dlus_name* パラメーターによって指定された DLUS への 2 回目以降の接続試行の間隔 (秒単位)。1 回目の試行と 2 回目の試行の間隔は常に 1 秒です。

0-65,535 の範囲の値を指定してください。0 を指定すると、デフォルトの *define_dlur_defaults* を使用して指定されたデフォルトが使用されます。 *dspu_services* パラメーターがドウルに設定されていない場合、このパラメーターは無視されます。

dlus_retry_limit

DLUS に連絡するための再試行カウント。このパラメーターは、最初の試行で CS/AIX が DLUS との接続に失敗した場合に CS/AIX が再試行する回数を指定するために使用されます。

Specify a value in the range 1-65,534, or specify 65,535 to indicate that CS/AIX should retry indefinitely until it contacts the DLUS.

通常 lu_lu_圧縮

このリンク上の LU 0-3 セッションに対してデータ圧縮を要求するかどうかを指定します。このパラメーターは、このリンクが LU 0 から 3 のトラフィックを伝送する場合にのみ使用されます。LU 6.2 セッションには適用されません。可能な値は次のとおりです

そうだ

ホストが要求する場合、このリンク上の LU 0-3 セッションに対してデータ圧縮を使用する必要があります。

違う。

このリンク上の LU 0-3 セッションには、データ圧縮を使用しないでください。

ブランチ・リンク・タイプ

このパラメーターが適用されるのは、ローカル・ノードが分岐ネットワーク・ノードの場合のみです。ローカル・ノードが他のタイプの場合には使用されません。

If the parameter 付加 *cp_type* is set to ネットワーク・ノード, エンド・ノード, アプリケーション・ノード, or レベル・レンノード・ノード, this parameter defines whether the link is an uplink or a downlink. 可能な値は次のとおりです

アップリンク

リンクはアップリンクです。

ダウンリンク

リンクはダウンリンクです。

付加 *cp_type* が ネットワーク・ノード に設定されている場合、このパラメーターは アップリンク に設定する必要があります。

付加 cpnn_cp_support

This parameter applies only if the local node is a Branch Network Node and the adjacent node is a network node (the parameter 付加 *cp_type* is set to ネットワーク・ノード, or it is set to アプリケーション・ノード and the node type discovered during XID exchange is network node). これは、ローカル・ノードとリモート・ノードが他のタイプの場合には使用されません。

このパラメーターは、隣接ノードを、ローカル・ノードの視点からネットワーク・ノードとして機能する分岐ネットワーク・ノードにすることができるかどうかを定義します。可能な値は次のとおりです

許可

隣接ノードは、分岐ネットワーク・ノードとして許可されます (必須ではありません)。

必須

隣接ノードは分岐ネットワーク・ノードでなければなりません。

禁止

隣接ノードは分岐ネットワーク・ノードであってはなりません。

付加 *cp_type* が ネットワーク・ノード に設定されており、 *auto_act_supp* が そうだ に設定されている場合、このパラメーターは 必須 または 禁止 に設定する必要があります。

初期設定がアクティブ

ノードの開始時にこの LS を自動的に開始するかどうかを指定します 可能な値は次のとおりです

そうだ

LS は、ノードが開始されると自動的に開始されます。

違う。

LS は自動的に開始されません。手動で開始する必要があります。

react_タイマー

失敗した LS を再活動化するための再活動化タイマー。 *react_timer_retry* パラメーターがゼロ以外の値である場合 (CS/AIX が失敗した場合に LS の活動化を再試行する必要があることを指定するため)、このパラメーターは再試行の間隔を秒単位で指定します。LS が失敗した場合、または LS の再活動化の試みが失敗した場合、CS/AIX は、指定された時間を待機してから、活動化を再試行します。

react_timer_retry が 0 (ゼロ) の場合、このパラメーターは無視されます。

react_timer_retry

失敗した LS を再活動化するための再試行カウント このパラメーターは、使用中に (または LS の開始が失敗した場合に) CS/AIX が LS を再活動化しようとするかどうかを指定するために使用されます。

0 (ゼロ) を指定すると、CS/AIX は LS の再活動化を試行しないか、または再試行の回数を指定する必要があります。値 65,535 は、CS/AIX が LS が活動化されるまで無期限に再試行することを示します。

CS/AIX は、連続する再試行の間、*react_タイマー* パラメーターで指定された時間待機します。LS が再試行カウントの終了時に正常に再活動化されない場合、または *stop_ls* は、CS/AIX が活動化を再試行しているときに発行されます。これ以上再試行は行われません。LS は、*start_ls* が発行されない限り、非アクティブ

auto_act_supp パラメーターが そうだに設定されている場合、*react_タイマー* パラメーターおよび *react_timer_retry* パラメーターは無視されます。リンクが失敗した場合、CS/AIX は、セッションを使用していたユーザー・アプリケーションがセッションの再始動を試行するまで、その再アクティブ化を試みません。

正常化が正常に解除されている

リモート・システムによって正常に非活動化された場合に、CS/AIX が LS を再活動化するかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

リモート・システムが LS を正常に非活動化すると、CS/AIX は、同じ再試行タイマーとカウント値を使用して、失敗した LS (上記の *react_タイマー* および *react_timer_retry* パラメーター) を再活動化するために、その LS を再活動化しようとします。

違う。

リモート・システムが LS を正常に非活動化すると、CS/AIX はそれを再活動化しようとしません。

LS がホスト・リンク (付加 *cp_type* パラメーターで指定) である場合、またはノードの開始時に自動的に開始される場合 (初期設定がアクティブ パラメーターは そうだに設定されています)、このパラメーターは無視されます。CS/AIX は、リモート・システムによって正常に非活動化された場合 (*react_timer_retry* がゼロでない限り)、LS を常に再活動化しようとします。

xid_timeout

リモート・ステーションに接続しようとする時、XID が再送される前にタイムアウトになります。タイマーは 0.5 秒単位の増分で指定されます (したがって、8 の値は 4 秒を示します)。リモート・ステーションへの伝搬遅延が大きい場合は、より高い値が必要になることがあります。

xid_retry_limit

XID 再試行限度 (XID の送信および再送信が許可される回数)。リモート・ステーションへのリンクが信頼できないか、輻輳状態になる可能性がある場合は、高い値が必要になることがあります

t1_timeout

応答が受信されない場合は、I フレームが再送される前にタイムアウトになります。タイマーは 0.5 秒単位の増分で指定されます (したがって、8 の値は 4 秒を示します)。この値は、リンクへの通常の伝搬遅延よりも大きくなければなりません。

t1_retry_limit

T1 再試行限度 (I フレームの伝送および再送信が許可される回数)。リモート・ステーションへのリンクが信頼できないか、輻輳状態になる可能性がある場合は、高い値が必要になることがあります

時間の経過

確認応答タイムアウト (フレームの受信とそれに対する肯定応答の送信の間に発生する可能性がある最大遅延)。タイムアウトは、0.5 秒の増分で指定されます。1-255 の範囲の値を指定します (0.5 秒 127.5 秒に相当します)。

非 act_time

非アクティブ・タイムアウト (ローカル・ステーションは、この時間内にデータが受信されない場合は、リモート・ステーションへの接続が失われたと想定します)。タイムアウトは秒単位で指定します。1-255 の範囲の値を指定してください。

強制時間

強制タイムアウト。この時間内に通常の切断に応答がないと、ローカル・ステーションによって強制切断が発生します。タイムアウトは秒単位で指定します。1-16,383 の範囲の値を指定してください。

dna_wnd

動的ウィンドウ増分。このパラメーターはトークンリング・リンク・ステーションでのみ使用されますネットワーク輻輳の結果としてパケットが失われた場合、送信ウィンドウ・サイズは自動的に 1 に削減されます。このパラメーターは、ウィンドウを増加させる前に正常に受信しなければならないパケットの数を指定します。指定されたパケット数が正常に受信されるたびに、ウィンドウ・サイズが 1 によって増加されます。

サポートされる dddlu_offline_supported

ローカル PU が、NMVT (電源オフ) メッセージをホストに送信するかどうかを指定します。ホスト・システムが DDDL (従属 LU の動的定義) をサポートしている場合、CS/AIX は、動的に定義された LU を使用しているときに、NMVT (電源オフ) をホストに送信します。これにより、ホストは、不要になった定義を除去することによって、リソースを保管することができます。

このパラメーターが使用されるのは、このリンクがホストに対するものである場合 (solicit_sscp_sessions は そうだ に設定され、dspu_services が なし に設定されていない場合) です。

可能な値は次のとおりです

そうだ

ローカル PU は、NMVT (電源オフ) メッセージをホストに送信します。

違う。

ローカル PU は、NMVT (電源オフ) メッセージをホストに送信しません。

ホストが DDDL をサポートしているが、NMVT (電源オフ) メッセージをサポートしていない場合、このパラメーターは 違う。 に設定する必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

CANT_MODIFY_PORT_NAME

ls_name パラメーターは既存の LS 名と一致しますが、port_name パラメーターが既存の定義と一致しません。既存の LS の定義を変更する場合、ポート名は変更できません。

DEF_LINK_INVALID_SECURITY

security パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_AUTO_ACT_SUPP

auto_act_supp パラメーターが有効な値に設定されていないか、または *cp_cp_sess_support* も YES に設定されているときにこのパラメーターが YES に設定されています。

INVALID_CP_NAME

adj_cp_name パラメーターに無効な文字が含まれているか、このパラメーターの形式が正しくないか、またはこのパラメーターが必要な場合に指定されていません。

INVALID_LIMITED_RESOURCE

limited_resource パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LINK_NAME

ls_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_NODE_TYPE

adj_cp_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_PORT_NAME

port_name パラメーターが、定義済みのポートの名前と一致しません。

INVALID_PU_NAME

pu_name パラメーターが定義済みの PU の名前と一致しないか、または定義済み LS で新規値に設定されています。

INVALID_DSPU_NAME

dspu_name パラメーターが定義済みの PU の名前と一致しないか、または定義済み LS で新規値に設定されています。

INVALID_DSPU_SERVICES

dspu_services パラメーターが有効な値に設定されていないか、または必要のない場合に設定されています。

INVALID_SOLICIT_SSCP_SESS

solicit_sscp_sess パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_TARGET_PACING_CNT

target_pacing_count パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_DLUS_NAME

dlus_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

INVALID_BKUP_DLUS_NAME

bkup_dlus_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

HPR_NOT_SUPPORTED

予約済みパラメーターがゼロ以外の値に設定されています。

INVALID_TG_NUMBER

指定された TG 番号は、有効範囲外です。

MISSING_CP_NAME

TG 番号が定義されていますが、CP 名が指定されていません。

MISSING_CP_TYPE

TG 番号が定義されていますが、CP タイプが指定されていません。

MISSING_TG_NUMBER

リンクが自動的に活動化されるよう定義されていますが、TG 番号が指定されていません。

INVALID_BRANCH_LINK_TYPE

branch_link_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_BRNN_SUPPORT

adj_brnn_cp_support パラメーターが、有効な値に設定されていません。

BRNN_SUPPORT_MISSING

adj_brnn_cp_support パラメーターが ALLOWED に設定されています。隣接ノードがネットワーク・ノードであり、*auto_act_supp* が YES に設定されているため、この値は無効です。

INVALID_UPLINK

branch_link_type パラメーターが UPLINK に設定されていますが、ローカル・ノードと隣接ノードの間の既存の LS の定義では、このパラメーターがダウンリンクに指定されています。同じ 2 つのノード間の LS の分岐リンク・タイプは、すべて同じである必要があります。

INVALID_DOWNLINK

branch_link_type パラメーターが DOWNLINK に設定されていますが、ローカル・ノードと隣接ノードの間の既存の LS の定義では、このパラメーターがアップリンクに指定されています。同じ 2 つのノード間の LS の分岐リンク・タイプは、すべて同じである必要があります。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

DUPLICATE_DEST_ADDR

mac_address パラメーターと *lsap_address* パラメーターの組み合わせによって指定されている宛先アドレスへのリンクは、既に定義されています。

INVALID_NUM_LS_SPECIFIED

指定されているリンク・ステーションの数が無効です。

LOCAL_CP_NAME

adj_cp_name パラメーターに指定されている値がローカル CP 名と同じです。

LS_ACTIVE

ls_name パラメーターで指定したリンク・ステーションは、現在活動状態です。

PU_ALREADY_DEFINED

pu_name パラメーターに指定されている PU は、既に定義されています。

DSPU_ALREADY_DEFINED

dspu_name パラメーターに指定されているダウンストリーム PU は、既に定義されています。

DSPU_SERVICES_NOT_SUPPORTED

dspu_services パラメーターが、サポートされていないサービスを要求するために使用されています。

DUPLICATE_TG_NUMBER

tg_number パラメーターに指定されている TG 番号は、既に定義されています。

TG_NUMBER_IN_USE

tg_number パラメーターに指定されている TG 番号は、他のリンク・ステーションで使用されています。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

MAC アドレスのビット・オーダー

イーサネット LAN では、トークンリングとは異なる表記の MAC アドレスが使用されます。イーサネット上のアドレスの各バイトのビット・オーダーは、トークンリング上のビット・オーダーを反転したものです。ローカル・ノードおよびリモート・ノードは、通常、同じ LAN 上にあるか、またはブリッジで接続された同じタイプの複数の LAN 上にあります。いずれの場合も、ノードでは同じ表記の MAC アドレスが使用され、変換する必要はありません。

ブリッジで接続されている異なるタイプ (イーサネットとトークンリング) の LAN 上に 2 つのノードがある場合は、通常、リモート MAC アドレスを指定するときにアドレスの各バイトのビット・オーダーを反転させる必要があります。ビット・オーダーを反転させるには、以下のステップに従います。

MAC アドレスのビット・オーダーの反転

1. MAC アドレスを 6 バイトとしてリストする。各バイトは、2 つの 16 進数字で表記します。
2. 各バイトの 2 つの桁の順序を交換する。
3. [201 ページの表 3](#) に示されているように各桁を変換する。

表 3. MAC アドレス用のビット変換

0->0	8->1
1->8	9->9
2->4	A->5
3->C	B->D
4->2	C->3
5->A	D->B
6->6	E->7
7->E	F->F

[201 ページの表 4](#) にステップ 1、2、および 3 を示します。

表 4. MAC アドレスのビット変換の例

MAC アドレスのリスト	1A 2B 3C 4D 5E 6F
桁の順序の交換	A1 B2 C3 D4 E5 F6
各桁の変換	58 D4 3C B2 7A F6 (元のアドレスのビットが反転した形式)

define_tr_port、define_ethernet_port

ポートの `define_tr_` コマンドは、新しいトークンリング・ポートを定義するか、既存のポートを変更するために使用します。このコマンドを発行する前に、このポートが使用する DLC を定義する必要があります。

`net_ethernet_port` コマンドは、新規イーサネット・ポートを定義するか、既存のポートを変更するために使用されます。このコマンドを発行する前に、このポートが使用する DLC を定義する必要があります。パラメーターとデフォルトは、注記がある場合を除き、ポートの `define_tr_` の場合と同じです。

既存のポートは、開始されていない場合のみ変更できます。既存のポートで使用される DLC を変更することはできません。既存のポートを変更するときに `dlc_name` パラメーターに指定された名前は、ポートの初期定義で指定された DLC と一致していなければなりません。

着信呼び出しを受け入れるポートの定義について詳しくは、[207 ページの『着呼』](#)を参照してください。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_tr_port], [define_ethernet_port]			
port_name	character	8	
description	character	31	(null string)
dlc_name	character	8	
port_number	decimal		1
max_rcv_btu_size	decimal		4105 (TR) 1492 (Ethernet)
tot_link_act_lim	decimal		255
inb_link_act_lim	decimal		0
out_link_act_lim	decimal		0
ls_role	constant		LS_NEG
implicit_dspu_services	constant		NONE
implicit_dspu_template	character	8	(null string)
implicit_ls_limit	decimal		

define_tr_port、define_ethernet_port

act_xid_exchange_limit	decimal		9
nonact_xid_exchange_limit	decimal		5
ls_xmit_rcv_cap	constant		LS_TWS
max_ifrm_rcvd	decimal		7
target_pacing_count	decimal		7
max_send_btu_size	decimal		4105 (TR) 1492 (Ethernet)
lsap_address	hex number		0x04
implicit_cp_cp_sess_support	constant		YES
implicit_limited_resource	constant		NO
implicit_hpr_support	constant		YES
implicit_link_lvl_error	constant		
implicit_deact_timer	decimal		30
implicit_uplink_to_en	constant		NO
effect_cap	decimal		16000000 (TR) 157286400 (Ethernet)
connect_cost	decimal		0
byte_cost	decimal		0
security	constant		SEC_NONSECURE
prop_delay	constant		PROP_DELAY_LAN
user_def_parm_1	decimal		0
user_def_parm_2	decimal		0
user_def_parm_3	decimal		0
initially_active	constant		YES
device	character	16	
max_saps	decimal		
xid_timeout	decimal		8
xid_retry_limit	decimal		2
t1_timeout	decimal		8
t1_retry_limit	decimal		2
ack_time	decimal		1
inact_time	decimal		48
force_time	decimal		120
dyna_wnd	decimal		1
local_name	character	8	(null string)

提供されるパラメーター：

ポート名

定義するポートの名前。この名前は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。

記述

ポートを説明するテキスト・ストリング。CS/AIXはこのストリングを情報にのみ使用します。これはノードの構成ファイルに保管され、照会ポートコマンドに戻されます。

dlc_name

関連するDLCの名前。この名前は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。指定されたDLCは、すでに定義されている必要が

ポート番号

ポートの番号。

最大rcv_btu_size

受信可能なBTUの最大サイズ。この値には、THとRH(合計9バイト)の長さ、RUの長さが含まれます。265-65535の範囲の値を指定します(イーサネットの265-1496、トークンリングの場合は265-17745)。

tot_link_act_lim

合計リンク活動化限度(このポートを使用している場合にいつでもアクティブにできるリンクの最大数)。

inb_link_act_lim

インバウンド・リンク活動化限度(インバウンド活動化用に予約されているリンクの数)。inb_link_act_limとリンク・アクト・リムを外したの合計はtot_link_act_limを超えることはできません。inb_link_act_limとtot_link_act_limの間の相違は、いつでもアウトバウンドに活動化できるリンクの最大数を定義します。

リンク・アクト・リムを外した

アウトバウンド・リンク活動化限度(アウトバウンド活動化のために予約されているリンクの数)。inb_link_act_limとリンク・アクト・リムを外したの合計はtot_link_act_limを超えることはできません。リンク・アクト・リムを外したとtot_link_act_limの間の相違は、いつでもアクティブにすることができるリンクの最大数を定義します。

ls_role

リンク・ステーションの役割。これを LS_NEG に設定する。

implicit_dspu_services

ローカル・ノードが、このポートで活動化された暗黙リンクを介してダウンストリーム PU に提供するサービスを指定します。可能な値は次のとおりです

ドウル

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU に対して DLUR サービスを提供します (デフォルトの define_dlur_defaults コマンド)。で構成されたデフォルト DLUS を使用)。

PU_濃度

ローカル・ノードは、ダウンストリーム PU の SNA ゲートウェイを提供します。また、このパラメーターは、パラメーター *implicit_dspu_template* に対して指定された DSPU テンプレートで指定されている場所の定義にも入れられます。

なし

ローカル・ノードはこのダウンストリーム PU にサービスを提供しません。

implicit_dspu_template

define_dspu_template コマンドで定義される DSPU テンプレートを指定します。このテンプレートは、ローカル・ノードがこのポートで活動化された暗黙リンク用の SNA ゲートウェイを提供する場合に、定義に使用されます。指定されたテンプレートが存在しないか、またはリンクが活動化されているときに既にそのインスタンス限界にある場合は、活動化は失敗します。このテンプレート名は、ローカルで表示可能な文字セットの 8 バイト・ストリングです。

implicit_dspu_services パラメーターが PU_濃度に設定されていない場合、*implicit_dspu_template* パラメーターは予約されています。

暗黙の制限

このポートで同時にアクティブにできる暗黙リンク・ステーションの最大数を指定します。これには、ディスカバリーのためにアクティブ化された動的リンクおよびリンクも含まれます。1-65,534 の範囲の値を指定するか、制限を指定しないように 0 (ゼロ) を指定してください。値 暗黙リンク (_R) は、暗黙リンクが許可されていないことを示します。

act_xid_exchange_limit

アクティブ化 XID 交換制限。0-65,535 の範囲の値を指定してください。

非 act_xid_exchange_limit

非活動化 XID 交換限度。0-65,535 の範囲の値を指定してください。

ls_xmit_rcv_cap

リンク・ステーションの送信/受信機能を指定します。可能な値は次のとおりです

LS_TWS 型

両方向同時

LS_TWA 型

両方向交互

max_ifrm_rcvd

肯定応答を送信する前にローカル・リンク・ステーションが受信できる I フレームの最大数。1-127 の範囲で指定します。

ターゲット・パック・カウント

目的のペーシング・ウィンドウ・サイズを示します。1-32,767 の範囲の値を指定してください。

最大 send_btu_size

このポートから送信できる BTU の最大サイズ。この値は、リンク・ステーションのペアが相互に通信するために使用できる BTU サイズの最大値を折衝するために使用されます。この値には、TH と RH (合計 9 バイト) の長さ、RU の長さが含まれます。265-65535 の範囲の値を指定します (イーサネットの 265 「-1496、トークンリングの場合は 265-17745)。

lsap_アドレス

ポートのローカル SAP アドレス。0x04-0xEC の範囲で、複数の 0x02 年を指定してください。この値は、2 桁の 16 進数字の前に 0x を付けたものでなければ

暗黙 *cp_cp_sess_support*

このポートを使用する暗黙のリンク・ステーションに CP-CP セッションを許可するかどうかを指定可能な値は次のとおりです

そうだ

CP-CP セッションは暗黙リンク・ステーションに使用できます。

違う。

CP-CP セッションは暗黙リンク・ステーションでは許可されません。

暗黙の制限リソース

このポートの暗黙リンク・ステーションを限定リソースとして定義するかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

違う。

暗黙リンクは限定リソースではなく、自動的に非活動化されません。

セッションなし

暗黙リンクは限定リソースであり、アクティブなセッションがそれらを使用していない場合は自動的に非アクティブ化されます。

非活動状態

暗黙リンクは限定リソースであり、それらを使用しているアクティブ・セッションがない場合、または暗黙の *deact_タイマー* パラメーターで指定された期間データが流れていない場合に、自動的に非活動化されます。

- リンクを介してアクティブになっている SSCP-PU セッションがない場合、ノードはリンクを即時に非活動化します。
- SSCP-PU セッションが活動状態であるが、指定された時間枠にトラフィックが流れていない場合、ノードは REQDISCONT(通常) をホストに送信します。次に、ホストはすべての LU と PU を非活動化する責任を負います。この時点で、ローカル・ノードはリンクを非活動化します。ただし、ホストはアクティブな PLU-SLU セッションを持つ LU を非活動化することはできません。この場合、これらのすべてのセッションが非活動化されるまで (例えば、ユーザー・ログアウトによって) リンクはアクティブのままです。この動作は、ノードの *define_node* コマンドの *ptf_flags* パラメーターのオプションを使用して変更することができます。

暗黙の *hpr_support*

高性能ルーティング (HPR) が暗黙リンクでサポートされるかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

HPR は暗黙リンクでサポートされます。

違う。

HPR は暗黙リンクではサポートされません。

暗黙リンク・リンク・エラー

リンク・レベル・エラー・リカバリーを使用して、HPR トラフィックを暗黙的リンクで送信するかどうかを指定 暗黙の *hpr_support* を 違う。 に設定すると、このパラメーターは無視されます。可能な値は次のとおりです

そうだ

リンク・レベル・エラー・リカバリーを使用して、HPR トラフィックを暗黙リンクで送信する必要がある

違う。

リンク・レベル・エラー・リカバリーを使用して、HPR トラフィックを暗黙リンクで送信しないでください。

暗黙の *deact_タイマー*

暗黙限定リソース・リンク非活動化タイマー(秒)。

暗黙の *hpr_support* が そうだ に設定され、暗黙の制限リソース がセッションなしに設定されている場合、このパラメーターで指定された時間にデータ・フローがない場合、暗黙リンクは自動的に非活動化されます。リンクを使用しているセッションはありません。

暗黙の制限リソースが非活動状態に設定されている場合、このポートを使用する暗黙リンクは、このパラメーターで指定された時間データ・フローがない場合、自動的に非活動化されます。

最小値は5です。範囲1-4の値は、5として解釈されます。値0(ゼロ)はタイムアウトしないことを示します(リンクは非活動化されていませんが、暗黙の制限リソースが違います。に設定されています)。暗黙の制限リソースが違います。に設定されている場合、このパラメーターは予約済みです

暗黙指定_en

このパラメーターは、ローカル・ノードが分岐ネットワーク・ノードである場合にのみ適用されます。ローカル・ノードが他のタイプの場合には予約されます。

隣接ノードがエンド・ノードである場合、このパラメーターは、このポートからの暗黙リンク・ステーションがアップリンクまたはダウン・リンクであるかどうかを指定します。同じ隣接ノードへのリンクが存在する場合、このパラメーターは無視されます。この場合、既存のリンクがリンク・タイプの判別に使用されるためです。可能な値は次のとおりです

そうだ

エンド・ノードへの暗黙的なリンクは、アップリンクです。

違う。

エンド・ノードへの暗黙的なリンクは、ダウンリンクです。

有効上限からユーザー定義パラメーター3まで

このポートを使用する暗黙リンク・ステーションに使用されるデフォルトTG特性、および明示的に定義されたTG特性を持たない定義済みリンク・ステーションのデフォルトTG特性。LSがダウンストリームPUに対するものである場合、TG特性パラメーターは無視されます。

これらのパラメーターについては、[187 ページの『define_tr_ls、define_ethernet_ls』](#)を参照してください。

初期設定がアクティブ

ノードの開始時にこのポートを自動的に開始するかどうかを指定します 可能な値は次のとおりです

そうだ

ポートは、ノードの開始時に自動的に開始されます。

違う。

このポートは、ポートを使用するLSが最初にアクティブとして定義されている場合にのみ自動的に開始されます。それ以外の場合は、手動で開始する必要があります

装置から最大再試行回数まで

これらのパラメーターについては、[187 ページの『define_tr_ls、define_ethernet_ls』](#)を参照してください LS名が最初に認識されていないときは、ポートのdefine_tr__ /net_ethernet_port は、着呼の処理のデフォルトとして使用されます。で指定された値

ローカル名

ローカル・ノードをネットワークに接続する物理アダプターの固有の名前。この名前は、ネットワーク全体で固有でなければなりません。

このリンクを開始すると、CS/AIXはネットワークを検査して、指定した名前が別のノードでまだ使用されていないことを確認します。名前が既に使用されている場合、CS/AIXはエラー・メッセージを生成します。このパラメーター値を変更して、まだ使用されていない名前を指定する必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIXによって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIXは、エラーのタイプを示す1次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す2次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PORT_NAME

port_name パラメーターで指定した値は無効です。

INVALID_DLC_NAME

指定した *dlc_name* と一致する定義済み DLC がありません。

INVALID_PORT_TYPE

port_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_BTU_SIZE

max_rcv_btu_size パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LS_ROLE

ls_role パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_LINK_ACTIVE_LIMIT

活動化限度パラメーター *inb_link_act_lim*、*out_link_act_lim*、または *tot_link_act_lim* のいずれかが、正しい値に設定されていません。

INVALID_MAX_IFRM_RCVD

max_ifrm_rcvd パラメーターが、有効な値に設定されていません。

HPR_NOT_SUPPORTED

予約済みパラメーターがゼロ以外の値に設定されています。

DLUR_NOT_SUPPORTED

implicit_dspu_services パラメーターが、サポートされていないサービスを要求するために使用されています。

PU_CONC_NOT_SUPPORTED

implicit_dspu_services パラメーターが、サポートされていないサービスを要求するために使用されています。

INVALID_IMPLICIT_UPLINK

implicit_uplink_to_en パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

PORT_ACTIVE

指定したポートは、現在活動状態であるため変更できません。

DUPLICATE_PORT_NUMBER

port_number パラメーターに指定されている番号のポートは、既に定義されています。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

着呼

着呼を受信するポートを構成している (*tot_link_act_lim*、*inb_link_act_lim*、および *out_link_act_lim* パラメーターで定義) 場合は、通常、着呼に対して使用する LS を定義する必要はありません。CS/AIX は、着呼を受信すると、LS を動的に定義します。ただし、従属 LU をサポートするホスト・コンピューター、または SNA ゲートウェイを使用するダウンストリーム・コンピューターからの着呼の場合は、従属 LU に関連付けられている PU の名前またはダウンストリーム PU の名前が LS 定義に含まれるため、明示的に LS を定義する必要があります。

着呼がポートに到着すると、CS/AIX は、その着呼に指定されている MAC アドレスと SAP アドレスを、ポートに定義されているリンク・ステーションに指定されているアドレス (該当がある場合) に照らして検査し、その着呼に対して LS が既に定義されているかどうかを判別します。MAC アドレスおよび SAP アドレスのペアが、これらのどのリンク・ステーションに指定されている MAC アドレスおよび SAP アドレスのペアにも一致しない場合は、LS が動的に定義されます。明示的な LS 定義 (必要な PU 名を含む) が使用されていることを確認するには、この LS に対して定義されている MAC アドレスおよび SAP アドレスの両方が、ホストまたはダウンストリーム・コンピューターによって着呼に指定されているアドレスと一致していることを確認します。

define_userid_password

`define_userid_password` コマンドは、APPC および CPI-C 会話セキュリティで使用するユーザー ID とパスワードのペアを定義するか、または定義済みユーザー ID およびパスワードのプロファイルを追加します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[define_userid_password]			
define_type	constant		ADD_USER
user_id	character	10	
description	character	31	(null string)
password	character	10	
profile	character	10	(null string)

(*profile* パラメーターは、10 個まで指定可能です。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

define_type

このコマンドの使用法を指定します。可能な値は次のいずれかです。

ADD_USER

新規ユーザーを追加するか、または既存のユーザーのパスワードを変更します。

ADD_PROFILES

既存のユーザー ID およびパスワードのレコードにプロファイルを追加します。

user_id

ユーザー ID。この名前は、タイプ AE の文字ストリングです。最大長 8 文字のユーザー ID を持つ CPI-C インプリメンテーションもあります。9 文字や 10 文字のユーザー ID を指定すると、他のシステムで実行されている CPI-C アプリケーションが、このユーザー ID およびパスワードを使用して CS/AIX システムのアプリケーションにアクセスすることができない可能性があります。

description

ユーザー ID およびパスワードについて説明するテキスト・ストリング。CS/AIX では、このストリングを通知用としてのみ使用します。このストリングは、ノードの構成ファイルに保管され、`query_userid_password` コマンドで戻されます。

パスワード

ユーザーのパスワード。このパスワードは、タイプ AE の文字ストリングです。最大長 8 文字のパスワードを持つ CPI-C インプリメンテーションもあります。9 文字や 10 文字のパスワードを指定すると、他のシステムで実行されている CPI-C アプリケーションが、このユーザー ID およびパスワードを使用して CS/AIX システムのアプリケーションにアクセスすることができない可能性があります。

define_userid_password

コマンド行でこのパラメーターに入力すると、入力した値は、即時に暗号化されたバージョンのパスワードで置き換えられます。このため、*password* パラメーターに指定した値は、コマンド行に表示されません。

プロファイル

ユーザーに関連付けられているプロファイル。各プロファイルは、タイプ AE の文字ストリングです。

リモート TP が、ローカル TP に接続するときこのコマンドで指定されているユーザー ID およびパスワードを使用する場合、接続に指定されているプロファイル (ある場合) は、このコマンドで定義されているいずれかのプロファイル名と一致する必要があります。リモート TP を実行しているシステム管理者と相談して、プロファイルを使用するかどうかを判断します。使用する各プロファイルに対して、このコマンドで *profile* パラメーターの 1 つとしてプロファイル名を指定します。通常、プロファイル名は使用されないため、このコマンドでプロファイル名を指定する必要はありません。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PASSWORD

password パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_PROFILE

指定した 1 つ以上の *profile* 値が無効です。

INVALID_USERID

user_id パラメーターに無効な文字が含まれています。

NO_PROFILES

このコマンドを使用して既存のユーザーにプロファイルが追加されましたが、プロファイルが指定されていません。

UNKNOWN_USER

このコマンドを使用して既存のユーザーにプロファイルが追加されましたが、*user_id* パラメーターが既存のユーザー ID と一致していません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_adjacent_len_node

delete_adjacent_len_node コマンドは、ノード・ディレクトリー・データベース内の項目を、隣接 LEN ノードおよびその関連 LU に対して削除するか、LEN ノード自体を除去せずに LEN ノードの LU エントリーを除去します。これは、LEN ノードおよびその関連 LU に対して一連のディレクトリー・エントリーの削除 コマンドを発行することと同じです。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_adjacent_len_node]			
cp_name	character	17	
lu_name	character	8	
wildcard_lus	constant		NO

(lu_name パラメーターは、10 個まで指定可能です。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

cp_name

隣接ノードの CP の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の CP 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

lu_name

削除する各 LU の名前。各名前は、8 バイトのタイプ A の文字ストリングです。LEN ノード定義全体を削除する場合は、LU 名を指定しないでください。

名前の最初の部分の文字のみを指定することにより、複数の LU 名に一致する「ワイルドカード」LU 名を指定できます。例えば、ワイルドカード LU 名の APPN.LU は、APPN.LUNAME または APPN.LU01 と一致します (ただし、APPN.NAME LU とは一致しません)。ただし、1 つのコマンドで指定したすべての LU 名は、wildcard_lus パラメーターで定義されているものと同じタイプ (ワイルドカードか明示的に指定したもの) である必要があります。同じ LEN ノードから両方のタイプの LU 名を削除するには、delete_adjacent_len_node コマンドを複数回指定します。

wildcard_lus

指定した LU 名がワイルドカード・エントリーであるか明示的な LU 名であることを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

指定した LU 名はワイルドカード・エントリーです。

NO

指定した LU 名は明示的なエントリーです。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

delete_backup

INVALID_CP_NAME

`cp_name` パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_LU_NAME

指定した LU 名の 1 つ以上に無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_CP_NAME

指定した CP 名が、定義済みディレクトリー・エントリーの名前と一致しません。

INVALID_LU_NAME

指定した 1 つ以上の LU 名が定義済み LU 名と一致しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_backup

`delete_backup` コマンドは、`sna.net` ファイル内のサーバーのリストからサーバーを削除します。削除したサーバーは、コントローラー構成ファイル・サーバーとして動作しなくなります。

このコマンドを使用すると、削除するサーバーで SNA ソフトウェアが実行中であるかどうかに関わらず、リストからコントローラー・サーバーを含む任意のサーバーを削除できます。ただし、リストには、SNA ソフトウェアが実行中のサーバーが常に 1 つ以上含まれている必要があります (このサーバーがコントローラー・サーバーを継承します)。リスト内にサーバーが 1 つしかない場合や、SNA ソフトウェアが実行中のサーバーが 1 つしかリストされていない場合は、サーバーを削除することはできません。

このコマンドは、ノード名を指定せずに実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_backup] backup_name	character	128

指定パラメーターは、以下のとおりです。

backup_name

バックアップ・サーバーのリストから削除するサーバーの名前。

サーバー名に . (ピリオド) の文字が含まれている場合、CS/AIX はこれが完全修飾名であると想定します。含まれていない場合は、DNS ルックアップを実行してサーバー名を判別します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

RECORD_NOT_FOUND

backup_name パラメーターで指定したサーバー名が、ファイルにリストされていません。

CANT_DELETE_LAST_BACKUP

SNA ソフトウェアが実行中のサーバーが 1 つしかリストされておらず、現在コントローラー・サーバーとして機能することができるのはこのサーバーのみであるため、リストからサーバー名を削除できません。このサーバーの削除を試行する前に、リストされている他の 1 つ以上のサーバーで SNA ソフトウェアを開始するか、または (add_backup を使用して) 1 つ以上の新規バックアップ・サーバーを追加し、サーバーで SNA ソフトウェアが開始されていることを確認します。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_cn

delete_cn コマンドは、接続ネットワークを削除するか、または接続ネットワークから選択したポートを削除します。

このコマンドは、ネットワーク・ノードまたはエンド・ノードでのみ有効で、ローエントリー・ネットワーク (LEN) ノードでは無効となります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_cn]		
fqn_name	character	17
port_name	character	8

(*port_name* エントリーは 1 つ以上含めることができます。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

fqn_name

接続ネットワークの完全修飾名を指定します。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の接続ネットワーク名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

port_name

接続ネットワークを削除せずにポートを削除する場合、削除するポートの名前を指定します。各ポート名は、8 文字以下のストリングです。接続ネットワークを削除する場合は、ポート名を指定しないでください。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_CN_NAME
fqcn_name パラメーターが、有効な CN 名に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
FUNCTION_NOT_SUPPORTED
ローカル・ノードは LEN ノードです。このコマンドは、ネットワーク・ノードまたはエンド・ノードでのみ有効です。

secondary_rc
(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_cos

delete_cos コマンドは、サービス・クラス (COS) エントリーを削除します。ローカルで定義された COS のみを削除できます。SNA で定義されたデフォルトの COS を削除することはできません。

ノードがモードから COS へのマッピングをサポートする場合 (ノードの `define_node` コマンド) および構成には、削除しようとしている COS にマップされたモードが含まれています。CS/AIX は、デフォルトの COS (モード名を指定しない `define_mode` コマンドで指定) または SNA 定義の COS #CONNECT (デフォルトの COS が指定されていない場合) に、これらのモードを再マップします。の余分の余分のマップをサポート パラメーターで定義されているとおり)。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_cos] cos_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

cos_name

削除するサービス・クラス名を指定します。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

COS_NAME_NOT_DEFD

指定した名前は、CS/AIX ノードで定義した COS の名前ではありません。

SNA_DEFD_COS_CANT_BE_DELETED

指定した名前は、SNA 定義 COS の名前で、削除できません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_cplic_side_info

delete_cplic_side_info コマンドは、CPI-C サイド情報エントリーを削除します。

CPI-C サイド情報エントリーはドメイン・リソースとして定義されているため、このコマンドは特定のノードに関連付けられていません。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_cplic_side_info] sym_dest_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

sym_dest_name

サイド情報エントリーを識別するシンボリック宛先名。ローカルで表示可能な文字を指定します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_SYM_DEST_NAME

sym_dest_name パラメーターが、定義済み CPI-C サイド情報エントリーの名前ではありません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_directory_entry

delete_directory_entry コマンドは、ネットワーク・ディレクトリー内のエントリーを削除します。ネットワーク・ノード・サーバーのディレクトリーからエンド・ノード CP のエントリーを削除することはできません。

親リソースのエントリーを削除すると、このリソースに関連付けられている子リソースのすべてのエントリーも削除されます。例えば、エンド・ノードの親であるネットワーク・ノードのエントリーを削除すると、エンド・ノードと両方のノードに関連付けられているすべての LU のエントリー (ワイルドカード LU エントリーを含む) が、同様に削除されます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_directory_entry]			
resource_name		character	17
resource_type	constant		LU_RESOURCE

指定パラメーターは、以下のとおりです。

resource_name

削除するリソースの完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のリソース名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

resource_type

削除するリソースのタイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

ENCP_RESOURCE

エンド・ノード (EN) またはローエントリー・ネットワークキング (LEN) ノード

NNCP_RESOURCE

ネットワーク・ノード (NN)

LU_RESOURCE

論理装置 (LU)。

WILDCARD_LU_RESOURCE

ワイルドカード LU 名。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_FQ_LU_NAME

resource_name パラメーターが定義済み LU の名前ではありません。

INVALID_RESOURCE_TYPE

resource_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc**CANT_DELETE_ADJ_ENDNODE**

エンド・ノードのエントリーが指定されていますが、このコマンドの発行先のノードはそのネットワーク・ノード・サーバーです。このエンド・ノード・エントリーは削除できません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_dlc

delete_dlc コマンドは、DLC を削除します。このコマンドでは、以下も削除します。

- DLC に関連付けられているすべてのポート、リンク・ステーション、および接続ネットワーク TG
- DLC 上のリンク・ステーションに関連付けられているすべての PU、これらの PU が所有するすべての LU、およびこれらの LU に関連付けられているすべての LU-LU パスワード

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_dlc] dlc_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

delete_downstream_lu

dlc_name

削除する DLC の名前。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_DLC_NAME

指定した *dlc_name* と一致する定義済み DLC がありません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

DLC_ACTIVE

DLC は、現在活動状態であるため削除できません。削除する前に `stop_dlc` を使用して DLC を停止します。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_downstream_lu

`delete_downstream_lu` コマンドは、ダウンストリーム LU を削除します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_downstream_lu] dslu_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

dslu_name

削除するダウンストリーム LU の名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
INVALID_LU_NAME
dslu_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME
dslu_name パラメーターが、定義済みのダウンストリーム LU 名と一致しません。

DSL_ACTIVE
LU は、現在活動状態であるため削除できません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_downstream_lu_range

delete_downstream_lu_range コマンドは、一定範囲のダウンストリーム LU を削除します。パラメーターで、LU のベース・ネームと NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレスの範囲を指定します。この LU ベース・ネームおよび NAU アドレスの組み合わせから、削除する LU の範囲を決定します。例えば、ベース・ネームが LUNME で、NAU の範囲が 11 から 14 という指定を組み合わせると、LUNME011、LUNME012、LUNME013、および LUNME014 という LU が削除されます。

指定した範囲の名前を持つすべての LU が削除されます。範囲内の名前が 1 つ以上存在しない場合でも、CS/AIX はエラーを戻しません。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_downstream_lu_range]			
dslu_base_name	character	5	
min_nau	decimal		1
max_nau	decimal		1

指定パラメーターは、以下のとおりです。

dslu_base_name

削除する LU 名のベース・ネーム。この名前は、文字から始まる 1 から 5 文字のタイプ A の文字ストリングです。CS/AIX は、この名前に各 NAU アドレスの 3 桁の 10 進数値を付加して、削除する LU を決定します。

delete_dspu_template

min_nau

1 から 255 の範囲内の、削除する最初の LU の NAU アドレス。

max_nau

1 から 255 の範囲内の、削除する最後の LU の NAU アドレス。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_NAU_ADDRESS

min_nau または *max_nau* パラメーター値は無効です。

INVALID_LU_NAME

dslu_base_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

指定した範囲の名前を持つ LU が定義されていません。

DSLU_ACTIVE

範囲内の 1 つ以上の LU が、現在活動状態であるため削除できません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_dspu_template

delete_dspu_template コマンドは、以前に define_dspu_template コマンドで定義されていた特定の DSPU テンプレートを削除するか、または DSPU テンプレートから 1 つ以上のダウンストリーム LU (DSL) テンプレートを削除します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_dspu_template] template_name		character	8
{dslu_template}			
min_nau	decimal		
max_nau	decimal		
host_lu	character	8	
allow_timeout	constant		NO
delayed_logon	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

template_name

削除する DSPU テンプレート、または削除する DSLU テンプレートを含む DSPU テンプレートの名前。1 から 8 文字のローカルで表示可能な文字を指定します。

DSPU テンプレート全体を削除する場合は、`dslu_template` サブレコードを指定しないでください。1 つ以上の DSLU テンプレートを削除し、DSPU テンプレートの構成はそのままにする場合は、削除する各 DSLU テンプレートの `dslu_template` サブレコードを指定します。サブレコード `dslu_template` には、以下のパラメーターが含まれています。

min_nau

削除する DSLU テンプレートの範囲内での最小 NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレス。1 から 255 の範囲内で値を指定します。

max_nau

削除する DSLU テンプレートの範囲内での最大 NAU アドレス。1 から 255 の範囲内で値を指定します。

allow_timeout

ホスト LU 定義で指定したタイムアウト期間にセッションが非アクティブのままであった場合、このダウンストリーム LU が使用するホスト LU を CS/AIX がタイムアウトにできるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は、このダウンストリーム LU が使用するホスト LU をタイムアウトにすることができます。

NO

CS/AIX は、このダウンストリーム LU が使用するホスト LU をタイムアウトにすることができません。

delayed_logon

ダウンストリーム LU からの最初のデータを受信するまで、CS/AIX がダウンストリーム LU からホスト LU への接続を遅らせるかどうかを指定します。代わりに、シミュレートされたログオン画面が、ダウンストリーム LU に送信されます。可能な値は次のいずれかです。

YES

ダウンストリーム LU からの最初のデータを受信するまで、CS/AIX がダウンストリーム LU からホスト LU への接続を遅らせます。

NO

ダウンストリーム LU からの最初のデータを受信するまで CS/AIX がダウンストリーム LU からホスト LU への接続を遅らせることはありません。

host_lu

範囲内のすべてのダウンストリーム LU のマップ先となるホスト LU または ホスト LU プールの名前。

戻りパラメーター

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

primary_rc
OK

delete_focal_point

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_TEMPLATE_NAME

template_name パラメーターで指定したテンプレートは無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_focal_point

delete_focal_point コマンドは、指定された MS カテゴリのフォーカル・ポイント (そのカテゴリのメイン・フォーカル・ポイントまたはバックアップ・フォーカル・ポイント) の定義を削除します。定義したフォーカル・ポイント・アプリケーションが活動状態で、指定した MS カテゴリの現行のフォーカル・ポイントとして機能している場合、CS/AIX は、そのフォーカル・ポイントへ MS_CAPABILITIES メッセージを送信してそのフォーカル・ポイントを取り消し、フォーカル・ポイントとしてそれ以上機能しないようにします。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_focal_point]		
ms_category	constant	character 8
type		

指定パラメーターは、以下のとおりです。

ms_category

管理サービス・カテゴリ。このパラメーターは、「Systems Network Architecture: Management Services」で指定されているいずれかのカテゴリ名のうちの 1 つか、またはユーザー定義のカテゴリ名です。ユーザー定義カテゴリ名はタイプ 1134 のストリングです。

type

削除するフォーカル・ポイントのタイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

ACTIVE

現在活動状態のフォーカル・ポイントが (タイプに関わらず) 取り消されます。

IMPLICIT

暗黙的な定義 (define_focal_point で *backup* を NO に設定して 定義) が削除されます。このフォーカル・ポイントが現在活動状態の場合は、取り消されます。

BACKUP

バックアップ定義 (define_focal_point で *backup* を YES に設定して 定義) が削除されます。このフォーカル・ポイントが現在活動状態の場合は、取り消されます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_CATEGORY_NAME

ms_category パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_TYPE

type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc**FUNCTION_NOT_SUPPORTED**

このローカル・ノードは、MS ネットワーク管理機能をサポートしていません。このサポートは、ノード定義の *mds_supported* パラメーター で定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_internal_pu

delete_internal_pu コマンドは、DLUR がサービスを提供する DLUR 提供ローカル PU を削除します。PU は、アクティブ SSCP-PU セッションがない場合にのみ削除されます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_internal_pu] pu_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

pu_name

削除する内部 PU の名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_PU_NAME

pu_name パラメーターが定義済み内部 PU の名前ではありません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

PU_NOT_RESET

PU は、アクティブな PU-SSCP セッションがあるため、削除できません。

INVALID_PU_TYPE

指定されている PU は、内部 PU ではなくリモート PU です。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ノードは DLUR をサポートしません。このサポートは、define_node コマンドの dlur_support パラメーターで定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_local_lu

delete_local_lu コマンドは、ローカル LU、および LU に関連付けられている LU-LU パスワードを削除します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_local_lu] lu_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

削除するローカル LU の名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

CANT_DELETE_CP_LU

CP に関連付けられている LU 名が指定されています。この LU は削除できません。

INVALID_LU_NAME

指定された LU 名は、CS/AIX システムで定義したローカル LU の名前ではありません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_ls

delete_ls コマンドは、定義済みリンク・ステーション (LS) を削除します。また、このコマンドは、LS に関連付けられている PU、この PU が所有するすべての LU、およびこれらの LU に関連付けられているすべての LU-LU パスワードも削除します。活動状態の LS は削除できません。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_ls] ls_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

ls_name

削除するリンク・ステーションの名前。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_LINK_NAME

指定された LS 名に無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

LS_ACTIVE

LS は、現在活動状態であるため削除できません。

INVALID_LINK_NAME

指定された LS 名は、CS/AIX システムで定義した LS の名前ではありません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

ルーティングの削除 (_R)

ルーティングの削除 (_R) コマンドは、ルーティングのデフラグ コマンドを使用して以前に定義されたリンク・ステーションへのパートナー LU の関連付けを削除します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_ls_routing]			
lu_name	character	8	
fq_partner_lu	character	17	
wildcard_fqplu	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

パートナー LU (*fq_partner_lu* パラメーターで指定) と通信するローカル LU の名前。1 から 8 文字のローカルで表示可能な文字を指定します。

fq_partner_lu

ローカル LU の LS 経路指定データから削除するパートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のローカルで表示可能な文字を指定します。

ワイルドカード・エントリーを削除するには、エントリーを定義するために使用したのと同じワイルドカード LU 名を指定します。ワイルドカードを使用して、明示的に定義されている複数のエントリーを削除することはできません。

wildcard_fqplu

fq_partner_lu パラメーターにワイルドカードの全体または一部が含まれているかどうかを示すワイルドカード・パートナー LU フラグ。このフラグを使用して、ワイルドカード・エントリーを削除します。ワイルドカードを使用して、明示的に定義されている複数のエントリーを削除することはできません。可能な値は次のいずれかです。

YES

fq_partner_lu パラメーターには、ワイルドカード・エントリーが含まれています。

NO

fq_partner_lu パラメーターには、ワイルドカード・エントリーが含まれていません。

戻りパラメーター

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

primary_rc

OK

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LOCAL_LU

lu_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_PARTNER_LU

fq_partner_lu パラメーターに無効な文字が含まれています。

INVALID_WILDCARD_NAME

wildcard_fqplu パラメーターは YES に設定されていますが、*fq_partner_lu* パラメーターが有効なワイルドカード名ではありません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LOCAL_LU

lu_name パラメーターが、既存の LS 経路指定レコードと一致しません。

INVALID_PARTNER_LU

fq_partner_lu パラメーターが、指定されているローカル LU の既存の LS 経路指定レコードと一致しません。

INVALID_WILDCARD_NAME

wildcard_fqplu パラメーターは YES に設定されていますが、一致するエントリーが見つかりません。

INVALID_RESOURCE_NAME

指定されたパラメーターと一致する LS 経路指定エントリーが見つかりません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_lu_0_to_3

`delete_lu_0_to_3` コマンドは、3270 エミュレーションや LUA (タイプ 0、1、2、または 3 の LU) に対して使用されている LU を削除するときに使用します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_lu_0_to_3] <i>lu_name</i>	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

削除するローカル LU の名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
INVALID_LU_NAME
指定された LU 名に無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
INVALID_LU_NAME
指定された LU 名は、CS/AIX ノードで定義した LU 名ではありません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_lu_0_to_3_range

delete_lu_0_to_3_range コマンドは、3270 エミュレーションまたは LUA (タイプ 0、1、2、または 3 の LU) に対して使用されている一定範囲の LU を削除するときに使用します。

パラメーターで、LU のベース・ネームと NAU (ネットワーク・アドレス可能装置) アドレスの 範囲を指定します。この LU ベース・ネームおよび NAU アドレスの組み合わせから、削除する LU の範囲を決定します。例えば、ベース・ネームが LUNME で、NAU の範囲が 11 から 14 という 指定を組み合わせると、LUNME011、LUNME012、LUNME013、および LUNME014 という LU が削除されます。

指定した範囲の名前を持つすべての LU が削除されます。範囲内の名前が 1 つ以上存在しない場合でも、CS/AIX はエラーを戻しません。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_lu_0_to_3_range]			
base_name	character	6	
name_attributes	constant		NONE
base_number	decimal		0
min_nau	decimal		1
max_nau	decimal		1

指定パラメーターは、以下のとおりです。

base_name

LU 名のベース・ネーム。この名前は、文字から始まる 1 から 5 文字のタイプ A の文字ストリングです。(ただし、define_lu_0_to_3_range コマンドの name_attributes パラメーターに USE_HEX_IN_NAME を指定した場合、ベース・ネームの長さは 6 文字となります。) CS/AIX は、この名前に 3 桁の 10 進値からなるそれぞれの NAU アドレスを付加することにより、削除する LU の名前を判別します。

name_attributes

削除する LU 名の属性を指定します。

可能な値は次のいずれかです。

NONE

LU 名の番号は、NAU 番号に対応しています。この番号は 10 進数で指定され、*base_name* パラメーターには 5 文字のみ含めることができます。

USE_BASE_NUMBER

base_number パラメーターで指定されている値から範囲内の LU を削除します。

USE_HEX_IN_NAME

10 進数ではなく 16 進数の LU 名を使用できるように拡張します。この値を指定した場合は、*base_name* パラメーターに 6 文字まで指定できます。

base_number

name_attributes パラメーターに **USE_BASE_NUMBER** が指定されている場合は、削除する範囲内の最初の LU 番号を指定します。この値は、*min_nau* パラメーター値の代わりに使用されます。

min_nau

1 から 255 の範囲内の、最初の LU の NAU アドレス。

max_nau

1 から 255 の範囲内の、最後の LU の NAU アドレス。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_NAU_ADDRESS

min_nau または *max_nau* パラメーターに指定されている値は無効です。

INVALID_LU_NAME

base_name パラメーターに無効な文字が含まれています。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

INVALID_LU_NAME

指定した範囲の名前を持つ LU が定義されていません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_lu_lu_password

delete_lu_lu_password コマンドは、ローカル LU に関連付けられている LU-LU パスワードを削除します。LU-LU パスワードは、ローカル LU を削除すると自動的に削除されます。このコマンドは、パスワードは削除するが、LU の構成はそのままにする必要がある場合にのみ使用します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_lu_lu_password]			
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
fqplu_name	character	17	

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU 名ではなく LU 別名によって LU が定義されていることを示す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

lu_alias

ローカル LU の LU 別名。この別名は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。このパラメーターは、*lu_name* を指定しない場合にのみ使用します。

CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU を示す場合は、*lu_name* または *lu_alias* のいずれも指定しないでください。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PLU_NAME

fqplu_name パラメーター値が無効です。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーター値が無効です。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_lu_pool

delete_lu_pool コマンドは、以下を行う場合に使用します。

- 1 つ以上の LU をプールから除去する。
- すべての LU をプールから除去し、プールを削除する。

このコマンドは、プールから除去された LU は削除しません。これらの LU の定義はまだ残っていますが、プールには関連付けられていません。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_lu_pool] pool_name	character	8	
lu_name	character	8	

(lu_name パラメーターは、10 個まで指定可能です。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

pool_name

削除する LU プールの名前または LU を除去する LU プールの名前。この名前は、8 バイトのタイプ A の文字ストリングです。

lu_name

プールを削除しないでプールから 1 つ以上の LU を除去する場合は、除去する LU 名を指定します。各名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

すべての LU をプールから除去してプールを削除する場合は、LU 名を指定しないでください。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_POOL_NAME

指定されているプール名が無効です。

INVALID_LU_NAME

指定した 1 つ以上の LU 名がプール内の LU 名と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_lu62_タイムアウト

delete_lu62_タイムアウト コマンドは、前に define_lu62_timeout タイムアウト コマンドで定義された LU タイプ 6.2 セッション・タイムアウトの定義を削除します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_lu62_timeout]			
resource_type	constant		GLOBAL_TIMEOUT
resource_name	character	17	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

resource_type

削除するタイムアウトのタイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

GLOBAL_TIMEOUT

ローカル・ノードのすべての LU 6.2 セッションに適用されるタイムアウトを削除します。

LOCAL_LU_TIMEOUT

resource_name パラメーターで指定したローカル LU のすべての LU 6.2 セッションに適用されるタイムアウトを削除します。

PARTNER_LU_TIMEOUT

resource_name パラメーターで指定したパートナー LU のすべての LU 6.2 セッションに適用されるタイムアウトを削除します。

MODE_TIMEOUT

resource_name パラメーターで指定したモードのすべての LU 6.2 セッションに適用されるタイムアウトを削除します。

resource_name

削除するタイムアウトのリソース名。この値は、以下のいずれかです。

- *resource_type* が GLOBAL_TIMEOUT に設定されている場合は、このパラメーターを指定しない。
- *resource_type* が LOCAL_LU_TIMEOUT に設定されている場合は、ローカル LU 名として 1 から 8 文字のタイプ A の文字ストリングを指定する。
- *resource_type* が PARTNER_LU_TIMEOUT に設定されている場合は、パートナー LU の完全修飾名を指定する。この名前には、1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。
- *resource_type* が MODE_TIMEOUT に設定されている場合は、モード名として 1 から 8 文字のタイプ A の文字ストリングを指定する。

戻りパラメーター

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

primary_rc

OK

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_RESOURCE_TYPE
resource_type パラメーターで指定した値は無効です。

INVALID_LU_NAME
resource_name パラメーターで指定した LU 名は無効です。

INVALID_PARTNER_LU
resource_name パラメーターで指定したパートナー LU 名は無効です。

INVALID_MODE_NAME
resource_name パラメーターで指定したモード名は無効です。

GLOBAL_TIMEOUT_NOT_DEFINED
resource_type パラメーターに対して値 GLOBAL_TIMEOUT を指定しましたが、定義済みのグローバル・タイムアウトがありません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_mode

delete_mode コマンドは、モードの定義を削除します。SNASVCMG や CPSVCMG などの SNA 定義モードは削除できません。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_mode] mode_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

mode_name
削除する定義のモード名。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

CP_OR_SNA_SVCMG_UNDELETABLE

指定したモード名は、SNA 定義のモード名の 1 つであるため削除できません。

MODE_NAME_NOT_DEFD

指定したモード名は、CS/AIX システムで定義されているモード名ではありません。

DEL_MODE_DEFAULT_SPCD

指定したモードは、define_defaults コマンドを使用してデフォルト・モードとして定義されているため、削除できません。

MODE_UNDELETABLE

指定したモード名は、SNA 定義のモード名の 1 つであるため削除できません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_partner_lu

delete_partner_lu コマンドは、パートナー LU 定義を削除します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_partner_lu] fqplu_name	character	17

指定パラメーターは、以下のとおりです。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_PLU_NAME

指定されている *fqplu_name* パラメーターは、定義済みのパートナー LU 名と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_port

delete_port コマンドはポートを削除します。このコマンドでは、以下も削除します。

- ポートに関連付けられているすべてのリンク・ステーションおよび接続ネットワーク TG
- ポート上のリンク・ステーションに関連付けられているすべての PU およびこれらの PU が所有するすべての LU

コマンドを発行する場合、ポートは非アクティブな状態でなくてはなりません。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_port] port_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

port_name
削除するポートの名前。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc**INVALID_PORT_NAME**

指定したポート名は、CS/AIX システムで定義されているポート名ではありません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc**PORT_ACTIVE**

指定したポートは、現在活動状態であるため変更できません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_rcf_access

delete_rcf_access コマンドは、以前に define_rcf_access コマンドを使用して指定した CS/AIX Remote Command Facility (RCF) へのアクセス権限を削除します。RCF について詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 管理ガイド*」を参照してください。このコマンドは、SPCF と UCF の両方へのアクセス権限を取り消します。一方へのアクセスを許可して他方へのアクセスを禁止する場合は、define_rcf_access を使用します。

RCF アクセス・パラメーターはドメイン・リソースとして定義されているため、このコマンドは特定のノードに関連付けられていません。

CS/AIX は、ノード起動時の RCF アクセス・パラメーターで動作します。このため、ノードを実行しているときに RCF アクセス権限を削除しても、ノードが実行されているサーバー上では、ノードを停止して再起動するまでこの変更は有効になりません。

指定パラメーター

```
[delete_rcf_access]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_security_access_list

delete_security_access_list コマンドは、以下を行う場合に使用します。

- セキュリティー・アクセス・リストを削除する。
- 1 ユーザー以上をセキュリティ・アクセス・リストから削除するが、リストの構成はそのままにする。

そのユーザー名を使用してセットアップした活動状態の会話が存在するかどうかに関係なく、セキュリティ・アクセス・リストからユーザー名を削除できます。ユーザー名を削除しても、活動状態の会話には影響を与えませんが、呼び出し側プログラムは、削除したユーザー名を使用して、他の会話をセットアップすることができなくなります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_security_access_list] list_name	character	14	
{security_user_name} user_name	character	10	

指定パラメーターは、以下のとおりです。

list_name

削除するセキュリティ・アクセス・リストの名前、またはユーザー名を削除するリスト。この名前は、ローカルで表示可能な文字からなる 1 から 14 文字のストリングです。これは、以前に定義済みのセキュリティ・アクセス・リスト名と一致する必要があります。

セキュリティ・アクセス・リスト全体を削除する場合は、ユーザー名を指定しないでください。1 つ以上のユーザー名をリストから削除するが、リストの構成はそのままにする場合は、以下の情報を使用して、削除するユーザー名ごとに security_user_name サブレコードを指定します。

user_name

削除するユーザー名。この名前は、このセキュリティ・アクセス・リストに現在定義されているユーザー名と一致する必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LIST_NAME

指定したセキュリティー・アクセス・リスト名は、セキュリティー・アクセス・リスト名として定義されていません。

INVALID_USER_NAME

指定した1つ以上のユーザー名が、このセキュリティー・アクセス・リストに定義されているユーザー名と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の1次戻りコードと2次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_tn3270_access

delete_tn3270_access コマンドは、以下を行う場合に使用します。

- TN3270 クライアントを削除して、このユーザーが TN サーバーを使用してホストにアクセスできないようにする。
- 1つ以上のクライアント・セッションは削除するが、ユーザーの構成はそのままにする。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_tn3270_access]			
default_record	constant		NO
client_address	character	256	(null string)
delete_options	constant		DELETE_USER
{tn3270_session_name}			
port_number	decimal		
listen_local_address	character	45	(null string)

(delete_options を指定していない場合は、1つ以上の port_number パラメーターを使用できます。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

default_record

delete_tn3270_access により、デフォルト・アクセス・レコードを削除するかどうかを指定します。デフォルト・アクセス・レコードは、TCP/IP アドレスが特定の TN3270 アクセス・レコードと一致しないクライアントで使用されます。デフォルト・アクセス・レコードを削除すると、このようなクライアントは TN サーバーにアクセスできなくなります。可能な値は次のいずれかです。

YES

このコマンドは、デフォルトの TN3270 アクセス・レコードを参照します。client_address パラメーターは使用しません。

NO

このコマンドは、client_address パラメーターで指定した特定の TN3270 アクセス・レコードを参照します。

client_address

define_tn3270_access コマンドでの指定と同様に、削除するクライアントの TCP/IP アドレス。指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)

- 別名 (例えば、newbox)

delete_options

1 つ以上のセッションを削除するが、すべてのセッションは削除しない場合は、このパラメーターを指定しないでください。 *port_number* パラメーターを使用して、削除するセッションを指定します。すべてのセッションを削除する場合は、以下のいずれかの値を指定します。

ALL_SESSIONS

すべてのセッションを削除しますが、TN3270 クライアントの構成はそのままにします。

DELETE_USER

このクライアントおよびすべてのクライアント・セッションを削除します。

各 tn3270_session_name サブレコードには、以下のパラメーターが含まれています。

port_number

セッションで使用する TCP/IP ポート番号。 *delete_options* パラメーターを指定しない場合は、このパラメーターを使用して、削除するセッションを指定します。

listen_local_address

TN3270 クライアントの接続先であるローカル TN サーバー・コンピューター上のアドレス。このパラメーターはオプションです。

- セッションを構成するときにこのパラメーターを指定しなかった場合は、このコマンドでこのパラメーターを指定しないでください。
- セッションを構成するときにアドレスを指定した場合は、このコマンドで同じアドレスを指定します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_CLIENT_ADDRESS

client_address パラメーターで指定したクライアント・アドレスが、TN3270 ユーザー に対して定義した TCP/IP アドレスと一致しません。

INVALID_PORT_NUMBER

port_number パラメーターで指定した TCP/IP ポート番号が、このユーザー に対して定義した TCP/IP ポート番号と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_tn3270_association

delete_tn3270_association コマンドは、ディスプレイ LU 名を指定して、そのディスプレイ LU とプリンター LU の間の関連を削除します。

指定パラメーター

Parameter	Type	Length
[delete_tn3270_association] display_lu_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

display_lu_name

削除する関連を持つディスプレイ LU の名前。この名前は、1 から 8 文字の文字ストリングです。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_LU_NAME

display_lu_name パラメーターに対して指定した値が、有効なタイプ A のストリングではありません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

INVALID_LU_NAME

指定したディスプレイ LU に対して関連が定義されていません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_tn_redirect

delete_tn_redirect コマンドは、TN Redirector 機能を使用する Telnet クライアントを削除する場合に使用します。これにより、ユーザーは、ホストにアクセスする場合に TN Redirector を使用できなくなります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_tn_redirect]			
default_record	constant		NO
client_address	character	256	(null string)
client_port	decimal		
listen_local_address	character	45	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

default_record

delete_tn_redirect により、デフォルト・アクセス・レコードを削除するかどうかを指定します。デフォルト・アクセス・レコードは、TCP/IP アドレスが特定の TN Redirector のアクセス・レコードと一致しないクライアントで使用されます。可能な値は次のいずれかです。

YES

このコマンドは、デフォルトの TN Redirector のアクセス・レコードを参照します。client_address パラメーターは使用しません。

NO

このコマンドは、client_address パラメーターで指定した特定の TN Redirector のアクセス・レコードを参照します。

client_address

削除するクライアントの TCP/IP アドレス。指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

名前または別名を使用する場合は、AIX システムが、(ローカル TCP/IP 構成またはドメイン・ネーム・サーバーを使用して) 名前または別名を完全修飾名に解決する必要があります。

client_port

クライアントが使用する TCP/IP ポート番号。

listen_local_address

TN3270 クライアントの接続先であるローカル TN サーバー・コンピューター上のアドレス。このパラメーターはオプションです。

- リダイレクト・レコードを構成するときにこのパラメーターを指定しなかった場合は、このコマンドでこのパラメーターを指定しないでください。
- リダイレクト・レコードを構成するときにアドレスを指定した場合は、このコマンドで同じアドレスを指定します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
INVALID_CLIENT_ADDRESS

指定したアドレッシング情報が、定義済みの TN Redirector ユーザーと一致しませんでした。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_tp

delete_tp コマンドは、TP 定義を削除します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[delete_tp] tp_name	character	64

指定パラメーターは、以下のとおりです。

tp_name
削除する TP の名前。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_TP_NAME
tp_name パラメーターが、定義済みの TP の名前と一致しません。

SYSTEM_TP_CANT_BE_DELETED
指定した TP 名は、CS/AIX によって内部的に使用されている TP 名であるため、削除できません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_tp_load_info

delete_tp_load_info コマンドは、TP ロード情報エントリーを削除する場合に使用します。 *tp_name* パラメーターと *lualias* パラメーターの両方とも必須です。特定の TP のすべてのエントリーを削除する場合、アプリケーションは、最初にその TP に対して *query_tp_load_info* コマンドを呼び出してから、個々の LU 別名のエントリーを 1 つずつ削除する必要があります。 .

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_tp_load_info]			
tp_name	character	64	
lualias	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

tp_name

削除する TP ロード情報エントリーの TP 名。この名前は、64 バイトのストリングです。

lualias

削除する TP ロード情報エントリーの LU 別名。この別名は、8 バイトのストリングです。

このパラメーターは、TP が APPC アプリケーションである場合にのみ使用できます。TP が CPI-C アプリケーションである場合は指定しないでください。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_TP_NAME

tp_name パラメーターに指定した名前が、定義済みの TP ロード情報エントリーの TP 名と一致しません。

INVALID_LU_ALIAS

lualias パラメーターに指定した別名が、指定した TP 名の TP ロード情報エントリーに対して定義した LU 別名と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

delete_userid_password

delete_userid_password コマンドは、ユーザー ID に関連付けられているパスワードを削除したり、ユーザー ID とパスワードのプロファイルを削除します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[delete_userid_password]			
delete_type	constant		REMOVE_USER
user_id	character	10	
profile	character	10	(null string)

(ユーザーを削除しないでプロファイルを削除する場合は、*profile* パラメーター を 10 個まで指定できます。)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

delete_type

削除する情報のタイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

REMOVE_USER

ユーザー、パスワード、およびすべての関連プロファイルを削除します。

REMOVE_PROFILES

指定したプロファイルのみ削除します。

user_id

ユーザー ID。この ID は、タイプ AE の文字ストリングです。

プロファイル

ユーザーに関連付けられているプロファイル。各プロファイルは、タイプ AE の文字ストリングです。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

NO_PROFILES

delete_type パラメーターが REMOVE_PROFILES に設定されていますが、プロファイルが指定されていません。

UNKNOWN_USER

user_id パラメーターが、定義済みのユーザー ID と一致しません。

INVALID_UPDATE_TYPE

`delete_type` パラメーターが、無効な値に設定されています。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

init_node

`init_node` コマンドはローカル・ノードを開始します。このコマンドは、ノードが実行されていないサーバーに対して発行する必要があります。CS/AIX ソフトウェアは、ノードがあるコンピューター上で開始する必要があります。

指定パラメーター

```
[init_node]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_NODE_NAME

構成ファイルで指定したノード名が、コマンドの発行対象である CS/AIX コンピューターの名前と一致しません。

NOT_SERVER

構成ファイルで指定したノード名は CS/AIX コンピューターの名前と一致しますが、指定したコンピューターは (サーバーではなく) クライアントであるため、ノードを実行できません。

DLUR_NOT_SUPPORTED

ノードの構成では DLUR をサポートすると指定していますが、ノードは LEN ノードとして定義されています。DLUR は、LEN ノードではサポートされていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

NODE_ALREADY_STARTED

構成ファイルで指定したノード名は、すでに開始されています。

RESOURCE_NOT_LOADED

構成をロードするときに、CS/AIX によって 1 つ以上のエラーが検出されたため、ノードは開始されませんでした。エラーに関する詳細は、エラー・ログ・ファイルを確認してください。

INVALID_VERSION

CS/AIX ソフトウェアのコンポーネント間にバージョンのミスマッチが存在するため、ノードは開始されませんでした。CS/AIX ライセンスをアップグレードして機能やユーザーを追加した場合は、ライセンスを交付されたソフトウェアの正しいバージョンを使用していることを確認してください。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

initialize_session_limit

initialize_session_limit コマンドは、ローカル LU、パートナー LU、およびモードの組み合わせに対応するセッション限度を初期化します。このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

このコマンドは、activate_session コマンドを実行する前に発行する必要があります。

このコマンドはクライアントから発行できます。このコマンドを AIX または Linux クライアントから発行する場合は、ユーザー ID root か、あるいは sys グループ (AIX) または sna グループ (Linux) のメンバーであるユーザー ID を使用してコマンドを実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[initialize_session_limit]			
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
plu_alias	character	8	(null string)
fqplu_name	character	17	(null string)
mode_name	character		8
set_negotiable	constant		NO
plu_mode_session_limit	decimal	decimal	
min_conwinners_source	decimal		0
min_conwinners_target	decimal		0
auto_act	decimal		0

指定パラメーターは、以下のとおりです。

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU 名ではなく LU 別名によって LU が定義されていることを示す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

lu_alias

ローカル LU の LU 別名。この別名は、ローカルの表示可能文字を使用する文字ストリングです。このパラメーターは、lu_name を指定しない場合にのみ使用します。

lu_name および lu_alias が指定されていない場合、このコマンドは、CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU に転送されます。

plu_alias

パートナー LU の LU 別名。この別名は、ローカルの表示可能文字を使用する文字ストリングです。LU 別名ではなく完全修飾 LU 名によってパートナー LU が定義されることを指示する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

このパラメーターは、*plu_alias* パラメーターが指定されていない場合にのみ使用します。*plu_alias* が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。

mode_name

LU が使用するモードの名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

set_negotiable

define_mode で定義されているように、このモードに対して折衝可能な最大セッション限度を変更する必要があるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

この LU-LU モードの組み合わせに対して折衝可能な最大セッション限度として、*plu_mode_session_limit* で指定した値を使用します。

NO

折衝可能な最大セッション限度を、このモードに対して指定した値のままにします。

plu_mode_session_limit

LU-LU モードの組み合わせに対して要求されたセッション限度の合計。このモードを使用する 2 つの LU 間で許可された並列セッションの最大数です。この値は、パートナー LU と折衝されます。1 から 32,767 の範囲で値を指定します (この値は、*define_local_lu* コマンドでローカル LU に対して指定したセッション限度を超えてはいけません)。

min_conwinners_source

ローカル LU が競合勝者であるこのモードを使用するセッションの最小数。*min_conwinners_source* と *min_conwinners_target* パラメーターの合計は、*plu_mode_session_limit* パラメーターを超えてはいけません。0 から 32,767 の範囲内で値を指定します。

min_conwinners_target

パートナー LU が競合勝者であるこのモードを使用するセッションの最小数。*min_conwinners_source* と *min_conwinners_target* パラメーターの合計は、*plu_mode_session_limit* パラメーターを超えてはいけません。0 から 32,767 の範囲内で値を指定します。

auto_act

LU-LU モードの組み合わせに対するセッション限度が折衝された後、自動的に活動化される競合勝者セッションの数。限度を折衝した結果、このパラメーターで指定した値よりも少ない競合勝者セッション数になる場合は、活動化されたセッションの実際数は、*auto_act* パラメーターの値よりも少なくなります。0 から 32,767 の範囲で値を指定します (この値は、*plu_mode_session_limit* パラメーター、または *define_local_lu* コマンドでローカル LU に対して指定したセッション限度を超えてはいけません)。

戻りパラメーター

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

primary_rc

OK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

AS_NEGOTIATED

セッション限度が初期化されましたが、パートナー LU によって 1 つ以上の値が折衝されました。

AS_SPECIFIED

セッション限度は、パートナー LU で折衝されなくて、要求どおりに初期化されました。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

EXCEEDS_MAX_ALLOWED

plu_mode_session_limit、*min_conwinners_source*、*min_conwinners_target*、または *auto_act* パラメーターが、有効範囲外の値に設定されています。

CANT_CHANGE_TO_ZERO

plu_mode_session_limit パラメーターは、このコマンドを使用して 0 (ゼロ) に設定することはできません。代わりに *reset_session_limit* コマンドを使用してください。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーターが、定義済みのローカル LU 別名と一致しません。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーターが、定義済みのローカル LU 名と一致しません。

INVALID_MODE_NAME

mode_name パラメーターが、定義済みのモード名と一致しません。

INVALID_PLU_NAME

fqplu_name パラメーターが、定義済みのパートナー LU 名と一致しません。

INVALID_SET_NEGOTIABLE

set_negotiable パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態チェック

状態エラーが原因でコマンドが実行されない場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
状態検査

secondary_rc

MODE_NOT_RESET

この LU - LU モードの組み合わせでは、現在 1 つ以上のセッションがアクティブになっています。初期セッション限度の代わりに変更セッション限度を指定すると、制限が指定の使用

その他の状態

primary_rc

ALLOCATION_ERROR

CS/AIX は限度を折衝するためにセッションをパートナー LU に割り振ることができなかったため、セッション限度を初期化できませんでした。エラー・ログ・ファイルをチェックしてこの障害の原因を示すメッセージを確認し、必要な処理を行ってください。

secondary_rc

ALLOCATION_FAILURE_NO_RETRY

CS/AIX は限度を折衝するためにセッションをパートナー LU に割り振ることができなかったため、セッション限度を初期化できませんでした。エラー・ログ・ファイルでこの障害の原因を示すメッ

path_switch

セージを確認し、必要な処置を取ってください。正しい状態に戻るまで、コマンドを再試行しないでください。

primary_rc

CONV_FAILURE_NO_RETRY

処理が必要な状態のため (構成のミスマッチやセッション・プロトコル・エラーなど)、セッション限度は初期化されませんでした。CS/AIX ログ・ファイルでエラー状態に関する情報を確認し、訂正を行ってからコマンドを再試行します。

primary_rc

CNOS_PARTNER_LU_REJECT

ノードはパートナー LU と限度について正常に折衝することができなかったため、セッション限度を初期化できませんでした。ローカル LU とパートナー LU の構成をチェックしてください。

secondary_rc

CNOS_COMMAND_RACE_REJECT

セッションの活動化や非活動化、またはセッション限度の処理を行うために別の管理プログラムが (または CS/AIX ソフトウェアによって内部的に) 指定したモードにアクセスしているため、コマンドが失敗しました。コマンドを再試行してください。

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

path_switch

path_switch コマンドは、現在活動状態である高速トランスポート・プロトコル (RTP) 接続を別のパスに切り替えるよう CS/AIX に要求します。CS/AIX は、適切なパスを検出できない場合には、接続をそのままの状態にして変更しません。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[path_switch] rtp_connection_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

rtp_connection_name

パスの変更を要求した RTP 接続。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc**INVALID_RTP_CONNECTION_NAME_SPECIFIED**

`rtp_connection_name` パラメーターに対して指定した値が、既存の RTP 接続の名前と一致しません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc**PATH_SWITCH_IN_PROGRESS**

CS/AIX は、`rtp_connection_name` パラメーターで指定した RTP 接続のパスを現在変更しています。

使用不可にされたパス・スイッチ

RTP パートナー・ノードがパス・スイッチ・タイマーをゼロに設定してパス・スイッチを使用不可に設定したため、コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PATH_SWITCH_DISABLED

secondary_rc

(2 次戻りコードは戻されません。)

パス・スイッチの失敗

パス・スイッチの試行が失敗したためコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

UNSUCCESSFUL

secondary_rc

(2 次戻りコードは戻されません。)

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc**FUNCTION_NOT_SUPPORTED**

このノードは、High Performance Routing (HPR) をサポートするよう定義されていません。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_active_transaction

`query_active_transaction` コマンドは、CS/AIX 管理サービス・コンポーネントが認識しているアクティブなマルチドメイン・サポート (MDS) トランザクションに関する情報を戻します。アクティブ・トランザクションとは、応答をまだ受信していない MDS 要求のことです。

query_active_transaction

このコマンドは、使用するオプションに応じて、単一トランザクションまたは複数トランザクションに関する情報を取得する場合に使用します。このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_active_transaction]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
fq_req_loc_cp_name	character	17	(null string)
req_agent_appl_name	character	8	(null string)
seq_num_dt	hex array	17	(null array)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻すトランザクションの最大数。特定のトランザクションのデータを戻すには 1、複数のトランザクションのデータを戻すには 1 より大きい数値、すべてのトランザクションのデータを戻すには 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のトランザクション・リスト内の開始位置。リストは、最初に *fq_req_loc_cp_name* 順、次に *req_agent_appl_name* 順、最後に *seq_num_dt* の数値順に並んでいます。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

fq_req_loc_cp_name、*req_agent_appl_name*、および *seq_num_dt* パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

fq_req_loc_cp_name、*req_agent_appl_name*、および *seq_num_dt* パラメーターで指定したエントリーのすぐ後のエントリーから開始します。

fq_req_loc_cp_name

トランザクション・リクエスターの制御点の完全修飾名。 *list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の制御点の名前で構成されています。

req_agent_appl_name

トランザクション・リクエスターのアプリケーション名。 *list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

この名前は、通常はタイプ 1134 の文字ストリング (大文字の A から Z と 数字の 0 から 9) ですが、代わりに「*Systems Network Architecture: Management Services*」で指定されている MS Discipline-Specific Application Program のいずれかにすることもできます。

seq_num_dt

元のトランザクションのシーケンス番号の日付/時刻相互関係子 (長さ 17 バイト)。「*Systems Network Architecture: Formats*」で定義されています。 *list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
fq_origin_cp_name	character	17
origin_ms_appl_name	character	8
fq_dest_cp_name	character	17
dest_ms_appl_name	character	8
fq_req_loc_cp_name	character	17

req_agent_appl_name	character	8
seq_num_dt	hex array	17

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

fq_origin_cp_name

トランザクションを初期化する CP の制御点の完全修飾名。

origin_ms_appl_name

トランザクションが生成されるアプリケーションの名前。この名前は、通常、タイプ 1134 の文字ストリングです。または、「*Systems Network Architecture: Management Services*」で指定された『MS Discipline-Specific Application Program』の 1 つである場合もあります。

fq_dest_cp_name

トランザクション宛先の制御点の完全修飾名。

dest_ms_appl_name

トランザクションの宛先アプリケーションのアプリケーション名。この名前は、通常、タイプ 1134 の文字ストリングです。または、「*Systems Network Architecture: Management Services*」で指定された『MS Discipline-Specific Application Program』の 1 つである場合もあります。

fq_req_loc_cp_name

トランザクション・リクエスターの制御点の完全修飾名。

req_agent_appl_name

トランザクション・リクエスターのアプリケーション名。この名前は、通常、タイプ 1134 の文字ストリングです。または、「*Systems Network Architecture: Management Services*」で指定された『MS Discipline-Specific Application Program』の 1 つである場合もあります。

seq_num_dt

元のトランザクションのシーケンス番号の日付/時刻相互関係子 (長さ 17 バイト)。「*Systems Network Architecture: Formats*」で定義されています。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_ACTIVE_TRANSACTION

fq_req_loc_cp_name、*req_agent_appl_name*、および *seq_num_dt* のパラメーター値が、アクティブ・トランザクションに対して指定したパラメーター値と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc**FUNCTION_NOT_SUPPORTED**

ローカル・ノードは、MS ネットワーク管理機能をサポートしていません。このサポートは、`define_node` コマンドの `mds_supported` パラメーターで定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_adjacent_nn

`query_adjacent_nn` コマンドは、隣接ネットワーク・ノード (CP-CP セッションが活動状態であるか、またはある時点で活動状態であったネットワーク・ノード) に関する情報を戻します。CS/AIX ノードがネットワーク・ノード (NN) である場合のみ使用可能であり、このノードがエンド・ノード (EN) またはローエントリー・ネットワークング (LEN) ノードである場合は無効です。

このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の隣接ネットワーク・ノードまたは複数の隣接ネットワーク・ノードに関する情報を取得する場合に使用します。このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[<code>query_adjacent_nn</code>]			
<code>num_entries</code>	decimal		1
<code>list_options</code>	constant		LIST_INCLUSIVE
<code>adj_nncp_name</code>	character	17	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す隣接 NN の最大数。特定の隣接 NN のデータを戻すには 1、複数の隣接 NN のデータを戻すには 1 より大きい数値、すべての隣接 NN のデータを戻すには 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の隣接 NN リスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエンタリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

`adj_nncp_name` パラメーターで指定したエンタリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

`adj_nncp_name` パラメーターで指定したエンタリーの直後のエンタリーから開始します。

adj_nncp_name

情報が必要な隣接 NN の完全修飾名、または隣接 NN リストのインデックスとして使用される名前。`list_options` が `FIRST_IN_LIST` に設定されている場合、この値は無視されます。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の隣接 NN 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
<code>adj_nncp_name</code>	character	17
<code>cp_cp_sess_status</code>	constant	
<code>out_of_seq_tdus</code>	decimal	

last_frsn_sent	decimal
last_frsn_rcvd	decimal

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

adj_nncp_name

隣接 NN の完全修飾名。

cp_cp_sess_status

隣接 NN に対する CP-CP セッションのステータス。可能な値は次のいずれかです。

ACTIVE

セッションは活動状態です。

CONWINNER_ACTIVE

セッション (競合勝者セッション) は活動状態です。

CONLOSER_ACTIVE

セッション (競合敗者セッション) は活動状態です。

INACTIVE

セッションは活動状態ではありません。

out_of_seq_t dus

このノードから受信される順不同 TDU の数。

last_frsn_sent

このノードに送信される最終フロー縮小シーケンス番号 (FRSN)。

last_frsn_rcvd

このノードから受信される最終フロー縮小シーケンス番号 (FRSN)。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_ADJ_NNCP_NAME

指定された名前ではまるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*adj_nncp_name* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ローカル・ノードがエンド・ノードまたは LEN ノードです。このコマンドは、ネットワーク・ノードに対してのみ有効です。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_available_tp

query_available_tp コマンドは、活動状態で呼び出し可能なトランザクション・プログラム (TP) に関する情報を戻します。活動状態で呼び出し可能な TP は、RECEIVE_ALLOCATE verb を発行する APPC アプリケーションか、または Accept_Conversation 呼び出しや Accept_Incoming 呼び出しを発行する CPI-C アプリケーションです。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の TP または複数の TP に関する情報を取得する場合に使用します。これは、着信会話を受け入れるための APPC の verb または未解決の CPI-C 呼び出しが TP に含まれているかどうかに関係なく、実行中のすべての活動状態で呼び出し可能な TP に関する情報を戻します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_available_tp]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
tp_name	character	64	(null string)
system_name	character	128	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す TP の最大数。特定の TP のデータを戻すには 1、複数の TP のデータを戻すには 1 より大きい数値、すべての TP のデータを戻すには 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の TP のリスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

tp_name パラメーターと system_name パラメーターの組み合わせで指定した エントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

tp_name パラメーターと system_name パラメーター を組み合わせで指定したエントリーの直後のエントリー から開始します。

tp_name

情報が必要な TP の名前。この名前は、64 バイトのストリングです。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。

system_name

TP 情報が必要なコンピューターの名前。システム名は、1 から 64 文字のローカルで表示可能な文字のストリングです。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。

コンピューター名に . (ピリオド) の文字が含まれている場合、CS/AIX は、これが完全修飾名であると想定します。含まれていない場合は、DNS ルックアップを実行してコンピューター名を判別します。

CS/AIX がスタンドアロンである場合は、system_name パラメーターを指定する必要はありません。クライアント/サーバー・システムで、指定したコンピューター上の TP のみをリストする場合は、システ

ム名を指定します。このパラメーターを指定しない場合、CS/AIX はすべてのコンピューター上の TP をリストします。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
tp_name	character	64
system_name	character	128

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

tp_name

TP 名。

system_name

TP が実行されているコンピューターの名前。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

UNKNOWN_TP

指定した名前以降のすべてのエントリーをリストするため *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*tp_name* パラメーター値が無効か、または指定された *system_name* パラメーターが無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_buffer_可用性

query_buffer_可用性 コマンドは、CS/AIX が現在使用している STREAMS バッファー・スペースの量、それが使用した最大量、および使用可能な最大量 (*set_buffer_アベイラビリティ* コマンドを使用して指定された) の最大量に関する情報を戻します。この情報により、STREAMS バッファーの使用状況を確認し、CS/AIX コンポーネント用に十分なバッファー・スペースが使用可能になり、AIX コンピューター上の他のプログラム用に十分なバッファー・スペースが確保されるように、制限を適切に設定するこのコマンドは、CS/AIX サポート担当者が使用するためのバッファー使用に関連した追加の内部値も戻します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_buffer_availability] reset_max_values	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

reset_max_values

(このコマンドで値が戻された後) CS/AIX で *max_** 値をリセットし、これらのパラメーターの現行値と一致させるかどうかを指定します。このパラメーターを指定すると、その後に `query_buffer_availability` コマンドを実行した場合、システムが起動された後 (または *max_** 値が最後にリセットされた後) に達した最大値ではなく、このコマンドが実行された後に達した最大値を戻します。可能な値は次のいずれかです。

YES

現在の値と一致するように、*max_** 値をリセットします。

NO

*max_** 値をリセットしません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
buf_avail	decimal	
buf_total_count	decimal	
buf_total_bytes	decimal	
buf_rsrv_count	decimal	
buf_rsrv_bytes	decimal	
buf_res_use_count	decimal	
buf_res_use_bytes	decimal	
peak_usage	decimal	
peak_decay	decimal	
throttle_status	decimal	
buf_use_status	constant	
max_buf_total_count	decimal	
max_buf_total_bytes	decimal	
max_buf_rsrv_count	decimal	
max_buf_rsrv_bytes	decimal	
max_buf_res_use_count	decimal	
max_buf_res_use_bytes	decimal	
max_peak_usage	decimal	
max_throttle_status	decimal	
max_buf_use_status	constant	
debug_param	character	32

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

buf_avail

CS/AIX で使用可能な STREAMS バッファー・スペースの最大量 (バイト単位)。
`set_buffer_availability` コマンドで定義されています。

buf_total_count

現在 CS/AIX コンポーネントに割り振られているバッファーの総数。

buf_total_bytes

現在 CS/AIX コンポーネントに割り振られているバッファー・ストレージの総量 (バイト単位)。

buf_rsrv_count

予約済みバッファーの総数。

buf_rsrv_bytes

予約済みバッファーのストレージの総量 (バイト単位)。

buf_res_use_count

使用中の予約済みバッファーの数。

buf_res_use_bytes

現在使用中の予約済みバッファーのバイト数。

peak_usage

バッファ使用量のピーク – 実際に使用されているバッファの平滑化されたパーセンテージ。

peak_decay

平滑化パラメーター。

throttle_status

適応ペーシング・ステータス。

buf_use_status

輻輳ステータス。可能な値は次のいずれかです。

- CONGESTED
- UNCONGESTED

max_buf_total_count

CS/AIX コンポーネントに常に割り振られているバッファの最大数。

max_buf_total_bytes

CS/AIX コンポーネントに常に割り振られているバッファ・ストレージの最大量。

max_buf_rsrv_count

予約可能なバッファの最大数。

max_buf_rsrv_bytes

予約可能なバッファ・ストレージの最大量 (バイト単位)。

max_buf_res_use_count

使用可能な予約済みバッファの最大数。

max_buf_res_use_bytes

常に使用可能な予約済みバッファの最大バイト数。

max_peak_usage

バッファ使用量の最大ピーク – 実際に使用されているバッファの平滑化されたパーセンテージ。

max_throttle_status

適応ペーシング・ステータスの最大値。

max_buf_use_status

輻輳ステータスの最大値。可能な値は次のいずれかです。

- CONGESTED
- UNCONGESTED

debug_param

このパラメーターは、CS/AIX のサポート担当者が使用します。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_central_ロガー

query_central_ロガー コマンドは、中央ロガーとして現在定義されているノードの名前を戻します。中央ロガーは、すべてのサーバーからの CS/AIX ログ・メッセージが送信される中央ログ・ファイルを保持しているノードです。このコマンドは、中央ロギングがアクティブであるかどうかに関する情報を戻しません。query_central_logging を使用してこれを判別してください

このコマンドは、ノード名を指定しないで発行する必要があります

指定パラメーター

```
[query_central_logger]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
node_name	character	128

コマンドが正常に発行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

node_name

中央ロガーとして定義されているノードの名前。このノードに対して query_central_logging を発行すると、中央ロギングが現在使用可能であるかどうかを判別できます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc

NO_CENTRAL_LOG

コントローラー・サーバーは現在アクティブではありません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_central_logging

query_central_logging コマンドは、CS/AIX ログ・メッセージがすべてのサーバーから中央ファイルに送信されるか、または各サーバー上の個々のファイルに送信されるかに関する情報を戻します。ログ・ファイルについての詳細は、497 ページの『set_log_file』を参照してください。

このコマンドは、ノード名を指定せずに実行する必要があります。

指定パラメーター

```
[query_central_logging]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type
enabled	constant

コマンドが正常に発行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

enabled

中央ロギングが使用可能であるか、または使用不可であることを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

中央ロギングは使用可能です。すべてのログ・メッセージは、現在の中央ロガーであるノード上の単一の中央ファイルに送信されます。

NO

中央ロギングは使用不可です。各サーバーからのログ・メッセージは、そのサーバー上のファイル (set_log_file コマンドを使用して指定される) に送信されます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

NOT_CENTRAL_LOGGER

コマンドが特定のノードに対して発行されました。このコマンドは、ノード名を指定せずに発行する必要があります。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_cn

query_cn コマンドは、隣接接続ネットワークに関する情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の接続ネットワークまたは複数の接続ネットワークに関する情報を入手するために使用できます。

このコマンドは、ネットワーク・ノードまたはエンド・ノードでのみ有効で、LEN ノードでは無効となります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_cn]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
fqcname	character	17	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す対象となる CN の最大数。特定の CN のデータを戻す場合は 1、複数の CN のデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべての CN のデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の CN リスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

fqcname パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

fqcname パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

fqcname

情報が必要な CN の完全修飾名、または CN リストの索引として使用される名前。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の CN 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
fqcname	character	17
num_act_ports	decimal	
description	character	31
num_ports	decimal	
effect_cap	decimal	
connect_cost	decimal	
byte_cost	decimal	
security	constant	
prop_delay	constant	
user_def_parm_1	decimal	
user_def_parm_2	decimal	
user_def_parm_3	decimal	
ipv6_addr_only	constant	

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

fqcname

CN の完全修飾名。

num_act_ports

接続ネットワーク上のアクティブ・ポートの数。

description

CN の定義に指定されているとおり、CN を説明するテキスト・ストリング。

num_ports

その接続ネットワーク上のポートの合計数。

effect_cap

回線速度を表す 10 進数値 (ビット/秒 (bps) 単位)。

connect_cost

接続時間あたりのコスト。

byte_cost

バイトあたりのコスト。

security

ネットワークのセキュリティー・レベル。可能な値は次のいずれかです。

SEC_NONSECURE

セキュリティーなし。

SEC_PUBLIC_SWITCHED_NETWORK

データは公衆交換網を介して伝送されます。

SEC_UNDERGROUND_CABLE

データはセキュアな地下ケーブルを介して伝送されます。

SEC_SECURE_CONDUIT

データは、保護されていないセキュア・コンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_GUARDED_CONDUIT

データは、物理的な盗聴から保護されているコンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_ENCRYPTED

データは、回線を介して伝送される前に暗号化されます。

SEC_GUARDED_RADIATION

データは、物理的な盗聴および漏えい波盗聴から保護されている回線を介して伝送されます。

prop_delay

伝搬遅延 (シグナルが接続回線を伝送されるのにかかる時間)。接続回線のタイプに応じて、以下のいずれかの値を指定します。

PROP_DELAY_MINIMUM

伝搬遅延の最小値。

PROP_DELAY_LAN

0.5 マイクロ秒未満の遅延 (LAN の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_TELEPHONE

0.5 から 50 マイクロ秒の範囲の遅延 (電話回線の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET

50 から 250 マイクロ秒の遅延 (パケット交換ネットワークの場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_SATELLITE

250 マイクロ秒より長い遅延 (衛星中継の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_MAXIMUM

伝搬遅延の最大値。

user_def_parm_1 から user_def_parm_3

上記のパラメーターによってカバーされないその他の特性を組み込むために使用できる ユーザー定義パラメーター。これらの各パラメーターの値は 0 から 255 の範囲となります。

ipv6_addr_only

HPR/IP の IPv6 ネットワークの接続ネットワークの場合は、このパラメーターは接続ネットワークの IP アドレッシングが IPv6 DNS 名のみを使用するか IPv6 アドレスのみを使用するかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

接続ネットワークの IP アドレッシングは IPv6 アドレスのみを使用します。

NO

接続ネットワークの IP アドレッシングは IPv6 DNS 名のみを使用します。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_CN_NAME
list_options パラメーターは、指定名から始まるすべてのエントリーを リストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*fqcn_name* パラメーターに 指定された値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
FUNCTION_NOT_SUPPORTED
ローカル・ノードは LEN ノードです。このコマンドは、ネットワーク・ノードまたはエンド・ノードでのみ有効です。

secondary_rc
(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_cn_port

query_cn_port コマンドは、隣接接続ネットワーク上で定義されたポートに関する情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定のポートまたは複数のポートに関する情報を入手するために使用できます。

このコマンドは、ネットワーク・ノードまたはエンド・ノードでのみ有効で、LEN ノードでは無効となります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_cn_port]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
fqcn_name	character	17	
port_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries
データを戻す対象となるポートの最大数。特定のポートのデータを戻す場合は 1、複数のポートのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのポートのデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のポート・リスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

port_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

port_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

fqcn_name

必要なポートが定義された CN の完全修飾名、または CN およびポートのリストの索引として使用される名前。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の CN 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。このパラメーターは、常に設定する必要があります。

port_name

情報が必要なポートの名前、またはポート・リストの索引として使用される名前。この名前は、1 から 8 文字のストリングです。*list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
<i>fqcn_name</i>	character	17
<i>port_name</i>	character	8
<i>tg_num</i>	decimal	

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

fqcn_name

CN の完全修飾名。

port_name

ポートの名前。

tg_num

指定したポートの伝送グループ番号。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_CN_NAME

list_options パラメーターは、指定名から始まるすべてのエントリーをリストするように **LIST_INCLUSIVE** に設定されていますが、*fqcn_name* パラメーターに指定された値が無効です。

INVALID_PORT_NAME

list_options パラメーターは、指定名から始まるすべてのエントリーをリストするように **LIST_INCLUSIVE** に設定されていますが、*port_name* パラメーターに指定された値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ローカル・ノードは LEN ノードです。このコマンドは、ネットワーク・ノードまたはエンド・ノードでのみ有効です。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_conversation

query_conversation コマンドは、特定のローカル LU を使用した会話に関する情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の会話またはある範囲の会話に関する情報を入手するために使用できます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_conversation]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
conv_id	hex number	4	0x00
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
session_id	hex array	8	(null array)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

セッションの最大数 (それらのセッションについてのデータが戻されます)。特定の会話のデータを戻す場合は 1、複数の会話のデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべての会話のデータを戻す場合は 0 を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の会話リスト内の開始位置。値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

ローカル LU、パートナー LU、および会話 ID の組み合わせによって指定されたエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

ローカル LU、パートナー LU、および会話 ID の組み合わせによって指定されたエントリーのすぐ後のエントリーから開始します。

conv_id

情報が必要な会話の ID、または会話リストの索引として使用される会話 ID。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU 名ではなく LU 別名によって LU が識別されていることを示す場合は、このパラメーターを指定しないでください。ローカル CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU を指定する場合は、*lu_name* または *lu_alias* のいずれも指定しないでください。

lu_alias

ローカルで定義された LU 別名。このパラメーターは、*lu_name* を指定しない場合にのみ使用します。ローカル CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU を指定する場合は、*lu_name* または *lu_alias* のいずれも指定しないでください。

session_id

8 バイトのセッション ID。特定のセッションに関連付けられた会話の情報のみをリストする場合は、セッション ID を指定します。すべてのセッションの完全なリストを取得する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
conv_id	hex number	4
local_tp_name	character	64
partner_tp_name	character	64
tp_id	hex array	8
sess_id	hex array	8
conv_start_time	decimal	
bytes_sent	decimal	
bytes_received	decimal	
conv_state	constant	
duplex_type	constant	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

conv_id

会話 ID。呼び出し側の TP の ALLOCATE verb、または呼び出された TP の RECEIVE_ALLOCATE verb によって、会話 ID が戻されました。

local_tp_name

会話のローカル TP の名前。

partner_tp_name

会話のパートナー TP の名前。このパラメーターは、会話がローカル TP によって開始された場合にのみ戻されます。会話がリモート TP によって開始された場合、このパラメーターは予約されます。

tp_id

会話の TP ID。

sess_id

会話に割り当てられたセッションのセッション ID。

conv_start_time

CS/AIX ノードが開始されてから、会話が開始されるまでの経過時間 (1/100 秒単位)。

bytes_sent

会話の開始後にローカル TP からパートナー TP に送信されたバイト数。

bytes_received

会話の開始後にローカル TP がパートナー TP から受信したバイト数。

conv_state

会話の現在の状態。半二重会話の値は、以下のとおりです。

- CONFIRM
- CONFIRM_DEALL
- CONFIRM_SEND

query_conversation

- END_CONV
- PEND_DEALL
- PEND_POST
- POST_ON_RECEIPT
- RECEIVE
- RESET
- SEND
- SEND_PENDING

全二重会話の値は、以下のとおりです。

- RESET
- SEND_ONLY
- SEND_RECEIVE
- RECEIVE_ONLY

duplex_type

会話の二重化タイプ。値は、以下のとおりです。

- HALF_DUPLEX
- FULL_DUPLEX

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

BAD_CONV_ID

list_options パラメーターは、指定された会話 ID から始まるすべてのエントリーをリストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*conv_id* パラメーター値が無効です。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーター値が無効です。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_cos

query_cos コマンドは、特定のサービス・クラス (COS) の経路計算情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の COS または複数の COS に関する情報を入手するために使用できます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_cos]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
cos_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す対象となるサービス・クラス (COS) の最大数。特定の COS のデータを戻す場合は 1、複数の COS のデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべての COS のデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の COS リスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

cos_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

cos_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

cos_name

データが必要な COS の名前、またはリストの索引として使用される名前。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
cos_name	character	8
description	character	31
transmission_priority	constant	
num_of_node_rows	decimal	
num_of_tg_rows	decimal	
trees	decimal	
calcs	decimal	
rejs	decimal	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

cos_name

8 バイトの文字ストリングで構成されるサービス・クラス (COS) 名を示します。

description

COS の定義に指定されているとおり、COS を説明するテキスト・ストリング。

transmission_priority

伝送優先順位を示します。可能な値は次のいずれかです。

LOW

この COS を使用するセッションは優先順位が低くなります。

MEDIUM

この COS を使用するセッションは優先順位が中程度となります。

HIGH

この COS を使用するセッションは優先順位が高くなります。

NETWORK

この COS を使用するセッションは優先順位が最高となります。

num_of_node_rows

この COS に対して定義されたノード行の数。

num_of_tg_rows

この COS に対して定義された TG 行の数。

trees

前回の初期化以降にこの COS に対して構築された経路ツリー・キャッシュの数。

calcs

この COS を指定するセッション活動化要求 (および経路計算) の数。

rejs

このノードから名前付き宛先へのネットワークを介した使用可能な経路がないために失敗した、セッション活動化要求の数。経路は、指定サービス・クラスを提供できる活動状態の TG およびノードだけで構成されている場合にのみ使用できます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_COS_NAME

指定された名前で始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*cos_name* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_cos_node_row

query_cos_node_row コマンドは、指定されたサービス・クラス (COS) のノード行情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の COS ノード行または複数の COS ノード行に関する情報を入手するために使用できます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_cos_node_row] num_entries	decimal		1

list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
cos_name	character	8	(null string)
node_row_index	decimal		0

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す対象となる COS ノード行の最大数。特定の COS ノード行のデータを戻す場合は 1、複数の COS ノード行のデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべての COS ノード行のデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の COS ノード行のリスト内の開始位置。リストは、各 COS の *cos_name*、*node_row_index* の順に並べられます。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

cos_name パラメーターと *node_row_index* パラメーター を組み合わせて指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

cos_name パラメーターと *node_row_index* パラメーター を組み合わせて指定したエントリーの直後のエントリー から開始します。

cos_name

ノード行情報が必要なサービス・クラスの名前、またはリストの索引として使用される名前。*list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、この値は無視されます。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

node_row_index

情報が必要なノード行番号、またはリストの索引として使用される番号。*list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、この値は無視されます。この COS に関連したノード行の番号を判別するには、*query_cos* を使用します。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
cos_name	character	8
node_row_index	decimal	
min_rar	decimal	
min_status	constant	
max_rar	decimal	
max_status	constant	
weight	decimal	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

cos_name

サービス・クラス (COS) 名を示します。

node_row_index

ノード行の索引を示します。

min_rar から weight

これらのパラメーターの詳細については、[31 ページの『define_cos』](#)を参照してください。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_COS_NAME
指定された名前ですべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*cos_name* パラメーター値が無効です。

INVALID_LIST_OPTION
list_options パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_cos_tg_row

query_cos_tg_row コマンドは、指定されたサービス・クラス (COS) の TG 行情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の COS の TG 行または複数の COS の TG 行に関する情報を入手するために使用できます。

この情報は、フォーマットされたリストとして戻されます。特定の TG 行についての情報、または複数行のリスト情報を取得するには、*tg_row_index* および *cos_name* パラメーターの値を指定します。これにより戻されるリストは、*cos_name*、*tg_row_index* の順に並べられています。*cos_name* はまず名前の長さで順序付けされ、同じ長さの名前については ASCII 表記順に並べられます。*tg_row_index* は数値の順に並べられます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_cos_tg_row]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
cos_name	character	8	(null string)
tg_row_index	decimal		0

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す対象となる COS TG 行の最大数。特定の COS TG 行のデータを戻す場合は 1、複数の COS TG 行のデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべての COS TG 行のデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の COS TG 行のリスト内の開始位置。リストは、各 COS の *cos_name*、*tg_row_index* の順に並べられます。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

cos_name パラメーターと *tg_row_index* パラメーター を組み合わせて指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

cos_name パラメーターと *tg_row_index* パラメーター を組み合わせて指定したエントリーの直後のエントリー から開始します。

cos_name

データが必要なサービス・クラス (COS) の名前、またはリストの索引として使用される名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

tg_row_index

データが必要な TG 行番号、またはリストの索引として使用される番号。最初の行の索引は 0 (ゼロ) になります。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
<i>cos_name</i>	character	8
<i>tg_row_index</i>	decimal	
<i>min_effect_cap</i>	hex number	
<i>min_connect_cost</i>	decimal	
<i>min_byte_cost</i>	decimal	
<i>min_security</i>	constant	
<i>min_prop_delay</i>	constant	
<i>min_user_def_parm_1</i>	decimal	
<i>min_user_def_parm_2</i>	decimal	
<i>min_user_def_parm_3</i>	decimal	
<i>max_effect_cap</i>	hex number	
<i>max_connect_cost</i>	decimal	
<i>max_byte_cost</i>	decimal	
<i>max_security</i>	constant	
<i>max_prop_delay</i>	constant	
<i>max_user_def_parm_1</i>	decimal	
<i>max_user_def_parm_2</i>	decimal	
<i>max_user_def_parm_3</i>	decimal	
<i>weight</i>	decimal	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

cos_name

サービス・クラス (COS) 名を示します。

tg_row_index

TG 行の索引を示します (最初の行の索引はゼロ)。

min_effect_cap

回線速度の最小限度 (ビット/秒)。

min_connect_cost

接続時間あたりのコストの最小限度。

min_byte_cost

バイトあたりのコストの最小限度。

min_security

セキュリティの最低レベル。可能な値は次のいずれかです。

SEC_NONSECURE

データは非セキュア・ネットワークを介して伝送されます。

SEC_PUBLIC_SWITCHED_NETWORK

データは公衆交換網を介して伝送されます。

SEC_UNDERGROUND_CABLE

データはセキュアな地下ケーブルを介して伝送されます。

SEC_SECURE_CONDUIT

データは、保護されていないセキュア・コンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_GUARDED_CONDUIT

データは、物理的な盗聴から保護されているコンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_ENCRYPTED

データは、回線を介して伝送される前に暗号化されます。

SEC_GUARDED_RADIATION

データは、物理的な盗聴および漏えい波盗聴から保護されている回線を介して伝送されます。

min_prop_delay

伝搬遅延 (シグナルが接続回線を伝送されるのにかかる時間) の最小限度 (マイクロ秒単位)。可能な値は次のいずれかです。

PROP_DELAY_LAN

0.5 マイクロ秒未満の遅延 (一般的に LAN 用) または最小の伝搬遅延。この値は、define_cos で PROP_DELAY_MINIMUM または PROP_DELAY_LAN のいずれかを指定した場合に戻されます。

PROP_DELAY_TELEPHONE

遅延は 0.5 から 50 マイクロ秒の範囲です (電話回線で標準的な遅延)。

PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET

遅延は 50 から 250 マイクロ秒の範囲です (パケット交換ネットワークで標準的な遅延)。

PROP_DELAY_SATELLITE

遅延は 250 マイクロ秒よりも長くなります (衛星中継で標準的な遅延)。

PROP_DELAY_MAXIMUM

伝搬遅延の最大値。

min_user_def_parm_1 から min_user_def_parm_3

上記のパラメーターによってカバーされない TG 特性を組み込むために使用できる ユーザー定義パラメーターの最小限度。これらの各パラメーターの範囲は 0 から 255 となります。

max_effect_cap

回線速度の最大限度 (ビット/秒)。

max_connect_cost

接続時間あたりのコストの最大限度。

max_byte_cost

バイトあたりのコストの最大限度。

max_security

セキュリティーの最高レベル。可能な値は次のいずれかです。

SEC_NONSECURE

データは非セキュア・ネットワークを介して伝送されます。

SEC_PUBLIC_SWITCHED_NETWORK

データは公衆交換網を介して伝送されます。

SEC_UNDERGROUND_CABLE

データはセキュアな地下ケーブルを介して伝送されます。

SEC_SECURE_CONDUIT

データは、保護されていないセキュア・コンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_GUARDED_CONDUIT

データは、物理的な盗聴から保護されているコンジット内の回線を介して伝送されます。

SEC_ENCRYPTED

データは、回線を介して伝送される前に暗号化されます。

SEC_GUARDED_RADIATION

データは、物理的な盗聴および漏えい波盗聴から保護されている回線を介して伝送されます。

SEC_MAXIMUM

データは、最大セキュリティーのネットワークを介して伝送されます。

max_prop_delay

伝搬遅延 (シグナルが接続回線を伝送されるのにかかる時間) の最大限度 (マイクロ秒単位)。

可能な値は次のいずれかです。

PROP_DELAY_MINIMUM

伝搬遅延の最小値。

PROP_DELAY_LAN

0.5 マイクロ秒未満の遅延 (LAN の場合は通常これを指定)。

PROP_DELAY_TELEPHONE

遅延は 0.5 から 50 マイクロ秒の範囲です (電話回線で標準的な遅延)。

PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET

遅延は 50 から 250 マイクロ秒の範囲です (パケット交換ネットワークで標準的な遅延)。

PROP_DELAY_SATELLITE

遅延は 250 マイクロ秒よりも長くなるか (衛星中継で標準的な遅延)、最大の伝搬遅延となります。この値は、define_cos で max_prop_delay に PROP_DELAY_SATELLITE または PROP_DELAY_MAXIMUM のいずれかを指定した場合に戻されます。

max_user_def_parm_1 から max_user_def_parm_3

上記のパラメーターによってカバーされない TG 特性を組み込むために使用できるユーザー定義パラメーターの最大限度。これらの各パラメーターの範囲は 0 から 255 となります。

weight

この TG 行に関連付けられた重み。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_COS_NAME

指定された名前では始まるすべてのエントリーをリストするように list_options パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、cos_name パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_cplic_side_info

query_cplic_side_info コマンドは、使用するオプションに応じて、指定の記号宛先名または複数の記号宛先名のサイド情報エントリーを戻します。

CPI-C サイド情報エントリーはドメイン・リソースとして定義されているため、このコマンドは特定のノードに関連付けられていません。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_cplic_side_info]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
sym_dest_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

記号宛先名の最大数 (その記号宛先名のデータが戻されます)。特定の記号宛先名のデータを戻す場合は 1、複数の記号宛先名のデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべての記号宛先名のデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のシンボリック宛先名のリスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

sym_dest_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

sym_dest_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

sym_dest_name

データが必要な記号宛先名、またはリストの索引として使用される名前。有効な文字は、大文字の A～Z および数字 0～9 です。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length	
sym_dest_name	character	8	
description	character	31	
partner_lu_name	character	17	
tp_name_type	constant		
tp_name	character	64	
mode_name	character	8	
conversation_security_type	constant		
security_user_id	character	10	
security_password	character	10	
lu_alias	character	8	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

sym_dest_name

戻されたサイド情報項目のシンボリック宛先名。

description

サイド情報エントリーの定義で指定された、サイド情報エントリーを説明するテキスト・ストリング。

partner_lu_name から lu_alias

これらのパラメーターの詳細については、[35 ページの『define_cplic_side_info』](#)を参照してください。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc

INVALID_SYM_DEST_NAME

指定された名前から始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*sym_dest_name* パラメーター値が無効です。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_cs_trace

query_cs_trace コマンドは、CS/AIX ドメインのコンピューター間で送信されるデータの現行トレース・オプションに関する情報を戻します。トレース・オプションについて詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」を参照してください。

このコマンドは、実行ノード、あるいは AIX または Linux 上の Remote API Client に対して発行できます。クライアント・コンピューターにコマンドを実行するには、クライアント・コンピューター上でノード名を指定せずに snaadmin プログラムを使用します。

Windows クライアントでは、クライアント/サーバーのトレースは Windows レジストリー内のオプションにより制御されます。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」を参照してください。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_cs_trace] dest_sys	character	128	(null string)

提供されるパラメーター：

dest_sys

トレース・オプションを照会する対象のサーバー名。

このコマンドが発行されたコンピューター間で流れているメッセージのトレース・オプションを照会するには (ローカル・コンピューターか、または snaadmin プログラムの -n オプション、およびドメイン内の他の 1 つのサーバーの場合は、他のサーバーの名前を指定します。によって識別されるコンピューター)。

サーバー名に . (ピリオド) 文字が含まれている場合、CS/AIX はそれが完全修飾名であると見なします。それ以外の場合は、DNS ルックアップを実行してサーバー名を判別します。

デフォルトのトレース・オプション (システム名が指定されていないセット cs_trace コマンドは、このパラメーターを指定しないでください。によって設定) を照会するには

戻りパラメーター

Parameter name	Type
trace_flags	constant
trace_direction	constant

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

trace_flags

現在活動状態であるトレースのタイプ。これらのトレース・タイプについて詳しくは、[492 ページの『set_cs_trace』](#)を参照してください。

活動状態であるトレースがない場合、またはすべてのタイプのメッセージでトレースが活動状態である場合は、次のいずれかの値が戻ります。

NONE

すべてのタイプのメッセージのトレースが活動状態になっていません。

ALL

すべてのタイプのメッセージのトレースが活動状態です。

特定のインターフェースでトレースが活動化されている場合、以下の 1 つ以上の値を戻します (+ 文字を使用して結合)。

CS_ADMIN_MSG

クライアント/サーバー・トポロジーに関連する内部メッセージがトレースされます。

CS_DATAGRAM

データグラム・メッセージがトレースされます。

CS_DATA

データ・メッセージがトレースされます。

trace_direction

トレースを活動化するメッセージ・フローの方向を指定します。このパラメーターは、*trace_flags* を NONE に設定した場合は戻されません。可能な値は次のいずれかです。

CS_SEND

ターゲット・コンピューターから *dest_sys* により定義されたコンピューターへのメッセージ・フローがトレースされます。

CS_RECEIVE

dest_sys により定義されたコンピューターからターゲット・コンピューターへのメッセージ・フローがトレースされます。

CS_BOTH

両方向のメッセージ・フローがトレースされます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

NAME_NOT_FOUND

dest_sys パラメーターにより指定されたサーバーが無効であるか、始動されていません。

LOCAL_SYSTEM

dest_sys パラメーターにより指定されたサーバーは、このコマンドの実行対象のターゲット・ノードと同じです。

INVALID_TARGET

コマンドがスタンドアロン・サーバーで実行されました。このコマンドは、クライアント/サーバー・システムでのみ発行できます。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_default_pu

query_default_pu コマンドは、define_default_pu を使用して定義されているデフォルト PU に関する情報を戻します。

指定パラメーター

```
[query_default_pu]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
def_pu_name	character	8
description	character	31
def_pu_sess	character	8

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

def_pu_name

デフォルト PU の最新定義名。デフォルト PU が定義されていないか、またはデフォルト PU が削除された場合、このパラメーターはブランクです。

description

デフォルト PU を記述したテキスト・ストリング (そのデフォルト PU の定義で指定したもの)。

def_pu_sess

現在活動化されているデフォルト PU セッションに関連した PU の名前。

このパラメーターは通常、def_pu_name パラメーターと同じ値になります。ただし、新しいデフォルト PU が定義されても、これに関連付けられたセッションがアクティブでない場合、CS/AIX は、定義されたデフォルト PU に関連付けられたセッションがアクティブになるまで、引き続き前のデフォルト PU に関連付けられたセッションを使用します。この場合、def_pu_sess は前のデフォルト PU の名前を指定し、def_pu_name パラメーターとは異なる値になります。

活動化された PU セッションがない場合、このパラメーターはブランクです。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_デフォルト

query_デフォルト コマンドにより、ユーザーは、ノードに定義されたデフォルト・パラメーターを照会できます (デフォルト・パラメーターは デフォルトの `define_defaults` を使用して定義されます)

指定パラメーター

```
[query_defaults]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
description	character	31
mode_name	character	8
implicit_plu_forbidden	constant	
specific_security_sense_codes	constant	
limited_timeout	decimal	

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

description

`define_defaults` コマンドで指定された、デフォルト・パラメーターを記述するテキスト・ストリング。

mode_name

デフォルト・モードの名前。セッションの開始を試行するときに、アプリケーションが認識されていないモード名を指定している場合、このモードのパラメーターが、認識されていないモードのデフォルトの定義として使用されます。

`define_defaults` コマンドを使用してデフォルト・モード名が指定されていない場合、このパラメーターはブランクです。

implicit_plu_forbidden

CS/AIX が、不明なパートナー LU について暗黙の定義を設定しているかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は、不明なパートナー LU について暗黙の定義をしていません。すべてのパートナー LU は、明示的に定義されなければなりません。

NO

CS/AIX は、不明なパートナー LU について暗黙の定義をしています。

specific_security_sense_codes

CS/AIX が、セキュリティーの認証または許可の失敗について、特定のセンス・コードを使用するかどうかを示します。特定のセンス・コードは、セッションでそのサポートを報告しているパートナー LU にのみ戻されます。可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は、特定のセンス・コードを使用します。

NO

CS/AIX で特定のセンス・コードを使用しません。

limited_timeout

空き限定リソース同時勝者セッションが非活動化されるタイムアウトを指定します。範囲は、0 ~ 65,535 秒です。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの追加の組み合わせがリストされています。

query_directory_entry

query_directory_entry コマンドは、ディレクトリー・データベース内のリソースに関する情報を戻します。このコマンドは、使用されるオプションに応じて、特定のリソースまたは複数のリソースに関する要約情報または詳細情報を戻すことができます。

実行中のノードに対してコマンドが発行されると、コマンドは、明示的に定義されたリソース (define_directory_entry または define_adjacent_len_node を使用) およびディレクトリー・データベース内で動的に検出されたリソースに関する情報を戻します。ノードが稼働していない場合は、明示的に定義されたエントリーのみが戻されます。

このコマンドは、エンド・ノードに対して発行されると、エンド・ノードとそのリソースに関する情報のみを戻しますが、ディレクトリー・データベースに含まれている他のノードについては戻りません。最初に戻される項目は、エンド・ノードについて、その後その LU が続きます。(エンド・ノードのネットワーク・ノード・サーバーについては、エントリーは戻されません。)

このコマンドは、ネットワーク・ノードに対して発行されると、そのディレクトリーに含まれる複数のネットワーク・ノードとそれに関連したエンド・ノードおよび LU に関する情報を戻します。各ネットワーク・ノードについて、戻される情報は以下の順序になっています。

1. ネットワーク・ノード。
2. このノードが所有する LU。
3. ネットワーク・ノードに関連付けられた最初のエンド・ノード。
4. このエンド・ノードが所有する LU。
5. ネットワーク・ノードに関連付けられている他のすべてのエンド・ノード。各ノードの後に LU が続き

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_directory_entry]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
resource_name	character	17	(null string)
resource_type	constant		NONE
parent_name	character	17	(null string)
parent_type	constant		NONE

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻すリソースの最大数。特定のリソースのデータを戻す場合は 1、複数のリソースのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのリソースのデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合のリソースのリスト内の開始位置。リストは、*parent_name*、*resource_name*、および *resource_type* の順に並べられます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

parent_name、*resource_name*、*resource_type* の各パラメーターを組み合わせ指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

parent_name、*resource_name*、*resource_type* の各パラメーターを組み合わせ指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

resource_name

情報を求めるリソースの完全修飾名、またはリソースのリストの索引として使用する名前。*list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、この値は無視されます。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のリソース名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

resource_type

情報を求めるリソースのタイプ。*list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、この値は無視されます。可能な値は次のいずれかです。

ENCP_RESOURCE

エンド・ノード (EN) またはローエントリー・ネットワーキング (LEN) ノード

NNCP_RESOURCE

ネットワーク・ノード (NN)

LU_RESOURCE

論理装置 (LU)。

WILDCARD_LU_RESOURCE

ワイルドカード LU 名。

NONE

すべてのリソース・タイプ

parent_name

親リソースの完全修飾リソース名。LU の場合、親リソースは所有の制御点であり、エンド・ノードまたは LEN ノードの場合はネットワーク・ノード・サーバーです。指定した親に所属するエントリーのみを戻すには、このパラメーターを親リソースの名前にし、*parent_type* を親リソースのタイプに設定します。すべてのエントリーを戻すには、どちらのパラメーターも指定しません。

1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の親名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

parent_type

親リソースのリソース・タイプ。指定した親に所属するエントリーのみを戻すには、このパラメーターを親リソースのタイプにし、*parent_name* を親リソースの名前に設定します。すべてのエントリーを戻すには、どちらのパラメーターも指定しません。可能な値は次のいずれかです。

ENCP_RESOURCE

parent_name パラメーターで名前を指定したエンド・ノードが所有する LU リソースに属すエントリーのみを戻します。

NNCP_RESOURCE

parent_name パラメーターで名前を指定したネットワーク・ノード、エンド・ノード、または LEN ノードが所有する LU リソースに属すエントリーのみを戻します。

NONE

すべての親リソース・タイプに属すエントリーを戻します。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length	
<i>resource_name</i>	character	17	
<i>resource_type</i>	constant		
<i>description</i>	character	31	
<i>real_owning_cp_type</i>	constant		
<i>real_owning_cp_name</i>	character	17	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に SUMMARY を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

resource_name

リソースの完全修飾名。

resource_type

リソースのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

ENCP_RESOURCE

エンド・ノード (EN) またはローエントリー・ネットワークング (LEN) ノード

NNCP_RESOURCE

ネットワーク・ノード (NN)

LU_RESOURCE

論理装置 (LU)。

WILDCARD_LU_RESOURCE

ワイルドカード LU 名。

description

ディレクトリー・エントリーの定義で指定された、ディレクトリー・エントリーを説明するテキスト・ストリング。

real_owning_cp_type

このパラメーターは、ローカル・ノードがネットワーク・ノードまたは分岐ネットワーク・ノードの場合にのみ適用されます。それ以外の場合には使用されません。

このディレクトリー・エントリーにより識別されるリソースを実際に所有する CP が、親リソースであるかまたは他のノードであるかを指定します。次のいずれか 1 つです。

NONE

実際の所有者は、親リソースです。

ENCP_RESOURCE

実際の所有者は、親リソースでないエンド・ノードです。例えば、リソースが分岐ネットワーク・ノード (BrNN) のドメイン内のエンド・ノードにより所有されている場合、この BrNN のネットワーク・ノード・サーバーのディレクトリーには BrNN が親リソースとして含まれますが、実際に所有する CP はエンド・ノードです。

real_owning_cp_name

このパラメーターは、ローカル・ノードがネットワーク・ノードまたは分岐ネットワーク・ノードの場合にのみ適用されます。それ以外の場合には使用されません。

real_owning_cp_type パラメーターで、リソースの実際の所有者が親リソースではないと指定した場合、このパラメーターに、リソースを所有する CP の完全修飾名を指定します。それ以外の場合には使用されません。

この名前は、1 から 8 文字のネットワーク名、その後ろにピリオド、その後ろに 1 から 8 文字の CP 名という構成になっています。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length	
resource_name		character	17
resource_type	constant		
description	character	31	
parent_name	character	17	
parent_type	constant		
entry_type	constant		
location	constant		
real_owning_cp_type	constant		
real_owning_cp_name	character	17	
supplier_cp_type	constant		
supplier_cp_name	character	17	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に **DETAIL** を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

resource_name

リソースの完全修飾名。

resource_type

リソースのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

ENCP_RESOURCE

エンド・ノード (EN) またはローエントリー・ネットワーキング (LEN) ノード

NNCP_RESOURCE

ネットワーク・ノード (NN)

LU_RESOURCE

論理装置 (LU)。

WILDCARD_LU_RESOURCE

ワイルドカード LU 名。

description

ディレクトリー・エントリーの定義で指定された、ディレクトリー・エントリーを説明するテキスト・ストリング。

parent_name

親リソースの完全修飾リソース名。LU の場合、親リソースは所有の制御点であり、エンド・ノードまたは LEN ノードの場合はネットワーク・ノード・サーバーです。このパラメーターは、ネットワーク・ノード・リソースでは使用されません。

parent_type

親リソースのリソース・タイプ。可能な値は次のいずれかです。

ENCP_RESOURCE

エンド・ノード (EN が所有する LU リソース用)

NNCP_RESOURCE

ネットワーク・ノード (NN が所有する LU リソース、あるいは EN または LEN リソース用)

NONE

親リソースなし (ネットワーク・ノード・リソース用)

entry_type

ディレクトリー・エントリーのタイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

HOME

ローカル・リソース

CACHE

キャッシュ・エントリー

REGISTER

登録済みリソース (NN のみ)。

location

リソースの場所を指定します。可能な値は次のいずれかです。

LOCAL

リソースは、ローカル・ノードにあります。

DOMAIN

リソースは、接続されたエンド・ノードに属しています。

CROSS_DOMAIN

リソースは、ローカル・ノードのドメイン内にはありません。

real_owning_cp_type

このパラメーターは、ローカル・ノードがネットワーク・ノードまたは分岐ネットワーク・ノードの場合にのみ適用されます。それ以外の場合には使用されません。

このディレクトリー・エントリーにより識別されるリソースを実際に所有する CP が、親リソースであるかまたは他のノードであるかを指定します。次のいずれか 1 つです。

NONE

実際の所有者は、親リソースです。

ENCP_RESOURCE

実際の所有者は、親リソースでないエンド・ノードです。例えば、リソースが分岐ネットワーク・ノード (BrNN) のドメイン内の エンド・ノードにより所有されている場合、この BrNN のネットワーク・ノード・サーバーの ディレクトリーには BrNN が親リソースとして含まれますが、実際に所有する CP はエンド・ノードです。

real_owning_cp_name

このパラメーターは、ローカル・ノードがネットワーク・ノードまたは分岐ネットワーク・ノードの場合にのみ適用されます。それ以外の場合には使用されません。

real_owning_cp_type パラメーターで、リソースの実際の所有者が親リソースではないと 指定した場合、このパラメーターに、リソースを所有する CP の完全修飾名を指定します。それ以外の場合には使用されません。

この名前は、1 から 8 文字のネットワーク名、その後ろにピリオド、その後ろに 1 から 8 文字の CP 名という構成になっています。

supplier_cp_type

このパラメーターは、ローカル・ノードがネットワーク・ノードまたは分岐ネットワーク・ノードの場合にのみ適用されます。それ以外の場合には使用されません。

このディレクトリー・エントリーが、リソースを所有する CP でない別のノードにより登録されたかどうかを示します。次のいずれか 1 つです。

NONE

ディレクトリー・エントリーは登録されていないか、またはその所有 CP により登録されました。

ENCP_RESOURCE

ディレクトリー・エントリーは、その所有 CP でないノードにより登録されました。例えば、ローカル・ノードのドメイン内にある分岐ネットワーク・ノード (BrNN) のドメイン内のエンド・ノードが所有しているリソースの場合、BrNN が登録を行います。これは、リソースはローカル・ノードに登録されますが、実際の所有 CP はエンド・ノードであるためです。

supplier_cp_name

このパラメーターは、ローカル・ノードがネットワーク・ノードまたは分岐ネットワーク・ノードの場合にのみ適用され、その他の場合は予約されます。

supplier_cp_type パラメーターで、ディレクトリー・エントリーが所有リソースでないノードにより登録されたと指定した場合、このパラメーターに、登録を行う CP の完全修飾名を指定します。それ以外の場合には使用されません。

この名前は、1 から 8 文字のネットワーク名、その後ろにピリオド、その後ろに 1 から 8 文字の CP 名という構成になっています。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_RES_NAME
指定された名前で始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*resource_name* パラメーター値が無効です。

INVALID_RES_TYPE
resouce_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_directory_lu

query_directory_lu コマンドは、ディレクトリー・データベースから LU のリストを戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の LU に関する情報を入手するか、複数の LU に関する情報を入手するために使用できます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_directory_lu]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + INCLUSIVE
lu_name	character	17	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す LU の最大数。特定の LU のデータを戻すには 1、複数の LU のデータを戻すには 1 より大きい数値、すべての LU のデータを戻すには 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合の LU のリスト内の開始位置。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

lu_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

lu_name パラメーターで指定したエントリーの直後の エントリーから開始します。

lu_name

情報を求める LU の完全修飾名、または LU のリストの索引として使用する名前。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
<i>lu_name</i>	character	17
<i>description</i>	character	31

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に SUMMARY を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

lu_name

LU の完全修飾名。

description

ディレクトリー・エントリーの定義で指定された、ディレクトリー・エントリーを説明するテキスト・ストリング。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
<i>lu_name</i>	character	17
<i>description</i>	character	31
<i>server_name</i>	character	17
<i>lu_owner_name</i>	character	17
<i>location</i>	constant	
<i>entry_type</i>	constant	
<i>wild_card</i>	constant	
<i>apparent_lu_owner_name</i>	character	17

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に DETAIL を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

lu_name

LU の完全修飾名。

description

ディレクトリー・エントリーの定義で指定された、ディレクトリー・エントリーを説明するテキスト・ストリング。

server_name

LU にサービスを提供するノードの完全修飾名。

lu_owner_name

LU を所有するノードの完全修飾名。

location

リソースの場所を指定します。可能な値は次のいずれかです。

LOCAL

リソースは、ローカル・ノードにあります。

DOMAIN

リソースは、接続されたエンド・ノードに属しています。

CROSS_DOMAIN

リソースは、ローカル・ノードのドメイン内にはありません。

entry_type

リソースのタイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

HOME

ローカル・リソース

CACHE

キャッシュ・エントリー

REGISTER

登録済みリソース (NN のみ)。

wild_card

LU エントリーが、明示的な名前に対するものなのか、ある範囲の名前に一致するワイルドカード値に対するものなのかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

EXPLICIT

このエントリーは、明示的な LU 名です。

FULL_WILDCARD

このエントリーは、任意の LU 名に一致する完全ワイルドカード値です。

PARTIAL_WILDCARD

このエントリーは、部分ワイルドカードです。LU 名との突き合わせには、名前の中の非ブランク文字が使用されます。

OTHER

このエントリーのタイプは不明です。

apparent_lu_owner_name

このパラメーターは、ローカル・ノードがネットワーク・ノードまたは分岐ネットワーク・ノードの場合にのみ適用されます。それ以外の場合には使用されません。

この LU を見かけ上所有している CP が、その LU を実際に所有している CP ではない場合、このパラメーターには、見かけ上所有している CP の完全修飾名を指定します。それ以外の場合、このパラメーターは使用されません。例えば、分岐ネットワーク・ノード (BrNN) のドメイン内のエンド・ノードがリソースを所有している場合、この BrNN のネットワーク・ノード・サーバーのディレクトリーには、BrNN が見かけ上の所有者として含まれていますが、実際に所有している CP はエンド・ノードです。

この名前は、1 から 8 文字のネットワーク名、その後ろにピリオド、その後ろに 1 から 8 文字の CP 名という構成になっています。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

指定された名前では始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*lu_name* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_directory_stats

query_directory_stats コマンドは、ディレクトリー・データベースの統計情報を戻します。この情報を使用すると、ネットワーク探索要求トラフィックのレベルを評価することができます。ネットワーク・ノードの場合、このコマンドは、ディレクトリー・キャッシュの使用量に関する統計を戻します。この情報を使用して、適切なキャッシュ・サイズ (ノード定義で指定されます) を決定することができます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

```
[query_directory_stats]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type
max_caches	decimal
cur_caches	decimal
cur_home_entries	decimal
cur_reg_entries	decimal
cur_directory_entries	decimal
cache_hits	decimal
cache_misses	decimal
in_locates	decimal
in_bcast_locates	decimal
out_locates	decimal
out_bcast_locates	decimal
not_found_locates	decimal
not_found_bcast_locates	decimal
locates_outstanding	decimal

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

max_caches

ネットワーク・ノードの場合、キャッシュ・エントリーの許容最大数。

cur_caches

ネットワーク・ノードの場合、キャッシュ・エントリーの現在の数。

cur_home_entries

ホーム・エントリーの現在の数。

cur_reg_entries

現在登録されているエントリーの数。

cur_directory_entries

現在ディレクトリー内にあるエントリーの合計数。

cache_hits

ネットワーク・ノードの場合、検索により見付かったキャッシュの数。この数は、ローカル・ディレクトリー・キャッシュでリソースが見付かるたびに増加します。

cache_misses

ネットワーク・ノードの場合、ブロードキャスト検索でリソースが見付かった回数。この数は、リソースがローカル・ディレクトリー・キャッシュでは見付からずに、ブロードキャスト検索で見付かるたびに増加します。

注:

2つの数 *cache_hits* と *cache_misses* は、ディレクトリー・キャッシュのサイズ (*define_node* で指定されます) が調整可能となるように保守されます。時間が経過するにつれて *cache_misses* が増加する場合は、ディレクトリー・キャッシュのサイズが小さすぎることを示します。 *cache_misses* は一定で、 *cache_hits* は規則正しく増加しているという場合、キャッシュ・サイズはほぼ適切です。

in_locates

受信された有向検索要求の数。

in_bcast_locates

ネットワーク・ノードの場合、受信されたブロードキャスト検索要求の数。

out_locates

送信された有向検索要求の数。

out_bcast_locates

ネットワーク・ノードの場合、送信されたブロードキャスト検索要求の数。

not_found_locates

「見付からずに」戻された有向検索要求の数。

not_found_bcast_locates

ネットワーク・ノードの場合、「見付からずに」戻されたブロードキャスト検索要求の数。

locates_outstanding

未解決の、有向およびブロードキャスト検索要求の現在の数。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_dlc

query_dlc コマンドは、DLC に関する情報を戻します。このコマンドを使用すると、使用するオプションに応じて、特定の DLC または複数の DLC に関する要約情報または詳細情報を取得することができます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[<i>query_dlc</i>]			
<i>num_entries</i>	decimal		1
<i>list_options</i>	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
<i>dlc_name</i>	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻される DLC の最大数。特定の DLC に関するデータを戻す場合は 1 を、複数の DLC に関するデータを戻す場合は 1 よりも大きな値を、すべての DLC に関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合の DLC のリスト内の開始位置。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

dlc_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

dlc_name パラメーターで指定したエントリーの直後の エントリーから開始します。

dlc_name

情報が必要とされている DLC の名前、または DLC のリストの索引として使用される名前。 *list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
<i>dlc_name</i>	character	8
<i>description</i>	character	31
<i>state</i>	constant	
<i>dlc_type</i>	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が **SUMMARY** に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

dlc_name

DLC の名前。

description

DLC の定義に指定されている、DLC を説明するテキスト・ストリング。

state

DLC の状態。可能な値は次のいずれかです。

ACTIVE

DLC は活動状態です。

NOT_ACTIVE

DLC は活動状態ではありません。

PENDING_INACTIVE

stop_dlc コマンドは実行中です。

dlc_type

DLC のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

SDLC

同期データ・リンク制御

QLLC

修飾論理リンク制御

TR

トークンリング

ETHERNET

イーサネット

HPRIP

Enterprise Extender (HPR/IP)

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
dlc_name	character	8
description	character	31
state	constant	
dlc_type	constant	
initially_active	constant	

SDLC の場合、以下のパラメーターが含まれています。これらのパラメーターについては、[131 ページ](#)の『define_sdslc_dlc』を参照してください。

neg_ls_supp	constant
adapter_number	decimal
mu_credit	decimal
stats_support	constant
num_ports	decimal
creators_pid	decimal

QLLC の場合、以下のパラメーターが含まれています。これらのパラメーターについては、[106 ページ](#)の『define_qllc_dlc』を参照してください。

neg_ls_supp	constant
adapter_number	decimal
max_saps	decimal

イーサネットの場合は、以下のパラメーターが含まれています。これらのパラメーターについては、[185 ページ](#)の『define_tr_dlc、define_ethernet_dlc』を参照してください。

neg_ls_supp	constant
adapter_number	decimal
ethernet_type	constant
max_saps	decimal

トークンリングの場合は、以下のパラメーターが含まれます。これらのパラメーターについては、[185 ページ](#)の『define_tr_dlc、define_ethernet_dlc』を参照してください。

neg_ls_supp	constant
adapter_number	decimal

Enterprise Extender (HPR/IP) の場合は、さらに以下のパラメーターが含まれています。これらのパラメーターについては、[57 ページ](#)の『define_ip_dlc』を参照してください。

udp_port_llc	decimal
udp_port_network	decimal
udp_port_high	decimal
udp_port_medium	decimal
udp_port_low	decimal
ip_precedence_llc	decimal
ip_precedence_network	decimal
ip_precedence_high	decimal
ip_precedence_medium	decimal
ip_precedence_low	decimal
no_dns_lookup	constant

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が **DETAIL** に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

dlc_name

DLC 名。

description

DLC の定義に指定されている、DLC を説明するテキスト・ストリング。

state

DLC の状態。可能な値は次のいずれかです。

ACTIVE

DLC は活動状態です。

NOT_ACTIVE

DLC は活動状態ではありません。

PENDING_INACTIVE

stop_dlc コマンドは実行中です。

dlc_type

DLC のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

SDLC

同期データ・リンク制御

QLLC

修飾リンク・レベル制御

TR

トークンリング

ETHERNET

イーサネット

HPRIP

Enterprise Extender (HPR/IP)

initially_active

ノードが開始されたときに、この DLC が自動的に開始されるかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ノードが開始されると、この DLC は自動的に開始されます。

NO

DLC は自動的に開始されません。手動で開始する必要があります。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

指定可能な値は、以下のとおりです。

INVALID_DLC_NAME

list_options パラメーターは、指定名から始まるすべてのエントリーをリストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*dlc_name* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

クエリー・トレース・トレース

クエリー・トレース・トレース コマンドは、`add_dlc_trace` コマンドを使用して定義された、DLC 回線トレースに関する情報を戻します。このコマンドを使用すると、使用されるオプションに応じて、特定のリソース・タイプまたは特定のリソース上のすべてのリソースのトレースに関する情報を取得することができます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_dlc_trace]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
list_type	constant		ALL_DLC_TRACES
resource_type		constant	ALL_RESOURCES
resource_name		character	(null string)
sidh		hex byte	0
sidl		hex byte	0
odai	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

エントリーの最大数 (そのエントリーのデータが戻されます)。特定のエントリーのデータを戻す場合は 1 を、複数のエントリーに関するデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値を、すべてのエントリーに関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のエントリーのリスト内の開始位置。リストは、`resource_type`、`resource_name` の順に並べられます。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

`resource_type` パラメーターと `resource_name` パラメーターで指定されたエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

`resource_type` パラメーターと `resource_name` パラメーターで指定されたエントリーの直後のエントリーから開始します。

list_type

トレース・オプションを表示するリソースのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

ALL_DLC_TRACES

(任意のリソース・タイプに対して) 指定されたすべてのトレース・オプションをリストします。

ALL_RESOURCES

(リソース・タイプ ALL_RESOURCES の `add_dlc_trace` を使用して定義された) すべてのリソースに対して指定されたトレース・オプションをリストします。

DLC

DLC リソースに対するトレース・オプションをリストします。

PORT

そのすべてのリンク・ステーションがトレースされるポート・リソースに対するトレース・オプションをリストします。

LS

リンク・ステーション (LS) リソースに対するトレース・オプションをリストします。

RTP

RTP 接続リソースに対するトレース・オプションをリストします。

PORT_DEFINED_LS

(暗黙のリンク・ステーションではなく) 定義済みのリンク・ステーションのみがトレースされるポート・リソースに対するトレース・オプションをリストします。

PORT_IMPLICIT_LS

(定義済みのリンク・ステーションではなく) 暗黙のリンク・ステーションのみがトレースされるポート・リソースに対するトレース・オプションをリストします。

resource_type

戻されるエントリーまたはリストの索引として使用される エントリーのリソース・タイプを指定します。このパラメーターは、*list_type* が ALL_DLC_TRACES に設定され、かつ、*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されていない場合にのみ使用されます。可能な値は次のいずれかです。

ALL_RESOURCES

要求されたエントリーは、すべての DLC、ポート、リンク・ステーション、および RTP 接続のトレースに使用されるオプションを指定します。

DLC

要求されたエントリーは、*resource_name* で指定された DLC、およびこの DLC を使用するすべてのポートとリンク・ステーションに対してトレース・オプションを指定します。

PORT

要求されたエントリーは、*resource_name* で指定されたポート、およびこのポートを使用するすべてのリンク・ステーションに対してトレース・オプションを指定します。

LS

要求されたエントリーは、*resource_name* で指定された LS に対してトレース・オプションを指定します。

RTP

要求されたエントリーは、*resource_name* パラメーターで指定された RTP 接続に対してトレース・オプションを指定します。

PORT_DEFINED_LS

要求されたエントリーは、*resource_name* で指定されたポート、およびこのポートを使用するすべての定義済みリンク・ステーション (ただし、暗黙のリンク・ステーションは除く) に対してトレース・オプションを指定します。

PORT_IMPLICIT_LS

要求されたエントリーは、*resource_name* で指定されたポート、およびこのポートを使用するすべての暗黙のリンク・ステーション (ただし、定義済みのリンク・ステーションは除く) に対してトレース・オプションを指定します。

resource_name

戻されるエントリーの名前、またはリストの索引として使用されるエントリーの名前。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、または *resource_type* が ALL_RESOURCES に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

以下の 3 つのパラメーターは、指定した LS のセッションの ローカル形式セッション ID (LFSID) を識別します。この LFSID は、*resource_type* が LS に設定されている場合にのみ有効で、このセッションでのメッセージのみをトレースすることを示します。

LFSID は、以下のパラメーターで構成されます。

sidh

セッション ID の上位バイト。

sidl

セッション ID の下位バイト。

odai

Origin Destination Assignor Indicator。可能な値は次のいずれかです。

YES

BIND 送信側は、2 次リンク・ステーションを含むノードです。

NO

BIND 送信側は、1 次リンク・ステーションを含むノードです。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
resource_type	constant	
resource_name	character	8
sidh	hex byte	
sidl	hex byte	
odai	constant	
message_type	constant	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

resource_type

トレースされるリソースのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

ALL_RESOURCES

すべてのリソースのトレース・オプションを指定するエントリー。

DLC

このエントリーは、*resource_name* で指定された DLC、およびこの DLC を使用するすべてのポートとリンク・ステーションに対してトレース・オプションを指定します。

PORT

このエントリーは、*resource_name* で指定されたポート、およびこのポートを使用するすべてのリンク・ステーションに対してトレース・オプションを指定します。

LS

このエントリーは、*resource_name* で指定された LS (または、この LS の特定の LFSID) に対してトレース・オプションを指定します。

RTP

このエントリーは、*resource_name* で指定された RTP 接続に対してトレース・オプションを指定します。

PORT_DEFINED_LS

このエントリーは、*resource_name* で指定されたポート、およびこのポートを使用するすべての定義済みリンク・ステーション (ただし、暗黙のリンク・ステーションは除く) に対してトレース・オプションを指定します。

PORT_IMPLICIT_LS

このエントリーは、*resource_name* で指定されたポート、およびこのポートを使用するすべての暗黙のリンク・ステーション (ただし、定義済みのリンク・ステーションは除く) に対してトレース・オプションを指定します。

resource_name

トレースされる DLC、ポート、LS、または RTP 接続の名前。

以下の 3 つのパラメーターは、指定した LS でのセッションのローカル形式セッション ID を識別します。この LFSID は、*resource_type* が LS に設定されている場合にのみ有効で、このセッションでのメッセージのみをトレースすることを示します。LFSID は、以下のパラメーターで構成されます。

sidh

セッション ID の上位バイト。

sidl

セッション ID の下位バイト。

odai

Origin Destination Assignor Indicator。可能な値は次のいずれかです。

YES

BIND 送信側は、2 次リンク・ステーションを含むノードです。

NO

BIND 送信側は、1 次リンク・ステーションを含むノードです。

message_type

指定したリソースまたはセッションの、トレースされるメッセージのタイプ。すべてのメッセージをトレースする場合は、このパラメーターを TRACE_ALL に設定します。特定のメッセージをトレースする場合は、以下の値の内 1 つ以上を + 文字で結合します。

TRACE_XID

XID メッセージ

TRACE_SC

セッション制御 RU

TRACE_DFC

データ・フロー制御 RU。

TRACE_FMD

FMD メッセージ

TRACE_NLP

ネットワーク層プロトコル・メッセージ

TRACE_NC

ネットワーク制御メッセージ

TRACE_SEGS

RH を含まない BBIU 以外のセグメント

TRACE_CTL

MU および XID 以外のメッセージ。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LIST_TYPE

list_type パラメーターで指定した値は無効です。

INVALID_RESOURCE_TYPE

resource_type パラメーターで指定した値は無効です。

ALL_RESOURCES_NOT_DEFINED

resource_type パラメーターは ALL_RESOURCES に設定されていましたが、すべてのリソースに対するトレース・オプションに対して DLC_TRACE エントリーが定義されていませんでした。

INVALID_RTP_CONNECTION

resource_name パラメーターで指定した RTP 接続には、トレース・オプションが設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

クエリー・デフォルト・デフォルト

クエリー・デフォルト・デフォルト コマンドを使用すると、デフォルトの `define_dlur_defaults` コマンドを使用して定義されたデフォルト値を照会することができます。

指定パラメーター

```
[query_dlur_defaults]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length	
description	character	31	
dlus_name	character	17	
bkup_dlus_name	character	17	
dlus_retry_timeout	decimal		
dlus_retry_limit	decimal		

このコマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

description

DLUR のデフォルトについて説明するテキスト・ストリング。

dlus_name

デフォルトである DLUS ノードの名前。

bkup_dlus_name

バックアップのデフォルトとして機能する DLUS ノードの名前。

dlus_retry_timeout

DLUS へ接続するための再活動化タイマー。このパラメーターは、CS/AIX が DLUS との接続に失敗した場合の再試行間隔 (秒) を示します。

dlus_retry_limit

DLUS への接続の再試行カウント。このパラメーターの値は、CS/AIX が最初の試行で DLUS との接続に失敗した場合の再試行回数を示します。

値が 65,535 の場合、CS/AIX は DLUS に接続するまで、無限に再試行します。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ノードは DLUR をサポートしません。このサポートは、define_node コマンドの *dlur_support* パラメーターで定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_dlur_lu

query_dlur_lu コマンドは、CS/AIX の DLUR 機能を使用しているアクティブな LU の情報を戻します。このコマンドを使用すると、指定するオプションに応じて、特定の LU または複数の LU に関する情報を取得することができます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_dlur_lu]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
lu_name	character	8	(null string)
pu_name	character	8	(null string)
filter	constant		NONE

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻される DLUR LU の最大数。特定の DLUR LU に関するデータを戻す場合は 1 を、複数の DLUR LU に関するデータを戻す場合は 1 よりも大きな値を、すべての DLUR LU に関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合の DLUR LU のリスト内の開始位置。リストは、*pu_name*、*lu_name* の順に並べられます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

pu_name パラメーターと *lu_name* パラメーターを組み合わせて指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

pu_name パラメーターおよび *lu_name* パラメーターを組み合わせ指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

lu_name

情報を求める LU の名前、または LU のリストの索引として使用する名前。 *list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、この値は無視されます。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。

pu_name

LU 情報が必要とされている PU の名前。特定の PU に関連付けられている LU に関する情報のみをリストするには、その PU 名を指定します。すべての PU の完全リストを取得する場合は、このパラメーターをバイナリー・ゼロに設定します。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。

filter

戻された LU の場所に従ってそれらの LU をフィルターに掛けるかどうかを指定します。指定可能なネットワーク・ノードの値は、以下のとおりです。

INTERNAL

内部 LU に関する情報のみを戻します。

DOWNSTREAM

ダウンストリーム LU に関する情報のみを戻します。

NONE

位置に関係なく、すべての LU に関する情報を戻します。

エンド・ノードの場合、このパラメーターはそのまま保持されます (ダウンストリーム DLUR LU はサポートされていません)。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
lu_name	character	8

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が **SUMMARY** に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

lu_name

LU の名前。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
lu_name	character	8
pu_name	character	8
d Lus_name	character	17
lu_location	constant	
nau_address	decimal	
plu_name	character	17
rscv_len	hex array	256

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が **DETAIL** に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

lu_name

LU の名前。

pu_name

LU に関連した PU の名前。

d Lus_name

SSCP-LU セッションが活動状態の場合、このパラメーターには LU が使用する DLUS ノードの名前が含まれています。活動状態でない場合は使用されません。

lu_location

LU の場所。

可能な値は次のいずれかです。

INTERNAL

LU は、ローカル・ノードにあります。

DOWNSTREAM

LU はダウンストリーム・ノードにあります (ネットワーク・ノードのみ)。

nau_address

1 から 255 の範囲の、LU のネットワーク・アクセス可能装置 (NAU) のアドレス。

plu_name

PLU-SLU セッションが活動状態の場合、このパラメーターには、PLU の名前が含まれています。活動状態でない場合は、17 個のゼロに設定されます。

rscv_len

「Systems Network Architecture: Formats」で定義されている経路選択制御ベクトル (RSCV)。この制御ベクトルは、ネットワーク内のセッション経路を定義し、BIND で送信されます。この RSCV が含まれるのは、ノードの構成で、DLUR RSCV を保管することが指定されており、PLU-SLU セッションが活動状態の場合だけです。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

指定された名前から始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*lu_name* パラメーター値が無効です。

INVALID_FILTER_OPTION

filter パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ローカル・ノードは DLUR をサポートしません。このサポートは、*define_node* コマンドの *dlur_support* パラメーターで定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_dlur_pu

query_dlur_pu コマンドは、CS/AIX の DLUR 機能を使用している活動状態の PU に関する情報を戻します。このコマンドを使用すると、使用するオプションに応じて、特定の PU または複数の PU に関する情報を取得することができます。

非活動状態のノードにこのコマンドを発行すると、このコマンドは、ローカル・ノードで定義されている PU に関する情報しか戻しません。実行中のノードにこのコマンドを発行すると、このコマンドは、ローカル・ノードで定義されている PU と、このノードで DLUR を使用している活動状態のダウンストリーム PU に関する情報を戻します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_dlur_pu]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
pu_name	character	8	(null string)
dlus_name	character	17	(null string)
filter	constant		NONE

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻される DLUR PU の最大数。特定の DLUR PU に関するデータを戻す場合は 1 を、複数の DLUR PU に関するデータを戻す場合は 1 よりも大きな値を、すべての DLUR PU に関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合の DLUR PU のリスト内の開始位置。このリストは、*pu_name* 順に並べられます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

pu_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

pu_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

pu_name

情報を求める PU の名前、または PU のリストへの索引として使用する名前。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。

dlus_name

PU 情報が必要とされている DLUS の名前。特定の DLUS に関連付けられている PU に関する情報のみをリストする場合は、DLUS 名を指定します。PU がリストされるのは、その PU が、指定された DLUS

ノードに対する SSCP-PU セッションを持っている場合のみです。すべての DLUS の完全なリストを取得する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

1 から 8 文字のネットワーク名、その後ろにピリオド、その後ろに 1 から 8 文字の DLUS 名、という構成の 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

filter

戻された PU をその位置に応じてフィルターにかけるかどうかを 指定します。指定可能なネットワーク・ノードの値は、以下のとおりです。

INTERNAL

内部 PU に関する情報のみを戻します。

DOWNSTREAM

ダウンストリーム PU に関する情報のみを戻します。

NONE

場所に関係なく、すべての PU に関する情報を戻します。

エンド・ノードの場合、このパラメーターはそのまま保持されます (ダウンストリーム DLUR PU はサポートされていません)。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
pu_name	character	8
description	character	31

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が SUMMARY に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

pu_name

PU の名前。

description

PU の定義に指定された、PU を説明するテキスト・ストリング。このパラメーターは、PU が定義済みの内部 PU ではなく、活動状態のダウンストリーム PU である場合は、そのまま保持されます。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
pu_name	character	8
description	character	31
defined_dlus_name	character	17
bkup_dlus_name	character	17
pu_id	hex array	4
pu_location	constant	
active_dlus_name	character	17
ans_support	constant	
pu_status	constant	
dlus_session_status	constant	
pcid	hex array	8
fqcp_name	character	17
initially_active	constant	
dlus_retry_timeout		
dlus_retry_limit		

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が DETAIL に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

pu_name

PU の名前。

description

PU の定義に指定された、PU を説明するテキスト・ストリング。このパラメーターは、PU が定義済みの内部 PU ではなく、活動状態のダウンストリーム PU である場合は、そのまま保持されます。

defined_dlus_name

define_internal_pu または define_*_ls コマンドのいずれかで (dspu_services を DLUR に設定して) 定義された、DLUS ノードの名前。

bkup_dlus_name

define_internal_pu または define_*_ls コマンドのいずれかで (dspu_services を DLUR に設定して) 定義された、バックアップ DLUS ノードの名前。

pu_id

define_internal_pu で定義されたか、またはダウンストリーム PU からの XID で取得された PU の ID。この ID は 4 バイトの 16 進数ストリングで、ブロック番号 (3 つの 16 進数字) およびノード番号 (5 つの 16 進数字) で構成されています。

pu_location

PU の場所。

可能な値は次のいずれかです。

INTERNAL

PU はローカル・ノードにあります。

DOWNSTREAM

PU は、ダウンストリーム・ノード (ネットワーク・ノードのみ) にあります。

active_dlus_name

現在 PU が使用している DLUS ノードの名前。SSCP-PU セッションが活動状態でない場合は、このパラメーターは戻されません。

ans_support

DLUS で定義され、SSCP-PU を活動化する時に DLUS から DLUR に送られた、自動ネットワーク・シャットダウン (ANS) のサポート。このパラメーターは、PU を制御している SSCP に対して、サブエリア・ノードが自動ネットワーク・シャットダウン手順を開始する場合に、リンク・レベルの接続を継続するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

CONT

リンク・レベルの接続を継続します。

STOP

リンク・レベルの接続を停止します。

このパラメーターは、SSCP-PU セッションが活動状態でない場合は、そのまま保持されます。

pu_status

(DLUR に関連付けられている) PU のステータス。可能な値は次のいずれかです。

RESET

PU はリセット状態です。

PEND_ACTPU

PU は、ホストからの ACTPU を待っています。

PEND_ACTPU_RSP

DLUR は、転送された ACTPU に PU が応答するのを待っています。

ACTIVE

PU は活動状態です。

PEND_DACTPU_RSP

DLUR は、転送された DACTPU に PU が応答するのを待っています。

PEND_INOP

DLUR は、必要な全イベントが完了するのを待って、PU を非活動状態にします。

dlus_session_status

現在 PU が使用している DLUS パイプのステータス。可能な値は次のいずれかです。

PENDING_ACTIVE

パイプは活動化されています。

ACTIVE

パイプは活動状態です。

PENDING_INACTIVE

パイプは非活動化されています。

INACTIVE

パイプは活動状態ではありません。

pcid

DLUS パイプで使用されるプロシージャー相関関係子 ID (PCID)。SSCP-PU セッションが活動状態でない場合、このパラメーターは使用されません。

fqcp_name

DLUS パイプで使用される制御点の完全修飾名。SSCP-PU セッションが活動状態でない場合、このパラメーターは使用されません。

pcid パラメーターと *fqcp_name* パラメーターを組み合わせることにより、DLUR を使用して経路指定されるセッションを持つ各 PU を一意に識別することができます。*fqcp_name* パラメーターは、SSCP-PU セッションの活動化を開始したノードに応じて、DLUR ノードまたは DLUS ノードのいずれかの CP 名になります。

initially_active

ノードが開始されたときにこの PU が自動的に開始されるかどうかを指定します。ダウンストリーム PU の場合、このパラメーターは使用されません。内部 PU の場合は次の値を使用できます。

YES

ノードが開始されると、この PU は自動的に開始されます。

NO

PU は自動的に開始されません。手動で開始する必要があります。

dlus_retry_timeout

DLUS およびバックアップ DLUS に接続しようとする時間間隔 (秒)。値 0 (ゼロ) を指定すると、*define_dlur_defaults* コマンドからの値が使用されます。

dlus_retry_limit

初期障害の後に、DLUS と再接続しようとする回数。値 0 (ゼロ) を指定すると、*define_dlur_defaults* コマンドからの値が使用されます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PU_NAME

指定された名前が始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*pu_name* パラメーター値が無効です。

INVALID_FILTER_OPTION

filter パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ローカル・ノードは DLUR をサポートしません。このサポートは、define_node コマンドの dlur_support パラメーターで定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_dlus

query_dlus コマンドは、CS/AIX の従属 LU リクエスター (DLUR) 機能に認識されている従属 LU サーバー (DLUS) ノードに関する情報を戻します。このコマンドは、使用されるオプションに応じて、特定の DLUS または複数の DLUSs に関する情報を取得するために使用できます。このコマンドは、パイプ統計 (SSCP-PU セッション統計および SSCP-LU セッション統計) も戻します。セッションの照会 コマンドを使用して、PLU-SLU セッション統計を取得することができます。

If this command is issued to an inactive node, it returns information only about DLUS nodes defined using define_internal_pu or デフォルトの define_dlur_defaults. このコマンドが実行中のノードに対して発行されると、define_internal_pu または デフォルトの define_dlur_defaults およびアクティブな DLUS ノードを使用して定義された DLUS ノードに関する情報を戻します。query_dlus コマンドは、バックアップ DLUS がアクティブになっていない限り、デフォルトの define_dlur_defaults を使用して定義されたバックアップ DLUS に関する情報を戻しません。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_dlus]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
dlus_name	character	17	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻される DLUS の最大数。特定の DLUS に関するデータを戻す場合は 1 を、複数の DLUS に関するデータを戻す場合は 1 よりも大きな値を、すべての DLUS に関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の DLUS リスト内の開始位置。このリストは、dlus_name 順に並べられます。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

dlus_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

dlus_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

dlus_name

情報を求める DLUS の名前、または DLUS のリストの索引として使用する名前。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。1 から 8 文字のネットワーク名、その後ろにピリオド、その後ろに 1 から 8 文字の DLUS 名、という構成の 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
<i>dlus_name</i>	character	17
<i>is_default</i>	constant	
<i>is_backup_default</i>	constant	
<i>pipe_state</i>	constant	
<i>num_active_pus</i>	decimal	
<i>reqactpu_sent</i>	decimal	
<i>reqactpu_rsp_received</i>	decimal	
<i>actpu_received</i>	decimal	
<i>actpu_rsp_sent</i>	decimal	
<i>reqdactpu_sent</i>	decimal	
<i>reqdactpu_rsp_received</i>	decimal	
<i>dactpu_received</i>	decimal	
<i>dactpu_rsp_sent</i>	decimal	
<i>actlu_received</i>	decimal	
<i>actlu_rsp_sent</i>	decimal	
<i>dactlu_received</i>	decimal	
<i>dactlu_rsp_sent</i>	decimal	
<i>sscp_pu_mus_rcvd</i>	decimal	
<i>sscp_pu_mus_sent</i>	decimal	
<i>sscp_lu_mus_rcvd</i>	decimal	
<i>sscp_lu_mus_sent</i>	decimal	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

dlus_name

DLUS の名前。

is_default

DLUS ノードが、*define_dlur_defaults* コマンドによってデフォルトとして指定されているかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

DLUS ノードは、デフォルトとして指定されています。

NO

DLUS ノードは、デフォルトとして指定されていません。

is_backup_default

define_dlur_defaults コマンドによって DLUS ノードがバックアップのデフォルトとして指定されているかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

DLUS ノードは、バックアップのデフォルトとして指定されています。

NO

DLUS ノードは、バックアップのデフォルトとして指定されていません。

pipe_state

DLUS とのパイプの状態。可能な値は次のいずれかです。

PENDING_ACTIVE

パイプは活動化されています。

ACTIVE

パイプは活動状態です。

PENDING_INACTIVE

パイプは非活動化されています。

INACTIVE

パイプは活動状態ではありません。

num_active_pus

現在 DLUS とのパイプを使用している PU の数。

reqactpu_sent

PU の活動化を要求するために、パイプで DLUS に送られた REQACTPU の数。

reqactpu_rsp_received

パイプで DLUS から受け取った RSP(REQACTPU) の数。

actpu_received

PU を活動化するために、パイプで DLUS から受け取った ACTPU の数。

actpu_rsp_sent

パイプで DLUS に送られた RSP(ACTPU) の数。

reqdactpu_sent

PU の非活動化を要求するために、パイプで DLUS に送られた REQDACTPU の数。

reqdactpu_rsp_received

パイプで DLUS から受け取った RSP(REQDACTPU) の数。

dactpu_received

PU を非活動化するために、パイプで DLUS から受け取った DACTPU の数。

dactpu_rsp_sent

パイプで DLUS に送られた RSP(DACTPU) の数。

actlu_received

LU を活動化するために、パイプで DLUS から受け取った ACTLU の数。

actlu_rsp_sent

パイプで DLUS に送られた RSP(ACTLU) の数。

dactlu_received

LU を非活動化するために、パイプで DLUS から受け取った DACTLU の数。

dactlu_rsp_sent

パイプで DLUS に送られた RSP(DACTLU) の数。

sscp_pu_mus_rcvd

パイプで DLUS から受け取った SSCP-PU メッセージ単位 (MU) の数。

sscp_pu_mus_sent

パイプで DLUS に送られた SSCP-PU メッセージ単位 (MU) の数。

sscp_lu_mus_rcvd

パイプで DLUS から受け取った SSCP-LU メッセージ単位 (MU) の数。

sscp_lu_mus_sent

パイプで DLUS に送られた SSCP-LU メッセージ単位 (MU) の数。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_DLUS_NAME

指定された名前ですべてのエントリをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*dlus_name* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc**FUNCTION_NOT_SUPPORTED**

ローカル・ノードは DLUR をサポートしません。このサポートは、*define_node* コマンドの *dlur_support* パラメーターで定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_domain_config_file

query_domain_config_file コマンドは、ドメイン構成ファイルに含まれているヘッダー情報 (CS/AIX バージョン番号、ファイルの改訂レベル、およびオプションのコメント・ストリング) を戻します。

このコマンドは、ノード名を指定せずに実行する必要があります。

指定パラメーター

```
[query_domain_config_file]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
major_version	decimal	
minor_version	decimal	
update_release	decimal	
revision_level	decimal	
comment	character	99

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

major_version から update_release まで

このファイルの作成に使用された CS/AIX のリリースの内部バージョン ID。

revision_level

(CS/AIX が内部的に保管している) このファイルの改訂レベル。

comment

ファイルに関する情報を含むオプションのコメント・ストリング。*define_domain_config_file* コマンドで指定されます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

ワークフローを停止する

ワークフローを停止する コマンドは、SNA ゲートウェイおよび DLUR を使用するダウンストリーム LU に関する情報を戻します。この情報は、判別されたデータ (実行中に動的に収集され、ノードが活動状態の場合にのみ戻されるデータ) および定義済みデータ (ダウンストリームの `define_downstream_lu` で提供されるデータ) として構造化されます DLUR がサポートする LU の場合、ダウンストリーム LU が活動化されると、暗黙的に定義されたデータが置かれます。

このコマンドを使用すると、使用するオプションに応じて、特定の LU または複数の LU に関する情報を取得することができます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_downstream_lu]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
dslu_name	character	8	(null string)
dspu_name	character	8	(null string)
dspu_services	constant		NONE

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻されるダウンストリーム LU の最大数。特定のダウンストリーム LU に関するデータを戻す場合は 1 を、複数のダウンストリーム LU に関するデータを戻す場合は 1 よりも大きな値を、すべてのダウンストリーム LU に関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合のリスト内の開始位置。リストは、`dspu_name`、`dslu_name` の順に並べられます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

dspu_name パラメーターと *dslu_name* パラメーターを組み合わせ指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

dspu_name パラメーターおよび *dslu_name* パラメーターを組み合わせ指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

dslu_name

情報を求める LU の名前、または LU のリストの索引として使用する名前。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。

dspu_name

LU 情報が必要とされている PU の名前。LS の定義で指定されています。特定の PU に関連付けられている LU に関する情報のみをリストするには、その PU 名を指定します。すべての PU の完全なリストを取得する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

dspu_services

DSPU サービス・フィルター。*query_downstream_lu* コマンドが実行中のノードに発行された場合、このパラメーターは、戻された値を、LU に与えられたサービスのタイプによってフィルターに掛けるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

PU_CONCENTRATION

SNA ゲートウェイからサービスを受けるダウンストリーム LU に関する情報のみを戻します。

DLUR

DLUR からサービスを受けるダウンストリーム LU に関する情報のみを戻します。

NONE

すべてのダウンストリーム LU に関する戻り情報。

ノードが実行中でない場合、このパラメーターは無視されます。CS/AIX は、すべてのダウンストリーム LU に関する情報を戻します。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length	
<i>dslu_name</i>	character	8	
<i>dspu_name</i>	character	8	
<i>description</i>	character	31	
<i>dspu_services</i>	constant		
<i>nau_address</i>	decimal		
<i>lu_sscp_sess_active</i>	constant		
<i>plu_sess_active</i>	constant		

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が SUMMARY に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

dslu_name

ダウンストリーム LU の名前。

dspu_name

ダウンストリーム LU に関連付けられている PU の名前。

description

SNA ゲートウェイでサポートされている LU の場合、このパラメーターは、ダウンストリーム LU の定義に指定されている、ダウンストリーム LU を説明するテキスト・ストリングです。DLUR サポート LU の場合、このパラメーターは予約済みです。

dspu_services

query_downstream_lu コマンドが実行中のノードに発行された場合、このパラメーターは、ローカル・ノードによってダウンストリーム LU に提供されるサービスを指定します。

可能な値は次のいずれかです。

PU_CONCENTRATION

ダウンストリーム LU は SNA ゲートウェイからサービスを受けます。

DLUR

ダウンストリーム LU は DLUR からサービスを受けます。

nau_address

ダウンストリーム LU のネットワーク・アクセス可能単位 (NAU) アドレス。このアドレスは、1 から 255 の範囲にあります。

lu_sscp_sess_active

LU-SSCP セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

plu_sess_active

PLU-SLU セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
dslu_name	character	8
lu_sscp_sess_active	constant	
plu_sess_active	constant	
dsplu_services	constant	
lu_sscp_rcv_ru_size	decimal	
lu_sscp_send_ru_size	decimal	
lu_sscp_max_send_btu_size	decimal	
lu_sscp_max_rcv_btu_size	decimal	
lu_sscp_max_send_pac_win	decimal	
lu_sscp_cur_send_pac_win	decimal	
lu_sscp_max_rcv_pac_win	decimal	
lu_sscp_cur_rcv_pac_win	decimal	
lu_sscp_send_data_frames	decimal	
lu_sscp_send_fmd_data_frames	decimal	
lu_sscp_send_data_bytes	decimal	
lu_sscp_rcv_data_frames	decimal	
lu_sscp_rcv_fmd_data_frames	decimal	
lu_sscp_rcv_data_bytes	decimal	
lu_sscp_sidh	hex number	
lu_sscp_sidl	hex number	
lu_sscp_odai	constant	
lu_sscp_ls_name	character	8
lu_sscp_pacing_type	constant	
ds_plu_rcv_ru_size	decimal	
ds_plu_send_ru_size	decimal	
ds_plu_max_send_btu_size	decimal	
ds_plu_max_rcv_btu_size	decimal	
ds_plu_max_send_pac_win	decimal	
ds_plu_cur_send_pac_win	decimal	
ds_plu_max_rcv_pac_win	decimal	
ds_plu_cur_rcv_pac_win	decimal	
ds_plu_send_data_frames	decimal	
ds_plu_send_fmd_data_frames	decimal	
ds_plu_send_data_bytes	decimal	
ds_plu_rcv_data_frames	decimal	
ds_plu_rcv_fmd_data_frames	decimal	
ds_plu_rcv_data_bytes	decimal	
ds_plu_sidh	hex number	
ds_plu_sidl	hex number	
ds_plu_odai	constant	
ds_plu_ls_name	character	8
ds_plu_pacing_type	constant	
us_plu_rcv_ru_size	decimal	
us_plu_send_ru_size	decimal	
us_plu_max_send_btu_size	decimal	
us_plu_max_rcv_btu_size	decimal	
us_plu_max_send_pac_win	decimal	
us_plu_cur_send_pac_win	decimal	

us_plu_max_rcv_pac_win	decimal	
us_plu_cur_rcv_pac_win	decimal	
us_plu_send_data_frames	decimal	
us_plu_send_fmd_data_frames	decimal	
us_plu_send_data_bytes	decimal	
us_plu_rcv_data_frames	decimal	
us_plu_rcv_fmd_data_frames	decimal	
us_plu_rcv_data_bytes	decimal	
us_plu_sidh	hex number	
us_plu_sidl	hex number	
us_plu_odai	constant	
us_plu_ls_name	character	8
us_plu_pacing_type	constant	
description	character	31
nau_address	decimal	
dspu_name	character	8
host_lu_name	character	8
allow_timeout	constant	
delayed_logon	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が *DETAIL* に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

dslu_name

ダウンストリーム LU の名前。

lu_sscp_sess_active

LU-SSCP セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

plu_sess_active

PLU-SLU セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

dspu_services

query_downstream_lu コマンドが実行中のノードに発行された場合、このパラメーターは、ローカル・ノードによってダウンストリーム LU に提供されるサービスを指定します。

可能な値は次のいずれかです。

PU_CONCENTRATION

ダウンストリーム LU は SNA ゲートウェイからサービスを受けます。

DLUR

ダウンストリーム LU は DLUR からサービスを受けます。

セッションの統計情報は、3 つのセッションそれぞれに対して組み込まれます (LU-SSCP セッションの場合は *lu_sscp_**、ダウンストリーム PLU-SLU セッションの場合は *ds_plu_**、そしてアップストリーム PLU-SLU セッションの場合は *us_plu_**)。これらセッション・タイプの 1 つが、以下のパラメーターよりも前に置かれます。

rcv_ru_size

受信できる最大 RU サイズ。LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。

send_ru_size

送信 RU の最大サイズ。LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。

max_send_btu_size

送信できる BTU の最大サイズ。

max_rcv_btu_size

受信できる BTU の最大サイズ。

max_send_pac_win

このセッションの送信ペーシング・ウィンドウの最大サイズ。LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。

cur_send_pac_win

このセッションの送信ペーシング・ウィンドウの現行サイズ。LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。

max_rcv_pac_win

このセッションの受信ペーシング・ウィンドウの最大サイズ。LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。

cur_rcv_pac_win

このセッションの受信ペーシング・ウィンドウの現行サイズ。LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。

send_data_frames

送信された通常フロー・データ・フレームの数。

send_fmd_data_frames

送信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

send_data_bytes

送信された通常フロー・データ・バイトの数。

rcv_data_frames

受信された通常フロー・データ・フレームの数。

rcv_fmd_data_frames

受信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

rcv_data_bytes

受信された通常フロー・データ・バイトの数。

以下の3つのパラメーターは、セッションのローカル形式セッション ID (LFSID) を識別します。LFSID は、以下のパラメーターで構成されます。

sidh

セッション ID の上位バイト。(SNA ゲートウェイからサービスを受ける LU のアップストリーム PLU-SLU セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。)

sidl

セッション ID の下位バイト。(SNA ゲートウェイからサービスを受ける LU のアップストリーム PLU-SLU セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。)

odai

Origin Destination Assignor Indicator。(SNA ゲートウェイからサービスを受ける LU のアップストリーム PLU-SLU セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。)可能な値は次のいずれかです。

YES

BIND 送信側は、2 次リンク・ステーションを含むノードです。

NO

BIND 送信側は、1 次リンク・ステーションを含むノードです。

ls_name

統計に関連したリンク・ステーション名。(SNA ゲートウェイからサービスを受ける LU のアップストリーム PLU-SLU セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。)

spacing_type

このセッションで使用している受信ペーシングのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

- NONE
- FIXED

セッション・タイプの接頭部が、以下のパラメーターよりも前に置かれることはありません。

description

ダウンストリーム LU の定義に指定された、ダウンストリーム LU を説明するテキスト・ストリング。

このパラメーターは、DLUR でサポートされる LU 用に保持されます。

nau_address

ダウンストリーム LU のネットワーク・アクセス可能装置のアドレス。このアドレスは、1 から 255 の範囲にあります。

dspu_name

ダウンストリーム LU に関連付けられている PU の名前。

host_lu_name

SNA ゲートウェイによってサポートされている LU の場合、ダウンストリーム LU が使用するホスト LU またはホスト LU プールの名前。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合は、このフィールドにストリング #PRIRUI# が設定されます。

このパラメーターは、DLUR のサービスを受けるダウンストリーム LU 用に保持されます。

allow_timeout

このダウンストリーム LU が、アップストリーム LU とのセッションがタイムアウトになることを許可するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

このダウンストリーム LU は、アップストリーム LU とのセッションがタイムアウトになることを許可します。

NO

このダウンストリーム LU は、アップストリーム LU とのセッションがタイムアウトになることを許可しません。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合、このフィールドは無視されます。

delayed_logon

このダウンストリーム LU が、遅延ログオンを使用するかどうかを指定します (アップストリーム LU は、ユーザーがそれを活動化するよう要求するまでは、活動化されません。可能な値は次のいずれかです。

YES

このダウンストリーム LU は、遅延ログオンを使用します。

NO

このダウンストリーム LU は、遅延ログオンを使用しません。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合、このフィールドは無視されます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

list_options パラメーターは、指定名から始まるすべてのエントリーをリストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*lu_name* パラメーターに指定された値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ローカル・ノードは SNA ゲートウェイまたは DLUR をサポートしていません。サポートは、ノード定義の *pu_conc_support* パラメーターと *dlur_support* パラメーターで定義されています。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_downstream_pu

`query_downstream_pu` コマンドは、SNA ゲートウェイ、DLUR、またはその両方を使用するダウンストリーム PU に関する情報を戻します。このコマンドを使用すると、使用するオプションに応じて、特定の PU または複数の PU に関する情報を取得することができます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[<code>query_downstream_pu</code>]			
<code>num_entries</code>	decimal		1
<code>list_options</code>	constant		LIST_INCLUSIVE
<code>dspu_name</code>	character	8	(null string)
<code>dspu_services</code>	constant		NONE

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻されるダウンストリーム PU の最大数。特定のダウンストリーム PU に関するデータを戻す場合は 1 を、複数のダウンストリーム PU に関するデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値を、すべてのダウンストリーム PU に関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のダウンストリーム PU のリスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

dspu_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

dspu_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

dspu_name

情報が必要とされている PU の名前 (define_*_ls で定義されたもの)、または PU のリストの索引として使用される名前。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されません。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。

dspu_services

DSPU サービス・フィルター。PU に提供されたサービスのタイプによって戻り情報をフィルターに掛けるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

PU_CONCENTRATION

SNA ゲートウェイからサービスを受けるダウンストリーム PU のみに関する戻り情報。

DLUR

DLUR からサービスを受けるダウンストリーム PU のみに関する戻り情報。

NONE

すべてのダウンストリーム PU に関する戻り情報。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length	
dspu_name		character	8
description	character	31	
ls_name	character	8	
pu_sscp_sess_active	constant		
dspu_services	constant		
rcv_ru_size	decimal		
send_ru_size	decimal		
max_send_btu_size	decimal		
max_rcv_btu_size	decimal		
send_data_frames	decimal		
send_fmd_data_frames	decimal		
send_data_bytes	decimal		
rcv_data_frames	decimal		
rcv_fmd_data_frames	decimal		
rcv_data_bytes	decimal		
sidh	hex number		
sidl	hex number		
odai	constant		
pacing_type	constant		

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

dspu_name

ダウンストリーム PU の名前。

description

ダウンストリーム PU に対する LS の定義に指定された、その LS を説明するテキスト・ストリング。

ls_name

ダウンストリーム PU へのアクセスに使用する LS の名前。

pu_sscp_sess_active

ダウンストリーム PU との PU-SSCP セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

dspu_services

PU に提供されるサービスのタイプを指定します。

可能な値は次のいずれかです。

PU_CONCENTRATION

ダウンストリーム PU は SNA ゲートウェイからサービスを受けます。

DLUR

ダウンストリーム PU は DLUR からサービスを受けます。

rcv_ru_size

受信 RU の最大サイズ。ダウンストリーム PU が SNA ゲートウェイ のサービスを受ける場合、このパラメーターは予約済みです (0 に設定されます)。

send_ru_size

送信 RU の最大サイズ。ダウンストリーム PU が SNA ゲートウェイ のサービスを受ける場合、このパラメーターは予約済みです (0 に設定されます)。

max_send_btu_size

送信できる BTU の最大サイズ。

max_rcv_btu_size

受信できる BTU の最大サイズ。

send_data_frames

送信された通常フロー・データ・フレームの数。

send_fmd_data_frames

送信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

send_data_bytes

送信された通常フロー・データ・バイトの数。

rcv_data_frames

受信された通常フロー・データ・フレームの数。

rcv_fmd_data_frames

受信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

rcv_data_bytes

受信された通常フロー・データ・バイトの数。

以下の 3 つのパラメーターは、ローカル形式セッション ID (LSFID) を識別します。

sidh

セッション ID の上位バイト。

sidl

セッション ID の下位バイト。

odai

Origin Destination Assignor Indicator。可能な値は次のいずれかです。

YES

BIND 送信側は、2 次リンク・ステーションを含むノードです。

NO

BIND 送信側は、1 次リンク・ステーションを含むノードです。

padding_type

PU-SSCP で使用している受信ペーシングのタイプ。このパラメーターは常に NONE に設定されます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PU_NAME

list_options パラメーターは、指定した名前から始まるすべてのエントリーをリストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*dspu_name* パラメーターに指定された値が無効です。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc**INVALID_PU_TYPE**

dspu_name パラメーターで指定した PU はダウンストリーム PU ではありません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc**FUNCTION_NOT_SUPPORTED**

ローカル・ノードは SNA ゲートウェイまたは DLUR をサポートしていません。サポートは、ノード定義の *pu_conc_support* パラメーターと *dlur_support* パラメーターで定義されています。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_dspu_template

query_dspu_template コマンドは、暗黙的なリンクを介した SNA ゲートウェイに使用される定義済みダウンストリーム PU テンプレートに関する情報を戻します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_dspu_template]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
template_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

エントリーの最大数 (そのエントリーのデータが戻されます)。特定のテンプレートに関するデータを戻す場合は 1 を、複数のテンプレートに関するデータを戻す場合は 1 より大きい数値を、すべてのテンプレートに関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のエントリーのリスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

template_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

template_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

template_name

情報が必要とされている DSPU テンプレートの名前、または DSPU のリストの索引として使用される名前。1 から 8 文字のローカルで表示可能な文字を指定します。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
<i>template_name</i>	character	8
<i>description</i>	character	
<i>max_instance</i>	decimal	
<i>active_instance</i>	decimal	
<i>num_of_dslu_templates</i>	decimal	
{ <i>dslu_template</i> }		
<i>min_nau</i>	decimal	
<i>max_nau</i>	decimal	
<i>allow_timeout</i>	constant	
<i>delayed_logon</i>	constant	
<i>host_lu</i>	character	8

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

template_name

DSPU テンプレートの名前。

description

define_dspu_template コマンドで定義したリソースの説明。

max_instance

同時に活動状態にできるテンプレートのインスタンスの最大数。

active_instance

現在活動状態であるテンプレートのインスタンスの数。

num_of_dslu_templates

このダウンストリーム PU テンプレートに対応するダウンストリーム LU テンプレートの数。このパラメーターの後には、DSL U テンプレートごとに 1 つずつの *num_of_dslu_templates* エントリーが続きます。

dslu_template サブレコードには、以下のパラメーターが含まれています。

min_nau

DSL U テンプレートの範囲内の最小 NAU アドレス。

max_nau

DSL U テンプレートの範囲内の最大 NAU アドレス。

allow_timeout

ホスト LU 定義で指定されたタイムアウト期間の間、セッションが非アクティブのままである場合に、このダウンストリーム LU が使用しているホスト LU を CS/AIX がタイムアウトにできるかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は、このダウンストリーム LU が使用するホスト LU をタイムアウトにすることができます。

NO

CS/AIX は、このダウンストリーム LU が使用するホスト LU をタイムアウトにすることができません。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合、このフィールドは無視されます。

delayed_logon

CS/AIX が、ダウンストリーム LU とホスト LU との接続を、ダウンストリーム LU から最初のデータを受信するまで遅らせるかどうかを示します。代わりに、シミュレートされたログオン画面が、ダウンストリーム LU に送信されます。可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は、ダウンストリーム LU とホスト LU の接続を遅らせます。

NO

CS/AIX は、ダウンストリーム LU とホスト LU の接続を遅らせません。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合、このフィールドは無視されます。

host_lu_name

範囲内のすべてのダウンストリーム LU のマップ先となるホスト LU または ホスト LU プールの名前。

ダウンストリーム LU が、ホストではなく CS/AIX 1 次 RUI アプリケーションとの通信に使用される場合は、このフィールドに文字列 #PRIRUI# が設定されます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_TEMPLATE_NAME

template_name パラメーターで指定したテンプレートが有効ではありませんでした。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_focal_point

query_focal_point コマンドは、使用するオプションに応じて、特定の管理サービス・カテゴリのフォーカル・ポイントに関する情報、または複数のフォーカル・ポイントに関する情報を戻します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_focal_point]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
ms_category	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻されるフォーカル・ポイント・エントリーの最大数。特定のフォーカル・ポイントに関するデータを戻す場合は 1 を、複数のフォーカル・ポイントに関するデータを戻す場合は 1 より大きい数値を、すべてのフォーカル・ポイントに関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のフォーカル・ポイントのリスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

ms_category パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

ms_category パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

ms_category

管理サービス・カテゴリー。このパラメーターは、*list_options* を FIRST_IN_LIST に設定した場合には使用されません。このカテゴリーは、「*Systems Network Architecture: Management Services*」で指定されているカテゴリーか、ユーザー定義のカテゴリーになります。ユーザー定義のカテゴリー名はタイプ 1134 の文字列です。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length	
ms_appl_name	character	8	
ms_category	character	8	8
fp_fqcp_name	character	17	
description	character	31	
bkup_appl_name	character	8	
bkup_fp_fqcp_name	character	17	
implicit_appl_name	character	8	
implicit_fp_fqcp_name	character	17	
fp_type	constant		
fp_status	constant		
fp_routing	constant		
appl_name	character	8	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

ms_appl_name

現在活動状態にあるフォーカル・ポイント・アプリケーションの名前。この名前は、「*Systems Network Architecture: Management Services*」で指定されている MS Discipline-Specific Application Program の名前の 1 つか、ユーザー定義のカテゴリー名になります。

ms_category

管理サービス・カテゴリー。このカテゴリーは、「*Systems Network Architecture: Management Services*」で指定されているカテゴリー名のいずれかか、ユーザー定義のカテゴリー名です。

fp_fqcp_name

フォーカル・ポイントの完全修飾制御点名。

指定した MS カテゴリーの既存のフォーカル・ポイントを取り消す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

description

フォーカル・ポイントの定義に指定した、フォーカル・ポイントを説明するテキスト・ストリング。

bkup_appl_name

バックアップ・フォーカル・ポイント・アプリケーション名。この名前は、「*Systems Network Architecture: Management Services*」で指定されている MS Discipline-Specific Application Program の 1 つか、ユーザー定義のカテゴリー名になります。

bkup_fp_fqcp_name

バックアップ・フォーカル・ポイントの完全修飾制御点名。

implicit_appl_name

define_focal_point を使用して指定した暗黙的なフォーカル・ポイント・アプリケーションの名前。この名前は、「Systems Network Architecture: Management Services」で指定されている MS Discipline-Specific Application Program の 1 つか、ユーザー定義のカテゴリ名になります。

implicit_fp_fqcp_name

define_focal_point を使用して指定した暗黙的なフォーカル・ポイントの完全修飾制御点名。

fp_type

フォーカル・ポイントのタイプ。詳細については、「Systems Network Architecture: Management Services」を参照してください。可能な値は次のいずれかです。

- EXPLICIT_PRIMARY_FP
- IMPLICIT_PRIMARY_FP
- BACKUP_FP
- DEFAULT_PRIMARY_FP
- DOMAIN_FP
- HOST_FP
- NO_FP

fp_status

フォーカル・ポイントのステータス。可能な値は次のいずれかです。

ACTIVE

フォーカル・ポイントは現在アクティブ状態です。

NOT_ACTIVE

フォーカル・ポイントは現在アクティブ状態ではありません。

PENDING

フォーカル・ポイントは保留アクティブ状態です。このステータスは、暗黙の要求がフォーカル・ポイントに送信された後、応答が受信されるまでに発生します。

NEVER_ACTIVE

指定されたカテゴリのアプリケーション登録は受け付けられましたが、このカテゴリに使用できるフォーカル・ポイント情報がありません。

fp_routing

アプリケーションでフォーカル・ポイントへのトラフィックを経路指定するため、デフォルトの経路指定または直接経路指定のどちらを使用するかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

DEFAULT

MDS_MU は、デフォルトの経路指定を使用してフォーカル・ポイントへ配信されます。

DIRECT

MDS_MU は、セッションで直接フォーカル・ポイントに経路指定されます。

appl_name

フォーカル・ポイント・カテゴリに登録されたアプリケーションの名前。この名前は、「Systems Network Architecture: Management Services」で指定されている MS Discipline-Specific Application Program のいずれかか、ユーザー定義のカテゴリ名です。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_MS_CATEGORY

list_options パラメーターは、指定された名前から始まるすべてのエントリーをリストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*ms_category* パラメーターに指定された値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ローカル・ノードは、MS ネットワーク管理機能をサポートしていません。このサポートは、*define_node* コマンドの *mds_supported* パラメーターで定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

ログ・タイプのログ・タイプ

ログ・タイプのログ・タイプ コマンドは、CS/AIX がログ・ファイルに記録するイベントのタイプに関する情報を戻します。これは、すべてのサーバーで使用されるデフォルト値を指定します (*set_log_type* によって特定のサーバー上でオーバーライドされる場合を除く)。クエリー・ログ・タイプ コマンドを使用して、特定のサーバーで使用されている値を判別できます。

CS/AIX は常に問題イベントのメッセージをログに記録します。例外イベントおよび監査イベントのメッセージをログに記録するかどうかを指定メッセージのロギングの詳細については、「[AIX 診断ガイド上の IBM Communications Server for Data Center デプロイメント](#)」を参照してください。

このコマンドは、ノード名を指定しないで発行する必要があります

指定パラメーター

[query_global_log_type]

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type
audit	constant
exception	constant
succinct_audits	constant
succinct_errors	constant

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

audit

このパラメーターは、監査メッセージを記録するかどうかを指定します。値は次のいずれかです。

YES

監査メッセージを記録します。

NO

監査メッセージを記録しません。

exception

このパラメーターは、例外メッセージを記録するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

例外メッセージを記録します。

NO

例外メッセージを記録しません。

succinct_audits

このパラメーターは、監査ログ・ファイルで簡略ログまたはフル・ログのどちらを使用するかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

監査ログ・ファイルでは、簡略ログが使用されます。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報の要約(メッセージ番号、ログ・タイプ、システム名など)、メッセージ・テキスト・ストリング、およびパラメーターが含まれています。ログの原因と必要な処置の詳細を入手するには、`snahelp` ユーティリティを使用してください。

NO

監査ログ・ファイルでは、フル・ログが使用されます。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報の完全なリスト、メッセージ・テキスト・ストリングとパラメーター、ログの原因と必要な処置に関する追加情報が含まれています。

succinct_errors

このパラメーターは、エラー・ログ・ファイルで簡略ログまたはフル・ログのどちらを使用するかを指定します。これは例外ログと問題ログの両方に適用されます。

YES

エラー・ログ・ファイルでは、簡略ログが使用されます。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報の要約(メッセージ番号、ログ・タイプ、システム名など)、メッセージ・テキスト・ストリング、およびパラメーターが含まれています。ログの原因と必要な処置の詳細を入手するには、`snahelp` ユーティリティを使用してください。

NO

エラー・ログ・ファイルでは、フル・ログが使用されます。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報の完全なリスト、メッセージ・テキスト・ストリングとパラメーター、ログの原因と必要な処置に関する追加情報が含まれています。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc**NOT_CENTRAL_LOGGER**

コマンドが特定のノードに対して発行されました。このコマンドは、ノード名を指定せずに発行する必要があります。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_isr_session

query_isr_session コマンドは、ネットワーク・ノードが中間セッション経路指定を提供しているセッションに関する情報を戻します。このコマンドは、CS/AIX ノードがネットワーク・ノードである場合のみ使用可能であり、このノードがエンド・ノードまたは LEN ノードである場合は無効です。

このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定のセッションまたは複数のセッションに関する情報を入手するために使用できます。複数のセッションを照会する場合、戻されるエントリーはまず *pcid* 順に配列され、その次に *fqcp_name* のアルファベット順に配列されます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_isr_session]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
session_type	constant		ISR_SESSIONS
pcid	hex array	8	(null array)
fqcp_name	character	17	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

セッションの最大数(それらのセッションについてのデータが戻されます)。特定のセッションに関するデータを戻す場合は 1 を、複数のセッションに関するデータを戻す場合は 1 より大きい数値を、すべてのセッションに関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合のセッションのリスト内の開始位置。リストは、最初に *pcid* で (数値により)、次に *fqcp_name* の順番で並べられます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

pcid パラメーターと *fqcp_name* パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

pcid パラメーターと *fqcp_name* パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

session_type

DLUR 保守セッションまたは正規の ISR セッションのどちらを照会するかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

DLUR_SESSIONS

DLUR 保守セッションを照会します。

ISR_SESSIONS

正規の ISR セッションを照会します。

pcid

プロシージャー相関係数 ID。この ID は、8 バイトからなる 16 進数ストリングです。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。

fqcp_name

情報を求めるセッションの制御点の完全修飾名、またはセッションのリストの索引として使用する名前。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。1 から 8 文字のネットワーク名、その後ろにピリオド、その後ろに 1 から 8 文字の制御点名という構成の 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
<i>pcid</i>	hex array	8
<i>fqcp_name</i>	character	17

コマンドが正常に実行され、 *list_options* パラメーター値が SUMMARY に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

pcid

プロシージャー相関係数 ID。この ID は、8 バイトからなる 16 進数ストリングです。

fqcp_name

CP の完全修飾名。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
<i>pcid</i>	hex array	8
<i>fqcp_name</i>	character	17
<i>trans_pri</i>	constant	
<i>cos_name</i>	character	8
<i>ltd_res</i>	constant	

2 つのセッション (1 次および 2 次) のそれぞれに、以下のパラメーターが戻されます。

<i>rcv_ru_size</i>	decimal
<i>send_ru_size</i>	decimal
<i>max_send_btu_size</i>	decimal
<i>max_rcv_btu_size</i>	decimal
<i>max_send_pac_win</i>	decimal
<i>cur_send_pac_win</i>	decimal
<i>send_rpc</i>	decimal
<i>max_rcv_pac_win</i>	decimal
<i>cur_rcv_pac_win</i>	decimal
<i>rcv_rpc</i>	decimal
<i>send_data_frames</i>	decimal
<i>send_fmd_data_frames</i>	decimal
<i>send_data_bytes</i>	decimal
<i>send_fmd_data_bytes</i>	decimal
<i>rcv_data_frames</i>	decimal
<i>rcv_fmd_data_frames</i>	decimal
<i>rcv_data_bytes</i>	decimal
<i>rcv_fmd_data_bytes</i>	decimal
<i>sidh</i>	hex number

sid1	hex number	
odai	constant	
ls_name (or rtp_name)	character	8
rscv	hex array	256

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が *DETAIL* に設定されていた場合、*CS/AIX* は以下のパラメーターを戻します。

pcid

プロシージャー相関係数 ID。この ID は、8 バイトからなる 16 進数ストリングです。

fqcp_name

CP の完全修飾名。

trans_pri から ltd_res

これらのパラメーターの詳細については、[445 ページの『query_session』](#)を参照してください。

rscv

「*Systems Network Architecture: Formats*」で定義されている経路選択制御ベクトル (RSCV)。この制御ベクトルは、ネットワーク内のセッション経路を定義し、*BIND* で送信されます。この RSCV が組み込まれるのは、*ISR* セッションについての RSCV を保管するようノードの構成で指示されている場合のみです。

2 つのセッション (1 次および 2 次) のそれぞれに、以下のパラメーターが戻されます。

rcv_ru_size

受信 RU の最大サイズ。

send_ru_size

送信 RU の最大サイズ。

max_send_btu_size

送信できる BTU の最大サイズ。

max_rcv_btu_size

受信できる BTU の最大サイズ。

max_send_pac_win

送信ペーシング・ウィンドウの最大サイズ。

cur_send_pac_win

送信ペーシング・ウィンドウの現行サイズ。

send_rpc

送信残余ペーシング・カウント。

max_rcv_pac_win

受信ペーシング・ウィンドウの最大サイズ。

cur_rcv_pac_win

受信ペーシング・ウィンドウの現行サイズ。

rcv_rpc

受信残余ペーシング・カウント。

send_data_frames

送信された通常フロー・データ・フレームの数。

send_fmd_data_frames

送信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

send_data_bytes

送信された通常フロー・データ・バイトの数。

send_fmd_data_bytes

送信された通常フロー FMD データ・バイトの数。

rcv_data_frames

受信された通常フロー・データ・フレームの数。

rcv_fmd_data_frames

受信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

rcv_data_bytes

受信された通常フロー・データ・バイトの数。

rcv_fmd_data_bytes

受信された通常フロー FMD データ・バイトの数。

sidh

セッション ID の上位バイト。

sidl

セッション ID の下位バイト。

odai

Origin Destination Assignor Indicator。セッションの起動時にローカル・ノードに 1 次リンク・ステーションが含まれる場合、BIND の送信側は、このフィールドをゼロに設定し、BIND 送信側のノードに 2 次リンク・ステーションが含まれる場合は、このフィールドを 1 に設定します。

ls_name

統計に関連したリンク・ステーション名または RTP 接続の名前。これは 8 バイトからなるローカル・システム上で表示可能な文字セットのストリングです。8 バイトすべてに意味があります。このフィールドを使用して、中間セッション統計値と特定のリンク・ステーションとを相関させます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_FQPCID

list_options パラメーターは、指定した名前から始まるすべてのエントリーをリストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*pcid* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc**INVALID_VERB**

ローカル・ノードがネットワーク・ノードではありません。このコマンドは、ネットワーク・ノードでのみ使用できます。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_kernel_memory_limit

query_kernel_memory_limit コマンドは、CS/AIX が現在使用しているカーネル・メモリーの容量、これまでに使用した最大容量、および構成されている限度に関する情報を戻します。この情報を使用すると、メモリーの使用状況を検査して適切な限度を設定することが可能であり、それによって CS/AIX のコンポーネントと AIX コンピューター上のその他のプログラムに十分なメモリーを確保できます。

カーネル・メモリーの限度は、CS/AIX ソフトウェアの始動時に指定できます (詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX* 管理ガイド」を参照)。また、後でノードの実行中に変更することもできます (set_kernel_memory_limit コマンドを使用)。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_kernel_memory_limit]			
reset_max_used	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

reset_max_used

CS/AIX が、max_used 値を (このコマンドで戻した後に) 現在割り振られているメモリー量に一致するようにリセットするかどうかを指定します。これにより、システムが始動してから (または max_used 値が最後にリセットされてから) の最大使用量ではなく、このコマンドが発行されてからのメモリーの最大使用量を、後に続く query_kernel_memory_limit コマンドが戻すようになります。可能な値は次のいずれかです。

YES

現在のメモリー割り振りに一致するように max_used 値をリセットします。

NO

max_used 値をリセットしません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type
limit	decimal
actual	decimal
max_used	decimal
reset_max_used	constant

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

limit

CS/AIX が一度に使用できるカーネル・メモリーの最大量 (バイト単位)。メモリー現行割り振り量の合計がこの限度を超えることになるようなカーネル・メモリーを、CS/AIX コンポーネントが割り振ろうとすると、その割り振りは失敗します。値 0 (ゼロ) は、限度がないことを示します。

actual

現在 CS/AIX コンポーネントに割り振られているカーネル・メモリーの量 (バイト単位)。

max_used

max_used パラメーターが最後にリセットされてから (reset_max_used で説明)、または CS/AIX ソフトウェアが起動されてから、CS/AIX コンポーネントにある時点で割り振られていたカーネル・メモリーの最大量 (バイト単位)。

reset_max_used

CS/AIX が、max_used 値を (このコマンドで戻した後に) 現在割り振られているメモリー量に一致するようにリセットするかどうかを指定します。これにより、システムが始動してから (または max_used 値が最後にリセットされてから) の最大使用量ではなく、このコマンドが発行されてからのメモリーの最大使用量を、後に続く query_kernel_memory_limit コマンドが戻すようになります。可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は、現在のメモリー割り振りに一致するように max_used 値をリセットします。

NO

CS/AIX は、*max_used* 値をリセットしません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_local_lu

query_local_lu コマンドは、ローカル LU に関する情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の LU または複数の LU に関する要約情報または詳細情報を取得するために使用できます。また、CP に関連した LU (デフォルト LU) に関する情報も入手できます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_local_lu]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
pu_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す LU の最大数。特定の LU のデータを戻すには 1、複数の LU のデータを戻すには 1 より大きい数値、すべての LU のデータを戻すには 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合の LU のリスト内の開始位置。リストは、(各名前前の長さに関係なく) アルファベット順に配列されます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

lu_name パラメーターまたは lu_alias パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

lu_name パラメーターまたは *lu_alias* パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

FIRST_IN_LIST を指定した場合は、+ 文字を使用して以下のオプションを指定できます。

LIST_BY_ALIAS

リストは、LU 名の順ではなく LU 別名の順に戻されます。このオプションは、FIRST_IN_LIST とともに指定した場合にのみ有効です。(LIST_FROM_NEXT または LIST_INCLUSIVE の場合は、リストの索引としてどちらを指定したかに応じて、リストは LU 名順または LU エイリアス順になります。)

lu_name

情報を求める LU の完全修飾名、または LU のリストの索引として使用する名前。この名前は 8 バイトの文字列です。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。名前ではなくエイリアスを使用して LU を識別する場合は、このパラメーターを指定しないでください。*lu_alias* パラメーターでエイリアスを指定してください。デフォルト LU を識別する場合は、いずれのパラメーターも指定しないでください。

lu_alias

情報が必要とされている LU のエイリアス、または LU のリストの索引として使用される名前。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。

エイリアスではなく LU 名を使用して LU を識別する場合は、このパラメーターを指定しないでください。*lu_name* パラメーターで名前を指定してください。デフォルト LU を識別する場合は、いずれのパラメーターも指定しないでください。

pu_name

PU 名フィルター。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。特定の PU に関連した LU に関する情報のみを戻すには、PU 名を指定します。PU 名を使用してフィルタリングしないで情報を戻す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
<i>lu_name</i>	character	8
<i>lu_alias</i>	character	8
<i>description</i>	character	31

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に SUMMARY を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

lu_name

LU 名。

lu_alias

LU エイリアス。

description

LU の定義に指定された、ローカル LU を説明するテキスト・ストリング。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
<i>lu_name</i>	character	8
<i>description</i>	character	31
<i>list_name</i>	character	14
<i>lu_alias</i>	character	8
<i>nau_address</i>	decimal	
<i>syncpt_support</i>	constant	
<i>lu_session_limit</i>	decimal	
<i>default_pool</i>	constant	
<i>pu_name</i>	character	8
<i>lu_attributes</i>	constant	
<i>allowed_sscp_id</i>	decimal	

sys_name	character	128
timeout	decimal	

以下のパラメーターは従属 LU だけに使用されます。独立 LU には、これらのパラメーターは予約済みです (2 進ゼロに設定される)。この LU とパートナー LU 間の適切なセッションに対しては、`query_session` コマンドを発行することにより、同等の情報を入手できます。

lu_sscp_sess_active	constant
rcv_ru_size	decimal
send_ru_size	decimal
max_send_btu_size	decimal
max_rcv_btu_size	decimal
max_send_pac_win	decimal
cur_send_pac_win	decimal
max_rcv_pac_win	decimal
cur_rcv_pac_win	decimal
send_data_frames	decimal
send_fmd_data_frames	decimal
send_data_bytes	decimal
rcv_data_frames	decimal
rcv_fmd_data_frames	decimal
rcv_data_bytes	decimal
sidh	hex number
sidl	hex number
odai	constant
pacing_type	constant
active_sscp_id	decimal

コマンドが正常に実行され、`list_options` パラメーター値に `DETAIL` を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

lu_name

LU 名。

description

LU の定義に指定された、ローカル LU を説明するテキスト・ストリング。

list_name

このローカル LU で使用されるセキュリティー・アクセス・リストの名前 (`define_security_access_list` コマンドを使用して定義)。このパラメーターが設定されていない場合は、すべてのユーザーがこの LU を使用できます。

lu_alias

LU エイリアス。

nau_address

LU のネットワーク・アクセス可能装置 (NAU) アドレス。このアドレスは、LU が従属 LU の場合は 1 から 255 の範囲で、LU が独立 LU の場合は 0 (ゼロ) です。

syncpt_support から timeout

これらのパラメーターの詳細については、73 ページの『`define_local_lu`』を参照してください。このコマンドで戻されるパラメーター `allowed_sscp_id` は、LU の定義に指定された `sscp_id` パラメーターに対応します。

以下のパラメーターは従属 LU だけに使用されます。独立 LU には、これらのパラメーターは予約済みです (2 進ゼロに設定される)。この LU とパートナー LU 間の適切なセッションに対しては、`query_session` コマンドを発行することにより、同等の情報を入手できます。

lu_sscp_sess_active

LU-SSCP セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

rcv_ru_size

受信できる最大 RU サイズ。

send_ru_size

送信 RU の最大サイズ。

max_send_btu_size

送信できる BTU の最大サイズ。

max_rcv_btu_size

受信できる BTU の最大サイズ。

max_send_pac_win

このセッションの送信ペーシング・ウィンドウの最大サイズ。

cur_send_pac_win

このセッションの送信ペーシング・ウィンドウの現行サイズ。

max_rcv_pac_win

このセッションの受信ペーシング・ウィンドウの最大サイズ。

cur_rcv_pac_win

このセッションの受信ペーシング・ウィンドウの現行サイズ。

send_data_frames

送信された通常フロー・データ・フレームの数。

send_fmd_data_frames

送信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

send_data_bytes

送信された通常フロー・データ・バイトの数。

rcv_data_frames

受信された通常フロー・データ・フレームの数。

rcv_fmd_data_frames

受信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

rcv_data_bytes

受信された通常フロー・データ・バイトの数。

以下の 3 つのパラメーターは、ローカル形式セッション ID (LFSID) を識別します。

sidh

セッション ID の上位バイト。

sidl

セッション ID の下位バイト。

odai

Origin Destination Assignor Indicator。可能な値は次のいずれかです。

YES

BIND 送信側は、2 次リンク・ステーションを含むノードです。

NO

BIND 送信側は、1 次リンク・ステーションを含むノードです。

pacing_type

このセッションで使用している受信ペーシングのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

- NONE
- FIXED

active_sscp_id

この LU を活動化した SSCP の ID を示します。これは、6 バイトのバイナリー・パラメーターです。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_ALIAS

指定された名前ですべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*lu_alias* パラメーター値が無効です。

INVALID_LU_NAME

指定された名前ですべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*lu_name* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_local_topology

CS/AIX ノードは、すべての隣接ノードに対する TG (伝送グループ) に関する情報を保持するローカル・トポロジー・データベースを保守します。query_local_topology コマンドは、これらの TG に関する情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の TG または複数の TG に関する要約または詳細情報を入手するために使用できます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_local_topology]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
dest	character	17	(null string)
dest_type	constant		LEARN_NODE
tg_num	decimal		0

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

TG の最大数 (その TG のデータが戻されます)。特定の TG のデータを戻す場合は 1、複数の TG のデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべての TG のデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合の TG のリスト内の開始位置。リストは、最初に *dest*、次に *dest_type* (NETWORK_NODE、END_NODE、VRN の順)、最後に *tg_num* の数値順に並んでいます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

dest、*dest_type*、*tg_num* の各パラメーターを組み合わせて指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

dest パラメーター、*dest_type* パラメーター、および *tg_num* パラメーターの組み合わせで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

dest

情報を求める TG の宛先ノードの完全修飾名、または TG のリストの索引として使用する名前。
list_options が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、この値は無視されます。1 から 8 文字のネットワーク名、その後ろにピリオド、その後ろに 1 から 8 文字の宛先ノード名という構成の 3 から 17 のタイプ A の文字ストリングを指定します。

dest_type

この TG の宛先ノードのノード・タイプ。*list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、この値は無視されます。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

END_NODE

エンド・ノード (EN) またはローエントリー・ネットワーキング (LEN) ノード

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

LEARN_NODE

不明なノード・タイプ

tg_num

TG に関連付けられている数。*list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、この値は無視されます。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
<i>dest</i>	character	17
<i>dest_type</i>	constant	
<i>tg_num</i>	decimal	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に **SUMMARY** を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

dest

TG の宛先ノードの完全修飾名。

dest_type

この TG の宛先ノードのノード・タイプ。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

END_NODE

エンド・ノード (EN) またはローエントリー・ネットワーキング (LEN) ノード

tg_num

TG に関連付けられている数。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
dest	character	17
dest_type	constant	
tg_num	decimal	
dlc_data	hex_array	32
rsn	decimal	
status	constant	
effect_cap	hex number	
connect_cost	decimal	
byte_cost	decimal	
security	constant	
prop_delay	constant	
user_def_parm_1	decimal	128
user_def_parm_2	decimal	128
user_def_parm_3	decimal	128
cp_cp_session_active	constant	
branch_link_type	constant	
branch_tlg	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に **DETAIL** を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

dest

TG の宛先ノードの完全修飾名。

dest_type

この TG の宛先ノードのノード・タイプ。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

END_NODE

エンド・ノード (EN) またはローエントリー・ネットワークング (LEN) ノード

tg_num

TG に関連付けられている数。

dlc_data

dest_type が VRN の場合、このパラメーターは VRN への接続の DLC アドレスを指定します。アドレス内のバイト数は、DLC タイプによって異なります。それ以外の場合、このパラメーターは使用しません。

トークンリングまたはイーサネットの場合、このアドレスは、6 バイトの MAC アドレスと 1 バイトのローカル SAP アドレスという 2 つの部分から構成されます。MAC アドレスのビット配列は、予期した形式と異なる場合があります。2 つのアドレス・フォーマットの変換について詳しくは、[187 ページ](#)の『[define tr ls](#)、[define ethernet ls](#)』の「MAC アドレスのビット・オーダー」を参照してください。

rsn

所有するネットワーク・ノードによって割り当てられたリソース・シーケンス番号。

status

TG の状況を示します。指定可能な値は (+ 文字を使用して結合可能)、以下のとおりです。

TG_OPERATIVE

伝送グループ・リンクは動作しています。

TG_CP_CP_SESSIONS

CP-CP セッション間の伝送グループ・リンク。

TG_QUIESCING

伝送グループ・リンクは静止しています。

TG_HPR

伝送グループは、High Performance Routing (HPR) プロトコルをサポートします。

TG_RTP

伝送グループは、Rapid Transport Protocol (RTP) をサポートします。

effect_cap から user_def_parm_3

TG 特性。これらのパラメーターの詳細については、[187 ページの『define_tr_ls、define_ethernet_ls』](#)を参照してください。

cp_cp_session_active

所有ノードの競合勝者 CP-CP セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

CP-CP セッションは活動状態です。

NO

CP-CP セッションは活動状態ではありません。

UNKNOWN

CP-CP セッション状況は不明です。

branch_link_type

このパラメーターは、ノードが分岐ネットワーク・ノードである場合にのみ適用されます。それ以外の場合には、予約済みです。

この TG の分岐リンク・タイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

UPLINK

TG はアップリンクです。

DOWNLINK

TG はエンド・ノードへのダウンリンクです。

DOWNLINK_TO_BRNN

TG は、ローカル・ノードからはエンド・ノードと見える分岐ネットワーク・ノードへのダウンリンクです。

OTHER

TG タイプは VRN へのリンクです。

NOT_SUPPORTED

ローカル・ノードが分岐ネットワーク・ノードでないため、このパラメーターは適用されません。

branch_tg

このパラメーターは、ノードがネットワーク・ノードである場合にのみ適用されます。それ以外の場合には、予約済みです。

TG が分岐 TG であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

TG は分岐 TG です。

NO

TG は分岐 TG ではありません。

UNKNOWN

TG のタイプは不明です。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_TG

指定された名前で作まるすべてのエントリをリストするように *list_options* パラメーターは LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*tg_num* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_log_file

この query_log_file コマンドを使用すると、CS/AIX が監査ログ・メッセージ、エラー・ログ・メッセージまたは使用量ログ・メッセージの記録に使用するファイルの名前、バックアップ・ログ・ファイルの名前、バックアップ・ファイルにログ情報をコピーする際のファイル・サイズを判別できます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_log_file] log_file_type	constant		ERROR

指定パラメーターは、以下のとおりです。

log_file_type

照会されるログ・ファイルのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

AUDIT

監査ログ・ファイル (監査メッセージのみ)

ERROR

エラー・ログ・ファイル (問題メッセージおよび例外メッセージ)

USAGE

使用量ログ・ファイル (CS/AIX リソースの現在およびピーク時の使用量)

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
file_name	character	80
backup_file_name	character	80
file_size	decimal	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は次のパラメーターを戻します。

ファイル名

ログ・ファイルの名前。

パスが含まれていない場合、ファイルは診断ファイル /var/sna のデフォルト・ディレクトリーに保管されます。パスが含まれている場合、このパスは、絶対パス (/ 文字で始まる) またはデフォルト・ディレクトリーに対する相対パスのいずれかになります。

バックアップ・ファイル名

バックアップ・ログ・ファイルの名前。ログ・ファイルがファイル・サイズで指定されたサイズに達すると、CS/AIX は、ログ・ファイルの現在の内容をこのファイルにコピーしてから、ログ・ファイルをクリアします。また、set_log_file. を使用してバックアップを要求することもできます。

パスが含まれていない場合、バックアップ・ログ・ファイルは診断ファイル `/var/sna` のデフォルト・ディレクトリーに保管されます。パスが含まれている場合は、絶対パス (`/` 文字で始まる) またはデフォルト・ディレクトリーに対する相対パスのいずれかになります。

ファイル・サイズ

ログ・ファイル・タイプによって指定されるログ・ファイルの最大サイズ。ファイルに書き込まれたメッセージによってファイル・サイズがこの制限を超えると、CS/AIX はバックアップ・ログ・ファイルをクリアし、ログ・ファイルの現在の内容をバックアップ・ログ・ファイルにコピーしてから、ログ・ファイルをクリアします。ログ・ファイルによって取られるディスク・スペースの最大量は、ファイル・サイズの値の約 2 倍です。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

クエリー・ログ・タイプ

クエリー・ログ・タイプコマンドは、CS/AIX がログ・ファイルに記録するログ・メッセージのカテゴリーに関する情報を戻します。また、これらのカテゴリーのログ・メッセージが、`set_global_log_type` で指定されたデフォルト設定または前の `set_log_type` コマンドで指定されたローカル設定になっているかどうかを

CS/AIX は常に問題イベントのメッセージをログに記録します。例外イベントおよび監査イベントのメッセージをログに記録するかどうかを指定メッセージのロギングの詳細については、「AIX 診断ガイド上の *IBM Communications Server for Data Center デプロイメント*」を参照してください。

指定パラメーター

```
[query_log_type]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type
override	constant
audit	constant
exception	constant
succinct_audits	constant
succinct_errors	constant

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は次のパラメーターを戻します。

オーバーライド

このコマンドで戻されるログ・タイプと簡潔なロギング・オプションが、`set_global_log_type` で指定されたグローバル・ログ・タイプであるか、`set_log_type` で指定されたローカル値かを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

返される 監査、例外、および成功_* のパラメーターは、グローバル設定をオーバーライドするローカル設定です。

違う。

返される「監査」、「例外」、および成功_*」の各パラメーターは、オーバーライドされないグローバル設定です。

監査

このパラメーターは、監査メッセージが記録されるかどうか 可能な値は次のとおりです

そうだ

監査メッセージが記録される。

違う。

監査メッセージは記録されません。

例外

このパラメーターは、例外メッセージが記録されるかどうか 可能な値は次のとおりです

そうだ

例外メッセージが記録される。

違う。

例外メッセージは記録されません。

正常に監査されます

このパラメーターは、監査ログ・ファイルで簡略ロギングまたはフル・ロギングが使用されるかどうかを示します。可能な値は次のとおりです

そうだ

監査ログ・ファイルでは、簡潔なロギングが使用されます。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報(メッセージ番号、ログ・タイプ、システム名など)、およびメッセージ・テキスト・ストリングとパラメーターの要約が含まれています。ログの原因、および必要なアクションの詳細を取得するには、`ヘビ・ユーティリティ`。を使用できます。

違う。

完全なロギングが監査ログ・ファイルで使用されます。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報の詳細なリスト、メッセージ・テキスト・ストリングとパラメーター、およびログの原因に関する追加情報、および必要な処置が含まれています。

正常性エラー

このパラメーターは、エラー・ログ・ファイルで簡略ロギングまたはフル・ロギングを使用するかどうかを示します。これは、例外ログと問題ログの両方に適用されます。可能な値は次のとおりです

そうだ

エラー・ログ・ファイルでは、簡潔なロギングが使用されます。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報(メッセージ番号、ログ・タイプ、システム名など)、およびメッセージ・テキスト・ストリングとパラメーターの要約が含まれています。ログの原因、および必要なアクションの詳細を取得するには、`ヘビ・ユーティリティ`。を使用できます。

違う。

フル・ロギングがエラー・ログ・ファイルで使用されます。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報の詳細なリスト、メッセージ・テキスト・ストリングとパラメーター、およびログの原因に関する追加情報、および必要な処置が含まれています。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_ls

query_ls コマンドは、ノードで定義されたリンク・ステーションに関する情報のリストを戻します。この情報は、確定済みデータ (実行時に動的に収集され、LS が活動状態の場合にのみ戻されるデータ) および定義済みデータ (LS の定義で指定されたデータ) として構造化されています。

このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定のリンク・ステーションまたは複数のリンク・ステーションに関する要約情報または詳細情報を入手する場合に使用できます。複数のリンク・ステーションの場合、この情報は、リンク・ステーションごとに個別のエントリーで戻されます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_ls]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
ls_name	character	8	(null string)
port_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻されるリンク・ステーションの最大数。特定のリンク・ステーションに関するデータを戻す場合は 1 を、複数のリンク・ステーションに関するデータを戻す場合は 1 より大きい数値を、すべてのリンク・ステーションに関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合のリンク・ステーションのリスト内の開始位置。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

ls_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

ls_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

ls_name

リンク・ステーション名。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。

port_name

ポート名フィルター。特定のポートに関連したリンク・ステーションのみに関する情報を戻すには、ポートの名前を指定します。ポート名を使用してフィルタリングしないですべてのリンク・ステーションに関する情報を戻す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
ls_name	character	8
description	character	31
dlc_type	constant	
state	constant	
act_sess_count	decimal	
det_adj_cp_name	character	17
det_adj_cp_type	constant	
port_name	character	8
adj_cp_name	character	17
adj_cp_type	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が SUMMARY に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

ls_name

リンク・ステーション名。

description

LS の定義に指定された、LS を説明するテキスト・ストリング。

dlc_type

DLC のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

SDLC

同期データ・リンク制御

X25

X.25 QLLC (修飾リンク・レベル制御)

TR

トークンリング

ETHERNET

イーサネット

HPRIP

Enterprise Extender (HPR/IP)

state

リンク・ステーションの状態。可能な値は次のいずれかです。

ACTIVE

LS は活動状態です。

NOT_ACTIVE

LS は活動状態ではありません。

PENDING_ACTIVE

LS は活動化中です。

PENDING_INACTIVE

LS は非活動化中です。

PENDING_ACTIVE_BY_LR

LS に障害が起こったため (または LS を活動化しようとして失敗したため)、CS/AIX が LS を再活動化しようとしています。

act_sess_count

リンクを使用しているアクティブ・セッションの総数(エンドポイント・セッションと中間セッションの両方)。

det_adj_cp_name

隣接制御点の完全修飾名。通常、この名前は活動化中に決定され、LSが活動状態にない場合はヌルです。ただし、バックレベル LEN ノードに対する LS (define_*_ls の *adj_cp_type* パラメーターで定義された LS) の場合、この名前は LS 定義から取られ、活動化中には決定されません。

det_adj_cp_type

隣接ノードのタイプ。通常、ノード・タイプは活動化中に決定され、LSが活動状態にない場合はヌルです。ただし、バックレベル LEN ノードに対する LS (define_*_ls の *adj_cp_type* パラメーターで定義された LS) の場合、ノード・タイプは LS 定義から取られ、活動化中には決定されません。

可能な値は次のいずれかです。

LEARN_NODE

ノード・タイプが不明、または LS が活動状態にありません。

END_NODE

エンド・ノード、ローカル・ノードから見てエンド・ノードとして動作する 分岐ネットワーク・ノード、またはネットワーク名 CV をその XID3 に含む LEN ノード。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード、またはローカル・ノードから見てネットワーク・ノードとして動作する分岐ネットワーク・ノード。

VRN

仮想経路指定ノード。

port_name

このリンク・ステーションに関連付けられているポートの名前。

adj_cp_name

隣接制御点の完全修飾名。暗黙的なリンクの場合、このパラメーターはヌルです。

adj_cp_type

隣接制御点のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

LEARN_NODE

ノード・タイプが不明、または LS が活動状態にありません。

END_NODE

エンド・ノード、ローカル・ノードから見てエンド・ノードとして動作する 分岐ネットワーク・ノード、またはネットワーク名 CV をその XID3 に含む LEN ノード。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード、またはローカル・ノードから見てネットワーク・ノードとして動作する分岐ネットワーク・ノード。

BACK_LEVEL_LEN_NODE

バックレベル LEN ノード (XID3 にネットワーク名 CV が含まれていないノード)。

HOST_XID3

ホスト・ノード。CS/AIX はノードからのポーリング XID に形式 3 XID で応答します。

HOST_XID0

ホスト・ノード。CS/AIX はノードからのポーリング XID に形式 0 XID で応答します。

DSPU_XID

ダウンストリーム PU。CS/AIX は、リンクの活動化の一部として XID 交換を行います。*dspu_name* パラメーターおよび *dspu_services* パラメーターも戻されます。

DSPU_NOXID

ダウンストリーム PU。CS/AIX は、リンクの活動化の一部として XID 交換を行いません。*dspu_name* パラメーターおよび *dspu_services* パラメーターも戻されます。

VRN

仮想経路指定ノード。

Returned parameters: Detailed information

Parameter name	Type	Length
ls_name	character	8
dlc_type	constant	
state	constant	
sub_state	constant	
act_sess_count	decimal	
det_adj_cp_name	character	17
det_adj_cp_type	constant	
dlc_name	character	8
dynamic	constant	
migration	constant	
tg_num	decimal	
in_xid_bytes	decimal	
in_msg_bytes	decimal	
in_xid_frames	decimal	
in_msg_frames	decimal	
out_xid_bytes	decimal	
out_msg_bytes	decimal	
out_xid_frames	decimal	
out_msg_frames	decimal	
in_invalid_sna_frames	decimal	
in_session_control_frames	decimal	
out_session_control_frames	decimal	
good_xids	decimal	
bad_xids	decimal	
start_time	decimal	
stop_time	decimal	
up_time	decimal	
current_state_time	decimal	
deact_cause	constant	
determined_hpr_support	constant	
anr_label	hex array	2
determined_hpr_link_lvl_error	constant	
auto_act	constant	
ls_type	constant	
det_branch_link_type	constant	
adj_cp_is_brnn	constant	
node_id	hex array	4
active_isr_count	decimal	
active_lu_sess_count	decimal	
active_sscp_sess_count	decimal	
reverse_anr_label	hex array	8
local_address	hex array	32
actual_max_send_btu_size	decimal	
description	character	31
port_name	character	8
adj_cp_name	character	17
adj_cp_type	constant	
auto_act_supp	constant	
tg_number	decimal	
limited_resource	constant	
solicit_sscp_sessions	constant	
pu_name	character	8
disable_remote_act	constant	
default_nn_server	constant	
hpr_supported	constant	
hpr_link_lvl_error	constant	
link_deact_timer	decimal	
use_default_tg_chars	constant	
ls_attributes	constant	
adj_node_id	hex array	4
local_node_id	hex array	4
cp_cp_sess_support	constant	
effect_cap	decimal	
connect_cost	decimal	
byte_cost	decimal	
security	constant	
prop_delay	constant	
user_def_parm_1	decimal	
user_def_parm_2	decimal	
user_def_parm_3	decimal	
target_pacing_count	decimal	
max_send_btu_size	decimal	
ls_role	constant	
max_ifrm_rcvd	decimal	
dplus_retry_timeout	decimal	
dplus_retry_limit	decimal	
conventional_lu_compression	constant	

query_ls

branch_link_type	constant
adj_brnn_cp_support	constant
dddlu_offline_supported	constant
initially_active	constant
dddlu_offline_supported	constant
react_timer	decimal
react_timer_retry	decimal

For SDLC, the following parameters are included. For more information about these parameters, see [“define_sdslc_ls” on page 132.](#)

address	hex number	
contact_timer	decimal	
contact_timer_retry	decimal	
contact_timer2	decimal	
contact_timer_retry2	decimal	
disc_timer	decimal	
disc_timer_retry	decimal	
nve_poll_timer	decimal	
nve_poll_timer_retry	decimal	
nve_poll_timer2	decimal	
nve_poll_timer_retry2	decimal	
no_resp_timer	decimal	
no_resp_timer_retry	decimal	
rem_busy_timer	decimal	
rem_busy_timer_retry	decimal	
rr_timer	decimal	
poll_frame	constant	
poll_on_iframe	constant	
opt1	constant	
linesp	decimal	
hmod_data	character	80

For QLLC, the following parameters are included. For more information about these parameters, see [“define_qllc_ls” on page 107.](#)

address	character	14
vc_type	constant	
req_rev_charge	constant	
loc_packet	constant	
rem_packet	constant	
loc_wsize	decimal	
rem_wsize	decimal	
retry_limit	decimal	
retry_timeout	decimal	
idle_timeout	decimal	
pvc_id	decimal	
cud	character	16

For Token Ring or Ethernet, the following parameters are included. For more information about these parameters, see [“define_tr_ls、define_ethernet_ls” on page 187.](#)

mac_address	hex array	6
lsap_address	hex number	

For Token Ring / Ethernet :

xid_timeout	decimal
xid_retry_limit	decimal
t1_timeout	decimal
t1_retry_limit	decimal
ack_time	decimal
inact_time	decimal
force_time	decimal
dyna_wnd	decimal
ack_timeout	decimal
p_bit_timeout	decimal
t2_timeout	decimal
rej_timeout	decimal
busy_state_timeout	decimal
idle_timeout	decimal
max_retry	decimal

For Enterprise Extender (HPR/IP), the following parameters are included. The parameter *determined_ip_address* is described below; for more information about the remaining parameters, see “*define_ip_ls*” on page 58.

<i>determined_ip_address</i>	character
<i>lsap_address</i>	hex number
<i>remote_ip_host</i>	character 100
<i>ack_timeout</i>	decimal
<i>max_retry</i>	decimal
<i>liveness_timeout</i>	decimal
<i>short_hold_mode</i>	constant

If the command executes successfully and you specified *DETAIL* as the *list_options* parameter value, CS/AIX returns the following parameters:

ls_name

Link station name.

dlc_type

Type of the DLC. Possible values are:

SDLC

Synchronous data link control

X25

X.25 QLLC (qualified link level control)

TR

Token Ring

ETHERNET

Ethernet

HPRIP

Enterprise Extender (HPR/IP)

state

State of this link station. Possible values are:

ACTIVE

The LS is active.

NOT_ACTIVE

The LS is not active.

PENDING_ACTIVE

The LS is being activated.

PENDING_INACTIVE

The LS is being deactivated.

PENDING_ACTIVE_BY_LR

The LS has failed (or an attempt to activate it has failed) and CS/AIX is attempting to reactivate it.

sub_state

This parameter provides more detailed information about the state of this link station. Possible values are:

SENT_CONNECT_OUT

The local node has requested that initial contact be established.

PENDING_XID_EXCHANGE

Initial contact has been established (for example, TEST exchange on a LAN device) and the XID negotiation is in progress.

SENT_ACTIVATE_AS

Creating internal processes to handle the link.

SENT_SET_MODE

Waiting for a response to SNRM/SABME from the remote node.

ACTIVE

The link is fully active.

SENT_DEACTIVATE_AS_ORDERLY

Destroying internal processes.

SENT_DISCONNECT

The local node has sent a DISC frame to the remote node.

WAITING_STATS

The link has been disconnected. Final link statistics have been requested but not yet received.

RESET

The link is inactive.

act_sess_count

The total number of active sessions (both endpoint and intermediate) using the link.

det_adj_cp_name

Fully qualified name of the adjacent control point. This name is usually determined during activation; it is null if the LS is inactive. However, for an LS to a back-level LEN node (specified by the *adj_cp_type* parameter on *define_*_ls*), this name is taken from the LS definition and is not determined during activation.

det_adj_cp_type

Type of the adjacent node, determined during link activation. Possible values are as follows:

LEARN_NODE

Node type is unknown or LS is inactive.

END_NODE

An End Node, a Branch Network Node acting as an End Node from the local node's perspective, or a LEN node that includes the Network Name CV in its XID3.

NETWORK_NODE

A Network Node, or a Branch Network Node acting as a Network Node from the local node's perspective.

VRN

Virtual routing node.

The node type is usually determined during activation; it is null if the LS is inactive. However, for an LS to a back-level LEN node (specified by the *adj_cp_type* parameter on *define_*_ls*), the node type is taken from the LS definition and is not determined during activation.

dlc_name

Name of the DLC used by the LS.

dynamic

Specifies whether the link was dynamically defined. Possible values are:

YES

The link was dynamically defined (in response to a connection request from the adjacent node or to dynamically connect to another node across a connection network).

NO

The link was explicitly defined as part of the CS/AIX configuration.

migration

Specifies whether the adjacent node is a migration level node (such as a LEN node) or a full APPN network node or end node. Possible values are:

YES

The adjacent node is a migration-level node.

NO

The adjacent node is a network node or end node.

UNKNOWN

The adjacent node level is unknown.

tg_num

Number associated with the TG.

in_xid_bytes

Total number of XID bytes received on this link station.

in_msg_bytes

Total number of data bytes received on this link station.

in_xid_frames

Total number of XID frames received on this link station.

in_msg_frames

Total number of data frames received on this link station.

out_xid_bytes

Total number of XID bytes sent on this link station.

out_msg_bytes

Total number of data bytes sent on this link station.

out_xid_frames

Total number of XID frames sent on this link station.

out_msg_frames

Total number of data frames sent on this link station.

in_invalid_sna_frames

Total number of SNA frames received on this link station that were not valid.

in_session_control_frames

Total number of session control frames received on this link station.

out_session_control_frames

Total number of session control frames sent on this link station.

good_xids

Total number of successful XID exchanges that have occurred on this link station since it was started.

bad_xids

Total number of unsuccessful XID exchanges that have occurred on this link station since it was started.

start_time

The time, in hundredths of a second, since system startup, that the link station was last activated (when the mode setting commands completed).

stop_time

The time, in hundredths of a second, since system startup, that the link station was last deactivated.

up_time

Total time, in hundredths of a second that this link station has been active since system startup.

current_state_time

Total time, in hundredths of a second that this link station has been in its current state.

deact_cause

The cause of the last deactivation of the link station. Possible values are:

NONE

The link station has never been deactivated.

DEACT_OPER_ORDERLY

The link station was deactivated as a result of an orderly stop (on the stop_ls command) from an operator.

DEACT_OPER_IMMEDIATE

The link station was deactivated as a result of an immediate stop (on the stop_ls command) from an operator.

DEACT_AUTOMATIC

The link station was automatically deactivated because there were no more sessions using the link station.

DEACT_FAILURE

The link station was deactivated because of a failure.

determined_hpr_support

Level of High Performance Routing (HPR) supported on this transmission group (TG), taking account of the capabilities of the local and adjacent nodes. Possible values are:

NONE

This TG does not support HPR protocols.

BASE

This TG supports base level HPR.

RTP

This TG supports Rapid Transport Protocols (RTP).

anr_label

The HPR automatic network routing (ANR) label allocated to the local link.

determined_hpr_link_lvl_error

Specifies whether link-level error recovery is being used for HPR traffic on the link.

auto_act

Specifies whether the link currently allows remote activation or activation on demand. This parameter is set to NONE if neither is allowed, or to one or both of the following values (combined with a + character):

AUTO_ACT

The link can be activated on demand by the local node when a session requires it.

REMOTE_ACT

The link can be activated by the remote node.

ls_type

Specifies how this link was defined or discovered. Possible values are:

LS_DEFINED

The link station was defined explicitly by a CS/AIX administration program.

LS_DYNAMIC

The link station was created when the local node connected to another node through a connection network.

LS_TEMPORARY

The link station was created temporarily to process an incoming call, but has not yet become active.

LS_IMPLICIT

The link station was defined implicitly when CS/AIX received an incoming call that it could not match to a defined link station.

LS_DLUS_DEFINED

The link station is a dynamic link station to a DLUR-served downstream PU, and was defined when the local node received an ACTPU from a DLUS.

det_branch_link_type

This parameter applies only if the local node is a Branch Network Node; it is not used otherwise.

Specifies the branch link type of this link. Possible values are:

UPLINK

The link is an uplink.

DOWNLINK

The link is a downlink.

OTHERLINK

The link is to a VRN.

UNKNOWN_LINK_TYPE

The branch link type is unknown.

BRNN_NOT_SUPPORTED

The link supports PU 2.0 traffic only.

adj_cp_is_brnn

Specifies whether the adjacent node is a Branch Network Node. Possible values are:

YES

The adjacent node is a Branch Network Node.

NO

The adjacent node is not a Branch Network Node.

UNKNOWN

The adjacent node type is unknown.

node_id

Node ID received from the adjacent node during XID exchange.

active_isr_count

Number of active intermediate sessions using this link.

active_lu_sess_count

Number of active LU-LU sessions using this link.

active_sscp_sess_count

Number of active PU-SSCP sessions using this link.

reverse_anr_label

The Reverse Automatic Network Routing (ANR) label for this link station.

local_address

The local address of this link station. For an Enterprise Extender (HPR/IP) link, this is shown as a dotted-decimal IP address (such as 193 . 1 . 11 . 100).

actual_max_send_btu_size

Negotiated maximum send BTU size.

description

A text string describing the LS, as specified in the definition of the LS.

port_name

Name of the port associated with this link station. If the link is to a virtual routing node (VRN), this parameter specifies the name of the actual port used to connect to the VRN (as specified in the `define_cn` command).

adj_cp_name

Fully qualified name of the adjacent control point. This parameter is used only if *adj_cp_type* specifies that the adjacent node is an APPN node or a back-level LEN node.

adj_cp_type

Adjacent node type. Possible values are:

LEARN_NODE

APPN-capable node; the node type will be identified during XID exchange.

END_NODE

An End Node, a Branch Network Node acting as an End Node from the local node's perspective, or a LEN node that includes the Network Name CV in its XID3.

NETWORK_NODE

A Network Node, or a Branch Network Node acting as a Network Node from the local node's perspective.

BACK_LEVEL_LEN_NODE

Back-level LEN node (one that does not include the Network Name CV in its XID3).

HOST_XID3

Host node. CS/AIX responds to a polling XID from the node with a format 3 XID.

HOST_XID0

Host node. CS/AIX responds to a polling XID from the node with a format 0 XID.

DSPU_XID

Downstream PU. CS/AIX includes XID exchange in link activation.

DSPU_NOXID

Downstream PU. CS/AIX does not include XID exchange in link activation.

auto_act_supp

Specifies whether the link can be automatically activated when required by a session. Possible values are:

YES

The link can be automatically activated.

NO

The link cannot be automatically activated.

tg_number

Preassigned TG number, used to represent the link when the link is activated. This parameter is used only if the adjacent node is an APPN node (*adj_cp_type* is either NETWORK_NODE or END_NODE); it is ignored otherwise. The value 0 (zero) indicates that the TG number is not preassigned and is negotiated when the link is activated.

limited_resource

Specifies whether this link station is a limited resource and is automatically deactivated when there are no sessions using the link. Link stations on a nonswitched port cannot be configured as limited resource. Possible values are:

NO

The link is not a limited resource and is not automatically deactivated.

NO_SESSIONS

The link is a limited resource and is automatically deactivated when no active sessions are using it.

INACTIVITY

The link is a limited resource and is automatically deactivated when no active sessions are using it, or when no data has flowed on the link for the time period specified by the *link_deact_timer* parameter.

solicit_sscp_sessions

Specifies whether to request the adjacent node to initiate sessions between the SSCP and the local CP and dependent LUs. This parameter is not used for Enterprise Extender (HPR/IP) links.

This parameter is used only if the adjacent node is an APPN node (the *adj_cp_type* parameter is either NETWORK_NODE or END_NODE); it is ignored otherwise. If the adjacent node is a host (the *adj_cp_type* parameter is either HOST_XID3 or HOST_XID0), CS/AIX always requests the host to initiate SSCP sessions.

Possible values are:

YES

Request the adjacent node to initiate SSCP sessions.

NO

Do not request the adjacent node to initiate SSCP sessions.

pu_name

Name of the local PU that uses this link. This parameter is used only if *adj_cp_type* is set to HOST_XID3 or HOST_XID0, or if *solicit_sscp_sessions* is set to YES. It is not used for Enterprise Extender (HPR/IP) links.

disable_remote_act

Specifies whether the LS can be activated by a remote node. Possible values are:

YES

The LS can be activated only by the local node; if the remote node attempts to activate it, CS/AIX will reject the attempt.

NO

The LS can be activated by the remote node.

default_nn_server

For an end node, this parameter specifies whether this is a link supporting CP-CP sessions to a network node that can act as the local node's network node server. When the local node has no CP-CP sessions to a network node server and needs to establish them, the local node checks this parameter on its defined link stations to find a suitable LS to activate. This enables you to specify which adjacent NNs are suitable to act as the NN server (for example, to avoid using NNs that are accessed by expensive or slow links).

Possible values are:

YES

This link supports CP-CP sessions to a network node that can act as the local node's NN server; the local node can automatically activate this link if it needs to contact an NN server.

NO

This link does not support CP-CP sessions to a network node that can act as the local node's NN server; the local node cannot automatically activate this link if it needs to contact an NN server.

If the local node is not an end node, this parameter is not used.

hpr_supported

Specifies whether HPR is supported on this link. Possible values are:

YES

HPR is supported on this link.

NO

HPR is not supported on this link.

hpr_link_lvl_error

Specifies whether HPR traffic should be sent on this link using link-level error recovery. This parameter should be ignored unless *hpr_supported* is set to YES. Possible values are:

YES

HPR traffic should be sent on this link using link-level error recovery.

NO

HPR traffic should not be sent on this link using link-level error recovery.

link_deact_timer

Limited resource link deactivation timer, in seconds. A limited resource link is automatically deactivated if not data flows over the link for the time specified by this parameter. This parameter is not used if *limited_resource* is set to any value other than INACTIVITY.

use_default_tg_chars

Specifies whether the default TG characteristics supplied in the port definition are used. Possible values are:

YES

Use the default TG characteristics; ignore *effect_cap* through *user_def_parm_3* parameters on this command.

NO

Use *effect_cap* through *user_def_parm_3* parameters returned on this command.

ls_attributes

Attributes of the remote system with which CS/AIX is communicating.

This parameter is usually set to SNA, unless you are communicating with a host of one of the other types listed below. Possible values are:

SNA

Standard SNA host.

FNA

Fujitsu Network Architecture (VTAM-F) host.

HNA

Hitachi Network Architecture host.

SUPPRESS_CP_NAME

Suppress the CP name associated with the remote node.

If this LS is to a back-level LEN node that cannot accept the Network Name CV in the format 3 XID it receives, a + character is used to combine the value SNA, FNA, or HNA with SUPPRESS_CP_NAME (for example, SNA+SUPPRESS_CP_NAME). If the LS is to any other node type, or to a back-level node that can accept the Network Name CV, the option SUPPRESS_CP_NAME is not used.

adj_node_id

Node ID of adjacent node. This ID is a 4-byte hexadecimal string; a value of 4 zeros indicates that node ID checking is disabled.

local_node_id

Node ID sent in XIDs on this LS. This ID is a 4-byte hexadecimal string; a value of 4 zeros indicates that CS/AIX uses the node ID specified in define_node.

cp_cp_sess_support

Specifies whether CP-CP sessions are supported. Possible values are:

YES

CP-CP sessions are supported.

NO

CP-CP sessions are not supported.

effect_cap

A decimal value representing the line speed in bits per second.

connect_cost

Cost per connect time.

byte_cost

Cost per byte.

security

Security level of the network. Possible values are:

SEC_NONSECURE

No security.

SEC_PUBLIC_SWITCHED_NETWORK

Data is transmitted over a public switched network.

SEC_UNDERGROUND_CABLE

Data is transmitted over secure underground cable.

SEC_SECURE_CONDUIT

Data is transmitted over a line in a secure conduit that is not guarded.

SEC_GUARDED_CONDUIT

Data is transmitted over a line in a conduit that is protected against physical tapping.

SEC_ENCRYPTED

Data is encrypted before transmission over the line.

SEC_GUARDED_RADIATION

Data is transmitted over a line that is protected against physical and radiation tapping.

SEC_MAXIMUM

Maximum security.

prop_delay

Propagation delay. The time that a signal takes to travel the length of the link. Possible values are:

PROP_DELAY_MINIMUM

Minimum propagation delay.

PROP_DELAY_LAN

Delay is less than .5 microseconds (typical for a LAN).

PROP_DELAY_TELEPHONE

Delay is in the range .5-50 microseconds (typical for a telephone network).

PROP_DELAY_PKT_SWITCHED_NET

Delay is in the range 50-250 microseconds (typical for a packet-switched network).

PROP_DELAY_SATELLITE

Delay is greater than 250 microseconds (typical for a satellite link).

PROP_DELAY_MAXIMUM

Maximum propagation delay.

user_def_parm_1 through user_def_parm_3

User-defined parameters.

target_pacing_count

Indicates the desired pacing window size.

max_send_btu_size

Maximum BTU size that can be sent. This value includes the length of the TH and RH (total 9 bytes), as well as the RU.

ls_role

The determined LS role of this link. This role is usually taken from the definition of the port that owns the LS (or from the definition of the LS, if this overrides the LS role in the port definition). However, if the LS role is defined as negotiable, it will be negotiated to either primary or secondary while the LS is active, so (for an active LS) this parameter returns the negotiated role currently in use and not the defined role. Possible values are:

LS_PRI

Primary

LS_SEC

Secondary

LS_NEG

Negotiable

max_ifrm_rcvd

Maximum number of I-frames that can be received by the local link stations before an acknowledgment is sent.

dlus_retry_timeout

Time interval in seconds between attempts to contact the DLUS and backup DLUS.

dlus_retry_limit

Number of attempts to recontact a DLUS after an initial failure.

conventional_lu_compression

Specifies whether data compression is requested for LU 0-3 sessions on this link. This parameter is used only if this link carries LU 0-3 traffic; it does not apply to LU 6.2 sessions. Possible values are:

YES

Data compression should be used for LU 0-3 sessions on this link if the host requests it.

NO

Data compression should not be used for LU 0-3 sessions on this link.

branch_link_type

This parameter applies only if the local node is a Branch Network Node; it is reserved if the local node is any other type.

If the parameter *adj_cp_type* is set to NETWORK_NODE, END_NODE, APPN_NODE, or BACK_LEVEL_LEN_NODE, this parameter defines whether the link is an uplink or a downlink. Possible values are:

UPLINK

The link is an uplink.

DOWNLINK

The link is a downlink.

adj_brnn_cp_support

This parameter applies only if the local node is a Branch Network Node and the adjacent node is a network node (the parameter *adj_cp_type* is set to NETWORK_NODE, or it is set to APPN_NODE and the node type discovered during XID exchange is network node). It is reserved if the local and remote nodes are any other type.

This parameter defines whether the adjacent node can be a Branch Network Node that is acting as a Network Node from the point of view of the local node. Possible values are:

ALLOWED

The adjacent node is allowed (but not required) to be a Branch Network Node.

REQUIRED

The adjacent node must be a Branch Network Node.

PROHIBITED

The adjacent node must not be a Branch Network Node.

dddlu_offline_supported

Specifies whether the local PU should send NMVT (power off) messages to the host. If the host system supports DDDL (Dynamic Definition of Dependent LUs), CS/AIX sends NMVT (power off) to the host when it has finished using a dynamically defined LU. This allows the host to save resources by removing the definition when it is no longer required.

This parameter is used only if this link is to a host (*solicit_sscp_sessions* is set to YES and *dspu_services* is not set to NONE).

Possible values are:

YES

The local PU sends NMVT (power off) messages to the host.

NO

The local PU does not send NMVT (power off) messages to the host.

If the host supports DDDL but does not support the NMVT (power off) message, this parameter must be set to NO.

initially_active

Specifies whether this LS is automatically started when the node is started. Possible values are:

YES

The LS is automatically started when the node is started.

NO

The LS is not automatically started; it must be manually started.

restart_on_normal_deact

Specifies whether CS/AIX should attempt to reactivate the LS if it is deactivated normally by the remote system. Possible values are:

YES

If the remote system deactivates the LS normally, CS/AIX attempts to reactivate it, using the same retry timer and count values as for reactivating a failed LS (the *react_timer* and *react_timer_retry* parameters above).

NO

If the remote system deactivates the LS normally, CS/AIX does not attempt to reactivate it.

If the LS is a host link (specified by the *adj_cp_type* parameter), or is automatically started when the node is started (the *initially_active* parameter is set to YES), this parameter is ignored; CS/AIX always attempts to reactivate the LS if it is deactivated normally by the remote system (unless *react_timer_retry* is zero).

react_timer

Reactivation timer for reactivating a failed LS. If the *react_timer_retry* parameter is a nonzero value (to specify that CS/AIX should retry activating the LS if it fails), this parameter specifies the time in seconds between retries. When the LS fails, or when an attempt to reactivate it fails, CS/AIX waits for the specified time before retrying the activation. If *react_timer_retry* is 0 (zero), this parameter is ignored.

react_timer_retry

Retry count for reactivating a failed LS. This parameter is used to specify whether CS/AIX should attempt to reactivate the LS if it fails while in use (or if an attempt to start the LS fails).

A value of 0 (zero) indicates that CS/AIX does not attempt to reactivate the LS. A value of 65,535 indicates that CS/AIX retries indefinitely until the LS is reactivated.

CS/AIX waits for the time specified by the *react_timer* parameter between successive retries. If the LS is not successfully reactivated by the end of the retry count, or if *stop_ls* is issued while CS/AIX is retrying the activation, no further retries are made; the LS remains inactive unless *start_ls* is issued for it.

If the *auto_act_supp* parameter is set to YES, the *react_timer* and *react_timer_retry* parameters are ignored; if the link fails, CS/AIX does not attempt to reactivate it until the user application that was using the session attempts to restart the session.

address

For an SDLC link station, this parameter identifies the address of the secondary station on this LS.

The value of this parameter depends on how the port that owns this LS is configured, as follows:

- If the port is used only for incoming calls (*out_link_act_lim* on *define_sd1c_port* is 0), this parameter is reserved.
- If the port is switched primary and is used for outgoing calls (*port_type* is *PORT_SWITCHED*, *ls_role* is *LS_PRI*, and *out_link_act_lim* on *define_sd1c_port* is a nonzero value), this parameter is set to either 0xFF to accept whatever address is configured at the secondary station, or set it to a 1-byte value in the range 0x01-0xFE (this value must match the value configured at the secondary station).
- For all other port configurations, this parameter is set to a 1-byte value in the range 0x01-0xFE to identify the link station. If the port is primary multi-drop (*ls_role* on *define_sd1c_port* is *LS_PRI* and *tot_link_act_lim* is greater than 1), this address must be different for each LS on the port.

address

For a QLLC link station, this parameter identifies the destination address of the remote link station. This parameter is used only for SVC outgoing calls (defined by the *vc_type* parameter on this command and by the link activation limit parameters on *define_qllc_port*); it is ignored for incoming calls or for PVC.

The address is a string of 1-14 characters. The address is in X.25 (1980) format; later address formats are not supported.

mac_address

Token Ring / Ethernet : MAC address of the link station on the adjacent node.

If this parameter is not specified, the LS is a non-selective listening LS (one that can be used only for incoming calls, but can have LUs defined on it to support dependent LU traffic). The LS can be used to receive incoming calls from any remote link station, but cannot be used for outgoing calls.

If the local and adjacent nodes are on LANs of different types (one Ethernet, the other Token Ring) connected by a bridge, you will probably need to reverse the bit order of the bytes in the MAC address. For more information about bit ordering in MAC addresses, see [“define_tr_ls、define_ethernet_ls” on page 187](#). If the two nodes are on the same LAN or on LANs of the same type connected by a bridge, no change is required.

lsap_address

Token Ring / Ethernet : Local SAP address of the link station on the adjacent node.

determined_ip_address

Enterprise Extender (HPR/IP): IP address of the link station on the adjacent node. This is a dotted-decimal IPv4 address (such as 193.1.11.100) or an IPv6 colon-hexadecimal address (such as 2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab or 2001:db8::1428:57ab). If the LS is inactive, the address appears as all zeros.

For details of the remaining parameters, see [“define_tr_ls、define_ethernet_ls” on page 187](#), [“define_sdsc_ls” on page 132](#), [“define_qllc_ls” on page 107](#), [“define_ip_ls” on page 58](#).

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LINK_NAME

list_options パラメーターは、指定名から始まるすべてのエントリーをリストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*ls_name* パラメーターに指定された値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_ls_routing

`query_ls_routing` コマンドは、リンク・ステーションを使用するパートナー LU の位置に関する、ローカル LU の情報を戻します。複数のローカル LU に関する情報が要求された場合、情報は、最初にローカル LU 名の管理情報ベース (MIB) 順、次に、各ローカル LU 名に関連付けられたパートナー LU 名の MIB 順に戻されます。ワイルドカード・パートナー LU 名とワイルドカードを含まないエントリーを混在させることができます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_ls_routing]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
lu_name	character	8	
fq_partner_lu	character	17	
wildcard_fqplu	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻される LS 経路指定エントリーの最大数。特定の LS 経路指定エントリーに関するデータを戻す場合は 1 を、複数の LS 経路指定エントリーに関するデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値を、すべての LS 経路指定エントリーに関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の LS ルーティング・エントリー・リスト内の開始位置。

値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

lu_name パラメーターと fq_partner_lu パラメーター を組み合わせて指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

lu_name パラメーター、fq_partner_lu パラメーター、 および wildcard_fqplu パラメーターを組み合わせて指定した エントリーの直後のエントリーから開始します。

lu_name

経路指定データが戻されるローカル LU の名前。この名前は、8 バイトの文字ストリングです。

list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

fq_partner_lu

経路指定データが戻されるパートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

このパラメーターが 2 進数ゼロに設定され、list_options が AP_LIST_FROM_NEXT に設定されている場合、戻されたリストは lu_name パラメーターで指定した LU の最初のパートナー LU 名から開始されます。

wildcard_fqplu

fq_partner_lu パラメーターにワイルドカードの全体または一部が含まれているかどうかを示すワイルドカード・パートナー LU フラグ。このフラグは、戻された最初のレコードを識別するためにのみ使用されます。ワイルドカード指定と一致するエントリーのみを戻すことを指定する場合、このフラグは使用できません。可能な値は次のいずれかです。

YES

fq_partner_lu パラメーターには、ワイルドカード・エントリーが含まれています。

NO

fq_partner_lu パラメーターには、ワイルドカード・エントリーが含まれていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
lu_name	character	
fq_partner_lu	character	
wildcard_fqplu	character	
ls_name	character	

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

lu_name

ローカル LU の名前。

fq_partner_lu

パートナー LU の完全修飾名。

wildcard_fqplu

fq_partner_lu パラメーターに完全ワイルドカード または部分ワイルドカードが含まれているかどうかを示すフラグ。可能な値は次のいずれかです。

YES

fq_partner_lu パラメーターには、完全ワイルドカードまたは部分ワイルドカードが含まれています。

NO

fq_partner_lu パラメーターには、完全ワイルドカードまたは部分ワイルドカードは含まれていません。

ls_name

lu_name パラメーターで指定した LU と *fq_plu_name* パラメーターで指定したパートナー LU の間のセッションに使用するリンク・ステーションの名前。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

list_options パラメーターを LIST_INCLUSIVE に設定しましたが、*lu_name* パラメーターで指定した値が、既存の LS 経路指定データ・レコードと一致しませんでした。

INVALID_PARTNER_LU_NAME

list_options パラメーターを LIST_INCLUSIVE に設定しましたが、*fq_partner_lu* パラメーターで指定した値が、指定したパートナー LU 名の既存の LS 経路指定データ・レコードと一致しませんでした。

INVALID_WILDCARD_NAME

wildcard_fqplu パラメーターは YES に設定されていますが、*fq_partner_lu* パラメーターが有効なワイルドカード名ではありません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

3つの要求を照会

3つの要求を照会 コマンドは、タイプ 0、1、2、または3のローカル LU に関する情報を戻します。この情報は、判別されたデータ (実行中に動的に収集されたデータ、ノードが活動状態の場合にのみ戻されるデータ)、および定義済みデータ (lu_lu_0_to_3 をフラグメント化する コマンドで提供されるデータ) として構造化されます。

このコマンドを使用すると、使用されるオプションに応じて、特定の LU または複数の LU に関する要約情報または詳細情報を取得することができます。戻される詳細情報は、[361 ページの『戻りパラメーター: 詳細情報』](#)に示されているように、LU を使用しているアプリケーションのタイプによって多少異なります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_lu_0_to_3]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
pu_name	character	8	(null string)
lu_name	character	8	(null string)
host_attachment	constant		NONE

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す LU の最大数。特定の LU のデータを戻すには 1、複数の LU のデータを戻すには 1 より大きい数値、すべての LU のデータを戻すには 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合の LU のリスト内の開始位置。必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

lu_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

lu_name パラメーターで指定したエントリーの直後の エントリーから開始します。

pu_name

LU 情報が要求される PU 名。特定の PU に関連付けられている LU に関する情報のみをリストするには、その PU 名を指定します。すべての PU の完全なリストを取得する場合は、このパラメーターを指定しないでください。

lu_name

ローカル LU の名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

host_attachment

ホスト接続フィルター。実行中のノードに対してこのコマンドが発行された場合、このパラメーターは、LU がホストに直接接続されるか、DLUR または PU 集信を介して接続されるかによって、戻り情報をフィルターに掛けるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

DIRECT_ATTACHED

ホスト・システムに直接接続された LU のみに関する戻り情報。

DLUR_ATTACHED

ローカル・ノードで DLUR がサポートする LU のみに関する戻り情報。

DLUR

ダウンストリーム・ノードからパススルー DLUR がサポートする LU のみに関する戻り情報。このオプションが有効なのは、ローカル・ノードがネットワーク・ノードの場合のみです。

PU_CONCENTRATION

ダウンストリーム・ノードから SNA ゲートウェイがサポートする LU のみに関する戻り情報。

NONE

ホスト接続に関係なく、すべての LU に関する戻り情報。

ノードが実行中でない場合、このパラメーターは無視されます。CS/AIX は、ホスト接続に関係なく、すべての LU に関する情報を戻します。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
pu_name	character	8
lu_name	character	8
description	character	31
nau_address	decimal	
lu_sscp_sess_active	constant	
appl_conn_active	constant	
plu_sess_active	constant	
host_attachment	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に SUMMARY を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

pu_name

LU が使用するローカル PU の名前。

lu_name

ローカル LU の名前。

description

LU の定義に指定された、LU を説明するテキスト・ストリング。

nau_address

LU のネットワーク・アクセス可能装置アドレス。このアドレスは、1 から 255 の範囲にあります。

lu_sscp_sess_active

LU-SSCP セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

appl_conn_active

この LU を使用しているアプリケーションがあるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

LU を使用しているアプリケーションがあります。

NO

LU を使用しているアプリケーションはありません。

plu_sess_active

PLU-SLU セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

host_attachment

LU のホスト接続タイプ。

実行中のノードに対してこのコマンドが発行された場合、このパラメーターは、以下のいずれかの値をとります。

DIRECT_ATTACHED

LU はホスト・システムに直接接続されています。

DLUR_ATTACHED

LU は、ローカル・ノードで DLUR によってサポートされています。

DLUR

LU は、ダウンストリーム・ノードからパススルー DLUR によってサポートされています。

PU_CONCENTRATION

LU は、ダウンストリーム・ノードから SNA ゲートウェイによってサポートされています。

戻りパラメーター: 詳細情報

戻される詳細情報は、LU を使用するアプリケーションのタイプに応じて多少異なります。361 ページの『すべてのアプリケーション・タイプの戻りパラメーター』に、さまざまな場合に戻されるパラメーターが示されています。365 ページの『3270 で使用される LU の追加戻りパラメーター』から 368 ページの『LUA アプリケーションで使用される LU の戻りパラメーター』には、LU の使用方法に依存する戻りパラメーターが示されています。

すべてのアプリケーション・タイプの戻りパラメーター

以下のパラメーターは、define_lu_0_to_3 コマンドで定義したすべての LU に対して戻されます。

Parameter name	Type	Length
lu_name	character	8
lu_sscp_sess_active	constant	
appl_conn_active	constant	
plu_sess_active	constant	
host_attachment	constant	
lu_sscp_rcv_ru_size	decimal	
lu_sscp_send_ru_size	decimal	
lu_sscp_max_send_btu_size	decimal	
lu_sscp_max_rcv_btu_size	decimal	
lu_sscp_max_send_pac_win	decimal	
lu_sscp_cur_send_pac_win	decimal	
lu_sscp_max_rcv_pac_win	decimal	
lu_sscp_cur_rcv_pac_win	decimal	
lu_sscp_send_data_frames	decimal	
lu_sscp_send_fmd_data_frames	decimal	
lu_sscp_send_data_bytes	decimal	
lu_sscp_rcv_data_frames	decimal	
lu_sscp_rcv_fmd_data_frames	decimal	
lu_sscp_rcv_data_bytes	decimal	
lu_sscp_sidh	hex number	
lu_sscp_sidl	hex number	
lu_sscp_odai	constant	
lu_sscp_ls_name	character	8
lu_sscp_pacing_type	constant	
plu_rcv_ru_size	decimal	
plu_send_ru_size	decimal	
plu_max_send_btu_size	decimal	
plu_max_rcv_btu_size	decimal	
plu_max_send_pac_win	decimal	
plu_cur_send_pac_win	decimal	
plu_max_rcv_pac_win	decimal	
plu_cur_rcv_pac_win	decimal	
plu_send_data_frames	decimal	
plu_send_fmd_data_frames	decimal	
plu_send_data_bytes	decimal	
plu_rcv_data_frames	decimal	
plu_rcv_fmd_data_frames	decimal	
plu_rcv_data_bytes	decimal	
plu_sidh	hex number	
plu_sidl	hex number	
plu_odai	constant	
plu_ls_name	character	8
plu_pacing_type	constant	

plu_name	character	8
active_sscp_id	hex array	8
compression	constant	
session_id	hex array	8
description	character	31
nau_address	decimal	
pool_name	character	8
pu_name	character	8
priority	constant	
lu_model	constant	
allowed_sscp_id	hex array	8
timeout	decimal	
term_method	constant	
disconnect_on_unbind	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に **DETAIL** を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

lu_name

ローカル LU の名前。

lu_sscp_sess_active

LU-SSCP セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

appl_conn_active

この LU を使用しているアプリケーションがあるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

LU を使用しているアプリケーションがあります。

NO

LU を使用しているアプリケーションはありません。

plu_sess_active

PLU-SLU セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

host_attachment

LU のホスト接続タイプ。

実行中のノードに対してこのコマンドが発行された場合、このパラメーターは、以下のいずれかの値をとります。

DIRECT_ATTACHED

LU はホスト・システムに直接接続されています。

DLUR_ATTACHED

LU は、ローカル・ノードで DLUR によってサポートされています。

DLUR

LU は、ダウンストリーム・ノードからパススルー DLUR によってサポートされています。

PU_CONCENTRATION

LU は、ダウンストリーム・ノードから SNA ゲートウェイによってサポートされています。

2つのセッション (LU-SSCP セッションおよび PLU-SLU セッション) のそれぞれについて、以下のパラメーターが含まれます。パラメーター名は、2つのセッション・タイプを区別するために *lu_sscp_* または *plu_* で始まる必要があります。

rcv_ru_size

受信できる最大 RU サイズ。(LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。)

send_ru_size

送信できる最大 RU サイズ。(LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。)

max_send_btu_size

送信できる BTU の最大サイズ。

max_rcv_btu_size

受信できる BTU の最大サイズ。

max_send_pac_win

このセッションの送信ペーシング・ウィンドウの最大サイズ。(LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。)

cur_send_pac_win

このセッションの送信ペーシング・ウィンドウの現行サイズ。(LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。)

max_rcv_pac_win

このセッションの受信ペーシング・ウィンドウの最大サイズ。(LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。)

cur_rcv_pac_win

このセッションの受信ペーシング・ウィンドウの現行サイズ。(LU-SSCP セッション統計では、このパラメーターは予約済みです。)

send_data_frames

送信された通常フロー・データ・フレームの数。

send_fmd_data_frames

送信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

send_data_bytes

送信された通常フロー・データ・バイトの数。

rcv_data_frames

受信された通常フロー・データ・フレームの数。

rcv_fmd_data_frames

受信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

rcv_data_bytes

受信された通常フロー・データ・バイトの数。

以下の 3 つのパラメーターは、ローカル形式セッション ID (LFSID) を識別します。

sidh

セッション ID の上位バイト。

sidl

セッション ID の下位バイト。

odai

Origin Destination Assignor Indicator。可能な値は次のいずれかです。

YES

BIND 送信側は、2 次リンク・ステーションを含むノードです。

NO

BIND 送信側は、1 次リンク・ステーションを含むノードです。

ls_name

統計に関連したリンク・ステーション名。

pacings_type

PLU-SLU セッションで使用している受信ペーシングのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

- NONE
- PACING_FIXED

以下のパラメーターは、セッション・タイプによって区別されません。

plu_name

1次LUの名前。PLU-SLUセッションが活動状態でない場合、このパラメーターは予約済みです。

active_sscp_id

このLUが使用するPUのACTPUで受信されたSSCPのID。lu_sscp_sess_activeがNOの場合、このパラメーターはすべてゼロになります。

compression

PLU-SLUセッションで使用している圧縮レベル(該当する場合)。可能な値は次のいずれかです。

NO

PLU-SLUセッションを流れるデータはCS/AIXによって圧縮されていないか、アクティブのPLU-SLUセッションがありません。

YES

CS/AIXは、PLU-SLUセッション・データに対して圧縮および解凍を実行します。1次LUに向かってアップストリーム方向に流れるデータに対してはRLE圧縮が使用され、1次LUからダウンストリーム方向に流れるデータに対してはLZ9圧縮が使用されます。

PASSTHRU

このセッションの圧縮は、CS/AIXではなく、セッション・エンドポイント(ホストLUおよびローカル・アプリケーションまたはダウンストリームLU)によって実行されます。

session_id

PLU-SLUセッションの、8バイトの内部ID。

description

LUの定義に指定された、LUを説明するテキスト・ストリング。

nau_address

LUのネットワーク・アクセス可能装置アドレス(1から255の範囲)。

pool_name

このLUが属するLUプールの名前。LUがプールに属さない場合、このパラメーターは使用されません。

pu_name

このLUが使用するPUの名前。

priority

ホストへの送信時のLU優先順位。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK

LUはネットワーク上の優先権を持ちます。

HIGH

LUは高い優先順位を持ちます。

MEDIUM

LUは中程度の優先順位を持ちます。

LOW

LUは低い優先順位を持ちます。

lu_model

LUのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

3270_DISPLAY_MODEL_2

LUタイプは3270ディスプレイ・モデル2です。

3270_DISPLAY_MODEL_3

LUタイプは3270ディスプレイ・モデル3です。

3270_DISPLAY_MODEL_4

LUタイプは3270ディスプレイ・モデル4です。

3270_DISPLAY_MODEL_5

LUタイプは3270ディスプレイ・モデル5です。

PRINTER

LU タイプはプリンターです。

SCS_PRINTER

LU タイプは SCS プリンターです。

UNKNOWN

LU タイプが不明です。

allowed_sscp_id

この LU の活動化を許可された SSCP の ID を指定します。このパラメーターが 2 進ゼロに設定されている場合、LU はどの SSCP からでも活動化できます。

タイムアウト

LU のタイムアウト (秒単位)。タイムアウトを指定し、LU のユーザーが OPEN_LU_SSCP_SEC_RQ (または、SNA ゲートウェイの場合は、ダウンストリーム LU の定義) で allow_timeout を指定した場合は、PLU-SLU セッションが活動化されない状態のままこの期間が経過し、次の条件を満たすと、LU は非活動化されます。

- ・セッションが限定リソース・リンクを通過する。
- ・セッションが再使用される前に LU の使用を求めている別のアプリケーションがある。

タイムアウトがゼロに設定されている場合、LU は非活動化されません。

term_method

このパラメーターは、CS/AIX がこの LU からホストへの PLU-SLU セッションの終了を試行する方法を指定します。可能な値は次のいずれかです。

USE_NODE_DEFAULT

ノードのデフォルトの終了方式 (define_node の send_term_self パラメーターで指定) を使用します。

SEND_UNBIND

UNBIND を送信してセッションを終了します。

SEND_TERM_SELF

TERM_SELF を送信してセッションを終了します。

disconnect_on_unbind

このパラメーターは、この LU が TN3270 クライアントによって使用される場合のみ適用されます。これは、ホストが VTAM MSG10 を表示するか、またはホスト・セッション・マネージャーに戻る代わりに、UNBIND を送信するときにセッションを終了させるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ホストがタイプ 2 (BIND が用意されている) でない UNBIND を送信する場合は、セッションを終了させます。

NO

ホストが UNBIND を送信してもセッションを終了させません。

3270 で使用される LU の追加戻りパラメーター

戻される詳細情報には、361 ページの『[戻りパラメーター: 詳細情報](#)』に示されたパラメーター以外に、以下のパラメーターが含まれています。

app_type	constant	
user_name	character	32
system_name	character	32
user_pid	decimal	
user_type	constant	
user_uid	decimal	
user_gid	decimal	
user_gname	character	32
description	character	31

以下のパラメーターが戻されます。

app_type

この LU を使用するアプリケーションのタイプ。このパラメーターは FMI_APPLICATION に設定します。

user_name

3270 エミュレーション・プログラムを実行しているユーザー名。

system_name

プログラムを実行しているコンピューターの名前。

user_pid

LU を使用しているプログラムのプロセス ID。

user_type

この LU を使用するプログラムによって要求されるセッションのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

3270_DISPLAY_MODEL_2

プログラムは、3270 ディスプレイ・モデル 2 セッションを要求しました。

3270_DISPLAY_MODEL_3

プログラムは、3270 ディスプレイ・モデル 3 セッションを要求しました。

3270_DISPLAY_MODEL_4

プログラムは、3270 ディスプレイ・モデル 4 セッションを要求しました。

3270_DISPLAY_MODEL_5

プログラムは、3270 ディスプレイ・モデル 5 セッションを要求しました。

PRINTER

プログラムは、プリンター・セッションを要求しました。

SCS_PRINTER

プログラムは、SCS プリンター・セッションを要求しました。

UNKNOWN

セッション・タイプは不明です。この値は、セッションが活動状態でない場合にのみ戻されます。

user_uid

プログラムを実行しているユーザー ID。

user_gid

プログラムを実行しているグループ ID。

user_gname

プログラムを実行しているグループ名。

SNA ゲートウェイで使用される LU の戻りパラメーター

戻される詳細情報には、361 ページの『[戻りパラメーター: 詳細情報](#)』に示されたパラメーター以外に、以下のパラメーターが含まれています。

Parameter name	Type	Length
app_type	constant	
pu_conc_downstream_lu	character	8

app_type

この LU を使用するアプリケーションのタイプ。このパラメーターは PU_CONCENTRATION に設定します。

pu_conc_downstream_lu

この LU に関連付けられたダウンストリーム LU の名前。

Returned parameters for an LU used by a TN server

The detailed information returned contains the following parameters in addition to those shown in “[戻りパラメーター: 詳細情報](#)” on page 361:

Parameter name	Type	Length
app_type	constant	
user_ip_address	character	39
port_number	decimal	
cb_number	decimal	
cfg_default	constant	
cfg_address	character	64
cfg_format	constant	
tn3270_level	constant	
lu_select	constant	
request_lu_name	character	8
cipher_spec	constant	

app_type

Type of application using this LU. This parameter is set to TN_SERVER.

user_ip_address

The IP address of the computer where the TN3270 program is running. This is a null-terminated ASCII string, which can be either of the following.

- An IPv4 dotted-decimal address (such as 193.1.11.100).
- An IPv6 colon-hexadecimal address (such as 2001:0db8:0000:0000:0000:1428:57ab or 2001:db8::1428:57ab).

port_number

The TCP/IP port number that the TN3270 program uses to access TN server.

cb_number

TN server control block number.

cfg_default

Specifies whether the TN3270 program is using an explicitly defined TN server user record or is using the configured default record. For more information about configuring a default TN server user record, see “[アクセスの定義 tn3270](#)” on page 162. Possible values are:

YES

The program is using the default record. The *cfg_address* and *cfg_format* parameters are reserved.

NO

The program is using an explicitly defined record.

cfg_address

The TCP/IP address of the computer on which the TN3270 program runs, as defined in the configuration record that this user is using.

The address may be specified as an IPv4 dotted-decimal address (such as 193.1.11.100), an IPv6 colon-hexadecimal address (such as 2001:0db8:0000:0000:0000:1428:57ab or 2001:db8::1428:57ab), a name (such as newbox.this.co.uk), or an alias (such as newbox); the format is indicated by the *cfg_format* parameter.

cfg_format

Specifies the format of the *cfg_address* parameter. Possible values are:

IP_ADDRESS

IP address

FULLY_QUALIFIED_NAME

Alias or fully qualified name

tn3270_level

Level of TN3270 support. Possible values are:

LEVEL_TN3270

TN3270E protocols are disabled.

LEVEL_TN3270E

TN3270E protocols are enabled.

lu_select

Method of LU selection. Possible values are:

GENERIC_LU

This LU can be used by any TN3270 program that requests a generic display or printer LU.

SPECIFIC_LU

This LU can be used only by a TN3270 program that names this LU specifically.

ASSOCIATED_LU

This LU is a printer LU that has been associated with a display LU by a `define_tn3270_association` command, or a display LU that has been associated with a printer LU by a `define_tn3270_association` command.

request_lu_name

Requested LU name or associated display LU name.

cipher_spec

Indicates the type of SSL security and the encryption level in use for this session. Possible values are:

SSL_NO_SSL

SSL is not being used.

TLS_RSA_WITH_NULL_NULL TLS_RSA_WITH_NULL_SHA TLS_RSA_WITH_NULL_MD5

Certificates are exchanged, but no encryption is used.

TLS_RSA_WITH_DES_CBC_SHA

DES 56-bit encryption (deprecated).

TLS_AES_128_CCM_8_SHA256 TLS_AES_128_CCM_SHA256 TLS_AES_128_GCM_SHA256**TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_128_CBC_SHA TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256****TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256 TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA****TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256 TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256****TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA TLS_RSA_WITH_AES_128_CBC_SHA256****TLS_RSA_WITH_AES_128_GCM_SHA256**

128-bit encryption.

TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA TLS_ECDHE_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA**TLS_RSA_WITH_3DES_EDE_CBC_SHA**

Triple-DES 168-bit encryption.

TLS_AES_256_GCM_SHA384 TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA**TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384****TLS_ECDHE_ECDSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA****TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA384 TLS_ECDHE_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384****TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA TLS_RSA_WITH_AES_256_CBC_SHA256****TLS_RSA_WITH_AES_256_GCM_SHA384 TLS_CHACHA20_POLY1305_SHA256**

256-bit encryption (recommended).

LUA アプリケーションで使用される LU の戻りパラメーター

戻される詳細情報には、361 ページの『[戻りパラメーター: 詳細情報](#)』に示されたパラメーター以外に、以下のパラメーターが含まれています。

Parameter name	Type	Length
app_type	constant	
user_ip_address	character	39
user_host_address	character	255

app_type

この LU を使用するアプリケーションのタイプ。このパラメーターは `LUA_APPLICATION` に設定します。

user_ip_address

LUA アプリケーションが実行しているコンピューター (クライアントまたはサーバー) の IP アドレス。指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)

user_host_address

LUA アプリケーションが実行しているコンピューター (クライアントまたはサーバー) の名前。これは IP ホスト名です (`newbox.this.co.uk` など)。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

指定された名前で始まるすべてのエントリーをリストするように `list_options` パラメーターが `LIST_INCLUSIVE` に設定されていますが、`lu_name` パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_lu_lu_password

`query_lu_lu_password` コマンドは、ローカル LU とパートナー LU の間のセッション・レベル・セキュリティ検査に使用するパスワードに関する情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定のパートナー LU のパスワードまたは複数のパートナー LU のパスワードに関する情報を入手するために使用できます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_lu_lu_password]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)

query_lu_lu_password

plu_alias	character	8	(null string)
fqplu_name	character	17	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す LU の最大数。特定の LU のデータを戻すには 1、複数の LU のデータを戻すには 1 より大きい数値、すべての LU のデータを戻すには 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の LU リスト内の開始位置。

値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

plu_alias パラメーターまたは *fqplu_name* パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

plu_alias パラメーターまたは *fqplu_name* パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

lu_name

LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU が LU 名ではなく LU エイリアスで識別されるようにする場合、このパラメーターは設定せず、*lu_alias* パラメーターでエイリアスを指定してください。

lu_alias

ローカルで定義された LU 別名。このエイリアスは、ローカルで表示可能な文字の 8 バイト文字列です。このパラメーターは、*lu_name* を指定しない場合にのみ使用します。CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU を示す場合は、*lu_name* または *lu_alias* のいずれも指定しないでください。

plu_alias

パートナー LU 別名。このエイリアスは、ローカルで表示可能な文字の 8 バイト文字列です。このパラメーターは、*list_options* を **FIRST_IN_LIST** に設定した場合には無視されます。それ以外の場合は、パートナー LU 名に対して LU 別名または LU の完全修飾名を指定する必要があります。パートナー LU が LU エイリアスではなく LU の完全修飾名によって識別されるようにする場合、このパラメーターは指定せず、*fqplu_name* パラメーターで LU エイリアスを指定してください。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。ネットワーク名およびパートナー LU 名には、文字、0 から 9 の数字、および特殊文字 \$、#、@ のみを使用します。

この名前は、情報が必要とされているパートナー LU 名、または LU リストの索引として使用できます。このパラメーターは、*list_options* を **FIRST_IN_LIST** に設定した場合には無視されます。それ以外の場合は、パートナー LU 名に対して LU 別名または LU の完全修飾名を指定する必要があります。このパラメーターは、*plu_alias* パラメーターが指定されていない場合にのみ使用します。*plu_alias* が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
plu_alias	character	8
fqplu_name	character	17
description	character	31
protocol_defined	constant	1
protocol_in_use	constant	1

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

plu_alias

パートナー LU 別名。

fqplu_name

17 バイトからなるパートナー LU の完全修飾ネットワーク名。

description

パスワードの定義に指定された、LU-LU パスワードを説明するテキスト・ストリング。

protocol_defined

このパートナー LU で使用するために定義され、要求された LU-LU 検査プロトコル。可能な値は次のいずれかです。

BASIC

基本セキュリティ・プロトコルが要求されました。

ENHANCED

拡張セキュリティ・プロトコルが要求されました。

EITHER

基本セキュリティおよび拡張セキュリティが受け入れられます。

protocol_in_use

このパートナー LU で使用している LU-LU 検査プロトコル。可能な値は次のいずれかです。

BASIC

基本セキュリティ・プロトコルが要求されました。

ENHANCED

拡張セキュリティ・プロトコルが要求されました。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_ALIAS

指定した *lu_alias* パラメーターは、構成されたどの LU のエイリアスとも一致しません。

INVALID_LU_NAME

指定した *lu_name* パラメーターは、構成されたどの LU の名前とも一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_lu_pool

query_lu_pool コマンドは、LU プール、およびそのプールに属する LU に関する情報を戻します。ノードが活動状態の場合、このコマンドは、LU のセッションが活動状態であるかどうかを示すステータス情報も戻します。

このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の LU またはプール、あるいは複数の LU またはプールに関する情報を入手するために使用できます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_lu_pool]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
pool_name	character	8	(null string)
lu_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻される LU プール、またはプール内の LU の最大数 (戻される情報のレベルに応じて決まります)。特定のエントリーのデータを戻す場合は 1 を、複数のエントリーに関するデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値を、すべてのエントリーに関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options を SUMMARY に設定した場合は、各エントリーが単一の LU プールになります。*list_options* を DETAIL に設定した場合は、各エントリーがプール内の 1 つの LU (または空の LU プールを示すエントリー) になります。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合のエントリーのリスト内の開始位置。詳細情報を戻す場合、リストは、最初に *pool_name* 順に、次に *lu_name* 順に並べられます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報は LU プール内の個々の LU をリストします。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

pool_name パラメーターと *lu_name* パラメーターを組み合わせて指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

pool_name パラメーターと *lu_name* パラメーターを組み合わせて指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

pool_name

情報が必要とされている LU プールの名前。このパラメーターは、8 バイトの文字列です。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

lu_name

情報が必要とされている LU 名。このパラメーターは、8 バイトの文字列です。*list_options* が SUMMARY または FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

プール内のすべての LU に関する情報を取得するには、*pool_name* をプールの名前に設定し、*num_entries* を 0 (ゼロ) に設定して、*lu_name* は指定しないでください。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
pool_name	character	8
description	character	31
num_active_lus	decimal	
num_avail_lus	decimal	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に SUMMARY を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

pool_name

LU プールの名前。

description

LU プールの定義に指定された、LU プールを説明するテキスト・ストリング。

num_active_lus

プール内の活動状態 LU の数。

num_avail_lus

強制されたオープン要求による活動化に使用可能なプール内の LU の数。この数は、PU が活動状態であるか、ホスト・リンクが自動活動化可能で、接続が解放されているすべての LU を示します。

この数には、PU の LU *model_type*、*model_name* および DDDL サポートは考慮に入れていません。オープン要求で *model_type* に特定の値を指定する場合は、この数に含まれる一部の LU は使用できない可能性があります。これは、このような LU のモデル・タイプが間違っているためです。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
pool_name	character	8
description	character	31
lu_name	character	8
lu_sscp_sess_active	constant	
appl_conn_active	constant	
plu_sess_active	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に DETAIL を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

pool_name

LU が属する LU プールの名前。

description

LU プールの定義に指定された、LU プールを説明するテキスト・ストリング。

lu_name

LU 名。LU 名がない特定のプール名に対して単一のエントリーが戻された場合は、LU プールが空であることを示します。

lu_sscp_sess_active

LU-SSCP セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

appl_conn_active

この LU を使用しているアプリケーションがあるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

LU を使用しているアプリケーションがあります。

NO

LU を使用しているアプリケーションはありません。

plu_sess_active

PLU-SLU セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_NAME

指定された名前が始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*lu_name* パラメーター値が無効です。

INVALID_POOL_NAME

指定された名前が始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*pool_name* パラメーター値は無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_lu62_timeout

query_lu62_timeout コマンドは、以前に define_lu62_timeout コマンドを使用して定義した LU タイプ 6.2 セッション・タイムアウトの定義に関する情報を戻します。

情報はリストとして戻されます。特定のタイムアウトに関する情報または複数のタイムアウト値に関する情報を入手するには、*resource_type* パラメーターと *resource_name* パラメーターに値を指定します。*list_options* パラメーターを FIRST_IN_LIST に設定した場合、*resource_type* パラメーターと *resource_name* パラメーターは無視されます。戻されるリストは、最初に *resource_type* 順、次に *resource_name* 順に並んでいます。

resource_type の場合は、以下の順序になります。

1. グローバル・タイムアウト
2. ローカル LU タイムアウト
3. パートナー LU タイムアウト
4. モード・タイムアウト

resource_name の場合は、以下の順序になります。

1. 名前の長さ
2. 同じ長さの場合は、ASCII コードの順

list_options パラメーターを LIST_FROM_NEXT に設定した場合、戻されるリストは、定義した順序 (指定したエントリーが存在するかどうか) に従って次のエントリーから開始されます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_lu62_timeout]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
resource_type	constant		GLOBAL_TIMEOUT
resource_name	character	17	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

エントリーの最大数(そのエントリーのデータが戻されます)。特定のエントリーのデータを戻す場合は 1 を、複数のエントリーに関するデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値を、すべてのエントリーに関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のエントリーのリスト内の開始位置。リストは、まず *resource_type* 別に GLOBAL_TIMEOUT、LOCAL_LU_TIMEOUT、PARTNER_LU_TIMEOUT、MODE_TIMEOUT の順に並べられ、次に *resource_name* 別に名前の長さの順に並べられ、同じ長さの名前についてはアルファベット順に並べられます。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

resource_type パラメーターと *resource_name* パラメーター を組み合わせて指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

resource_type パラメーターと *resource_name* パラメーター を組み合わせて指定したエントリーのすぐ後のエントリーから開始します。

resource_type

照会するタイムアウトのタイプを指定します。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

可能な値は次のいずれかです。

GLOBAL_TIMEOUT

タイムアウトは、ローカル・ノードのすべての LU 6.2 セッションに適用されます。

LOCAL_LU_TIMEOUT

タイムアウトは、*resource_name* パラメーターで指定したローカル LU のすべての LU 6.2 セッションに適用されます。

PARTNER_LU_TIMEOUT

タイムアウトは、*resource_name* パラメーターで指定したパートナー LU へのすべての LU 6.2 セッションに適用されます。

MODE_TIMEOUT

タイムアウトは、*resource_name* パラメーターで指定したモードを使用するすべての LU 6.2 セッションに適用されます。

resource_name

照会するリソースの名前。この値は、以下のいずれかです。

- *resource_type* が GLOBAL_TIMEOUT に設定されている場合は、このパラメーターを指定しない。
- *resource_type* が LOCAL_LU_TIMEOUT に設定されている場合は、ローカル LU 名として 1 から 8 文字のタイプ A の文字ストリングを指定する。
- *resource_type* が PARTNER_LU_TIMEOUT に設定されている場合は、パートナー LU の完全修飾名を指定する。この名前には、1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。

- *resource_type* が `MODE_TIMEOUT` に設定されている場合は、モード名として 1 から 8 文字のタイプ A の文字ストリングを指定する。

list_options が `FIRST_IN_LIST` に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
<i>resource_type</i>	constant	
<i>resource_name</i>	character	17
<i>timeout</i>	decimal	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

resource_type

タイムアウトのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

GLOBAL_TIMEOUT

タイムアウトは、ローカル・ノードのすべての LU 6.2 セッションに適用されます。 *resource_name* パラメーターはすべてゼロに設定します。

LOCAL_LU_TIMEOUT

タイムアウトは、*resource_name* パラメーターで指定したローカル LU のすべての LU 6.2 セッションに適用されます。

PARTNER_LU_TIMEOUT

タイムアウトは、*resource_name* パラメーターで指定したパートナー LU のすべての LU 6.2 セッションに適用されます。

MODE_TIMEOUT

タイムアウトは、*resource_name* パラメーターで指定したモードを使用するすべての LU 6.2 セッションに適用されます。

resource_name

リソースの名前。この名前は、*resource_type* パラメーターの値に応じて、ローカル LU、パートナー LU、またはモードとなります。 *resource_type* を `GLOBAL_TIMEOUT` に設定した場合、このパラメーターはゼロに設定されます。

タイムアウト

タイムアウト期間 (秒単位)。値 0 (ゼロ) は、セッションが解放されるとすぐにタイムアウトになることを示します。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

`PARAMETER_CHECK`

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_RESOURCE_NAME

list_options パラメーターが、指定した名前およびタイプで始まるすべてのエントリーをリストするように `LIST_INCLUSIVE` に設定されていますが、*resource_type* と *resource_name* の組み合わせは、設定されたどの値にも一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_mds_application

query_mds_application コマンドは、(MS verb の REGISTER_MS_APPLICATION を発行して) MDS レベルのメッセージに登録されたアプリケーションのリストを戻します。この MS verb について詳しくは、「IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux MS プログラマーズ・ガイド」を参照してください。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定のアプリケーションまたは複数のアプリケーションに関する情報を入手するために使用できます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_mds_application]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
application	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻すアプリケーションの最大数。特定アプリケーションのデータを戻す場合は 1、複数のアプリケーションのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのアプリケーションのデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のアプリケーションのリスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

application パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

application パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

application

情報が必要とされているアプリケーションの名前、またはリストの索引として使用される名前。

list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
application	character	8
max_rcv_size	decimal	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

application

登録済みアプリケーション名。

max_rcv_size

アプリケーションが1つのメッセージで受信できるバイトの最大数(アプリケーションをMDSで登録するときに指定)。MDSレベルのアプリケーション登録について詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux MS プログラマーズ・ガイド*」を参照してください。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIXは、エラーのタイプを示す1次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す2次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIXは以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_APPLICATION_NAME

list_options パラメーターは、指定名から始まるすべてのエントリーをリストするように *LIST_INCLUSIVE* に設定されていますが、*application* パラメーターに指定された値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIXは以下のパラメーターを戻します。

primary_rc**FUNCTION_NOT_SUPPORTED**

このローカル・ノードは、MS ネットワーク管理機能をサポートしていません。このサポートは、ノード定義の *mds_supported* パラメーターで定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の1次戻りコードと2次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_mds_statistics

`query_mds_statistics` コマンドは、Management Services 統計情報を戻します。これらの統計情報を使用して、MDS 経路指定トラフィックのレベルを測ることができます。また、この情報を使用して、ノード定義の一部として構成される送信アラート・キューの必要サイズを判別することもできます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

```
[query_mds_statistics]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type
alerts_sent	decimal
alert_errors_rcvd	decimal
uncorrelated_alert_errors	decimal
mds_mus_rcvd_local	decimal
mds_mus_rcvd_remote	decimal
mds_mus_delivered_local	decimal
mds_mus_delivered_remote	decimal
parse_errors	decimal
failed_deliveries	decimal
ds_searches_performed	decimal
unverified_errors	decimal

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

alerts_sent

MDS トランスポート・システムを使用して送信されたローカル発信のアラート数。

alert_errors_rcvd

MDS によって受信されたエラー・メッセージの数。エラー・メッセージには、アラートを含むメッセージの配信に失敗したことが示されます。

uncorrelated_alert_errors

MDS によって受信されたエラー・メッセージの数。エラー・メッセージには、アラートを含むメッセージの配信に失敗したことが示されます。配信の失敗は、エラー・メッセージが MDS 送信アラート・キュー上のアラートと相関関係がない場合に生じます。MDS は、固定サイズのキューを保持し、そこに問題判別フォーカル・ポイントに送信されたアラートをキャッシュします。キューが最大サイズに達すると、最も古いアラートが廃棄され、新しいアラートに置き換えられます。配信エラー・メッセージを受け取ると、MDS は、そのエラー・メッセージを キャッシュしたアラートに関連させようとするため、問題判別フォーカル・ポイントが 復元されるまでそのアラートを保留することができます。

注:

2つのカウント *alert_errors_rcvd* および *uncorrelated_alert_errors* を使用して、送信アラート・キューのサイズ (*define_node* コマンドで指定) が適切であることを検査することができます。時間が経過すると *uncorrelated_alert_errors* の値が増加する場合、送信アラート・キューのサイズが小さすぎます。

mds_mus_rcvd_local

ローカル・アプリケーションから受け取った MDS_MU の数。

mds_mus_rcvd_remote

MDS_RECEIVE および MSU_HANDLER トランザクション・プログラムを使用してリモート・ノードから受け取った MDS_MU の数。

mds_mus_delivered_local

ローカル・アプリケーションへ正常に配信した MDS_MU の数。

mds_mus_delivered_remote

MDS_SEND トランザクション・プログラムを使用してリモート・ノードに正常に配信した MDS_MU の数。

parse_errors

ヘッダー・フォーマット・エラーを含む受信した MDS_MU の数。

failed_deliveries

このノードが配信に失敗した MDS_MU の数。

ds_searches_performed

MDS_MU のネクスト・ホップを配置するために使用するディレクトリー・サービス検索の数。このパラメーターは、ネットワーク・ノードにのみ有効です。

unverified_errors

MDS_MU のネクスト・ホップを判別するために未確認 (ローカル・ディレクトリー・サービス検索) のデータを使用したことが原因で生じた経路指定エラーの数。このタイプのエラーが生じるたびに、ディレクトリー・サービスは、中央ディレクトリー検索またはブロードキャスト検索メカニズムのいずれ

れかを使用して、検索を繰り返す必要があります。このパラメーターは、ネットワーク・ノードにのみ有効です。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

このローカル・ノードは、MS ネットワーク管理機能をサポートしていません。このサポートは、ノード定義の *mds_supported* パラメーター で定義します。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_mode

query_mode コマンドは、特定のパートナー LU を使用して、ローカル LU が使用しているモード、または使用したことのあるモードについての情報を戻します。このコマンドを使用して、使用するオプションに応じて、特定モード、複数モード、セッションが現在活動状態であるモード、または今まで使用されたすべてのモードについての情報を入手することができます。このコマンドが戻すのはモードと LU の現在の使用状況に関する情報であって、モードと LU の定義ではありません。モードと LU の定義は、*query_mode_definition* を使用して取得してください。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_mode]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
plu_alias	character	8	(null string)
fqplu_name	character	17	(null string)
mode_name	character	8	(null string)
active_sessions	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻すモードの最大数。特定モードのデータを戻す場合は1、複数のモードのデータを戻す場合は1よりも大きい数値、すべてのモードのデータを戻す場合は0(ゼロ)を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、およびCS/AIXがデータを戻す場合のモードのリスト内の開始位置。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します(指定したローカルLUの最初のパートナーLU)。

LIST_INCLUSIVE

fqplu_name (または *plu_alias*) パラメーターと *mode_name* のパラメーターを組み合わせて指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

fqplu_name パラメーターと *mode_name* パラメーターを組み合わせて指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

FIRST_IN_LIST の場合、リストの索引として使用されるエントリーは、*lu_name* (または *lu_alias*) および *fqplu_name* (または *plu_alias*) を組み合わせて定義されます。*fqplu_name* または *plu_alias* が指定されていない場合、索引として使用されるエントリーは、*lu_name* (または *lu_alias*) です。

LIST_INCLUSIVE または LIST_FROM_NEXT の場合、リストの索引として使用されるエントリーは、指定された *lu_name* (または *lu_alias*)、*fqplu_name* (または *plu_alias*)、および *mode_name* を組み合わせて定義されます。

lu_name

CS/AIX で定義されたローカルLUのLU名。この名前は、タイプAの文字ストリングです。LU名ではなくLU別名によってLUが識別されていることを示す場合は、このパラメーターを指定しないでください。ローカルCP(デフォルトLU)に関連付けられているLUを指定する場合は、*lu_name* または *lu_alias* のいずれも指定しないでください。

lu_alias

ローカルで定義されたLU別名。このパラメーターは、*lu_name* を指定しない場合にのみ使用します。CP(デフォルトLU)に関連付けられているLUを示す場合は、*lu_name* または *lu_alias* のいずれも指定しないでください。

plu_alias

パートナーLU別名。LU別名ではなくLU名によってLUが識別されることを示す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

fqplu_name

パートナーLUの完全修飾名。1から8文字のネットワーク名、ピリオド、1から8文字のパートナーLU名で構成される3から17文字のタイプAの文字ストリングを指定します。ネットワーク名およびパートナーLU名には、文字、0から9の数字、および特殊文字\$、#、@のみを使用します。

このパラメーターは、*plu_alias* パラメーターが指定されていない場合にのみ使用します。*plu_alias* が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。

mode_name

セッション・グループのネットワーク・プロパティを指定するモード名。この名前は、タイプAの文字ストリングです。*list_options* がFIRST_IN_LISTに設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

active_sessions

セッションが活動状態であるモードの情報のみを戻すか、すべてのモードの情報を戻すかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションが現在活動状態であるモードについての情報のみを戻します。

NO

セッションが活動状態であるか、以前に活動状態であったすべてのモードについての情報を戻しません。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length	
mode_name		character	8
description	character	31	
sess_limit	decimal		
act_sess_count	decimal		
fqplu_name	character	17	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が SUMMARY に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

mode_name

モード名。

description

モード定義に指定されているとおりの、モードを説明するテキスト・ストリング。

sess_limit

現在のセッション限度。

act_sess_count

モードを使用している指定のローカル LU とパートナー LU との間にある活動状態のセッションの総数。

fqplu_name

17 バイトからなるパートナー LU の完全修飾ネットワーク名。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length	
mode_name		character	8
description	character	31	
sess_limit	decimal		
act_sess_count	decimal		
fqplu_name	character	17	
min_conwinners_source	decimal		
min_conwinners_target	decimal		
drain_source	constant		
drain_partner	constant		
auto_act	decimal		
act_cw_count	decimal		
act_cl_count	decimal		
sync_level	constant		
default_ru_size	constant		
max_neg_sess_limit	decimal		
max_rcv_ru_size	decimal		
pending_session_count	decimal		
termination_count	decimal		
implicit	constant		

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が DETAIL に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

mode_name

モード名。

description

モード定義に指定されているとおりの、モードを説明するテキスト・ストリング。

sess_limit

現在のセッション限度。

act_sess_count

モードを使用している指定のローカル LU とパートナー LU との間にある活動状態のセッションの総数。

fqplu_name

17 バイトからなるパートナー LU の完全修飾ネットワーク名。

min_conwinners_source

ローカル (ソース) LU が競合勝者であるセッションの最小数を示します。

min_conwinners_target

ローカル LU が競合敗者であるセッションの最小数を示します。

drain_source

セッション限度が変更またはリセットされるときに、セッションを非活動化する前にローカル (ソース) LU が待機状態のセッション要求を満たすかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

待機状態のセッション要求は、セッションが非活動になる前に満たされます。

NO

待機状態のセッション要求は、セッションが非活動になる前に満たされません。

drain_partner

セッション限度が変更またはリセットされるときに、セッションを非活動化する前にパートナー LU が待機状態のセッション要求を満たすかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

待機状態のセッション要求は、セッションが非活動になる前に満たされます。

NO

待機状態のセッション要求は、セッションが非活動になる前に満たされません。

auto_act

パートナー LU との CNOS 交換に続いて、自動的に活動化された競合勝者セッションの数。

act_cw_count

このモードを使用している活動状態の競合勝者セッション数。

act_cl_count

このモードを使用している活動状態の競合敗者セッション数。

sync_level

モードがサポートする同期レベルを示します。可能な値は次のいずれかです。

CONFIRM

このモードは、CONFIRM および CONFIRMED verb を使用する同期をサポートします。

SYNCPT

このモードは、同期点機能をサポートします。

NONE

このモードは、同期をサポートしません。

default_ru_size

最大 RU サイズにデフォルトの上限および下限を使用するかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

CS/AIX は、モードの定義で指定された最大 RU サイズ限界を無視し、最大 RU サイズの上限をデフォルト (リンク BTU サイズに収容できる最大値) に設定します。

NO

CS/AIX は、モードの定義に指定された最大 RU サイズ限界を使用します。

max_neg_sess_limit

このモード名を使用して、ローカル LU がターゲット LU として CNOS 処理中に使用できる最大折衝可能セッション限度を示します。

max_rcv_ru_size

受信した最大 RU サイズを示します。

pending_session_count

保留している (セッション活動化を待機している) セッション数を示します。

termination_count

直前の CNOS コマンドでモード・セッション限度を 0 (ゼロ) に設定したが、会話がセッションを使用しているか使用するのを待機しているために、それらのセッションがまだ活動状態である場合、このパラメーターにより まだ非活動状態になっていないセッションの数を示します。

implicit

エントリーが、暗黙的な定義用であるか明示的な定義用であるかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

エントリーは、暗黙的な定義用です。これは、`define_defaults` コマンドによって定義されたデフォルトのモード名を使用して作成されました。

NO

エントリーは、明示的な定義用です。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_ALIAS

指定された名前が始まるすべてのエントリーをリストするように `list_options` パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、`lu_alias` パラメーター値が無効です。

INVALID_LU_NAME

指定された名前が始まるすべてのエントリーをリストするように `list_options` パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、`lu_name` パラメーター値が無効です。

INVALID_MODE_NAME

指定された名前が始まるすべてのエントリーをリストするように `list_options` パラメーターは LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、`mode_name` パラメーター値が無効です。

INVALID_PLU_NAME

指定した名前以降のすべてのエントリーをリストするため `list_options` パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、以下のいずれかの状態が存在します。

- `fqplu_name` パラメーターが、このローカル LU のパートナー名に一致しなかった。
- 指定したローカル LU、パートナー LU、およびモードの組み合わせに対して (ノードを最後に起動してから) 活動状態であったセッションがなかった。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_mode_definition

query_mode_definition コマンドは、SNA 定義モードを含むモードについての情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定のモードまたは複数のモードに関する要約または詳細を入手するために使用できます。

このコマンドが戻す情報は、モードの定義であり、その現在の使用状況についてはありません。ローカル LU およびパートナー LU によるモードの現在の使用状況に関する情報を入手するには、query_mode を使用してください。モードは、名前の長さ順に並べられ、同じ長さの名前は ASCII 辞書の編集順に並べられます。

このコマンドは、未認証のモード名に使用されるデフォルト COS 名についての情報は戻しません。デフォルト COS 名についての情報は、query_mode_to_cos_mapping を使用して取得します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_mode_definition]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
mode_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻すモードの最大数。特定モードのデータを戻す場合は 1、複数のモードのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのモードのデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合のモードのリスト内の開始位置。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

mode_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

mode_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

mode_name

セッション・グループのネットワーク・プロパティを指定するモード名。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length	
mode_name		character	8
description	character	31	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が SUMMARY に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

mode_name

モード名。

description

モード定義に指定されているとおりの、モードを説明するテキスト・ストリング。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length	
mode_name		character	8
description	character	31	
max_ru_size_upp	decimal		
receive_pacing_win	decimal		
default_ru_size	constant		
max_neg_sess_lim	decimal		
plu_mode_session_limit	decimal	decimal	
min_conwin_src	decimal		
cos_name	character	8	
compression	constant		
auto_act	decimal		
min_conloser_src	decimal		
max_ru_size_low	decimal		
max_receive_pacing_win	decimal		
max_compress_level	constant		
max_decompress_level	constant		

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が DETAIL に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

mode_name

モード名。

description

モード定義に指定されているとおりの、モードを説明するテキスト・ストリング。

max_ru_size_upp から max_decompress_level

これらのパラメーターについては、[90 ページの『define_mode』](#)を参照してください。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_MODE_NAME

指定された名前から始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターは LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*mode_name* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_mode_to_cos_mapping

query_mode_to_cos_mapping コマンドは、特定モードと関連付けられたサービス・クラス (COS) についての情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定のモードまたは複数のモードに関する情報を入手するために使用できます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_mode_to_cos_mapping]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
mode_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻すモードの最大数。特定モードのデータを戻す場合は 1、複数のモードのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのモードのデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のモードのリスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

mode_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

mode_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

mode_name

情報を求めるモードの名前、またはリストの索引として使用する名前。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。認識されないモード名に使用されるデフォルト COS に関する情報を戻すには、このパラメーターを 1 組の不等号括弧に設定します (空の 16 進配列を示します)。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length	
mode_name	character	8	
cos_name	character	8	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

mode_name

モード名。

cos_name

このモード名に関連したサービス・クラス名。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_MODE_NAME
指定された名前以て始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターは LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*mode_name* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_nmvt_application

query_nmvt_application コマンドは、NMVT レベル・メッセージ用に登録したアプリケーションのリストを (MS verb の REGISTER_NMVT_APPLICATION を実行することによって) 戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定のアプリケーションまたは複数のアプリケーションに関する情報を入手するために使用できます。この MS verb について詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux MS プログラマーズ・ガイド*」を参照してください。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_nmvt_application]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
application	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻すアプリケーションの最大数。特定アプリケーションのデータを戻す場合は 1、複数のアプリケーションのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのアプリケーションのデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のアプリケーションのリスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

application パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

application パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

application

情報を求めるアプリケーションの名前、またはアプリケーションのリストの索引として使用する名前。
list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
<i>application</i>	character	8
<i>ms_vector_key_type</i>	decimal	
<i>conversion_required</i>	constant	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

application

登録済みアプリケーション名。

ms_vector_key_type

アプリケーションによって受け入れ済みの MS ベクトル・キー。アプリケーションは、NMVT メッセージに登録する場合、受け入れる MS ベクトル・キーを指定します。値 0xFFFF は、アプリケーションがすべてのキーに登録されていることを示します。値 0xFFFE は、アプリケーションがすべての SPCF キーに登録されていることを示します。

conversion_required

登録済みアプリケーションが、着信メッセージを NMVT から MDS_MU フォーマットへ変換する必要があるかどうかを示します。アプリケーションは、NMVT メッセージに登録する場合、この変換が必要かどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

着信メッセージは、MDS_MU フォーマットに変換されます。

NO

着信メッセージは、MDS_MU フォーマットに変換されません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_APPLICATION_NAME

list_options パラメーターは、指定名から始まるすべてのエントリーをリストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*application* パラメーターに指定された値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_nn_topology_node

各ネットワーク・ノード (NN) は、ネットワーク内のすべてのネットワーク・ノード、仮想経路指定ノード (VRN)、およびネットワーク・ノード間の TG についての情報を保持するネットワーク・トポロジー・データベースを保守しています。query_nn_topology_node コマンドは、このデータベースにあるネットワーク・ノードおよび VRN エントリーについての情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定のノードまたは複数のノードに関する要約または詳細を入手するために使用できます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。これは、CS/AIX ノードがネットワーク・ノードである場合にのみ使用でき、エンド・ノードまたは LEN ノードである場合は無効です。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_nn_topology_node]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE (null string)
node_name	character	17	
node_type	constant		LEARN_NODE
frsn	decimal		0

注:

frsn パラメーターをゼロ以外の値に設定すると、指定された値以上の FRSN を持つノード・エントリーのみが戻されます。frsn パラメーターを 0 (ゼロ) に設定すると、すべてのノード・エントリーが戻されます。

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻すノードの最大数。特定ノードのデータを戻す場合は 1、複数のノードのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのノードのデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のノードのリスト内の開始位置、および各エントリーに必要な情報のレベル。このリストは、node_name、node_type (NETWORK_NODE、VRN の順)、および frsn の番号順に並べられます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

node_name、node_type、frsn の各パラメーターを組み合わせ指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

node_name パラメーター、node_type パラメーター、および frsn パラメーターを組み合わせ指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

node_name

情報を求めるノードの完全修飾名、またはノードのリストの索引として使用する名前。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。この名前は、1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のモード名で構成されるタイプ A の文字ストリングです

node_type

ノードのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

LEARN_NODE

ノード・タイプ不明

frsn

フロー縮小シーケンス番号。すべてのノードの情報を戻す場合は 0 (ゼロ) を、この値以上の FRSN を持つノードの情報を戻す場合はゼロ以外の値を指定します。

このパラメーターを使用すると、いくつかのコマンドを実行してすべての必須情報を入手する必要があるときに、確実に整合性の取れた情報を入手することができます。以下のステップを実行します。

frsn パラメーターを使用して整合性のある情報を入手するためには、以下の手順を実行します。

1. ノードの現在の FRSN を取得するために、`query_node` を実行します。
2. すべてのデータベース・エントリーを取得するために、`frsn` パラメーターを 0 (ゼロ) に設定し、必要なだけ `query_nn_topology_node` コマンドを実行します。
3. 再び `query_node` を実行して、新しい FRSN とステップ 1 で戻された FRSN を比較します。
4. 2 つの FRSN が異なる場合は、データベースが変更されたということです。ステップ 1 で取得した FRSN に 1 を追加し、`frsn` パラメーターをこの新しい値に設定して、再び `query_nn_topology_node` コマンドを実行します。これらのコマンドは、変更されたエントリーのみを戻します。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
node_name	character	17
node_type	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に SUMMARY を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

node_name

ノードの完全修飾名。

node_type

ノードのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

END_NODE

エンド・ノード (EN)

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
node_name	character	17
node_type	constant	
days_left	decimal	

query_nn_topology_node

frsn	decimal
rsn	decimal
rar	decimal
status	constant
function_support	constant
branch_aware	constant

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に **DETAIL** を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

node_name

ノードの完全修飾名。

node_type

ノードのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

END_NODE

エンド・ノード (EN)

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

days_left

このノード・エントリーがトポロジー・データベースから削除されるまでの日数。ローカル・ノード・エントリーの場合、この値は 0 (ゼロ) に設定され、このエントリーが削除されないことが示されます。

frsn

フロー縮小シーケンス番号。これにより、このリソースがローカル・ノードで最後に更新されたのはいつかが分かります。

rsn

リソース・シーケンス番号。この番号は、このリソースを所有するネットワーク・ノードによって割り当てられます。

rar

ノードの経路追加抵抗。0 から 255 までの範囲です。

status

ノードの状況を示します。このパラメーターは、**UNCONGESTED**、リストされた他のいずれかの値、または + 文字を使用して他の 2 つ以上の値を組み合わせた値に設定されます。可能な値は次のいずれかです。

UNCONGESTED

ISR セッション数は、ノードに構成された *isr_sessions_upper_threshold* 値を超えていません。

CONGESTED

ISR セッション数が、*isr_sessions_upper_threshold* 値を超えています。

IRR_DEPLETED

ISR セッション数が、ノードに指定された最大数に達しました。

ERR_DEPLETED

エンドポイント・セッション数が、ノードに指定された最大数に達しました。

QUIESCING

ノードは、*stop_node* コマンドで停止タイプ **QUIESCE** または **QUIESCE_ISR** を指定したため、停止処理中です。

function_support

ノードによってサポートされる機能を示します。可能な値は、以下の 1 つ以上の値です。

PERIPHERAL_BORDER_NODE

周縁ノード機能がサポートされます。

EXTENDED_BORDER_NODE

戻りボーダー・ノード機能がサポートされます。

CDS

中央ディレクトリー・サーバー機能がサポートされます。

GATEWAY

ゲートウェイ・ノード機能がサポートされます。

INTERCHANGE_NODE

交換ノード機能がサポートされます。

ISR

中間セッション経路指定機能がサポートされます。

HPR

ノードは、High Performance Routing (HPR) の基本機能をサポートします。

RTP_TOWER

ノードは HPR の Rapid Transport Protocol タワーをサポートします。

CONTROL_OVER_RTP_TOWER

ノードは、Rapid Transport Protocol タワー上の HPR 制御フローをサポートします。

branch_aware

ノードが分岐認識、APPN オプション・セット 1120 をサポートするかどうかを指定します。

NO

ノードは、オプション・セット 1120 をサポートしません。

YES

ノードは、オプション・セット 1120 をサポートします。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_NODE

指定された名前で作まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターは LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*node_name* パラメーター値は無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc**FUNCTION_NOT_SUPPORTED**

ローカル・ノードがエンド・ノードまたは LEN ノードです。このコマンドは、ネットワーク・ノードに対してのみ有効です。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_nn_topology_stats

query_nn_topology_stats コマンドは、トポロジー・データベースについての統計情報を戻します。このコマンドは、CS/AIX ノードがネットワーク・ノードである場合のみ使用可能であり、このノードがエンド・ノードまたは LEN ノードである場合は無効です。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

```
[query_nn_topology_stats]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type
max_nodes	decimal
cur_num_nodes	decimal
node_in_tdus	decimal
node_out_tdus	decimal
node_low_rsns	decimal
node_equal_rsns	decimal
node_good_high_rsns	decimal
node_bad_high_rsns	decimal
node_state_updates	decimal
node_errors	decimal
node_timer_updates	decimal
node_purges	decimal
tg_low_rsns	decimal
tg_equal_rsns	decimal
tg_good_high_rsns	decimal
tg_bad_high_rsns	decimal
tg_state_updates	decimal
tg_errors	decimal
tg_timer_updates	decimal
tg_purges	decimal
total_route_calcs	decimal
total_route_rejs	decimal
total_tree_cache_hits	decimal
total_tree_cache_misses	decimal
total_tdu_wars	decimal

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

max_nodes

ノード定義で指定されたトポロジー・データベース内のノード・レコードの最大数。値 0 (ゼロ) は、限度がないことを示します。

cur_num_nodes

このノードのトポロジー・データベース内の現行ノード数。この値が許可されるノードの最大数を超えると、アラートが出されます。

node_in_tdus

このノードによって受信されたトポロジー・データベース更新 (TDU) の総数。

node_out_tdus

最後の初期化からすべての隣接ネットワーク・ノードへ送られる、このノードによってビルドされた TDU の総数。

node_low_rsns

現行 RSN よりも小さいリソース・シーケンス番号 (RSN) を持つ、このノードによって受信されたトポロジー・ノード更新の総数。偶数の RSN と奇数の RSN の両方がこの数に含まれます。これらの TDU はエラーではありませんが、TDU がすべての隣接ネットワーク・ノードへブロードキャストされた場合に生じます。このノードのトポロジー・データベースは更新されませんが、このノードは、より高い値の RSN を持つ TDU を、低い値の RSN を送信した隣接ノードへ送ります。

node_equal_rsns

現行 RSN と等しい RSN を持つ、このノードによって受信されたトポロジー・ノード更新の総数。偶数の RSN と奇数の RSN の両方がこの数に含まれます。これらの TDU はエラーではありませんが、TDU がすべての隣接ネットワーク・ノードへブロードキャストされた場合に生じます。このノードのトポロジー・データベースは更新されません。

node_good_high_rsns

現行 RSN よりも大きい RSN を持つ、このノードによって受信されたトポロジー・ノード更新の総数。ノードは、トポロジーを更新し、TDU をすべての隣接ネットワーク・ノードへブロードキャストします。このノードは既に更新を保持しているため、ノードがこの更新の送信側に TDU を送る必要ありません。

node_bad_high_rsns

現行 RSN よりも大きい奇数の RSN を持つ、このノードによって受信されたトポロジー・ノード更新の総数。これらの更新は、APPN ネットワーク・ノードのいずれかによってトポロジー不整合が検出されたことを示します。ノードは、トポロジーを更新し、その TDU をすべての隣接ネットワーク・ノードへブロードキャストします。

node_state_updates

APPN トポロジーおよびルーティングに影響を与えるノード状態変更が内部で検出された結果としてビルドされた、トポロジー・ノード更新の総数。ノード更新は、TDU によってすべての隣接ネットワーク・ノードに送られます。

node_errors

このノードによって検出されたトポロジー・ノード更新不整合の総数。トポロジー・データベース更新不整合は、このノードがトポロジー・データベースの更新を試行して、データ不整合を検出したときに生じます。このノードは、次の奇数番号に増やされた現行 RSN を持つ TDU を作成して、それをすべての隣接ネットワーク・ノードにブロードキャストします。

node_timer_updates

タイマー更新が原因で、このノードのリソース用にビルドされたトポロジー・ノード更新の総数。ノード更新は、TDU によってすべての隣接ネットワーク・ノードに送られます。これらの更新により、他のネットワーク・ノードはそのトポロジー・データベースからこのノードのリソースを削除しないようになります。

node_purges

このノードのトポロジー・データベースから消去されたトポロジー・ノード・レコードの総数。消去は、ノード・レコードが指定の時間内に更新されない場合に生じます。所有ノードは、ネットワーク・トポロジーに保持しておきたいリソースの更新をブロードキャストします。

tg_low_rsns

現行 RSN よりも小さい RSN を持つ、このノードによって受信されたトポロジー TG 更新の総数。偶数の RSN と奇数の RSN の両方がこの数に含まれます。これらの TDU はエラーではありませんが、TDU がすべての隣接ネットワーク・ノードへブロードキャストされた場合に生じます。このノードのトポロジー・データベースは更新されませんが、このノードは、より高い値の RSN を持つ TDU を、この低い値の RSN を送信した隣接ノードへ送ります。

tg_equal_rsns

現行 RSN と等しい RSN を持つ、このノードによって受信されたトポロジー TG 更新の総数。偶数の RSN と奇数の RSN の両方がこの数に含まれます。これらの TDU はエラーではありませんが、TDU がすべての隣接ネットワーク・ノードへブロードキャストされた場合に生じます。このノードのトポロジー・データベースは更新されません。

tg_good_high_rsns

現行 RSN よりも大きい RSN を持つ、このノードによって受信されたトポロジー TG 更新の総数。ノードはそのトポロジーを更新し、TDU をすべての隣接ネットワーク・ノードにブロードキャストします。

tg_bad_high_rsns

現行 RSN よりも大きい奇数の RSN を持つ、このノードによって受信されたトポロジー TG 更新の総数。これらの更新は、APPN ネットワーク・ノードのいずれかによってトポロジー不整合が検出されたことを示します。ノードは、トポロジーを更新し、その TDU をすべての隣接ネットワーク・ノードへブロードキャストします。

tg_state_updates

APPN トポロジーおよびルーティングに影響を与えるノード状態変更が内部で検出された結果としてビルドされた、トポロジー TG 更新の総数。TG 更新は、TDU によってすべての隣接ネットワーク・ノードに送られます。

tg_errors

このノードによって検出されたトポロジー TG 更新不整合の総数。TG 更新不整合は、このノードがトポロジー・データベースの更新を試行して、データ不整合を検出したときに生じます。このノードは、次の奇数番号に増やされた現行 RSN を持つ TDU を作成して、それをすべての隣接ネットワーク・ノードにブロードキャストします。

tg_timer_updates

タイマー更新が原因で、このノードのリソース用にビルドされたトポロジー TG 更新の総数。TG 更新は、TDU によってすべての隣接ネットワーク・ノードに送られます。これらの更新により、他のネットワーク・ノードはそのトポロジー・データベースからこのノードのリソースを削除しないようになります。

tg_purges

このノードのトポロジー・データベースから消去されたトポロジー TG レコードの総数。消去は、TG レコードが指定の時間内に更新されない場合に生じます。所有ノードは、ネットワーク・トポロジーに保持しておきたいリソースの更新をブロードキャストします。

total_route_calcs

最後の初期化以降、すべてのサービス・クラス用に計算された経路の数。

total_route_rejs

最後の初期化以降、計算できなかったすべてのサービス・クラス用の経路要求の数。

total_tree_cache_hits

キャッシュされた経路指定ツリーによって満たされた経路計算の数。経路ごとにいくつかのツリーの検査が必要な場合があるため、この数は、計算された経路の総数よりも大きい可能性があります。

total_tree_cache_misses

キャッシュされた経路指定ツリーによって満たされないために、新しい経路指定ツリーをビルドする必要がある経路計算の数。

total_tdu_wars

ローカル・ノードが検出して防止する TDU 競合の数。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc**FUNCTION_NOT_SUPPORTED**

ローカル・ノードがエンド・ノードまたは LEN ノードです。このコマンドは、ネットワーク・ノードに対してのみ有効です。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_nn_topology_tg

各ネットワーク・ノード (NN) は、ネットワーク内のすべてのネットワーク・ノード、VRN、およびネットワーク・ノード間の TG についての情報を保持するネットワーク・トポロジー・データベースを保守しています。query_nn_topology_tg コマンドは、このデータベースにある TG エントリーについての情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の TG または複数の TG に関する要約または詳細情報を入手するために使用できます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。これは、CS/AIX ノードがネットワーク・ノードである場合にのみ使用でき、エンド・ノードまたは LEN ノードである場合は無効です。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_nn_topology_tg]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
owner	character	17	(null string)
owner_type	constant		LEARN_NODE
dest	character	17	(null string)
dest_type	constant		LEARN_NODE
tg_num	decimal		0
frsn	decimal		0

注:

frsn パラメーターをゼロ以外の値に設定すると、指定された値以上の FRSN を持つノード・エントリーのみが戻されます。frsn パラメーターを 0 (ゼロ) に設定すると、すべてのノード・エントリーが戻されます。

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

TG の最大数 (その TG のデータが戻されます)。特定の TG のデータを戻す場合は 1、複数の TG のデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべての TG のデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合の TG のリスト内の開始位置。リストは、owner、owner_type (NETWORK_NODE、VRN の順)、dest、dest_type (NETWORK_NODE、VRN の順)、tg_num (数字順)、および frsn (数字順) の順で並べられます。

指定した owner、owner_type、dest、dest_type、tg_num、および frsn の各パラメーターの組み合わせは、list_options パラメーターが LIST_INCLUSIVE または LIST_FROM_NEXT に設定された場合、TG のリストの索引として使用されます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

owner、*owner_type*、*dest*、*dest_type*、*tg_num*、および *frsn* を組み合わせて指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

owner、*owner_type*、*dest*、*dest_type*、*tg_num*、および *frsn* を組み合わせて指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

owner

TG を所有するノードの名前。*list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、この値は無視されます。この名前は、1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のノード名で構成されるタイプ A の文字ストリングです。

owner_type

TG を所有するノードのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

LEARN_NODE

ノード・タイプ不明

dest

この TG のための宛先ノードの名前。*list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、この値は無視されます。この名前は、1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の宛先ノード名で構成されるタイプ A の文字ストリングです。

dest_type

TG の宛先ノードのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

LEARN_NODE

ノード・タイプ不明

tg_num

TG に関連付けられている数。

frsn

フロー縮小シーケンス番号。すべての TG の情報を戻す場合は 0 (ゼロ) を、この値以上の FRSN を持つ TG の情報を戻す場合はゼロ以外の値を指定します。

このパラメーターを使用すると、いくつかのコマンドを実行してすべての必須情報を入手する必要があるときに、確実に整合性の取れた情報を入手することができます。以下のステップを実行します。

frsn パラメーターを使用して整合性のある情報を入手するためには、以下の手順を実行します。

1. ノードの現在の FRSN を取得するために、*query_node* を実行します。
2. すべてのデータベース・エントリーを取得するために、*frsn* パラメーターを 0 (ゼロ) に設定し、必要なだけ *query_nn_topology_node* コマンドを実行します。
3. 再び *query_node* を実行して、新しい FRSN とステップ 1 で戻された FRSN を比較します。
4. 2 つの FRSN が異なる場合は、データベースが変更されたということです。ステップ 1 で取得した FRSN に 1 を追加し、*frsn* パラメーターをこの新しい値に設定して、再び *query_nn_topology_node* コマンドを実行します。これらのコマンドは、変更されたエントリーのみを戻します。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
owner	character	17
owner_type	constant	
dest	character	17
dest_type	constant	
tg_num	decimal	
frsn	decimal	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に SUMMARY を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

owner

TG を所有するノードの名前。

owner_type

TG を所有するノードのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

END_NODE

エンド・ノード (EN)

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

dest

この TG のための宛先ノードの名前。

dest_type

TG の宛先ノードのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

END_NODE

エンド・ノード (EN)

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

tg_num

TG に関連付けられている数。

frsn

このリソースのローカル・ノードでの最終更新時間を示すフロー縮小シーケンス番号。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
owner	character	17
owner_type	constant	
dest	character	17
dest_type	constant	
tg_num	decimal	
frsn	decimal	
days_left	decimal	
dlc_data	hex array	32
rsn	decimal	
status	constant	
effect_cap	hex number	
connect_cost	decimal	
byte_cost	decimal	
security	constant	
prop_delay	constant	
user_def_parm_1	decimal	128
user_def_parm_2	decimal	128
user_def_parm_3	decimal	128
subarea_number	hex array	8
tg_type	constant	
intersubnet_tg	constant	

cp_cp_session_active	constant
branch_tg	constant
multilink_tg	constant

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に **DETAIL** を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

owner

TG を所有するノードの名前。

owner_type

TG を所有するノードのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

END_NODE

エンド・ノード (EN)

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

dest

この TG のための宛先ノードの名前。

dest_type

TG の宛先ノードのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

NETWORK_NODE

ネットワーク・ノード (NN)

END_NODE

エンド・ノード (EN)

VRN

仮想経路指定ノード (VRN)

tg_num

TG に関連付けられている数。

frsn

このリソースのローカル・ノードでの最終更新時間を示すフロー縮小シーケンス番号。

days_left

この TG エントリーがトポロジー・データベースから削除されるまでの日数。

dlc_data

dest_type または *owner_type* が **VRN** である場合、このパラメーターは **VRN** への接続の DLC アドレスを示します。アドレス内のバイト数は、DLC タイプによって異なります。それ以外の場合、このパラメーターは使用しません。

トークンリングまたはイーサネットの場合、このアドレスは、6 バイトの MAC アドレスと 1 バイトのローカル SAP アドレスという 2 つの部分から構成されます。MAC アドレスのビット配列は、予期した形式と異なる場合があります。2 つのアドレス・フォーマット間の変換についての詳細は、[200 ページの『MAC アドレスのビット・オーダー』](#)を参照してください。

rsn

このリソースを所有するネットワーク・ノードによって割り当てられたリソース・シーケンス番号。

status

TG の状況を示します。可能な値は次のいずれかです。

NONE

伝送グループ・リンクは確立されていません。

TG_OPERATIVE

伝送グループ・リンクは動作しています。

TG_CP_CP_SESSIONS

伝送グループ・リンクは動作しており、CP-CP セッションを保持しています。

TG_QUIESCING

伝送グループ・リンクはシャットダウンしています。

TG_HPR

伝送グループは、High Performance Routing (HPR) プロトコルをサポートします。

TG_RTP

伝送グループは、Rapid Transport Protocol (RTP) をサポートします。

effect_cap から user_def_parm_3

このポートを使用する暗黙的なリンク・ステーションに対して使用されるデフォルトの TG 特性、および TG 特性が明示的に定義されていない定義済みリンク・ステーションのデフォルトの TG 特性。TG 特性パラメーターは、LS がダウンストリーム PU への LS である場合には無視されます。

これらのパラメーターの詳細については、[187 ページ](#)の『[define_tr_ls](#)、[define_ethernet_ls](#)』を参照してください。

subarea_number

TG の宛先所有者がサブエリア対応である場合、このパラメーターには、サブエリア対応ノード上に TG に関連付けられたリンク・ステーションを所有する、タイプ 4 またはタイプ 5 のノードのサブエリア番号が含まれます。それ以外の場合は、このパラメーターはすべて 2 進ゼロに設定されます。

tg_type

TG のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

APPN_OR_BOUNDARY_TG

TG を基にした APPN TG または境界機能。

INTERCHANGE_TG

交換 TG。

VIRTUAL_ROUTE_BASED_TG

TG を基にした仮想経路。

UNKNOWN

TG のタイプは不明です。

intersubnet_tg

TG がサブネットワーク間 TG であるかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

TG は、サブネットワーク間 TG です。

NO

TG は、サブネットワーク間 TG ではありません。

cp_cp_session_active

所有ノードの競合勝者 CP-CP セッションが活動状態であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

CP-CP セッションは活動状態です。

NO

CP-CP セッションは活動状態ではありません。

UNKNOWN

CP-CP セッション状況は不明です。

branch_tg

TG が分岐 TG であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

TG は分岐 TG です。

NO

TG は分岐 TG ではありません。

UNKNOWN

TG のタイプは不明です。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_TG
指定された名前が始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターは LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*tg_num* パラメーター値が無効です。

INVALID_ORIGIN_NODE
指定された名前が始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターは LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*owner* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
FUNCTION_NOT_SUPPORTED
ローカル・ノードがエンド・ノードまたは LEN ノードです。このコマンドは、ネットワーク・ノードに対してのみ有効です。

secondary_rc
(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

照会ノード

照会ノード コマンドは、CS/AIX ノードの定義に関する情報を戻します。また、その定義がアクティブである場合はその状況についても情報を戻します。このコマンドは、単一ノードに関する情報のみを戻します。CS/AIX ドメイン内のノードのリストを取得するには、コマンドすべての照会ノードを使用します。その後、このリスト内の個々のノードに対して照会ノードを使用して、より詳細な情報を入手することができます。

指定パラメーター

[query_node]

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
description	character	31
node_type	constant	
fqcp_name	character	17
cp_alias	character	8
mode_to_cos_map_supp	constant	
mds_supported	constant	
node_id	character	4
max_locates	decimal	
dir_cache_size	decimal	
max_dir_entries	decimal	
locate_timeout	decimal	
reg_with_nn	constant	
reg_with_cds	constant	
mds_send_alert_q_size	decimal	
cos_cache_size	decimal	
tree_cache_size	decimal	
tree_cache_use_limit	decimal	
max_tdm_nodes	decimal	
max_tdm_tgs	decimal	
max_isr_sessions	decimal	
isr_sessions_upper_threshold	decimal	
isr_sessions_lower_threshold	decimal	
isr_max_ru_size	decimal	
isr_rcv_pac_window	decimal	
store_endpt_rscvs	constant	
store_isr_rscvs	constant	
store_dlur_rscvs	constant	
dlur_support	constant	
pu_conc_support	constant	
nn_rar	decimal	
hpr_support	constant	
ptf_flags	constant	
max_ls_exception_events	decimal	
max_compress_level	constant	
clear_initial_topology	constant	
up_time	decimal	
nn_functions_supported	constant	
en_functions_supported	constant	
nn_status	constant	
nn_frsn	decimal	
nn_rsn	decimal	
def_ls_good_xids	decimal	
def_ls_bad_xids	decimal	
dyn_ls_good_xids	decimal	
dyn_ls_bad_xids	decimal	
dlur_release_level	decimal	
fq_nn_server_name	character	17
current_isr_sessions	decimal	
nns_dlus_served_lu_reg_supp	constant	
nn_functions2	constant	
branch_ntwk_arch_version	decimal	

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

記述

ノードを記述するテキスト・ストリング。ノードの定義に指定されているとおりです。

ノード・タイプ

ノードのタイプ。可能な値は次のとおりです

ノード・ノード

ロー・エントリー・ネットワークング (LEN) ノード

エンド・ノード

APPN エンド・ノード

ネットワーク・ノード

APPN ネットワーク・ノード

ブランド・ネットワーク・ノード

APPN 分岐ネットワーク・ノード

fqcp_name

ノードの完全修飾 CP 名。

cp_alias

ローカルで使用される CP の別名。

余分の余分のマップをサポート

ノードがモードから COS へのマッピングを行うかどうかを指定します。このパラメーターは、ネットワーク・ノードでは無視されます。mode - to-COS マッピングは常にサポートされます。LEN ノードの場合、モードから COS へのマッピングはサポートされていません。可能な値は次のとおりです

そうだ

モードから COS へのマッピングがサポートされています。このノードに定義されたモードには、関連する COS 名が含まれていなければなりません。これは、SNA 定義の COS または define_cos. を使用して定義されたものを

違う。

モードから COS へのマッピングはサポートされていません。デフォルトの COS 名が使用されません。

mds_supported

管理サービス (MS) が複数ドメイン・サポート (MDS) および管理サービス機能をサポートするかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

MDS がサポートされている

違う。

MDS はサポートされません。

ノード ID

XID 交換で使用されるノード ID。この ID は、4 バイトの 16 進数ストリングで、ブロック番号 (3 桁の 16 進数字) とノード番号 (5 桁の 16 進数字) から構成されます。

検索の最大数

ノードが同時に処理できる位置指定要求 (応答がまだ受信されていない要求) の最大数。未処理の位置指定要求の数がこの限度に達すると、それ以上の位置指定要求はリジェクトされます。

dir_cache_size

ネットワーク・ノードのみ: ディレクトリー・キャッシュのサイズ。最小サイズは 3 です。

最大 dir_entries

ディレクトリー項目の最大数。値 0 (ゼロ) は、制限がないことを示します。

ロケーション・タイムアウト

ネットワーク検索がタイムアウトになるまでの時間を秒単位で指定します。値 0 (ゼロ) はタイムアウトしないことを示します。

reg_with_nn

エンド・ノードのみ: ノードの開始時に、ノードのリソースがネットワーク・ノード・サーバーに登録されるかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

リソースは、ネットワーク・ノードに登録されます。エンド・ノードのネットワーク・ノード・サーバーは、宛先指定されたロケーションのみをネットワーク・ノードに転送します。

違う。

リソースは登録されない。ネットワーク・ノード・サーバーは、すべてのブロードキャスト検索をエンド・ノードに転送します。

reg_with_cds

エンド・ノード: ネットワーク・ノード・サーバーがエンド・ノード・リソースを中央ディレクトリー・サーバーに登録できるようにするかどうかを指定します。reg_with_nn を違う。に設定すると、このパラメーターは無視されます。

ネットワーク・ノード: ローカル・リソースまたはドメイン・リソースを、オプションで中央ディレクトリー・サーバーに登録できるかどうかを指定

可能な値は次のとおりです

そうだ

リソースは CDS に登録されます。

違う。

リソースは登録されない。

mds_send_alert_q_size

MDS 送信アラート・キューのサイズ。キューに入れられたアラートの数がこの制限に達すると、CS/AIX はキュー上の最も古いアラートを削除します。最小サイズは 2 です。

***cos_cache_size* の場合**

COS データベース・ウェイト・キャッシュのサイズ。

ツリー・キャッシュ・サイズ

ネットワーク・ノード: トポロジー・データベース・ルーティング・ツリー・キャッシュのサイズ。最小値は 8 です。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

ツリー・キャッシュ・*use_limit*

ネットワーク・ノード: キャッシュ・ツリーの使用の最大数。この数を超えると、ツリーは破棄され、再計算されます。これにより、ノードは均等な重みのルート間でセッションのバランスを取る低い値を指定すると、活動化の待ち時間が長くなるとロード・バランシングが向上する。使用される最小数は 1 です。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

最大ノード・ノード

ネットワーク・ノード: トポロジー・データベースに保管できるノードの最大数。0 (ゼロ) の値は、ノードの数が無制限であることを示します。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

最大トット *m_tgs*

ネットワーク・ノード: トポロジー・データベースに保管できる TG の最大数。0 (ゼロ) の値は、ノードの数が無制限であることを示します。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

最大 *isr_sessions*

ネットワーク・ノード: ノードが一度に参加できる ISR セッションの最大数。このパラメーターは、エンド・ノードまたは LEN ノード用に予約されています。

isr_sessions_upper_threshold* および *isr_sessions_lower_threshold

ネットワーク・ノード: これらのしきい値は、経路計算で使用するためにネットワーク内の他のノードに報告される、ノードの輻輳状況を制御します。ISR セッションの数が上限しきい値を超える場合、ノード状態は輻輳していない状態から輻輳に変わります。ISR セッション数が下限しきい値を下回ると、ノードの状態は輻輳していない状態に戻ります。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、これらのパラメーターは予約済みです。

isr_max_ru_size

ネットワーク・ノードまたは BrNN: 中間セッションまたは DLUR LU-LU セッションでサポートされる最大 RU サイズ。I

エンド・ノード: DLUR LU-LU セッションでサポートされる最大 RU サイズ。

LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

isr_rcv_pac_window

ネットワーク・ノード: 中間セッションの受信ペーシング・ウィンドウ・サイズ (1-63 の範囲) を推奨します。この値は、隣接ノードが適応ペーシングをサポートしていない場合に、中間セッションの 2 次ホップでのみ使用されます。エンド・ノードまたは LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。

ストアの *endpt_rscvs*

診断目的で RSCV を保管するかどうかを指定します。このパラメーターがそうだに設定されている場合、`query_session` コマンドで RSCV が戻されます。RSCV は、エンドポイント・セッションごとに保管されます。この追加ストレージは、セッションごとに最大 256 バイトにすることができます。可能な値は次のとおりです

そうだ

RSCV は保管されます。

違う。

RSCV は保管されません。

ストアの *isr_rscvs*

ネットワーク・ノード: RSCV を診断の目的で保管するかどうかを指定します。このパラメーターが そうだに設定されている場合、セッションの照会 コマンドで RSCV が返されます。RSCV は、ISR セッションごとに保管されます。この追加ストレージは、セッションごとに最大 256 バイトにすることができます。可能な値は次のとおりです

そうだ

RSCV は保管されます。

違う。

RSCV は保管されません。

ストア *dlurl_rscvs*

診断目的で RSCV を保管するかどうかを指定します。このパラメーターが そうだに設定されている場合は、`query_dlur_lu` コマンドで RSCV が戻されます。RSCV は、DLUR を使用する各 PLU-SLU セッションに保管されます。この追加ストレージは、セッションごとに最大 256 バイトにすることができます。可能な値は次のとおりです

そうだ

RSCV は保管されます。

違う。

RSCV は保管されません。

dlur_support

DLUR をサポートするかどうかを指定 LEN ノードの場合、このパラメーターは予約されています。可能な値は次のとおりです

そうだ

DLUR がサポートされている

複数のサブネットを制限する

エンド・ノード: DLUR はサポートされていますが、別のサブネット内の DLUS に接続するために使用されません。

この値は、ネットワーク・ノードではサポートされません。

違う。

DLUR はサポートされません。

pu_conc__ サポート

SNA ゲートウェイをサポートするかどうかを指定 可能な値は次のとおりです

そうだ

SNA ゲートウェイがサポートされる。

違う。

SNA ゲートウェイはサポートされません。

nn_rar (

ネットワーク・ノードの経路追加抵抗。値は 0-255 の範囲内でなければなりません。

hpr_support

ノードによって提供される HPR (高性能経路指定) サポートのレベルを指定します。可能な値は次のとおりです

なし

HPR はサポートされない。

本拠

このノードは、自動ネットワーク経路指定 (ANR) を実行できますが、HPR セッションの RTP (高速トランスポート・プロトコル) 終了点として機能することはできません。

RTP と

このノードは、自動ネットワーク経路指定 (ANR) を実行でき、HPR セッションの RTP (高速トランスポート・プロトコル) 終了点として機能することができます。

制御フロー

このノードは制御フローを含むすべての HPR 機能を実行できます。

ptf_flags

プログラム一時修正 (ptf) 操作を構成および制御するためのオプション。このパラメーターは、なしまたは以下の 1 つ以上の値に設定されます。これらの値は、+ 文字と組み合わせることができます。

可能な値は次のとおりです

REQDISCONT

限定リソース・ホスト・リンクは、REQDISCONT を送信せずに非活動化

オーバーライドされた REQDISCONT

CS/AIX は通常、REQDISCONT を使用して、セッション・トラフィックが必要としない限定リソース・ホスト・リンクを非活動化します。

オーバーライドされた REQDISCONT が指定されている場合は、REQDISCONT メッセージのタイプを変更するために、以下のいずれかまたは両方の値が結合されます。

- ・即時切断: CS/AIX は、タイプ "即時" を REQDISCONT に使用します。この値を指定しない場合、CS/AIX はタイプ "正常です。" を使用します。
- ・即時再接続: CS/AIX は、タイプ "即時再連絡" を REQDISCONT に使用します。この値を指定しない場合、CS/AIX はタイプ "直属の連絡はない" を使用します。

オーバーライド・エラー

CS/AIX は、通常、ERP として ACTPU(ERP) を処理します。これにより、PU-SSCP セッションはリセットされますが、従属する LU-SSCP セッションと PLU-SLU セッションは暗黙的に非活動化されません。SNA 実装は、ACTPU(コールド)であるかのように ACTPU(ERP) を法的に処理することができ、従属する LU-SSCP セッションと PLU-SLU セッションを暗黙的に非活動化します。デフォルトの処理をオーバーライドし、ACTPU(コールド)としてすべての ACTPU 要求を処理するには、値オーバーライド・エラーを使用します。

抑制されたビス

通常、CS/AIX は、限定リソース LU 6.2 セッションを非活動化する前に BIS プロトコルを使用します。制限されたリソース LU 6.2 セッションが UNBIND(クリーンアップ) を使用して即時に非活動化されるように、BIS プロトコルの使用を抑制するには、値抑制されたビスを使用します。

LU62_INIT_SELF_ENQUEUE

CS/AIX は通常、従属 LU 6.2 セッションを活動化するときに、INIT_SELF メッセージに ENQUEUE パラメーターを含めません。ENQUEUE パラメーターを含む INIT_SELF メッセージの以前のフォーマットを使用するには、値 LU62_INIT_SELF_ENQUEUE を使用します。

外部 APINGD

CS/AIX には通常、APING 接続テスター用のパートナー・プログラムが含まれています。この値を設定すると、ノード内の APING デーモンが無効になります。ノードに到着する APING プログラムによる要求は、自動的には処理されません。

許容される値の値 (R)

CS/AIX は通常、センス・コード 2003 を使用して、ホストから開始ブラケット (BB) 例外 (RQE) 要求をホストから拒否します。ただし、ホストが、変更方向 (CD) も指定する必要がある SNA プロトコルの後でない場合は、この例外を除きます。このフラグを設定すると、CS/AIX は、このプロトコルに従わないホストとのセッションを続行できます。

電源オンの送信中

アプリケーションが LU 0-3 LU を使用している場合 (例えば、その LU に対して RUI_INIT が受け取られ、ACTLU が受信された場合は)、このオプションは、CS/AIX が、サブベクトルの電源を入れた +ve RSP ACTLU を使用して応答することを指示します。このフラグを指定しないと、CS/AIX は、このサブベクトルなしで ACTLU RSP を送信し、後続の NOTIFY メッセージは電源オン状態を示します。

LIMIT_TP_SECURITY

受信した接続のセキュリティー検査。ローカル呼び出し可能 TP が会話セキュリティーを必要としない、または定義されていないため、会話セキュリティーを必要としないデフォルトの場合、呼び出し元 TP は、それにアクセスするためにユーザー ID とパスワードを送信する必要はありません。

呼び出し元 TP がこれらのパラメーターを提供し、それらが CS/AIX が受信する Attach メッセージに含まれている場合、CS/AIX は通常、呼び出し可能 TP が会話セキュリティーを必要としない場合でも、パラメーターを検査します(また、それらが有効でない場合は Attach を拒否します)。この値は検査を使用不可にし、呼び出し可能 TP がそれを必要としない場合、CS/AIX は、受信した Attach 上のセキュリティー・パラメーターを検査しません。

進行状況の数を変更しない

CS/AIX は通常、使用可能なすべての ARB アルゴリズム(標準、応答モード、およびプログレッシブ・モード)の RTP 接続に対するサポートを公示します。この値が設定されている場合、CS/AIX は標準モードおよび応答モード ARB アルゴリズムのサポートを公示しますが、プログレッシブ・モードの ARB アルゴリズムではサポートされません。

DLUR_UNBIND_ON_DACTLU

CS/AIX は、DLUR を使用するセッションのためにホストから DACTLU を受信したときに、通常は PLU-SLU セッションを終了しません。この値が設定されている場合、CS/AIX は、DLUR を使用するセッション用にホストから DACTLU を受信すると、PLU-SLU セッションを終了します。

再試行 CNOS_ON_BIND_禰 _RSP

APPC セッションの活動化中に、パートナー・システム上の一時的な条件が原因で CNOS セッションの活動化が失敗する可能性があります。特定のセンス・コードによって示される条件は、常に(タイマーを使用して)再試行されます。このフラグが設定されている場合、CS/AIX は常に失敗した CNOS セッション活動化を再試行します。

SUPPRESS_PU_NAME_ON_REQACTPU

CS/AIX は、DLUR PU の活動化時に、REQACTPU メッセージ内の PU 名を識別します。このフラグが設定されている場合、CS/AIX はこの ID を送信しません。

ル A_PASSTHRU_BB_RACE

RUI アプリケーションがブラケット・プロトコルを使用していて、ホストが RUI アプリケーションがすでに送信された後で、ホストが BB (開始ブラケット)を送信する場合、CS/AIX は通常、センス・データ 0813 でこれをリジェクトし、それをアプリケーションに渡しません。この値が設定されている場合、CS/AIX は、RUI アプリケーションに BB を渡します。アプリケーションは、センス・データが 0813 または 0814 のいずれかの否定応答を送信する必要があります。

CN_OVERRIDE_LIM_RES

接続ネットワークを使用する CS/AIX 内のリンクは、通常は限定リソースです。このフラグが設定されると、CS/AIX は、それが制限されたリソースであるかどうかを、各接続ネットワーク・リンクに関連付けられたポートの暗黙の制限リソースパラメーターを使用して判別します

非パイプ・パイプ・ベクトル

CS/AIX は、通常、TN3270 または LUA セッションのために、ホストへの NOTIFY 要求に TCP/IP 情報制御ベクトル(0x64)を組み込みます。このベクトルには、ホスト・コンソールに表示できる情報、またはホストで使用される情報(例えば、請求書など)が含まれます。クライアントが使用する TCP/IP アドレスとポート番号、およびクライアント・アドレスに対応する IP 名が含まれます。

クライアント・アドレスが IPv6 アドレスであるが、ホストが IPv6 アドレスを解釈できないバックレベル・バージョンの VTAM を実行している場合は、ホスト・コンソールでクライアント・アドレスが正しく表示されない可能性があります。

場合によっては、例えば、ホストがこのベクトルをサポートしない古いバージョンの VTAM を実行している場合、ベクトルが送信されないように、この動作をオーバーライドすることが必要になる場合があります。このフラグは、ホストへのベクトルの送信を抑制します。

クライアント・パイプ名

CS/AIX TN サーバーは、通常、ドメイン・ネーム・サーバー(DNS)ルックアップを実行して、上記の説明に従って、TCP/IP 情報制御ベクトル(0x64)に組み込むクライアント IP 名を判別します。DNS 環境が遅い場合、またはクライアントが DNS データに含まれていないことが分かっている場合(例えば、DDNS を持たない DHCP クライアントの場合)は、この DNS ルックアップを回避することができます。このフラグは DNS ルックアップを抑制します。CS/AIX TN サーバーは、CV64 制御ベクトルをクライアント IP アドレスで送信しますが、IP 名は送信しません。

この値は TN3270 にのみ適用されます。LUA クライアントには DNS ルックアップは必要ありません。

メモリー・ワイド・ワイルドの送信

CS/AIX は、通常、APPC 会話を開始するために送信する FMH-5 接続メッセージに、LUWID を組み込みます。このフラグは、CS/AIX がこのフィールドのフィールド長をゼロに設定し、それを含まないように、LUWID を抑止します。

DLUR_USE_REX_ペーシング

アップストリーム LU からの BIND が最適ペーシング・ウィンドウを使用して適応ペーシングを要求する場合、CS/AIX は通常、ウィンドウ・サイズ 0 (ゼロ) を指定することによってこれを示します。ダウンストリーム LU が適応ペーシングをサポートしていない場合、このゼロ値を "ペーシングなし" として誤って解釈する可能性があるため、CS/AIX は、代わりにゼロ以外のペーシング・ウィンドウ・サイズを指定する必要があります。この値が設定されている場合、CS/AIX は、REX ステージ・ペーシング値を使用して、ダウンストリーム LU に指定されたペーシング・ウィンドウ・サイズとして ACTLU からの値を使用します。

クライアント・OVERWRITE_SYS_NAME

このオプションは、CS/AIX がクライアント上で実行される APPC アプリケーションと、それが使用するプールされた LU との間の関連を保守することを示します。これにより、パートナー・アプリケーションによって開始された後続の会話は、正しいクライアントにルーティングされる可能性がクライアント・アプリケーションがプール内の LU にアクセスすると、CS/AIX は、その LU 上のシステム名パラメーターを、アプリケーションが実行されているクライアント・コンピューターのホスト名に変更します。クライアントの管理の詳細については、「AIX 管理ガイド上のデータ・センター・デプロイメント用 *IBM Communications Server*」を参照してください。

上書き内部 PU_PARMS

通常、DLUR PU が定義されると、最初にその PU を削除することなく、その PU 上の構成パラメーターを変更する方法はありません (また、関連する LU)。このフラグが設定されている場合、CS/AIX は、snaadmin を使用する DLUR PU の新しい定義を受け入れることを許可します。これは、ノードが非アクティブであることも示します。デフォルト以外のすべてのパラメーターを定義する必要があります (これは、ユーザー管理 -c コマンドと同等ではありません)。

最大 ls_exception_events

ノードによって記録された LS 例外イベントの最大数。

max_compress_level

LU セッション・データ用にノードによってサポートされる最大圧縮。このパラメーターは常に LZ10 年に設定されます。

clear_initial_トポロジー

ノードの開始時に、最後にアクティブであったときに保管されたトポロジー・データをクリアするかどうかを示します。可能な値は次のとおりです

そうだ

保管されているトポロジー・データをクリア

違う。

ノードが最後にアクティブであったときに保管されたトポロジー・データを保持し、再利用できるようにします。

アップタイム

ノードが開始されてからの時間 (100 分の 1 秒単位)。このパラメーターが 0 (ゼロ) の場合は、ノードが非アクティブであることを示します。

サポートされる nn_functions_サポート

サポートされているネットワーク・ノード機能を指定します。このパラメーターは、以下の値の 1 つ以上にすることができます。これらの値を + 文字と組み合わせることができます

RCV_REG_CHAR

ノードは登録済み特性の受信をサポート

ゲートウェイ

ノードはゲートウェイ・ノードです。

カーズ

ノードは中央ディレクトリー・サーバー (CDS) 機能をサポートします。

ツリー・キャッシング

ノードはルート・ツリー・キャッシュをサポート

ツリーの更新

ノードは増分ツリー更新をサポートします 増分ツリー更新がサポートされる場合、ツリー・キャッシングもサポートされている必要があります

イスル

ノードは ISR をサポートする

このパラメーターは、エンド・ノードまたは LEN ノード用に予約されています。

en_functions_supported

サポートされるエンド・ノード機能を指定します。このパラメーターは、以下の値の 1 つ以上にすることができます。これらの値を + 文字と組み合わせることができます

SEGMENT_生成

ノードはセグメントの生成をサポート

モード・マップをモード _TO_

ノードは、モード名から COS へのマッピングをサポートします。

CDINIT の位置

ノードは、ロケーションの生成をサポートし、クロスドメインでリモート LU を見つけるための GDS 変数を開始します。

REG_WITH_NN

ノードはその LU を隣接するサービス・ネットワーク・ノードに登録します。

このパラメーターは、ネットワーク・ノードまたは LEN ノード用に予約されています。

nn_ 状況

ネットワーク・ノードの状況を指定します。このパラメーターは、ノードがネットワーク・ノードでない場合に予約されます。

このパラメーターは、アンコンゲステッド または以下の 1 つ以上の値に設定できます。これらの値は、+ 文字と組み合わせることができます。

アンコンゲステッド

ISR セッションの数が、ノードの構成の *isr_sessions_upper_threshold* 値よりも低くなっています。

コンゲステッド

ISR セッションの数がしきい値を超えています。

IRR_枯渇

ISR セッションの数が、ノードに指定された最大数に達しました。

消去されたエラー

エンドポイント・セッションの数が指定された最大数に達しました。

静止中

term_node コマンドは、静止 または 静止 - ISR の停止タイプを指定して発行されました。

N - frsn

ネットワーク・ノードの現在のフロー縮小シーケンス番号。

このパラメーターは、ノードがネットワーク・ノードでない場合に予約されます。

nn_rsn

ネットワーク・ノードのリソース・シーケンス番号。

このパラメーターは、ノードがネットワーク・ノードでない場合に予約されます。

不良 *ls_good_xid*

ノードが最後に始動されてから、すべての定義済みリンク・ステーションで発生した成功 XID 交換の総数。

不良のバッドキッド

ノードが最後に開始されてから、すべての定義済みリンク・ステーションで発生した失敗 XID 交換の総数。

dyn_ls_good_xid

ノードが最後に始動されてからすべての動的リンク・ステーションで発生した成功 XID 交換の総数。

dyn_ls_bad_xid

ノードが最後に始動されてからすべての動的リンク・ステーションで発生した、失敗した XID 交換の総数。

dlur_release_level

ノードによってサポートされている DLUR アーキテクチャーのリリース・レベル。このパラメーターは、1 (現在定義されている DLUR の唯一のリリース・レベル) に設定されます。将来のバージョンでは、後で DLUR アーキテクチャーのリリース・レベルを組み込むことができ、したがって、異なる値を戻すことも

fq_nn_server_name

エンド・ノードのみ。ノードのネットワーク・ノード・サーバーの名前。

current_isr_sessions

このノードを介して経路指定された ISR セッションの数。

nns_dlus_served_lu_reg_supp

このパラメーターは、ローカル・ノードがエンド・ノードまたは分岐ネットワーク・ノードである場合にのみ適用されます。それ以外の場合は予約されます

ネットワーク・ノード・サーバーが DLUS サービス提供 LU の登録をサポートするかどうかを指定可能な値は次のとおりです

そうだ

ネットワーク・ノード・サーバーは、DLUS サービス提供 LU の登録をサポートします。

違う。

ネットワーク・ノード・サーバーは、DLUS が提供する LU の登録をサポートしません。

不明。

ノードにネットワーク・ノード・サーバーがありません。

nns_en_reg_diff_owning_cp

このパラメーターは、ローカル・ノードが分岐ネットワーク・ノードである場合にのみ適用されます。それ以外の場合は予約済み

ネットワーク・ノード・サーバーが、異なる所有する CP 名 NNS(BrNN) サポートを使用して、オプション・セット 1123 - エンド・ノード・リソース登録をサポートするかどうかを指定

そうだ

ネットワーク・ノード・サーバーはオプション・セット 1123 をサポートします

違う。

ネットワーク・ノード・サーバーは、オプション・セット 1123 をサポートしません。

不明。

ノードにネットワーク・ノード・サーバーがありません。

nn_functions_2

このパラメーターは、ローカル・ノードがネットワーク・ノードである場合にのみ適用されます。それ以外の場合は予約済み

ノードが分岐認識 (APPN オプション・セット 1120) をサポートしている場合、このパラメーターは以下の値に設定されます。

ブランド認識

ノードはオプション・セット 1120 をサポートします。

ブランチ・ネーム・バージョンのバージョン

このパラメーターは、ローカル・ノードがネットワーク・ノードまたは分岐ネットワーク・ノードである場合にのみ適用されます。それ以外の場合は予約済みです。

サポートされるブランチ・ネットワーク体系のバージョンを指定します。これは、1 に設定されます。ノードが分岐ネットワーク体系をサポートしていない場合は、0 (ゼロ) に設定されます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの追加の組み合わせがリストされています。

すべての照会ノード

すべての照会ノード コマンドは、CS/AIX ドメイン内のノードに関する情報を戻します。このコマンドは、ノード名のリストのみを戻し、ノードの構成に関する詳細情報を提供しません。特定のノード名に対して照会ノードを使用して、そのノードに関する詳細情報を取得することができます。

このコマンドは、snaadmin ・プログラムの -n オプション。を使用しないで実行する必要が

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_node_all]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
node_name	character	128	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻すノードの最大数。特定ノードのデータを戻す場合は 1、複数のノードのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのノードのデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のノードのリスト内の開始位置。リストは、ノード名順には並びません。順序は、後続の query_node_all コマンドの場合と同じです。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

ノードのリスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

node_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

node_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

node_name

リストの索引として使用されるノードの名前。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

コンピューター名に . (ピリオド) の文字が含まれている場合、CS/AIX は、これが完全修飾名であると想定します。含まれていない場合は、DNS ルックアップを実行してコンピューター名を判別します。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
node_name	character	128
config_role	constant	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

node_name

CS/AIX ノードの名前。

config_role

ノードが実行されているサーバーの構成ファイル・ロール。構成ファイル・ロールについて詳しくは、「[IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 管理ガイド](#)」を参照してください。可能な値は次のいずれかです。

CONTROLLER

サーバーは、コントローラー構成ファイルを保持します。

BACKUP

サーバーは、バックアップ構成ファイルを保持します。

NONE

サーバーは、構成ファイルのコピーを共有しません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_NODE_NAME

list_options パラメーターは、指定したノード名から始まるすべてのエントリーをリストするために、LIST_INCLUSIVE または LIST_FROM_NEXT に設定されていますが、*node_name* パラメーターが指定されていないかまたは無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_node_limits

query_node_limits コマンドは、使用している CS/AIX ライセンスにより特定のノードで使用できる機能とこれらの機能の使用法に関する情報を戻します。戻される情報は、以下のカテゴリーに分けられます。

- 使用できる CS/AIX 機能を示すノード・オプション。

- 現在およびピーク時の CS/AIX リソースの使用量を示すノード・リソースの使用量。

このコマンドによって戻される情報を使用して、CS/AIX リソースの使用量が、ご使用のライセンスに許可された制限の範囲内であるかどうかを確認することができます。ライセンス交付要件については、「[IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門](#)」を参照してください。

このコマンドによって戻される情報は、ときどき使用法ログ・ファイルにも書き込まれます。このファイルについては、「[IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド](#)」を参照してください。

指定パラメーター

```
[query_node_limits]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type
current_lu62_tps	decimal
current_lua_tps	decimal
current_link_stations	decimal
current_tn3270_connections	decimal
current_tn_redirector_connections	decimal
current_data_sessions	decimal
peak_lu62_tps	decimal
peak_lua_tps	decimal
peak_link_stations	decimal
peak_tn3270_connections	decimal
peak_tn_redirector_connections	decimal
peak_data_sessions	decimal
branch_network_node	constant
network_node	constant
end_node	constant
len_node	constant
d lur_support	constant
pu_conc_support	constant
tn_server_support	constant
hpr_support	constant
ssl_support	constant

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

current_lu62_tps

このノードで現在活動状態である APPC アプリケーションおよび CPI-C アプリケーションの数。

current_lua_tps

このノードで現在活動状態である LUA アプリケーションの数。

current_link_stations

このノードで現在活動状態であるリンク・ステーションの数。

current_tn3270_connections

このノードで現在活動状態である TN3270 クライアントからの接続数。

current_tn_redirector_connections

このノードで現在活動状態である TN Redirector クライアントからの接続数。

current_data_sessions

このノードで現在活動状態である PLU-SLU セッションの数。

peak_lu62_tps

AIX コンピューターが再始動されてから、常にこのノードでアクティブであった APPC アプリケーションおよび CPI-C アプリケーションの最大数。

peak_lua_tps

AIX コンピューターが再始動されてから、常にこのノードでアクティブであった LUA アプリケーションの最大数。

peak_link_stations

AIX コンピューターが再始動されてから、常にこのノードでアクティブであったリンク・ステーションの最大数。

peak_tn3270_connections

AIX コンピューターが再始動されてから、常にこのノードでアクティブであった TN3270 クライアントからの接続の最大数。

peak_tn_redirector_connections

AIX コンピューターが再始動されてから、任意の時点でこのノードで活動状態であった TN Redirector クライアントからの接続の最大数。

peak_data_sessions

AIX コンピューターが再始動されてから、常にこのノードでアクティブであった PLU-SLU セッションの最大数。

branch_network_node

保持しているライセンスでこのノードを分岐ネットワーク・ノードとして定義できるかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

AP_YES

分岐ネットワーク・ノードはサポートされます。

AP_NO

分岐ネットワーク・ノードはサポートされません。

network_node

保持しているライセンスでこのノードをネットワーク・ノードとして定義できるかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

保持しているライセンスでこのノードをネットワーク・ノードとして構成できます。

NO

保持しているライセンスではこのノードをネットワーク・ノードとして構成できません。

end_node

保持しているライセンスでこのノードをエンド・ノードとして定義できるかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

保持しているライセンスでこのノードをエンド・ノードとして構成できます。

NO

保持しているライセンスではこのノードをエンド・ノードとして構成できません。

len_node

保持しているライセンスでこのノードを LEN ノードとして定義できるかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

保持しているライセンスでこのノードを LEN ノードとして構成できます。

NO

保持しているライセンスではこのノードを LEN ノードとして構成できません。

dlur_support

保持しているライセンスでこのノードで 従属 LU リクエスター (Dependent LU Requester: DLUR) を使用できるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

保持しているライセンスを使用して、このノードで DLUR をサポートできます。

NO

保持しているライセンスを使用して、このノードで DLUR をサポートできません。

pu_conc_support

保持しているライセンスにより、このノードで SNA ゲートウェイを使用できるかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

保持しているライセンスを使用して、このノードで SNA ゲートウェイをサポートできます。

NO

保持しているライセンスを使用して、このノードで SNA ゲートウェイをサポートできません。

tn_server_support

保持しているライセンスにより、このノードで TN サーバーを使用できるかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

保持しているライセンスを使用して、このノードで TN サーバーをサポートできます。

NO

保持しているライセンスを使用して、このノードで TN サーバーをサポートできません。

hpr_support

このノードで HPR をサポートするかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

HPR はサポートされます。

NO

HPR はサポートされません。

ssl_support

セキュア・ソケット層ソフトウェアがノードにインストールされているかどうかを示します (TN サーバーでの使用)。可能な値は次のいずれかです。

YES

SSL ソフトウェアはインストールされています。

NO

SSL ソフトウェアはインストールされていません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの追加の組み合わせがリストされています。

query_partner_lu

query_partner_lu コマンドは、ローカル LU が現在使用しているパートナー LU または 使用したパートナー LU に関する情報を戻します。このコマンドが戻すのはパートナー LU の使用状況に関する情報であって、その定義ではありません。パートナー LU の定義は、query_partner_lu_definition を使用して取得してください。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の LU または複数の LU に関する要約情報または詳細情報を取得するために使用できます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_partner_lu]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
plu_alias	character	8	(null string)
fqplu_name	character	17	(null string)
active_sessions	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す LU の最大数。特定の LU のデータを戻すには 1、複数の LU のデータを戻すには 1 より大きい数値、すべての LU のデータを戻すには 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合の LU のリスト内の開始位置。このリストは、*fqplu_name* 順に並べられます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

指定したローカル LU に関連したパートナー LU のリストの最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

ローカル LU 名とパートナー LU 名を組み合わせて指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

ローカル LU 名とパートナー LU 名を組み合わせて指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

FIRST_IN_LIST を指定した場合は、+ 文字を使用して以下のオプションを指定できます。

LIST_BY_ALIAS

リストは、LU 名の順ではなく LU 別名の順に戻されます。このオプションは、FIRST_IN_LIST とともに指定した場合にのみ有効です。(LIST_FROM_NEXT または LIST_INCLUSIVE の場合は、リストの索引としてどちらを指定したかに応じて、リストは LU 名順または LU 別名順に並べられます。)

list_options パラメーターが LIST_INCLUSIVE または LIST_FROM_NEXT に設定されている場合、指定したローカル LU (*lu_name* または *lu_alias*) およびパートナー LU (*plu_alias* または *fqplu_name*) の組み合わせは、LU のリストの索引として使用されます。

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU が LU 名でなく LU 別名で識別されていることを示すには、このパラメーターを指定せずに、以下のパラメーターに LU 別名を指定します。ローカル CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU を示す場合は、*lu_name* または *lu_alias* のいずれも指定しないでください。

lu_alias

ローカル LU の LU 別名。このパラメーターは、*lu_name* パラメーターを指定しない場合にのみ使用されます。ローカル CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU を示す場合は、*lu_name* または *lu_alias* のいずれも指定しないでください。

plu_alias

パートナー LU 別名。このパラメーターは、*list_options* を FIRST_IN_LIST に設定した場合には無視されます。それ以外の場合は、パートナー LU 名に対して LU 別名または LU の完全修飾名を指定する必

要があります。別名ではなく完全修飾名によって LU が識別されていることを示す場合は、このパラメーターを指定せず、*fqplu_name* パラメーターで LU 名を指定してください。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。ネットワーク名およびパートナー LU 名には、文字、0 から 9 の数字、および特殊文字 \$、#、@ のみを使用します。

この名前は、情報が必要とされているパートナー LU 名、または LU リストの索引として使用できます。このパラメーターは、*list_options* を *FIRST_IN_LIST* に設定した場合には無視されます。それ以外の場合は、パートナー LU 名に対して LU 別名または LU の完全修飾名を指定する必要があります。このパラメーターは、*plu_alias* パラメーターが指定されていない場合にのみ使用します。*plu_alias* が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。

active_sessions

セッションが活動状態であるパートナー LU に関する情報のみを戻すか、すべてのパートナー LU に関する情報を戻すかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションが現在活動状態であるパートナー LU に関する情報のみを戻します。

NO

セッションが活動状態であるか活動状態であったすべてのパートナー LU に関する情報を戻します。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
<i>plu_alias</i>	character	8
<i>fqplu_name</i>	character	17
<i>description</i>	character	31
<i>act_sess_count</i>	decimal	
<i>partner_cp_name</i>	character	17
<i>partner_lu_located</i>	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に *SUMMARY* を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

plu_alias

パートナー LU 別名。

fqplu_name

17 バイトからなるパートナー LU の完全修飾ネットワーク名。

description

パートナー LU を記述したテキスト・ストリング (そのパートナー LU の定義で指定したもの)。

act_sess_count

ローカル LU とパートナー LU 間の活動状態であるセッションの合計数。

partner_cp_name

パートナー LU に関連した CP の完全修飾ネットワーク名。*partner_lu_located* が *NO* に設定されている場合は、このパラメーターは使用されません。

partner_lu_located

ローカル・ノードがパートナー LU を見つけた場所で CP を見つけたかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

パートナー LU が見つかりました。*partner_cp_name* パラメーターにはパートナー LU の CP 名が入っています。

NO

パートナー LU はまだ見つかっていません。*partner_cp_name* パラメーターは使用されません。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
plu_alias	character	8
fqplu_name	character	17
description	character	31
act_sess_count	decimal	
partner_cp_name	character	17
partner_lu_located	constant	
plu_un_name	character	8
parallel_sess_supp	constant	
conv_security	constant	
max_mc_ll_send_size	decimal	
implicit	constant	
security_details	constant	
duplex_support	constant	
preference	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値に *DETAIL* を指定すると、以下のパラメーターが戻されます。

plu_alias

パートナー LU 別名。

fqplu_name

17 バイトからなるパートナー LU の完全修飾ネットワーク名。

description

パートナー LU を記述したテキスト・ストリング (そのパートナー LU の定義で指定したもの)。

act_sess_count

ローカル LU とパートナー LU 間の活動状態であるセッションの合計数。

partner_cp_name

パートナー LU に関連した CP の完全修飾ネットワーク名。 *partner_lu_located* が *NO* に設定されている場合は、このパラメーターは使用されません。

partner_lu_located

ローカル・ノードがパートナー LU を見つけた場所で CP を見つけたかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

パートナー LU が見つかりました。 *partner_cp_name* パラメーターにはパートナー LU の CP 名が入っています。

NO

パートナー LU はまだ見つかっていません。 *partner_cp_name* パラメーターは使用されません。

plu_un_name

パートナー LU の非解釈名。

parallel_sess_supp

並列セッションがサポートされるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

並列セッションがサポートされます。

NO

並列セッションはサポートされません。

conv_security

ローカル TP が提供する会話セキュリティ情報をこのパートナー LU に送信するかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ローカル TP が提供する会話セキュリティ情報がパートナー LU に送信されます。

NO

ローカル TP が提供する会話セキュリティ情報がパートナー LU に送信されません。

UNKNOWN

パートナー LU とともに活動化されるセッションはありません。

max_mc_ll_send_size

パートナー LU に送信できる論理レコードの最大サイズ (バイト単位)。この値には、1 から 32,767 の範囲の数を指定するか、または 0 (ゼロ) を指定して限度を設定しないようにします (この場合、論理レコードの最大サイズは 32,767 バイトです)。これより大きいデータ・レコードは、パートナー LU に送信する前にいくつかの LL レコードに分割されます。

implicit

エントリーが暗黙的な定義で作成されたか明示的な定義で作成されたかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

エントリーは暗黙的なエントリーです。

NO

エントリーは明示的なエントリーです。

security_details

BIND で折衝された会話セキュリティー・サポートを示します。このパラメーターは、以下の 1 つ以上の値を + 文字で結合して設定されている可能性があります。

CONVERSATION_LEVEL_SECURITY

会話セキュリティー情報は、パートナー LU に対する会話割り振り要求またはパートナー LU からの会話割り振り要求に基づいて受け入れられます。

ALREADY_VERIFIED

ローカル LU とパートナー LU の両方が、会話割り振りの検査済み要求を受け入れます。検査済み要求にはユーザー ID のみが必要です。パスワードは必要ありません。

PERSISTENT_VERIFICATION

ローカル LU とパートナー LU 間のセッションで、持続検査がサポートされます。会話に対する初期要求 (ユーザー ID と、通常はパスワードも必要) が検査されると、それ以後の会話要求に必要なのはユーザー ID のみになります。

PASSWORD_SUBSTITUTION

ローカル LU とパートナー LU は、パスワード置換会話セキュリティーをサポートします。会話を割り振るための要求が発行される時は、その要求には暗号化形式のパスワードが指定されます。パスワード置換がサポートされていない場合は、パスワードを平文 (暗号化されていない) 形式にする必要があります。セッションがパスワード置換をサポートしていない場合は、セキュリティー・タイプを PGM_STRONG に設定した Allocate または Send_Conversation は失敗します。

UNKNOWN

パートナー LU とともに活動化されるセッションはありません。

duplex_support

BIND で折衝された会話二重サポートを戻します。可能な値は次のいずれかです。

HALF_DUPLEX

半二重会話のみがサポートされます。

FULL_DUPLEX

全二重セッションと半二重セッションの両方がサポートされます。優先データもサポートされません。

UNKNOWN

パートナー LU との活動状態であるセッションがないため、会話二重サポートは不明です。

preference

このパラメーターは予約済みです。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_ALIAS

指定された名前が始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*lu_alias* パラメーター値が無効です。

INVALID_LU_NAME

指定された名前が始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*lu_name* パラメーター値が無効です。

INVALID_PLU_NAME

list_options パラメーターは、指定した名前から始まるすべてのエントリーをリストする LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、以下のいずれかの状態になっています。

- *fqplu_name* パラメーターは、このローカル LU のどのパートナーの名前とも一致しません。
- 指定したローカル LU とパートナー LU の組み合わせに対して、ノードを最後に起動してから活動状態であったセッションはありません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

照会を lu_lu_定義する

照会を *lu_lu_* 定義する コマンドは、ローカル LU のパートナー LU に関する情報を戻します。このコマンドは、LU の定義についての情報を戻します。現在の使用方法ではなく、照会パートナー *lu* を使用して、使用法の情報を取得します。このコマンドを使用すると、使用されるオプションに応じて、特定の LU または複数の LU に関する要約情報または詳細情報を取得することができます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_partner_lu_definition]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
plu_alias	character	8	(nullstring)
fqplu_name	character	17	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す LU の最大数。特定の LU のデータを戻すには 1、複数の LU のデータを戻すには 1 より大きい数値、すべての LU のデータを戻すには 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合の LU のリスト内の開始位置。*list_options* で FIRST_IN_LIST を指定する場合、リストは *plu_alias* の順に並べられます。それ以外

の場合、リストは、*plu_alias* を指定した場合はこの値の順に並べられ、*fqplu_name* を指定した場合はこの値の順に並べられます。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

plu_alias パラメーターまたは *fqplu_name* パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

plu_alias パラメーターまたは *fqplu_name* パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

FIRST_IN_LIST を指定した場合は、+ 文字を使用して以下のオプションを指定できます。

LIST_BY_ALIAS

リストは、LU 名の順ではなく LU 別名の順に戻されます。このオプションは、FIRST_IN_LIST とともに指定した場合にのみ有効です。(LIST_FROM_NEXT または LIST_INCLUSIVE の場合は、リストの索引としてどちらを指定したかに応じて、リストは LU 名順または LU 別名順に並べられます。)

plu_alias

パートナー LU 別名。このパラメーターは、*list_options* を FIRST_IN_LIST に設定した場合には無視されます。それ以外の場合は、パートナー LU 名に対して LU 別名または LU の完全修飾名を指定する必要があります。別名ではなく完全修飾名によってパートナー LU が定義されていることを示す場合は、このパラメーターを指定せず、*fqplu_name* パラメーターを指定してください。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。ネットワーク名およびパートナー LU 名には、文字、0 から 9 の数字、および特殊文字 \$、#、@ のみを使用します。

この名前は、情報が必要とされているパートナー LU 名、または LU リストの索引として使用できます。このパラメーターは、*list_options* を FIRST_IN_LIST に設定した場合には無視されます。それ以外の場合は、パートナー LU 名に対して LU 別名または LU の完全修飾名を指定する必要があります。このパラメーターは、*plu_alias* パラメーターが指定されていない場合にのみ使用します。*plu_alias* が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
<i>plu_alias</i>	character	8
<i>fqplu_name</i>	character	17
description	character	31

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値として SUMMARY を指定すると、以下のパラメーターを戻します。

plu_alias

パートナー LU 別名。

fqplu_name

17 バイトからなるパートナー LU の完全修飾ネットワーク名。

description

パートナー LU を記述したテキスト・ストリング (そのパートナー LU の定義で指定したもの)。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
plu_alias	character	8
fqplu_name	character	17
description	character	31
plu_un_name	character	8
max_mc_ll_send_size	decimal	
conv_security_ver	constant	
parallel_sess_supp	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値として *DETAIL* を指定すると、以下のパラメーターを戻します。

plu_alias

パートナー LU 別名。

fqplu_name

17 バイトからなるパートナー LU の完全修飾ネットワーク名。

description

パートナー LU を記述したテキスト・ストリング (そのパートナー LU の定義で指定したもの)。

plu_un_name

パートナー LU の非解釈名 (リモート SSCP に対して定義されている LU 名)。

max_mc_ll_send_size

パートナー LU のマップ式会話サービスで送受信可能な論理レコードの最大サイズ。この値は、1 から 32,767 の範囲の数を指定するか、または 0 (ゼロ) を指定して限度を設定しないようにします (この場合、最大数は 32,767 バイトです)。

conv_security_ver

パートナー LU が、ローカル LU の代わりにユーザー ID の妥当性検査を行う許可を与えられているか (パートナー LU が、接続要求内の検査済みインジケーターを設定できるかどうか) どうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

パートナー LU はユーザー ID の妥当性を検査できます。

NO

パートナー LU はユーザー ID の妥当性を検査できません。

parallel_sess_supp

パートナー LU が並列セッションをサポートするかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

パートナー LU は、並列セッションをサポートします。

NO

パートナー LU は、並列セッションをサポートしません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PLU_NAME

list_options パラメーターを、指定した名前から始まるすべてのエントリーを表示する LIST_INCLUSIVE に設定しましたが、*plu_alias* パラメーター値または *fqplu_name* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_port

query_port コマンドは、ポートの定義に関する情報を戻します。ポートが活動状態である場合、このコマンドはポートのステータスに関する情報も戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定のポートまたは複数のポートに関する要約情報または詳細情報を入手する場合に使用できます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_port]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
port_name	character	8	(null string)
dlc_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す対象となるポートの最大数。特定のポートのデータを戻す場合は 1、複数のポートのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのポートのデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベルおよび CS/AIX がデータを戻す場合のポート・リスト内の開始位置。必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

port_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

port_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

port_name

情報が必要なポートの名前、またはポート・リストの索引として使用される名前。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

dlc_name

DLC 名フィルター。特定の DLC に関連したポートに関する情報のみを戻すには、DLC 名を指定します。この名前は、8 バイトの文字ストリングです。DLC 名を使用してフィルタリングしないですべてのポートに関する情報を戻す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
port_name	character	8
description	character	31
port_state	character	8
dlc_name	character	8

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が SUMMARY に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

port_name

ポートの名前。

description

ポートを記述したテキスト・ストリング (そのポートの定義で指定したもの)。

port_state

ポートの現行状態を指定します。可能な値は次のいずれかです。

ACTIVE

ポートは活動状態です。

NOT_ACTIVE

ポートは活動状態ではありません。

PENDING_ACTIVE

start_port コマンドは実行中です。

PENDING_INACTIVE

stop_port コマンドは実行中です。

dlc_name

このポートに関連した DLC の名前。

戻りパラメーター: 詳細情報

list_options パラメーターに対して DETAIL を指定すると、以下の情報がすべての DLC タイプに対して戻されます。

Parameter name	Type	Length
port_name	character	8
port_state	constant	
dlc_type	constant	
port_sim_rim	constant	
def_ls_good_xids		decimal
def_ls_bad_xids		decimal
dyn_ls_good_xids		decimal
dyn_ls_bad_xids		decimal
num_implicit_links		decimal
neg_ls_supp	constant	
abm_ls_supp	constant	
start_time		decimal
description	character	31
dlc_name	character	8
port_type	constant	
port_number	decimal	
max_rcv_btu_size	decimal	
tot_link_act_lim		decimal
inb_link_act_lim		decimal
out_link_act_lim		decimal
ls_role	constant	
implicit_dspu_services	constant	
implicit_dspu_template	character	8
implicit_ls_limit	decimal	
implicit_link_lvl_error	constant	

query_port

implicit_uplink_to_en	constant
act_xid_exchange_limit	decimal
nonact_xid_exchange_limit	decimal
ls_xmit_rcv_cap	constant
max_ifrm_rcvd	decimal
target_pacing_count	decimal
max_send_btu_size	decimal
implicit_cp_cp_sess_support	constant
implicit_limited_resource	constant
implicit_hpr_support	constant
implicit_link_lvl_error	constant
implicit_deact_timer	decimal
effect_cap	decimal
connect_cost	decimal
byte_cost	decimal
security	constant
prop_delay	constant
user_def_parm_1	decimal
user_def_parm_2	decimal
user_def_parm_3	decimal
initially_active	constant

SDLC の場合、以下のパラメーターが含まれています。これらのパラメーターの詳細については、[150 ページ](#)の『define_sdslc_port』を参照してください。

address	hex number
react_timer	decimal
react_timer_retry	decimal
idle_timer	decimal
idle_timer_retry	decimal
np_rcv_timer	decimal
np_rcv_timer_retry	decimal
write_timer	decimal
write_timer_retry	decimal
link_conn_timer	decimal
link_conn_timer_retry	decimal
use_rej	constant
spec_port_type	constant
max_xid_size	decimal
max_retry_count	decimal
physical_link	constant
opt1	constant
opt2	constant
linesp	decimal
rcv_pool_size	decimal
poll_wait	decimal
hmod_data	character
contact_timer	decimal
contact_timer_retry	decimal
contact_timer2	decimal
contact_timer_retry2	decimal
disc_timer	decimal
disc_timer_retry	decimal
nve_poll_timer	decimal
nve_poll_timer_retry	decimal
nve_poll_timer2	decimal
nve_poll_timer_retry2	decimal
no_resp_timer	decimal
no_resp_timer_retry	decimal
rem_busy_timer	decimal
rem_busy_timer_retry	decimal
rr_timer	decimal
poll_frame	constant
poll_on_iframe	constant

QLLC の場合、以下のパラメーターが含まれています。これらのパラメーターの詳細については、[122 ページ](#)の『define_qllc_port』を参照してください。

address	character	14
react_timer	decimal	
react_timer_retry	decimal	
loc_wsize	decimal	
retry_limit	decimal	
retry_timeout	decimal	
idle_timeout	decimal	

トークンリングまたはイーサネットの場合は、以下のパラメーターが含まれます。これらのパラメーターの詳細については、201 ページの『[define_tr_port](#)、[define_ethernet_port](#)』を参照してください。

mac_address	hex array		
lsap_address	hex number		
react_timer	decimal		0
react_timer_retry	decimal		0
device	character	16	
max_saps	decimal		

Enterprise Extender (HPR/IP) の場合は、以下のパラメーターが含まれます。パラメーター *lsap* および *determined_ip_address* については、以下を参照してください。その他のパラメーターについて詳しくは、69 ページの『[define_ip_port](#)』を参照してください。

lsap	hex number		
version	decimal		
determined_ip_address	character		
liveness_timeout	decimal		
short_hold_mode	constant		
local_ip_interface	character	45	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が **DETAIL** に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

port_name

ポートの名前。

port_state

ポートの現行状態を指定します。可能な値は次のいずれかです。

ACTIVE

ポートは活動状態です。

NOT_ACTIVE

ポートは活動状態ではありません。

PENDING_ACTIVE

start_port コマンドは実行中です。

PENDING_INACTIVE

stop_port コマンドは実行中です。

dlc_type

ポートの DLC タイプ。可能な値は次のいずれかです。

SDLC

同期データ・リンク制御

QLLC

修飾論理リンク制御

TR

トークンリング

ETHERNET

イーサネット

HPRIP

Enterprise Extender (HPR/IP)

port_sim_rim

設定初期化モード (SIM) と受信初期化モード (RIM) をサポートするかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

SIM と RIM がサポートされます。

NO

SIM と RIM はサポートされません。

def_ls_good_xids

ポートを最後に起動してから、このポートで定義したすべてのリンク・ステーションで発生して成功したXID交換の合計数。

def_ls_bad_xids

ポートを最後に起動してから、このポートで定義したすべてのリンク・ステーションで発生して失敗したXID交換の合計数。

dyn_ls_good_xids

ポートを最後に起動してから、このポートのすべてのダイナミック・リンク・ステーションで発生して成功したXID交換の合計数。

dyn_ls_bad_xids

ポートを最後に起動してから、このポートのすべてのダイナミック・リンク・ステーションで発生して失敗したXID交換の合計数。

num_implicit_links

このポートで現在活動状態である暗黙リンクの合計数。これにはディスカバリーの使用に続いて作成されたダイナミック・リンクおよび暗黙リンクが含まれます。このポートで許可されるこの種のリンクの数は、*implicit_ls_limit* パラメーターにより制限されます。

neg_ls_supp

折衝可能リンク・ステーションのサポート。可能な値は次のいずれかです。

YES

リンク・ステーションは折衝可能です。

NO

リンク・ステーションは折衝できません。

abm_ls_supp

ABMリンク・ステーションのサポート。可能な値は次のいずれかです。

YES

ABMリンク・ステーションはサポートされます。

NO

ABMリンク・ステーションはサポートされません。

UNKNOWN

このポートに関連したDLCがまだ始動されていないため、ABMリンク・ステーションのサポートを決定できません。

start_time

ノードが始動された時刻とこのポートが始動された最後の時刻の間の経過時間(1/100秒)。このポートがまだ始動されていない場合には、このパラメーターはゼロに設定されます。

description

ポートを記述したテキスト・ストリング(そのポートの定義で指定したもの)。

dlc_name

このポートに関連したDLCの名前。

lsap

Enterprise Extender (HPR/IP): ポートのリンク・サービス・アクセス・ポイントのアドレス。

version

Enterprise Extender (HPR/IP): このIPアドレスが定義されているIPバージョン。可能な値は次のいずれかです。

IP_VERSION_4

IPv4ドット10進IPアドレス(例えば、193.1.11.100)

IP_VERSION_6

IPv6コロン16進アドレス(例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)

determined_ip_address

Enterprise Extender (HPR/IP): ローカル・リンク・ステーションの IP アドレス。このアドレスは、上記の *version* パラメーターで示されたように、IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100) または IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab) です。ポートが活動状態でない場合、このアドレスはすべてゼロとして表示されます。

その他のパラメーターについて詳しくは、適切なポート・タイプに対する `define_*_port` コマンドを参照してください。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PORT_NAME

list_options パラメーターは、指定名から始まるすべてのエントリーをリストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*port_name* パラメーターに指定された値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_pu

query_pu コマンドは、ローカル PU およびそれに関連したリンクに関する情報を戻します。このコマンドを使用すると、使用するオプションに応じて、特定の PU または複数の PU に関する情報を取得することができます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_pu]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
pu_name	character	8	(null string)
host_attachment	constant		NONE

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

PU の最大数 (そのデータが戻されます)。特定の PU のデータを戻すには 1、複数の PU のデータを戻すには 1 より大きい数値、すべての PU のデータを戻すには 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の PU のリスト内の開始位置。

値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

pu_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

pu_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

pu_name

情報を求める PU の名前、または PU のリストへの索引として使用する名前。*list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、この値は無視されます。この名前は、1 から 8 文字のタイプ A の文字ストリングです。

host_attachment

PU がホストに直接接続されるか、DLUR を介して接続されるかによって 戻り情報をフィルターにかけるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

DIRECT_ATTACHED

ホスト・システムに直接接続された PU に関する情報のみを戻します。

DLUR_ATTACHED

DLUR がサポートする PU に関する情報のみを戻します。

NONE

ホスト接続に関係なく、すべての PU に関する情報を戻します。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
<i>pu_name</i>	character	8
<i>description</i>	character	31
<i>ls_name</i>	character	8
<i>pu_sscp_sess_active</i>	constant	
<i>host_attachment</i>	constant	
<i>max_send_btu_size</i>	decimal	
<i>max_rcv_btu_size</i>	decimal	
<i>send_fmd_data_frames</i>	decimal	
<i>rcv_fmd_data_frames</i>	decimal	
<i>send_data_frames</i>	decimal	
<i>send_data_bytes</i>	decimal	
<i>rcv_data_frames</i>	decimal	
<i>rcv_data_bytes</i>	decimal	
<i>sidh</i>	hex number	
<i>sidl</i>	hex number	
<i>odai</i>	constant	
<i>sscp_id</i>	hex	6
<i>conventional_lu_compression</i>	constant	
<i>dddlu_supported</i>	constant	
<i>tcpcv_supported</i>	constant	
<i>dddlu_offline_supported</i>	constant	

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

pu_name

PU 名。

description

PU を記述したテキスト・ストリング (その LS または内部 PU の定義で指定したもの)。

ls_name

この PU に関連したリンク・ステーションの名前。

pu_sscp_sess_active

PU-SSCP セッションが活動状態かどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションは活動状態です。

NO

セッションは活動状態ではありません。

host_attachment

ローカル PU ホスト接続タイプ。

可能な値は次のいずれかです。

DIRECT_ATTACHED

PU はホスト・システムに直接接続されます。

DLUR_ATTACHED

PU は DLUR によりサポートされています。

max_send_btu_size

送信できる BTU の最大サイズ。この値には、TH と RH (合計 9 バイト)、および RU の長さが含まれています。

max_rcv_btu_size

受信できる BTU の最大サイズ。この値には、TH と RH (合計 9 バイト)、および RU の長さが含まれています。

send_fmd_data_frames

送信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

rcv_fmd_data_frames

受信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

send_data_frames

送信された通常フロー・データ・フレームの数。

send_data_bytes

送信された通常フロー・データ・バイトの数。

rcv_data_frames

受信された通常フロー・データ・フレームの数。

rcv_data_bytes

受信された通常フロー・データ・バイトの数。

以下の 3 つのパラメーターは、指定した LS のセッションの ローカル形式セッション ID (LFSID) を識別します。LFSID は、以下のパラメーターで構成されます。

sidh

セッション ID の上位バイト。

sidl

セッション ID の下位バイト。

odai

Origin Destination Assignor Indicator。可能な値は次のいずれかです。

YES

BIND 送信側は、2 次リンク・ステーションを含むノードです。

NO

BIND 送信側は、1 次リンク・ステーションを含むノードです。

sscp_id

従属 LU セッションの場合、このパラメーターは、ローカル LU がマップされる PU についてホストからの ACTPU で受信された SSCP ID です。独立 LU セッションの場合、このパラメーターは 0 (ゼロ) に設定されます。この値は、16 進値で表示される 6 バイトの配列です。

conventional_lu_compression

この PU を使用する LU 0 から 3 のセッションでデータ圧縮が要求されるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

データ圧縮は、ホストが要求した場合にこの PU を使用する LU 0 から 3 のセッションに対して使用されます。

NO

データ圧縮は、この PU を使用する LU 0 から 3 のセッションに対して使用されません。

dddlu_supported

ホスト・システムが DDDL (従属型 LU の動的定義) をサポートするかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

ホストは DDDL をサポートします。

NO

ホストは DDDL をサポートしません。

tcpcv_supported

ホスト・システムが TCP/IP 情報制御ベクトル (0x64) の受信をサポートするかどうかを指定します。CS/AIX は、このベクトルを使用して TN3270 または LUA クライアントの TCP/IP アドレス情報をホストへ送信できます。可能な値は次のいずれかです。

YES

ホスト・サポートは TCP CV をサポートします。

NO

ホスト・サポートは TCP CV をサポートしません。

dddlu_offline_supported

ローカル PU が、NMVT (電源オフ) メッセージのホストへの送信をサポートするかどうかを指定します。ホスト・システムが DDDL (従属 LU の動的定義) をサポートしている場合、CS/AIX は、動的定義 LU の使用が終了したときにホストに NMVT (電源オフ) を送信します。これによって、ホストは、定義が不要になった際にその定義を除去することによって、リソースを節約することができます。

可能な値は次のいずれかです。

YES

ローカル PU は、ホストに NMVT (電源オフ) メッセージを送信します。

NO

ローカル PU は、ホストに NMVT (電源オフ) メッセージを送信しません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PU_NAME

list_options パラメーターは、指定名から始まるすべてのエントリーをリストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*pu_name* パラメーターで指定した値が無効です。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
INVALID_PU_TYPE

pu_name パラメーターで指定された PU は、ローカル PU ではなく、リモート PU です。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの追加の組み合わせがリストされています。

query_rapi_clients

query_rapi_clients コマンドは、CS/AIX LAN における特定サーバーが、現在、コントローラーとして機能している (AIX、Linux、または Windows 上の) Remote API Client に関する情報を戻します。

このコマンドはサーバーに対して発行する必要があります。この場合、サーバーでノードが始動されているかどうかについては関係ありません。

注:

クライアントが Web サーバー経由でサーバーに接続されていて、クライアントのソフトウェアを停止する場合、Web サーバーが CS/AIX コントローラー・サーバーへの接続を終了するまでに 1 分から 2 分遅れる場合があります。これは query_rapi_clients コマンドがサーバーの使用を停止してからでも、少しの間クライアントをこのコマンドで拘束することがあるためです。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_rapi_clients]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
sys_name	character	128	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

クライアントの最大数 (そのクライアントのデータが戻されます)。特定クライアントのデータを戻す場合は 1、複数のクライアントのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのクライアントのデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のクライアント・リスト内の開始位置。リストはクライアント名順に並べられます。可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

クライアントのリスト内の最初のエンタリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

sys_name パラメーターで指定したエンタリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

sys_name パラメーターで指定したエンタリーの直後のエンタリーから開始します。

sys_name

リストのインデックスとして使用されるクライアントの完全修飾システム名 (newbox.this.co.uk など)。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター

コマンドが正常に発行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

Parameter name	Type	Length
max_clients	decimal	

各クライアントには、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

Parameter name	Type	Length
sys_name	character	128
origin_ip_addr	character	39
adj_ip_addr	character	39
port_number	decimal	

コマンドが正常に発行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

max_clients

CS/AIX ソフトウェアが始動されてから、任意の時点でコントローラー・サーバーとしてサーバーを使用するクライアントの最大数。

各クライアントには、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

sys_name

クライアントの完全修飾システム名 (例えば、newbox.this.co.uk)。

origin_ip_addr

クライアントの IP アドレス。次のいずれか 1 つです。

- IPv4 アドレス。ドット 10 進アドレスで指定します (例えば、193.1.11.100)。
- IPv6 アドレス。コロン 16 進アドレスで指定します (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)。

adj_ip_addr

クライアントが CS/AIX に接続するために使用する IP アドレス。以下の項目の 1 つでも真の場合、*rapi_client_origin_ip_addr* と同じにすることはできません。

- クライアントは Web サーバー経由で接続される。
- クライアントは TCP/IP プロキシまたは NAT ルーターを経由して接続される。例えば、Linux iptables ツール。
- クライアントに複数の IP アドレスがある。

IP アドレスは以下のいずれかである。

- IPv4 アドレス。ドット 10 進アドレスで指定します (例えば、193.1.11.100)。
- IPv6 アドレス。コロン 16 進アドレスで指定します (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)。

port_number

クライアントが CS/AIX に接続するために使用する IP ポート番号。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_NODE_NAME

list_options パラメーターは、指定したノード名から始まるすべてのエントリーをリストするために、LIST_INCLUSIVE または LIST_FROM_NEXT に設定されていますが、*sys_name* パラメーターが指定されていないか、または無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_rcf_access

query_rcf_access コマンドは、CS/AIX リモート・コマンド機能 (RCF) への許可されたアクセスに関する情報を戻します。UNIX コマンド機能 (UCF) コマンドの実行に使用されるユーザー ID、およびサービス・ポイント・コマンド機能 (SPCF) を使用して管理コマンドを発行する際の制約事項です。この情報は、アクセスの define_rcf_access を使用して以前に定義された SPCF および UCF の詳細については、AIX 管理ガイド上のデータ・センター・デプロイメント用 *IBM Communications Server*」を参照してください。

RCF アクセス・パラメーターはドメイン・リソースとして定義されているため、このコマンドは特定のノードに関連付けられません。

指定パラメーター

```
[query_rcf_access]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
ucf_username	character	31
spcf_permissions	constant	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は次のパラメーターを戻します。

ucf_ ユーザー名

UCF ユーザーの AIX ユーザー名を指定します。すべての UCF コマンドは、このユーザーのユーザー ID を使用して実行され、このユーザーに対して定義されたデフォルト・シェルおよびアクセス許可が使用されます。

このパラメーターが設定されていない場合、UCF アクセスは拒否されます。

spcf_許可

SPCF を使用してアクセスできる CS/AIX 管理コマンドのタイプを指定します。SPCF へのアクセスを防ぐには、このパラメーターをなしに設定します。SPCF へのアクセスを許可するには、このパラメーターを以下の 1 つ以上の値 (+ 文字を使用して結合) に設定します。

ローカル・クエリー・ローカル

query_* コマンドを使用できます。

ローカル・デフォルト・ローカル

define_*、設定値*、削除 delete_*、add_*、remove_*、および init_node の各コマンドを使用できます。

ローカル・アクション (ローカル)

びっくり*, ストップ_*, アクティブ (_)*, 非アクティブ化 _*, 開口, 初期セッション限度, 変更セッション限度, and リセット・セッション限度 commands are allowed.

ALLOW_QUERY_リモート

query_* コマンドは、リモートの CS/AIX ノードへのアクセスを許可されます。

リモート・リモート・

define_*, 設定値*, 削除 delete_*, add_remove_*, *, および init_node の各コマンドは、リモート CS/AIX ノードへのアクセスを許可されます。

アクション・リモート・アクション

びっくり*, ストップ_*, アクティブ (_)*, 非アクティブ化 _*, 開口, 初期セッション限度, 変更セッション限度, and リセット・セッション限度 commands are allowed to provide access to a remote CS/AIX node.

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_rtp_connection

query_rtp_connection コマンドは、ノードがエンドポイントである Rapid Transport Protocol (RTP) 接続に関する情報を戻します。RTP は、ネットワーク・ノードでのみサポートされている高性能ルーティング (HPR) プロトコルです。RTP を使用すると、ネットワーク・ノード・エンドポイントで、APPN 中間セッション・ルーティング (ISR) 接続よりもデータ・ルーティングのパフォーマンスおよびセッションの信頼性が高い APPN HPR 接続をセットアップできます。

このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定の RTP 接続または複数の RTP 接続に関する情報を入手する場合に使用できます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_rtp_connection]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY+LIST_INCLUSIVE
rtp_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

RTP 接続の最大数 (そのデータが戻されます)。特定の RTP 接続のデータを戻す場合は 1、複数の RTP 接続のデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべての RTP 接続のデータを戻す場合は 0 を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合のリスト内の開始位置。
必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

rtp_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

rtp_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

rtp_name

RTP 接続の名前。この値は、*list_options* パラメーターを FIRST_IN_LIST に設定した場合には無視されます。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter	Type	Length
<i>rtp_name</i>	character	8
<i>first_hop_ls_name</i>	character	8
<i>dest_node_name</i>	character	17
<i>cos_name</i>	character	8
<i>num_sess_active</i>	decimal	
<i>connection_type</i>	constant	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が SUMMARY に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

rtp_name

RTP 接続の名前。

first_hop_ls_name

RTP 接続の最初のホップのリンク・ステーション名。

dest_node_name

セッションの RTP 部分に対する宛先制御点の完全修飾名。

cos_name

RTP 接続が使用するサービス・クラスの名前。

num_sess_active

この RTP 接続で活動状態であるセッションの数。

connection_type

RTP 接続のセッション・タイプを示します。可能な値は次のいずれかです。

CP_CP_SESSION

RTP 接続は CP-CP セッションを伝送します。

LU_LU_SESSION

RTP 接続は LU-LU セッションを伝送します。

ROUTE_SETUP

RTP 接続は経路セットアップに使用します。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter	Type	Length
<i>rtp_name</i>	character	8

query_rtp_connection

first_hop_ls_name	character	8
dest_node_name	character	17
cos_name	character	8
num_sess_active	decimal	
connection_type	constant	
max_btu_size	decimal	
liveness_timer	decimal	
local_tcid	hex array	8
remote_tcid	hex array	8
bytes_sent	decimal	
bytes_received	decimal	
bytes_resent	decimal	
bytes_discarded	decimal	
packets_sent	decimal	
packets_received	decimal	
packets_resent	decimal	
packets_discarded	decimal	
gaps_detected	decimal	
send_rate	decimal	
max_send_rate	decimal	
min_send_rate	decimal	
receive_rate	decimal	
max_receive_rate	decimal	
min_receive_rate	decimal	
burst_size	decimal	
up_time	decimal	
smooth_rtt	decimal	
last_rtt	decimal	
short_req_timer	decimal	
short_req_timeouts	decimal	
liveness_timeouts	decimal	
in_invalid_sna_frames	decimal	
in_sc_frames	decimal	
out_sc_frames	decimal	
delay_change_sum	decimal	
current_receiver_threshold	decimal	
minimum_receiver_threshold	decimal	
maximum_receiver_threshold	decimal	
sent_normals_count	decimal	
sent_slowdowns_count	decimal	
rcvd_normals_count	decimal	
rcvd_slowdowns_count	decimal	
dcs_reset_count_non_heal	decimal	
dcs_reset_count_healing	decimal	
arb_mode_color	decimal	
arb_mode	constant	
refifo	decimal	
refifo_timer	decimal	
path_switch_time	decimal	
path_switch_atts	decimal	
route	character	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が **DETAIL** に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

rtp_name

RTP 接続の名前。

first_hop_ls_name

RTP 接続の最初のホップのリンク・ステーション名。

dest_node_name

セッションの RTP 部分に対する宛先制御点の完全修飾名。

cos_name

RTP 接続が使用するサービス・クラスの名前。

num_sess_active

この RTP 接続で活動状態であるセッションの数。

connection_type

RTP 接続のセッション・タイプを示します。可能な値は次のいずれかです。

RTP_CP_CP_SESSION

RTP 接続は CP-CP セッションを伝送します。

RTP_LU_LU_SESSION

RTP 接続は LU-LU セッションを伝送します。

RTP_ROUTE_SETUP

RTP 接続は経路セットアップに使用します。

max_btu_size

RTP 接続で使用される基本伝送単位 (BTU) の最大サイズ (バイト単位)。

liveness_timer

RTP 接続の活性タイマー (秒単位)。活性タイマーの設定期間内にこの接続にトラフィック・フローがない場合は、RTP は状況交換を開始し、パートナーがまだ存在しているかどうかを検査します。活性タイマー間隔を短くすると、回線障害がすぐに検出され、回線障害の際のパス・スイッチが高速に動作します。しかし、間隔が短すぎると、回線状況の検査が頻繁に行われるため、パフォーマンスが多少低下します。

local_tcid

RTP 接続のローカル TCID (トランスポート制御 ID)。

remote_tcid

RTP 接続のリモート TCID。

bytes_sent

ローカル・ノードがこの RTP 接続で送信したバイトの合計数。

bytes_received

ローカル・ノードがこの RTP 接続で受信したバイトの合計数。

bytes_resent

転送中にバイトが消失したため、ローカル・ノードがこの RTP 接続で再送信したバイトの合計数。

bytes_discarded

RTP 接続の相手方から送信されたものの、すでに受信したデータと重複していたために破棄された合計バイト数。

packets_sent

ローカル・ノードがこの RTP 接続で送信したパケットの合計数。

packets_received

ローカル・ノードがこの RTP 接続で受信したパケットの合計数。

packets_resent

転送中にパケットが消失したため、ローカル・ノードがこの RTP 接続で再送信したパケットの合計数。

packets_discarded

RTP 接続の相手側が送信し、すでに受信済みのデータの重複として廃棄されたパケットの合計数。

gaps_detected

ローカル・ノードが検出したギャップの合計数。各ギャップは 1 つ以上の消失フレームに相当します。

send_rate

この RTP 接続での現在の送信速度 (キロビット / 秒)。この速度は、ARB (適応速度ベース) アルゴリズムで計算された最大許容送信速度です。RTP は ARB アルゴリズムを使用し、パートナーへの応答に要する時間の分析に基づいて、RTP によるデータ送信をどれくらい高速にできるかを計算します。

max_send_rate

この RTP 接続での最大送信速度 (キロビット / 秒)。

min_send_rate

この RTP 接続での最小送信速度 (キロビット / 秒)。

receive_rate

この RTP 接続での現在の受信速度 (キロビット / 秒)。この速度は、最後の測定間隔について計算された実際の速度です。

max_receive_rate

この RTP 接続での最大受信速度 (キロビット / 秒)。

min_receive_rate

この RTP 接続での最小受信速度 (キロビット / 秒)。

burst_size

この RTP 接続での現在のバースト・サイズ (バイト単位)。

up_time

この RTP 接続が活動状態であった合計秒数。

smooth_rtt

ローカル・ノードとパートナー RTP ノード間の往復の平滑化測定値 (ミリ秒単位)。

last_rtt

ローカル・ノードとパートナー RTP ノード間の往復の最新測定値 (ミリ秒単位)。

short_req_timer

状況交換要求への応答待ち時間 (ミリ秒単位)。タイマー間隔が短くなると、障害の検出処理は高速になりますが、パフォーマンスが低下します。

short_req_timeouts

この RTP 接続について *short_req_timer* が満了した 合計回数。

liveness_timeouts

この RTP 接続で活性タイマーの有効期限が切れた回数の合計数。接続が *liveness_timer* パラメーターで指定した期間内にアイドルになると、活性タイマーは満了します。

in_invalid_sna_frames

この RTP 接続で受信され、無効になったため廃棄された SNA フレームの 合計数。

in_sc_frames

この RTP 接続で受信されたセッション制御フレームの合計数。

out_sc_frames

この RTP 接続で送信されたセッション制御フレームの合計数。

delay_change_sum

この RTP 接続で ARB-R アルゴリズムによって現在保持されている遅延変更の合計値。

current_receiver_threshold

この RTP 接続で ARB-R アルゴリズムによって現在保持されている受信側しきい値。

minimum_receiver_threshold

この RTP 接続で ARB-R アルゴリズムによって現在保持されている受信側しきい値の最小値。

maximum_receiver_threshold

この RTP 接続で ARB-R アルゴリズムによって現在保持されている受信側しきい値の最大値。

sent_normals_count

この RTP 接続で ARB-R アルゴリズムによって送信された NORMAL フィードバックの ARB-R セグメント数。

sent_slowdowns_count

この RTP 接続で ARB-R アルゴリズムによって送信された SLOWDOWN1 および SLOWDOWN2 フィードバックの ARB-R セグメント数。

rcvd_normals_count

この RTP 接続で ARB-R アルゴリズムによって受信された NORMAL フィードバックの ARB-R セグメント数。

rcvd_slowdowns_count

この RTP 接続で ARB-R アルゴリズムによって受信された SLOWDOWN1 および SLOWDOWN2 フィードバックの ARB-R セグメント数。

dcs_reset_count_non_heal

この RTP 接続で通常の ARB-R 処理の一部として行われた遅延変更リセットの合計回数。

dcs_reset_count_healing

この RTP 接続で通常の ARB-R アルゴリズムの自己回復が行われた遅延変更リセットの合計回数。

arb_mode_color

この RTP 接続の現在の ARB-R 状況モード。可能な値は次のいずれかです。

0

GREEN

- 1
YELLOW
- 2
RED

arb_mode

この RTP 接続で使用中の ARB モードを指定します。可能な値は次のいずれかです。

BASE

標準モード ARB。

RESPONSIVE

応答モード ARB。

PROGRESSIVE

プログレッシブ・モード ARB。

UNKNOWN

RTP 接続がまだ確立されていないため、ARB はまだ決定されていません。

refifo

RTP 接続で refifo が有効であるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

1

refifo は有効です。CS/AIX が受信データでギャップを検出すると、順不同のパケットが到達する時間を考慮して refifo タイマーを開始し、タイマーの期限が切れてもパケットが未着の場合にのみ、再送信を要求します。

0

refifo は有効ではありません。CS/AIX が受信データでギャップを検出すると、未着パケットの再送信を即座に要求します。

refifo_timer

直近の refifo タイマーの期間 (ミリ秒単位)。

path_switch_time

この RTP 接続における直近のパス・スイッチ試行からの経過時間 (秒単位)。パス・スイッチ試行がなかった (*path_switch_atts* がゼロに設定されている) 場合、このパラメーターはゼロに設定されます。

path_switch_atts

この RTP 接続で行われたパス・スイッチ試行の総数。

route

SNA フォーマットで定義された経路選択制御ベクトル (RSCV)。この制御ベクトルは、ネットワーク内のセッション経路を定義し、BIND で送信されます。この RSCV が組み込まれるのは、エンドポイント RSCV を保管する必要があるノードの構成 (*define_node* を使用して指定される) で示されている場合のみです。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_RTP_CONNECTION

list_options パラメーターを、指定した名前から始まるすべてのエントリーを表示する LIST_INCLUSIVE に設定しましたが、*rtp_name* パラメーターが無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_rtp_チューニング

query_rtp_チューニング コマンドは、将来の RTP 接続に使用されるパラメーターに関する情報を戻します。この情報は、以前は define_rtp_チューニングを使用してセットアップされて

指定パラメーター

```
[query_rtp_tuning]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
path_switch_attempts	decimal	
short_req_retry_limit	decimal	
path_switch_time_low	decimal	
path_switch_time_medium	decimal	
path_switch_time_high	decimal	
path_switch_time_network	decimal	
refifo_cap	decimal	
srt_cap	decimal	
path_switch_delay	decimal	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

path_switch_attempts

新規 RTP 接続でのパス・スイッチ設定試行の数。

short_req_retry_limit

CS/AIX が RTP 接続が切断されたと判断し、パス・スイッチ処理を開始するまでに状況要求が送信される回数。

path_switch_time_low

CS/AIX が、AP_LOW に設定された伝送優先順位を使用して、切断された RTP 接続のパス・スイッチを試みる時間長 (秒単位)。

path_switch_time_medium

CS/AIX が、AP_MEDIUM に設定された伝送優先順位を使用して、切断された RTP 接続のパス・スイッチを試みる時間長 (秒単位)。

path_switch_time_high

CS/AIX が、AP_HIGH に設定された伝送優先順位を使用して、切断された RTP 接続のパス・スイッチを試みる時間長 (秒単位)。

path_switch_time_network

CS/AIX が、AP_NETWORK に設定された伝送優先順位を使用して、切断された RTP 接続のパス・スイッチを試みる時間長 (秒単位)。

refifo_cap

RTP プロトコルは「Re-FIFO Timer」と呼ばれるタイマーを使用します。このタイマーの値はプロトコルの一部として計算されますが、このパラメーターには最大値 (タイマーはこの値を超えて増やすことができない) をミリ秒で指定します。ある状態では、この最大値の設定によりパフォーマンスを改善で

きます。0 (ゼロ) 値に設定するという事は、タイマーの制限がないということであり、プロトコルで計算された、どのような値でも取り込むことができます。

srt_cap

RTP プロトコルは「Short Request Timer」と呼ばれるタイマーを使用します。このタイマーの値はプロトコルの一部として計算されますが、このパラメーターには最大値 (タイマーはこの値を超えて増やすことができない) をミリ秒で指定します。ある状態では、この最大値の設定によりパフォーマンスを改善できます。0 (ゼロ) 値に設定するという事は、タイマーの制限がないということであり、プロトコルで計算された、どのような値でも取り込むことができます。

path_switch_delay

パス・スイッチが発生するまでの最小遅延秒数です。遅延を指定することにより、他に使用可能な経路がない場合は特に、リモート・システムの一時的なリソース不足により発生する不要なパス・スイッチの試行を回避します。

このパラメーターのデフォルト値はゼロで、プロトコルがパス・スイッチを必要とするとすぐに、パス・スイッチの試行が発生可能なことを表します。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_security_access_list

query_security_access_list コマンドは、CS/AIX 構成ファイルで定義されているセキュリティー・アクセス・リストに関する情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、単一のリストまたは複数のリストに関する情報を戻すことができます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_security_access_list]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
list_name	character	14	(null string)
user_name	character	10	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

セキュリティー・アクセス・リストの最大数 (そのセキュリティー・アクセス・リストのデータが戻されます)。特定のリストのデータを戻すには 1、複数のリストのデータを戻すには 1 より大きい数値、すべてのリストのデータを戻すには 0 (ゼロ) を指定します。

この数には、部分セキュリティー・アクセス・リストのエントリーが含まれます (部分セキュリティー・アクセス・リストにユーザー名を指定できるため、戻りデータにリスト内の最初のユーザー名は含まれません)。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のリスト内の開始位置。値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

最初のセキュリティ・アクセス・リストの最初のユーザー名から開始します。

LIST_INCLUSIVE

指定したセキュリティ・アクセス・リスト名およびユーザー名のエントリーから開始するか、ユーザー名を指定していない場合は、指定したセキュリティ・アクセス・リストの最初のユーザー名から開始します。

LIST_FROM_NEXT

ユーザー名を指定している場合には、指定されたユーザーのすぐ後のユーザーから開始します。ユーザー名を指定していない場合には、指定されたセキュリティ・アクセス・リストの最初のユーザーから開始します。

list_name

情報を求めるセキュリティ・アクセス・リストの名前、またはセキュリティ・アクセス・リストのリストの索引として使用する名前。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。この名前は、1 から 14 文字のローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。

user_name

指定したセキュリティ・アクセス・リストの特定のユーザー名で始まる情報を戻すには、このパラメーターをそのユーザー名に設定します。指定したセキュリティ・アクセス・リストの最初のユーザー名以降の情報を戻す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length	
list_name	character	character	14
description		31	
num_users	decimal		
{security_user_data}			
user_name	character	10	

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

list_name

セキュリティ・アクセス・リストの名前。

description

0 から 31 文字のオプションのストリング。

num_users

リスト内のユーザー名の数。

リスト内のユーザー名ごとに、security_user_data サブレコードが以下の情報とともに戻されます。

user_name

ユーザー名。

これは、以下のいずれかです。

- CS/AIX コンピューター上に定義された AIX ログイン ID (このセキュリティ・アクセス・リストを使用する LU に対してパスワードの代入ができない場合)
- define_userid_password コマンドを使用して定義されたユーザー ID。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LIST_NAME

list_options パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*list_name* パラメーターで指定した値は、セキュリティ・アクセス・リストに定義された名前と一致しませんでした。

INVALID_USER_NAME

list_options パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*user_name* パラメーターで指定した値が、指定されたセキュリティ・アクセス・リストに定義されたユーザー名と一致しませんでした。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_session

query_session コマンドは、特定のローカル LU に対するセッションに関する情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、特定のセッションまたはある範囲のセッションに関する要約情報や詳細情報を入手する場合に使用できます。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_session]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
plu_alias	character	8	(null string)
fqplu_name	character	17	(null string)
mode_name	character	8	(null string)
session_id	hex array	8	

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

セッションの最大数(それらのセッションについてのデータが戻されます)。特定のセッションのデータを戻す場合は 1、複数のセッションのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのセッションのデータを戻す場合は 0 を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合のセッションのリスト内の開始位置。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

ローカル LU、パートナー LU、モード名、およびセッション ID の組み合わせによって指定されたエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

ローカル LU、パートナー LU、モード名、およびセッション ID の組み合わせによって指定されたエントリーのすぐ後のエントリーから開始します。

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU 名ではなく LU 別名によって LU が識別されていることを示す場合は、このパラメーターを指定しないでください。ローカル CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU を指定する場合は、*lu_name* または *lu_alias* のいずれも指定しないでください。

lu_alias

ローカルで定義された LU 別名。このパラメーターは、*lu_name* を指定しない場合にのみ使用します。ローカル CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU を指定する場合は、*lu_name* または *lu_alias* のいずれも指定しないでください。

plu_alias

パートナー LU 別名。特定のパートナー LU に関連するセッションの情報のみを戻す場合は、パートナー LU 別名、またはパートナー LU の完全修飾ネットワーク名 (*fqplu_name*) を指定します。パートナー LU をフィルタリングしないですべてのセッションに関する情報を戻す場合は、これらのパラメーターのいずれも指定しないでください。

LU を別名ではなく LU 名で識別することを指定するには、*plu_alias* ではなく *fqplu_name* を指定します。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾ネットワーク名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 から 17 文字のタイプ A の文字ストリングを指定します。ネットワーク名およびパートナー LU 名には、文字、0 から 9 の数字、および特殊文字 \$、#、@ のみを使用します。

このパラメーターは、*plu_alias* パラメーターが指定されていない場合にのみ使用します。*plu_alias* が指定されている場合、このパラメーターは無視されます。

mode_name

モード名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。特定のモードに関連するセッションの情報のみを戻すには、モード名を指定します。また、パートナー LU 名も指定する必要があります (*plu_alias* または *fqplu_name* を使用します)。モード名をフィルタリングしないですべてのセッションに関する情報を戻す場合は、このパラメーターを指定しないでください。

session_id

情報が必要なセッションの 8 バイトの ID、またはセッション・リストの索引として使用されるセッション ID。*list_options* が **FIRST_IN_LIST** に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
<i>plu_alias</i>	character	8
<i>fqplu_name</i>	character	17
<i>mode_name</i>	character	8
<i>session_id</i>	hex array	8

pcid	hex array	8
fqcp_name	character	17

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が SUMMARY に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

plu_alias

パートナー LU 別名。

fqplu_name

17 バイトからなるパートナー LU の完全修飾ネットワーク名。

mode_name

モード名。

session_id

8 バイトのセッション ID。

pcid

。

fqcp_name

ノードの完全修飾 CP 名。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
plu_alias	character	8
fqplu_name	character	17
mode_name	character	8
session_id	hex array	8
pcid	hex array	8
fqcp_name	character	17
cos_name	character	8
trans_pri	constant	
ltd_res	constant	
polarity	constant	
contention	constant	
rcv_ru_size	decimal	
send_ru_size	decimal	
max_send_btu_size	decimal	
max_rcv_btu_size	decimal	
max_send_pac_win	decimal	
cur_send_pac_win	decimal	
max_rcv_pac_win	decimal	
cur_rcv_pac_win	decimal	
send_data_frames	decimal	
send_fmd_data_frames	decimal	
send_data_bytes	decimal	
rcv_data_frames	decimal	
rcv_fmd_data_frames	decimal	
rcv_data_bytes	decimal	
sidh	hex number	
sidl	hex number	
odai	constant	
ls_name (or rtp_name)	character	8
pacing_type	constant	
duplex_support	constant	
sscp_id	decimal	
session_start_time	decimal	
session_timeout	decimal	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が DETAIL に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

plu_alias

パートナー LU 別名。

fqplu_name

17 バイトからなるパートナー LU の完全修飾ネットワーク名。

mode_name

モード名。

session_id

8 バイトのセッション ID。

pcid

。

fqcp_name

ノードの完全修飾 CP 名。

cos_name

サービス・クラス名。

trans_pri

伝送優先順位。可能な値は次のいずれかです。

LOW

伝送は低い優先順位を持ちます。

MEDIUM

伝送は中程度の優先順位を持ちます。

HIGH

伝送は高い優先順位を持ちます。

NETWORK

伝送は最も高い優先順位を持ちます。

ltd_res

セッションで限定リソース・リンクを使用するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

セッションでは、限定リソース・リンクを使用します。

NO

セッションでは、限定リソース・リンクは使用しません。

polarity

セッションの極性を指定します。可能な値は次のいずれかです。

PRIMARY

1 次極性。

SECONDARY

2 次極性。

contention

セッションがローカル LU の競合勝者セッションまたは競合敗者セッションのどちらであるかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

CONWINNER

競合勝者セッション。

CONLOSER

競合敗者セッション。

rcv_ru_size

受信できる最大 RU サイズ。

send_ru_size

送信できる最大 RU サイズ。

max_send_btu_size

送信できる BTU の最大サイズ。

max_rcv_btu_size

受信できる BTU の最大サイズ。

max_send_pac_win

このセッションの送信ペーシング・ウィンドウの最大サイズ。

cur_send_pac_win

このセッションの送信ペーシング・ウィンドウの現行サイズ。

max_rcv_pac_win

このセッションの受信ペーシング・ウィンドウの最大サイズ。

cur_rcv_pac_win

このセッションの受信ペーシング・ウィンドウの現行サイズ。

send_data_frames

送信された通常フロー・データ・フレームの数。

send_fmd_data_frames

送信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

send_data_bytes

送信された通常フロー・データ・バイトの数。

rcv_data_frames

受信された通常フロー・データ・フレームの数。

rcv_fmd_data_frames

受信された通常フロー FMD データ・フレームの数。

rcv_data_bytes

受信された通常フロー・データ・バイトの数。

以下の 3 つのパラメーターは、ローカル形式セッション ID (LSFID) を識別します。

sidh

セッション ID の上位バイト。

sidl

セッション ID の下位バイト。

odai

Origin Destination Assignor Indicator。可能な値は次のいずれかです。

YES

BIND 送信側は、2 次リンク・ステーションを含むノードです。

NO

BIND 送信側は、1 次リンク・ステーションを含むノードです。

ls_name

統計に関連したリンク・ステーション名。このパラメーターは、セッション・データの転送経路となるリンクとセッション統計を関連付けるために使用できます。

セッションが Rapid Transport Protocol (RTP) 接続を使用する場合、このパラメーターは含まれません。代わりに *rtp_name* パラメーターが使用されます。

rtp_name

セッションで使用する Rapid Transport Protocol (RTP) 接続の名前。

セッションが RTP 接続を使用しない場合、このパラメーターは含まれません。代わりに *ls_name* パラメーターが使用されます。

spacing_type

このセッションで使用している受信ペーシングのタイプ。可能な値は次のいずれかです。

- NONE
- FIXED
- ADAPTIVE

duplex_support

BIND で折衝された会話二重サポートを戻します。可能な値は次のいずれかです。

HALF-DUPLEX

半二重会話のみがサポートされます。

FULL-DUPLEX

全二重セッションと半二重セッションの両方がサポートされます。優先データもサポートされません。

sscp_id

従属 LU セッションの場合、このパラメーターは、ローカル LU がマップされる PU についてホストからの ACTPU で受信された SSCP ID です。独立 LU セッションの場合、このパラメーターは 0 (ゼロ) に設定されます。

session_start_time

CP の起動とセッションの活動化の間の時間 (0.01 秒単位)。照会の処理時にセッションが完全に活動状態でない場合、このパラメーターのビットは 0 (ゼロ) に設定されます。

session_timeout

このセッションに関連したタイムアウト。タイムアウトは以下の値から派生します。

- ローカル LU に関連した LU 6.2 タイムアウト
- リモート LU に関連した LU 6.2 タイムアウト
- モード・タイムアウト
- グローバル・タイムアウト
- 限定リソース・タイムアウト (このセッションが限定リソース・リンクで実行されている場合)

plu_slu_comp_lvl

1 次 LU (PLU) から 2 次 LU (SLU) に送信されるデータの圧縮レベルを指定します。可能な値は次のいずれかです。

NONE

圧縮は使用されません。

RLE

実行長さエンコード (RLE) 圧縮が使用されます。

LZ9

LZ9 圧縮が使用されます。

LZ10

LZ10 圧縮が使用されます。

slu_plu_comp_lvl

2 次 LU (SLU) から 1 次 LU (PLU) に送信されるデータの圧縮レベルを指定します。可能な値は次のいずれかです。

NONE

圧縮は使用されません。

RLE

実行長さエンコード (RLE) 圧縮が使用されます。

LZ9

LZ9 圧縮が使用されます。

LZ10

LZ10 圧縮が使用されます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーター値が無効です。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーター値が無効です。

INVALID_SESSION_ID

指定された名前ですべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*session_id* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

スネース・ネットワーク

スネース・ネットワーク コマンドは、スネネット ファイルで定義されているように、バックアップ・サーバーとして機能できるサーバーに関する情報を戻します。このコマンドは、使用されるオプションに応じて、特定のサーバーまたは複数のサーバーに関する情報を取得するために使用できます。

このファイル内のサーバー名の順序は重要です。ファイルにリストされている最初のサーバーは、アクティブである場合は常にコントローラーになり、2 番目のサーバーは、最初のサーバーが非アクティブの場合はコントローラーになり、3 番目のサーバーがコントローラーになるのは、最初のサーバーと 2 番目のサーバーが両方とも非アクティブの場合はコントローラーになります。この順序付けにより、スネース・ネットワーク は、ファイルと同じ順序になっています。戻された名前は、他の *query_** コマンドと同様に、名前の長さおよび辞書順の順序で配列されません。で戻されるサーバー名のリスト

このコマンドは、ノード名を指定しないで発行する必要があります

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_sna_net] num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
server_name	character	128	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

サーバー名の最大数 (そのサーバー名のデータが戻されます)。特定のサーバー名のデータを戻す場合は 1、複数のサーバー名のデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのサーバー名のデータを戻す場合は 0 を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のサーバー名リスト内の開始位置。サーバー名は、このファイル内での順序と同じ順序でリストされます。その他の *query_** コマンドと同様、名前の長さやアルファベット順にはリストされません。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

server_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

server_name パラメーターで指定したエントリーの直後の エントリーから開始します。

server_name

情報が必要なサーバー名、またはサーバー・リストの索引として使用する名前。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、サーバー名は無視されます。

コンピューター名に . (ピリオド) の文字が含まれている場合、CS/AIX は、これが完全修飾名であると想定します。含まれていない場合は、DNS ルックアップを実行してコンピューター名を判別します。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
security	constant	
domain_name	character	64
server_name	character	128

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

security

このパラメーターは予約済みです。

domain_name

CS/AIX ドメインを含む TCP/IP ドメインの名前。この名前は、コントローラー・サーバーをインストールするときに指定されています。

サーバーごとに、以下のパラメーターが含まれます。

server_name

ファイルにリストされたサーバーの名前。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc**RECORD_NOT_FOUND**

list_options パラメーターは LIST_INCLUSIVE または LIST_FROM_NEXT に設定されており、指定のサーバー名から始まるエントリーを表示します。ただし、*server_name* パラメーターは、ファイル内のエントリーと一致しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_statistics

query_statistics コマンドは、LS の使用状況についての統計を戻します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_statistics]			
name	character	8	
stats_type	constant		LS
table_type	constant		STATS
reset_stats	constant		NO
dlc_type	constant		SDLC

指定パラメーターは、以下のとおりです。

name

統計が必要な LS またはポートの名前。

stats_type

統計が必要なリソースのタイプ。このパラメーターは LS に設定します。

table_type

必要な統計情報のタイプ。このパラメーターは STATS に設定します。

reset_stats

コマンドの正常終了時に統計をリセットするかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

統計をリセットします。あとに続く query_statistics コマンドには、このコマンドの発行後に収集されたデータのみが入ります。

NO

統計をリセットしません。このコマンドのデータは、あとに続く query_statistics コマンドで戻されるデータに組み込まれます。

dlc_type

DLC のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

SDLC

同期データ・リンク制御

TR

トークンリング

ETHERNET

イーサネット

X25

X.25 パケット交換

戻りパラメーター

Parameter name	Length
ls_st_mus_sent	decimal
ls_st_mus_received	decimal
ls_st_bytes_sent	decimal
ls_st_bytes_received	decimal

コマンドが正常に実行されると、以下のパラメーターが戻されます。

ls_st_mus_sent

LS 開始以降、この LS に CS/AIX から送信されたフレームの数。

ls_st_mus_received

LS 開始以降、この LS に CS/AIX によって受信されたフレームの数。

ls_st_bytes_sent

LS 開始以降、この LS に CS/AIX から送信されたバイト数。

ls_st_bytes_received

LS 開始以降、この LS に CS/AIX によって受信されたバイト数。

ls_st_test_cmds_sent

LS 開始以降、この LS に CS/AIX によって送信された TEST コマンド数。

ls_st_test_cmds_rec

LS 開始以降、この LS に CS/AIX によって受信された TEST コマンド数。

ls_st_data_pkt_resent

LS 開始以降、この LS に CS/AIX によって再送されたシーケンス・データ・パケット数。

ls_st_inv_pkt_rec

LS 開始以降、この LS に CS/AIX によって受信された無効パケット数。

ls_st_adp_rec_err

LS 開始以降の、この LS での受信エラーの検出データ数。

ls_st_adp_send_err

LS 開始以降の、この LS での送信エラーの検出データ数。

ls_st_rec_inact_to

LS 開始以降、この LS で受信した非アクティブ・タイムアウト数。

ls_st_cmd_polls_sent

LS 開始以降、この LS に CS/AIX によって送信されたコマンド・ポーリング数。

ls_st_cmd_repolls_sent

LS 開始以降、この LS に CS/AIX によって送信されたコマンドの再ポーリング数。

ls_st_cmd_cont_repolls

LS 開始以降、この LS に CS/AIX によって送信された連続再ポーリングの最大数。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LINK_NAME

指定した *name* パラメーターは、有効な LS 名ではありません。

INVALID_STATS_TYPE

stats_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_TABLE_TYPE

table_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

LINK_DEACTIVATED

指定したリンクは現在活動状態ではありません。

PORT_DEACTIVATED

指定したポートは現在活動状態ではありません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

DLC タイプは、統計情報を戻す機能をサポートしていません。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

アクセス定義に一致する照会

アクセス定義に一致する照会 コマンドは、CS/AIX の TN サーバー機能を使用して TN3270 サーバーを使用する 3270 エミュレーション用のホストにアクセスできる TN3270 クライアントについて、アクセスの定義 `_tn3270_` コマンドで提供された情報を戻します。(TN リダイレクターを使用してホストにアクセスするユーザーに関する情報を戻すには、照会の照会を定義してもを使用します)。

アクセス定義に一致する照会 コマンドは、使用されるオプションに応じて、1 つのクライアントまたは複数のクライアントに関する要約情報または詳細情報を戻すことができます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_tn3270_access_def]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
default_record	constant		NO
client_address	character	256	(null string)
port_number	decimal		(none specified)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

クライアントの最大数(そのクライアントのデータが戻されます)。クライアント・セッションに関する詳細情報を戻す場合、この数には部分エントリーが含まれます(指定したクライアント・アドレスを持つエントリー。戻りデータには、クライアント定義またはクライアントの最初のセッションは含まれません)。特定のクライアントのデータを戻す場合は 1、複数のクライアントのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのクライアントのデータを戻す場合は 0 を指定します。

list_options

各クライアントに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合のクライアント・リスト内の開始位置。

必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のクライアントの最初のセッションから開始します。

LIST_INCLUSIVE

指定の *client_address* および *port_number* パラメーターで指定したセッションから開始するか、ポート番号を指定していない場合は指定したクライアント・アドレスの最初のセッションから開始します。

LIST_FROM_NEXT

client_address および *port_number* パラメーターで指定したセッションのすぐ後のセッションから開始するか、ポート番号を指定していない場合は指定したクライアント・アドレスの最初のセッションから開始します。

default_record

要求されたエントリー(またはリストの索引として使用するエントリー)がデフォルト・レコードであるかどうかを指定します。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。可能な値は次のいずれかです。

YES

要求されたエントリーはデフォルト・レコードです。TCP/IP アドレスによって明示的に識別されない TN3270 クライアントによって使用されるデフォルト・アクセス・レコードを照会するには、このパラメーターを使用します。 *client_address* パラメーターは指定しないでください。

NO

要求されたエントリーはデフォルト・レコードではありません。 *client_address* パラメーターで指定したクライアントのアクセス・レコードを照会するには、このパラメーターを使用します。

client_address

情報を必要としている TN3270 クライアントの TCP/IP アドレス、またはクライアント・リストの索引として使用する名前。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。このアドレスに指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

port_number

list_options が SUMMARY に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

list_options が DETAILED に設定されている場合、特定のセッション・エントリーで始まる情報、またはこのエントリーのすぐ後の情報を戻すには、 *client_address* パラメーターの値を指定し、このパラメーターを、そのセッションに対して定義された TCP/IP ポート番号に設定します。最初のセッション・エントリーで始まる情報を戻す場合は、 *client_address* パラメーターの値を指定し、このパラメーターの値は指定しないでください。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
default_record	constant	
client_address	character	256
address_format	constant	

コマンドが正常に実行され、 *list_options* パラメーター値が SUMMARY に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

default_record

このエントリーがデフォルト・レコードであるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

このエントリーはデフォルト・レコードです。 *client_address* パラメーターは使用しません。

NO

このエントリーは、指定したクライアント・アドレスの TN3270 レコードです。

client_address

TN3270 クライアントの TCP/IP アドレス。以下のいずれかの値を指定できます。*address_format* パラメーターには、これが IP アドレスか、または名前のいずれかを指示します。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

address_format

client_address パラメーターの形式を指定します。可能な値は次のいずれかです。

IP_ADDRESS

IP アドレス (IPv4 または IPv6 のいずれか)

FULLY_QUALIFIED_NAME

別名または完全修飾名。

list_options パラメーター値として SUMMARY を指定した場合は、TN3270 クライアントに関する要約情報のみが戻されます。これらのクライアントのセッションに関する情報は戻されません。セッションに関する情報を入手するには、*list_options* パラメーターを DETAIL に設定します。

戻りパラメーター: 詳細情報

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値として DETAIL を指定した場合、CS/AIX は、(エントリーが、YES に設定された *default_record* パラメーターによって識別されるデフォルト・レコードでない限り) *client_address* パラメーターによって識別されるクライアント・エントリーのシーケンスを戻します。各クライアント・エントリーのすぐ後には、そのクライアントのセッション・エントリーが続きます。各セッション・エントリーは、*port_number* パラメーターによって識別されます。

各 TN3270 クライアントに対して、以下のパラメーターが戻されます。

Parameter name	Type	Length
default_record	constant	
client_address	character	256
description	character	31
address_format	constant	
num_sessions	decimal	

TN3270 クライアントの各セッションに対して、以下のパラメーターが戻されます。

description	character	31		
port_number	decimal			
lu_name	character	8		
printer_lu_name	character	8	tn3270_support	constant
allow_specific_lu	constant			
ssl_enabled	constant			
security_level	constant			
cert_key_label	character	80		
allow_ssl_timeout_to_nonssl	constant			

各クライアント・エントリーに対して、以下のパラメーターが戻されます。

default_record

このエントリーがデフォルト・レコードであるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

このエントリーはデフォルト・レコードです。*client_address* パラメーターは使用しません。

NO

このエントリーは、指定したクライアントの TN3270 レコードです。

client_address

TN3270 クライアントの TCP/IP アドレス。以下のいずれかの値を指定できます。*address_format* パラメーターには、これが IP アドレスか、または名前のいずれかを指示します。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

description

クライアントについて説明するオプションのストリング。

address_format

client_address パラメーターの形式を指定します。可能な値は次のいずれかです。

IP_ADDRESS

IP アドレス (IPv4 または IPv6 のいずれか)

FULLY_QUALIFIED_NAME

別名または完全修飾名。

num_sessions

クライアントのサブレコード (セッション・エントリー) の数を示します。

(エントリーがデフォルト・レコードでない限り) 所定のクライアント・エントリーの各セッション・エントリーに対して追加パラメーターが戻されます。指定したクライアント (その TCP/IP アドレスで定義) に対して定義されたセッションごとに、以下のパラメーターが戻されます。

description

セッションについて説明するオプションのストリング。

port_number

TN3270 エミュレーターが TN サーバー・ノードにアクセスするために使用する TCP/IP ポートの番号。

lu_name

このセッションが使用するディスプレイ LU またはディスプレイ LU プールの数。

printer_lu_name

このセッションが、汎用プリンター LU を要求する接続に対して使用するプリンター LU または LU プールの名前。

tn3270_support

TN3270 のサポート・レベルを指定します。可能な値は次のいずれかです。

TN3270

TN3270E プロトコルを使用不可に指定します。

TN3270E

TN3270E プロトコルを使用可能に指定します。

TN3270 および TN3287 プロトコルは常に使用可能です。

allow_specific_lu

特定の LU へのアクセスが許可されているかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

YES

特定の LU へのアクセスを許可します。クライアントは、特定の LU または LU プールへのアクセスを要求することを許可されます。クライアントは、NT サーバーによって選択される LU または LU プールを使用する必要はありません。

NO

特定の LU へのアクセスを許可しません。

ssl_enabled

このセッションが Secure Sockets Layer (SSL) を使用してサーバーにアクセスするかどうかを示します。

SSL サポートは、サーバー上で SSL をサポートするために必要な追加のソフトウェアをインストールしている場合のみ使用可能です。このことは、*query_node_limits* コマンドを使用し、*ssl_support* パラメーターの値を確認して検査します。

可能な値は次のいずれかです。

NO

このセッションは SSL を使用しません。

YES

このセッションは SSL を使用します。

YES_WITH_CLI_AUTH

このセッションは SSL を使用します。TN Server でクライアント認証を行うためには SSL が必要です。クライアントは、有効な証明書 (このクライアントを TN Server の使用許可を持つ有効なクライアントとして識別する情報) を送信する必要があります。

security_level

このセッションに必要な SSL セキュリティー・レベルを示します。セッションでは、クライアントおよびサーバーでサポートされている最もレベルの高いセキュリティが使用されます。クライアントに必要なセキュリティ・レベルがサポートされていない場合、セッションは開始されません。

`ssl_enabled` パラメーターが NO に設定されている場合、このパラメーターは使用しません。

可能な値は次のいずれかです。

SSL_AUTHENTICATE_MIN

証明書を交換する必要があります。暗号化は必要ありません (ただし、クライアントが要求する場合に暗号化を使用することはできます)。

SSL_AUTHENTICATE_ONLY

証明書を交換する必要がありますが、暗号化は使用しません。このオプションは、通常、クライアントがセキュア・イントラネットに接続している場合に、暗号化のオーバーヘッドを回避するために使用します。

SSL_40_BIT_MIN

40 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_56_BIT_MIN

56 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_128_BIT_MIN

128 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_168_BIT_MIN

168 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_256_BIT_MIN

最低 256 ビットの暗号化を使用します。

注:

暗号化を使用する場合は、CS/AIX に追加のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門*」を参照してください。暗号化レベルをサポートするために必要なソフトウェアが利用できない国があるため、場所によっては、リストされている暗号化レベルをすべて使用できないことがあります。

cert_key_label

このセッションで SSL とともに使用する証明書および鍵ペアを識別するラベル。これは、SSL 鍵リング・データベースのセットアップ時に指定したラベルと一致していなければなりません。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門*」を参照してください。

このパラメーターが表示されていない場合は、セッションが、SSL 鍵リング・データベースのセットアップ時に指定したデフォルトの SSL 証明書と鍵ペアを使用することを示します。

allow_ssl_timeout_to_nonssl

このパラメーターは `ssl_enabled` が NO に設定されている場合は適用されません。非 SSL TN3270 クライアントは、SSL を使用するように構成されていても、このセッション・レコードを使用してサーバーにアクセスできます。可能な値は次のいずれかです。

YES

SSL を使用しない TN3270 クライアントはサーバーにアクセスできます。SSL ネゴシエーションの開始を待ってサーバーの起動を 5 秒間遅らせることができます。この 5 秒が経過すると、サーバーはクライアントが SSL を使用しないと想定し、通常の TN3270 通信に戻ります。

NO

SSL を使用する TN3270 クライアントのみ、サーバーにアクセスできます。

注:

このオプションは移行目的として提供されます。非常に多くのクライアントが同じポートを使用していて、そのクライアントを非 SSL から SSL 構成に移行する場合は、移行の進行中に同じポートで SSL と非 SSL 接続の両方を受け入れるように構成をセットアップできます。

非 SSL クライアントに SSL リソースを使用できるようにすると、機密漏れを起こす可能性があります。したがって、このオプションは長期に使用するためのものではありません。このパラメーターは移行を行っている短期間だけ YES に設定し、移行が完了したら NO に設定してください。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_CLIENT_ADDRESS

list_options パラメーターを LIST_INCLUSIVE に設定しましたが、*client_address* パラメーターは、定義されているどの TN3270 クライアントのアドレスとも一致しません。

INVALID_PORT_NUMBER

list_options パラメーターを LIST_INCLUSIVE に設定しましたが、*port_number* パラメーターは、指定した TN3270 クライアントに定義されているポート番号と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

関連付けの照会

関連付けの照会 コマンドは、非 323270_関連付けの数で定義されているように、ディスプレイ LU とプリンター LU の間の関連に関する情報を戻します。アソシエーションは、ディスプレイ LU 名によって照会され、ディスプレイ LU 名の順序で戻されます。このコマンドは、使用されるオプションに応じて、特定の関連または複数の関連に関する情報を取得するために使用できます。

指定パラメーター

Parameter	Type	Length	Default
[query_tn3270_association]			

num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
display_lu_name	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

関連付けの最大数 (その関連のデータが戻されます)。特定の関連付けのデータを戻す場合は 1、複数の関連付けのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべての関連付けのデータを戻す場合は 0 を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のアソシエーション・リスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

display_lu_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

display_lu_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

display_lu_name

関連付け情報を必要とするディスプレイ LU の名前、または関連付けリストの索引として使用する名前。ディスプレイ LU 名は 8 バイトの文字ストリングです。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター

Parameter	Type	Length
display_lu_name	character	8
printer_lu_name	character	8
description	character	31

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

display_lu_name

printer_lu_name パラメーターで指定したプリンター LU に関連したディスプレイ LU の名前。

printer_lu_name

display_lu_name パラメーターで指定したディスプレイ LU に関連したプリンター LU の名前。

description

関連について説明するオプションのテキスト・ストリング。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_LU_NAME

list_options パラメーターを LIST_INCLUSIVE に設定しましたが、*display_lu_name* パラメーターで指定したディスプレイ LU は、既存の関連付けと一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

デフォルトでは tn3270__

デフォルトでは tn3270__ コマンドは、デフォルトでの define_tn3270__ で定義されているすべてのクライアント・セッションで使用される TN3270 パラメーターに関する情報を戻します

Secure Sockets Layer (SSL) クライアント認証を使用しており、外部 LDAP サーバー上の証明書失効リストに対してクライアントを検査する場合は、LDAP の照会に使用された LDAP の数 コマンドは、このサーバーへのアクセス方法の詳細を戻します。を使用します。

指定パラメーター

```
[query_tn3270_defaults]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter	Type	Length
force_responses	constant	
keepalive_method	constant	
keepalive_interval	decimal	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

force_responses

プリンター・セッションでのクライアント応答を制御します。可能な値は次のいずれかです。

YES

確定応答を要求します。

NO

SNA トラフィックにマッチングする 応答を要求します。

keepalive_method

キープアライブ・メッセージを送信するメソッド。キープアライブ・メッセージとは、接続に他のアクティビティーがない場合に、TN3270 クライアントへの TCP/IP 接続を活動状態のままにするために、このクライアントに対して送信されるメッセージのことです。これにより、失敗した接続およびクライアントを検出することができます。TCP/IP 接続にトラフィックがない場合は、接続やクライアントの失敗は検出されないため、TN サーバーのリソースが浪費され、LU が他のセッションで使用されなくなります。

可能な値は次のいずれかです。

NONE

キープアライブ・メッセージを送信しません。

NOP

Telnet NOP メッセージを送信します。

TM

Telnet DO TIMING-MARK メッセージを送信します。

keepalive_interval

連続するキープアライブ・メッセージ間のインターバル (秒)。特に、通常アイドル・クライアント接続が多くある場合、このインターバルには、ネットワーク・トラフィックを最小化するための十分な長さを指定する必要があります。キープアライブ・インターバルが短いほど、障害は素早く検出されますが、より多くのネットワーク・トラフィックが生成されます。キープアライブ・インターバルが非常に短く、クライアントの数が多い場合、このトラフィック量が膨大になる可能性があります。

TCP/IP の作動上の理由から、構成したキープアライブ間隔は、サーバーがクライアントの消失を認識する際の正確な所要時間にはなりません。構成した間隔は、クライアントがタイムアウトになる最短時間です。最長時間は、ほぼ、構成したタイムアウトを 2 倍して数分足した時間になります (正確な時間は、TCP/IP の構成方法によって異なります)。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_tn3270_express_logon

query_tn3270_express_logon コマンドは、TN3270 高速ログオン機能に関する情報を戻します。この機能により、Secure Sockets Layer (SSL) クライアント認証機能を使用して CS/AIX TN サーバーまたは TN リダイレクターに接続する TN3270 クライアント・ユーザーは、TN3270 セキュリティーに対して通常使用するユーザー ID およびパスワードを指定する必要はありません。その代わりに、このユーザーのセキュリティ証明書が、必要なユーザー ID およびパスワードを提供する、ホストの Digital Certificate Access Server (DCAS) に対して検査されます。

指定パラメーター

```
[query_tn3270_express_logon]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter	Type	Length
dcas_server	character	255
dcas_port	decimal	
enabled	constant	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

dcas_server

高速ログオン許可を処理するホスト DCAS サーバーの TCP/IP アドレス。指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)

- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

dcas_port

DCAS サーバーへのアクセスに使用される TCP/IP ポート番号。

enabled

TN3270 高速ログオン機能を使用可能にするかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

この機能を使用可能にします。TN3270 クライアントは、ホストにアクセスする場合にユーザー ID およびパスワードを指定する必要がありません。

NO

この機能を使用不可にします。TN3270 クライアントは、ユーザー ID およびパスワードを指定する必要があります。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

照会の照会に使用する

照会の照会に使用する コマンドは、CS/AIX TN サーバーがサービス・ロケーション・プロトコル (SLP) サポートを提供するかどうか、および TN サーバーが TN3270 クライアントが使用するサービスをアダプタイズする方法についての情報を戻します。この情報は、デフォルト値の 3270_slp コマンドを使用して指定しました。

指定パラメーター

```
[query_tn3270_slp]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter	Type	Length
enable_load_balancing	constant	
current_load	decimal	
load_advertisement_freq	decimal	
load_change_threshold	decimal	
load_factor	decimal	
slp_scope	character	

(slp_scope エントリーは、10 個まで含めることができます。)

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

enable_load_balancing

TN サーバーが SLP サポートを提供するかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

TN サーバーは SLP サポートを提供します。

NO

TN サーバーは SLP サポートを提供しません。この verb に対するその他のパラメーターは一切使用されません。

current_load

この TN サーバーが現在公示している負荷。

load_advertisement_freq

TN サーバー上の負荷が著しく変化したか、再公示の必要があるかを判断するために、CS/AIX がその負荷を再計算する時間間隔 (秒) を指定します。

load_change_threshold

著しいと見なされ、現行負荷の再公示が必要になる負荷の変化を指定します。CS/AIX は、TN サーバー上の負荷の再計算時に、現行負荷が公示負荷と比べてこの値を超えて異なるか (大きい、または小さい) を検査し、その差が著しい場合にのみ、新しい負荷を公示します。例えば、最後に公示された負荷の値が 30 % である場合、値 10 を指定すると、現行負荷が 40 % を超えるか、20 % を下回った場合にのみ、CS/AIX は負荷を再公示します。

load_factor

異なるキャパシティの TN サーバー間でのバランスを向上させるために、CS/AIX が公示負荷に適用するパーセンテージ・ファクターを指定します。例えば、ある TN サーバーがもう 1 つの TN サーバーより高速で使用可能メモリーが多いコンピューターで稼働している場合、両者の負荷が (使用中ホスト LU のパーセンテージにおいて) 同じであれば、クライアントに前者の TN サーバーを選択してほしいと考えます。この場合、load_factor を前者の TN サーバーには小さく、後者の TN サーバーには大きく指定します。これにより、実際のパーセンテージ負荷が同じであっても、後者の TN サーバーの公示負荷のほうが大きくなります。

ロード係数は、-100 から 100 の範囲のパーセントです。この値に 100 を加え、その結果に実際のパーセンテージ負荷を掛けて、公示負荷は算出されます。例えば、-80 を指定すると、公示負荷は、実際の負荷に (-80 + 100)、つまり 20 % を掛けたものになります。50 を指定すると、公示負荷は、実際の負荷に (50 + 100)、つまり 150 % を掛けたものになります。

slp_scope

多くの TN サーバーと TN3270 クライアントがある大規模な SLP ネットワークでは、各クライアントがアクセス可能な TN サーバーの範囲を制限する必要がある場合があります。これを行うために、ネットワークの論理セグメントを特定する多くの有効範囲を定義できます。クライアントとディレクトリー・エージェントはそれぞれ、特定の有効範囲に割り当てられます。TN サーバーは、正しい有効範囲のクライアントとディレクトリー・エージェントにのみ、そのサービスを公示します。

slp_scope パラメーターが戻されない場合は、TN サーバーのサービスは任意の TN3270 クライアント、あるいはディレクトリー・エージェントに公示されます。

戻される slp_scope パラメーターはすべて、その TN サーバーがサービスを提供する有効範囲名を指定します。TN サーバーにアクセス権限を持つことになるすべてのクライアントとディレクトリー・エージェントには、その TN サーバーに対して定義された有効範囲名と一致する有効範囲名が定義されていなければなりません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_tn3270_slp_trace

query_tn3270_slp_trace コマンドは、CS/AIX TN3270 Service Location Protocol 機能の現行トレース・オプションに関する情報を戻します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

```
[query_tn3270_slp_trace]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type
trace_flags	constant

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

trace_flags

現在活動状態であるトレースのタイプ。

アクティブのトレースがない場合、あるいは、すべてのタイプのトレースがアクティブの場合は、これは、以下の値のいずれかになります。

NONE

トレースなし。

ALL

すべてのタイプのトレース。

特定のインターフェースでトレースが使用されている場合、このパラメーターには以下のリストの 1 つ以上の値が設定されます。

CFG

構成メッセージ・トレース: TN3270 SLP の構成に関するメッセージ

NOF

内部ノード・オペレーター機能 (NOF) のトレース: TN3270 SLP による NOF 要求をトレースします。

TCP

TCP/IP インターフェースのトレース: TN3270 SLP と TN3270 クライアントの間のメッセージ

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

LDAP の照会に使用された LDAP の数

LDAP の照会に使用された LDAP の数 コマンドは、Secure Sockets Layer (SSL) クライアント 認証機能で使用するための証明書取り消しリストへのアクセス方法に関する情報を戻します。この情報は、define_tn3270_ssl_ldap コマンドを使用して指定しました。

指定パラメーター

```
[query_tn3270_ssl_ldap]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter	Type	Length
auth_type	constant	
ldap_addr	character	255
ldap_port	decimal	
ldap_user	character	1024
ldap_password	character	128

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

auth_type

TN Server または TN Redirector で実行される許可検査のタイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

LOCAL_ONLY

サーバーは、クライアント証明書をローカルで検査しますが、外部の証明書取り消しリストは使用しません。パラメーター *ldap_addr - ldap_password* は使用しません。

LOCAL_X500

サーバーは、証明書をローカルで検査し、外部の証明書取り消しリストにも照らして検査します。その他の戻りパラメーターは、このリストの位置を指定します。

ldap_addr

証明書取り消しリストが保持されている LDAP サーバーの TCP/IP アドレス。指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

ldap_port

LDAP サーバーへのアクセスに使用される TCP/IP ポート番号。範囲は 0 から 65535 です。

ldap_user

LDAP サーバーの証明書取り消しリストにアクセスする場合に使用されるユーザー名。

ldap_password

LDAP サーバーの証明書取り消しリストにアクセスする場合に使用されるパスワード。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

照会の照会を定義しても

照会の照会を定義しても コマンドは、CS/AIX の TN リダイレクター機能を使用してホストにアクセスできる Telnet クライアントについて、define_tn_リダイレクト コマンドで提供された情報を戻します。このコマンドは、使用されるオプションに応じて、単一のクライアントまたは複数のクライアントに関する要約情報または詳細情報を戻すことができます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_tn_redirect_def]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
default_record	constant		NO
client_address	character	256	(null string)
client_port	decimal		(none specified)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

クライアントの最大数 (そのクライアントのデータが戻されます)。特定のクライアントのデータを戻す場合は 1、複数のクライアントのデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値、すべてのクライアントのデータを戻す場合は 0 を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のクライアント・リスト内の開始位置。値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のクライアントから開始します。

LIST_INCLUSIVE

提供された *client_address* および *port_number* パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

client_address パラメーターと *port_number* パラメーターで指定されたエントリーの直後のエントリーから開始します。

default_record

要求されたエントリー (またはリストの索引として使用する エントリー) がデフォルト・レコードであるかどうかを指定します。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。可能な値は次のいずれかです。

YES

要求されたエントリーはデフォルト・レコードです。TN Redirector アクセス・レコードによって明示的に識別されない Telnet クライアント によって使用されるデフォルト・アクセス・レコードを照会するには、このオプションを使用します。 *client_address* パラメーターは指定しないでください。

NO

要求されたエントリーはデフォルト・レコードではありません。 *client_address* パラメーターで指定したクライアントのアクセス・レコードを照会するには、このオプションを使用します。

client_address

情報が必要な Telnet クライアントの TCP/IP アドレス、またはクライアント・リストの索引として使用するクライアント。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。指定できるアドレスは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

client_port

クライアントが使用する TCP/IP ポート番号。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

Parameter name	Type	Length
default_record	constant	
client_address	character	256
client_port	decimal	
cli_ssl_enabled	constant	
cli_conn_security_level	constant	
cli_conn_cert_key_label	character	80
host_address	character	255
host_port	decimal	
host_ssl_enabled	constant	
serv_conn_security_level	constant	
serv_conn_cert_key_label	character	80
description	character	31

各クライアント・エントリーに対して、以下のパラメーターが戻されます。

default_record

このエントリーがデフォルト・レコードであるかどうかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

このエントリーはデフォルト・レコードです。 *client_address* パラメーターは使用しません。

NO

このエントリーは、指定したクライアントの TN Redirector レコードです。

client_address

Telnet クライアントの TCP/IP アドレス。指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)

- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

client_port

Telnet クライアントが TN サーバー・ノードにアクセスするために使用する TCP/IP ポートの数。

cli_ssl_enabled

クライアントが、TN Redirector へのアクセスにセキュア・ソケット層 (SSL) を使用するかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

NO

クライアントは SSL を使用しません。

YES

クライアントは SSL を使用します。

YES_WITH_CLI_AUTH

クライアントは SSL を使用します。TN Redirector がクライアント認証を行うには、SSL が必要です。クライアントは、有効な証明書 (そのクライアントが、TN Redirector の使用を許可された有効なクライアントであることを示す情報) を送信する必要があります。

TN Redirector は、証明書が有効であるかどうかを検査すると同時に、そのユーザーの権限が取り消されないように、外部 LDAP サーバーの証明書取り消しリストに照らしてその証明書を検査する必要があります。この場合は、define_tn3270_ssl_ldap を使用して、このサーバーへのアクセス方法を指定する必要があります。

cli_conn_security_level

このセッションのクライアント接続に必要な SSL セキュリティ・レベルを示します。セッションでは、クライアントおよびサーバーでサポートされている最もレベルの高いセキュリティが使用されます。クライアントで必要なセキュリティ・レベルがサポートされていない場合、セッションは開始されません。

cli_ssl_enabled パラメーターが NO に設定されている場合、このパラメーターは使用しません。

可能な値は次のいずれかです。

SSL_AUTHENTICATE_MIN

証明書を交換する必要があります。暗号化は必要ありません (ただし、クライアントが要求する場合に暗号化を使用することはできます)。

SSL_AUTHENTICATE_ONLY

証明書を交換する必要がありますが、暗号化は使用しません。このオプションは、通常、クライアントがセキュア・イントラネットに接続している場合に、暗号化のオーバーヘッドを回避するために使用します。

SSL_40_BIT_MIN

40 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_56_BIT_MIN

56 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_128_BIT_MIN

128 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_168_BIT_MIN

168 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_256_BIT_MIN

最低 256 ビットの暗号化を使用します。

注:

暗号化を使用する場合は、CS/AIX に追加のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門」を参照してください。暗号化レベルをサポートするために必要なソフトウェアが利用できない国があるため、場所によっては、リストされている暗号化レベルをすべて使用できないことがあります。

cli_conn_cert_key_label

クライアント・セッションで SSL とともに使用する証明書および鍵ペアを識別するラベル。これは、SSL 鍵リング・データベースのセットアップ時に指定したラベルと一致していなければなりません。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門*」を参照してください。

cli_ssl_enabled パラメーターが NO に設定されている場合、このパラメーターは使用しません。

このパラメーターが指定されていない場合は、セッションが、SSL 鍵リング・データベースのセットアップ時に指定したデフォルトの SSL 証明書と鍵ペアを使用することを示します。

host_address

クライアントと通信するホスト・コンピューターの TCP/IP アドレス。指定できるのは、以下のいずれかです。

- IPv4 ドット 10 進アドレス (例えば、193.1.11.100)
- IPv6 コロン 16 進アドレス (例えば、2001:0db8:0000:0000:0000:0000:1428:57ab または 2001:db8::1428:57ab)
- 名前 (例えば、newbox.this.co.uk)
- 別名 (例えば、newbox)

host_port

TN Redirector ノードがホストにアクセスするために使用する TCP/IP ポート番号。

host_ssl_enabled

TN Redirector が、このクライアントのためにホストにアクセスする際、セキュア・ソケット層 (SSL) を使用するかどうかを示します。可能な値は次のいずれかです。

NO

ホストは SSL を使用しません。

YES

ホストは SSL を使用します。

serv_conn_security_level

このセッションのホスト接続に必要な SSL セキュリティー・レベルを示します。セッションには、ホストとサーバーの両方でサポートできるセキュリティー・レベルの中で最高レベルのものを使用します。ホストが必須レベル以上のセキュリティーをサポートできない場合、セッションは開始されません。

host_ssl_enabled パラメーターが NO に設定されている場合、このパラメーターは使用しません。

可能な値は次のいずれかです。

SSL_AUTHENTICATE_MIN

証明書を交換する必要があります。暗号化は必要ありません (ただし、ホストが要求する場合に暗号化を使用することはできます)。

SSL_AUTHENTICATE_ONLY

証明書を交換する必要がありますが、暗号化は使用しません。このオプションは、通常、ホストがセキュア・イントラネットに接続している場合に、暗号化のオーバーヘッドを回避するために使用します。

SSL_40_BIT_MIN

40 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_56_BIT_MIN

56 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_128_BIT_MIN

128 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_168_BIT_MIN

168 ビット以上の暗号化を使用します。

SSL_256_BIT_MIN

最低 256 ビットの暗号化を使用します。

注:

暗号化を使用する場合は、CS/AIX に追加のソフトウェアをインストールする必要があります。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門*」を参照してください。暗号化レベルをサポートするために必要なソフトウェアが利用できない国があるため、場所によっては、リストされている暗号化レベルをすべて使用できないことがあります。

serv_conn_cert_key_label

ホスト・セッションで SSL とともに使用する証明書および鍵ペアを識別するラベル。これは、SSL 鍵リング・データベースのセットアップ時に指定したラベルと一致していなければなりません。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 入門*」を参照してください。

`host_ssl_enabled` パラメーターが NO に設定されている場合、このパラメーターは使用しません。

このパラメーターが指定されていない場合は、セッションが、SSL 鍵リング・データベースのセットアップ時に指定したデフォルトの SSL 証明書と鍵ペアを使用することを示します。

description

クライアントについて説明するオプションのストリング。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_CLIENT_ADDRESS

`list_options` パラメーターを LIST_INCLUSIVE に設定しましたが、指定したアドレス情報は、定義されているどの Telnet クライアントのアドレスとも一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_tn_server_trace

`query_tn_server_trace` コマンドは、CS/AIX TN サーバー機能の現行トレース・オプションに関する情報を戻します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

```
[query_tn_server_trace]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type
trace_flags	constant

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

trace_flags

現在活動状態であるトレースのタイプ。

活動状態のトレースがないか、またはすべてのタイプのメッセージに対してトレースが活動状態の場合は、以下のいずれかの値が戻されます。

NONE

活動状態のトレースはありません。

ALL

すべてのタイプのメッセージのトレースが活動状態です。

トレースが特定のメッセージ・タイプで使用される場合、CS/AIX は、(+ 文字を使用して結合された) 以下の 1 つ以上の値を戻します。

TCP

TN サーバーと TN3270 クライアントの間のメッセージがトレースされます。

FMAPI

内部制御メッセージ、および TN サーバーと TN3270 クライアントの間のメッセージ (内部形式) がトレースされます。

CFG

TN サーバーの構成に関するメッセージがトレースされます。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#) にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#) に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

照会 (tp)

照会 (tp) コマンドは、ローカル LU によって現在使用されているトランザクション・プログラム (TP) に関する情報を戻します。これは、使用されるオプションに応じて、特定の TP に関する情報、または複数の TP に関する情報を取得するために使用できます。このコマンドは、TP の定義についてではなく、TP の現在の使用状況に関する情報を戻します。query_tp_definition を使用して TP の定義を取得します。

このコマンドは実行中のノードに対して発行する必要があります

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_tp]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
tp_name	character	64	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す TP の最大数。特定の TP に関するデータを戻す場合は 1 を、複数の TP に関するデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値を、すべての TP に関するデータを戻す場合は 0 を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合の TP のリスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

lu_name パラメーター、lu_alias パラメーター、および tp_name パラメーターの組み合わせで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

lu_name パラメーター、lu_alias パラメーター、および tp_name パラメーターの組み合わせで指定したエントリーのすぐ後のエントリーから開始します。

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU 名ではなく LU 別名によって LU が識別されていることを示す場合は、このパラメーターを指定しないでください。ローカル CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU を指定する場合は、lu_name または lu_alias のいずれも指定しないでください。

lu_alias

ローカルで定義された LU 別名。このパラメーターは、lu_name を指定しない場合にのみ使用します。ローカル CP (デフォルト LU) に関連付けられている LU を指定する場合は、lu_name または lu_alias のいずれも指定しないでください。

tp_name

情報が必要な TP の名前。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
tp_name	character	64
description	character	31
instance_limit	decimal	
instance_count	decimal	
locally_started_count	decimal	
remotely_started_count	decimal	

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

tp_name

TP 名。

description

TP の定義に指定された、TP を説明するテキスト・ストリング。

instance_limit

指定した TP の同時に活動状態であるインスタンスの最大数。

instance_count

指定した TP の現在活動状態であるインスタンスの数。

locally_started_count

指定した TP の、ローカルで (TP で TP_STARTED verb を発行して) 開始されたインスタンスの数。

remotely_started_count

指定した TP の、リモートで (Attach 要求を受信して) 開始されたインスタンスの数。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーター値が無効です。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーター値が無効です。

INVALID_TP_NAME

指定された名前ではまるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*tp_name* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_tp_definition

query_tp_definition コマンドは、CS/AIX システムで定義されているトランザクション・プログラム (TP) に関する情報を戻します。これは、使用されるオプションに応じて、特定の TP に関する情報、または複数の TP に関する情報を取得するために使用できます。このコマンドは、現在の使用法ではなく、TP の定義に関する情報を戻します。使用法の情報を取得するには照会 (tp) を使用します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_tp_definition]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		SUMMARY + LIST_INCLUSIVE
tp_name	character	64	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データを戻す TP の最大数。特定の TP に関するデータを戻す場合は 1 を、複数の TP に関するデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値を、すべての TP に関するデータを戻す場合は 0 を指定します。

list_options

各エントリーに必要な情報のレベル、および CS/AIX がデータを戻す場合の TP リスト内の開始位置。必要な情報レベルは、次のいずれかの値で指定します。

SUMMARY

要約情報のみ。

DETAIL

詳細情報。

+ 文字を使用して、この値と以下の値のいずれかを結合します。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

tp_name パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

tp_name パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

tp_name

情報が必要とされている TP の名前、または TP リストの索引として使用される名前。*list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。

戻りパラメーター: 要約情報

Parameter name	Type	Length
<i>tp_name</i>	character	64
<i>description</i>	character	31

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が SUMMARY に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

tp_name

TP 名。

description

TP の定義に指定された、TP を説明するテキスト・ストリング。

戻りパラメーター: 詳細情報

Parameter name	Type	Length
<i>tp_name</i>	character	64
<i>description</i>	character	31
<i>list_name</i>	character	14
<i>conv_type</i>	constant	
<i>security_rqd</i>	constant	
<i>sync_level</i>	constant	
<i>enabled</i>	constant	
<i>pip_allowed</i>	constant	
<i>tp_instance_limit</i>	decimal	
<i>incoming_alloc_timeout</i>	decimal	

コマンドが正常に実行され、*list_options* パラメーター値が DETAIL に設定されていた場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

tp_name

TP 名。

description

TP の定義に指定された、TP を説明するテキスト・ストリング。

list_name から incoming_alloc_timeout

これらのパラメーターについて詳しくは、[181 ページの『define_tp』](#)を参照してください。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_TP_NAME

指定された名前以て始まるすべてのエントリーをリストするように *list_options* パラメーターが LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*tp_name* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

[531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』](#)に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_tp_load_info

query_tp_load_info コマンドは、TP ロード情報エントリーに関する情報を戻します。 .

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_tp_load_info]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
tp_name	character	64	(null string)
lualias	character	8	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻される追加のデータ制御ブロックの最大数。特定のデータ制御ブロックに関するデータを戻す場合は 1 を、複数のデータ制御ブロックに関するデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値を、提供されたデータ・バッファーに格納可能な最大数のデータ制御ブロックに関するデータを戻す場合は 0 (ゼロ) を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のリスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

tp_name パラメーターと *lualias* パラメーター を組み合わせて指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

tp_name パラメーターと *lualias* パラメーター を組み合わせて指定したエントリーの直後のエントリー から開始します。

tp_name

照会する TP の名前。この名前は、64 バイトのストリングです。 *list_options* が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、この値は無視されます。 *tp_name* が指定されていない場合、このコマンドはすべての TP に関する情報を戻します。

lualias

照会する LU 別名。この別名は、8 バイトのストリングです。 *lualias* が指定されていない場合、このコマンドはすべての LU に関する情報を戻します。

このパラメーターは、TP が APPC アプリケーションである場合にのみ使用できます。 TP が CPI-C アプリケーションである場合は指定しないでください。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
<i>tp_name</i>	character	64
<i>lualias</i>	character	8
<i>description</i>	character	31
<i>path</i>	character	255
<i>arguments</i>	character	255
<i>type</i>	constant	
<i>timeout</i>	decimal	
<i>userid</i>	character	64
<i>group</i>	character	64
<i>stdin</i>	character	255
<i>stdout</i>	character	255
<i>stderr</i>	character	255
<i>env</i>	character	255

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

tp_name

TP ロード情報エントリーの TP 名。

lualias

TP ロード情報エントリーの LU 別名。

このパラメーターを使用するのは、TP が APPC アプリケーションである場合のみです。 TP が CPI-C アプリケーションの場合は使用しません。

description

TP ロード情報について説明するオプションのテキスト・ストリング。

path

TP 実行可能ファイルの絶対パス名。

arguments

TP が必要とするコマンド行引数。これらの引数は、スペースで区切ります。

type

TP タイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

QUEUED

TP は、待機 TP です。

QUEUED-BROADCAST

TP は、ブロードキャスト待機 TP です。

NON-QUEUED

TP は、非待機 TP です。

タイムアウト

TP がロードされた後のタイムアウト (秒)。値 -1 は、タイムアウトが無限であることを示します。

userid

TP にアクセスし、実行するために必要なユーザー ID。

group

TP にアクセスし、実行するために必要なグループ ID。

stdin

標準入力ファイルまたはデバイスの絶対パス名。

stdout

標準出力ファイルまたはデバイスの絶対パス名。

stderr

標準エラー・ファイルまたはデバイスの絶対パス名。

env

TP が必要とする形式 `VARIABLE = VALUE` の環境変数。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_TP_NAME

指定した `tp_name` パラメーターが、定義済みの TP の名前と一致しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_trace_file

`query_trace_file` コマンドは、CS/AIX がトレース・データの記録に使用するファイルに関する情報を戻します。

このコマンドは、実行中ノード、あるいは (クライアント/サーバー・トレース・ファイルの場合のみ) AIX または Linux 上の Remote API Client に対して発行できます。クライアント・コンピューターにコマンドを実行するには、クライアント・コンピューター上でノード名を指定せずに `snaadmin` プログラムを使用します。

Windows クライアントでは、トレースは Windows レジストリー内のオプションにより制御されます。詳しくは、「[IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド](#)」を参照してください。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_trace_file] trace_file_type	constant		IPS

提供されるパラメーター:

trace_file_type

情報が必要なトレース・ファイルのタイプ。可能な値は次のとおりです

CS

ファイルには、指定されたコンピューターと他のノードとの間で、CS/AIX ドメイン間で転送されたデータへのトレース このトレース・タイプはセット `cs_trace` コマンドによってアクティブにされます

TN_SERVER

ファイルに CS/AIX TN サーバー・コンポーネントのトレースが含まれています。

TN3270_SLP

ファイルに CS/AIX TN3270 サービス・ロケーション・プロトコル・コンポーネントのトレースが含まれています

イップス

ファイルには、指定されたノードのカーネル・コンポーネントに対するトレースがこのタイプのトレースはセット・トレース・タイプまたは `add_dlc_trace` コマンド。によって活動化されます

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
trace_file_type	constant	
dual_files	constant	
trace_file_size	decimal	
file_name	character	80
file_name_2	character	80

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は次のパラメーターを戻します。

trace_file_type

情報が必要なトレース・ファイルのタイプ (`query_trace_file` コマンド)。で提供されるもの)。

dual_files

トレースで 1 つのファイルを使用するか、2 つのファイルに可能な値は次のとおりです

そうだ

トレースでは 2 つのファイルを使用 最初のファイルが `trace_file_size` によって指定されたサイズに達すると、2 番目のファイルがクリアされ、トレースは 2 番目のファイルに続きます。この 2 番目のファイルが `trace_file_size` によって指定されたサイズに達すると、最初のファイルがクリアされ、トレースは最初のファイルに続きます。これにより、過度のディスク・スペースを使用せずに長期間にわたってトレースを継続できるようになります。必要な最大スペースは、`trace_file_size` の値の約 2 倍です。

違う。

トレースは 1 ファイルを使用します。

trace_file_size

トレース・ファイルの最大サイズ。 `dual_files` が そうだに設定されている場合、現行ファイルがこのサイズに達すると、2 つのファイル間でトレースが切り替わります。 `dual_files` が 違う。に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。ファイル・サイズは制限されません。

ファイル名

トレース・ファイルの名前、または `dual_files` が そうだに設定されている場合は、最初のトレース・ファイルの名前。

パスが含まれていない場合、ファイルは診断ファイル /var/sna のデフォルト・ディレクトリーに保管されます。パスが含まれている場合、このパスは、詳細パス (/ 文字で始まる) またはデフォルト・ディレクトリーを基準としたパスのいずれかになります。

ファイル名 2

2 番目のトレース・ファイルの名前。このパラメーターは、`dual_files` が そうだに設定されている場合のみ使用します。

パスが含まれていない場合、ファイルは診断ファイル /var/sna のデフォルト・ディレクトリーに保管されます。パスが含まれている場合、このパスは、詳細パス (/ 文字で始まる) またはデフォルト・ディレクトリーに対する相対パスのいずれかになります。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_trace_type

`query_trace_type` コマンドは、CS/AIX カーネル・コンポーネントの現行トレース・オプションに関する情報を戻します。トレース・オプションについて詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」を参照してください。

このコマンドは、DLC 回線トレースに関する情報は戻しません。DLC 回線トレースに関する情報を入手するには、`query_dlc_trace` コマンドを使用します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

```
[query_trace_type]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻りパラメーター

Parameter name	Type
<code>trace_flags</code>	constant
<code>truncation_length</code>	decimal

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

trace_flags

現在活動状態であるトレースのタイプ。これらのトレース・タイプについて詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」を参照してください。

すべてのタイプに対してトレースが設定されている場合、以下のいずれかの値が戻されます。

NONE

活動状態のトレースはありません。

ALL

すべてのタイプのトレースが活動状態です。

トレースが特定のメッセージに対して活動化される場合、(+ 文字で結合された) 以下の 1 つ以上の値が戻されます。

APPC

APPC メッセージがトレースされます。

FM

FM メッセージがトレースされます。

LUA

LUA メッセージがトレースされます。

NOF

NOF メッセージがトレースされます。

MS

MS メッセージがトレースされます。

GDLC

GDLC メッセージがトレースされます。

IPDLC

Enterprise Extender (HPR/IP) メッセージがトレースされます。

NDLC

ノードから DLC へのメッセージがトレースされます。

NODE

ノード内部メッセージがトレースされます。

SLIM

クライアント/サーバー・システムで、サーバー間で送信されるメッセージがトレースされます。

DGRM

CS/AIX コンポーネント間の内部制御メッセージがトレースされます。

truncation_length

それぞれのメッセージについて、トレース・ファイルに書き込まれる情報の最大長 (バイト単位)。メッセージがこの値を超えると、CS/AIX はメッセージの始めのみをトレース・ファイルに書き込み、*truncation_length* を超えるデータは廃棄します。値 0 は、トレース・メッセージの切り捨てを行わないことを示します。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

query_userid_password

query_userid_password コマンドは、APPC および CPI-C 会話セキュリティーで使用するユーザー ID とパスワードの組みに関する情報、または定義済みユーザー ID およびパスワードのプロファイルに関する情報を戻します。このコマンドは、使用するオプションに応じて、ユーザー ID/パスワードの特定の組みまたは複数の組みに関する情報を入手するために使用できます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[query_userid_password]			
num_entries	decimal		1
list_options	constant		LIST_INCLUSIVE
user_id	character	10	(null string)

指定パラメーターは、以下のとおりです。

num_entries

データが戻されるユーザー ID/パスワードの組みの最大数。特定のユーザー ID/パスワードの組みに関するデータを戻す場合は 1 を、複数のユーザー ID/パスワードの組みに関するデータを戻す場合は 1 よりも大きい数値を、すべてのユーザー ID/パスワードの組みに関するデータを戻す場合は 0 を指定します。

list_options

CS/AIX がデータを戻す場合のユーザー ID/パスワード・ペアのリスト内の開始位置。

可能な値は次のいずれかです。

FIRST_IN_LIST

リスト内の最初のエントリーから開始します。

LIST_INCLUSIVE

user_id パラメーターで指定したエントリーから開始します。

LIST_FROM_NEXT

user_id パラメーターで指定したエントリーの直後のエントリーから開始します。

user_id

情報が必要とされているユーザー ID、またはユーザー ID/パスワードの組みリストの索引として使用されるユーザー ID。この ID は、タイプ AE の文字ストリングです。list_options が FIRST_IN_LIST に設定されている場合、ユーザー ID は無視されます。

戻りパラメーター

Parameter name	Type	Length
user_id	character	10
description	character	31
profile	character	10

(profile パラメーターでは、最大 10 個のプロファイルを戻すことができます。)

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

user_id

ユーザー ID。

description

ユーザー ID およびパスワードの定義に指定された、ユーザー ID およびパスワードを説明するテキスト・ストリング。

プロファイル

各行は、ユーザーに関連したプロファイルです。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_USERID

list_options パラメーターは、指定したユーザー ID から始まるすべてのエントリーをリストするように LIST_INCLUSIVE に設定されていますが、*user_id* パラメーター値が無効です。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

リモート・ dlc_trace

リモート・ dlc_trace コマンドは、以前に add_dlc_trace を使用して指定された DLC 回線トレースを除去します。このコマンドを使用すると、現在トレース中のリソースのすべてのトレースを除去したり、現在トレースされているリソースから特定のメッセージのトレースを除去したり、すべての DLC 回線トレースを除去したりすることができます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[remove_dlc_trace]			
resource_type	constant		ALL_DLC_TRACES
resource_name	character	8	(null string)
sidh	hex byte		0
sidl	hex byte		0
odai	constant		NO
message_type	constant		TRACE_ALL

指定パラメーターは、以下のとおりです。

resource_type

除去または変更するトレース・エントリーのリソース・タイプ。可能な値は次のいずれかです。

ALL_DLC_TRACES

DLC トレース・オプションをすべて除去して、どのリソースもトレースされないようにします。このオプションを指定した場合、このコマンドの残りのパラメーター (*resource_name* から *message_type* まで) は予約済みです。

ALL_RESOURCES

すべての DLC、ポート、リンク・ステーション、および RTP 接続のトレースに使用するトレース・オプションを除去または変更します。DLC_TRACE エントリーが明示的に定義されているリソースは、引き続きトレースされます。

DLC

resource_name で指定した DLC、およびこの DLC を使用するすべてのポートとリンク・ステーションのトレースを除去または変更します。

PORT

resource_name で指定したポートと、このポートを使用するすべてのリンク・ステーションのトレースを除去または変更します。

LS

resource_name で指定した LS のトレースを除去または変更します。

RTP

resource_name で指定した RTP (高速トランスポート・プロトコル) 接続のトレースを除去または変更します。

PORT_DEFINED_LS

resource_name で指定したポートと、その定義済みリンク・ステーションのトレースを変更します。

PORT_IMPLICIT_LS

resource_name で指定したポートと、その暗黙リンク・ステーションのトレースを変更します。

resource_name

トレースを除去または変更する DLC、ポート、リンク・ステーション LS、または RTP 接続の名前。RTP 接続の名前を指定した場合、この名前は @ 文字で始まります。

このパラメーターを指定した場合、*resource_type* は ALL_DLC_TRACES または ALL_RESOURCES に設定しないでください。

以下の 3 つのパラメーターは、指定した LS でのセッションのローカル形式セッション ID を識別します。この LFSID は、*resource_type* が LS に設定され、このセッションのメッセージのトレースのみが除去されることを指定している場合にのみ有効です。LFSID は、以下のパラメーターで構成されます。

sidh

LS のセッションの LFSID を識別するために使用されるセッション ID の上位バイト。

sidl

LS のセッションの LFSID を識別するために使用されるセッション ID の下位バイト。

odai

LS のセッションの LFSID を識別するために使用される Origin Destination Assignor Indicator。可能な値は次のいずれかです。

YES

BIND 送信側は、2 次リンク・ステーションを含むノードです。

NO

BIND 送信側は、1 次リンク・ステーションを含むノードです。

message_type

指定したリソースまたはセッションのトレースが除去される、メッセージのタイプ。すべてのメッセージのトレースを除去するには、このパラメーターを TRACE_ALL に設定します。特定のメッセージのトレースを除去するには、このパラメーターを (+ 文字で結合された) 以下の 1 つ以上の値に設定します。

TRACE_XID

XID メッセージ

TRACE_SC

セッション制御 RU

TRACE_DFC

データ・フロー制御 RU。

TRACE_FMD

機能管理データ (FMD) メッセージ。

TRACE_NLP

ネットワーク層プロトコル。

TRACE_NC

ネットワーク接続。

TRACE_SEGS

RH を含まない BBIU 以外のセグメント

TRACE_CTL

MU および XID 以外のメッセージ。

RTP 接続のトレースの場合、値 TRACE_XID、TRACE_NLP、 および TRACE_CTL は無視されます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_RESOURCE_TYPE

resource_type パラメーターで指定した値は無効です。

INVALID_MESSAGE_TYPE

message_type パラメーターで指定した値は無効です。

INVALID_DLC_NAME

resource_name で指定した DLC には、トレース・オプションが設定されていません。

INVALID_PORT_NAME

resource_name で指定したポートには、トレース・オプションが設定されていません。

INVALID_LS_NAME

resource_name で指定した LS には、トレース・オプションが設定されていません。

INVALID_RTP_CONNECTION

resource_name パラメーターで指定した RTP 接続には、トレース・オプションが設定されていません。

INVALID_LFSID_SPECIFIED

resource_name で指定した LS には、指定した LFSID にトレース・オプションが設定されていません。

INVALID_FILTER_TYPE

message_type パラメーターが、指定したリソースで現在トレースされていないメッセージ・タイプを指定しました。

ALL_RESOURCES_NOT_DEFINED

resource_type パラメーターは ALL_RESOURCES に設定されていましたが、すべてのリソースに対するトレース・オプションに対して DLC_TRACE エントリーが定義されていませんでした。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

reset_session_limit

reset_session_limit コマンドは、特定の LU-LU モードの組み合わせについて、セッション限度を変更するように CS/AIX に要求します。このコマンドの処理の結果、セッションが非活動化される場合があります。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	
[reset_session_limit]			
lu_name	character	8	(null string)
lu_alias	character	8	(null string)
plu_alias	character	8	(null string)
fqplu_name	character	17	(null string)
mode_name	character	8	(null string)
mode_name_select	constant		ONE
set_negotiable	constant		NO
responsible	constant		SOURCE
drain_source	constant		NO
drain_target	constant		NO
force	constant		NO

提供されるパラメーター：

lu_name

ローカル LU の LU 名。この名前は、タイプ A の文字ストリングです。LU がその LU 名ではなく LU 別名によって識別されることを示すには、このパラメーターを指定しないでください。

lu_alias

ローカル LU の LU 別名。この別名は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。lu_name が指定されていない場合のみ使用されます。

lu_name および lu_alias が指定されていない場合、コマンドは CP に関連付けられた LU (デフォルトの LU) に転送されます。

plu_alias

パートナー LU の LU 別名。この別名は、ローカルで表示可能な文字を使用する文字ストリングです。パートナー LU がその LU 別名の代わりに完全修飾 LU 名によって定義されていることを示すには、このパラメーターを指定しないでください。

fqplu_name

パートナー LU の完全修飾名。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のパートナー LU 名で構成される 3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。ネットワーク名およびパートナー LU 名については、英字、数字 0-9、および特殊文字 \$、#、および @だけを使用してください。

このパラメーターは、plu_alias パラメーターが指定されていない場合のみ使用されます。plu_alias が指定されている場合は無視され

モード名

セッション限度をリセットするモードの名前。このパラメーターは、文字で始まるタイプ A の文字ストリングです。mode_name_select がオールに設定されている場合は無視されます。

mode_name_select

セッション限度を単一の指定モードでリセットするか、ローカル LU とパートナー LU の間のすべてのモードにリセットするかを選択します。可能な値は次のとおりです

一人

モード名によって指定されたモードでセッション限度をリセットします。

オール

すべてのモードのセッション限度をリセットする。

セット折衝可能

この LU-LU モードのこの組み合わせについて、折衝可能な最大セッション限度を 0 にリセットするかどうかを指定します。(現行の制限は、モードに指定された制限にすることも、初期セッション限度または変更セッション限度によって変更されている場合があります)。可能な値は次のとおりです

そうだ

この LU-LU モードのこの組み合わせの折衝可能な最大セッション限度を 0 にリセットします(このため、初期セッション限度). によって制限が変更されるまでセッションを活動化できません)。

違う。

交渉可能な最大セッション限度を未変更のままにします

責任者

セッション限度がリセットされた後に、ソース (ローカル) またはターゲット (パートナー) LU がセッションの非活動化を担当するかどうかを示します。可能な値は次のとおりです

ソース

ローカル LU は、セッションの非活動化を担当します。

ターゲット

パートナー LU は、セッションの非活動化を担当します。

ソースのドレーン

セッションを非活動化する前に、ソース LU が待機セッション要求を満たすかどうかを指定 可能な値は次のとおりです

そうだ

待機中のセッション要求が満たされた。

違う。

待機セッション要求が満たされていません。

ターゲットのドレーン

セッションを非活動化する前に、ターゲット LU が待機セッション要求を満たすかどうかを指定 可能な値は次のとおりです

そうだ

待機中のセッション要求が満たされた。

違う。

待機セッション要求が満たされていません。

力

CNOS 折衝が失敗してもセッション限度を 0 に設定するかどうかを指定します 可能な値は次のとおりです

そうだ

セッション限度を 0 に設定します。

違う。

CNOS 折衝が失敗しても、セッション限度を 0 に設定しないでください。

戻りパラメーター

コマンドが正常に実行されると、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

OK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

AS_SPECIFIED

コマンドは正常に実行されました。セッション限度は、指定どおりに変更されました。

FORCED

CNOS ネゴシエーションが失敗しましたがセッション限度は 0 に設定されました。

AS_NEGOTIATED

セッション限度は変更されましたが、1つ以上の値がパートナー LU で折衝されています。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

EXCEEDS_MAX_ALLOWED

CS/AIX 内部エラーが発生しました。

INVALID_LU_ALIAS

lu_alias パラメーター値が、定義済みのローカル LU 別名と一致しません。

INVALID_LU_NAME

lu_name パラメーター値が、定義済みのローカル LU 名と一致しません。

INVALID_MODE_NAME

mode_name パラメーター値が、定義済みのモード名と一致しません。

INVALID_PLU_NAME

fqplu_name パラメーター値が、定義済みのパートナー LU 名と一致しません。

INVALID_MODE_NAME_SELECT

mode_name_select パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_DRAIN_SOURCE

drain_source パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_DRAIN_TARGET

drain_target パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_FORCE

force パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_RESPONSIBLE

responsible パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_SET_NEGOTIABLE

set_negotiable パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態チェック

状態エラーが原因でコマンドが実行されない場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

状態検査

secondary_rc**モードのリセット**

この LU - LU モードの組み合わせに対して現在アクティブなセッションはありません。リセット・セッション限度の代わりに初期セッション限度を指定すると、制限が指定の使用

その他の状態

その他の状態が原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

set_buffer_availability

primary_rc

ALLOCATION_ERROR

処理が必要な状態のため、セッションが割り当てられませんでした。ログ・ファイルをチェックしてこの障害の原因を示すメッセージを確認し、必要な処置を取ってください。正しい状態に戻るまで、コマンドを再試行しないでください。

secondary_rc

ALLOCATION_FAILURE_NO_RETRY

処理が必要な状態のため、セッションが割り当てられませんでした。sense_data パラメーターとログに記録されたメッセージを検査して障害の原因を判別し、必要な処理を行ってください。正しい状態に戻るまで、コマンドを再試行しないでください。

sense_data

割り振りの障害に関連した SNA センス・データ。

primary_rc

CONV_FAILURE_NO_RETRY

処置を必要とする状態 (構成の不一致またはセッション・プロトコル・エラーなど) のために、セッション限度を変更できませんでした。CS/AIX のログ・ファイルでエラー状態の情報をチェックし、このコマンドを再試行する前にエラーを訂正してください。

primary_rc

CNOS_PARTNER_LU_REJECT

CS/AIX がパートナーとのセッション限度の折衝に失敗したため、コマンドが正常に実行されませんでした。ローカル LU とパートナー LU の両方で構成を確認してください。

secondary_rc

CNOS_COMMAND_RACE_REJECT

セッションの活動化や非活動化、またはセッション限度の処理を行うために別の管理プログラムが (または CS/AIX ソフトウェアによって内部的に) 指定したモードにアクセスしているため、コマンドが失敗しました。コマンドを再試行してください。

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

set_buffer_availability

set_buffer_availability コマンドは、CS/AIX がどの時点においても使用できる STREAMS バッファ・スペースの量を指定します。この情報により、ノードは使用可能なバッファ・スペースを効率よく使用でき、AIX コンピューター上の他のプロセスにも使用可能なバッファ・スペースを確保できるようになります。

指定パラメーター

Parameter name	Type
[set_buffer_availability]	
buf_avail	decimal

指定パラメーターは、以下のとおりです。

buf_avail

使用可能な STREAMS バッファ・スペースの最大量 (バイト単位)。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

set_central_logging

set_central_logging コマンドは、CS/AIX ログ・メッセージがすべてのサーバーから中央ファイルに送信されるか、各サーバー上の個々のファイルに送信されるかを指定します。ログ・ファイルについての詳細は、497 ページの『[set_log_file](#)』を参照してください。

このコマンドは、ノード名を指定せずに実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[set_central_logging] enabled	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

enabled

中央ログを使用可能にするか、使用不可にするかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

中央ログを使用可能にします。すべてのログ・メッセージは、現在の中央ロガーであるノード上の単一の中央ファイルに送信されます。

NO

中央ログを使用不可にします。各サーバーからのログ・メッセージは、そのサーバー上のファイル (set_log_file で指定) に送信されます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc**NOT_CENTRAL_LOGGER**

コマンドが特定のノードに対して発行されました。このコマンドは、ノード名を指定せずに発行する必要があります。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

set_cs_trace

set_cs_trace コマンドは、CS/AIX ドメインのコンピューター間で送信されるデータのトレース・オプションを指定します。トレース・オプションについては、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」を参照してください。

このコマンドは AIX または Linux クライアントから発行できます。このコマンドはユーザー ID root を使用するか、または sys グループ (AIX) または sna グループ (Linux) のメンバーであるユーザー ID を使用して実行しなければなりません。

このコマンドは、クライアントから発行しない場合、実行中のノードに対して発行しなければなりません。

Windows クライアントでは、クライアント/サーバーのトレースは Windows レジストリー内のオプションにより制御されます。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」を参照してください。

Supplied parameters

Parameter name	Type	Length	Default
[set_cs_trace]			
dest_sys	character	128	(null string)
trace_flags	constant		NONE
trace_direction	constant		CS_BOTH

Supplied parameters are:

dest_sys

The server name for which tracing is required. This name is a string of locally displayable characters.

To manage tracing on messages flowing between the computer to which this command is issued (either the local computer or one identified by the -n option on the snaadmin program) and one other node in the domain, specify the name of the other node; tracing on messages flowing to and from other computers in the domain will be unchanged. You can issue two set_cs_trace commands to activate tracing between the same target computer and two different destination servers.

If the server name includes a . (period) character, CS/AIX assumes that it is a fully-qualified name; otherwise it performs a DNS lookup to determine the server name.

To manage tracing on messages flowing between the computer to which this command is issued (either the local computer or one identified by the -n option on the snaadmin program) and all other nodes in the domain, do not specify this parameter. The options you specify on this command override any previous settings for tracing to specific computers (identified by dest_sys on the previous set_cs_trace commands).

trace_flags

The types of tracing required. For more information about these trace types, refer to *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX Diagnostics Guide*.

To set tracing for all types use one of the following values:

NONE

Do not activate tracing for any type of message.

ALL

Activate tracing for all types of messages.

To activate tracing on specific message types, select one or more of the following values (combined using a + character):

CS_ADMIN_MSG

Trace internal messages relating to client/server topology

CS_DATAGRAM

Trace datagram messages

CS_DATA

Trace data messages

trace_direction

Specifies the direction or directions in which tracing is required. This parameter is ignored if *trace_flags* is set to NONE. Possible values are:

CS_SEND

Trace messages flowing from the target computer to the computer defined by *dest_sys*.

CS_RECEIVE

Trace messages flowing from the computer defined by *dest_sys* to the target computer.

CS_BOTH

Trace messages flowing in both directions.

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

NAME_NOT_FOUND

dest_sys パラメーターにより指定されたサーバーが無効であるか、始動されていません。

LOCAL_SYSTEM

dest_sys パラメーターにより指定されたサーバーは、このコマンドの実行対象のターゲット・ノードと同じです。

INVALID_TRC_DIRECTION

trace_direction パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_TARGET

コマンドがスタンドアロン・サーバーで実行されました。このコマンドは、クライアント/サーバー・システムでのみ発行できます。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

set_global_log_type

The `set_global_log_type` command specifies the types of information that CS/AIX records in log files. It specifies default values that are used on all computers; you can then use `set_log_type` (or, for a Windows client, options in the Windows Registry) to override these defaults on a particular computer. For more information about log files, see “`set_log_file`” on page 497.

CS/AIX always logs messages for problem events; you can specify whether to log messages for exception and audit events. For more information logging messages, refer to the *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX Diagnostics Guide*.

This command must be issued without specifying a node name.

提供されるパラメーター

Parameter name [set_global_log_type]	Type	Length	Default
audit	constant		LEAVE_UNCHANGED
exception	constant		LEAVE_UNCHANGED
succinct_audits	constant		LEAVE_UNCHANGED
succinct_errors	constant		LEAVE_UNCHANGED

提供されるパラメーター：

監査

監査メッセージを記録するかどうかを指定 可能な値は次のとおりです

そうだ

監査メッセージを記録する。

違う。

監査メッセージを記録しません。

無変更

監査ログを既存の定義から変更しないでください。(CS/AIX は最初から 監査 違う。に設定します。)

例外

例外メッセージを記録するかどうかを指定 可能な値は次のとおりです

そうだ

例外メッセージを記録する。

違う。

例外メッセージを記録しません。

無変更

例外ロギングは、既存の定義から変更しないでください。(CS/AIX は最初から 例外 そうだに設定します。)

正常に監査されます

監査ログ・ファイルで簡潔なロギングを使用するか、詳細ロギングを使用するかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

監査ログ・ファイルで簡略ログを使用します。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報(メッセージ番号、ログ・タイプ、システム名など)、およびメッセージ・テキスト・ストリングとパラメーターの要約が含まれています。ログの原因および必要なアクションの詳細を取得するには、ヘビ・ユーティリティ。を使用します。

違う。

監査ログ・ファイルで詳細ロギングを使用します。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報の完全なリスト、メッセージ・テキスト・ストリングとパラメーター、およびログの原因と必要な処置に関する追加情報が含まれています。

無変更

直前の set_global_log_type コマンドで指定されたオプション(簡略ログまたは詳細ロギング)を使用します。(Before a set_global_log_type command has been issued, CS/AIX initially sets 正常に監査されます to そうだ.)

セントラル・ロギングを使用している場合は、すべてのコンピューターからのメッセージの簡潔なロギングまたは詳細ロギングの選択は、中央ロガーとして動作するサーバー上でこのパラメーターを設定することによって決定されます。この設定は set_global_log_type コマンド、またはデフォルトをオーバーライドするためにそのサーバーに発行された set_log_type コマンド。のいずれかにできます。

正常性エラー

エラー・ログ・ファイルで簡潔なロギングまたは詳細ロギングを使用するかどうかを指定します。これは、例外ログと問題ログの両方に適用されます。可能な値は次のとおりです

そうだ

エラー・ログ・ファイルで簡潔なロギングを使用してください。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報(メッセージ番号、ログ・タイプ、システム名など)、およびメッセージ・テキスト・ストリングとパラメーターの要約が含まれています。ログの原因および必要なアクションの詳細を取得するには、ヘビ・ユーティリティ。を使用します。

違う。

エラー・ログ・ファイルで詳細ロギングを使用します。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報の完全なリスト、メッセージ・テキスト・ストリングとパラメーター、およびログの原因と必要な処置に関する追加情報が含まれています。

無変更

直前の set_global_log_type コマンドで指定されたオプション(簡略ログまたは詳細ロギング)を使用します。(Before a set_global_log_type command has been issued, CS/AIX initially sets 正常に監査されます to そうだ.)

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

set_kernel_memory_limit

NOT_CENTRAL_LOGGER

コマンドが特定のノードに対して発行されました。このコマンドは、ノード名を指定せずに発行する必要があります。

INVALID_SUCCINCT_SETTING

`succinct_audits` パラメーターまたは `succinct_errors` パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

set_kernel_memory_limit

`set_kernel_memory_limit` コマンドは、CS/AIX がどの時点においても使用できるカーネル・メモリー量の限度を指定します。この限度により、AIX コンピューター上の他のプロセスにも使用可能なメモリーを確保できるようになります。

CS/AIX ソフトウェアの始動時にカーネル・メモリーの限度を指定することもできます。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 管理ガイド*」を参照してください。CS/AIX ソフトウェアの起動時に限度が指定されていた場合、その限度はこのコマンドによって指定変更されます。

指定パラメーター

Parameter name	Type
[set_kernel_memory_limit]	
limit	decimal

指定パラメーターは、以下のとおりです。

limit

CS/AIX がどの時点においても使用できるカーネル・メモリーの最大容量 (バイト単位)。メモリー現行割り振り量の合計がこの限度を超えることになるようなカーネル・メモリーを、CS/AIX コンポーネントが割り振ろうとすると、その割り振りは失敗します。

前の `set_kernel_memory_limit` コマンドで設定した限度を除去するには、値 0 を指定します。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

set_log_file

set_log_file コマンドで、CS/AIX がログ・メッセージの記録に使用するファイルを管理します。これにより、以下のことが可能になります。

- ログ・メッセージ (監査、エラー、使用量のログ) の記録に使用するファイル、および (ログ情報をコピーする) バックアップ・ファイルを指定する。
- ログ・ファイルの最大サイズを指定します (ログ・ファイルがこのサイズに達すると、CS/AIX はログ・データをバックアップ・ファイルにコピーし、ログ・ファイルをリセットします)。
- ログ・ファイルの現在の内容をバックアップ・ファイルにコピーし、オプションで現行ファイルを削除する。

監査ログ・メッセージとエラー・ログ・メッセージを別々のファイルに記録することも、両方のタイプのメッセージを同じファイルに記録することもできます。

set_central_logging コマンドで定義するとき中央ロギングを使用している場合、このコマンドは中央ロガーとして機能しているノードに発行する必要があります。それ以外の場合は、異なるログ・ファイルを各ノードで指定するために、このコマンドを各ノードへ個別に発行することができます。

このコマンドは AIX または Linux クライアントから発行できます。このコマンドはユーザー ID root を使用するか、または sys グループ (AIX) または sna グループ (Linux) のメンバーであるユーザー ID を使用して実行しなければなりません。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[set_log_file]			
log_file_type	constant		ERROR
action	constant		NO_FILE_ACTION
file_name	character	80	(null string)
backup_file_name	character	80	(null string)
file_size	decimal		0

提供されるパラメーター:

ログ・ファイル・タイプ

使用されるログ・ファイルのタイプ。可能な値は次のとおりです

監査

監査ログ・ファイル (レコード監査メッセージのみ)

エラー

エラー・ログ・ファイル (レコード問題および例外メッセージ)

使用方法

使用量ログ・ファイル (CS/AIX リソースの現在およびピーク使用量に関する情報を記録します)。

To record both audit and error messages in the same file, issue two set_log_file commands for the same file name, specifying 監査 for the ログ・ファイル・タイプ of one command and エラー for the ログ・ファイル・タイプ of the other.

アクション

ログ・ファイルに対して実行されるアクション。次の値のいずれかを指定してください。

ファイル・ファイルのアクション

ファイル名 パラメーターに指定されたファイルをログ・ファイルとして使用し、バックアップ・ファイルとしてバックアップ・ファイル名 パラメーターで指定されたファイルを使用します。このコマンドが正常に完了すると、ログ・ファイル・タイプによって定義されたタイプのすべてのロ

グ・メッセージが、新規ログ・ファイルに書き込まれます。このコマンドが発行される前にログ・ファイルが使用された場合、ログ・ファイルは変更されません。

ファイルの削除

現行ログ・ファイルの内容を削除します。

バックアップ・ファイル

現在のログ・ファイルの内容をバックアップ・ファイルにコピーしてから、現行ファイルの内容を削除します。

ファイル名

新規ログ・ファイルの名前。

診断ファイル /var/sna のデフォルト・ディレクトリー内にファイルを作成するには、パスを指定しないでファイル名を指定します。別のディレクトリーにファイルを作成するには、絶対パスまたはデフォルト・ディレクトリーに対する相対パスのいずれかを指定します。パスを含める場合は、このパスが有効なパス (アプリケーションの作業ディレクトリーに相対するパス、または絶対パス) であることを確認してください。このパスは、このコマンドが発行される先の任意のコンピューター上にあります。

このパラメーターは、1 から 80 文字の ASCII スtring です。前の set_log_file コマンドで指定されたファイルへのロギングを続行するには、このパラメーターを指定しないでください。

set_log_file コマンドが発行される前の最初のデフォルト値は、エラー・ログ・ファイルの場合は /var/sna/sna.err、監査ログ・ファイルの場合は /var/sna/sna.aud、使用量ログ・ファイルの場合は /var/sna/sna.usage です。

バックアップ・ファイル名

バックアップ・ログ・ファイルの名前。ログ・ファイルが ファイル・サイズ パラメーターで指定されたサイズに達すると、CS/AIX は現在の内容をバックアップ・ファイルにコピーしてから、ログ・ファイルをクリアします。また、アクション パラメーターを使用して、いつでもバックアップを要求することができます。

診断ファイル /var/sna のデフォルト・ディレクトリー内にファイルを作成するには、パスを指定しないでファイル名を指定します。別のディレクトリーにファイルを作成するには、絶対パスまたはデフォルト・ディレクトリーに対する相対パスのいずれかを指定します。パスを含める場合は、このパスが有効なパス (アプリケーションの作業ディレクトリーに相対するパス、または絶対パス) であることを確認してください。このパスは、このコマンドが発行される先の任意のコンピューター上にあります。

このパラメーターは、1 文字から 80 文字までの ASCII スtring で、ヌル文字 (2 進ゼロ) で終了します。前の set_log_file コマンドで指定されたバックアップ・ファイルを引き続き使用するには、このパラメーターを指定しないでください。set_log_file コマンドが発行される前の最初のデフォルト値は、エラー・ログ・ファイルの場合は /var/sna/bak.err、監査ログ・ファイルの場合は /var/sna/bak.aud、使用量ログ・ファイルの場合は /var/sna/bak.usage です。

ファイル・サイズ

ログ・ファイル・タイプによって指定されるログ・ファイルの最大サイズ。ファイルに書き込まれたメッセージによってファイル・サイズがこの制限を超えると、CS/AIX はログ・ファイルの現在の内容をバックアップ・ログ・ファイルにコピーし、ログ・ファイルをクリアします。ログ・ファイルによって取られるディスク・スペースの最大量は、約 2 倍 ファイル・サイズ

前の set_log_file コマンドで指定されたファイル・サイズを引き続き使用するには、このパラメーターを指定しないでください。いずれかの set_log_file コマンドが発行される前の初期デフォルト値は、10,000,000 バイトです。A value of 0 indicates "既存のファイル・サイズの使用の継続" and not "制限なし。"

より大きなシステムで生成されるログ情報のボリュームを確保するために、CS/AIX クライアント / サーバー・ネットワークのサイズに応じて、監査およびエラー・ログ・ファイルのサイズを大きくする必要があります。特に、ログ・ファイル・サイズを増やすことを考慮して、以下のことを考慮してください。

- 多数のクライアントまたはユーザーを統合する (単一の通信リンクの障害により、セッション障害に関連するサーバー上の多数のログが生成される可能性があるため)

- 例外ロギングと同様に、監査ロギングを活動化する
- 分散ロギングの代わりに中央ロギングを使用する
- 簡略ログの代わりに詳細なロギングを使用する

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_FILE_ACTION

action パラメーターが、有効な値に設定されていません。

INVALID_FILE_TYPE

log_file_type パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

set_log_type

set_log_type コマンドは、CS/AIX が特定のサーバー上のログ・ファイルに記録する情報のタイプを指定します。このコマンドは、set_global_log_type で指定されたデフォルト設定をオーバーライドするため、またはこのサーバーがデフォルト設定を使用して復帰するようにオーバーライドを除去するために使用することができます。For more information about log files, see [497 ページの『set_log_file』](#).

CS/AIX は常に問題イベントのメッセージをログに記録します。例外イベントおよび監査イベントのメッセージをログに記録するかどうかを指定メッセージのロギングの詳細については、「[AIX 診断ガイド上の IBM Communications Server for Data Center デプロイメント](#)」を参照してください。

このコマンドは、AIX または Linux クライアントから発行できます。このコマンドは、ユーザー ID 根で実行するか、または システム グループ (AIX) または スナバグループ (Linux) のメンバーであるユーザー ID を使用して実行する必要があります。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[set_log_type] override	constant		YES
audit	constant		LEAVE_UNCHANGED
exception	constant		LEAVE_UNCHANGED

set_log_type

succinct_audits	constant	LEAVE_UNCHANGED
succinct_errors	constant	LEAVE_UNCHANGED

提供されるパラメーター:

オーバーライド

set_global_log_type で指定されたグローバル・ログ・タイプをオーバーライドするか、グローバル・ログ・タイプの使用に戻すかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

グローバル・ログ・タイプをオーバーライドする。このサーバーで使用されるログ・タイプは、監査パラメーターおよび例外パラメーターによって指定され、簡略ログまたは詳細ロギングの選択項目は成功_*パラメーターによって指定されます。

違う。

グローバル・ログ・タイプを使用するように戻します。監査パラメーター、例外パラメーター、および成功_*パラメーターは無視されます。

監査

監査メッセージを記録するかどうかを指定 (CS/AIX は最初から 監査 違う。に設定します。) 可能な値は次のとおりです

そうだ

監査メッセージを記録する。

違う。

監査メッセージを記録しません。

無変更

監査ログを既存の定義から変更しないでください。

例外

例外メッセージを記録するかどうかを指定 (CS/AIX は最初から 例外 そうだに設定します。) 可能な値は次のとおりです

そうだ

例外メッセージを記録する。

違う。

例外メッセージを記録しません。

無変更

例外ロギングは、既存の定義から変更しないでください。

正常に監査されます

このサーバー上の監査ログ・ファイルで、簡略ロギングまたは詳細ロギングを使用するかどうかを指定します。可能な値は次のとおりです

そうだ

監査ログ・ファイルで簡略ログを使用します。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報 (メッセージ番号、ログ・タイプ、システム名など)、およびメッセージ・テキスト・ストリングとパラメーターの要約が含まれています。ログの原因および必要なアクションの詳細を取得するには、ヘビ・ユーティリティ。を使用します。

違う。

監査ログ・ファイルで詳細ロギングを使用します。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報の完全なリスト、メッセージ・テキスト・ストリングとパラメーター、およびログの原因と必要な処置に関する追加情報が含まれています。

無変更

簡略ログまたは詳細ロギングを既存の定義から変更しないでください。

セントラル・ロギングを使用している場合は、すべてのコンピューターからのメッセージの簡潔なロギングまたは詳細ロギングの選択は、中央ロガーとして機能するサーバー上でこのパラメーターの設定によって決まります。この設定は set_global_log_type コマンド、またはデフォルトをオーバーライドするためにそのサーバーに発行された set_log_type コマンド。のいずれかにできます。

正常性エラー

このサーバー上のエラー・ログ・ファイルで、簡略ロギングまたは詳細ロギングを使用するかどうかを指定します。これは、例外ログと問題ログの両方に適用されます。可能な値は次のとおりです

そうだ

エラー・ログ・ファイルで簡潔なロギングを使用してください。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報(メッセージ番号、ログ・タイプ、システム名など)、およびメッセージ・テキスト・ストリングとパラメーターの要約が含まれています。ログの原因および必要なアクションの詳細を取得するには、ヘビ・ユーティリティ。を使用します。

違う。

エラー・ログ・ファイルで詳細ロギングを使用します。ログ・ファイルの各メッセージには、メッセージ・ヘッダー情報の完全なリスト、メッセージ・テキスト・ストリングとパラメーター、およびログの原因と必要な処置に関する追加情報が含まれています。

無変更

簡略ログまたは詳細ロギングを既存の定義から変更しないでください。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_SUCCINCT_SETTING

succinct_audits パラメーターまたは *succinct_errors* パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

set_tn3270_slp_trace

set_tn3270_slp_trace コマンドは、CS/AIX TN3270 Service Location Protocol 機能のトレース・オプションを指定します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[set_tn3270_slp_trace] trace_flags	constant		NONE

指定パラメーターは、以下のとおりです。

trace_flags

必要なトレースのタイプ。すべてのタイプのメッセージのトレースを設定するには、以下のいずれかの値を指定します。

NONE

どのタイプのメッセージのトレースも活動化しません。

ALL

すべてのタイプのメッセージのトレースを活動化します。

特定のメッセージ・タイプのトレースを活動化するには、(+ 文字で結合された) 以下の 1 つ以上の値を選択します。

CFG

構成メッセージ・トレース: TN3270 SLP の構成に関するメッセージ

NOF

内部ノード・オペレーター機能 (NOF) のトレース: TN3270 SLP による NOF 要求をトレースします。

TCP

TCP/IP インターフェースのトレース: TN3270 SLP と TN3270 クライアントの間のメッセージ

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

set_tn_server_trace

set_tn_server_trace コマンドは、CS/AIX TN サーバー機能のトレース・オプションを指定します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[set_tn_server_trace] trace_flags	constant		NONE

指定パラメーターは、以下のとおりです。

trace_flags

必要なトレースのタイプ。すべてのタイプのメッセージのトレースを設定するには、以下のいずれかの値を指定します。

NONE

どのタイプのメッセージのトレースも活動化しません。

ALL

すべてのタイプのメッセージのトレースを活動化します。

特定のメッセージ・タイプのトレースを活動化するには、(+ 文字で結合された) 以下の 1 つ以上の値を選択します。

TCP

TN サーバーと TN3270 クライアントの間のメッセージをトレースします (TCP/IP インターフェース・トレース)。

FMAPI

内部制御メッセージ、および TN サーバーと TN3270 クライアントの間のメッセージを内部形式でトレースします (ノード・インターフェース・トレース)。

CFG

TN サーバーの構成に関するメッセージをトレースします (構成メッセージ・トレース)。

NOF

TN サーバーによる内部ノード・オペレーター機能 (NOF) 要求をトレースします。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

set_trace_file

set_trace_file コマンドは、CS/AIX がトレース・データの記録に使用するファイルの名前を指定します。

set_trace_file

同じファイル・タイプの新しいファイル名を指定して 2 回目の `set_trace_file` コマンドを発行すると、それ以後のトレース・データはすべて新しいファイルに書き込まれます。既存のファイルは除去されませんが、それ以降情報は書き込まれなくなります。

トレースが活動状態の間に現行トレース・ファイルをリセットする (ファイルの既存の内容は廃棄されるが、それ以降のトレースは同じファイルに書き込まれる) には、現在使用中のファイルと同じトレース・ファイル名およびバックアップ・ファイル名を指定して、`set_trace_file` コマンドを発行します。

このコマンドは、実行中ノード、あるいは (クライアント/サーバー・トレース・ファイルの場合のみ) AIX または Linuxg 上の Remote API Client に対して発行できます。クライアント・コンピューターにコマンドを実行するには、クライアント・コンピューター上でノード名を指定せずに `snaadmin` プログラムを使用します。

Windows クライアントでは、トレースは Windows レジストリー内のオプションにより制御されます。詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」を参照してください。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[set_trace_file]			
trace_file_type	constant		IPS
dual_files	constant		LEAVE_UNCHANGED
trace_file_size	decimal		10000000
file_name	character	80	(null string)
file_name_2	character	80	(null string)

提供されるパラメーター：

trace_file_type

トレース・ファイルのタイプ。可能な値は次のとおりです

CS

ファイルには、指定されたコンピューターと他のノードとの間で、CS/AIX ドメイン間で転送されたデータへのトレース このタイプのトレースは、セット `cs_trace` コマンドによってアクティブになります。

TN_SERVER

ファイルに CS/AIX TN サーバー・コンポーネントのトレースが含まれています。

TN3270_SLP

ファイルに CS/AIX TN3270 サービス・ロケーション・プロトコル・コンポーネントのトレースが含まれています

イップス

ファイルには、指定されたノードのカーネル・コンポーネントに対するトレースが このタイプのトレースは、セット・トレース・タイプ または `add_dlc_trace` コマンド。によってアクティブになります。

dual_files

トレースで 1 つのファイルを使用するか、2 つのファイルに可能な値は次のとおりです

そうだ

トレースでは 2 つのファイルを使用 最初のファイルが `trace_file_size` によって指定されたサイズに達すると、2 番目のファイルがクリアされ、トレースは 2 番目のファイルに続きます。この 2 番目のファイルが `trace_file_size` によって指定されたサイズに達すると、最初のファイルがクリアされ、トレースは最初のファイルに進みます。これにより、過度のディスク・スペースを使用せずに長期間にわたってトレースを継続できるようになります。必要な最大スペースは、`trace_file_size` の値の約 2 倍です。

違う。

トレースは 1 ファイルを使用します。

無変更

`dual_files` の設定は、既存の定義から変更しないでください。(CS/AIX ソフトウェアが開始されると、初期デフォルトでは 2 つのファイルが使用されます。)

trace_file_size

トレース・ファイルの最大サイズ (バイト単位)。既存のトレース・ファイル・サイズ定義の使用を継続するには、0 を指定

dual_files が そうだに設定されている場合、現行ファイルがこのサイズに達すると、2つのファイル間でトレースが切り替わります。*dual_files* が 違う。に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。ファイル・サイズは制限されません。

より大きなシステムで生成されるトレース情報のボリュームを確保するために、CS/AIX クライアント / サーバー・ネットワークのサイズに応じて、トレース・ファイルのサイズを大きくする必要があります。サーバーにアクセスするクライアントまたはユーザーの数が多い場合は、サーバー上のトレース・ファイルのサイズを増やすことを検討してください。

ファイル名

トレース・ファイルの名前、または *dual_files* が そうだに設定されている場合は、最初のトレース・ファイルの名前。前の `set_trace_file` コマンドは、このパラメーターを指定しません。で指定されたファイル名の使用を継続する。

診断ファイル `/var/sna` のデフォルト・ディレクトリー内にファイルを作成するには、パスを指定しないでファイル名を指定します。別のディレクトリーにファイルを作成するには、絶対パスまたはデフォルト・ディレクトリーに対する相対パスのいずれかを指定します。パスを含める場合は、このパスが有効なパス (アプリケーションの作業ディレクトリーに相対するパス、または絶対パス) であることを確認してください。このパスは、このコマンドが発行される先の任意のコンピューター上にあります。

ファイル名 2

2 番目のトレース・ファイルの名前。このパラメーターは、*dual_files* が そうだに設定されている場合のみ使用します。前の `set_trace_file` コマンドは、このパラメーターを指定しません。で指定されたファイル名の使用を継続する。

診断ファイル `/var/sna` のデフォルト・ディレクトリー内にファイルを作成するには、パスを指定しないでファイル名を指定します。別のディレクトリーにファイルを作成するには、絶対パスまたはデフォルト・ディレクトリーに対する相対パスのいずれかを指定します。パスを含める場合は、このパスが有効なパス (アプリケーションの作業ディレクトリーに相対するパス、または絶対パス) であることを確認してください。このパスは、このコマンドが発行される先の任意のコンピューター上にあります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_FILE_NAME

file_name または *file_name_2* パラメーターが有効な AIX ファイル名に設定されていないか、単一トレース・ファイルから二重トレース・ファイルへ変更した際に *file_name_2* が指定されていません。

set_trace_type

INVALID_FILE_TYPE

`trace_file_type` パラメーターが、有効な値に設定されていません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

set_trace_type

`set_trace_type` コマンドは、CS/AIX カーネル・コンポーネントのトレース・オプションを指定します。このコマンドを使用すると、すべてのインターフェースのトレースの状態 (オンまたはオフ) を指定したり、特定のインターフェースのトレースをオンまたはオフにしたりする (他のインターフェースでのトレースは変更しない) ことができます。トレース・オプションについて詳しくは、「[IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド](#)」を参照してください。

DLC 回線トレースを制御するには、`add_dlc_trace` コマンドを使用します。このコマンドで指定された切り捨て長さは DLC トレースにも適用されますが、このコマンドのトレース・オプションは DLC トレースに適用されません。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[<code>set_trace_type</code>] <code>trace_flags</code>	constant		NONE
<code>truncation_length</code>	decimal		1024
<code>init_flags</code>	constant		YES
<code>set_flags</code>	constant		YES

指定パラメーターは、以下のとおりです。

trace_flags

必要なトレースのタイプ。これらのトレース・タイプについて詳しくは、「[IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド](#)」を参照してください。

`init_flags` が YES に設定されている場合は、トレースを活動状態にするインターフェースに対応する値を選択し、トレースを非活動状態にするインターフェースに対応する値は選択しないでください。

`init_flags` が NO に設定されている場合は、トレースの状態を変更するインターフェースに対応する値を選択してください。

すべてのタイプのメッセージのトレースを設定するには、以下のいずれかの値を使用します。

NONE

どのタイプのメッセージのトレースも活動化しません。

ALL

すべてのタイプのメッセージのトレースを活動化します。

特定のインターフェースのトレースを設定するには、(+ 文字で結合された) 以下の 1 つ以上の値を使用します。

APPC

APPC メッセージをトレースします。

LUA

LUA メッセージをトレースします。

NOF

NOF メッセージをトレースします。

MS

MS メッセージをトレースします。

GDLC

GDLC メッセージをトレースします。

IPDLC

Enterprise Extender (HPR/IP) メッセージをトレースします。

NDLC

ノードから DLC へのメッセージをトレースします。

NODE

ノード内部メッセージをトレースします。

SLIM

クライアント/サーバー・システムのサーバー間で送信されるメッセージをトレースします。

DGRM

CS/AIX コンポーネント間の内部制御メッセージをトレースします。

truncation_length

それぞれのメッセージについて、トレース・ファイルに書き込まれる情報の最大長 (バイト単位)。この値は少なくとも 256 でなければなりません。

メッセージがこの値を超えると、CS/AIX はメッセージの始めのみをトレース・ファイルに書き込み、*truncation_length* を超えるデータは廃棄します。この切り捨てにより、各メッセージの最も重要な情報のみを記録し、多くのメッセージでファイルがいっぱいにならないようにします。

切り捨てなし (各メッセージのデータをすべてこのファイルに書き込む) を指定するには、このパラメーターを 0 に設定します。

init_flags

トレースを初期化する (すべてのインターフェースのトレース 状態を定義する) か、1 つ以上のインターフェースのトレース 状態を変更する (他は変更しない) かを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

トレースを初期化します。 *trace_flags* パラメーターは、すべてのインターフェースで必要なトレースの状態を定義します。

NO

トレースの状態を変更します。 *trace_flags* パラメーターは、トレースを活動化または非活動化するインターフェースを定義します。他のインターフェースには影響を与えません。

set_flags

init_flags が NO に設定されている場合、このパラメーターは、要求されたインターフェースでトレースを活動化するか、非活動化するかを指定します。可能な値は次のいずれかです。

YES

trace_flags パラメーターで指定したインターフェースでトレースを活動化します。

NO

trace_flags パラメーターで指定したインターフェースでトレースを非活動化します。

init_flags が YES に設定されている場合、このパラメーターは無視されます。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_TRUNC_LEN

truncation_length パラメーターが、256 バイト未満の長さを指定しました。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

start_dlc

start_dlc コマンドは DLC を活動化します。

このコマンドを発行すると、関連するノードは、活動化されていない場合は自動的に活動化されます。

このコマンドがエラー・メッセージを戻さない場合は、コマンドが正常に発行されたことのみを示します。このコマンドは DLC の初期化を待たないため、DLC の初期化が失敗してもエラー戻りコードを戻しません。DLC 初期化の失敗は、エラー・ログ・ファイルに書き込まれるメッセージによって報告されます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[start_dlc] dlc_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

dlc_name

開始する DLC の名前。この名前は、定義済み DLC の名前と一致する必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc**INVALID_DLC**

`dlc_name` パラメーターで指定した名前は、定義済みの DLC の名前ではありません。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc**DLC_DEACTIVATING**

指定した DLC は既に開始され、非活動化中です。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

start_internal_pu

`start_internal_pu` コマンドは、DLUR がサービスを提供する定義済みローカル PU に対する SSCP-PU セッションの活動化を開始するように、DLUR に要求します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

提供されるパラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[start_internal_pu]			
pu_name	character	8	
dlus_name	character	17	(null string)
bkup_dlus_name	character	17	(null string)

提供されるパラメーター：

プール名

開始される内部 PU の名前。この PU は、`define_internal_pu` を使用して事前に定義されている必要 この名前は、文字で始まるタイプ A の文字ストリングです。

dlus_name

指定された PU に対する SSCP-PU セッションの活動化の活動化に DLUR が接続する DLUS ノードの名前。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の DLUS ノード名で構成される、3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。

`define_internal_pu`、または `define_internal_pu` で DLUS が指定されていない場合は、デフォルトの `define_dlur_defaults` で指定されたグローバル・デフォルトは、このパラメーターを指定しません。で指定された DLUS を使用するには

bkup_dlus_name

DLUR が指定の PU のバックアップ DLUS として保管する DLUS ノードの名前。1 から 8 文字のネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字のバックアップ DLUS 名で構成される、3 文字から 17 文字のタイプ A の文字を指定します。

`define_internal_pu`、または `define_internal_pu` にバックアップ DLUS が指定されていない場合は、デフォルトの `define_dlur_defaults` で指定されたグローバル・バックアップのデフォルトは、このパラメーターを指定しません。で指定されたバックアップ DLUS を使用する場合は

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_DLUS_NAME
dlus_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

INVALID_BKUP_DLUS_NAME
bkup_dlus_name パラメーターに無効または正しくない形式の文字が含まれています。

状態チェック

状態エラーが原因でコマンドが実行されない場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
状態検査

secondary_rc
可能な値は次のとおりです

定義されていないデフォルトの T_DLUS_DEFINED
このコマンドまたは `define_internal_pu`、およびデフォルトの DLUS が定義されていません (デフォルトの `define_dlur_defaults` が発行されていないため)。のいずれにも DLUS 名が指定されませんでした。

PU_NOT_DEFINED
指定した PU 名は、`define_internal_pu`. を使用して定義された内部 PU の名前ではありません

PU_ALREADY_アクティブ化中
PU は既に活動化されています。

プル ALREADY_ACTIVE
PU はすでに活動化されています。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
FUNCTION_NOT_SUPPORTED
ノードは DLUR をサポートしません。このサポートは、`define_node` コマンドの `dlur_support` パラメーターで定義します。

secondary_rc
(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

その他の状態が原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
UNSUCCESSFUL

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

DLUS_REJECTED

DLUS はセッション開始要求を拒否しました。

DLUS_CAPS_MISMATCH

構成した DLUS 名が DLUS ノードではありませんでした。

PU_FAILED_ACTPU

ローカル・ノードは DLUS からのメッセージを拒否しました。原因としては、内部エラー、リソースの不足、受信メッセージの問題が考えられます。CS/AIX ログ・ファイルで詳細を示すメッセージを確認してください。

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

start_ls

start_ls コマンドは、通常、非活動状態のリンク・ステーション (LS) を開始する場合に使用します。また、LS を活動状態でない状態のままにして、必要なときに CS/AIX による自動活動化、またはリモート・システムによる活動化が可能なことを指定する場合も、このコマンドを使用できます。

LS を活動化するためにこのコマンドを使用すると、関連するポート、DLC、およびノードは、活動化されていない場合は自動的に活動化されます。

注:

LS が専用回線の SDLC リンクまたは QLLC PVC リンクの場合、CS/AIX だけでなくリモート・システムによっても活動化されている必要があります。ノードが開始されたときに LS が活動化され、障害後に自動的に再活動化されるように定義し、リンクが常に使用可能になるようにすることを推奨します。詳しくは、132 ページの『define sdlc ls』または 107 ページの『define qlhc ls』を参照してください。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[start_ls] ls_name	character	8	
enable	constant		ACTIVATE

指定パラメーターは、以下のとおりです。

ls_name

開始するリンク・ステーションの名前。この LS は、すでに定義されている必要があります。

enable

LS に対する処置を指定します。

LS を開始するには、このパラメーターを ACTIVATE に設定します。

LS を非アクティブのままにして、必要なときに (CS/AIX またはリモート・システムのいずれかにより) 活動化できるように指定するには、以下の値の 1 つを指定するか、以下の値の両方を (論理 OR で組み合わせて) 指定します。

AUTO_ACT

LS は、セッションで必要なときに CS/AIX によって自動的に活動化されます。この値は、LS が自動活動化できるように定義されている (LS 定義内の *auto_act_supp* が YES に設定されている) 場合にのみ使用してください。stop_ls を使用して LS を手動で停止した後、このアクションによって自動活動化が再度使用可能になります。

REMOTE_ACT

LS は、リモート・システムから活動化できます。この値は、LS 定義にある *disable_remote_act* パラメーターの定義された値を変更しません。したがって、次にこの LS を停止すると、LS 定義での設定に戻ります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

INVALID_LINK_NAME_SPECIFIED

ls_name パラメーターが、定義された LS の名前ではありませんでした。

INVALID_LINK_ENABLE

enable パラメーターが、有効な値に設定されていませんでした。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

ACTIVATION_LIMITS_REACHED

アウトバウンド・リンク活動化限度に達したため、LS は開始できません。

PARALLEL_TGS_NOT_SUPPORTED

リモート・システムとのリンクはすでに活動状態です。隣接ノードは並列伝送グループをサポートしていません。

LINK_DEACT_IN_PROGRESS

指定した LS は非活動化中です。非活動化が完了するまで開始できません。

ALREADY_STARTING

指定した LS はすでに開始されています。

Unsuccessful

リモート・コンピューターの SNA サブシステムに接続できなかったためコマンドが正常に実行されなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
LS_FAILURE

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

PARTNER_NOT_FOUND

この LS に関連するポートから受信する応答がありません。トークンリング、イーサネットの場合：LS 定義内の *mac_address* パラメーターが正しいかどうかを検査します。

ERROR

リモート・コンピューターへの接続が確立されませんでした。この原因としては、リモート・コンピューターの SNA サブシステムが始動していないことが考えられます。LAN タイプ以外のリン

ク・タイプ (トークンリング、イーサネット) の場合は、CS/AIX が、指定されたアドレッシング情報と一致するリモート・コンピューターを見つけることができなかったことを示している場合があります。

その他の条件

他の条件が存在するためにコマンドが実行されない場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

キャンセル済み

secondary_rc

可能な値は次のとおりです

セカンダリー・コードがない

A stop_ls command was issued before the start_ls command had completed. start_ls コマンドは取り消されました。

リンクが非アクティブ

start_ls コマンドが完了する前に、LS によって使用された DLC またはポートが停止されました。start_ls コマンドは取り消されました。

start_port

start_port コマンドは、ポートを活動化するよう要求します。

このコマンドを発行すると、関連する DLC およびノードが活動化されていない場合、自動的に活動化されます。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length
[start_port] port_name	character	8

指定パラメーターは、以下のとおりです。

port_name

開始するポートの名前。ポートがすでに定義されている必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

INVALID_PORT

port_name パラメーターが定義されたポートの名前ではありませんでした。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

DUPLICATE_PORT
指定したポートはすでに開始されています。

STOP_PORT_PENDING
指定したポートは現在非活動化中です。非活動化が完了するまでポートを開始できません。

その他の条件

他の条件が存在するためにコマンドが実行されない場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
キャンセル済み

secondary_rc

セカンダリー・コードがない

stop_port コマンドは、このコマンドが完了する前に発行されました。開始ポート コマンドは取り消されました。

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』。すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせをリストします。

status_all

status_all コマンドは、すべてのリソースに関するステータス情報を戻します。このコマンドは、他の status_* コマンドが戻すすべてのステータス情報を戻します。各 status_* コマンドが戻すステータス情報について詳しくは、[516 ページの『status connectivity』](#)、[517 ページの『status dependent lu』](#)、[520 ページの『status dlur』](#)、[521 ページの『status lu62』](#)、および [522 ページの『status node』](#) を参照してください。

指定パラメーター

Parameter name	Length
[status_all]	

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻り情報

CS/AIX は、他の status_* コマンドで使用可能なすべてのステータス・カテゴリーに関する状況情報を戻します。ノードで従属 LU リクエスター (DLUR) がサポートされていない場合、DLUR ステータスは戻されません。

以下の例は、status_all コマンドで戻される情報を示しています。

戻される情報量は、ディスプレイの幅によって異なります。CS/AIX は、COLUMNS 環境変数を使用して情報量を決定します。COLUMNS が設定されていない場合は、デフォルト値 80 を使用します。Description テキストは、表示スペースが十分ではない場合、省略されたり、切り捨てられたりすることがあります。

```
Returned information for the status_all Command
CS/AIX      Thursday 9:30:20      16 May 1996
=====
Node        Status      Role        Description
-----
george     Active     Controller  Network node
```

```

-----
DLC      Port      LS      PU      Type Status      Description
-----
TOKEN0
          TRP1          TR      Active      /dev/tr0
          TRP2          TRL0     PU0      Inactive    Link to host
          TRP2          TR      Active      Second port
          TRP2          TRL1     AS400    TR      Active      Link to AS/4
          TRP2          TRL2     PUNAME   TR      Stopping   Link to othe
ETH0
          ETHER0      Eth      Active      Another DLC
          ETHER0      Eth      Active      My Ethernet
          DOWN      ETH0     PU5      Eth      On demand  Link for app
          DOWN      PU6      PU6      Eth      Inactive    Downstream t
-----
PU      LS      NAU  LU      LU type  Status      Description
-----
PU0     TRL0          3      Inactive    Link to host
          LU1      DISPLAY Inactive    Freds Display
          LU2      PRINTER  Inactive    Fred's printe
          DEPLU1 LU62      Inactive    Used by APP1
PU5     ETH0          11     SSCP      Link for appl
          LU4      OTHER    Inactive    Used for TN32
          LU5      DISPLAY  Active      Model 5 displ
display user: liz
Computer: george
          13     DEPLU2  LU62      Active      Used by APP2
LU: APPN.PARTNER
          Mode: MODE1
PU6     DOWN          99     Inactive    Downstream to
          DS LU99 PRINTER Inactive    DS for the ot
-----
DLUR PU  LU      DLUS      PLU      Description
-----
DSPU1 (Downstream) APPN.DLUS
          DLU1      Inactive  Inactive
          DLU2      APPN.DLUS APPN.PLU2
PU0     APPN.DLUS
          DLU0      APPN.DLUS APPN.PLU0  Host in Naples
          DLU0      Inactive  Display mod2
PU2     DLU3      Inactive  Inactive  Host in Athens
          DLU3      Inactive  Inactive  Display mod2
-----
LU      LU Alias  Machine  Partner LU  Mode  Session count
-----
GEORGE GEORGE
FRED   FALIAS   client1  APPN.AS400  Inactive  2 Sessions
          APPN.AS400  MODE1
Inactive
          APPN.BOB  MODE2  4
Sessions
=====
Node      Status      Role      Description
-----
leia      Inactive    Backup    Test network
-----
DLC      Port      LS      PU      Type Status      Description
-----
SDLCO
          SDLCP0      SDLC  Active      SDLC dev 1
          SDLC  Inactive    My first por
          HOST      PU0      SDLC  Inactive    Link to host
-----
PU      LS      NAU  LU      LU type  Status      Description
-----
HOST    SDLC          3      Inactive    Link to host
          LU1      DISPLAY  Inactive    Freds Display
-----
LU      LU Alias  Machine  Partner LU  Mode  Session count
-----
LEIA    L_ALIAS          Inactive

```

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIXは、エラーのタイプを示す1次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す2次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

status_connectivity

status_connectivity コマンドは、ノード上のすべての DLC、ポート、およびリンク・ステーションのステータスに関する情報を戻します。

指定パラメーター

```
[status_connectivity]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻り情報

各リソースは、以下の状態いずれかで表示されます。

- Inactive
- Active
- Starting
- Stopping
- On demand (リンク・ステーションのみ)
- Disabled (リンク・ステーションのみ)

以下の例は、status_connectivity コマンドで戻される情報を示しています。

戻される情報量は、ディスプレイの幅によって異なります。CS/AIX は、COLUMNS 環境変数を使用して情報量を決定します。COLUMNS が設定されていない場合は、デフォルト値 80 を使用します。Description テキストは、表示スペースが十分ではない場合、省略されたり、切り捨てられたりすることがあります。

Returned information for the status_connectivity Command

DLC	Port	LS	PU	Type	Status	Description
TOKEN0				TR	Active	/dev/tr0
	TRP1			TR	Inactive	My first por
				TRL0	PU0	TR Inactive Link to host
	TRP2			TR	Active	My second po
				TRL1	AS400	TR Active Link to AS/4
				TRL2	PUNAME	TR Stopping Link to othe
ETH0				Eth	Active	Another DLC
	ETHER0			Eth	Active	My Ethernet
				ETH0	PU5	Eth On demand Link for app
	DOWN		PU6	Eth	Inactive	Downstream t
SDLC0				SDLC	Active	SDLC dev 1
	SDLCP0			SDLC	Inactive	My first por
				HOST	PU0	SDLC Inactive Link to host

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

status_dependent_lu

status_dependent_lu コマンドは、ノード上のすべての従属 LU のステータスに関する情報を戻します。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[status_dependent_lu]			
pu_name	character	8	(null string)
lu_type	constant	ALL	

指定パラメーターは、以下のとおりです。

pu_name

従属 LU が使用する物理装置 (PU) の名前。このパラメーターを指定する場合は、この PU に関連するすべての従属 LU に対してステータスが戻されます。

lu_type

ステータスが戻される LU タイプを指定します。可能な値は次のいずれかです。

ALL

すべての従属 LU のステータスを戻します。

DISPLAY

すべての従属ディスプレイ LU のステータスを戻します。

PRINTER

すべての従属プリンター LU のステータスを戻します。

RJE

リモート・ジョブ入力 (RJE) に対して使用するすべての従属 LU のステータスを戻します。

LU6

タイプ 6.2 のすべての従属 LU を戻します。

OTHER

ディスプレイ、プリンター、RJE、または従属 LU タイプ 6.2 で使用されないすべての従属 LU に対する戻りステータス。

戻り情報

以下のステータス情報が戻されます。

- 物理装置 (PU) は、PU-SSCP セッションが活動状態であるかどうかに応じて、Inactive または SSCP として表示されます。

- PU 上の各論理装置 (LU) は、以下のいずれかとして表示されます。

Inactive

LU とシステム・サービス制御点の間のセッション (LU-SSCP セッション) が活動状態でないことを示します。

SSCP

1 次 LU と 2 次 LU の間のセッション (PLU-SLU セッション) が活動状態でないことを示します。

Active

LU-SSCP セッションと PLU-SLU セッションの両方が活動状態であることを示します。

LU がアプリケーションで使用されている場合、CS/AIX は追加情報を表示します。518 ページの表 5 は、特定のアプリケーション・タイプに対して表示される情報の種類を示しています。

表 5. アプリケーション・タイプごとの追加情報

アプリケーション・タイプ	表示される情報
不明なアプリケーション・タイプ	不明
LUA アプリケーション	LUA アプリケーション server_or_client_hostname
SNA ゲートウェイ	ダウンストリーム LU: dslu_name
FMI アプリケーション (3270)	3270 表示ユーザー: user_name コンピューター: system_name または 3270 プリンター ユーザー: user_name コンピューター: system_name
TN3270 アプリケーション	TN3270 アドレス: cfg_ip_address
従属 LU 6.2	パートナー LU: fqplu_name モード: mode_name

以下の例は、status_dependent_lu コマンドで戻される情報を示しています。

戻される情報量は、ディスプレイの幅によって異なります。CS/AIX は、COLUMNS 環境変数を使用して情報量を決定します。COLUMNS が設定されていない場合は、デフォルト値 80 を使用します。Description テキストは、表示スペースが十分ではない場合、省略されたり、切り捨てられたりすることがあります。

```

Returned information for the status_dependent_lu Command
-----
PU name  Lsname  NAU   LU name  LU type  Status  Description
-----
PU0      TRL0
          3      LU1     DISPLAY Inactive  Link to host
          4      LU2     PRINTER Inactive  Freds Display
          17     DEPLU1 LU62    Inactive  Fred's printer
          SSCP  Link for appl
          10     LU3     RJE     Active   RJE jobs
                                     RJE
workstation: WKS1
                                     Computer:
george
          11     LU4     OTHER  Inactive  Used for TN32
          12     LU5     DISPLAY Active   Model 5 displ
                                     3270 display
user: liz
                                     Computer:

```

```

george
          13  DEPLU2  LU62  Active  Used by APP2
APPN.PARTNER
          Mode: MODE1
PU6      DOWN
          99  DSLU99  PRINTER  Inactive  Downstream to
          DS for the ot
-----

```

特定のPUに関するステータスは、コマンドに *pu_name* パラメーターを指定して取得します。例えば、次のように入力すると、CS/AIX は下の例に示されている情報を戻します。

```
snaadmin status_dependent_lu,pu_name=ETH0
```

```

Returned information for a Specified PU on the status_dependent_lu Command
-----
PU name  Lsname  NAU  LU name  LU type  Status  Description
-----
PU5      ETH0
          10  SSCP    Link for appl
          LU3  RJE     Active  RJE jobs
workstation: WKS1
          RJE
george
          Computer:
          11  LU4    OTHER  Inactive  Used for TN32
          12  LU5    DISPLAY Active  Model 5 displ
          3270 display
user: liz
          Computer:
george
          13  DEPLU2  LU62  Active  Used by APP2
APPN.PARTNER
          Partner LU:
          Mode: MODE1
-----

```

特定のLUタイプのステータスは、コマンドでLUタイプを指定して取得します。以下の値を指定できません。

DISPLAY

3270 ディスプレイ LU

PRINTER

3270 プリンター LU

LU62

従属LUタイプ 6.2

OTHER

無制限タイプ

例えば、次のように入力すると、CS/AIX は下の例に示されている情報を戻します。

```
snaadmin status_dependent_lu, lu_type=DISPLAY
```

```

Returned information for a Specified LU Type on the status_dependent_lu Command
-----
PU name  Lsname  NAU  LU name  LU type  Status  Description
-----
PU0      TRL0
          3  LU1    DISPLAY Inactive  Link to host
          Freds Display
PU5      ETH0
          12  LU5    DISPLAY Active  Model 5 displ
          3270 display
user: liz
          Computer:
george
-----

```

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す1次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す2次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

status_dlur

status_dlur コマンドは、従属 LU リクエスター (DLUR) およびその LU を使用するノードの PU のステータスに関する情報を戻します。実行中のノードでは、このコマンドは、DLUR を使用するダウンストリーム PU に関する情報も戻します。ダウンストリーム PU は Downstream として表示されます。ダウンストリーム PU は、活動状態である場合にのみ表示されます。

指定パラメーター

```
[status_dlur]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻り情報

PU または LU に活動状態の SSCP セッションを含む従属 LU サーバー (DLUS) は、「DLUS」列の下に表示されます。SSCP セッションが活動状態でない場合、この列には Inactive が表示されます。1 次 LU (PLU-SLU セッション) を使用する活動状態のセッションが LU に含まれている場合は、「DLUS」列に PLU 名が表示されます。PLU-SLU セッションが活動状態でない場合、「PLU」列には Inactive が表示されます。以下の例は、status_dlur コマンドに対して戻される情報を示しています。

戻される情報量は、ディスプレイの幅によって異なります。CS/AIX は、COLUMNS 環境変数を使用して情報量を決定します。COLUMNS が設定されていない場合は、デフォルト値 80 を使用します。Description テキストは、表示スペースが十分ではない場合、省略されたり、切り捨てられたりすることがあります。

```
Returned information for the status_dlur Command
```

DLUR	PU	LU name	DLUS	PLU	Description

	DSPU1 (Downstream)		APPN.DLUS		
			DLU1	Inactive	Inactive
			DLU2	APPN.DLUS	APPN.PLU2
	PU0		APPN.DLUS		Host in Naples
			DLU0	APPN.DLUS	APPN.PLU0
	PU2		Inactive		Host in Athens
			DLU3	Inactive	Inactive
					Display mod2

特定の PU の状況は、コマンドに *pu_name* パラメーターを指定して取得します。

```
snaadmin status_dlur, pu_name=PUName
```

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

status_lu62

status_lu62 コマンドは、タイプ 6.2 の従属 LU および独立 LU のステータスに関する情報を戻します。

指定パラメーター

```
[status_lu62]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻り情報

戻される情報には、現在活動状態であるか、またはノードが開始された後に活動状態であった ローカル LU、パートナー LU、およびモードの組み合わせに対するセッション・カウントが含まれています。Machine パラメーターには、着信接続のターゲットであるトランザクション・プログラム (TP) が実行されているコンピューター名が表示されます。以下の例は、status_lu62 コマンドで戻される情報を示しています。

```
Returned information for the status_lu62 Command
-----
LU name  LU Alias  Machine  Partner LU  Mode          Session count
-----
GEORGE   GEORGE
FRED     FALIAS    mynode   APPN.AS400  CPSVGMGR      Inactive
                                           2 Sessions
                                           APPN.AS400  MODE1      Inactive
                                           APPN.BOB   MODE2      4 Sessions
-----
```

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

status_node

status_node コマンドは、ドメイン内のノードのリストを戻し、これらのノードのステータス、構成ロール、および説明を提供します。

指定パラメーター

```
[status_node]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻り情報

ノードのステータスは、以下のいずれかとして表示されます。

- Inactive
- Active
- Starting
- Stopping

構成ロールは、以下のいずれかとして表示されます。

- Controller
- Backup
- (空白); サーバーが、コントローラーまたはバックアップのいずれでもないことを示します。

以下の例は、status_node コマンドで戻される情報を示しています。

戻される情報量は、ディスプレイの幅によって異なります。CS/AIX は、COLUMNS 環境変数を使用して情報量を決定します。COLUMNS が設定されていない場合は、デフォルト値 80 を使用します。Description テキストは、表示スペースが十分ではない場合、省略されたり、切り捨てられたりすることがあります。

```
Returned information for the status_node Command
```

Node name	Status	Role	Description
george	Active	Controller	Main server
leia	Inactive	Backup	Backup system
queenie	Inactive		

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

status_remote_node

status_remote_node コマンドは、リモート・ノード、およびローカル・ノードのセッション (存在する場合) に関する情報が戻されます。

パラメーター

```
[status_remote_node]
```

このコマンドには、パラメーターは指定されていません。

戻り情報

リモート・ノード名は、「リモート・システム」列の下に表示されます。リモート・ノードは、パートナー LU を定義すると明示的に定義できます。また、リモート・ノードは、パートナー LU がローカル LU とのセッションを確立すると動的に決定できます。明示的に定義したリモート・ノードは、活動状態のセッションを含むかどうかは常に出力に表示されます。動的なリモート・ノードは、ローカル・ノードとリモート・ノードの間のセッションが活動状態である場合にのみ表示されます。

パートナー LU 名は、「パートナー LU」列の下に表示されます。パートナー LU 名がワイルドカード LU 名として定義されている場合、「ワイルドカード」列には Yes が表示されます。ローカル LU を使用する活動状態のセッションがリモート LU に含まれている場合は、ローカル LU 名およびモード名が表示されます。セッションが活動状態でない場合、「セッション・カウント」列には Inactive が表示されます。

以下の例は、status_dlur コマンドに対して戻される情報を示しています。

戻される情報量は、ディスプレイの幅によって異なります。CS/AIX は、COLUMNS 環境変数を使用して情報量を決定します。COLUMNS が設定されていない場合は、デフォルト値 80 を使用します。Description テキストは、表示スペースが十分ではない場合、省略されたり、切り捨てられたりすることがあります。

```
Returned information for the status_remote_node Command
```

Remote System	Partner LU	Wildcard	Local LU	Mode	Session Count
APPN.ACENODE					
APPN.BARTLOCN					
Inactive		APPN.BARTLOCN			
APPN.REMNODE					
Inactive		APN.FRED		Yes	
Inactive		APPN.PART			
Inactive		APPN.PART2			
Inactive		APPN.REMNODE			
Inactive		APPN.TCPIP			
Inactive		APPN.WILD		Yes	
Inactive					
APPN.SOS1					
APPN.ZAMBIA					

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

stop_dlc

stop_dlc コマンドは、CS/AIX に DLC を停止するよう要求します。また、このコマンドは、DLC を使用する活動状態のポートおよびリンク・ステーションも停止します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[stop_dlc]			
stop_type	constant		ORDERLY_STOP
dlc_name	character	8	

指定パラメーターは、以下のとおりです。

stop_type

必要な停止処理のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

ORDERLY_STOP

CS/AIX は DLC を停止する前に終結処理を実行します。

IMMEDIATE_STOP

CS/AIX は DLC を即時停止します。

dlc_name

停止する DLC の名前。この名前は、定義済み DLC の名前と一致する必要があります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_DLC

dlc_name パラメーターは、定義された DLC の名前に一致しませんでした。

UNRECOGNIZED_DEACT_TYPE

stop_type パラメーターが、有効な値に設定されていませんでした。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
STOP_DLC_PENDING
指定した DLC はすでに停止しています。

その他の状態

その他の状態が原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
CANCELLED

secondary_rc
NO_SECONDARY_RC
stop_type パラメーターは通常の停止を指定していましたが、DLC は、即時停止を指定した 2 番目のコマンドまたは障害状態により停止しました。

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

stop_internal_pu

stop_internal_pu コマンドは、DLUR を要求して、DLUR が提供する定義済みローカル PU に対する SSCP-PU セッションの非活動化を開始します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[stop_internal_pu] pu_name	character	8	
stop_type	constant		ORDERLY_STOP

指定パラメーターは、以下のとおりです。

pu_name
SSCP-PU セッションを非活動化する内部 PU の名前。この名前は、文字から始まるタイプ A の文字ストリングです。

stop_type
PU を停止する方法を指定します。可能な値は次のいずれかです。

ORDERLY_STOP
基礎 PLU-SLU セッションおよび基礎 SSCP-LU セッションをすべて非活動化してから、SSCP-PU セッションを非活動化します。

IMMEDIATE_STOP
SSCP-PU セッションをすぐに非活動化します。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
PARAMETER_CHECK

secondary_rc
INVALID_STOP_TYPE
stop_type パラメーターが、有効な値に設定されていませんでした。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
STATE_CHECK

secondary_rc
可能な値は次のいずれかです。

PU_NOT_DEFINED
指定した PU 名は、定義された内部 PU の名前に一致しませんでした。

PU_ALREADY_DEACTIVATING
PU はすでに非活動化されています。

PU_NOT_ACTIVE
PU は活動状態ではありません。

サポートされていない機能

このコマンドがノード構成でサポートされていないために実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc
FUNCTION_NOT_SUPPORTED

ノードは DLUR をサポートしません。このサポートは、`define_node` コマンドの `dlur_support` パラメーターで定義します。

secondary_rc
(このパラメーターは使用されません。)

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

stop_ls

`stop_ls` コマンドは、アクティブな LS を停止します。あるいは、非アクティブ LS に対してコマンドを発行して、CS/AIX が LS を自動的に活動化できないか、またはリモート・システムによって活動化できないことを指定することもできます。これらの両方が使用不可の場合は、`start_ls` を発行することによってのみ LS を活動化することができます。

このコマンドは実行中のノードに対して発行する必要があります

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[<code>stop_ls</code>]			
<code>stop_type</code>	constant		ORDERLY_STOP

ls_name	character	8	
disable	constant		NO

指定パラメーターは、以下のとおりです。

stop_type

必要な停止処理のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

ORDERLY_STOP

CS/AIX は LS を停止する前に終結処理を実行します。

IMMEDIATE_STOP

CS/AIX は、LS を即時停止します。

ls_name

停止する LS の名前。

disable

LS に対する処置を指定します。

活動状態である LS を停止し、自動活動化およびリモート活動化に関する デフォルト設定に戻すには、このパラメーターを NO に設定します。

アクティブでない LS を CS/AIX によって、またはリモート・システムによって活動化できないように指定するには、以下の値の 1 つを指定するか、または両方を (+ 文字で組み合わせて) 指定します。

AUTO_ACT

LS は、CS/AIX により自動的に活動化することはできません。

REMOTE_ACT

LS は、リモート・システムにより活動化することはできません。この値は、LS 定義内の *disable_remote_act* の定義された値は変更しません。次に LS が開始されて停止されると、LS は定義された設定に戻ります。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

LINK_NOT_DEFD

ls_name パラメーターは、定義された LS の名前に一致しませんでした。

UNRECOGNIZED_DEACT_TYPE

stop_type パラメーターが、有効な値に設定されていませんでした。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

stop_port

secondary_rc

LINK_DEACT_IN_PROGRESS

指定した LS はすでに非活動化されています。

その他の状態

その他の状態が原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

CANCELLED

secondary_rc

NO_SECONDARY_RC

stop_type パラメーターは通常の停止を指定していましたが、LS は、即時停止を指定した 2 番目のコマンドまたは障害状態により停止しました。

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

stop_port

stop_port コマンドは、ポートを停止します。また、このコマンドは、ポートを使用する活動状態であるリンク・ステーションも停止します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name	Type	Length	Default
[stop_port]			
stop_type	constant		ORDERLY_STOP
port_name	character	8	

指定パラメーターは、以下のとおりです。

stop_type

必要な停止処理のタイプ。可能な値は次のいずれかです。

ORDERLY_STOP

CS/AIX は、ポートを停止する前に終結処理を実行します。

IMMEDIATE_STOP

CS/AIX は、すぐにポートを停止します。

port_name

停止するポートの名前。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

パラメーター・エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻しません。

primary_rc

PARAMETER_CHECK

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

INVALID_PORT_NAME

`port_name` パラメーターは、定義されたポートの名前に一致しませんでした。

UNRECOGNIZED_DEACT_TYPE

`stop_type` パラメーターが、有効な値に設定されていませんでした。

状態の検査

状態エラーが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

STATE_CHECK

secondary_rc**STOP_PORT_PENDING**

指定したポートはすでに非活動化されています。

その他の状態

その他の条件が原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

CANCELLED

secondary_rc**NO_SECONDARY_RC**

`stop_type` パラメーターは通常の停止を指定していましたが、ポートは、即時停止を指定した 2 番目のコマンドまたは障害状態により停止しました。

531 ページの『付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

term_node

`term_node` コマンドは、指定した緊急度を使用してノードを停止し、このノードに関連するすべての接続リソースも停止します。

このコマンドは、実行中のノードに対して実行する必要があります。

指定パラメーター

Parameter name [term_node]	Type	Length	Default
<code>stop_type</code>		constant	SHUTDOWN

指定パラメーターは、以下のとおりです。

stop_type

CS/AIX がノードを停止する方法を指定します。可能な値は次のいずれかです。

ABORT

最終処理をまったく行わずにすぐに停止します。この値は、ノードのリソースを使用している他のプログラムに問題を引き起こす場合があるため、重大エラー状態の場合のみ使用してください。

SHUTDOWN

ノードに関連したリンク・ステーションをすべて非活動化してから、ノードを停止します。

QUIESCE

ノードが休止されたことを APPN ネットワークに示し、すべてのモードでセッション限度をリセットし、ノードの LU のすべてのセッションをアンバインドしてから、SHUTDOWN の場合と同様に停

止します。ネットワーク・ノードの場合、このノードで活動状態である ISR セッションは終了します。

QUIESCE_ISR

QUIESCE と同じ機能ですが、ノードはすべての中間セッションの終了を待ちます。この値はネットワーク・ノード のみに適用されます。

DEACT_CLEAN

セッション限度はリセットされないこと、およびリンク・ステーションを非活動状態にする前に RTP 接続を正常に終了できることを除いて、QUIESCE と同じ機能です。

戻りパラメーター

このコマンドが正常に実行された場合は、CS/AIX によって戻されるパラメーターはありません。

エラー戻りコード

コマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は、エラーのタイプを示す 1 次戻りコード、および実行不成功の理由の具体的な詳細を示す 2 次戻りコードを戻します。

パラメーターの検査

このコマンドでは、パラメーター・エラーは発生しません。

状態の検査

このコマンドでは、531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』にリストされている状態エラー以外に特定の状態エラーは発生しません。

その他の状態

531 ページの『[付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード](#)』に、すべてのコマンドに共通の 1 次戻りコードと 2 次戻りコードの組み合わせがリストされています。

付録 A snaadmin コマンドの共通戻りコード

このセクションでは、すべての snaadmin コマンドで共通の 1 次および 2 次の戻りコード値について説明します。特定のコマンドに固有の戻りコードについては、個別のコマンドの項で説明されています。

非アクティブの通信サブシステム

必要なコンポーネントがアクティブでないことが原因でコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

COMM_SUBSYSTEM_ABENDED

secondary_rc

可能な値は次のいずれかです。

LOCAL_ABENDED

CS/AIX ソフトウェアが停止しました。

TARGET_ABENDED

ターゲット・ノードが停止したか、またはターゲット・ノードへの通信パスに障害が発生しました。

primary_rc

COMM_SUBSYSTEM_NOT_LOADED

CS/AIX ソフトウェアがアクティブではありません。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

primary_rc

NODE_NOT_STARTED

ターゲット・ノードが開始されていません。このコマンドは、活動状態のノードに対して発行する必要があります。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

primary_rc

NODE_STOPPING

ターゲット・ノードは停止処理中です。このコマンドは、活動状態のノードに対して発行する必要があります。

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

サポートされていない機能

ノード構成でコマンドがサポートされていないために、このコマンドを実行できなかった場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

INVALID_VERB

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

primary_rc

FUNCTION_NOT_SUPPORTED

secondary_rc

(このパラメーターは使用されません。)

パラメーターの検査

共通のパラメーター検査戻りコードはありません。特定のコマンドに固有のパラメーター検査戻りコードについては、個別のコマンドの項で説明されています。

状態チェック

状態チェックのためにコマンドが実行されない場合、CS/AIX は以下のパラメーターを戻します。

primary_rc

状態検査

secondary_rc

可能な値は次のとおりです

CANT_MODIFY_可視性

CS/AIX によって内部的に使用するために予約されている名前を持つリソースを定義しようとした。別の名前を選択してください。

ロックされたファイル

別の管理プログラムまたは NOF アプリケーションが構成ファイルをロックしました。他のアプリケーションが処理を完了するまで待ってから、再試行してください。

この状態が続く場合は、コマンド `verifysna -R` を実行してロックをクリアすることができます。

ファイルが使用不可

ターゲット構成ファイルへの接続が失われました。

無効バージョン

構成ファイル・ヘッダー内の CS/AIX のバージョン番号が、使用している CS/AIX ソフトウェアのバージョン番号と一致していません。正しいファイルを持っていることを確認してください。

許可されない

ユーザーのログイン ID が SNA 管理者グループ システムのメンバーではないため、この管理コマンドを発行する権限がありません。以下を発行できます `query_*` または `status_*` コマンドは、CS/AIX リソースに関する情報を表示しますが、リソースを変更、開始、または停止することはできません。

システム・エラー

システム・エラーが発生したためにコマンドが実行されない場合、CS/AIX は次のパラメーターを戻します。

primary_rc

予期しないシステム・エラー

コマンドが処理されている間に、オペレーティング・システム呼び出しが失敗しました。

secondary_rc

この場合、2 次戻りコードはオペレーティング・システム呼び出しからの戻りコードです。この戻りコードの意味については、エラーが発生したコンピューター上の `errno.h` ファイル。の戻り値を確認してください。

ターゲット構成 (`define_*` や削除 `delete_*` など) を変更するためにコマンドが発行された場合、またはアクション (`びっくり*` など) を実行する場合は、該当する `query_*` コマンドを発行して、変更またはアクションが正常に行われたかどうかを判別してください。サブレコードを含む `define_*` または削除 `delete_*` コマンドの処理中にこのエラーが発生した場合、その変更は不完全である可能性があります。

付録 B 構成ファイル

この付録では、以下について説明します。

- CS/AIX ノードおよびドメイン・リソースの初期定義
- 構成ファイルのフォーマット
- Motif プログラムによるノードおよびドメイン・リソースの変更
- snaadmin プログラムへのファイル入力

初期構成ファイル

ノードのリソースの構成レコードは、ノード構成ファイル内に含まれています。CS/AIX ソフトウェアを開始する場合は、構成ファイル `/etc/sna/sna_node.cfg` が、ノードの構成の初期定義として使用されます。CS/AIX は、このファイル内の情報を使用して、ノードが開始されたときに使用可能なリソースを定義し、最初に活動状態になるよう指定したリソースを開始します。

ドメイン・リソースの構成レコードは、個別のノード構成ファイルではなく、ドメイン構成ファイルに含まれています。ドメイン・リソースとノード・リソースの違いについては、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 管理ガイド*」を参照してください。

CS/AIX ソフトウェアをコントローラー・サーバー上で開始する場合は、ドメイン構成ファイル `/etc/sna/sna_domn.cfg` が、CS/AIX ドメイン・リソースの初期定義として使用されます。

ファイルを開くことができないか、またはファイルに無効な情報が含まれている場合、CS/AIX ノードは開始されません。CS/AIX の開始について詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 管理ガイド*」を参照してください。

構成ファイルのフォーマット

CS/AIX 構成ファイルは、読み取り可能なテキスト形式で保管された情報を持つ ASCII テキスト・ファイルです。標準の ASCII テキスト・エディターを使用して、構成をセットアップまたは検査することができます。

テキスト・エディターを使用して構成ファイルを変更することはできますが、これを行うのは、CS/AIX ソフトウェアが実行されていない場合のみです。この方法でファイルを変更することはお勧めできません。ただし、初期構成をセットアップする場合 (CS/AIX ソフトウェアを開始する前) にはお勧めしません。CS/AIX ソフトウェアの実行中に構成を変更するには、コマンド行管理プログラムまたは Motif 管理プログラムを使用します。テキスト・エディターを使用してノードの構成ファイルを変更する必要がある場合は、そのノード上で CS/AIX ソフトウェアを実行してはなりません。また、テキスト・エディターを使用してドメイン構成ファイルを変更する必要がある場合は、まずすべてのサーバー上の CS/AIX ソフトウェアを停止し、コントローラー・サーバー上のファイルを変更してから、コントローラー・サーバー上で CS/AIX ソフトウェアを再始動してから、他のサーバーで再始動する必要があります。

注:

構成コマンドが発行されたとき、または Motif インターフェースを使用して構成が変更された場合、両方の CS/AIX 構成ファイルが所有サーバーによって再生成されます。CS/AIX ソフトウェアの実行中に、テキスト・エディターを使用してファイルを変更した場合、これらの条件によってファイルへの変更が上書きされ、ファイル内のフィールドの順序が変更される場合があります。

構成ファイルは、`[define_node_config_file]` または `[define_domain_config_file]` のヘッダー・レコードとそれに続く一連の `[define_*]` および `[set_*]` 管理レコードで構成されます。各管理レコードには、CS/AIX 管理コマンドのパラメーターが含まれています。ヘッダー・レコードおよび管理レコードは以下のように使用されます。

- ヘッダー・レコードには、CS/AIX のバージョン番号などの情報が入っています。

構成ファイルのフォーマット

- [define_*] 管理レコードは、使用可能なリソース(ローカル・ノードとそのリソース(ノード・リソース))、または特定のノード(ドメイン・リソース)に関連付けられていないリソースを定義します。
- [set_*] 管理レコードは、診断ファイルの場所、および記録する診断情報のタイプなど、CS/AIX の操作方法を決定するパラメーターを設定します。

ノード構成ファイルは、[define_node_config_file] ヘッダー・レコード、ノードを定義する [define_node] レコード、およびノードのリソースを定義する一連の [define_*] と [set_*] のレコードで構成されます。ドメイン構成ファイルは、[define_domain_config_file] ヘッダー・レコードと、ドメイン・リソースを定義する一連の [define_*] レコードと [set_*] レコードで構成されます。

その他のタイプの管理コマンド(開始*、stop_*、および delete_* は、構成ファイルでは使用されません。これらのコマンドは、実行中の CS/AIX システムを管理する場合にのみ使用されます。など)

ファイル内のこれらのレコードの順序については、[534 ページの『構成ファイル内のレコードの順序』](#)を参照してください。

構成ファイル内のレコードの順序

ノード構成ファイルでは、最初のレコードは [define_node_config_file] ヘッダー・レコードです。このヘッダー・レコードは、CS/AIX のバージョン番号およびファイルの改訂レベルを定義します。このヘッダー・レコードの後には、[define_node] レコードが続く、その後ノードに関連するすべてのリソースの [define_*] レコードと [set_*] レコードが続く必要があります。

[define_node_config_file] レコードは、構成ファイルを作成するときに、CS/AIX によって自動的にセットアップされます。snaadmin プログラムを使用してこのレコードにアクセスすることはできません。また、ファイルを編集しているときに、このレコードを変更しないでください。

ドメイン構成ファイルでは、最初のレコードは [define_domain_config_file] ヘッダー・レコードです。このヘッダー・レコードは、CS/AIX のバージョン番号とファイルの改訂レベル(オプションで、ファイルのコンテンツについて説明しているコメント・ストリングを含む)を定義します。このヘッダー・レコードの後には、ドメイン・リソースの [define_*] レコードが続く必要があります。ドメイン・リソース・レコードの順序に関する制限はありません。

レコード・フォーマット

各レコードは、以下のフォーマットで定義されています。

```
[command_name]
parameter_name = value
parameter_name = value
.
.
parameter_name = value
```

command_name は、大括弧で囲む必要があります。この後に、それぞれ個別の行にある一連のパラメーター・エントリーが続きます。行の末尾の円記号(¥)は、エントリーが次の行に続いていることを示します。

特定のレコードと関連するすべてのパラメーターは、そのレコードの *command_name* の後、およびファイル内の次のレコードの *command_name* の前にリストされている必要があります。ただし、レコード内の個別のパラメーターの順序(コマンド記述で示されている場合以外)は重要ではありません。また、CS/AIX では数多くのパラメーターにデフォルト値が提供されているため、すべてのパラメーターを明示的に指定する必要はありません。詳しくは、[4 ページの『管理コマンドに使用されるパラメーターの構文』](#)を参照してください。

以下の例は、[define_lu_0_to_3] レコードを指定する 1 つの方法を示しています。このコマンドに関連するパラメーターについて詳しくは、[78 ページの『define lu_0 to 3』](#)を参照してください。*priority* パラメーターが含まれていないため、CS/AIX はデフォルト値の MEDIUM を使用します。オプション・パラメーターの *description* および *pool_name* も含まれていません。

```
[define_lu_0_to_3]
lu_name = LU$01
```

```
nau_address = 1
pu_name = PU2
lu_model = 3270_DISPLAY_MODEL_2
```

サブレコード・フォーマット

構成レコードには、レコード・タイプのインスタンスによって形式が異なるデータを含むものがあります。例えば、[define_cos] レコードには、ノード行および TG 行の変数番号が含まれています。この多様性を処理するには、変数データをオプションのサブレコードに指定します。つまり、レコードは、レコード・タイプのすべてのインスタンスに共通した一連のパラメーターと、その後続く変数データを含むサブレコードで構成されます。

1 つ以上のサブレコードを含むレコードは、以下のように定義されます。

```
[command_name]
parameter_name = value
.
.
parameter_name = value

{subrecord_name}
parameter_name = value
.
.
parameter_name = value

{subrecord_name}
parameter_name = value
.
.
parameter_name = value
```

subrecord_name は、中括弧で囲む必要があります。この後に、それぞれ個別の行にある、このサブレコードに関連する一連のパラメーター・エントリーが続きます。

command_name に関連した (およびサブレコードには関連しない) すべてのパラメーターは、*command_name* の後、かつ最初の *subrecord_name* の前に指定する必要があります。特定の *subrecord_name* に関連したすべてのパラメーターは、*subrecord_name* の後、かつ次の *subrecord_name* (ある場合) か次の *command_name* の前に指定する必要があります。ただし、サブレコード内の個別のパラメーターの順序は重要ではありません。詳しくは、[4 ページの『管理コマンドに使用されるパラメーターの構文』](#)を参照してください。

Motif 管理プログラムによる構成ファイルの変更

Motif 管理プログラムを使用してパラメーターを構成する場合、Motif プログラムはノードとドメインの構成ファイルを更新します。構成ファイル内のエントリーは、Motif 画面に以下の方法で入力したエントリーと異なる場合があります。

- Motif 画面で、許可されている長さよりも少ない文字 (または 16 進バイト) で名前を入力する場合、CS/AIX は、ブランク文字でその名前を埋め込み (または 16 進値を拡張し)、その名前に許可されている最大長 (または完全な 16 進幅) と等しくなるように長さを調整します。例えば、ノードを定義するときに、(128 文字を許可されている) *node_name* パラメーターに Node1 を入力すると、CS/AIX は、123 文字のブランク文字で Node1 を埋め込み、ノード構成レコード内の値がこのパラメーターに許可されている最大長になるようにします。
- Motif 画面に 16 進数字 A、B、C、D、E、および F を入力する場合、CS/AIX は、構成ファイル内でこれらの文字を a、b、c、d、e、および f に変更します。
- Motif 画面で、デフォルト値がヌル・ストリングであるパラメーターに値を入力しない場合、CS/AIX は、構成ファイル内でそのパラメーターの値にヌル・ストリングを追加します。
- CS/AIX は、一部のコマンド名を置換します。例えば、Motif 画面で隣接 LEN ノードを定義する場合、CS/AIX は、構成ファイル内の [define_directory_entry] レコードを置換します。隣接 LEN ノードの定義とディレクトリー・エントリーの定義の関係について詳しくは、[40 ページの『define_directory_entry』](#)を参照してください。

snaadmin プログラムへのファイル入力

コマンド行管理プログラム snaadmin は、コマンド行から直接入力する代わりに、テキスト・ファイルからその入力を行うことができます。snaadmin 入力ファイルに使用されるファイル・フォーマットは、CS/AIX 構成ファイルのフォーマットと同じです。このセクションの情報は、CS/AIX ソフトウェアの開始時に使用される構成ファイルに加え、snaadmin にも適用されます。

構成ファイルのフォーマットと snaadmin 入力ファイルは次のとおりですの間の唯一の相違点

- A configuration file used at startup can include only records corresponding to define_* and 設定値 * commands; the snaadmin input file can include records corresponding to all the different types of administration commands (define_*, 設定値 *, 開始*, stop_*, query_*, and delete_*). The records for the additional commands are included in the snaadmin file using the same format as for [define_*] and [set_*] records. これらのコマンドの使用法については、[1 ページの『第 1 章 伝来』](#)を参照してください。
- この構成ファイルには、CS/AIX ノードまたは CS/AIX ドメイン・リソースの完全な構成が含まれていません。snaadmin 入力ファイルには、完全な情報または部分情報 (既存の構成を変更または照会するための情報) を含めることができます。
- [define_node_config_file] および [define_domain_config_file] ヘッダー・レコードは、snaadmin 入力ファイル。内では必要ありません。

サンプルの snaadmin 入力ファイル

CS/AIX は、snaadmin プログラムへの入力として使用できる一連のサンプル・ファイルを提供します。これらのファイルには、一連の標準的な CS/AIX 構成のセットアップに必要な管理コマンドが含まれています。

入力ファイル・フォーマットは構成ファイル・フォーマットと同じであるため、これらのファイルをさまざまな構成ファイル・レコードの指定方法の例として使用することができます。ただし、これらのファイルは、初期構成ファイルとしてではなく、snaadmin プログラムへの入力ファイルとして使用することを目的としています。特に、ノード・レコードとドメイン・レコードの両方が含まれていますが、これは入力ファイルでは有効ですが、構成ファイル内には含まれていません。ファイルの 1 つを使用するには、以下のステップを実行します。

1. ファイルの内容を確認し、必要に応じて構成要件に適合するようにレコードを変更します。例えば、ホスト接続を定義するファイルの 1 つを使用している場合は、ホスト構成に一致するように、隣接 CP 名と LU 名を変更する必要があります。
2. CS/AIX ソフトウェアが実行中の場合は、停止します。CS/AIX ソフトウェアを停止する方法については、「AIX 管理ガイド上のデータ・センター・デプロイメント用 *IBM Communications Server*」を参照してください。
3. ディレクトリー /etc/sna で、ノード構成ファイル sna_node.cfg が存在していないこと、およびドメイン構成ファイル sna_domn.cfg に、ヘッダー・レコード以外の構成レコードが含まれていないことを確認してください。ドメイン構成ファイルの空のバージョンは、CS/AIX と共に提供されます。独自の構成ファイルを作成した場合、または提供された空のファイルにレコードを追加した場合は、変更のコピーを保存してから、ノード構成ファイルを削除し、ヘッダー・レコードを除くすべてのレコードをドメイン構成ファイルから削除します。
4. CS/AIX ソフトウェアを開始します。
5. 以下のコマンドを使用して、構成を定義します。

```
snaadmin -i 新規.cfg
```

新規.cfg という値は、使用している入力ファイルの名前を表します (ステップ 1 で行った変更を使用)。

6. 以下のコマンドを使用して、ノードを開始します (これにより、ファイルに定義されているすべてのリソースが、最初はアクティブとして定義されます)。

```
snaadmin init_node
```


CS/AIX と一緒に提供されるサンプル・ファイル

サンプル・ファイルは、ディレクトリー /usr/lib/sna/samples に入れて提供されます。サンプル・ファイルは、以下のとおりです。

config1.cfg

形式 3 XID を出すホストに対する SDLC 専用回線 (初期にアクティブになる) 上の、HCON をサポートする LEN ノードの構成。この構成には、2 ユーザーが含まれ、それぞれに 1 つの HCON セッションがあります。

config4.cfg

APPN エンド・ノードへの SDLC 交換発信回線 (オンデマンドで活動化される) 上で従属 APPC 通信をサポートする LEN ノードの構成。この構成には、単一のローカル LU が含まれます。

config6.cfg

SNA ゲートウェイをサポートする、LEN ノードの構成。アップストリーム・リンクは、形式 3 XID を出すホストに対する (初期にアクティブになる) SDLC 専用回線です。トークンリング上には 2 つのダウンストリーム・リンクがあります。この構成には、HCON が使用する 4 つのダウンストリーム LU が含まれ、4 つのホスト LU にマップされています。

config7a.cfg、config7b.cfg

APPC over Ethernet を使用してピアツーピアで通信する、ネットワーク・ノードとエンド・ノードの構成。この構成には、それぞれのノードに単一のローカル LU が含まれます。

付録 C 環境変数

CS/AIX は、その操作を制御するために、いくつかの環境変数を使用します。これは、サーバー上で CS/AIX ソフトウェアを使用可能にする前に設定するか、SNA プログラムを実行するこの付録では、CS/AIX プログラムによって使用されるすべての環境変数のアルファベット順のリストを記載しています。これには、CS/AIX が各変数を使用する方法の簡単な要約が含まれます。また、CS/AIX 文書セット内の他の場所で提供される追加情報に対する相互参照も提供

これらの環境変数のほとんどは、CS/AIX プログラムに固有のもので、小さい数は、ご使用のコンピューター上の他のプログラムによって使用される可能性のある標準の AIX 環境変数です。他のプログラムで使用するためには、これらの変数の設定を変更する必要がある場合があります。また、CS/AIX のプログラムも

CS/AIX を開始する前に環境変数を設定する必要がある場合、これらの変数を管理する最も簡単な方法は、CS/AIX が始動時に読み取るテキスト・ファイルに設定することです。CS/AIX 構成ディレクトリー /etc/sna で、環境という名前のテキスト・ファイルを作成し、各環境変数を別々の行に設定します。例えば、

```
SNA_SERVER_NAME=domain.hostnamealias をエクスポートします
```

```
TN_INTRUSION_DETECTION=1 のエクスポート
```

すべての機能に影響を与える環境変数

LANG

LANG 環境変数の設定は、CS/AIX で提供されているオンライン・ヘルプやメッセージ・カタログで使われる言語を決定します。

パス

CS/AIX は、パス 環境変数を使用して、実行可能プログラムが AIX コンピューター上に保管される場所を指定します。

プログラムは、ディレクトリー /usr/bin に保管されます。このディレクトリーを . ログイン ファイルまたは . プロファイル ファイル内のパス 環境変数の定義に追加すると、プログラムは自動的に配置されます。

あるいは、以下の例のように、プログラムの実行時にディレクトリー名を指定することもできます。

```
/usr/bin/snaadmin init_node
```

CS/AIX マニュアルに示されているサンプル・コマンド行では、ディレクトリーがパス 環境変数に追加されていることを前提としており、ディレクトリー名は含まれていないことを前提としています。

CPI-C 通信に影響を与える環境変数

APPCLLU

CS/AIX CPI-C ライブラリーでは、APPCLLU を使用して、CPI-C アプリケーションで 使用されるローカル APPC LU の名前を指定します。CPI-C アプリケーションで使用されるローカル LU 別名は、define_cplic_side_info コマンドを使用して構成できます。環境変数 APPCLLU は、この別名をオーバーライドします。

APPCLLU を設定する場合は、完全修飾 LU 名 (1 から 8 文字の ネットワーク名、ピリオド、1 から 8 文字の ローカル LU 名で構成) ではなく、LU 別名値 (1 から 8 文字) を使用します。

CSV API に影響を与える環境変数

CPI-C アプリケーションを開始する前に APPCLLU を設定しない場合、プログラムはデフォルト・ローカル LU を使用します。

詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux CPI-C プログラマーズ・ガイド*」の CPI-C アプリケーションのローカル LU に関する情報を参照してください。

APPCTPN

CS/AIX CPI-C ライブラリーでは、APPCTPN を使用して、CPI-C アプリケーションで 使用されるローカル TP 名を指定します。CPI-C アプリケーションを開始する前に APPCTPN を設定しない場合、プログラムはデフォルト値 CPIC_DEFAULT_TPNAME を使用します。

詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux CPI-C プログラマーズ・ガイド*」の CPI-C アプリケーションの TP 名に関する情報を参照してください。

CLASSPATH

Java CPI-C アプリケーションでは、CLASSPATH を使用して、Java CPI-C アプリケーションで使用される Java クラスを含むディレクトリーを指定します。

詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux CPI-C プログラマーズ・ガイド*」の Java CPI-C アプリケーションのコンパイルおよびリンクに関する情報を参照してください。

LD_LIBRARY_PATH

Java CPI-C アプリケーションでは、LD_LIBRARY_PATH を使用して、CPI-C アプリケーションで使用されるランタイム・ライブラリーを含むディレクトリーを指定します。

詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux CPI-C プログラマーズ・ガイド*」の Java CPI-C アプリケーションのコンパイルおよびリンクに関する情報を参照してください。

CSV API に影響を与える環境変数

SNATBLG

CS/AIX CSV ライブラリーでは、SNATBLG を使用して、ASCII-EBCDIC 変換で使用するユーザー定義の変換テーブル・ファイル (テーブル G) を指定します。

テーブル G 変換に対する CONVERT verb を使用する CSV アプリケーションを実行している場合は、プログラムを開始する前に SNATBLG を変換テーブル・ファイルの絶対パス名に設定します。それ以外の場合は、SNATBLG を設定する必要はありません。

詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux 共通サービス Verb プログラマーズ・ガイド*」の CONVERT verb の説明を参照してください。

コマンド行管理プログラムに影響を与える環境変数

COLUMNS

CS/AIX は、COLUMNS を使用して status_* 管理コマンドで戻される情報の表示を制御します。

snaadmin から戻される情報量は、ディスプレイの幅によって異なります。CS/AIX は、COLUMNS 環境変数を使用して情報量を決定します。COLUMNS が設定されていない場合は、デフォルト値 80 を使用します。Description テキストは、表示スペースが十分ではない場合、省略されたり、切り捨てられたりすることがあります。

詳しくは、[514 ページの『status_all』](#)を参照してください。

トレースに影響を与える環境変数

これらの各変数は、トレースされている CS/AIX アプリケーション (例えば CPI-C アプリケーション) を開始する前に設定する必要があります。

SNACTL

CS/AIX API ライブラリーでは、アプリケーションの中からのトレース制御を抑止するために SNACTL を使用します。

API トレースが活動状態である (SNATRC 環境変数を使用して指定) 場合、アプリケーションでは、CSV DEFINE_TRACE コールまたは HLLAPI Set Session Parameters コールを使用して、アプリケーションの実行中にトレースのオンとオフを切り替えることができます。SNACTL を非ヌルのストリングに設定すると、これらのコールが有効になることを防ぐことができます。SNACTL が設定されていないか、またはヌルである場合、コールは正常に作動します。

詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」のユーザー・スペース・コンポーネントのトレース制御に関する情報を参照してください。

SNATRACESIZE

CS/AIX API ライブラリーでは、API トレース・ファイルの最大サイズを指定するために SNATRACESIZE を使用します。

2つのファイル (SNATRC 環境変数を使用して指定) を使用するよう API トレースがセットアップされている場合は、ファイル・サイズが SNATRACESIZE で指定した限度に達するたびに、2つのファイル間でトレースが切り替えられます。SNATRACESIZE が設定されていない場合、CS/AIX はデフォルト・ファイル・サイズ限度 10,000,000 バイトを使用します。

詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」のユーザー・スペース・コンポーネントのトレース制御に関する情報を参照してください。

SNATRC

CS/AIX は、SNATRC を使用して、CS/AIX API を使用するアプリケーションの API トレースを制御します。

詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」のユーザー・スペース・コンポーネントのトレース制御に関する情報を参照してください。

SNATRCRESET

CS/AIX API ライブラリーでは、アプリケーションが最初に API トレース・ファイルに書き込むときに、このファイルをリセットするかどうかを SNATRCRESET を使用して指定します。

通常、アプリケーションが最初にトレース・メッセージをファイルに書き込むと、ファイルはリセットされます (既存のコンテンツは廃棄されます)。2つ以上のアプリケーションを同じファイルでトレースしているか、または同じアプリケーションの2つ以上の実行を同じファイルでトレースしている場合は、ファイルがリセットされないようにする必要があります。これを行うには、SNATRCRESET を NO に設定します。SNATRCRESET が設定されていないか、または YES に設定されている場合、CS/AIX は、アプリケーションがファイルに最初に書き込むときに、このファイルをリセットします。

詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」のユーザー・スペース・コンポーネントのトレース制御に関する情報を参照してください。

SNATRUNC

CS/AIX API ライブラリーでは、API トレース・ファイルに書き込まれる各トレース・メッセージの保管されるデータの最大長を、SNATRUNC を使用して指定します。

クライアント/サーバーの使用に影響を与える環境変数

SNATRUNC を 10 進数に設定し、各メッセージからトレースされる最大バイト数を指定します。超過バイトは無視され、トレース・ファイルに書き込まれません。SNATRUNC が設定されていない場合、CS/AIX はそれぞれのメッセージの全体をトレースします。

詳しくは、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド*」のユーザー・スペース・コンポーネントのトレース制御に関する情報を参照してください。

クライアント/サーバーの使用に影響を与える環境変数

CS/AIX がクライアント・サーバー・モードで使用される場合、CS/AIX を開始する前に以下の環境変数を設定 (または環境ファイルを使用) できます。

SNA_SERVER_NAME

CS/AIX サーバーは、開始時にローカル・ホスト名設定を使用して、各ノードを識別します。サーバーのインターフェース・ポートの名前ではなく、DNS 別名を使用することが必要な可能性があります。これを行うには、環境変数 SNA_SERVER_NAME をこの別名に設定します。これにより、リモート API クライアントとその他の CS/AIX サーバー・ノードが DNS 別名を使用してサーバーに接続できるようになります。

SNA_SLIM_SERVER_POLL

マルチサーバーのクライアント/サーバー・システムでは、「キープアライブ」ポーリング・メカニズムがサーバーの各ペアに導入され、それによりドメイン・トポロジー内の変更を迅速に検出できます。デフォルトのポーリング・タイマーは 5 秒で、これは CS/AIX の開始前に SNA_SLIM_SERVER_POLL を設定することにより変更できます。SNA_SLIM_SERVER_POLL は 5 から 7200 秒の間の値に設定できます。値 0 はサーバー間でポーリングを行わないことを示します。

TN3270 サーバーに影響を与える環境変数

TN_INTRUSION_DETECTION

CS/AIX は 3270 侵入検知サービス (IDS) 用の z/OS APAR をサポートできます。CS/AIX TN3270 Server の接続先の z/OS Communications Server では、以下にリストされているいずれかの APAR ペアがサポートされる必要があります。

- OA49911 および OA50623
- OA48802 および OA50623

CS/AIX TN3270 server 用の 3270 IDS では、TN3270 クライアントがホストへの応答とデータをキューに入れることが禁止されます。この機能は、一部の既存の TN3270 クライアント/サーバー・フローの動作を変更する場合があります。3270 データ侵入違反を検出するために、変更が必要になる可能性があることに注意してください。CS/AIX に 3270 IDS サポートを構成するには、CS/AIX を開始する前に環境変数 TN_INTRUSION_DETECTION を 1 に設定 (または環境ファイルを使用) します。

付録 D IBM へのご意見の送付方法

本資料に関するご意見をお待ちしております。情報の明確性、正確性、および完全性に関するご意見およびその他の情報をご自由にお寄せください。

以下のいずれかの方法でご意見をお送りください。

1. Knowledge Center の下部にあるフィードバック・リンクを使用してください。
2. 以下のフィードバック・テンプレートを 사용하여 "mhvrcfs@us.ibm.com" に E メールを送信してください。
3. 次の住所にご意見をお送りください。

IBM Corporation
Attention: MHVRCFS Reader's Comments
Department H6MA, Building 707
2455 South Road
Poughkeepsie, NY 12601-5400
US

E メール・フィードバック・テンプレート

以下のテンプレートをメールにカット・アンド・ペーストしてください。その後、必要な情報を入力します。

- お名前:
- 企業、大学、機関名:
- ご意見の対象となるトピックまたは Web ページの URL:
- ご意見の本文

ご意見を口頭でいただける場合は、お客様の電話番号とご都合の良い時間も記入していただけます。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、適切な方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

IBM または他の組織は、お客様からいただいた個人情報、問題解決のためのお客様への連絡以外の目的で使用することはありません。

技術的な問題がある場合

リストされたご意見の送付方法は使用しないでください。代わりに、以下のいずれかのアクションを実行してください。

- IBM サービス担当員にお問い合わせください。
- IBM 技術サポートに連絡してください。
- IBM サポート・ポータル (<https://www.ibm.com/support/home/>) にアクセスしてください。

付録 E 特記事項

本書は米国 IBM が提供する製品およびサービスについて作成したものです。本書に記載の製品、サービス、または機能が日本においては提供されていない場合があります。日本で利用可能な製品、サービス、および機能については、日本 IBM の営業担当員にお尋ねください。本書で IBM 製品、プログラム、またはサービスに言及していても、その IBM 製品、プログラム、またはサービスのみが使用可能であることを意味するものではありません。これらに代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない、機能的に同等の製品、プログラム、またはサービスを使用することができます。ただし、IBM 以外の製品とプログラムの操作またはサービスの評価および検証は、お客様の責任で行っていただきます。

IBM は、本書に記載されている内容に関して特許権 (特許出願中のものを含む) を保有している場合があります。本書の提供は、お客様にこれらの特許権について実施権を許諾することを意味するものではありません。実施権についてのお問い合わせは、書面にて下記宛先にお送りください。

- 〒 106-8711
- 東京都港区六本木 3-2-12
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 法務・知的財産
- 知的財産権ライセンス 渉外

- 〒 106-8711
- 東京都港区六本木 3-2-12
- 日本アイ・ビー・エム株式会社
- 法務・知的財産
- 知的財産権ライセンス 渉外

以下の保証は、国または地域の法律に沿わない場合は、適用されません。 IBM およびその直接または間接の子会社は、本書を特定物として現存するままの状態を提供し、商品性の保証、特定目的適合性の保証および法律上の瑕疵担保責任を含むすべての明示もしくは黙示の保証責任を負わないものとします。国または地域によっては、法律の強行規定により、保証責任の制限が禁じられる場合、強行規定の制限を受けるものとします。

この情報には、技術的に不適切な記述や誤植を含む場合があります。本書は定期的に見直され、必要な変更は本書の次版に組み込まれます。IBM は予告なしに、随時、この文書に記載されている製品またはプログラムに対して、改良または変更を行うことがあります。

本書において IBM 以外の Web サイトに言及している場合がありますが、便宜のため記載しただけであり、決してそれらの Web サイトを推奨するものではありません。それらの Web サイトにある資料は、この IBM 製品の資料の一部ではありません。それらの Web サイトは、お客様の責任でご使用ください。

IBM は、お客様が提供するいかなる情報も、お客様に対してなんら義務も負うことのない、自ら適切と信ずる方法で、使用もしくは配布することができるものとします。

本プログラムのライセンス保持者で、(i) 独自に作成したプログラムとその他のプログラム (本プログラムを含む) との間での情報交換、および (ii) 交換された情報の相互利用を可能にすることを目的として、本プログラムに関する情報を必要とする方は、下記に連絡してください。

- IBM Corporation
- P.O. Box 12195
- 3039 Cornwallis Road
- Research Triangle Park, NC 27709-2195
- U.S.A.

本プログラムに関する上記の情報は、適切な使用条件の下で使用することができますが、有償の場合もあります。

本書で説明されているライセンス・プログラムまたはその他のライセンス資料は、IBM 所定のプログラム契約の契約条項、IBM プログラムのご使用条件、またはそれと同等の条項に基づいて、IBM より提供されます。

この文書に含まれるいかなるパフォーマンス・データも、管理環境下で決定されたものです。そのため、他の操作環境で得られた結果は、異なる可能性があります。一部の測定が、開発レベルのシステムで行われた可能性があります。その測定値が、一般に利用可能なシステムのものと同じである保証はありません。さらに、一部の測定値が、推定値である可能性があります。実際の結果は、異なる可能性があります。お客様は、お客様の特定の環境に適したデータを確かめる必要があります。

IBM 以外の製品に関する情報は、その製品の供給者、出版物、もしくはその他の公に利用可能なソースから入手したものです。IBM は、それらの製品のテストは行っておりません。したがって、他社製品に関する実行性、互換性、またはその他の要求については確認できません。IBM 以外の製品の性能に関する質問は、それらの製品の供給者をお願いします。

本書には、日常の業務処理で用いられるデータや報告書の例が含まれています。より具体性を与えるために、それらの例には、個人、企業、ブランド、あるいは製品などの名前が含まれている場合があります。これらの名称はすべて架空のものであり、名称や住所が類似する企業が実在しているとしても、それは偶然にすぎません。

著作権使用許諾: 本書には、様々なオペレーティング・プラットフォームでのプログラミング手法を例示するサンプル・アプリケーション・プログラムがソース言語で掲載されています。お客様は、サンプル・プログラムが書かれているオペレーティング・プラットフォームのアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。このサンプル・プログラムは、あらゆる条件下における完全なテストを経ていません。従って IBM は、これらのサンプル・プログラムについて信頼性、利便性もしくは機能性があることをほのめかしたり、保証することはできません。お客様は、IBM のアプリケーション・プログラミング・インターフェースに準拠したアプリケーション・プログラムの開発、使用、販売、配布を目的として、いかなる形式においても、IBM に対価を支払うことなくこれを複製し、改変し、配布することができます。

それぞれの複製物、サンプル・プログラムのいかなる部分、またはすべての派生した創作物にも、次のように、著作権表示を入れていただく必要があります。© (お客様の会社名) (西暦年). このコードの一部は、IBM Corp. のサンプル・プログラムから取られています。© Copyright IBM Corp. 2000, 2005, 2006, 2007, 2008, 2021. All rights reserved.

商標

以下は、世界の多くの国で登録された International Business Machines Corporation の商標です。

- ACF/VTAM
- Advanced Peer-to-Peer Networking
- AIX
- Application System/400
- APPN
- AS/400
- CICS
- DATABASE 2
- DB2
- Enterprise System/3090
- Enterprise System/4381
- Enterprise System/9000
- ES/3090
- ES/9000
- eServer
- IBM
- IBMLink
- IMS
- MVS
- MVS/ESA
- Operating System/2
- Operating System/400
- OS/2
- OS/400
- PowerPC
- PowerPC Architecture
- S/390
- System/390
- System p5
- System z
- System z9
- VSE/ESA
- VTAM
- WebSphere

以下は、各々の会社の商標または登録商標です。

Java およびすべての Java 関連の商標およびロゴは、Sun Microsystems, Inc. の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

UNIX は The Open Group の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel および EM64T は、Intel Corporation または子会社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

AMD64 は Advanced Micro Devices, Inc の米国およびその他の国における商標です。

Linux は、Linus Torvalds の米国およびその他の国における商標です。

Microsoft、Windows、Windows 10、Windows Server 2012、Windows Server 2016、Windows Server 2019 および Windows ロゴは、Microsoft Corporation の米国およびその他の国における商標です。

参考文献

以下の IBM 資料では、本書で説明しているトピックについての情報を記載しています。資料は、以下のトピック別に大きく分けてあります。

- CS/AIX バージョン 7.1
- Redbooks
- AIX オペレーティング・システム
- システム・ネットワーク体系 (SNA)
- ホスト構成
- z/OS Communications Server
- Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP)
- X.25
- 拡張プログラム間通信機能 (APPC)
- プログラミング
- その他の IBM ネットワーキング・トピック

CS/AIX 関連の資料については、簡単な説明を付記してあります。その他の資料については、タイトルおよび資料番号のみをここに記しています。

CS/AIX バージョン 7.1 資料

CS/AIX 関連資料として次のものがあります。なお、これらの資料のソフトコピー版が CD-ROM で提供されています。CD-ROM のソフトコピー・ファイルへのアクセス方法については、「*IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX* 入門」を参照してください。これらのソフトコピー・ブックをシステムにインストールするには、9～15MB のハード・ディスク・スペースが必要になります (このスペースは、インストールする各国語バージョンによって異なります)。

- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX* 移行ガイド (SC88-6949)
この資料は、Communications Server for AIX バージョン 4 リリース 2 以前のバージョンから CS/AIX バージョン 6 への移行方法を説明しています。
- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX* 入門 (GC88-6947)
この資料は CS/AIX の概要を示すもので、サポートされているネットワークの特性、インストール、構成、および操作について説明しています。
- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX* 管理ガイド (SC88-6950)
この資料では、SNA および CS/AIX の概要、および CS/AIX の構成と操作について説明しています。
- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX* 管理コマンド解説書 (SD88-6675)
この資料では、SNA および CS/AIX のコマンドについて説明しています。
- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux CPI-C* プログラマーズ・ガイド (SC88-5826)
この資料では、「C」または Java™ の経験があるプログラマーを対象として、CS/AIX CPI 通信 API を使用する SNA トランザクション・プログラムの作成に関する情報を提供します。
- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux APPC* プログラマーズ・ガイド (SC88-5825)
この資料では、拡張プログラム間通信機能 (APPC) を使用する アプリケーション・プログラムを作成するために必要な情報を記載しています。
- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux LUA* プログラマーズ・ガイド (SC88-5827)

この資料では、従来型 LU アプリケーション・プログラミング・インターフェース (LUA) を使用してアプリケーション・プログラムを作成するために必要な情報を記載しています。

- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux 共通サービス Verb プログラマーズ・ガイド (SC88-5824)*

この資料では、Common Service Verb (CSV) アプリケーション・プログラミング・インターフェース (API) を使用してアプリケーション・プログラムを作成するために必要な情報を記載しています。

- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux MS プログラマーズ・ガイド (SC88-5829)*

この資料では、Management Services (MS) API を使用してアプリケーション・プログラムを作成するために必要な情報を記載しています。

- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX NOF プログラマーズ・ガイド (SC88-6958)*

この資料では、Node Operator Facility (NOF) API を使用してアプリケーション・プログラムを作成するために必要な情報を記載しています。

- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 診断ガイド (SC88-6951)*

この資料では、SNA ネットワークの問題解決について説明しています。

- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX or Linux APPC アプリケーション・スイート ユーザーズ・ガイド (SC88-5828)*

この資料では、CS/AIX で使用される APPC アプリケーションについて説明しています。

- *IBM Communications Server for Data Center Deployment on AIX 用語集 (GC88-6952)*

この資料には、CS/AIX ライブラリー全体で使用される用語および定義の包括的なリストが記載されています。

IBM Redbooks

IBM は、Redbooks として知られている資料を作成している International Technical Support Center を運営しています。製品の資料と同様、Redbooks は SNA テクノロジーの理論的側面と実用的側面の両方を扱っています。ただし、製品に同梱される資料に書かれている内容は、Redbooks には記載されていません。

次の資料では、CS/AIX に役に立つ情報を記載しています。

- *IBM Communications Server for AIX Version 6 (SG24-5947)*
- *IBM CS/AIX Understanding and Migrating to Version 5: Part 2 - Performance (SG24-2136)*
- *Load Balancing for Communications Servers (SG24-5305)*

ユーザーはワールド・ワイド・ウェブ (WWW) の <http://www.redbooks.ibm.com> から、Redbooks 資料をダウンロードすることができます。

AIX オペレーティング・システム関連資料

次の資料では、AIX オペレーティング・システムについての情報を記載しています。

- *AIX バージョン 5.3 システム・マネージメント・ガイド: オペレーティング・システムおよびデバイス (SC88-6944)*
- *AIX バージョン 5.3 システム・マネージメント・コンセプト: オペレーティング・システムおよびデバイス (SC88-6936)*
- *AIX バージョン 5.3 システム・マネージメント・ガイド: コミュニケーションおよびネットワーク (SC88-6943)*
- *AIX バージョン 5.3 パフォーマンス管理ガイド (SC88-6934)*
- *AIX バージョン 5.3 パフォーマンス・ツール・ガイドおよび解説書 (SC23-4906)*
- *Performance Toolbox Version 2 and 3 Guide and Reference (SC23-2625)*

- AIX バージョン 5.3 Communications Programming Concepts (SC23-4894)
- AIX バージョン 5.3 インストール・ガイドおよび解説書 (SC88-6873)
- AIXlink/X.25 Version 2.1 for AIX: Guide and Reference (SC23-2520)

システム・ネットワーク体系 (SNA) 関連資料

以下の資料では、SNA ネットワークについての情報を記載しています。

- *Systems Network Architecture: Format and Protocol Reference Manual - Architecture Logic for LU Type 6.2* (SC30-3269)
- *Systems Network Architecture: Formats* (GA27-3136)
- *Systems Network Architecture: Guide to SNA Publications* (GC30-3438)
- *Systems Network Architecture: Network Product Formats* (LY43-0081)
- *Systems Network Architecture: Technical Overview* (GC30-3073)
- *Systems Network Architecture: APPN Architecture Reference* (SC30-3422)
- *Systems Network Architecture: Sessions between Logical Units* (GC20-1868)
- *Systems Network Architecture: LU 6.2 Reference - Peer Protocols* (SC31-6808)
- *Systems Network Architecture: Transaction Programmer's Reference Manual for LU Type 6.2* (GC30-3084)
- *Systems Network Architecture: 3270 Datastream Programmer's Reference* (GA23-0059)
- *Networking Blueprint Executive Overview* (GC31-7057)
- *Systems Network Architecture: Management Services Reference* (SC30-3346)

ホスト構成関連資料

以下の資料では、ホスト構成についての情報を記載しています。

- *ES-9000, ES-3090 IOCP ユーザーズ・ガイド・ボリューム A04* (GC38-0097)
- *3174 Establishment Controller インストール・ガイド* (GG24-3061)
- *3270 Information Display System 3174 Establishment Controller: 計画ガイド* (GA27-3918)
- *OS/390 ハードウェア構成定義 (HCD) ユーザーズ・ガイド* (SC88-6630)
- *ESCON Director Planning* (GA23-0364)

z/OS Communications Server 関連資料

以下の資料には、z/OS Communications Server に関する情報について記載されています。

- *z/OS V1R7 Communications Server: SNA ネットワーク・インプリメンテーション・ガイド* (SC88-8928)
- *z/OS V1R7 Communications Server: SNA 診断 (Vol 1: GC31-6850、Vol 2: GC31-6851)*
- *z/OS V1R6 Communications Server: リソース定義解説書* (SC88-8929)

TCP/IP 関連資料

以下の資料には、Transmission Control Protocol/Internet Protocol (TCP/IP) ネットワーク・プロトコルに関する情報について記載されています。

- *z/OS V1R7 Communications Server: IP 構成ガイド* (SC88-8926)
- *z/OS V1R7 Communications Server: IP 構成解説書* (SC88-8927)
- *z/VM V5R1 TCP/IP 計画およびカスタマイズ* (SD88-6453)

X.25 関連資料

以下の資料には、X.25 ネットワーク・プロトコルに関する情報について記載されています。

- *AIXLink/X.25 for AIX: Guide and Reference* (SC23-2520)
- *RS/6000 AIXLink/X.25 Cookbook* (SG24-4475)
- *Communications Server for OS/2 Version 4 X.25 Programming* (SC31-8150)

APPC 関連資料

以下の資料では、拡張プログラム間通信機能 (APPC) についての情報を記載しています。

- *APPC Application Suite V1 ユーザーズ・ガイド* (SC31-6532)
- *APPC Application Suite V1 管理* (SC31-6533)
- *APPC Application Suite V1 プログラミング* (SC31-6534)
- *APPC Application Suite V1 オンライン製品ライブラリー* (SK2T-2680)
- *APPC Application Suite ライセンス・プログラムの資料* (GC31-6535)
- *z/OS V1R2.0 Communications Server: APPC Application Suite User's Guide* (SC31-8809)

プログラミング関連資料

次の資料では、プログラミングについての情報を記載しています。

- *共通プログラミング・インターフェース コミュニケーション (CPI-C) 解説書* (SC26-4399)
- *Communications Server for OS/2 Version 4 Application Programming Guide* (SC31-8152)

その他の IBM ネットワーキング関連資料

次の資料では、CS/AIX に関連するその他のトピックについての情報を記載しています。

- *SDLC Concepts* (GA27-3093)
- *Local Area Network Concepts and Products: LAN アーキテクチャー* (SG24-4753)
- *Local Area Network Concepts and Products: LAN アダプター、ハブおよび ATM* (SG24-4754)
- *Local Area Network Concepts and Products: ルーターおよびゲートウェイ* (SG24-4755)
- *Local Area Network Concepts and Products: LAN オペレーティング・システムおよび管理* (SG24-4756)
- *IBM ネットワーク制御プログラム リソース定義ガイド* (SC30-3349)

索引

日本語, 数字, 英字, 特殊文字の順に配列されています。
なお, 濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

[ア行]

アクセス・リスト、会話セキュリティ [160](#)
アクティブ・トランザクション、管理サービス [249](#)
ウランチ
 アクセス許可の定義の表示 [435](#)
エラー・ログ・ファイル
 定義 [497](#)
 定義の表示 [337](#)

[カ行]

カーネル・コンポーネント、メモリーの使用
 限度および現在の使用量の表示 [328](#)
 限度の定義 [496](#)
会話 [264](#)
会話グループ [22](#)
会話セキュリティ
 ユーザー ID とパスワードの削除 [243](#)
 ユーザー ID とパスワードの定義 [207](#)
 ユーザー ID とパスワードの定義の表示 [483](#)
環境変数 [539](#)
監査ログ・ファイル
 定義 [497](#)
 定義の表示 [337](#)
管理コマンド
 参照情報 [9](#)
 共通戻りコード [531](#)
 構文 [2](#)
 サブレコード [5](#)
 パラメーターの構文 [4](#)
 パラメーターのデフォルト値 [5](#)
 例 [7](#), [536](#)
 query_* コマンドのリスト・オプション [6](#)
管理コマンドの例 [7](#)
管理サービス
 アクティブ・トランザクション、現在の状況の表示 [249](#)
 デフォルト PU [37](#), [277](#)
 フォーカル・ポイント [52](#), [220](#), [319](#)
 MDS 統計情報、現行の状況の表示 [378](#)
 MDS レベル・アプリケーション、現在のステータスの表示 [377](#)
 NMVT レベル・アプリケーション、現行状況の表示 [388](#)
管理サービスのデフォルト PU
 定義 [37](#)
 定義の表示 [277](#)
技術的な問題
 解決方法 [543](#)
クライアント
 照会 [433](#)
クライアント/サーバー・トレース
 定義 [492](#)
 定義の表示 [275](#)
構成ファイル

構成ファイル (続き)
 サブレコード [535](#)
 初期 [533](#)
 フォーマット [533](#)
 ヘッダー情報 [43](#), [307](#)
 レコード・フォーマット [534](#)
構成ファイル・レコードのフォーマット [534](#)
高速ログオン [170](#)
コース
 削除 [212](#)
コマンド行管理プログラム、ファイル入力 [536](#)

[サ行]

サービス・クラス (『COS』を参照) [31](#)
サイド情報エントリー
 削除 [213](#)
 定義 [35](#)
 定義の表示 [273](#)
サブレコード [5](#), [535](#)
サンプル構成 [536](#)
シュブクフ
 アクセス許可の定義の表示 [435](#)
使用量ログ・ファイル
 定義 [497](#)
 定義の表示 [337](#)
初期構成 [533](#)
資料に関するコメント
 フィードバックの送信 [543](#)
スナ [113](#)
セキュリティ・アクセス・リスト
 削除 [236](#)
 定義の表示 [443](#)
セッション
 非活動化 [23](#), [24](#)
 ローカル LU に関する情報の表示 [445](#)
 ISR、現在のステータスの表示 [324](#)
セッション限度
 初期化 [245](#)
 変更 [19](#)
 リセット [487](#)
セッション・レベル・セキュリティ・パスワード
 削除 [229](#)
 定義 [86](#)
 定義の表示 [369](#)
接続ネットワーク [28](#)

[タ行]

ダウンストリーム LU
 一定範囲の削除 [217](#)
 削除 [216](#)
 定義 [44](#)
 定義および現在の状況の表示 [308](#)
 範囲の定義 [47](#)
ダウンストリーム PU [314](#)
中央ログイン

中央ロギング (続き)
ターゲット・サーバーの定義の表示 [258](#)
定義 [491](#)
定義の表示 [258](#)
ディレクトリー・エントリー
隣接ノードのすべてのエントリーの定義 [26](#)
削除 [214](#)
LU、表示 [284](#)
ディレクトリー項目
表示 [279](#)
隣接ノードの項目の削除 [209](#)
ディレクトリー・データベース統計情報 [287](#)
統計
ディレクトリー・データベース [287](#)
LS 使用状況 [452](#)
MDS [378](#)
統計情報、トポロジー・データベース [394](#)
ドゥルツ
定義 [185](#)
読者のコメント
フィードバックの送信方法 [543](#)
トポロジー・データベース TG [397](#)
トポロジー・データベース統計情報 [394](#)
トポロジー・データベース・ノード [390](#)
トレース・タイプ
定義 [506](#)
定義の表示 [481](#)
ノード DLC トレース [12](#), [292](#), [484](#)
CS トレース [275](#), [492](#)
TN サーバー・トレース [472](#), [502](#)
TN3270 SLP トレース [466](#), [501](#)
トレース・ファイル
定義 [503](#)
定義の表示 [479](#)

[ナ行]

内部 PU
開始 [509](#)
削除 [221](#)
停止 [525](#)
ネットワーク・トポロジー、ネットワーク・ノードの表示 [390](#)
ネットワーク・トポロジー、表示
データベース使用に関する統計情報 [394](#)
ネットワーク・ノード間の TG [397](#)
隣接ネットワーク・ノード [252](#)
隣接ノードに対する TG [333](#)
ローカル・トポロジー [333](#)
VRN [390](#)
ノード
開始 [244](#)
定義 [94](#)
定義および状況の表示 [402](#)
停止 [529](#)
デフォルトのパラメーターの定義 [38](#)
デフォルト・パラメーターの定義の表示 [278](#)
名前のリストの表示 [412](#)
ライセンス・オプションの表示 [413](#)
ライセンス制限の表示 [413](#)
リソース使用量の表示 [413](#)

[ハ行]

パートナー LU
位置決め的方式、定義 [76](#)
位置決めの方法 [225](#)
位置決めのメソッド [356](#)
削除 [233](#)
定義 [104](#)
定義の表示 [421](#)
ローカル LU のパートナーの表示 [416](#)
パスワード
セッション・レベル・セキュリティー [86](#), [229](#), [369](#)
LU-LU、定義 [86](#)
パスワード、LU-LU
削除 [229](#)
定義の表示 [369](#)
パスワード、会話セキュリティー
削除 [243](#)
定義 [207](#)
定義の表示 [483](#)
バックアップ・サーバー
削除 [210](#)
追加 [11](#)
リストの表示 [451](#)
バッファ
限度の定義 [490](#)
制限および現行使用量の表示 [255](#)
フィードバック
読者のコメントの送信 [543](#)
Eメール・テンプレート [543](#)
プール、LU
削除 [230](#)
定義 [87](#)
定義および現在のステータスの表示 [371](#)
フォーカル・ポイント
削除 [220](#)
定義 [52](#)
定義および現在のステータスの表示 [319](#)
フナ [62](#), [113](#), [139](#), [193](#)
ポート
開始 [513](#)
削除 [234](#)
定義 [69](#), [122](#), [150](#), [201](#)
定義および現在のステータスの表示 [424](#)
停止 [528](#)

[マ行]

メモリー使用量、カーネル・コンポーネント
限度および現在の使用量の表示 [328](#)
限度の定義 [496](#)
モード
削除 [232](#)
定義 [90](#)
定義の表示 [385](#)
ローカル LU の使用状況の表示 [380](#)
COS へのマッピング、表示 [387](#)

[ヤ行]

呼び出し可能 TP
現在の使用状況 [473](#)
現在の使用の表示 [254](#)

呼び出し可能 TP (続き)

- 削除 [241](#)
- 定義 [181](#)
- 定義の表示 [475](#)

[ラ行]

- ライセンス制限 [413](#)
- リモート LU への通信パスの検査 [15](#)
- リンク・ステーション経路
 - 削除 [225](#)
- リンク・ステーション経路指定
 - 照会 [356](#)
- リンク・ステーション経路指定、定義 [76](#)
- 隣接ノード
 - ディレクトリー・エントリーの定義 [26](#)
 - ディレクトリー項目の削除 [209](#)
- ルーティングの削除 (_R) [225](#)
- レコード・フォーマット、構成ファイル [534](#)
- ローカル LU
 - 削除 [223](#)
 - 定義 [73](#)
 - 定義の表示 [329](#)
- ログ・ファイル
 - 定義 [497](#)
 - 定義の表示 [337](#)
- ログ・メッセージ
 - 記録されたタイプ [499](#)
 - 記録したタイプの定義の表示 [338](#)
 - グローバル設定 [322](#)
 - 中央ロギング [258](#)
 - 中央ロギング、ターゲット・サーバーの定義の表示 [258](#)
 - 中央ログの定義 [491](#)
 - 保管先のファイル [337](#), [497](#)

A

- activate_session command [9](#)
- add_backup コマンド [11](#)
- add_dlc_trace コマンド [12](#)
- aping コマンド [15](#)
- APPCLLU 環境変数 [539](#)
- APPCTPN 環境変数 [540](#)

C

- CLASSPATH 環境変数 [540](#)
- CN
 - 削除 [211](#)
 - 定義 [28](#)
 - 定義および現在のステータスの表示 [259](#)
 - ポートに関する情報の表示 [262](#)
- COLUMNS 環境変数 [540](#)
- COS
 - 定義 [31](#)
 - 定義および現在のステータスの表示 [267](#)
 - ノード行 [268](#)
 - TG 行 [270](#)
- CPI-C サイド情報
 - 削除 [213](#)
 - 定義 [35](#)
 - 定義の表示 [273](#)
- cquery_tn3270_ssl_ldap コマンド [467](#)

D

- deactivate_lu_0_to_3 コマンド [23](#)
- deactivate_session コマンド [24](#)
- define_adjacent_len_node コマンド [26](#)
- define_cn コマンド [28](#)
- define_cos コマンド [31](#)
- define_cplic_side_info コマンド [35](#)
- define_default_pu コマンド [37](#)
- define_defaults コマンド [38](#)
- define_directory_entry command [40](#)
- define_dlur_defaults コマンド [42](#)
- define_domain_config_file コマンド [43](#)
- define_downstream_lu コマンド [44](#)
- define_downstream_lu_range コマンド [47](#)
- define_dspu_template コマンド [49](#)
- define_ethernet_dlc コマンド [185](#)
- define_ethernet_ls コマンド [187](#)
- define_ethernet_port コマンド [201](#)
- define_focal_point コマンド [52](#)
- define_ip_dlc コマンド [57](#)
- define_ip_ls コマンド [58](#)
- define_ip_port コマンド [69](#)
- define_local_lu command [73](#)
- define_ls_routing コマンド [76](#)
- define_lu_0_to_3 コマンド [78](#)
- define_lu_0_to_3_range コマンド [82](#)
- define_lu_lu_password コマンド [86](#)
- define_lu_pool command [87](#)
- define_lu62_timeout コマンド [89](#)
- define_mode command [90](#)
- define_node コマンド [94](#)
- define_partner_lu コマンド [104](#)
- define_qllc_dlc コマンド [106](#)
- define_qllc_ls コマンド [107](#)
- define_qllc_port コマンド [122](#)
- define_rcf_access コマンド [128](#)
- define_rtp_tuning コマンド [129](#)
- define_sdlic_dlc コマンド [131](#)
- define_sdlic_ls コマンド [133](#)
- define_sdlic_port コマンド [150](#)
- define_security_access_list コマンド [160](#)
- define_tn_リダイレクト [176](#)
- define_tn3270_access コマンド [162](#)
- define_tn3270_defaults コマンド [169](#)
- define_tn3270_express_logon コマンド [170](#)
- define_tn3270_slp コマンド [172](#)
- define_tn3270_ssl_ldap コマンド [174](#)
- define_tn3270_アソシエーションコマンド [168](#)
- define_tp コマンド [181](#)
- define_tp_load_info コマンド [183](#)
- define_tr_dlc コマンド [185](#)
- define_tr_ls コマンド [187](#)
- define_tr_port コマンド [201](#)
- define_userid_password コマンド [207](#)
- delete_adjacent_len_node コマンド [209](#)
- delete_backup コマンド [210](#)
- delete_cn コマンド [211](#)
- delete_cos コマンド [212](#)
- delete_cplic_side_info コマンド [213](#)
- delete_directory_entry コマンド [214](#)
- delete_dlc コマンド [215](#)
- delete_downstream_lu コマンド [216](#)
- delete_downstream_lu_range コマンド [217](#)

delete_dspu_template コマンド [218](#)
delete_focal_point コマンド [220](#)
delete_internal_pu コマンド [221](#)
delete_local_lu コマンド [223](#)
delete_ls コマンド [224](#)
delete_lu_0_to_3 コマンド [226](#)
delete_lu_0_to_3_range コマンド [227](#)
delete_lu_lu_password コマンド [229](#)
delete_lu_pool コマンド [230](#)
delete_lu62_timeout コマンド [231](#)
delete_mode コマンド [232](#)
delete_partner_lu コマンド [233](#)
delete_port コマンド [234](#)
delete_rcf_access コマンド [235](#)
delete_security_access_list コマンド [236](#)
delete_tn_redirect コマンド [239](#)
delete_tn3270_access コマンド [237](#)
delete_tn3270_association コマンド [239](#)
delete_tp コマンド [241](#)
delete_tp_load_info コマンド [242](#)
delete_userid_password コマンド [243](#)
directory entry
 defining [40](#)

DLC

開始 [508](#)
削除 [215](#)
定義 [57](#), [131](#)
定義および現在のステータスの表示 [288](#)
停止 [524](#)
QLLC の定義 [106](#)

DLUR

デフォルト DLUS、定義 [42](#)
内部 PU [221](#), [509](#), [525](#)
PU、定義と現在のステータスの表示 [300](#)

DLUR LU、現在のステータスの表示 [297](#)

DLUS、定義および現在の状況の表示 [304](#)

I

init_node コマンド [244](#)
initialize_session_limit コマンド [245](#)
ISR セッション、現在のステータスの表示 [324](#)

L

L

定義 [187](#)
停止 [526](#)

LANG 環境変数 [539](#)

LD_LIBRARY_PATH 環境変数 [540](#)

log messages

 global settings [494](#)

LS

開始 [511](#)
削除 [224](#)
使用状況の統計情報の表示 [452](#)
定義 [58](#), [107](#), [133](#)
定義および現在のステータスの表示 [340](#)

LU

ローカル [73](#)
APPC および CPI-C 用 [73](#)

LU タイプ 0 から 3

 一定範囲の削除 [227](#)

LU タイプ 0 から 3 (続き)

 削除 [226](#)

 定義 [78](#)

 範囲の定義 [82](#)

LU タイプ 0-3

 定義および現在の状況の表示 [359](#)

LU タイプ 6.2

 削除 [223](#)

 タイムアウト [89](#), [231](#), [374](#)

 定義 [73](#)

 定義の表示 [329](#)

LU プール

 削除 [230](#)

 定義 [87](#)

 定義および現在のステータスの表示 [371](#)

LU-LU パスワード

 削除 [229](#)

 定義 [86](#)

 定義の表示 [369](#)

LU、パートナー [104](#)

M

MAC アドレス、トークンリング/イーサネット [200](#)

N

NMVT レベル・アプリケーション、現行状況の表示 [388](#)

P

PATH 環境変数 [539](#)

path_switch コマンド [248](#)

PU、ローカル、定義およびステータスの表示 [429](#)

Q

query_* コマンド

 詳細情報 [7](#)

 複数リソースに関する情報の戻り [6](#)

 要約情報 [7](#)

 リスト・オプション [6](#)

query_* コマンドのリスト・オプション [6](#)

query_active_transaction コマンド [249](#)

query_adjacent_nn コマンド [252](#)

query_available_tp コマンド [254](#)

query_buffer_可用性コマンド [255](#)

query_central_logger コマンド [258](#)

query_central_logging コマンド [258](#)

query_cn コマンド [259](#)

query_cn_port コマンド [262](#)

query_conversation コマンド [264](#)

query_cos コマンド [267](#)

query_cos_node_row コマンド [268](#)

query_cos_tg_row コマンド [270](#)

query_cpic_side_info コマンド [273](#)

query_cs_trace コマンド [275](#)

query_default_pu コマンド [277](#)

query_defaults コマンド [278](#)

query_directory_entry コマンド [279](#)

query_directory_lu コマンド [284](#)

query_directory_stats コマンド [287](#)

query_dlc コマンド [288](#)

query_dlc_trace コマンド [292](#)
query_dlur_defaults コマンド [296](#)
query_dlur_lu コマンド [297](#)
query_dlur_pu コマンド [300](#)
query_dlus コマンド [304](#)
query_domain_config_file コマンド [307](#)
query_downstream_pu コマンド [314](#)
query_downstream_lu コマンド [308](#)
query_focal_point コマンド [319](#)
query_global_log_type コマンド [322](#)
query_isr_session コマンド [324](#)
query_kernel_memory_limit コマンド [328](#)
query_local_lu コマンド [329](#)
query_local_topology コマンド [333](#)
query_log_file コマンド [337](#)
query_log_type コマンド [338](#)
query_ls コマンド [340](#)
query_ls_routing コマンド [356](#)
query_lu_0_to_3 コマンド [359](#)
query_lu_lu_password コマンド [369](#)
query_lu_pool コマンド [371](#)
query_lu62_timeout コマンド [374](#)
query_mds_application コマンド [377](#)
query_mode コマンド [380](#)
query_mode_definition コマンド [385](#)
query_mode_to_cos_mapping コマンド [387](#)
query_nmvt_application コマンド [388](#)
query_nn_topology_node コマンド [390](#)
query_nn_topology_stats コマンド [394](#)
query_nn_topology_tg コマンド [397](#)
query_node コマンド [402](#)
query_node_all コマンド [412](#)
query_node_limits コマンド [413](#)
query_partner_lu コマンド [416](#)
query_partner_lu_definition コマンド [421](#)
query_port コマンド [424](#)
query_pu コマンド [429](#)
query_rapi_clients コマンド [433](#)
query_rcf_access コマンド [435](#)
query_rtp_connection [436](#)
query_security_access_list コマンド [443](#)
query_session コマンド [445](#)
query_sna_net コマンド [451](#)
query_statistics コマンド [452](#)
query_tn_redirect_def コマンド [468](#)
query_tn_server_trace コマンド [472](#)
query_tn3270_access_def コマンド [455](#)
query_tn3270_defaults コマンド [462](#)
query_tn3270_express_logon コマンド [463](#)
query_tn3270_slp コマンド [464](#)
query_tn3270_slp_trace コマンド [466](#)
query_tn3270_アソシエーション・コマンド [460](#)
query_tp コマンド [473](#)
query_tp_definition コマンド [475](#)
query_tp_load_info コマンド [477](#)
query_tp_tuning コマンド [442](#)
query_trace_file コマンド [479](#)
query_trace_type コマンド [481](#)
query_userid_password コマンド [483](#)

R

RCF

アクセス許可の定義の表示 [435](#)

RCF (続き)

アクセス権限の削除 [235](#)

アクセス権限の定義 [128](#)

remove_dlc_trace コマンド [484](#)

reset_session_limit コマンド [487](#)

RTP 接続

照会 [436](#)

バスのスイッチ [248](#)

パラメーター [129](#), [442](#)

S

session

activating [9](#)

set_buffer_availability コマンド [490](#)

set_central_logging コマンド [491](#)

set_cs_trace コマンド [492](#)

set_global_log_type command [494](#)

set_kernel_memory_limit コマンド [496](#)

set_log_file コマンド [497](#)

set_log_type コマンド [499](#)

set_tn_server_trace コマンド [502](#)

set_tn3270_slp_trace コマンド [501](#)

set_trace_file コマンド [503](#)

set_trace_type コマンド [506](#)

SNA ゲートウェイ

一定範囲のダウンストリーム LU の削除 [217](#)

ダウンストリーム LU の定義 [44](#)

ダウンストリーム LU の削除 [216](#)

ダウンストリーム LU の定義および現在の状況の表示

[308](#)

ダウンストリーム LU の範囲の定義 [47](#)

定義およびダウンストリーム PU の現在のステータスの表示 [314](#)

SNA_SERVER_NAME 環境変数 [542](#)

SNA_SLIM_SERVER_POLL 環境変数 [542](#)

sna.net ファイル

バックアップ・サーバーの追加 [11](#)

バックアップ・サーバーの削除 [210](#)

バックアップサーバーの照会 [451](#)

snaadmin プログラム、共通戻りコード [531](#)

SNACTL 環境変数 [541](#)

SNATBLG 環境変数 [540](#)

SNATRACESIZE 環境変数 [541](#)

SNATRC 環境変数 [541](#)

SNATRCRESET 環境変数 [541](#)

SNATRUNC 環境変数 [541](#)

SPCF

アクセス権限の削除 [235](#)

アクセス権限の定義 [128](#)

start_dlc コマンド [508](#)

start_internal_pu コマンド [509](#)

start_ls コマンド [511](#)

start_port コマンド [513](#)

status_all コマンド [514](#)

status_connectivity コマンド [516](#)

status_dependent_lu コマンド [517](#)

status_dlur コマンド [520](#)

status_lu62 コマンド [521](#)

status_node コマンド [522](#)

status_remote_node コマンド [523](#)

stop_dlc コマンド [524](#)

stop_internal_pu コマンド [525](#)

stop_ls コマンド [526](#)

stop_port コマンド [528](#)
STREAMS バッファ
 限度の定義 [490](#)
 制限および現行使用量の表示 [255](#)

T

Telnet クライアント
 高速ログオン [170](#)
 SSL の使用 [174](#)
 SSL 用の LDAP サーバー [174](#)
 TN Redirector の使用 [176](#)
term_node コマンド [529](#)
TN Redirector を使用する Telnet クライアント
 削除 [239](#)
TN サーバー・トレース
 定義 [502](#)
 定義の表示 [472](#)
TN リダイレクター
 クライアントの定義の表示 [468](#)
TN リダイレクターを使用する Telnet
 定義 [176](#)
 定義の表示 [468](#)
TN_INTRUSION_DETECTION 環境変数 [542](#)
TN3270 SLP トレース
 定義 [501](#)
 定義の表示 [466](#)
TN3270 クライアント
 削除 [237](#)
 定義 [162](#)
 定義の表示 [455](#)
 TN サーバーの使用 [162](#)
TN3270 高速ログオン [170](#)
TN3270 サーバー
 クライアントの削除 [237](#)
 クライアントの定義 [162](#)
 クライアントの定義の表示 [455](#)
TP
 現在の使用状況 [473](#)
 現在の使用の表示 [254](#)
 削除 [241](#)
 定義 [181](#)
 定義の表示 [475](#)

U

UCF
 アクセス権限の削除 [235](#)
 アクセス権限の定義 [128](#)

[特殊文字]

change_session_limit コマンド [19](#)
deactivate_conv_group コマンド [22](#)
query_mds_statistics コマンド [378](#)
TN Redirector
 クライアントの削除 [239](#)
ユーザー ID、会話セキュリティー
 削除 [243](#)
 定義 [207](#)
 定義の表示 [483](#)



SC31-8587-06

